

茨城県教育財団文化財調査報告第242集

大塚遺跡 1

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書 V

平成 17 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第242集

大塚遺跡 1

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書 V

平成 17 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団



遺跡全景(南から)

序

茨城県は、21世紀の社会として、高齢者や障害者、子どもをはじめとして、誰もが安心して生き生きと暮らせるやさしいまちづくりを推進しております。このような状況の中で、保健・医療・福祉サービスや世代間の交流などの機能を備えたまちづくりのモデルとして「やさしさのまち『桜の郷』」整備推進事業が計画・整備されているもので、その予定地内には埋蔵文化財包蔵地である大塚遺跡をはじめ、宮後遺跡、石原遺跡、綱山遺跡など多くの遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成11年4月から同年10月及び平成12年4月から同年5月まで発掘調査を実施しました。

本書は、大塚遺跡の調査成果を収録したものです。本書が、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、茨城町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、衷心より感謝申し上げます。

平成17年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 齋藤佳郎

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成11・12年度に発掘調査を実施した、茨城県東茨城郡茨城町大字大戸字大塚3104番地の7ほかに所在する大塚遺跡オホツツノの発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調 査	平成11年4月1日～平成11年10月31日
	平成12年4月1日～平成12年5月31日
整 理	平成16年4月1日～平成17年3月31日
- 3 当遺跡の発掘調査は、調査第一課長阿久津久のもとに行われ、担当は以下のとおりである。

首席調査員兼第2班長	瓦吹 堅	平成11年4月1日～平成11年10月31日
主 任 調 査 員	長谷川 聡	平成11年4月1日～平成11年10月31日
副 主 任 調 査 員	荒崎克一郎	平成11年4月1日～平成11年10月31日
首席調査員兼第2班長	仙波 亨	平成12年4月1日～平成12年5月31日
主 任 調 査 員	村上 和彦	平成12年4月1日～平成12年5月31日
主 任 調 査 員	平石 尚和	平成12年4月1日～平成12年5月31日
主 任 調 査 員	小竹 茂美	平成12年4月1日～平成12年5月31日
主 任 調 査 員	長谷川 聡	平成12年4月1日～平成12年5月31日
主 任 調 査 員	青木 仁昌	平成12年4月1日～平成12年5月31日
副 主 任 調 査 員	荒崎克一郎	平成12年4月1日～平成12年5月31日
調 査 員	駒澤 悦郎	平成12年4月1日～平成12年5月31日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第一課長瓦吹堅のもと、主任調査員長谷川聡、同田中幸夫が平成16年4月1日～平成17年3月31日まで、主任調査員小野克敏が平成16年4月1日～5月31日、平成17年2月1日～3月31日まで執筆・編集を担当した。執筆分担は、以下のとおりである。

長谷川	第3章第3節3～6、第4節
田中	第3章第3節1・2・7・8
小野	第1章～第3章第2節
- 5 本書の作成にあたり、平安時代の遺構については奈良文化財研究所埋蔵文化財センター山中敏史氏、墨書土器については国立歴史民族博物館平川南氏、弥生時代の遺物についてはひたちなか市文化・スポーツ振興公社鈴木素行氏からご指導をいただいた。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標Ⅱ系座標を用いて区画し、X軸 = +35760m、Y軸 = +51720mの交点を基準点（A1a1）とした。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらにこの大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、その組み合わせで「A1区」「B2区」のように呼称した。さらに小調査区も同様に北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0と小文字を付し、名称は大調査区の名称を冠し、「A1a1区」「B2b2区」のように呼称した。

- 2 抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を（ ）を付して併記した。

- 3 実測図・遺構一覧表・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 S I—住居跡 S B—掘立柱建物跡 S A—欄跡 S D—溝跡 S F—道路跡

S K—土坑 S E—井戸跡 S Y—炭焼窯跡 P—ピット P G—ピット群

遺物 D P—土製品 Q—石器・石製品 M—金属製品 T P—拓本記録土器

土層 K—擾乱

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の掲載方法については以下のとおりである。


(1) 遺構全体図は縮尺400分の1とし、各遺構の実測図は60分の1で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は原則として縮尺3分の1とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々の縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土、施軸・赤彩・火床面

 炉

 竈部材・粘土・炭化材・炭化物・黒色処理

 柱痕、煤

- 6 「主軸方向」は、炉または竈と出入口施設を結ぶ軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線を主軸とみなし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。他の遺構については長軸（長径）方向を主軸とみなした。（例 N-10°-E）。

- 7 一覧表・遺物観察表の表記は次のとおりである。

(1) 計測値の（ ）内の数値は現存値を、[]内の数値は推定値を示した。計測値の単位はcm、gで示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 文字資料のうち、焼成前に線刻されたものを「窺書」、焼成後に線刻されたものを「刻書」と分けて記述した。

抄 録

ふりがな	おおつかいせき							
書名	大塚遺跡 1							
副書名	やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻次	V							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第242集							
編著者名	長谷川聡 田中幸夫 小野克敏							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL029 (225) 6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL029 (225) 6587							
発行年月日	2005 (平成17) 年3月25日							
ふりがな 取道	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
大塚遺跡	茨城県東茨城郡茨城町 大字大字大塚3104番 地の7ほか	08302 - 107	36度 19分 12秒 (36度 19分 23秒)	140度 24分 38秒 (140度 24分 26秒)	28m ~ 29m	19990401 ~ 19991031 20000401 ~ 20000531	19,136㎡	やさしさのまち 「桜の郷」整備 事業に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
大塚遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡	1軒	縄文土器片			縄文時代から平安時代にかけての集落跡。弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡からは弥生土器と土師器が共存して出土している。また、平安時代の掘立柱建物跡は、「口」の字状の配列が見られ、その状況や出土遺物などから官衙に関連する道路と想定される。
		弥生時代	竪穴住居跡	15軒	弥生土器(壺・高坏・ミニチュア土器)、土製品(球状土鉢)、石器・石製品(磨石、砥石、礮石)			
		弥生時代～古墳時代	竪穴住居跡	7軒	土師器(坏・器台・高坏・小型壺・甕・手捏土器)、弥生土器(壺)、土製品(球状土鉢・紡錘車)、石器・石製品(砥石、砥石、礮石)			
		古墳時代	竪穴住居跡	21軒	土師器(坏・器台・高坏・甕)、土製品(球状土鉢・紡錘車)、石器・石製品(砥石、磨石、礮石)			
	奈良時代	竪穴住居跡	26軒	土師器(坏・甕・甕)須恵器(坏・高台付坏・壺・高甕)、石製品(砥石・紡錘車)、鉄製品(鎌・刀子)				
		溝跡	1条					
		平安時代	竪穴住居跡	35軒	土師器(坏・高台付坏・甕・甕・甕)、須恵器(坏・高台付坏・壺・高甕・甕・甕・甕)、灰釉陶器(椀)			
	官衙関連施設跡	平安時代	竪穴住居跡	48棟	石製品(碓方・砥石)、銅製品(碓方・足金具)、鉄製品(鎌・刀子・鎌・新・鋤先・紡錘車・釘)			
		井戸跡	1基					
	その他	近世	竪穴	13基	縄文土器片			
墓塚			1基	煙管				
時期不明		炭焼窯跡	5基	古銭陶器片				
		溝跡	8条					
	土坑	122基						
	ビット群	4か所						

目 次

序		
例言		
凡例		
抄録		
第1章	調査経緯	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査経過	1
第2章	位置と環境	3
第1節	地理的環境	3
第2節	歴史的環境	3
第3章	調査の成果	9
第1節	遺跡の概要	9
第2節	基本層序	9
第3節	遺構と遺物	10
1	縄文時代の遺構と遺物	10
(1)	竪穴住居跡	10
(2)	陥し穴	11
2	弥生時代の遺構と遺物	18
	竪穴住居跡	18
3	弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の遺構と遺物	54
	竪穴住居跡	54
4	古墳時代の遺構と遺物	72
	竪穴住居跡	72
5	奈良時代の遺構と遺物	116
(1)	竪穴住居跡	116
(2)	溝跡	176
6	平安時代の遺構と遺物	177
(1)	竪穴住居跡	177
(2)	掘立柱建物跡	266
(3)	井戸跡	337
(4)	溝跡	338
(5)	道路跡	340
(6)	欄跡	341
(7)	土坑	342
7	近世の遺構と遺物	347
(1)	炭焼窯跡	347
(2)	墓塚	357
8	その他の遺構と遺物	358
(1)	ピット群	358
(2)	溝跡	361
(3)	土坑	365
(4)	遺構外出土遺物	378
第4節	まとめ	391
付 章		398
	写真図版	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県は、福祉・医療・健康増進・生きがいづくりなどの機能を備えた、高齢化社会に対応できる新しいまちづくりのモデルとして、茨城県のはほぼ中央に位置する茨城県町において、やさしさのまち「桜の郷」整備事業を推進している。

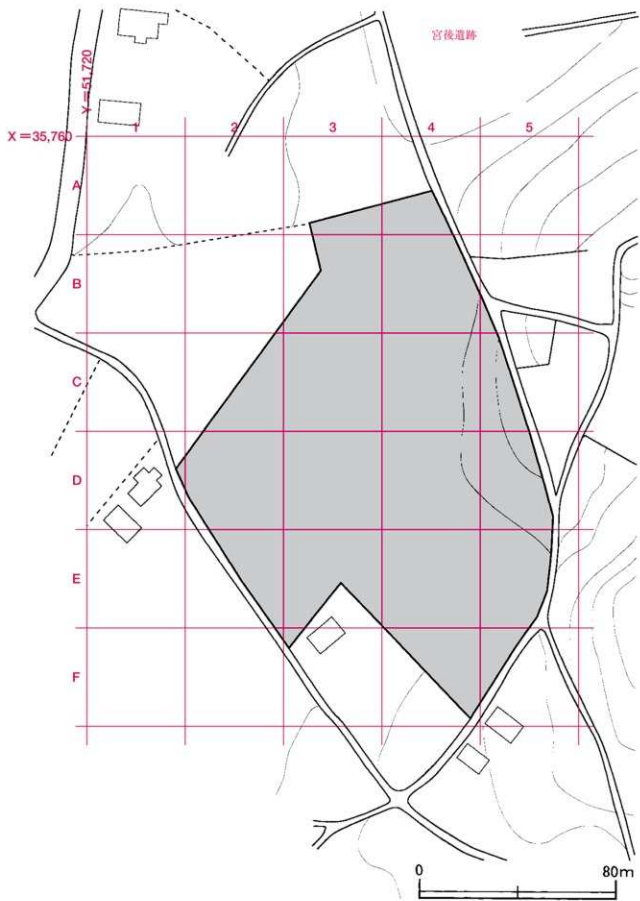
平成9年1月20日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長に対して、やさしさのまち「桜の郷」整備事業における埋蔵文化財の所在の有無及び取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は平成9年2月12・14日に現地踏査をし、同年3月10から12日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成9年5月2日、茨城県教育委員会教育長は茨城県知事あてに、事業地内に宮後遺跡、石原遺跡、大塚遺跡、綱山遺跡が存在することを回答した。平成11年3月31日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3の第1項に基づき、土木工事等の埋蔵文化財の発掘について通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、茨城県知事あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。発掘調査は茨城県知事から委託を受けた財団法人茨城県教育財団が担当し、平成11年4月1日から10月31日まで実施した。調査中に予想以上の遺構数が確認されたため、調査区の一部は次年度に繰り越すこととなった。

繰り越すこととなった調査区については、平成12年3月10日の茨城県知事から茨城県教育委員会教育長あてに、やさしさのまち「桜の郷」整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が再度提出された。平成12年3月16日、茨城県教育委員会教育長から茨城県知事あてに、発掘調査の範囲及び面積等について回答した。財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について再度委託を受け、平成12年4月1日から5月31日まで大塚遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

調査は平成11年4月1日から10月31日までの7か月間及び平成12年4月1日から5月31日までの2か月間実施した。その概要を表で記載する。

期間 工程	平成11年度								平成12年度	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	4月	5月	
調査準備 表土除去 遺構確認	■								■	
遺構調査		■							■	
遺物洗浄 注記作業 写真整理			■						■	
補足調査 及び 撤収							■		■	



第1図 調査区設定図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

大塚遺跡は、茨城県東茨城郡茨城町大字大戸字大塚3104番地の7ほかに所在している。

茨城町の地形は、町のほぼ中央部を東流する潤沼川とその東に展開する潤沼によって、台地を南北に二分されている。北部の台地は、標高25～30mの東茨城郡北部台地の先端部を形成し、北西から流れる潤沼前川を含む大小の支谷が潤沼を中心に南面して開口している。南部に発達する台地は、西から大谷川、南から寛政川が潤沼に流入し、その間に大小の支谷が台地深くまで樹支状に侵入し、北部台地に比べて起伏も多く、一層複雑な地勢を形成している。これらの河川流域の沖積低地は主に水田、台地上は畑地・樹園地として利用されている。

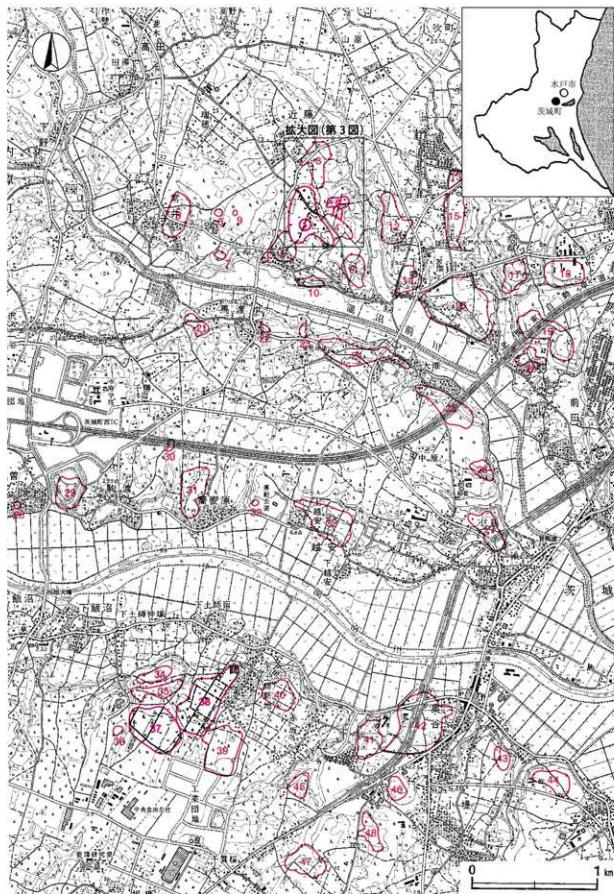
地質をみると、台地を形成している最も古い地層は新生代第三紀の地層で、水戸層と呼ばれる泥岩質層である。水戸層の上には第四紀の地層が不整合に堆積している。粘土・砂からなる見和層、礫からなる上市層、灰褐色の常総粘土層、関東ローム層が、ほぼ水平に連続して堆積しており、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

当遺跡は、潤沼前川の支流である小橋川に開析された標高25～30mの南側に延びる舌状台地上に立地しており、調査前現況は山林、畑地である。

第2節 歴史的環境

当遺跡周辺からは、分布調査や発掘調査により多数の遺跡が確認されている。特に、潤沼川・潤沼前川に面する台地及び台地縁辺部には各時代の遺跡が集中しており、この地域が原始・古代から生活の適地であったことがうかがえる(第2図)。当遺跡を含めた宮後遺跡²⁾(3)、石原遺跡³⁾(4)、綱山遺跡⁴⁾(2)の4遺跡は、平成10年から12年にかけて継続的に発掘調査が実施され、遺跡の時期・様相及び地理的環境から切り離しては考えられない関連性が認められ、「桜の郷遺跡群」と呼称することが可能な遺跡密集地帯となっている(第3図)。ここでは、当遺跡に関連する主な遺跡を中心に時代を追って述べる。

縄文時代の遺跡は、潤沼、潤沼川、潤沼前川に面する台地上に多数確認されている。時期は中期を中心としてほぼ全期にわたっており、北側に近接する宮後遺跡では前期前半から生活の痕跡が確認されるようになる。この時期は縄文海進のピークであり、潤沼前川をはさんで当遺跡の南西対岸に位置するシッペイ沢遺跡⁵⁾(21)からは、汽水性のヤマトシジミが多く出土し、潤沼川北岸の越安貝塚⁶⁾(32)からはマガキやハマグリが出土していることから⁵⁾、当遺跡の南に広がる潤沼前川岸の低地は汽水域、潤沼川岸の低地は海水が侵入していたことがうかがえ、当遺跡周辺は食料獲得の面で好環境であったと想像される。ほかに前期では、小鶴遺跡⁶⁾(27)、東山遺跡⁷⁾(23)、奥谷遺跡⁷⁾(42)などで小規模な集落が営まれ、越安貝塚や南小淵遺跡⁸⁾(29)では小貝塚が形成された。中期に入ると遺跡数は増加し、宮後遺跡のような大きな集落が営まれるようになる。宮後遺跡は平成10・11年度に発掘調査が実施され、中期中葉～後葉にかけての環状集落であることが明らかになり、当地域の土器や集落の様相を知る上で好資料を提供している。当遺跡や綱山遺跡からも該期の土器片が採集されているほか、明確な時期は不明ながらも陥し穴が検出されていることなどから、縄文時代の人々の生活領域に含まれていたと考えられる。中期の遺跡には、宮後遺跡のほかに塚越遺跡、天古崎遺跡、赤坂南坪遺跡⁴⁾(41)



第2図 周辺遺跡分布図(1) (国土地理院1:25,000「小鶴」を使用)

表1 大塚遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代					
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平			中・近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平
①	大塚遺跡	○	○	○	○	○	25	大畑遺跡	○	○	○	○	○	○
2	綱山遺跡	○	○	○	○	○	26	蔵作遺跡				○		
3	宮後遺跡	○	○	○	○	○	27	小鶴遺跡	○	○				
4	石原遺跡		○	○	○	○	28	宝塚古墳				○		
5	木戸遺跡			○		○	29	南小割遺跡	○	○		○	○	○
6	近藤前遺跡		○		○	○	30	大作遺跡	○	○		○		
7	八幡山遺跡		○		○	○	31	宮上遺跡	○	○	○	○		
8	李山遺跡			○		○	32	越安貝塚						
9	近藤前古墳				○		33	中畑遺跡	○	○	○	○		
10	彌崎遺跡		○	○	○		34	小山台古墳群					○	
11	稲荷宮遺跡			○	○	○	35	小山台遺跡		○		○	○	
12	羽黒山遺跡			○	○	○	36	高山遺跡	○			○	○	
13	神宮前古墳						37	面山遺跡	○			○	○	
14	寺坪遺跡	○	○	○	○		38	下土師遺跡	○	○		○	○	
15	大戸神宮寺遺跡	○		○	○		39	面山東遺跡					○	
16	大戸下郷遺跡	○	○	○	○	○	40	下土師東遺跡	○			○	○	
17	平須館跡					○	41	赤坂南坪遺跡	○			○	○	
18	山中遺跡	○	○	○			42	奥谷遺跡	○	○	○	○	○	
19	矢倉遺跡	○	○	○	○		43	小堤貝塚	○	○			○	
20	坪戸遺跡	○	○	○	○		44	三ツ塚遺跡	○	○	○	○		
21	シッペイ沢遺跡	○		○			45	仲丸遺跡	○		○			
22	東畑遺跡	○	○	○	○		46	富士山遺跡	○			○	○	
23	東山遺跡	○	○	○	○		47	小幡北山埴輪製作遺跡				○		
24	上の前遺跡	○	○	○	○		48	北山東遺跡	○				○	

などがあり、町内全域に分布している。後・晩期になると遺跡数は減少傾向にあり、小堤貝塚⁹⁾ (43)、下土師遺跡 (38) など10数か所を数えるだけになる。

弥生時代後期後半(十王台式期)になると、当遺跡に集落が形成され始める。該期に先行する遺跡としては長岡式土器が出土している長岡遺跡、奥谷遺跡、小鶴遺跡などがあげられる。後期後半(十王台式期)の遺跡は潤沼川及び潤沼前川流域を中心に数多く確認されており、特に潤沼前川流域の遺跡は調査例が多く、平成7年度に調査された矢倉遺跡¹⁰⁾ (19)、同8年度に調査された大畑遺跡¹¹⁾ (25)、同10年度に調査された石原遺跡、同10・11年度に調査された宮後遺跡、同11・12年度に調査された綱山遺跡、同14・16年度に調査された大戸下郷遺跡¹²⁾ (16)などがあげられ、潤沼川流域を中心とする小文化圏が形成されていたことが想定されている。また、上記遺跡の土器を比較すると、頸部文様の施文及び範囲などに違いが見られることなどから、遺跡間の継続的なつながりも想起される。さらに、これらの遺跡からは樽式土器や二軒屋式土器など主に群馬県や栃木県地方に見られる土器も出土していることは、潤沼川や潤沼前川の水運を利用した他地域との交流や流通が想定できる。

古墳時代になると遺跡数はさらに増加する。弥生土器と土師器が共存する住居跡が当遺跡のほか、石原遺跡

や綱山遺跡、宮後遺跡でも確認されており、弥生時代終末期から古墳時代に移行する当地域の様相を知る手がかりになると思われる。また、瀬沼前川の下流に位置する奥谷遺跡では、古墳時代前期の豪族居館跡の堀や住居跡が確認され、4世紀末から5世紀初頭頃に比定されている宝塚古墳(28)を勘案すると¹³⁾、該期の在地有力者層の存在が想定される。さらに、当町域には宝塚古墳に後続する中期から後期にかけての古墳が61基、埴輪制作跡の小幡北山埴輪制作遺跡¹⁴⁾(47)があるが、当遺跡を含む「桜の郷遺跡群」からは後期の住居跡がほとんど検出されておらず、奥谷遺跡や南小割遺跡、大戸下郷遺跡など、より河川に近い台地上に中期から後期の集落が形成されていたものと考えられる。

律令制下の奈良・平安時代の町域は、那賀郡八部郷、茨城郡島田郷・安俣郷・白川郷及び鹿島郡宮前郷に属しており、当遺跡の所在する大戸地区は那賀郡八部郷に比定されている¹⁵⁾。この時期は100か所を超える遺跡が町内全域で確認されており、その代表的なものに奥谷遺跡があげられる。奥谷遺跡からは、百数十点の墨書土器のほか刀面硯や刀子が出土している。特に墨書の「曹司」は、官衙などの庁舎・宿直所・局・部屋などを意味し、奥谷遺跡が官衙的あるいは公共的な施設を含んだ集落であったことを示している。このほか町内の遺跡からは数多くの墨書土器が出土しており、当遺跡と宮後遺跡から出土した「南主」や面山遺跡(37)から出土した「土師神主」など興味深い。「桜の郷遺跡群」の各遺跡は墨書土器の出土量の多さもさることながら、奥谷遺跡と同様に刀面硯や灰軸陶器が出土していること、さらに巡刀などの腰帯具が出土していることなどから、「桜の郷遺跡群」が官衙的な施設を内包する集落群であったことが想定される。特に当遺跡からは、北側に倉庫跡と思われる掘立柱建物跡群を配し、「口」の字状に整然と並ぶ掘立柱建物跡群が検出されており、律令制下の地方行政機構を考える上で重要な遺跡と考えられる。

中世の遺跡は、主に城館跡である。現存する城館跡の中で小幡城跡が最大規模であるが、築城者などの詳細については不明である。このほかには宮ヶ崎城跡¹⁶⁾、海老沢館跡、島羽田城跡、飯沼城跡、谷田部城跡、平須館跡(17)などがある。奥谷遺跡からは、堀、地下式城、方形竪穴遺構、井戸跡が確認され、土師質土器や陶器類が多数出土している。また、常陸大塚氏系の太戸氏一族の所領であった大字前田の万東山地区からは、13世紀前半と考えられる「青白磁蓮牡丹文梅瓶」が出土しており、中世においても瀬沼川・瀬沼前川沿岸に有力な氏族が存在していたことがうかがえる。

近世になると、町の中心部を南北に走る水戸街道に沿った長岡や小幡は宿駅として発展した。瀬沼南岸の網掛、宮ヶ崎、海老沢は水上交通の要所として栄え、水戸藩をはじめ、仙台藩など奥州諸藩と江戸を結ぶ物資輸送の中継地として重要な役割を果たしていた。

※ 文中の〈 〉内の番号は、表1及び第2図の該当番号と同じである。

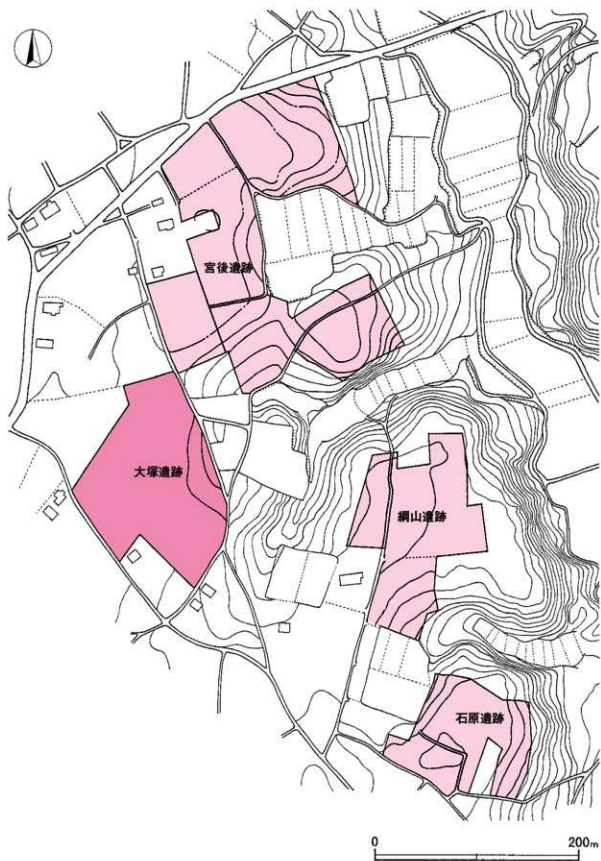
註

- 1) 日本の地質「関東地方」編集委員会「日本の地質3 関東地方」共立出版 1986年10月
- 2) 川又清明・野田良直・吹野富美夫・浅野和久「宮後遺跡1 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第188集 茨城県教育財団 2002年3月
和田清剛・吹野富美夫・浅野和久・荒崎克一郎・駒澤悦郎「宮後遺跡2 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第240集 茨城県教育財団 2005年3月刊行予定
川又清明・浅野和久「宮後遺跡3 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第241集 茨城県教育財団 2005年3月刊行予定

- 3) 村上和彦「やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 石原遺跡」〔茨城県教育財団文化財調査報告書〕第163集 財茨城県教育財団 2000年3月
- 4) 荒崎克一郎・田中幸夫「綱山遺跡 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第242集 財茨城県教育財団 2005年3月
- 5) 茨城町史編さん委員会『茨城町史 通史編』茨城町教育委員会 1995年2月
- 6) 鯉淵和彦「一般国道6号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書 奥谷遺跡・小鶴遺跡」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第50集 財茨城県教育財団 1989年3月
- 7) 註6)に同じ
- 8) 中村敬治・江幡良夫「茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 南小割遺跡・権現堂遺跡・親塚古墳・後原遺跡」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第129集 財茨城県教育財団 1998年3月
- 9) 井上義安「小堤貝塚」茨城町史編さん委員会 1986年11月
- 10) 飯島一生「北関東自動車道(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 矢倉遺跡・後口原遺跡」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第135集 財茨城県教育財団 1998年3月
- 11) 長谷川聡「北関東自動車道(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 大作遺跡・大畑遺跡」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第136集 財茨城県教育財団 1998年3月
- 12) 近藤恒重「大戸下郷遺跡 主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第216集 財茨城県教育財団 2004年3月
- 13) 註5)に同じ
- 14) 大塚初重・井上義安ほか「小幡北山埴輪製作遺跡」茨城町 1989年2月
- 15) 註5)に同じ
- 16) 野田良直「主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書2 宮ヶ崎城跡」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第141集 財茨城県教育財団 1999年3月

参考文献

- ・竹内理三編『角川日本地名大辞典 8 茨城県』角川書店 1983年12月
- ・茨城県立歴史館『茨城県史料=考古資料編 弥生時代』茨城県 1991年3月
- ・茨城町史編さん委員会『茨城町史 通史編』茨城町教育委員会 1995年2月
- ・茨城町史編さん委員会『茨城町史 地誌編』茨城町教育委員会 1995年2月
- ・茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月



第3図 周辺遺跡分布図(2)

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

大塚遺跡は、今回の調査によって、奈良・平安時代を中心とした、縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが確認できた。また、覆土中からは旧石器時代の遺物も出土している。

遺構は、縄文時代の竪穴住居跡1軒、陥し穴13基、弥生時代の竪穴住居跡15軒、弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡7軒、古墳時代の竪穴住居跡21軒、奈良時代の竪穴住居跡26軒、溝跡1条、平安時代の竪穴住居跡35軒、掘立柱建物跡48棟、井戸跡1基、溝跡1条、道路跡1条、欄跡2列、土坑10基、近世の炭焼窯跡5基、墓塚1基、時期不明の溝跡8条、土坑122基、ピット群4か所が検出されている。特に、平安時代の掘立柱建物跡は「口の字」状の配列が見られ、地方行政組織に伴う重要な施設である可能性が高い。

遺物は、旧石器（剥片）、縄文土器片（深鉢）、弥生土器（高坏・壺・ミニチュア）、土師器（坏・碗・高台付坏・埴・器台・高坏・壺・甕・瓶・手握土器）、須恵器（坏・高台付坏・盤・蓋・高盤・壺・甕・円面碗）、灰軸陶器（碗・長頸壺）、土製品（球状土錘・支脚・紡錘車・羽口・模造品）、石器（礫石・磨石・打製石斧）、石製品（紡錘車・礫石・腰帯具）、鉄製品（鐵・刀子・鎌・鋤先・鉞・釘）、鉄滓等が出土し、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）115箱に収納された。特に、弥生土器と古墳前期の土師器が共伴して出土した住居跡が確認されており、弥生時代から古墳時代へ移行する当地域の様相を示す重要な資料と考えられる。

第2節 基本層序

テストピットは、調査区南部のE3 e8区に掘削した。地表面の標高は29.7mで、地表面から深度2.9mまで掘り下げた。テストピットの土層は、色調・構成粒子・含有物・粘性・しまりなどから12層に細分された。以下、層序を解説する。

第1・2層は耕作土で、層厚は55～60cmである。

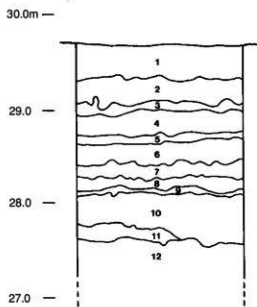
第3層は褐色を呈するローム層への漸移層で、白色粒子を微量含む。粘性は普通でしまりは強い。層厚は5～20cmである。

第4層は褐色を呈するローム層で、粘性は普通でしまりは強い。層厚は18～30cmである。

第5層は褐色を呈するローム層で、第4層に比してブロック状のロームが目立つ。粘性は普通でしまりは強い。層厚は5～15cmである。

第6層は第4層より明るい褐色を呈するローム層で、粘性は普通でしまりは強い。層厚は15～30cmで、クラック（縦の割れ目）がみられる。

第7層は褐色を呈するローム層で、白色粒子をわずかに含む。粘性は普通でしまりは強い。層厚は10～22cmで、ク



第4図 基本土層図

ラックが発達している。

第8層は褐色を呈するローム層で、白色粒子を少量、赤色粒子をわずかに含む。粘性・しまりは共に強い。層厚は7～18cmで、クラックが発達している。

第9層は明褐色を呈する鹿沼純層への漸移層で、鹿沼バミスの中量含む。粘性・しまりは共に強い。層厚は2～10cmで、クラックが発達している。

第10層は橙色を呈する鹿沼純層である。粘性は弱く、さらさらしてしまりは強く、層厚は30～60cmである。

第11層は褐色を呈するローム層で、粘性・しまりは共に強く、層厚は5～20cmである。

第12層は褐色を呈するローム層で、粘性・しまりは共に強く、下層は未掘のため本来の厚さは不明である。住居跡・土坑等の遺構は、第4層上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

住居跡1軒、陥し穴13基を確認した。

(1) 竪穴住居跡

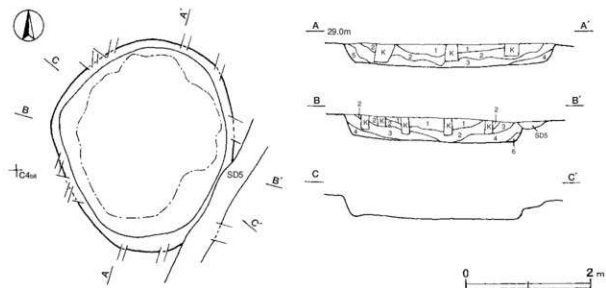
第58号住居跡 (第5・6図)

位置 調査区東部のC 4a8区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第5号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径3.36m、短径2.90mほどの楕円形で、長径方向はN-16°-Eである。壁高は30～35cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、よく踏み固められている。



第5図 第58号住居跡実測図

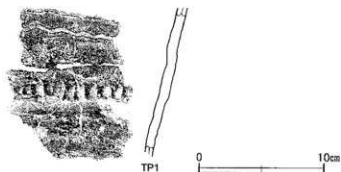
覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子多量
3	褐色	ロームブロック少量	6	褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 覆土上層から縄文土器片（深鉢）2点が出土しており、埋没過程で混入したものと考えられる。

所見 炉・柱穴は確認されなかったが、床面が硬化していることから住居跡として扱った。時期は、出土土器（阿玉台I b式カ）から中期ごろと考えられる。



第6図 第58号住居跡出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	-	(117)	-	胴部に波状沈線文を施し、下部の輪縁部を工具押圧により硬化	石英・長石・雲母	普通	にぶい褐色	覆土上層	

(2) 陥し穴

第1号陥し穴（SK4）（第7図）

位置 調査区南部のF 4 b7区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径2.92m、短径1.58mほどの長楕円形で、長径方向はN-15°-Eである。深さは134cmで、短径方向の断面は台形である。北壁は外傾し、南壁は直に立ち上がったあと中程から外傾している。

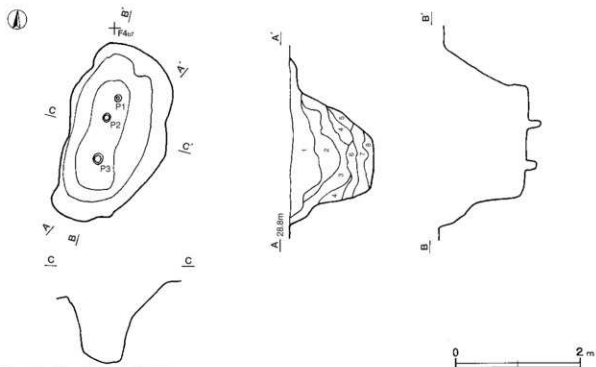
ピット 3か所。径10~20cm、深さ10~20cmほどで主軸方向に一列に配され、遊茂木などを立てたものと考えられる。

覆土 8層からなる。下層はロームブロックや鹿沼バミスが目立つことから壁が崩落した自然堆積、中層から上層はブロック状の含有物が目立つことから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	5	褐色	ローム粒子多量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	6	褐色	ロームブロック多量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック多量、鹿沼バミス少量
4	暗褐色	ローム粒子多量	8	褐色	ロームブロック中量、鹿沼バミス中量

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。また、長径方向と配置・形状から、第4・8号陥し穴と同時期に機能していたと推測される。



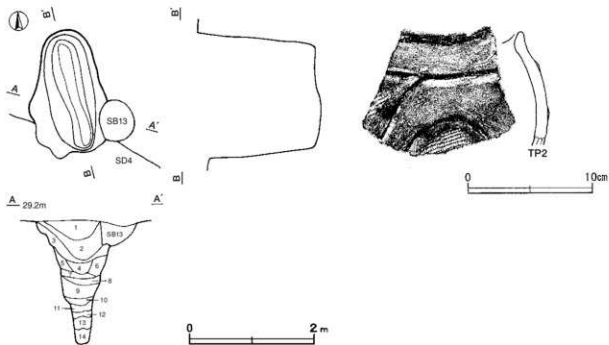
第7図 第1号陥し穴実測図

第2号陥し穴 (SK36) (第8図)

位置 調査区中央部のD4区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第13号掘立柱建物跡、第4号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.97m、短径1.23mほどの不整楕円形で、長径方向はN-13°-Wである。深さは189cmで、短径方向の断面はV字形である。南北壁は直に立ち上がっている。



第8図 第2号陥し穴・出土遺物実測図

覆土 14層からなる。下層は鹿沼バミスが目立ち、水平に堆積していることから、壁が崩落した自然堆積と考えられる。中層から上層はブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子・炭化物微量	8	褐色	ロームブロック中量
2	黒	褐色	ローム粒子少量、赤色粒子微量	9	褐色	ローム粒子・鹿沼バミス中量
3	黒	褐色	ロームブロック少量	10	褐色	ローム粒子中量、鹿沼バミス少量
4	暗	褐色	ロームブロック中量	11	暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼バミス微量
5	暗	褐色	ローム粒子多量	12	褐色	ロームブロック中量、鹿沼バミス少量
6	暗	褐色	ローム粒子中量	13	褐色	ロームブロック・鹿沼バミス少量
7	暗	褐色	ロームブロック少量	14	褐色	ロームブロック中量、鹿沼バミス少量

遺物出土状況 覆土中層から縄文土器片（深鉢）2点が出土している。いずれも埋め戻される際に混入したものと考えられる。

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。堆積状況から廃絶後早い時期に埋め戻されたと推測される。時期は、出土土器（加曾利EⅣ式期カ）から中期ごろと考えられる。

第2号陥し穴出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP2	縄文土器	深鉢	-	(90)	-	鹿沼粘板文で内底に5本筋縹文を施す1辺部無文帯と下部の一部へツ状工具による磨削	長石・雲母	普通	赤い	覆土中層	

第3号陥し穴（SK40）（第9図）

位置 調査区東部のD47区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

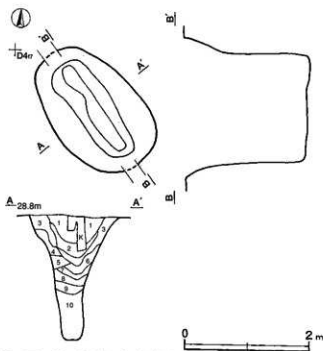
規模と形状 長径2.26m、短径1.41mほどの楕円形で、長径方向はN-37°-Wである。深さは196cmで、短径方向の断面はV字形である。南北壁は直に立ち上がった後、上部で外傾している。

覆土 10層からなる。下層はロームブロックが目立ち、水平に堆積していることから、壁が崩落した自然堆積と考えられる。中層から上層はブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗	褐色	ロームブロック少量
5	暗	褐色	ロームブロック中量
6	暗	褐色	ロームブロック多量（細り弱）
7	暗	褐色	ロームブロック多量、炭化物微量
8	暗	褐色	ロームブロック多量
9	暗	褐色	ロームブロック中量（細り弱）
10	暗	褐色	ロームブロック中量、鹿沼バミス少量

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



第9図 第3号陥し穴実測図

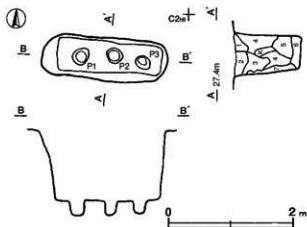
第4号陥し穴 (SK70) (第10図)

位置 調査区西部のC 2 h9区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.00m、短軸0.70mほどの隅丸長方形で、主軸方向はN-85°-Wである。深さは109cmで、短軸方向の断面は台形である。東壁は直に、西壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 3か所。径25cm、深さ20~25cmほどで主軸方向に一列に配され、逆茂木などを立てたものと考えられる。

覆土 7層からなる。第6層は壁が崩落した層と推測される。他はブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。



第10図 第4号陥し穴実測図

土層解説

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・白色粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 ロームブロック中量、白色粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量、白色粒子少量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・炭屑バミス少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・白色粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量、白色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |

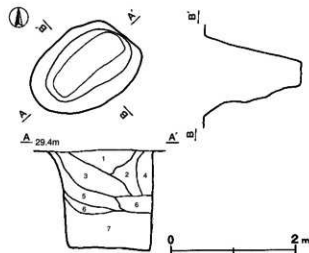
所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。また、輪線と配置・形状から、第1・8号陥し穴と同時期に機能していたと推測される。

第5号陥し穴 (SK92) (第11図)

位置 調査区中央部のD 3 b4区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.74m、短径1.30mほどの楕円形で、長径方向はN-50°-Eである。深さは154cmで、短径方向の断面は台形である。東壁は直に、西壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層からなる。第7層は壁が崩落した層と推測される。他はブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。



第11図 第5号陥し穴実測図

土層解説

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子多量(粘性強) |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量 | 7 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子多量(細り弱) | |

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第6号陥し穴 (SK95) (第12図)

位置 調査区東部のD 4 i7区, 標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径2.60m, 短径2.20mほどの不整楕円形で, 長径方向は $N-8^{\circ}-W$ である。深さは110cmで, 短径方向の断面は台形である。南北壁は外傾して立ち上がっている。

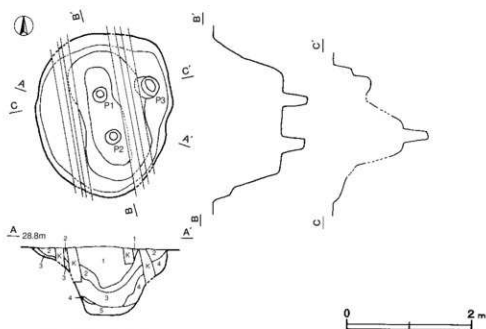
ピット 3か所。P1・P2は径25cm, 深さ40cmほどで長径方向に一列に配され, 逆茂木などを立てたものと考えられる。P3は東壁上部にあり, 性格は不明である。

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 黒色 黒色粒子多量, ローム粒子微量 | 4 褐色 rome粒子多量 |
| 2 黒褐色 rome粒子・黒色粒子中量 | 5 極暗褐色 黒色粒子中量, rome粒子微量 |
| 3 暗褐色 romeブロック中量, 黒色粒子微量 | |

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



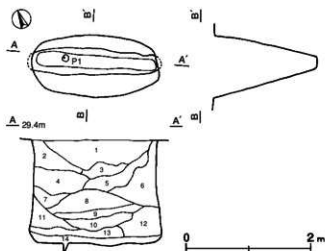
第12図 第6号陥し穴実測図

第7号陥し穴 (SK98) (第13図)

位置 調査区北部のB 4 g2区, 標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径2.02m, 短径1.00mほどの長楕円形で, 長径方向は $N-70^{\circ}-W$ である。深さは164cmで, 短径方向の断面はV字形である。東西壁はわずかにオーバーハングして直に立ち上がっている。

ピット 1か所。径10cm, 深さ15cmほどで西側に配され, 逆茂木などを立てたものと考えられる。



第13図 第7号陥し穴実測図

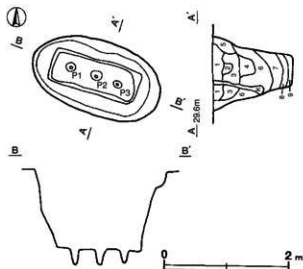
覆土 14層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス中量 |

- | | | |
|----|-----|-------------------|
| 8 | 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 9 | 褐色 | ロームブロック多量 |
| 10 | 黄褐色 | 鹿沼パミス多量、ロームブロック微量 |
| 11 | 暗褐色 | ローム粒子多量、鹿沼パミス微量 |
| 12 | 暗褐色 | 鹿沼パミス中量、ロームブロック少量 |
| 13 | 黄褐色 | 鹿沼パミス多量、ロームブロック少量 |
| 14 | 黒褐色 | ローム粒子少量、鹿沼パミス微量 |

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



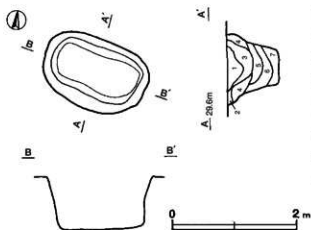
第14図 第8号陥し穴実測図

土層解説

- | | | |
|---|-----|----------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 黄褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量 |

- | | | |
|---|-----|------------------|
| 6 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 7 | 黄褐色 | ローム粒子少量 |
| 8 | 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 9 | 黄褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス少量 |

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。また、軸線と配置・形状から、第1・4号陥し穴と同時期に機能していたと推測される。



第15図 第9号陥し穴実測図

第8号陥し穴 (SK108) (第14図)

位置 調査区北部のB3区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径2.13m、短径1.18mほどの楕円形で、長径方向はN-70°-Wである。深さは125cmで、短径方向の断面は台形である。東西壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 3か所。径15~20cm、深さ23cmほどで長径方向に一列に配され、逆茂木などを立てたものと考えられる。

覆土 9層からなる。第7~9層はレンズ状の堆積状況から自然堆積、他はブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

第9号陥し穴 (SK121) (第15図)

位置 調査区中央部のD3c4区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.69m、短軸1.13mほどの隅丸長方形で、主軸方向はN-69°-Wである。深さは84cmで、短軸方向の断面は台形である。東西壁は直に立ち上がった後、上部で外傾している。

覆土 7層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|---|----|----|------------------------|
| 1 | 黒 | 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 | 暗 | 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 褐色 | | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

- | | | | |
|---|----|----|----------------------|
| 5 | 褐色 | | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 | 褐色 | | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 7 | 暗 | 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第10号陥し穴 (SK122) (第16図)

位置 調査区中央部のD3区, 標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

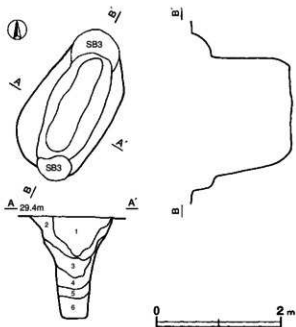
重複関係 第3号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.20m, 短径1.27mほどの楕円形で, 長径方向はN-25°-Eである。深さは160cmで, 短径方向の断面は, V字形である。南北壁は直に立ち上がっている。

覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | |
|---|----|----|----------------------|------------------------|
| 1 | 黒 | 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |
| 2 | 麻 | 暗 | 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | |
| 4 | 暗 | 褐色 | ローム中量 | |
| 5 | 褐色 | | ローム粒子・鹿沼パミス少量 | |
| 6 | 黄 | 褐色 | 鹿沼パミス多量, ローム粒子少量 | |



第16図 第10号陥し穴実測図

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第11号陥し穴 (SK127) (第17図)

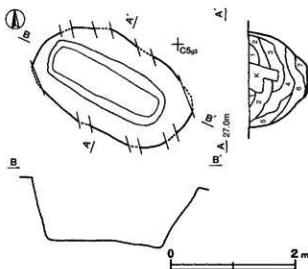
位置 調査区東部のC5g2区, 標高27mほどの台地縁部に位置している。

規模と形状 長径2.60m, 短径1.52mほどの長楕円形で, 長径方向はN-59°-Wである。深さは96cmで, 短径方向の断面は, U字形である。南北壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

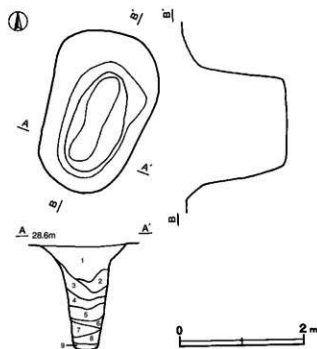
土層解説

- | | | | |
|---|----|----|-------------------------|
| 1 | 黒 | 褐色 | 白色粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 | 黒 | 褐色 | 白色粒子中量, ローム粒子微量 |
| 3 | 暗 | 褐色 | ローム粒子中量, 白色粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 | 黒 | 褐色 | ローム粒子中量, 白色粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 | 褐色 | | ロームブロック微量 |
| 6 | 褐色 | | ロームブロック中量 |
| 7 | 明 | 褐色 | ローム粒子多量 |



第17図 第11号陥し穴実測図

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



第18図 第12号陥し穴実測図

第12号陥し穴 (SK174) (第18図)

位置 調査区東部のE 4 b0区、標高28mほどの平坦な台地上に位置している。

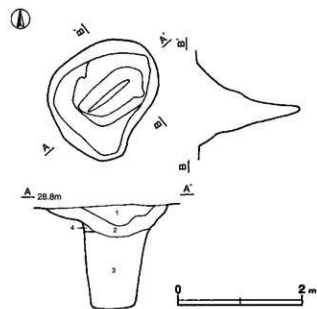
規模と形状 長径2.64m、短径1.56mほどの楕円形で、長径方向はN-15°-Eである。深さは162cmで、短径方向の断面は、V字形であり南北壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 9層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|------|-------------------|
| 1 | 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化物微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子・魔沼パミス中量 |
| 7 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 | 褐色 | ロームブロック・魔沼パミス少量 |
| 9 | 褐色 | ロームブロック中量、魔沼パミス少量 |

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



第19図 第13号陥し穴実測図

第13号陥し穴 (SK5) (第19図)

位置 調査区南部のF 4 b6区、標高28mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.94m、短径1.52mほどの不整楕円形で、長径方向はN-44°-Eである。深さは164cmで、短径方向の断面はV字形である。南北壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|------|------------------|
| 1 | 極暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。

2 弥生時代の遺構と遺物

竪穴住居跡15軒が確認された。

第45号住居跡 (第20図)

位置 調査区東部のD 4 g9区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第44号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.2m、短軸3.7mの長方形で、主軸方向はN-37°-Eである。壁高は18~22cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

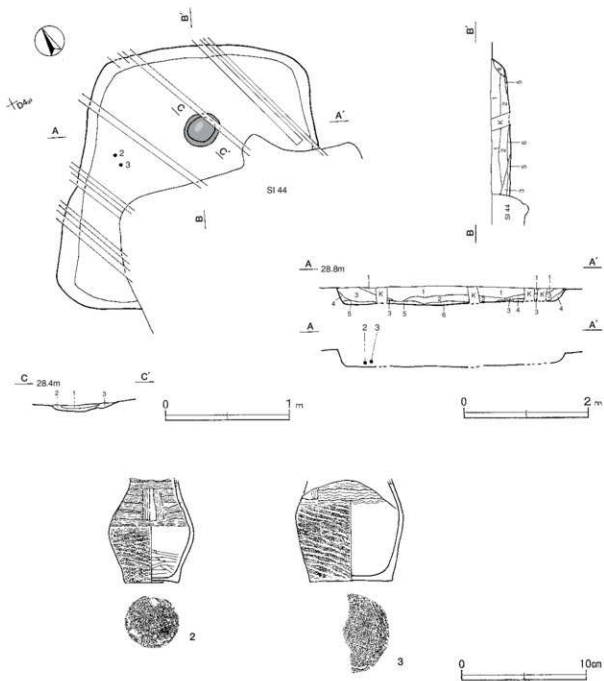
床 ほぼ平坦で、目立った硬化面はない。

炉 やや北寄りに設けられ、長径60cm、短径50cmほどの楕円形を呈し、皿状に掘りくぼめられた地床炉である。炉床部中央がわずかに赤変している。

伊土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
2 に近い赤褐色 焼土ブロック中量

- 3 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量



第20図 第45号住居跡・遺物出土実測図

覆土 6層からなる。第1・3～5層は壁際から流れ込んだ自然堆積、第2層は焼土や砂を含み暗赤褐色を呈していることから人為堆積と考えられる。第6層は炉の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|---------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、砂粒微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 弥生土器片10点(破)のほか、混入した土師器片44点(甕類)、須恵器片1点(鉢)、灰釉陶器1点(碗類)も出土している。2・3は西壁寄りの床面から横位でそれぞれ出土し、廃絶時に廃棄されたものと考えられ、時期判断の指標となる遺物である。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)と考えられる。

第45号住居跡出土遺物観察表(第20図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
2	弥生土器	小形甕	-	(8.3)	4.4	胴上部、瘤状区画は瘤状工具(5本)により2条を単位として3分割し、区画内に流状文。胴中央部、流状文による横位区画。胴下部には附加条二種(附加1条)の羽状縄文。底部布目痕。	長石・石英	普通	に35+橙	床面	80% PL30
3	弥生土器	小形甕	-	(8.0)	(6.6)	胴下部、瘤状工具(4本)による瘤状区画後、区画内に流状文。胴中央部、流状文による横位区画。胴下部、附加条二種(附加1条)の縄文。底部布目痕。	長石・石英	普通	に35+橙	床面	10%

第65号住居跡(第21・22図)

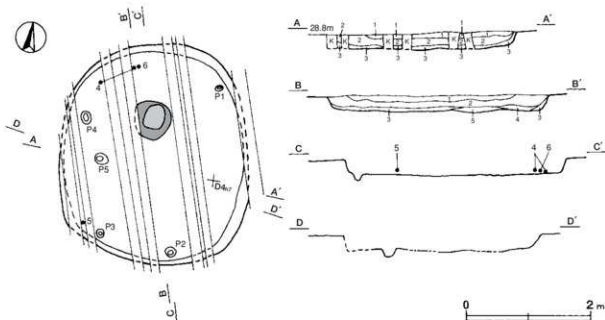
位置 調査区東部のD4g6区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径3.5m、短径3.0mの楕円形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は24cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、目立った硬化面はない。

炉 やや北寄りに設けられ、長径65cm、短径60cmほどの不整形を呈し、皿状に掘りくぼめられた地床炉である。火床面は赤変硬化している。

ピット 5か所。P1～P4はいずれも深さ10cmで、壁際に配されていることから壁柱穴の一部と考えられ



第21図 第65号住居跡実測図

る。P 5は深さ10cmで、P 2やP 4と同規模であるが性格は不明である。

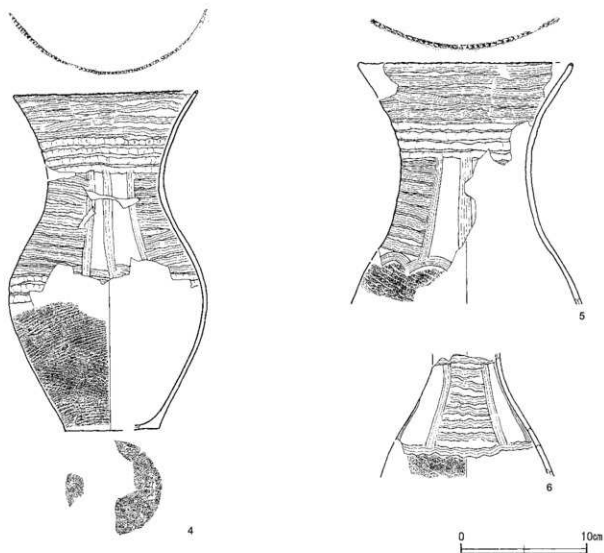
覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第5層は郊の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 弥生土器片64点(破)のほか、混入した土師器片2点(堿類)も出土している。土器の多くは破片で、埋没途中で投棄されたものと考えられる。4・6は北壁寄りの覆土下層、5は南壁寄りの床面から破片で集中して出土し、廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)と考えられる。



第22図 第65号住居跡出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表(第22図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
4	弥生土器	広口瓶	34.6	26.9	7.6	11唇部、縄文主体の押圧(11唇部、波状文、頸部、押圧のある4本の横帯、胴上部、橢圓状工具(4本)による3条を単位とする縦位区画で3分割し、区画内に波状文、胴中央部、押圧のある3本の横帯、胴下部、加条二條(追加2条)の縄文、底部布目痕	長石・石英	普通	にぶ・褐	下層	60% 外面土粒吸着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5	弥生土器	広口壺	[17.2]	(19.2)	-	口縁部、縄文意体の押印、口辺部、櫛歯状土具(6本)による波状文、頸部、押印のある低い4本の隆帯、胴上部、櫛歯状土具(6本)により縦位区画化、区画内に波状文、胴中央部、並高まで横位区画、胴下部、附加条二種(附加1条)の縄文	長石・石英	普通	灰褐色	床面	15% 外面残存者
6	弥生土器	広口壺	-	(9.7)	-	胴部、櫛歯状土具(4本)による波状文で横位区画、胴上部、縦位区画は2条を単位として分割し、区画内に波状文、胴中央部、波状文による横位区画、胴下部、附加条二種(附加1条)の縄文	長石・石英	普通	に近い澄	下層	10%

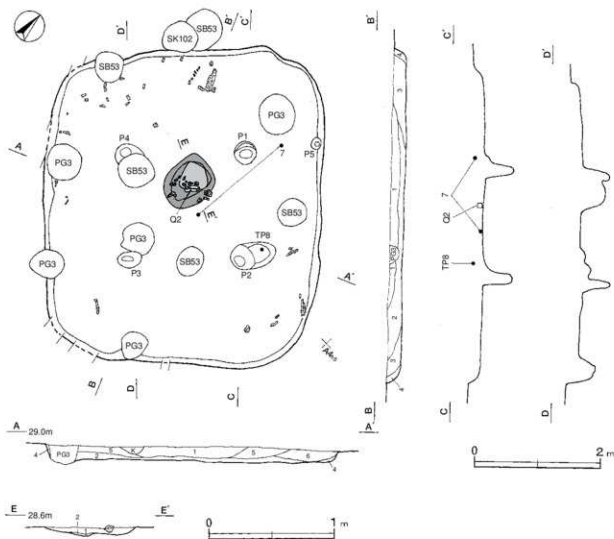
第69号住居跡 (第23・24図)

位置 調査区北部のA4h4区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第53号掘立柱建物跡、第102号土坑、第3号ピット群にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.9m、短軸4.4mの隅丸長方形で、主軸方向はN-43°-Wである。壁高は15cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、目立った硬化面はない。



第23図 第69号住居跡実測図

炉 中央に設けられ、長径82cm、短径70cmの不整楕円形を呈し、浅く掘りくはめられた地床炉である。火床面は赤変硬化し、周りから多数の炭化物が検出されている。炉石は、火床面の南側に主軸方向に直交した状態で出土している。

炉土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量 2 にいり黄褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量

ピット 5か所。P1～P4はいずれも深さ46cmで、配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ14cmで東壁際に位置していることから、壁柱穴の一部と考えられる。

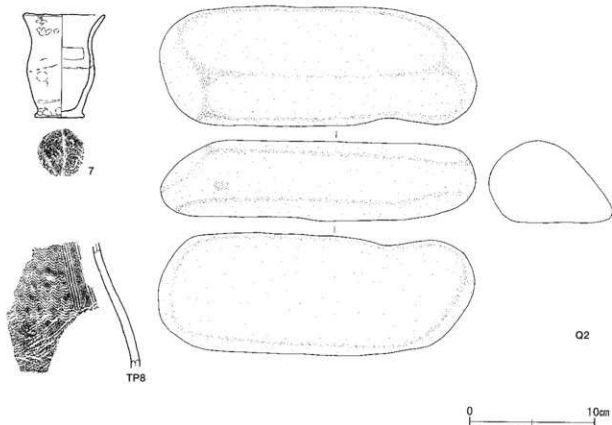
覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量 4 暗 褐 色 ローム粒子微量
 2 黒 褐 色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 5 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量
 3 黒 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 6 暗 褐 色 炭化物・ローム粒子少量

遺物出土状況 弥生土器片8点(壺)、石製品1点(炉石)のほか、混入した縄文土器片5点、土師器片6点(坏類1、甕類5)、須恵器片8点(坏類4、蓋1、甕類3)も出土している。また、多量の炭化材が炉の周辺や壁際から広い範囲で出土している。7は中央部と東壁寄りの覆土下層にわたり破片で散在し、TP8は東壁寄りの床面から破片で出土し、焼失後まもなく廃棄されたものと考えられる。Q2は炉内から出土している。

所見 炭化材が多量に出土していることから、廃絶時に焼失したものと考えられる。時期は、規模や主軸方向、出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)と考えられる。



第24図 第69号住居跡出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表 (第24図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
7	弥生土器	ヒラテ器	6.5	8.2	3.9	口辺部内面,横ナデ 外面指頭圧痕を残すナデ 底部本重痕	長石・赤色砂子	普通	にぶい黄褐色	下層	70% P1,30
TP8	弥生土器	甕	-	9.8	-	胴上部,輪歯状工具(4本)による縦位区画は2条を単位として分割し,区画内に流状文 胴中央部,流状文による横位区画胴下部,附加条二條(同時附加2条)の横文	長石・石英	普通	にぶい褐色	床面	外面露付着
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q2	礫石	25.4	9.5	6.5	2418.3	安山岩	焼熱による赤変		炉		

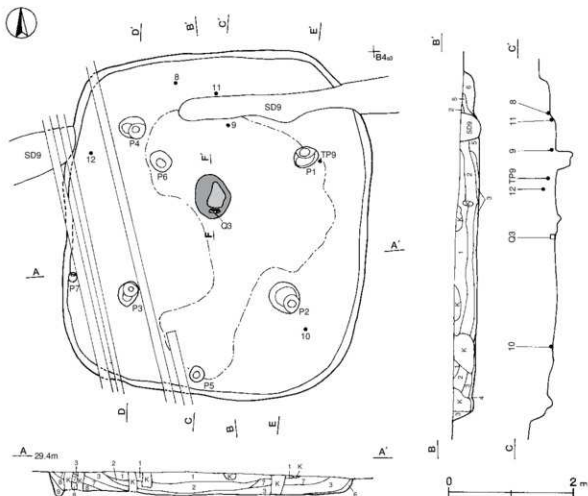
第70号住居跡 (第25～27図)

位置 調査区北部のB 4a2区, 標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第9号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.6m, 短軸4.8mの隅丸長方形で, 主軸方向はN-7°-Eである。壁高は15~28cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 出入口付近から炉の北側から東側にかけて踏み固められている。

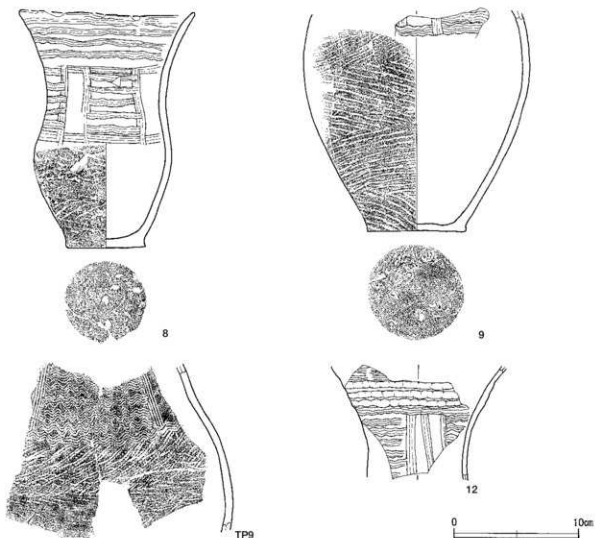
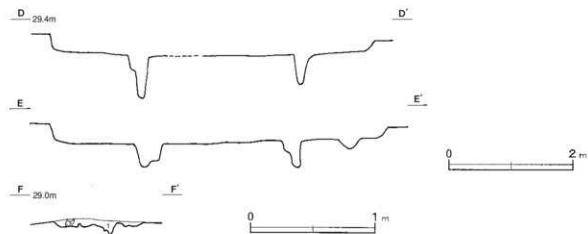


第25図 第70号住居跡実測図

炉 中央に位置する。長径72cm、短径60cmの楕円形を呈し、浅く掘りこぼめられた地床炉である。火床面は赤変硬化している。炉石は、主軸方向に直交した状態で火床面の南側から出土している。

炉土層解説

1 黒 褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量



第26図 第70号住居跡・出土遺物実測図

ピット 7か所。P 1～P 4は深さ37～67cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ10cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ10cm, P 7は深さ13cmで、性格は不明である。

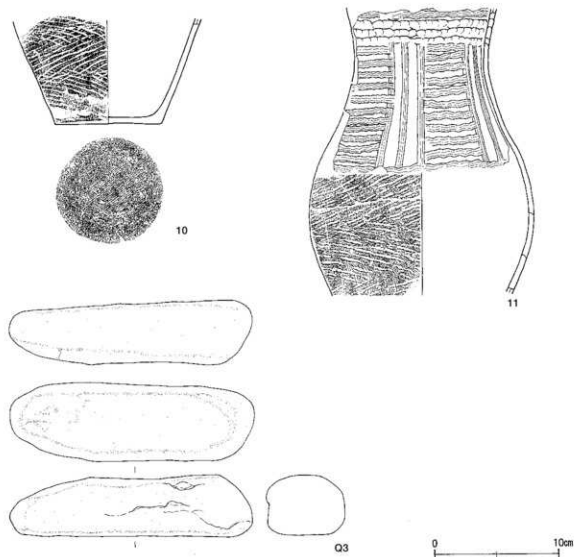
覆土 9層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 黒 褐 色	ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量	7 暗 褐 色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	8 暗 褐 色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
4 暗 褐 色	ロームブロック少量, 炭化物, 焼土粒子微量	9 暗 褐 色	ローム粒子中量
5 黒 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 弥生土器片172点(壺), 石製品1点(炉石)のほか, 混入した縄文土器片17点, 土師器片28点(甕類), 須恵器片7点(坏類6, 蓋1)も出土している。8・11は北壁寄りの床面, 9は北壁寄りの覆土下層, 10は南東コーナー部の床面からそれぞれ出土し, 廃絶時に廃棄されたものと考えられ, 時期判断の指標となる遺物である。12は西壁寄りの覆土中層, Q 3は炉内から出土している。

所見 時期は, 出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)と考えられる。



第27図 第70号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表（第26・27図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8	弥生土器	広口壺	14.0	18.7	6.4	11辺部、髷歯状工具(4本)による波状文。胴上部の縦位区画は2条を単位として5分割し、区画内に波状文。胴上部、波状文による横位区画。胴下部、附加条二種(附加1条)の縄文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい黄褐色	床面	75% P1,25 外面磨付着
9	弥生土器	壺	-	(17.6)	7.8	胴上部、縦位区画は髷歯状工具(5本)で2条を単位とし、区画内は波状文。胴下部、附加条二種(附加1条)の縄文。	長石・雲母	普通	にぶい黄褐色	下層	30%
10	弥生土器	壺	-	(8.2)	8.6	胴部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文。底部布目痕。	長石・石英	普通	にぶい黄褐色	床面	15% 内面炭化物、 外面磨付着
11	弥生土器	壺	-	(23.0)	-	11辺部、髷歯状工具(4本)による波状文。胴部、押圧のある低い3本の隆帯。胴上部、縦位区画は3条を単位として4分割し、区画内に波状文。胴中央部、波状文による横位区画。胴下部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文。	長石・石英	普通	にぶい黄褐色	床面	30% 内面炭化物、 外面炭化物付着
12	弥生土器	広口壺	-	(9.1)	-	11辺部、髷歯状工具による波状文。胴部、押圧のある低い隆帯3本。胴部、髷歯状工具による3条を単位として分割し、区画内に波状文。	長石・赤色粒子	普通	黒褐色	下層	5% 外面磨付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP9	弥生土器	壺	-	(13.4)	-	胴上部、髷歯状工具(4本)による縦位区画は2条を単位として分割し、区画内に波状文。胴中央部、波状文による横位区画。胴下部、附加条二種(附加2条)の縄文。	長石・石英	普通	黄褐色	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	卵石	19.5	6.3	5.0	1045.9	安山岩	被熱による赤変	床面	

第71号住居跡（第28・29図）

位置 調査区北部のB 4 d2区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.0m、短軸4.5mの隅丸長方形で、主軸方向はN-6°-Eである。壁高は10cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。東壁付近に若干の焼土が見られ、北壁際やP 2付近から炭化材が検出されている。

炉 中央に位置する。長径110cm、短径60cmの不整楕円形を呈し、浅く掘りくぼめられた地床炉である。目立った赤変は見られない。

土層解説

- 1 黒 褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 2 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ32～65cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 5は15cmの浅い掘り込みで、覆土中から弥生土器片が出土しているが性格は不明である。P 6は深さ24cmで、やや浅いP 4に隣接して配されているが性格は不明である。

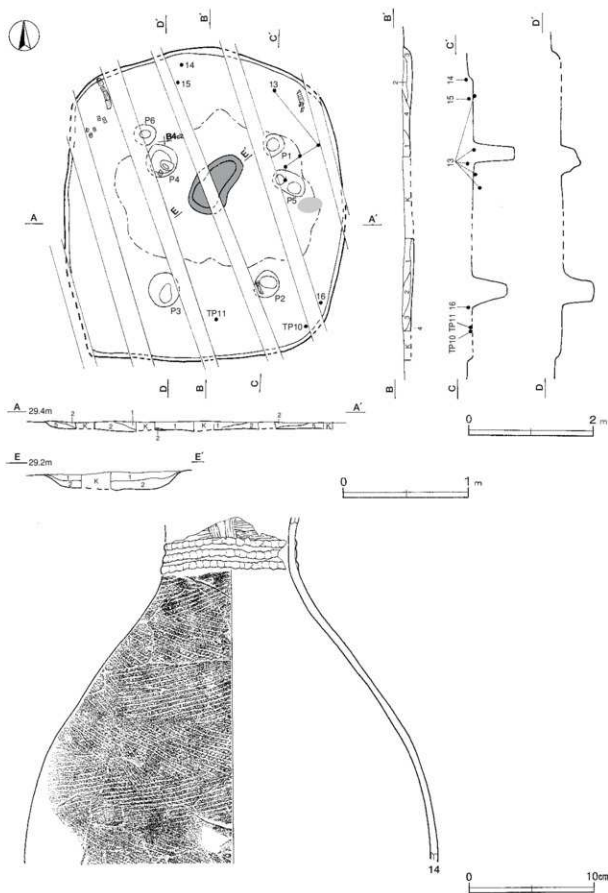
覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 4 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 5 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
3 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

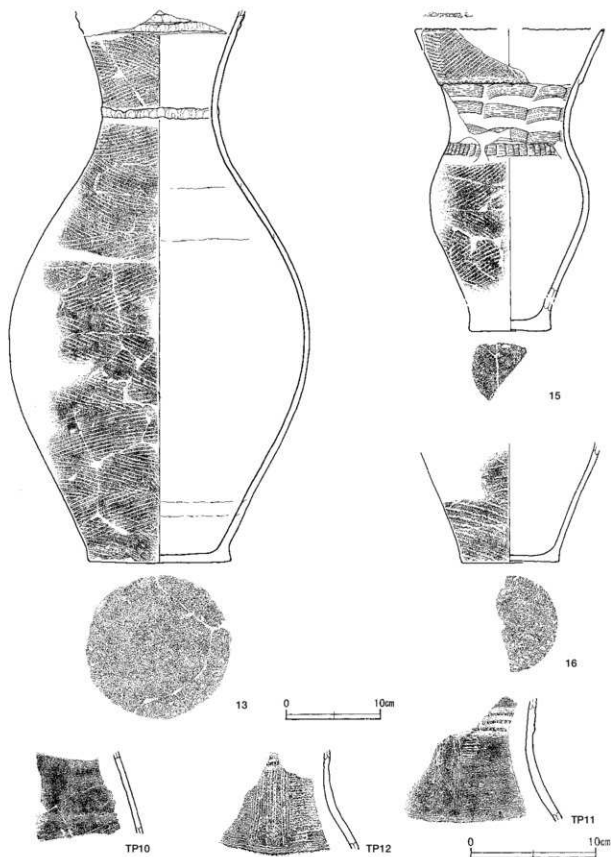
遺物出土状況 弥生土器片156点(壺)、石器1点(磨製石斧)のほか、混入した縄文土器片1点、土師器片9点(甕類)、須恵器片2点(環頸)、剥片2点も出土している。13は北東部の床面とP 5の覆土上層から出土した破片が接合し、14は北壁際、15は北壁寄りの床面、16は南東コーナー部の床面からそれぞれ出土し、焼失直

後に廃棄されたものと考えられ、時期判断の指標となる遺物である。



第28図 第71号住居跡・出土遺物実測図

所見 炭化材や焼土が出土していることから、焼失したものと考えられる。時期は、出土土器から弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



第29図 第71号住居跡出土遺物実測図

第71号住居跡出土遺物観察表 (第28・29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
13	弥生土器	広口壺	-	(58.5)	15.4	1口辺部、押江のある隆帯2本。頸部上位、附加条二種(附加1条)の羽状縄文。胴部中央、押江のある隆帯1本。胴部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文。底部砂粒付着	長石・石英	普通	にぶい橙	床面	25%
14	弥生土器	壺	-	(27.7)	-	頸部、轆轤状工具(5本)による縦位区画は2条を単位として分割し、区画内に波状文。胴部中央、押江のある隆帯3本。胴部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい黄橙	床面	20%
15	弥生土器	広口壺	[15.0]	[24.0]	[6.4]	1口径部、縄文短体押江。1口辺部、附加条一種(附加2条)の羽状縄文。1口辺部下端、縄文主体による斜交文。頸部、轆轤状工具(9本)による波状文。胴上部、轆轤状工具による波状文。胴部、附加条一種(附加2条)の羽状縄文。底部本葉草	長石・石英	普通	にぶい赤褐	床面	30% PL25
16	弥生土器	壺	-	(9.5)	7.8	胴部、附加条二種(附加1条)の縄文。底部本目肌	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい褐	床面	10% 底部粘付痕

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP10	弥生土器	壺	-	(6.4)	-	胴上部、轆轤状工具(7本)による縦位区画は2条を単位として分割し、区画内に波状文。胴中央部、波状文。胴下部、附加条二種(附加1条)の縄文	長石・石英	普通	橙	床面	
TP11	弥生土器	壺	-	(9.8)	-	1口辺部、轆轤状工具による波状文。頸部上位、斜みのある隆帯2本。胴上部、轆轤状工具(4本)による縦位区画は2条を単位として分割し、区画内に波状文	長石・石英	普通	橙	下層	
TP12	弥生土器	壺	-	(7.8)	-	胴部上位、斜みのある隆帯1本。胴上部、轆轤状工具(4本)による縦位区画は2条を単位として分割し、区画内に波状文。胴中央部、波状文による縦位区画	長石・石英	普通	橙	下層	

第72号住居跡 (第30～32図)

位置 調査区北部のB 4目区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.6m、短軸3.7mの長方形で、南壁は外側へわずかに膨らみ、主軸方向はN-30°-Eである。壁高は15～20cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。南部からは多くの炭化材が検出されている。

炉 中央に位置する。径70cmの円形を呈し、皿状に掘りくぼめられた地床炉である。火床面は赤変硬化している。炉石が火床面の南側から縦に二つに割れた状態で出土しており、火床面側の破片は火を受けて赤変している。また、表面が摩耗していることから、石皿として利用された可能性もある。

炉土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ56～61cmで、配置から支柱穴と考えられる。第1層は焼土やロームブロックが含まれることから、柱の抜き取り痕と推定される。P 5は深さ18cmで、南壁際中央に位置し、P 6は深さ42cmで、北壁際の中央に位置していることから、棟持柱の柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

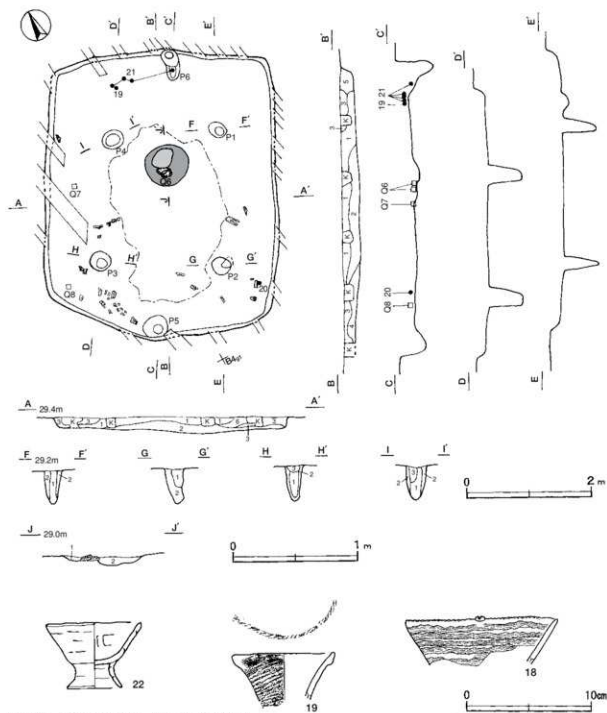
覆土 6層からなる。炭化物を多く含み、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

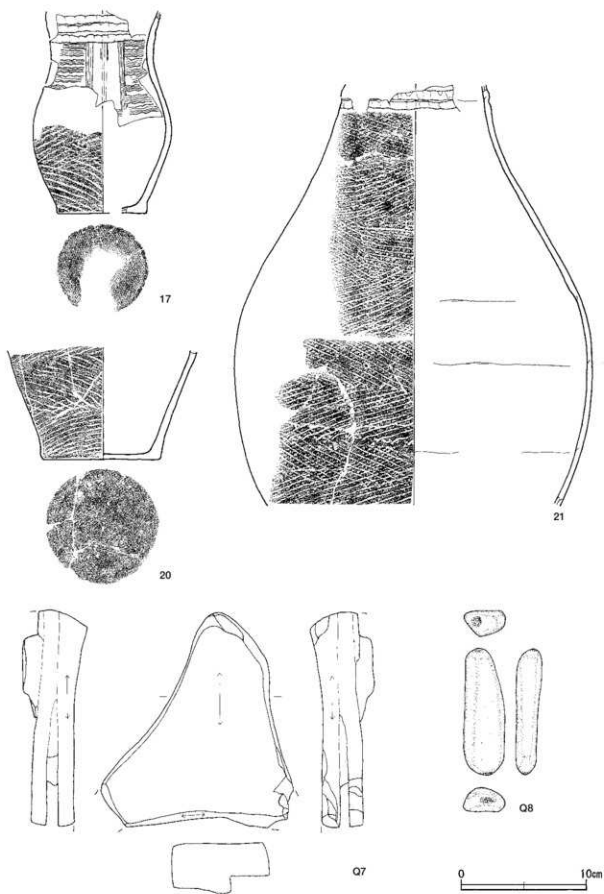
1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子微量
2 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 5 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 6 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片81点（壺、ミニチュア土器）、石製品3点（砥石、磨石、燧石）のほか、混入した土師器片53点（高坏1、甕類52）須恵器片5点（坏類3、蓋1、高盤1）も出土している。19は北壁際の覆土下層、21は北壁際の床面とP 6の覆土上層からの破片が接合した資料である。20は南東コーナー部の覆土下層、Q 6は炉床、Q 7は西壁寄りの床面、Q 8は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土し、廃絶時に廃棄されたものと考えられ、時期判断の指標となる遺物である。

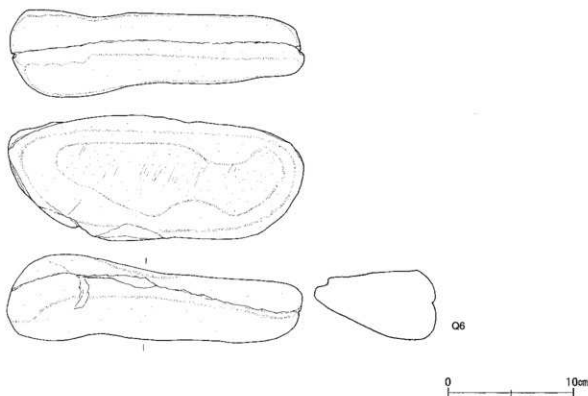
所見 炭化材が出土していることから、焼失したものと考えられる。時期は、出土土器から弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



第30図 第72号住居跡・出土遺物実測図



第31图 第72号住居跡出土遺物実測図(1)



第32図 第72号住居跡出土遺物実測図②

第72号住居跡出土遺物観察表（第30～32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文種及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
17	弥生土器	壺	-	(162)	7.2	胴部、押圧のある碇帯3本 胴上部、輪歯状工具(5本)による縦位区画は13条を単位として3分割し、区画内に波状文 胴下部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文 底部帯目痕	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土中	70%
18	弥生土器	広口壺	[12.0]	(39)	-	I形部、へら状工具による斜み、突起部付け I1辺部、輪歯状工具(5本)による波状文	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土中	5%
19	弥生土器	広口壺	[8.0]	(3.8)	-	I1形部、縄文短体の押圧 I1辺部、無節縄文	長石・石英	普通	にぶい橙	下層	5%
20	弥生土器	壺	-	(87)	9.0	胴部、附加条二種(附加1条)の縄文 底部帯目痕	長石・石英	普通	橙	床面	30% 内面炭化物付着
21	弥生土器	壺	-	(33.4)	-	胴部、押圧のある碇帯2本 胴部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文	長石・石英・微塵	普通	にぶい黒	床面	20% 外面炭化物付着
22	弥生土器	にがや土器	7.4	5.2	4.4	環部、輪歯み痕を残すナデ 内面へらナデ	長石・石英	普通	橙	覆土中	40% PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	礫石	23.7	10.0	6.9	2000.4	安山岩	焼熱による赤変、長径方向に割れている	炉床	
Q7	礫石	(17.1)	(15.4)	(5.3)	(883.1)	凝灰岩	紙面4面、一部欠損	床面	
Q8	礫石	10.0	3.3	2.0	103.7	砂岩	敲打痕両端部	下層	

第73号住居跡（第33～35図）

位置 調査区北部のB 3c7区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.9m、短軸4.3mの隅丸長方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は25～30cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、目立った硬化面はない。

炉 北寄りに設けられ、一部攪乱で破壊されているが、長径80cm、短径60cmの楕円形と推定され、皿状に掘

りくほめられた地床型である。火床面は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 2 暗褐色 炭化物中量, ローム粒子・焼土粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ55～68cmで、配置から支柱穴と考えられる。第1層は締りが比較的弱い暗褐色土で、柱の抜き取り痕と推定される。第2・3層は締りが強く、埋土と考えられる。P5は深さ31cmで、南壁際中央に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

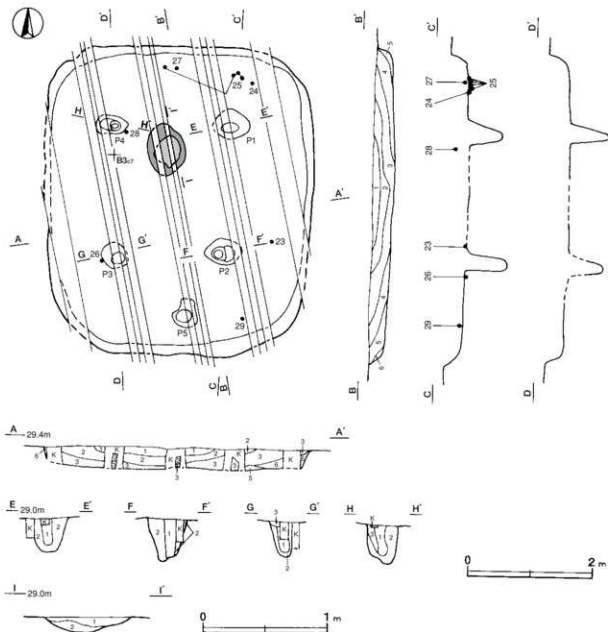
ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・産沼バミス粒子微量 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 に近い黄褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・産沼バミス粒子微量

覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

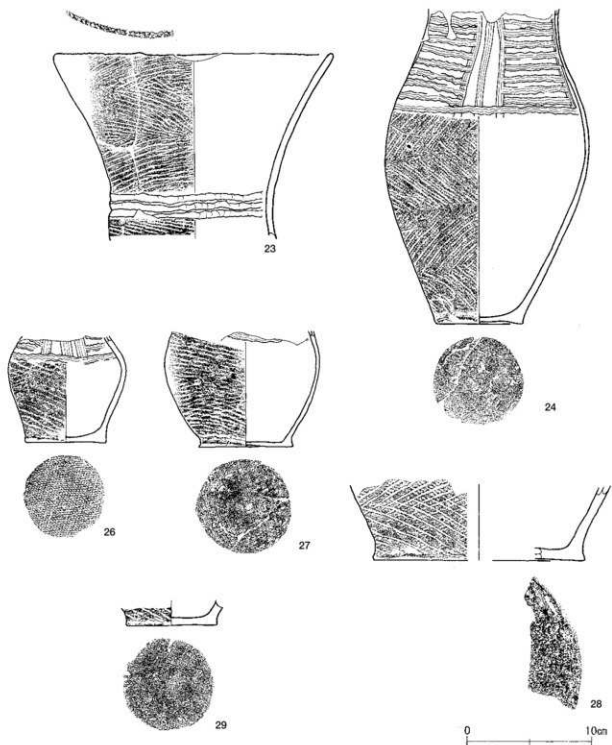
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 5 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量 6 に近い黄褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量



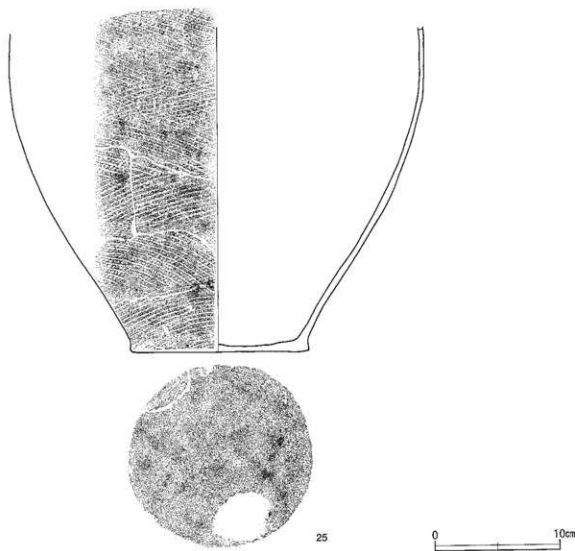
第33図 第73号住居跡実測図

遺物出土状況 弥生土器片26点(壺)のほか、混入した縄文土器片53点、須恵器片1点(坏類)、陶器片1点(不明)も出土している。23は東壁寄りの床面、24は北東コーナー部の床面からいずれも横位で出土し、25は北壁寄りの床面に破片が散在した状態で出土している。又、27は北壁寄りの床面、26は西壁寄りの床面からいずれも正位で出土し、29は南壁寄りの覆土下層からの出土であり、いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられ、時期判断の指標となる遺物である。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)と考えられる。



第34図 第73号住居跡出土遺物実測図(1)



第35図 第73号住居跡出土遺物実測図(2)

第73号住居跡出土遺物観察表 (第34・35図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
23	弥生土器	広口壺	22.0	(14.8)	—	口唇部、縄文原体の押圧。口辺部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文。底部、押圧のある底い、残部3本。胴上部、附加条二種(附加1条)の縄文。	長石・石英・赤色砂子	普通	にぶい黄橙	床面	30%
24	弥生土器	壺	—	(25.2)	7.1	胴上部、櫛歯状工具(4本)による縦位区画は3条を単位として3分割し、区画内に波状文。胴部、附加条二種(附加2条)の羽状縄文。底部布目痕。	長石・石英	普通	にぶい、黒	床面	70% PL.26
25	弥生土器	壺	—	(26.0)	14.4	胴部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文。底部碎粒付着。	長石・石英	普通	浅黄橙	床面	40% 破断面準蔵
26	弥生土器	壺	—	(8.4)	6.4	胴上部、櫛歯状工具(5本)による縦位区画は3条を単位として3分割し、区画内に波状文。胴部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文。底部布目痕。	長石・石英	普通	にぶい黄橙	床面	80% 外面炭化物付着
27	弥生土器	壺	—	(9.2)	7.6	胴上部、櫛歯状工具による波状文。胴部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文。底部布目痕。	長石・石英	普通	にぶい黄橙	床面	45% 外面炭化物付着
28	弥生土器	壺	—	(6.0)	[16.8]	胴部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文。底部碎粒付着。	長石・石英・赤色砂子	普通	にぶい黄橙	下層	5%
29	弥生土器	壺	—	(11.8)	7.2	胴部、附加条二種(附加1条)の縄文。底部布目痕。	長石・石英	普通	橙	下層	5% 外面炭化物付着

第74号住居跡 (第36・37図)

位置 調査区北部のA3j4区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外に延びているため全容は不明である。南北4.3m、東西4.3mが確認され、長方形と推定される。主軸方向はN-30°-Wであり、壁高は22~25cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

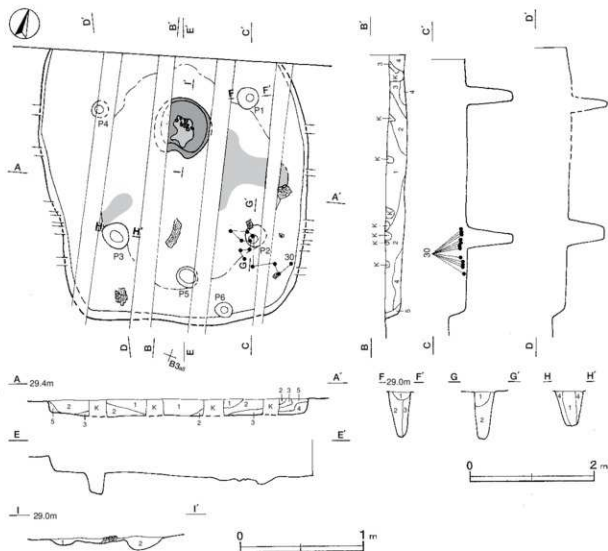
床 はほぼ平坦で、中央部が広範囲に踏み固められている。炭化材が南側に散在しており、東側と西側の一部は赤変している。

炉 北寄りに位置し、擾乱で破壊されているため規模は不明である。長径90cm、短径60cmが確認でき、楕円形と推定される。平らに掘りくぼめられた地床炉で、火床面は赤変硬化しており、炭化材が堆積している。

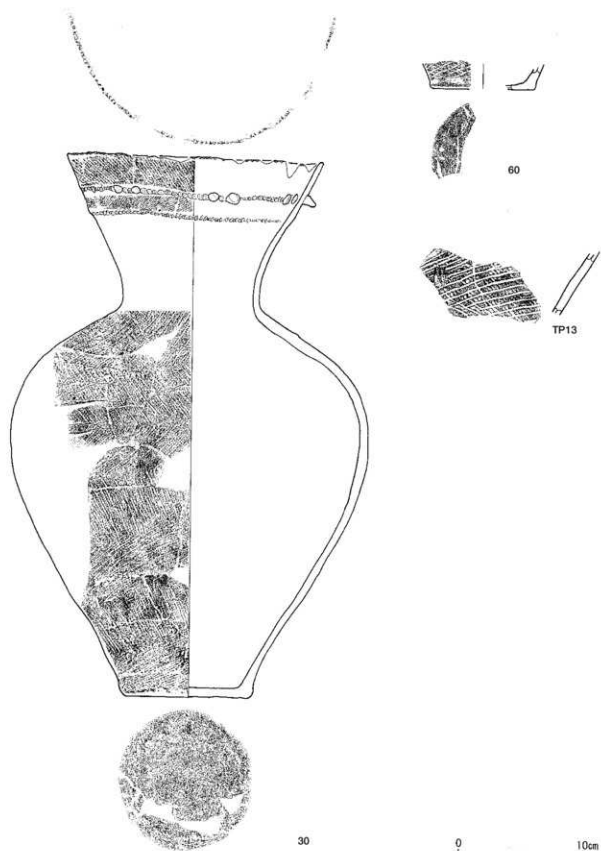
炉土層解説

- 1 黒色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量

ピット 6か所。P1~P4は深さ58~74cmで、配置から主柱穴と考えられる。第2層は締りが比較的弱い黒褐色土で、柱の抜き取り痕と推定される。P5は深さ31cmで、南壁際中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。



第36図 第74号住居跡実測図



第37图 第74号住居跡出土遺物実測図

ピット土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 4 に近い黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

覆土 5層からなる。覆土全体に焼土や炭化物が含まれることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック 少量 3 褐 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
微量 4 暗 褐色 炭化物中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 褐 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 5 褐 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片144点（壺）のほか、混入した縄文土器片1点、土師器片7点（甕類）、須恵器片15点（坏類6、甕類9）も出土している。30はP2付近の床面から破片で集中して出土し、廃絶時に廃棄されたものと考えられ、時期判断の指標となる遺物である。

所見 床面に赤変部が見られることや炭化材が散在していることなどから、焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。

第74号住居跡出土遺物観察表（第37図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
30	弥生土器	広口壺	20.5	43.2	10.5	1) 肩部、縄文瓦体による刻み、1) 辺部、附加条一種（附加条2）の縄文、下部に縄文瓦体による刻み、無文、無文、附加条一種（附加条1）の羽状縄文、底部砂粒付着	長石・石英	普通	明赤褐	床面	70% PL24
60	弥生土器	広口壺	-	(21)	[8.2]	附加条二種（附加条1）の縄文、底部本葉痕	長石・微塵	普通	褐色	覆土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP13	弥生土器	壺	-	(5.2)	-	附加条二種（附加条1）の羽状縄文	長石・石英	普通	に近い黄橙	覆土中	

第76号住居跡（第38・39図）

位置 調査区北部のB3g7区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.0m、短軸4.2mの長方形で、主軸方向はN-35°-Eである。壁高は12~30cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入り口付近から中央部が踏み固められている。

炉 中央部やや北寄りに設けられ、長径60cm、短径56cmの不整形円形を呈し、皿状に掘りくまめられた地床炉である。火床面は赤変硬化している。炉の覆土から砥石が出土しているが、火を受けて赤変していることから、砥石として使用された可能性がある。

炉土層解説

- 1 暗 赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量 3 に近い赤褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 に近い赤褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 5か所。P1~P4は深さ32~52cmほどで配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ17cmで、南壁際のほぼ中央に位置し、周辺の床面が硬化していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

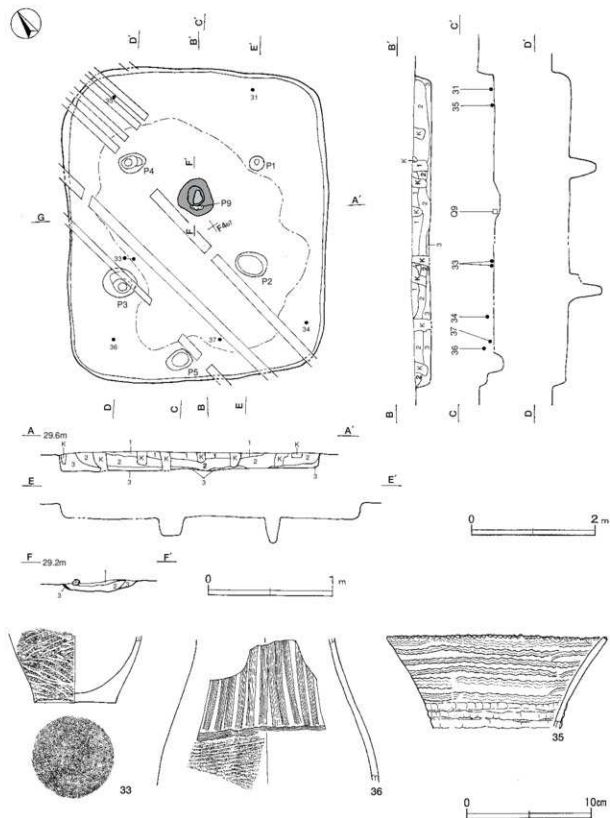
土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 3 に近い黄褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量

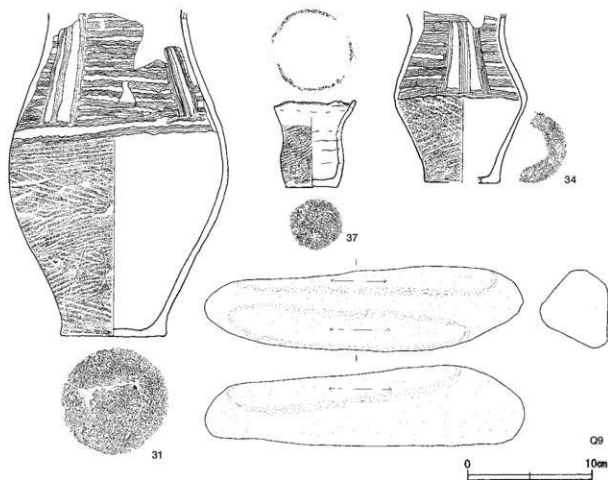
遺物出土状況 弥生土器片108点（壺）、石製品1点（砥石）のほか、混入した縄文土器片1点、土師器片5点（坏類2、甕類3）、須恵器片4点（坏類3、甕類1）も出土している。31は北壁寄りの床面、35は北コーナー

部の床面, 33は西壁寄りの覆上下層からそれぞれ出土し, 廃絶時に遺棄されたものと考えられ, 時期判断の指標となる遺物である。34は南コーナー部, 36は西コーナー部, 37は南壁寄りの覆上下層からそれぞれ出土し, 埋没途中に廃棄されたものと考えられる。また, Q9は和床から出土している。

所見 時期は, 出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)と考えられる。



第38図 第76号住居跡・出土遺物実測図



第39図 第76号住居跡出土遺物実測図

第76号住居跡出土遺物観察表 (第38・39図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
31	弥生土器	壺	-	(26.1)	8.3	胴上部、櫛歯状工具(5本)による縦位区画は3条を単位として3分割し、区内に波状文。胴中央部、波状文による横位区画。胴下部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文。底部布目肌。	長石・赤色砂子	普通	にじみ・橙	床面～中	50% PL24 外面上部、内面下部灰化物付着
33	弥生土器	壺	-	(5.4)	6.6	胴部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文。底部布目肌。	長石・石英	普通	にじみ・黄橙	下層	10% 内面灰化物付着
34	弥生土器	小形壺	-	(13.5)	[6.1]	胴上部、櫛歯状工具(5本)による縦位区画は3条を単位として3分割し、区内に波状文。胴下部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文。底部布目肌。	長石・赤色砂子	普通	にじみ・橙	床面	70% PL25
35	弥生土器	壺	17.5	(7.4)	-	1口唇部、へう状工具による斜入、突起取り付14小片。1口唇部、櫛歯状工具による波状文。1口唇部下端、押圧のある隆帯3本。	長石・石英	普通	にじみ・褐	床面	20% 外面僅付着
36	弥生土器	壺	-	(11.6)	-	胴上部、櫛歯状工具による縦位の櫛歯文。胴中央部、波状文による横位区画。胴下部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文。	長石・石英	普通	にじみ・黄橙	下層	10% 外面僅付着 SI77.P41と同一個体
37	弥生土器	コップ状器	6.4	6.9	4.1	1口唇部、へう状工具による斜入、突起取り付12小片。1口唇部、輪郭み直を残すナデ。胴部、無節縄文。底部布目肌。	長石・石英・雲母	普通	橙	床面	95% PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q9	卵石	25.5	6.7	6.4	13290	砂岩	被熱による赤変	卵床	

第77号住居跡 (第40・41図)

位置 調査区北部のB3h8区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.4m、短軸3.1mの隅丸方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁高は14~20cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、P3と炉の間が踏み固められている。

炉 中央部に設けられ、長径50cm、短径30cmの不整楕円形を呈し、くぼみのない地床炉である。火床面は硬化しているが、目立った赤変は見られない。

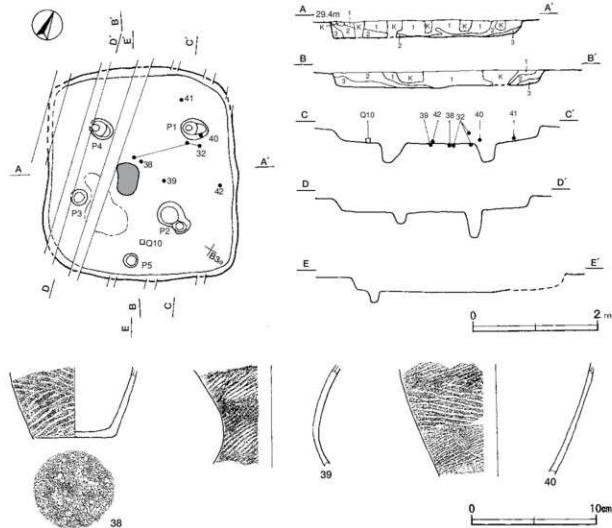
ピット 5か所。P1~P4は深さ32~52cmで配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ17cmで、南壁際のほぼ中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

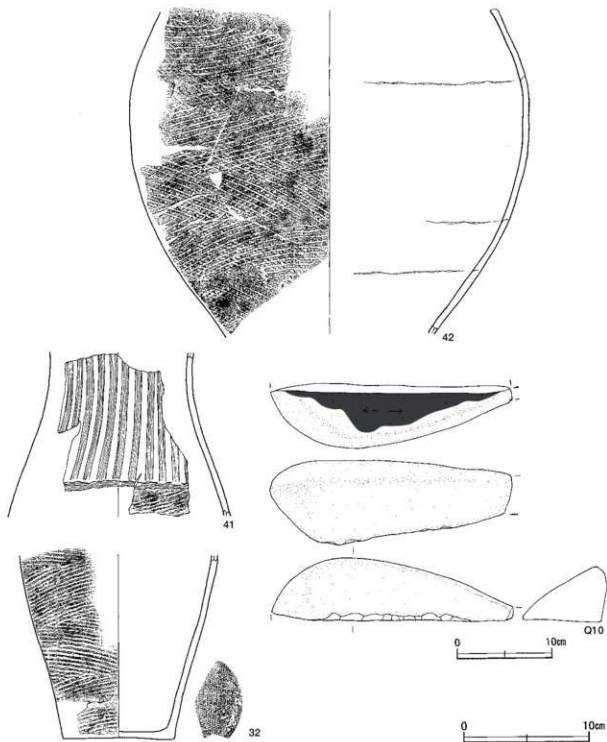
- | | | | | | |
|-----|----|---------------------|-----|----|----------------|
| 1 層 | 褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量 | 3 層 | 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 層 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | | | |

遺物出土状況 弥生土器片68点(壺)、石製品1点(炉石)のほか、混入した土師器片1点(甕類)、須恵器片1点(甕類)も出土している。38・39は中央部の床面、40・41は北コーナー部の覆土下層、42は東壁寄りの床面から破片でそれぞれ出土し、埋没途中に廃棄されたものと考えられる。また、Q10は南壁寄りの覆土下層から出土している。



第40図 第77号住居跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられ、形の様相から短期間で廃絶された可能性がある。



第41図 第77号住居跡出土遺物実測図

第77号住居跡出土遺物観察表（第40・41図）

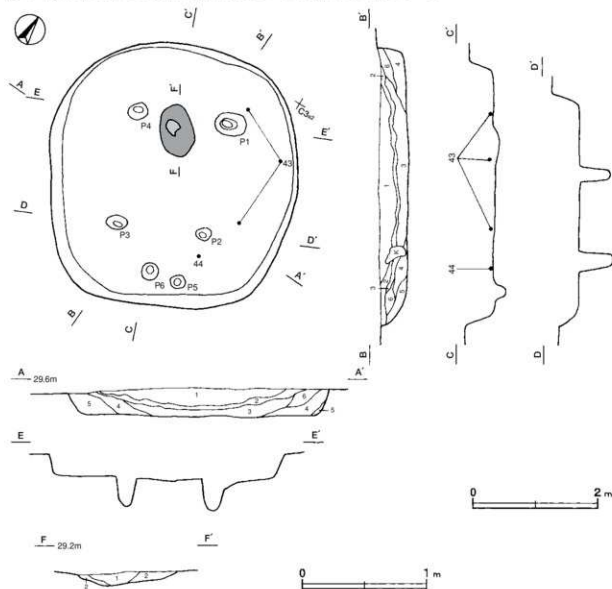
番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
32	弥生土器	壺	-	(147)	9.0	胴部附加糸二種(附加1条)の羽状縄文 底部布目肌	長石・微礫	普通	にぶ・橙	底面	25% 外面上部腐 内面下部灰化物 付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
38	弥生土器	壺	-	(5.6)	6.6	胴部,附加条二種(附加1条)の羽状縄文 底部布目紋	長石・赤色粒子	普通	橙	床面	15%
39	弥生土器	壺	-	(8.1)	-	胴部,無節縄文 内底,輪積みを残すナデ	長石・石英・赤色粒子	普通	にじみ黄橙	床面	20%
40	弥生土器	壺	-	(8.8)	-	胴部,附加条二種(附加1条)の縄文	長石・石英	普通	橙	下層	25%
41	弥生土器	壺	-	(13.1)	-	胴上部,櫛歯状工具による縦位の櫛歯文 胴中央部,波状文による横位区画 胴下部, 附加条二種(附加1条)の羽状縄文	長石・石英	普通	にじみ黄橙	下層	10% SI76,P36と 同一個体
42	弥生土器	壺	-	(26.0)	-	胴部,附加条二種(附加1条)の羽状縄文	長石・石英・赤色粒子	普通	にじみ黄	床面	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	礫石	(25.3)	(8.9)	(6.9)	(1446.2)	砂岩	砥石(砥面1面)を転用,被熱による赤変	南部下層	煤付着

第78号住居跡 (第42・43図)

位置 調査区中央部のC3a1区,標高29mほどの平坦な台地上に位置している。



第42図 第78号住居跡実測図

規模と形状 長軸4.2m，短軸3.9mの隅丸方形で，主軸方向はN-30°-Wである。壁高は34~46cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で，目立った硬化面はない。

炉 やや北寄りに設けられ，長径85cm，短径55cmの楕円形を呈し，皿状にくぼんだ地床炉である。火床面は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 6か所。P1~P4は深さ47~59cmで，配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は深さ20cmで，南壁際のほほ中央に位置していることから，いずれかが出入り口施設に伴うピットと考えられる。

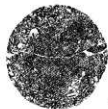
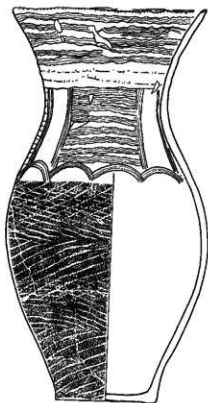
覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
- 5 褐 色 ローム粒子少量
- 6 褐 色 ローム粒子少量

遺物出土状況 弥生土器片61点(壺)のほか，混入した縄文土器片1点，土師器片23点(坏類5，高坏2，甕類16)，須恵器片9点(坏類6，蓋1，甕類2)も出土している。43は東壁寄りの床面に破片で点在した状態で出土している。また，44は南壁寄りの床面から出土し，廃絶時に廃棄されたものと考えられ，時期判断の指標となる遺物である。

所見 時期は，住居の規模や主軸方向，出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)と考えられる。



43



44



第43図 第78号住居跡出土遺物実測図

第78号住居跡出土遺物観察表 (第43図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
44	弥生土器	高坏	-	(5.1)	(6.3)	脚部外面，丁寧なテ内面，輪積み痕を残すナテ	長石・石英	普通	にじみ・黄橙	床面	20%
43	弥生土器	底1壺	15.4	31.7	8.0	1) 唇部，ヘラ状工具による磨み 1) 脚部，輪積み状工具(4本)による波状文，下部に押圧のある低い発帯3本 胴上部，輪積み状工具による縦位区画は2条を単位として4分割し，区画内に波状文，胴中央部，底孤立による縦位区画，脚下部附加条二條(附加1条)の羽状磯文 底部布目痕	長石・石英・赤色粒子	普通	にじみ・橙	床面	85% PL24

第80号住居跡 (第44~46図)

位置 調査区中央部のC3d2区，標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第79号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.6m、短軸3.5mの隅丸方形で、主軸方向はN-36°-Wである。壁高は28~35cmで、北壁は直に立ち上がり、その他の壁は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、出入り口付近から炉の南側にかけて踏み固められている。

炉 やや北寄りに位置する。長径80cm、短径70cmの不整楕円形を呈し、皿状にくぼんだ地床炉である。火床面は炉の北寄りにみられ、赤変色している。炉石が火床面の南側に二つに割れた状態で出土しており、表面は火を受けて赤変している。また、表面が摩耗して平滑になっていることから砥石として使用された可能性がある。

炉土層解説

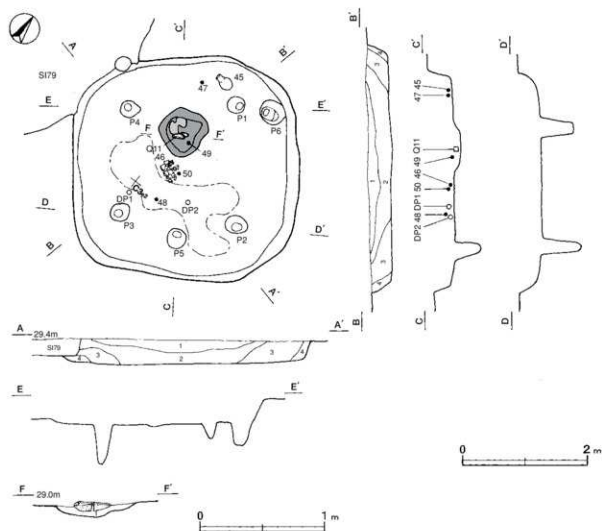
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量

ピット 6か所。P1~P4は深さ26~64cmで、配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ44cmほどで、南壁側のほぼ中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ41cmで北東部壁際に位置しているが、性格については不明である。

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

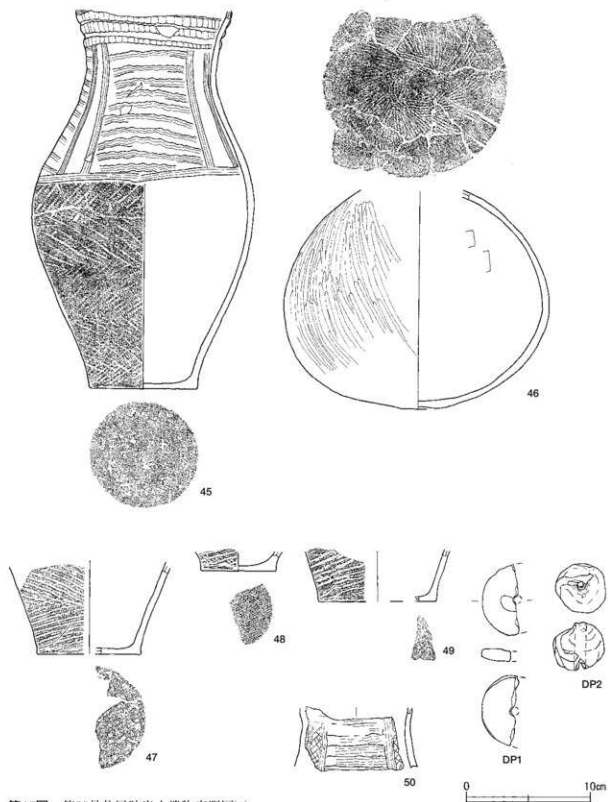
- 1 黒色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 明褐色 ロームブロック少量



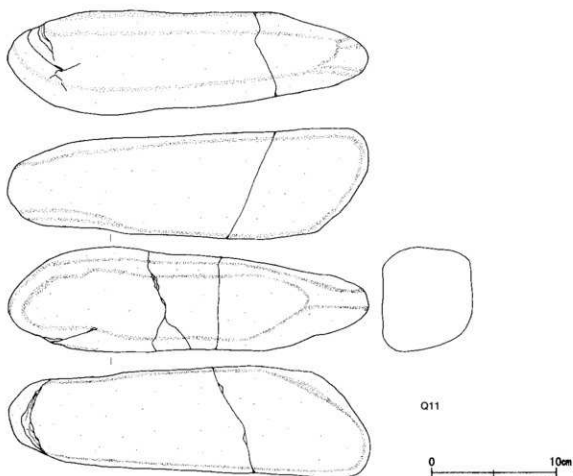
第44図 第80号住居跡実測図

遺物出土状況 弥生土器片53点(甕), 土製品2点(紡錘車, 球状土錘), 石製品1点(炉石)のほか, 混入した縄文土器片2点, 土師器片55点(甕類)も出土している。45は北壁寄りの床面, 46は中央部の床面からつぶれた様な状態で出土し, 廃絶時に遺棄されたものと考えられ, 時期判断の指標となる遺物である。

所見 時期は, 出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)と考えられる。



第45図 第80号住居跡出土遺物実測図(1)



第46図 第80号住居跡出土遺物実測図(2)

第80号住居跡出土遺物観察表 (第45・46図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底徑	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
45	弥生土器	壺	-	(30.3)	8.6	胴部,棒状工具による押圧のある隆帯3本 胴上部,瓣面状工具(4本)による縦位 区画は2条を単位に4分割し,区画内に波 状文 胴中央部,瓣面状工具に2角横位 区画 胴下部,附加条二種(附加1条)の 羽状縄文 底部砂粒付着	長石・石英 赤色粒子	普通	灰黄褐色	床面	75% PL25 内・外面 灰化物付着
46	土師器	壺	-	(17.4)	3.1	外部外面,へう増し 内面,へうナナ 底部内面,放射状のへう増し	長石・石英・ 赤色粒子	普通	にぶい橙	床面	88%
47	弥生土器	壺	-	(7.3)	[8.4]	胴部,附加条二種(附加1条)の羽状縄文 底部布目痕	長石・石英・ 赤色粒子	普通	にぶい橙	床面	10% 内面灰化物付着
48	弥生土器	壺	-	(1.5)	6.0	胴部,附加条二種(附加1条)の羽状縄文 底部布目痕	長石・石英・ 赤色粒子	普通	にぶい黄	床面	5%
49	弥生土器	壺	-	(4.2)	[9.5]	胴部,附加条二種(附加1条)の羽状縄文 底部布目痕	長石・赤色粒子	普通	にぶい橙	砂	5%
50	弥生土器	壺	-	(4.8)	-	胴部,縦位区画は瓣面状工具(4本)により 2条を単位に分割し,区画内に波状文 条 縦面に斜格子文	長石・石英・ 赤色粒子	普通	にぶい黄橙	床面	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	紡錘車	5.7	1.0	0.5	(20.1)	土(長石・石英)	上面・底面ナナ, 側面へう開り, 1/2欠損	下層	
DP2	球状土鉢	4.0	3.9	0.8	(32.9)	土(長石)	ナナ, 一部欠損	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	卵石	28.8	8.4	7.2	2927.0	安山岩	焼熱による赤変	砂床	

第82号住居跡 (第47・48図)

位置 調査区中央部のC3区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第81号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.4m、短軸3.6mの長方形で、主軸方向はN-56°-Wである。壁高は14~20cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。特に、南壁は緩やかに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入り口付近から中央部にかけての広範囲が踏み固められている。

炉 やや北寄りに位置し、径50~60cmの不定形で、わずかにくぼんだ地床炉である。火床面は赤変硬化している。

土層解説

1 赤黒色 焼土ブロック・炭化粒子中量

2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

ピット 7か所。P1~P4は深さ39~55cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ33cmで、南東壁際のほぼ中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7の性格は不明である。

覆土 10層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒色 ローム粒子少量

2 黒色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量

5 黒色 ロームブロック微量

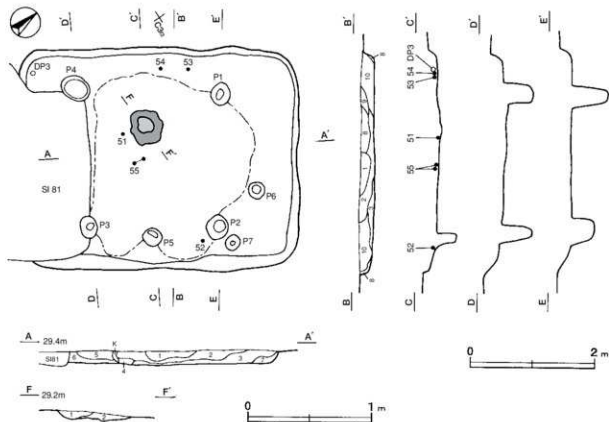
6 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

7 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

9 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

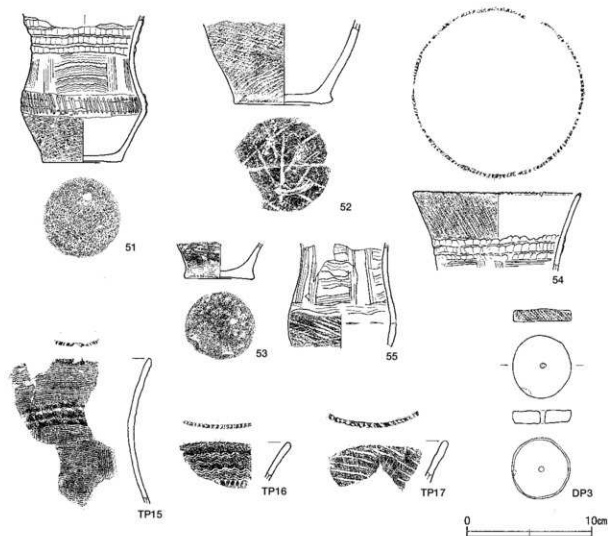
10 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第47図 第82号住居跡実測図

遺物出土状況 弥生土器片47点(壺), 石器1点(磨石), 土製品1点(紡錘車)のほか, 混入した縄文土器片1点, 土師器片22点(坏類6, 甕類16)も出土している。51は中央部の床面, 52は東壁寄りの覆土下層, DP3は西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土し, 廃絶時に廃棄されたものと考えられ, 時期判断の指標となる遺物である。

所見 時期は, 出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)と考えられる。



第48図 第82号住居跡出土遺物実測図

第82号住居跡出土遺物観察表(第48図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
51	弥生土器	小形壺	-	(11.8)	6.8	胴部, 押圧のある隆帯4本 胴上部, 輪面状工具(5本)による縦位区画は2条を単位に4分割し, 区画内に流状文 胴中央部, へら状工具による斜みのある隆帯3本 胴下部, 附加条二種(附加1条)の縄文 底部砂粒付着	長石・石英	普通	灰褐色	床面	85% PL30
52	弥生土器	壺	-	(6.8)	7.9	胴部, 附加条二種(附加1条)の羽状縄文 底部本葉煎	長石・石英	普通	明赤褐色	下層	25% 内面灰化物付着
53	弥生土器	小形壺	-	(2.8)	5.4	胴部, 附加条二種(附加1条)の縄文 底部斜目肌	長石・石英・赤色砂子	普通	にぶい赤褐色	下層	5%
54	弥生土器	壺	13.4	(6.2)	-	口唇部, へら状工具による斜み 口肩部, 附加条一種(附加2条)の縄文 下層に押圧のある隆帯3本 胴上部, 輪面状工具(5本)による2条を単位に縦位区画し, 区画内に流状文	長石・石英	普通	にぶい赤褐色	床面	15%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
55	弥生土器	甕	-	(82)	-	胴部、瓣面状工具(4本)による縦位区画は2条を単位に4分割し、区画内に波状文、胴部、附加条二種(附加1条)の羽状文	長石・石英	普通	にぶい赤褐色	床面	40% 内面輪値痕

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP15	弥生土器	甕	-	(116)	-	11唇部、突起彫り付け 11辺部、瓣面状工具(5本)による波状文 胴部、ヘラ状工具による割みのある縦位・隆帯3本 胴上部、縦位区画内に波状文	長石・石英	普通	橙	下層	
TP16	弥生土器	甕	-	(32)	-	11唇部、ヘラ状工具による割み 11辺部、瓣面状工具(5本)による波状文 下部にヘラ状工具による割みのある隆帯	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土中	
TP17	弥生土器	甕	-	(34)	-	11唇部、棒状工具による割み 11辺部、附加条二種(附加1条)の縦文、洗練による斜格子文	長石・石英	普通	黒	床面	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP3	鉄締車	4.9	1.1	0.4	32.2	土(長石・石英)	上面・底面ナデ 側面附加条一種(附加2条)の縦文	西コーナー下層	PL42

第87号住居跡 (第49・50図)

位置 調査区中央部のD3h6区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.2m、短軸2.9mの隅丸方形で、主軸方向はN-30°-Eである。壁高は5cmで、各壁とも緩やかに外反して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、目立った硬化面はない。

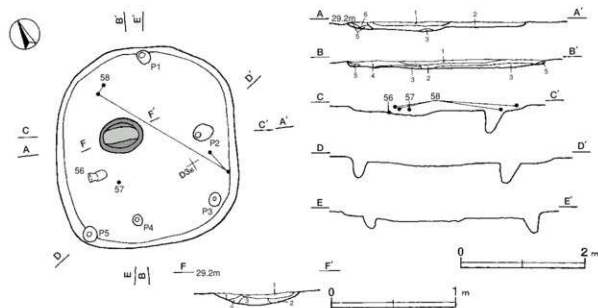
炉 やや西寄りに設けられ、長径70cm、短径54cmほどの楕円形で、皿状にくぼんだ地床炉である。火床面は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤灰色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子微量

- 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量

ピット 5か所。P1・P5は深さ20cmで、壁際に配置されていることから壁柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。



第49図 第87号住居跡実測図

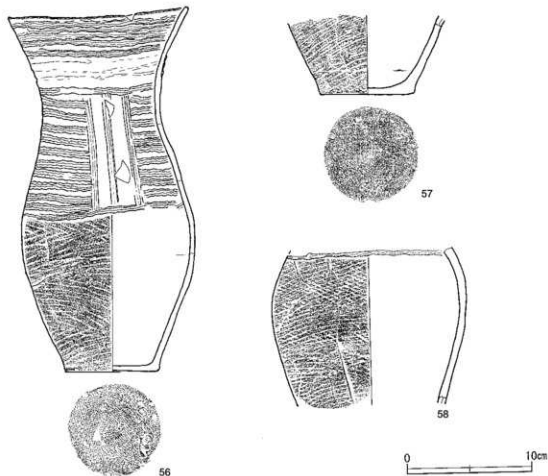
覆土 6層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 弥生土器片98点(壺)が出土している。56は西壁寄りの床面から横位、57は逆位でそれぞれ出土し、廃絶時に廃棄されたものと考えられ、時期判断の指標となる遺物である。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)と考えられる。



第50図 第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表(第50図)

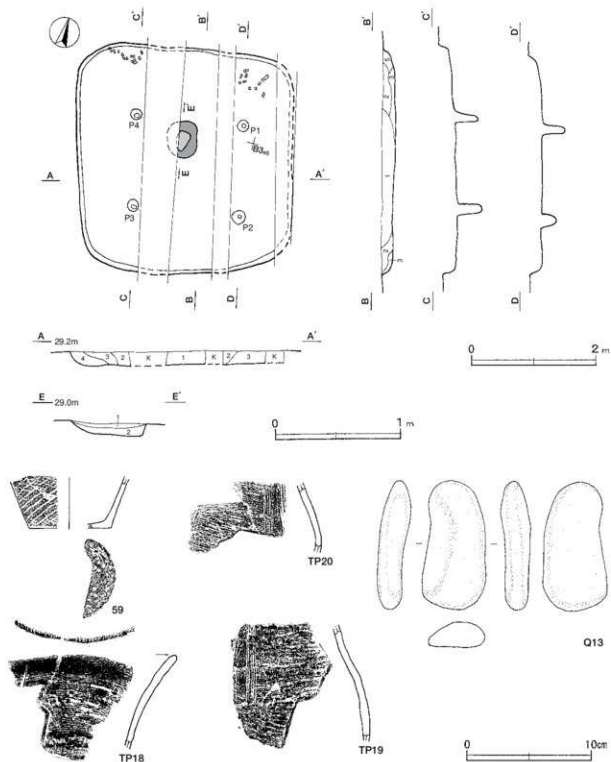
番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
56	弥生土器	広口壺	14.1	20.2	7.5	口唇部、へら状工具による削み 口辺部、輪面状工具(4本)による波状文 下端に、深い押圧のある狭い帯状文 胴部上端、波状文 胴上部、輪面状工具による縦位区画は3条を単位に4分割し、区画内に波状文 下端に波状文による横位区画 胴下部、附加条二種(附加1条)の羽状縄文 底部布目痕	長石・石英	普通	にぶ・橙	床面	65% Pl.25
57	弥生土器	壺	-	(6.2)	7.6	胴部、附加条二種(附加1条)の縄文 底部布目痕	長石・石英	普通	にぶ・褐	床面	15% 内面酸化物付着
58	弥生土器	壺	-	(12.5)	-	胴部、附加条二種(附加1条)の縄文 底部布目痕	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶ・褐	床面	20% 外面腐着

第89号住居跡 (第51図)

位置 調査区北部のB 3 e4区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東壁が掘乱によって破壊されているが、長軸3.6m、短軸3.5mの隅丸方形と推定される。主軸方向はN-18°-Wである。壁高は12~18cmで、各壁とも緩やかに外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、目立った硬化面はない。北壁のコーナー付近に炭化材が検出されている。



第51図 第89号住居跡・出土遺物実測図

炉 中央に設けられ、攪乱により西側の半分が破壊されているが、長径60cm、短径30cmほどが確認できない整楕円形と推定され、浅くくぼんだ地床炉である。火床面は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 濃い赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化物中量 2 濃い赤褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

ピット 4か所。いずれも深さ24～39cmで、配置から主柱穴と考えられる。

覆土 5層からなる。炭化物や焼土を多く含んでいることから焼失時に堆積した層で、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化材・焼土粒子中量、ローム粒子少量 4 暗褐色 炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子微量 5 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 弥生土器片22点(壺)、石器1点(磨石)が出土している。遺物は焼失直後の埋め戻しの際に廃棄されたものと考えられる。

所見 炭化材が多量に出土していることから、焼失したのと考えられる。時期は、出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)と考えられる。

第89号住居跡出土遺物観察表(第51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成色調	出土位置	備考
59	弥生土器	壺	-	(40)	[66]	胴部、附加条二種(附加1条)の縄文 底部石目肌	長石・石英	普通 濃い赤	覆土中	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様及び手法の特徴	胎土	焼成色調	出土位置	備考
TP18	弥生土器	壺	-	(77)	-	口唇部、ヘラ状工具による筋目 口辺部、櫛歯状工具(日本川)による波状文 下縁に押圧のある隆起3本	長石・石英	普通 濃い赤	覆土中	
TP19	弥生土器	壺	-	(92)	-	胴上部、櫛歯状工具による縦位区画内に波状文 胴下部、附加条二種(附加1条)の縄文	長石・石英	普通 橙	覆土中	
TP20	弥生土器	壺	-	(56)	-	胴上部、櫛歯状工具による縦位区画内に波状文 胴下部、附加条二種(附加1条)の縄文	長石・石英	普通 褐色	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	磨石	10.3	5.1	2.5	162.2	砂岩	全側面を使用	覆土中	

3 弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の遺構と遺物

竪穴住居跡7軒が確認された。

第8号住居跡(第52～55図)

位置 調査区南部のE3d5区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.7m、短軸5.2mの方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁高は34～42cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、主柱穴外側の一部が踏み固められている。

炉 ほぼ中央部に位置し、長径120cm、短径95cmの楕円形である。床面を12cm皿状に掘りくぼめた地床炉で、火床面は赤変硬化している。

炉土層解説

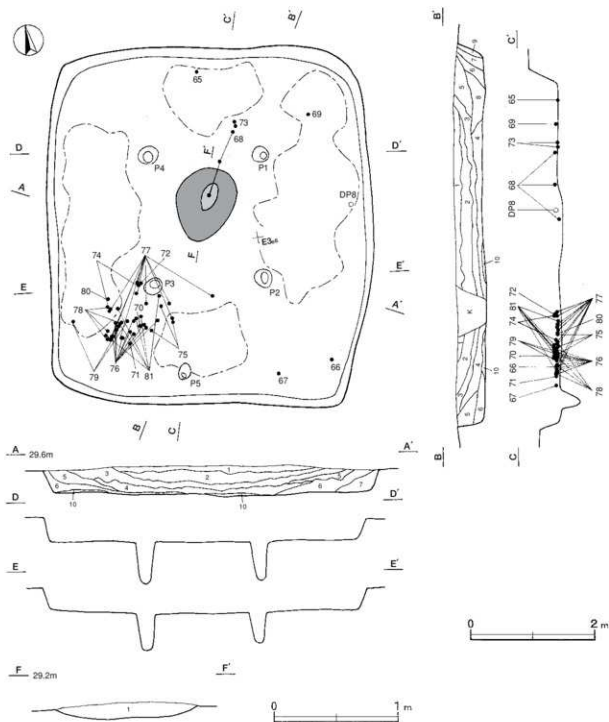
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量

ピット 5か所。P1～P4は深さ48～67cmで、配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ32cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

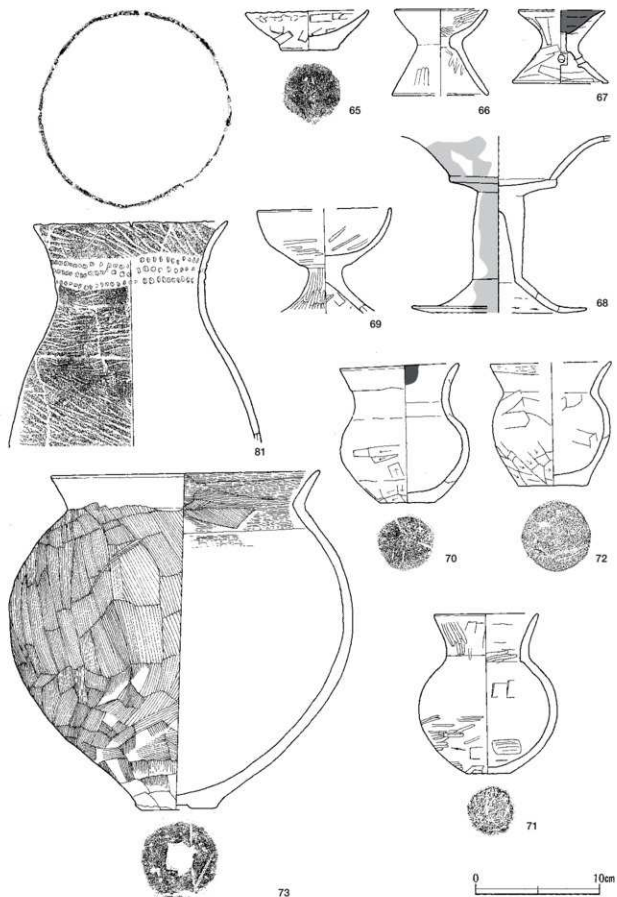
覆土 10層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子中量
3 黒褐色	ロームブロック微量	8 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量	9 褐色	ロームブロック多量
5 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量



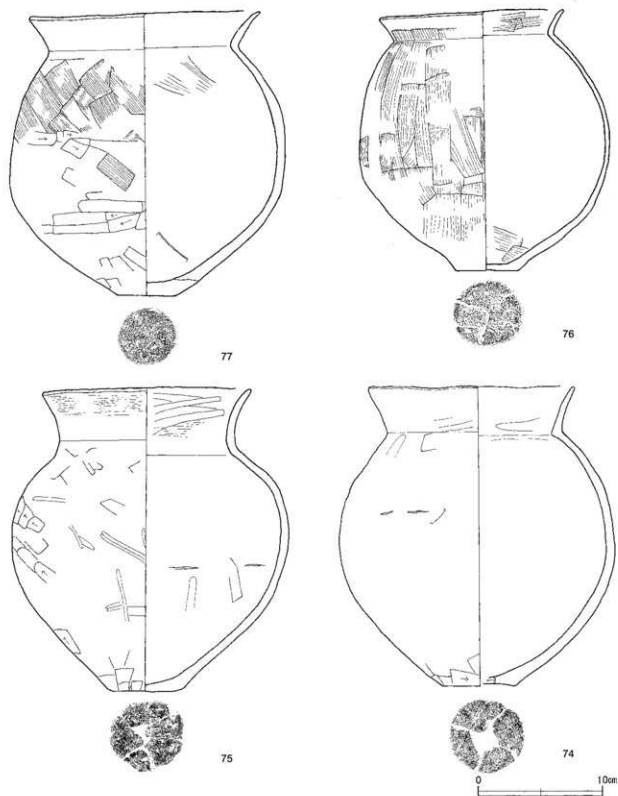
第52図 第8号住居跡実測図



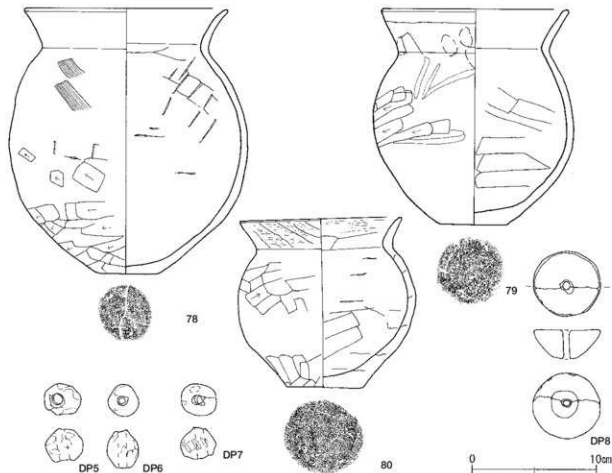
第53图 第8号住居跡出土遺物実測図1)

遺物出土状況 弥生土器片4点(壺類), 土師器片244点(坏類12, 器台2, 高坏14, 甕類216), 土製品4点(球状土錘3, 紡錘車1)のほか, 混入した須恵器片1点(坏類)も出土している。72・74~81は南西コーナー部の床面から集中して出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられ, 時期判定の指標となる遺物である。

所見 時期は, 出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)から古墳時代前期初頭と考えられる。



第54図 第8号住居跡出土遺物実測図(2)



第55図 第8号住居跡出土遺物実測図(3)

第8号住居跡出土遺物観察表(第53~55図)

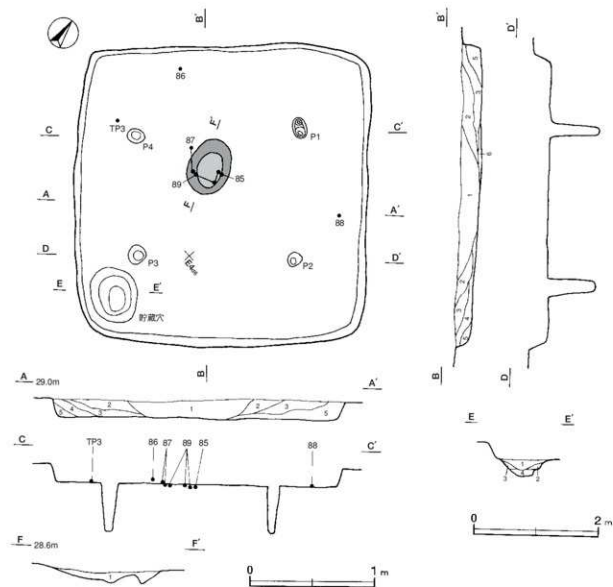
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
81	弥生土器	広口壺	15.4	(17.8)	-	長石・石英	橙	普通	口唇部、縄文原体押圧 口辺部外面附加条二種(附加1条)の縄文 胴上端に3条の斜交文 胴部外面附加条二種(附加1条)の縄文	床面	60% PL26
66	土師器	器台	7.2	6.9	[7.6]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	脚部内面ナデ	床面	70% PL29
67	土師器	器台	[6.8]	5.8	7.6	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部内面ヘラナデ	下層	60%
68	土師器	高坏	-	(14.1)	[14.0]	長石・石英	橙	普通	外面丁寧ナデ、脚部内面ヘラ削り	下層	60% PL29
69	土師器	高坏	[10.6]	(8.4)	-	長石・石英	橙	普通	脚部内面ヘラ削り	下層	70%
70	土師器	壺	9.5	11.1	4.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ削り、底部ナデ	下層	100% PL28 二次焼成外面炭化物付着
71	土師器	壺	8.2	12.7	3.4	長石・石英	浅黄橙	普通	体部内面ヘラナデ、外面下端ヘラ削り	下層	98% PL28
72	土師器	甕	[9.6]	9.9	5.6	長石・石英	灰褐	普通	体部内面ナデ、底部ヘラ削り後ナデ	床面	70% PL26
73	土師器	甕	21	27.0	6.1	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部内面ナデ、底部本葉痕	床面	90% PL26
74	土師器	甕	16.5	24.0	5.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ、底部ヘラ削り	床面	80% PL27
75	土師器	甕	16.4	24.3	6.0	長石・石英	橙	普通	体部外面下端ヘラ削り	床面	80% PL27 外面炭付着
76	土師器	甕	14.8	20.8	5.0	長石・石英	灰白	普通	底部内面ハナ目、外面ヘラ削り	床面	80% PL27 二次焼成
77	土師器	甕	18.4	22.3	4.6	長石・石英	橙	普通	体部内面ヘラ削り後、ハナ目調整	床面	90% PL27 外面炭付着
78	土師器	甕	16	21.2	4.5	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下半部ヘラ削り	床面	80% PL27 外面炭付着
79	土師器	甕	14.6	17.2	5.2	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ、外面ヘラ削り	床面	70% PL27

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
80	土師器	甕	12.6	13.7	6.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ、外面ヘラ削り	床面	70% PL.26
65	土師器	手捏土器	9.8	3.1	4.6	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ、底部ナデ	下層	90%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP5	球状土師	2.9	2.6	0.9	18.1	土(長石)	指頭圧痕を残すナデ、片面穿孔	覆土中	PL.42
DP6	球状土師	2.6	3.0	0.8	16.6	土(長石)	ナデ、片面穿孔	覆土中	PL.42
DP7	球状土師	2.8	2.5	0.8	18.4	土(長石)	ナデ、棒状工具圧痕、片面穿孔	覆土中	PL.42
DP8	棒錘草	5.3	2.4	0.7	30.9	土(長石・雲母)	丁家なナデ	下層	PL.42

第11号住居跡 (第56・57図)

位置 調査区南部のE 4c5区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。



第56図 第11号住居跡実測図

規模と形状 長軸4.8m、短軸4.7mの方形で、主軸方向はN-50°-Wである。壁高は28~32cmで、各壁とも外傾している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認されていない。

炉 中央部の奥壁寄りに位置し、長径90cm、短径69cmの楕円形である。床面を10cm皿状に掘りくぼめた地床形で、火床面は凹凸があり、赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量

貯蔵穴 南西コーナー部に位置し、長径87cm、短径75cmの楕円形で、深さは27cmである。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量 3 褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック少量 4 褐色 ローム粒子少量

ピット 4か所。深さ74~78cmで、配置から支柱穴と考えられる。

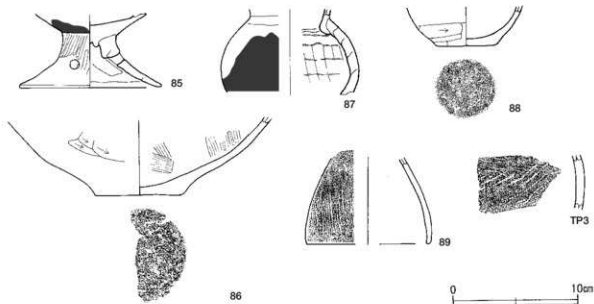
覆土 6層からなり、全体的に締りが無い土層であり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 5 暗褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子・繊維微量 6 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量

遺物出土状況 弥生土器片29点（壺類）、土師器片592点（坏類4、増2、器台2、高環1、甕類583）のほか、混入した須恵器片1点（坏類）、陶器片1点が出土している。86は北壁寄り、88は東壁寄りの床面、TP3は西壁寄りの床面からそれぞれ出土し、廃絶時に廃棄されたものと考えられ、時期判断の指標となる遺物である。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半（十王台式期）から古墳時代前期初頭と考えられる。



第57図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
85	土師器	高環	-	(5.8)	11.2	長石・石英	橙	普通	脚部内面輪積みを残すナデ	床面	70% 外面炭化物付着
86	土師器	壺	-	(6.1)	[7.0]	長石・石英	橙	普通	体部内面荒いハケ目、外面へう割り	床面	10%
87	土師器	壺	-	(7.2)	-	長石・石英	橙	普通	体部内面輪積みを残すナデ	床面	50% 外面炭化物付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
88	土師器	小壺蓋	-	(3.1)	4.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部内面ナデ、底部ヘラ削り後、ナデ	床面	10%
89	土師器	白付蓋	-	(6.9)	(9.8)	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	臀部内面ナデ	床面	10%
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
TP3	弥生土師	壺	-	(4.5)	-	長石・燧石	にぶい黒	普通	胴部附加条二條(附加条)の羽状縄文	床面	5%

第13号住居跡 (第58・59図)

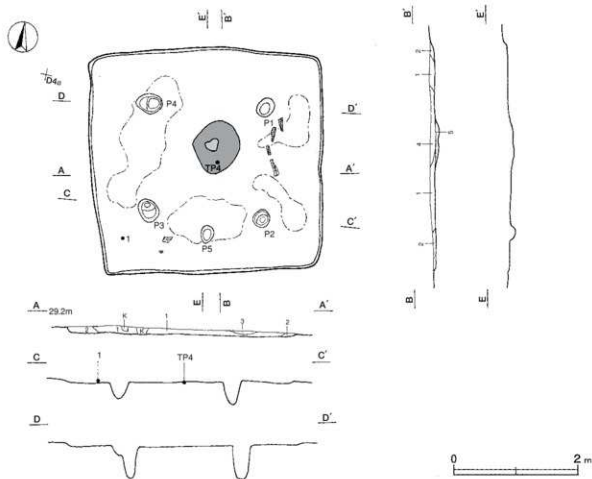
位置 調査区中央部のD413区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.7m、短軸3.6mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は3~6cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、柱穴の周りが踏み固められている。

炉 ほほ中央部に設けられ、長径88cm、短径76cmの不整楕円形を呈し、皿状に掘りくぼめられた地床炉である。火床面は赤変硬化している。

ピット 5か所。P1~P4は深さ30~53cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ11cmで南側中央に位置し、ピット周辺の床面が硬化していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第58図 第13号住居跡実測図

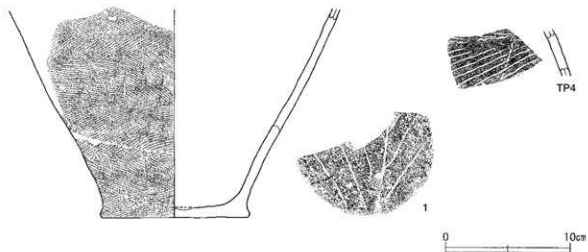
覆土 5層からなる。壁際から流れ込んだ様相を呈していることから自然堆積と考えられる。第5層は砂の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 5 赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック中量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 弥生土器片3点(壺), 土師器片29点(器台2, 甕類27)のほか, 混入した須恵器片1点(坏類)も出土している。遺物の多くが中央部の床面に破片で散在している。また, P1・P2の間から炭化材が出土している。1は南西コーナー部の床面から正位, TP4は中央部の床面から破片で, また, 図示できなかった土師器片は床面から破片で散在して出土し, いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられ, 時期判断の指標となる遺物である。

所見 炭化材や焼土が出土していることから廃絶時に焼失したものと考えられる。時期は, 出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)から古墳時代前期初頭と考えられる。



第59図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表 (第59図)

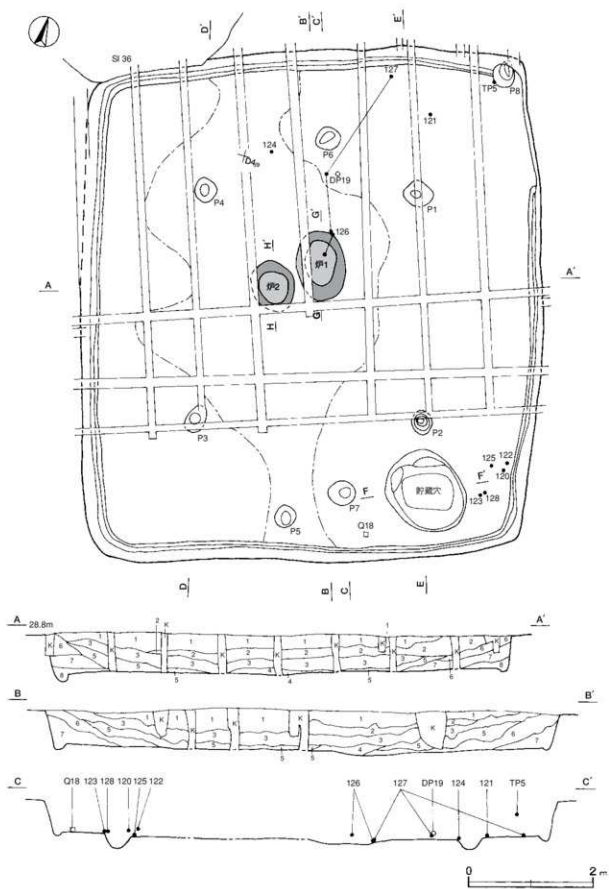
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
1	弥生土器	壺	-	(16.6)	11.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴下部・附加条一種(附加2条)の縄文或部本葉肌	床面	10%
TP4	弥生土器	壺	-	(3.9)	-	長石・石英	黄橙	普通	胴部外面附加条二種(附加1条)の縄文	床面	

第37号住居跡 (第60~62図)

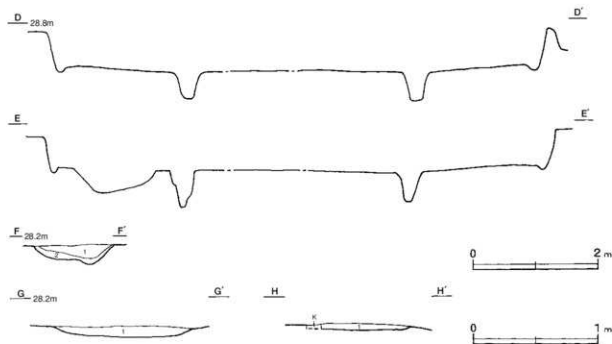
位置 調査区東部のD4j9区, 標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第36号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.1m, 短軸7.4mの方形で, 主軸方向はN-17°-Wである。壁高は50~61cmで, 各壁ともほぼ直立している。



第60图 第37号住居跡実測图(1)



第61図 第37号住居跡実測図(2)

床 はほぼ平坦で、出入口施設から奥壁にかけて硬化し、壁溝がほぼ全周している。

炉 中央部のやや奥壁寄りに炉1、炉2が東西に並んで位置し、炉1は長径110cm、短径80cmの楕円形で、床面を9cm皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉2は長径80cm、短径67cmの楕円形で、床面を6cm皿状に掘りくぼめた地床炉である。いずれも火床面は赤変硬化している。

炉1土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック中量

炉2土層解説

1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量

貯蔵穴 南東コーナー部に位置し、長径132cm、短径124cmの円形で、深さは38cmである。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量

ピット 8か所。P1～P4は深さ41～58cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ21cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6、P7は深さ18cmと24cmであり、配置から棟持柱の柱穴の可能性も想定されるが明確ではない。P8は深さ25cmで性格は不明である。

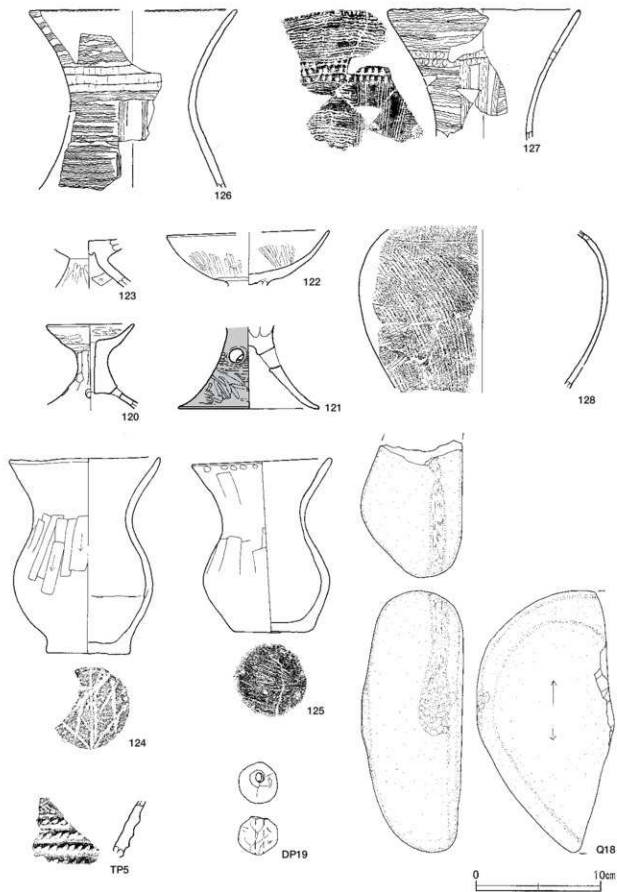
覆土 8層からなり、全体的に締りが無い土層であり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物微量
2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
3 黒褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
4 黒褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック微量

5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
6 暗褐色 ロームブロック微量
7 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
8 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 弥生土器片120点(壺類)、土製品1点(球状土錘)、石製品1点(砥石)のほか、混入した縄文土器片4点、土師器片742点(坏類8、高坏11、壺35、甕類688)、須恵器片73点(坏類51、蓋5、甕類17)、陶器片1点も出土している。遺物の多くが覆土上層から中層を中心にほぼ全面に散在して出土している。120・123・125・128は南東コーナー部の床面に集中して出土し、121・124は北壁寄りの床面、126は炉の上面からそれぞれ出土し、廃絶時に廃棄されたものと考えられ、時期判定の指標となる遺物である。



第62图 第37号住居跡出土遺物実測図

所見 2か所の炉は、いずれも踏み固められておらず、構造や覆土の硬化状況から見て同時に機能していたものと考えられる。炉2は覆土中の焼土含有量が炉1に比べて少なく、規模も小さいことから補助的なものと想定される。時期は、出土土器から弥生時代後期後半（十王台式期）から古墳時代前期初頭と考えられる。

第37号住居跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
126	弥生土器	甕	[16.6]	[14.2]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部へうれみ 口辺部輪南状工具(6本)による波状文 口辺部下端押圧のある隆帯3本・胴上部輪南状工具による2条の縦区画 区画内に波状文	炉上面	10%
127	弥生土器	甕	[15.3]	[10.3]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部へうれみ 口辺部輪南状工具(5本)による波状文 口辺部下端3条の押圧文 胴上部輪南状工具による3条の縦区画 区画内に波状文	床面	10%
129	土師器	器台	7.0	6.6	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	受け部内・外面ナデ、脚部内面ナデ	床面	60%
121	土師器	高坏	-	6.5	11.1	長石・石英	橙	普通	脚部内面ナデ、丸窓3か所	床面	40%
122	土師器	高坏	[12.7]	4.4	-	長石・石英	橙	普通	坏部内・外面へうれみ	下層	40%
123	土師器	高坏	-	3.8	-	長石・石英	橙	普通	脚部内面へうれみ	床面	10%
124	土師器	甕	11.8	15.7	6.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ナデナ、体部内面ナデ	床面	90% PL28
125	土師器	甕	11.0	13.6	5.9	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内面ナデ、口縁部外面指頭による押圧体部内面ナデ	床面	80% PL28
128	土師器	甕	-	[12.7]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体上部輪南状工具(5本)による沈線文 下部へうれみ	床面	10% 外面腐付着

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
TP5	弥生土器	甕	-	(4.5)	-	長石・微塵	にぶい黄褐	普通	口辺部附加条二種(附加1条)の縄文 口辺部下端体状工具による縄文のある隆帯4本	中層	3%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP19	球状土師	3.1	3.0	0.6	27.3	土(長石・石英)	ナデ、片面穿孔	下層	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	磁石	20.8	(16.9)	8.1	(22.02)	5.97・A7	磁面1面、側面に磨打痕	床面	

第49号住居跡（第63・64図）

位置 調査区東部のD5区2区、標高28mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.9m、短軸3.7mの方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は9~25cmで、各壁ともほぼ直立している。

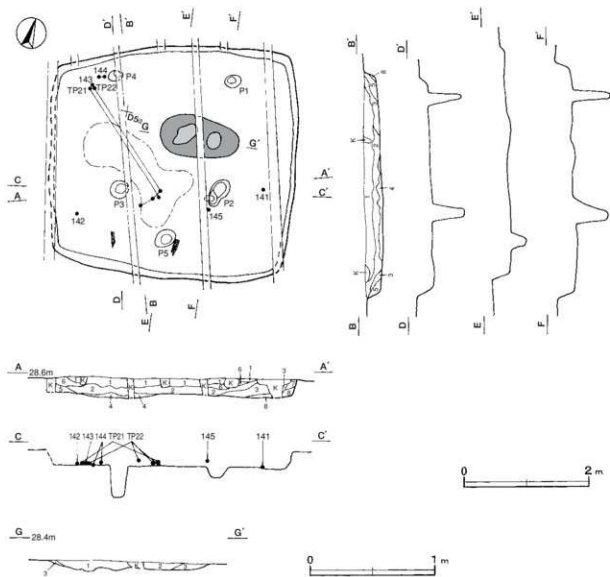
床 ほぼ平坦で、出入り口施設からP3にかけて踏み固められている。

炉 ほぼ中央部に位置し、長径128cm、短径66cmの楕円形である。床面を9cm皿状に掘りくぼめた地床炉で、火床面は2か所あり、いずれも赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1~P4は深さ52~60cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ24cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第63図 第49号住居跡実測図

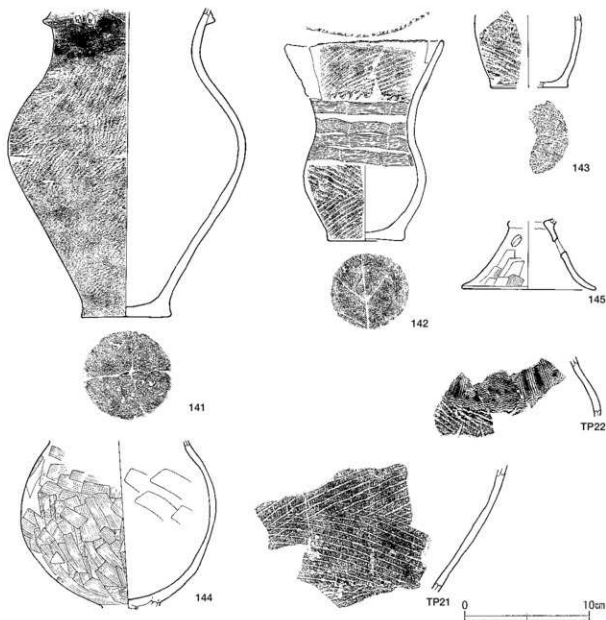
覆土 8層からなり、全体的に締りが無い土層であり、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 7 褐色 | 焼土ブロック微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 | 8 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 弥生土器片51点（壺類），土師器片115点（坏類5，器台1，甕類109）のほか，混入した縄文土器片1点，須恵器片13点（坏類6，甕類7）も出土している。141～144はいずれも壁際の床面から出土し，廃絶時に廃棄されたものと考えられ，時期判定の指標となる遺物である。

所見 時期は，出土土器から弥生時代後期後半（十王台式期）から古墳時代前期初頭と考えられる。



第64図 第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表 (第64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
141	弥生土器	甕	-	(24.6)	7.1	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	口辺部下端2個1組の陥り瘤 頸部無文帯ナア 胴部附加条一種(附加1条)の縄文・結節文 底部特痕	床面	90% PL24 外面露付着
142	弥生土器	甕	12.5	16.0	6.0	長石・石英	明黄褐色	普通	口唇部、縄文原体押圧 口辺部、附加条一種(附加2条)の縄文 口辺部下端、縄文原体による押圧 胴上部、3条の連続文 1条の瘤状文 胴下部、附加条一種(附加2条)の縄文 底部木葉痕	床面	89% PL25
143	弥生土器	甕	-	(5.9)	(6.0)	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	胴部附加条一種(附加1条)の縄文、底部布目痕	床面	10%
144	土師器	台付甕	-	(13.4)	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	体部内面ヘラナデ	床面	70%
145	土師器	器台	-	(5.6)	10.6	長石・石英	橙	普通	胴部内面ナア	下層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
TP2	弥生土器	壺	-	(100)	-	長石・石英・燧石	橙	普通	胴部へケジ型形襷附加条二種(附加1条)の羽状縄文	床面	20%
TP2	弥生土器	壺	-	(48)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	胴上部備前状工具(4本)による縦位区画は3条を単位として分割し、区内に波状文 胴中央部、波状文による横位区画 胴下部、 附加条二種(附加1条)の縄文	床面	10% 外面残存者

第53号住居跡 (第65図)

位置 調査区東部のD 4 e8区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.1m、短軸2.8mの長方形で、主軸方向はN-35°-Eである。壁高は13cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

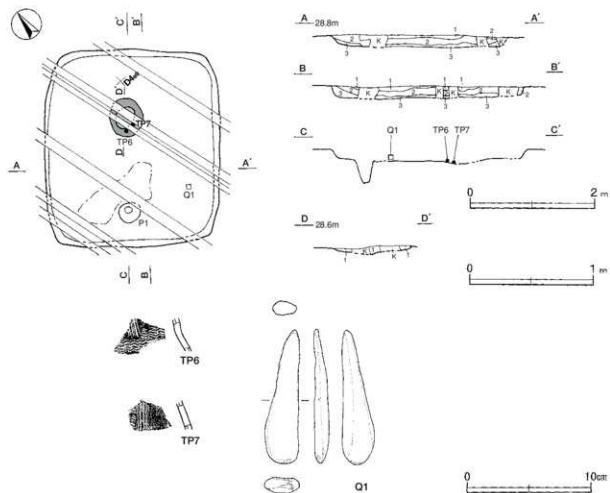
床 はほぼ平坦で、出入り口付近が踏み固められている。

炉 やや北寄りに設けられ、長径62cm、短径54cmの楕円形を呈し、皿状に掘りくぼめられた地床炉である。火床面は赤変硬化している。

伊土層解説

1 黒 褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量

ピット P1は深さ39cmで南側中央に位置し、ピット周辺の床面が硬化していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。



第65図 第53号住居跡・出土遺物実測図

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 3 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 弥生土器片12点（壺）、土師器片18点（甕類）、石器1点（敲石）のほか、混入した須恵器片2点（坏類）も出土している。遺物の多くは覆土上層から破片で出土しており、埋没途中で投棄されたものと考えられる。Q1は南コーナー部の床面、TP6・TP7は和床から破片でそれぞれ出土しており、廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半（十王台式期）から古墳時代前期初頭と考えられる。

第53号住居跡出土遺物観察表（第65図）

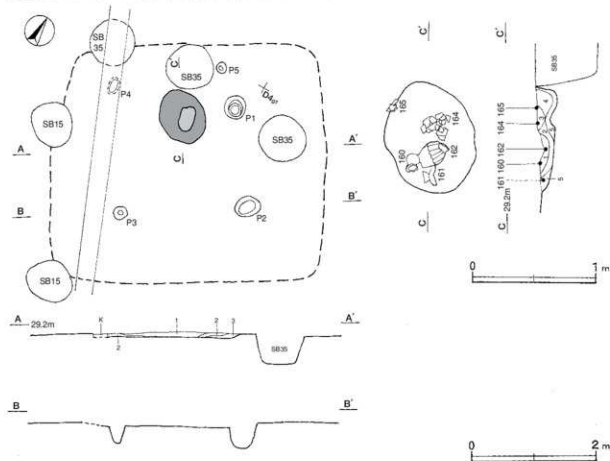
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
TP6	弥生土器	壺	-	(2.8)	-	長石・石英	橙	普通	胴上部、縦位区画は櫛歯状工具(6本)により分割され、区画内に波状文	和床	
TP7	弥生土器	壺	-	(2.3)	-	長石・石英	橙	普通	胴上部、縦位区画は櫛歯状工具(6本)により分割され、区画内に波状文	和床	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	敲石	107	22	1.3	40.5	砂岩	敲打面2面	床面	

第99号住居跡（第66・67図）

位置 調査区中央部のD3g0区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第15号・35号掘立柱建物跡に掘り込まれている。



第66図 第99号住居跡実測図

規模と形状 長軸4.4m、短軸3.8mの長方形と推定され、主軸方向はN-30°-Wである。壁は削平されている。

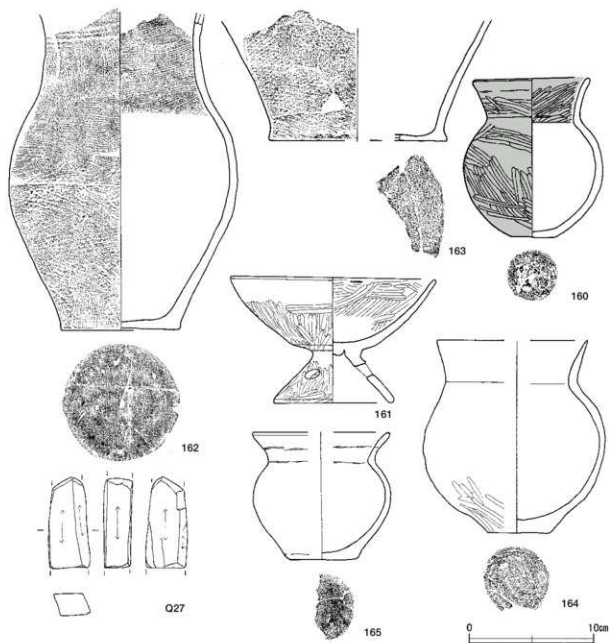
床 ほぼ平坦で、硬化面は確認されていない。

炉 奥壁寄りに位置し、長径91cm、短径70cmの楕円形である。床面を18cm皿状に掘りくぼめた地床がで、火床面は亦変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は、深さ30～45cmで、主柱穴に相当する。P5の性格は不明である。



第67図 第99号住居跡出土遺物実測図

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 3 褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片36点(壺類)、土師器片140点(埴類3、埴1、高埴1、甕類135)、石製品1点(敲石)のほか、混入した須恵器片4点(埴類)も出土している。160～162は炉の火床面から横位で出土し、164・165は破片で出土している。廃絶時に遺棄されたものと考えられ、時期判定の指標となる遺物である。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半(十王台式期)から古墳時代前期初頭と考えられる。

第99号住居跡出土遺物観察表(第67図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
162	弥生土器	壺	-	(25.2)	9.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部下端平截竹管による結節状縦文 胴上部ハケ目調整後、輪面状工具による3条の縦区画、区画内に波状文 胴上部連続弧文による区画、ハケ目調整後、附加条二條(附加1条)の縦文 胴部下端にハケ目調整 底部布目織	炉火床面	80% PL
163	弥生土器	壺	-	(9.6)	[14.2]	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	胴部附加条二條(附加1条)の縦文 底部砂粒付着	覆土中	10%
160	土師器	壺	9.1	12.7	3.4	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部内・外面ヘラ磨き、体部内面ナデ	炉火床面	95% PL28
161	土師器	高埴	16.3	10.1	9.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	胴部内面ナデ	炉火床面	95% PL30
164	土師器	小型壺	[12.0]	15.3	5.0	長石・石英	橙	普通	体部内面ヘラナデ、底部ヘラ磨り	炉火床面	90% 二次焼成
165	土師器	小型壺	[10.8]	10.2	[5.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面輪積みを残すナデ	炉火床面	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q27	敲石	(7.3)	3.3	2.4	(83.9)	砂岩	紙面1面、上端に敲打痕	覆土中	PL43

4 古墳時代の遺構と遺物

竪穴住居跡21軒が確認された。

第5号住居跡(第68・69図)

位置 調査区南部のE4h0区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第6号住居跡、第8号掘立柱建物跡、第3号溝跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.0m、短軸4.8mの方形で、主軸方向はN-21°-Wである。壁高は12～23cmで、各壁とも外傾している。

床 ほぼ平坦で、出入り口施設から西部にかけて踏み固められている。

炉 ほぼ中央部に位置し、長径96cm、短径70cmの不整形である。床面と同じ高さにある地床炉で、火床面には凹凸があり、赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量

ピット 5か所。P1～P4は深さ53～66cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ13cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

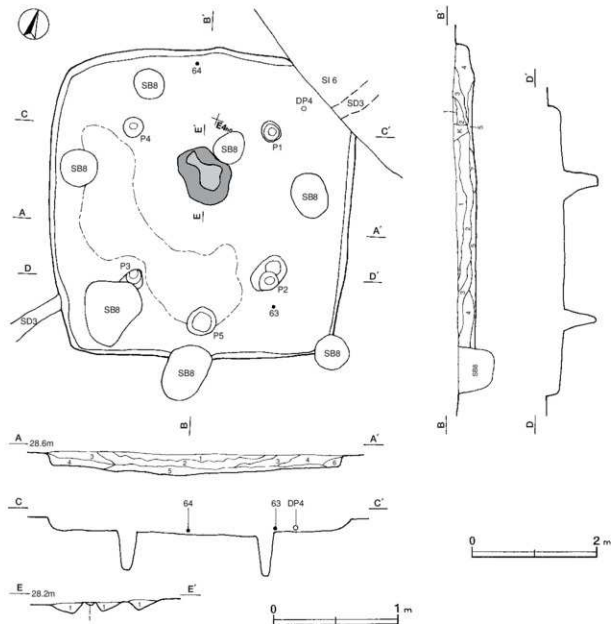
覆土 7層からなり、全体的に締りのない土層で、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

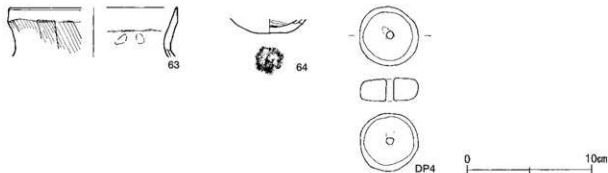
- | | | | |
|-------|--------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片58点（甕類56、瓶2）、土製品1点（紡錘車）のほか、混入した弥生土器片4点（壺類）、須恵器片4点（坏類3、甕類1）も出土している。遺物の多くが覆土上層から中層にかけて破片で出土している。63は南壁寄り、64は北壁際、DP4は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀代と考えられる。



第68図 第5号住居跡実測図



第69図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表(第69図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
63	土師器	甕	(34.4)	(3.9)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	10%
64	土師器	小型甕	-	(1.2)	2.4	長石・石英	橙	普通	体部内面ナデ	下層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP4	紡錘車	4.7	1.9	0.6	47.9	土製(長石)	上・下面へう張り, 側面ナデ	下層	

第9号住居跡(第70・71図)

位置 調査区南部のF 4a6区, 標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第44号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.2m, 短軸5.1mの方形で, 主軸方向はN-76°-Wである。壁高は35~46cmで, 各壁とも外傾している。

床 ほほ平坦で, 出入り口施設から炉の周囲にかけて踏み固められている。

炉 ほほ中央部に位置し, 長径96cm, 短径82cmの楕円形である。床面を8cm皿状に掘りくぼめた地床炉で, 火床面は赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ロームブロック中量

貯蔵穴 東壁の出入り口施設の脇に位置し, 長径76cm, 短径52cmの楕円形で, 深さは32cmである。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック少量

ピット 6か所。P 1~P 4は深さ63~73cmで, 配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ23cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ37cmであるが, 性格は不明である。

覆土 6層からなり, ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

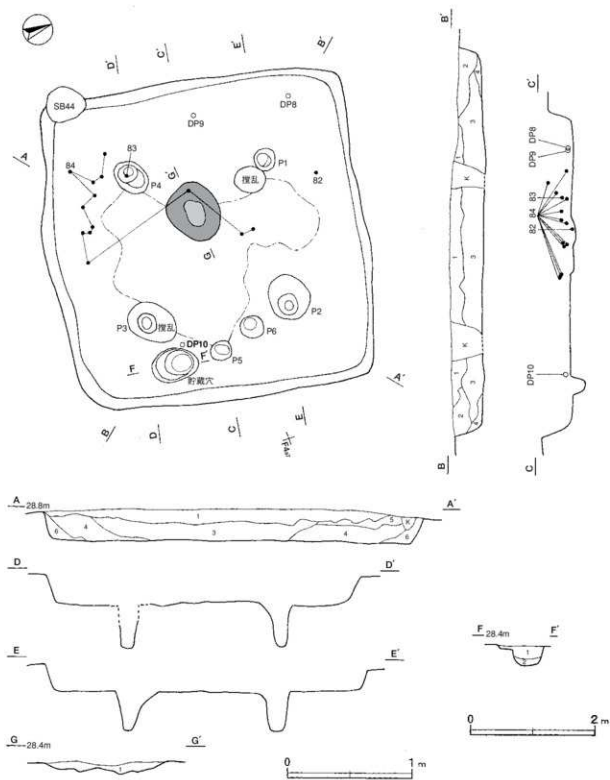
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 5 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 6 黒褐色 ロームブロック中量

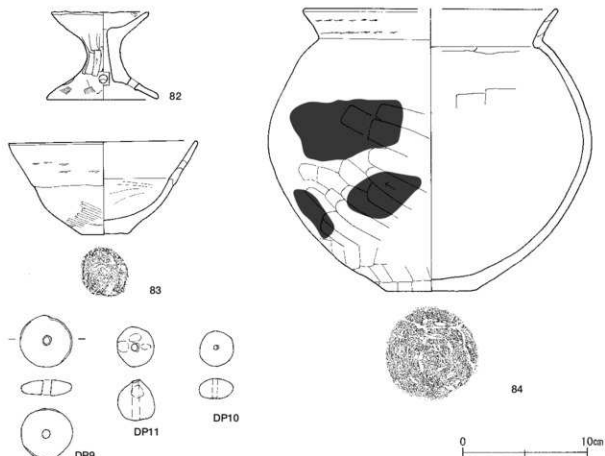
遺物出土状況 土師器片755点(器台3, 高坏3, 鉢4, 甕類745), 土製品3点(紡錘車2, 球状土錘1)のほか, 混入した弥生土器片21点(壺類), 須恵器片22点(坏類13, 高台付坏3, 高台付皿1, 蓋3, 甕類2),

も出土している。遺物の多くが覆土上層から中層を中心に、ほぼ全面にわたって出土している。82は北壁寄りの床面、83はP4直上の覆土中層、84は南壁寄りの覆土上層から下層にかけて破片で出土し、廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から4世紀後半と考えられる。



第70図 第9号住居跡実測図



第71図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表 (第71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
82	土脚器	器台	7.8	7.0	9.0	長石・石英	にぶい橙	普通	器受部内面ナデ、脚部外面へう割り	床面	100% PL29
83	土脚器	鉢	15.0	7.3	3.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ナデ、底部へう割り	中層	60%
84	土脚器	甕	20.0	22.4	7.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外面輪積みを残すナデ、底部へう割り	上層～下層	65% 外面磨付者

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP9	精緻率	4.1	1.3	0.7	24.6	土製(長石・雲母)	ナデ	床面	PL42
DP10	球状土鉢	2.7	1.6	0.4	11.3	土製(雲母)	ナデ、一方からの穿孔、扁平	床面	PL42
DP11	球状土鉢	3.1	3.3	0.7	27.6	土製(長石・雲母)	指頭圧痕を残すナデ、一方からの穿孔	床面	PL42

第14号住居跡 (第72・73図)

位置 調査区南部のE 4 h6区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第15号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.5m、短軸5.4mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は12~30cmで、各壁とも外傾している。

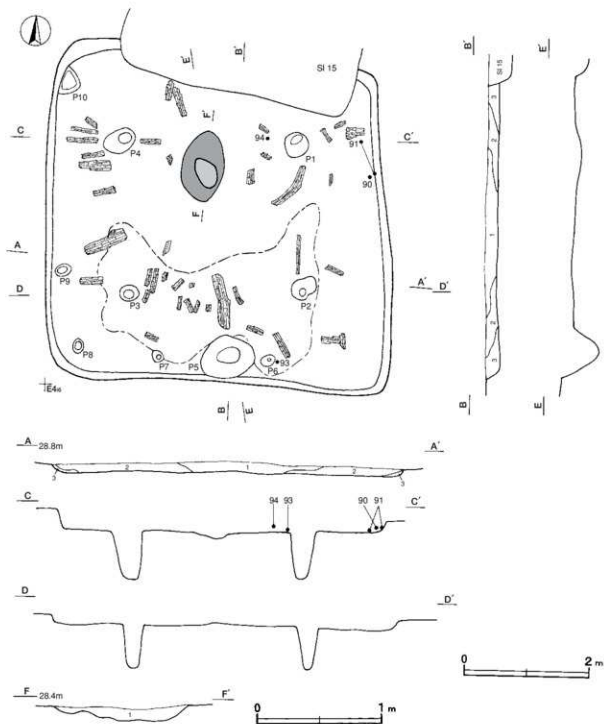
床 ほぼ平坦で、出入口施設からP 2、P 3の周囲にかけて踏み固められている。

炉 中央部の北壁寄りに位置し、長径110cm、短径70cmの長楕円形である。床面を10cm皿状に掘りくほめた地床炉で、火床面は凹凸があり、赤変硬化している。

炉土層解説

1 黒 褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック中量

ピット 10か所。P1～P4は深さ70～78cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ40cmで、出入口口施設に伴うピットと考えられる。P6～P10は、壁際に配されることから壁柱穴の可能性も想定されるが、明確ではない。



第72図 第14号住居跡実測図

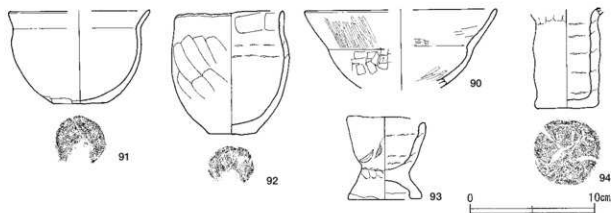
覆土 3層からなる。全体的に締りのない土層で、ロームブロック、炭化物を多く含むレンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量
 2 黒褐色 炭化物中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片22点（坏類3，埴1，器台1，甕類15，手捏土器2），土製品2点（球状土錘）のほか混入した弥生土器片37点（甕類），須恵器片10点（坏類5，甕類5），土製品1点（紡錘車）も出土している。遺物の多くは南壁寄りの覆土上層を中心に出土している。また，多量の炭化材が広い範囲で出土していることから，焼失住居と判断される。炭化材の多くは床面と水平な状態で出土しており，大型の炭化材は住居の中心から放射状に広がる様相を呈している。90・91は東壁際，93は南壁際，94は北壁寄りの床面からそれぞれ出土しており，本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は，床面から出土した土器から4世紀後半と考えられる。



第73図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
90	土師器	埴	[152]	(62)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部内面丁寧なナデ，外部外面ヘラ削り	床面	30%
91	土師器	小型甕	[112]	7.4	4.0	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部外面下端部ヘラ削り	床面	60%
92	土師器	小型甕	8.5	9.8	3.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部内面ナデ，底部ヘラ削り後，ナデ	覆土中	60%
93	土師器	手捏土器	6	6.7	5.4	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	内面ナデ，外面指頭圧痕	床面	90% PL29
94	土師器	手捏土器	-	(79)	4.5	長石・石英	褐色	普通	内面ぬいナデ，底部棒状工具圧痕	床面	90%

第17号住居跡（第74・75図）

位置 調査区南部のE 4e6区，標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第16号住居跡と第9・51号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.8m，短軸5.7mの方形で，主軸方向はN-60°-Eである。壁高は18~20cmで，各壁とも外傾している。

床 ほほ平坦で，南西壁際から炉の周囲にかけて踏み固められている。

炉 中央部の北東壁寄りに位置し、長径100cm、短径96cmの円形である。床面を14cm皿状に掘りくぼめた地床炉で、火床面は地山のローム土が赤変硬化している。

炉土層解説

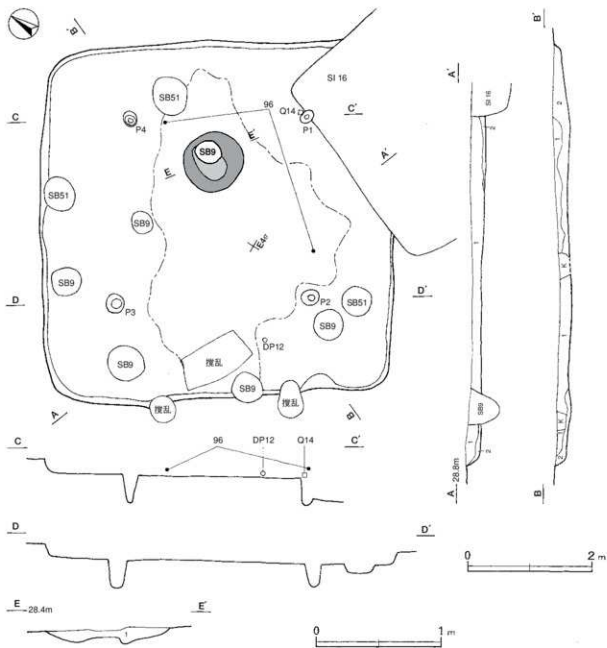
1 に近い赤褐色 ロームブロック・焼土粒子中量

ピット 4か所。深さ36~45cmで、配置から支柱穴と考えられる。

覆土 2層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

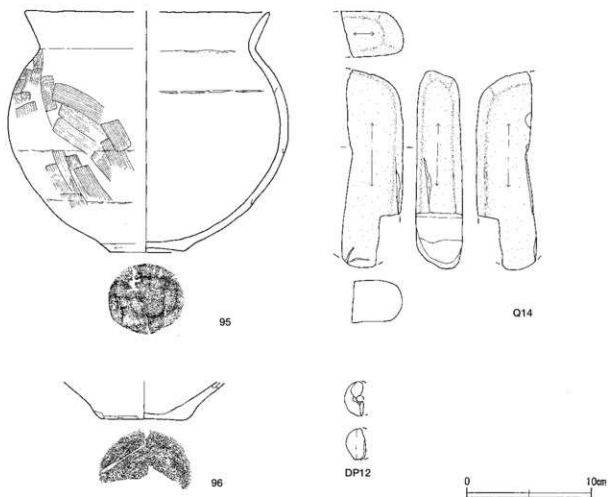
1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量



第74図 第17号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片153点(甕類)、土製品1点(球状土錘)、石製品1点(砥石)のほか、混入した弥生土器片12点(壺類)、須恵器片7点(坏類)も出土している。遺物の多くは北東コーナー部を中心に出土している。96は中央部の覆上下層に破片で点在し、DP12は南壁寄りの床面、Q14はP1直上の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀代と考えられる。



第75図第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表(第75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
95	土師器	甕	19.4	19.3	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ナデ、底部ヘラ削り	覆土中	30%
96	土師器	甕	-	3.0	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内面ナデ、外面下端部ヘラ削り	下層	10% 内面磨擦

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP12	球状土錘	(2.7)	2.5	0.5	(8.4)	土(長石・石英)	ナデ	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	砥石	15.8	(4.9)	3.3	(428.5)	6577-67	砥面4面	P1上層	

第26号住居跡 (第76図)

位置 調査区南部のE 3 c3区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.3m、短軸4.2mの方形で、主軸方向はN-41°-Wである。壁高は17~28cmで、各壁とも外傾している。

床 はほぼ平坦で、出入り口施設の周囲と東部及び西部の一部が踏み固められている。

炉 はほぼ中央部に位置し、長径90cm、短径54cmの楕円形である。床面を10cm風状に掘りくぼめた床炉である。

土層解説

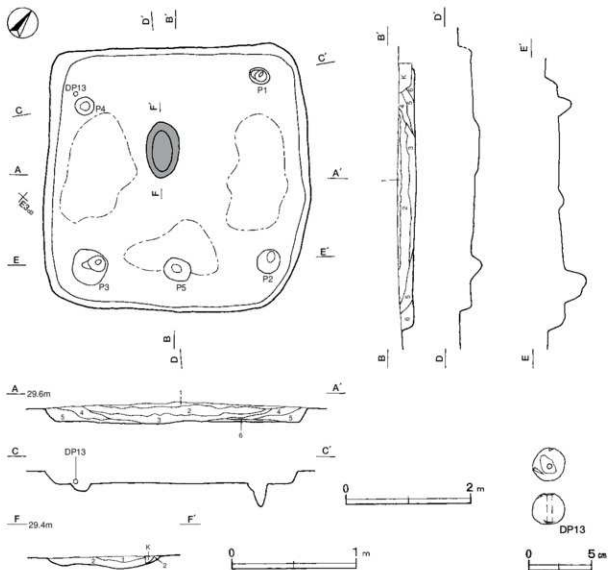
- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 暗赤褐色 ローム粒子多量、焼土粒子中量 | 2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子中量 |
|-----------------------|------------------------|

ピット 5か所。P1~P4は深さ13~37cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ17cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層からなり、全体的に締りのある土層で、レンズ状の推積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒色 焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 褐色 ロームブロック多量 |



第76図 第26号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片127点(埴4, 高坏7, 甕類116), 土製品1点(球状土錘)のほか, 混入した縄文土器片1点, 弥生土器片4点(壺類), 須恵器片2点(坏類, 甕類)も出土している。遺物の多くは, 中央部から北壁寄りにかけての覆土中から出土している。DP13は, 北西コーナー部の床面から出土している。

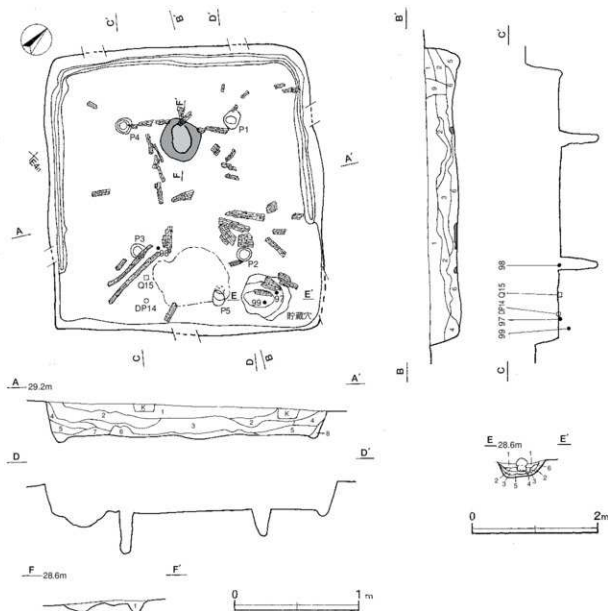
所見 時期は, 出土土器から4世紀代と考えられる。

第26号住居跡出土遺物観察表 (第76図)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP13	球状土錘	2.4	2.6	0.4	16.9	土(長石)	ナデ	床面	

第27号住居跡 (第77・78図)

位置 調査区南部のE 4h1区, 標高29mほどの台地上に位置している。



第77図 第27号住居跡実測図

規模と形状 長軸4.6m, 短軸4.4mの方形で, 主軸方向はN-47°-Wである。壁高は35~56cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 南東部の出入り口施設の周囲が踏み固められており, 壁溝が南東壁を除く各壁下から確認されている。

炉 中央部の北西壁寄り位置に, 長径72cm, 短径68cmの円形である。床面を10cm皿状に掘りくぼめた地床炉で, 火床面は赤変硬化している。

伊土層解説

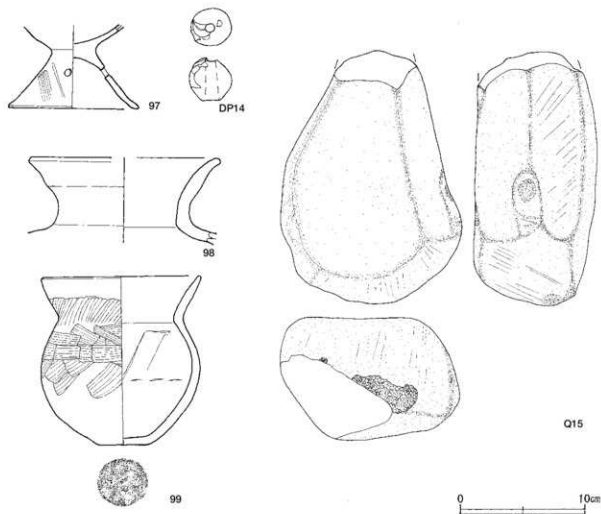
1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量

貯蔵穴 長径80cm, 短径70cmの楕円形で, 深さは24cmである。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|------|--------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | 6 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物粒子微量 |

ピット 5か所。P1~P4は深さ44~66cmで, 配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ22cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第78図 第27号住居跡出土遺物実測図

覆土 8層からなり、全体的に締りが無い土層で、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック微量	
2	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	6	黒	炭化物中量、焼土粒子少量、ロームブロック微量	
3	暗	褐色	炭化物・ローム粒子微量	7	暗	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
4	褐	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8	褐	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片5点(壺類2, 高坏1, 壺1, 甕類1), 土製品1点(球状土鉢), 石製品1点(磨石)のほか、混入した弥生土器片16点(壺類)も出土している。また、多量の炭化材が広い範囲で出土している。97は東コーナー部の貯蔵穴の覆土上層, 99は覆土中層から出土し, 98はP3寄りの床面, DP14, Q15は東壁寄りの床面からそれぞれ出土し, 本跡に伴うものと考えられる。

所見 炭化材が床面から多量に出土していることから、廃絶時に焼失したものと考えられる。時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。

第27号住居跡出土遺物観察表(第78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
97	土師器	高坏	-	(6.6)	10.3	長石・石英	にぶい橙	普通	坏部内面丁寧なナデ。脚部内面ナデ	貯蔵穴上層	60% 12H 粘
98	土師器	壺	[14.8]	(6.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ	床面	20%
99	土師器	小型甕	12.4	13.5	4.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ナデ。底部へつ張り後ナデ	貯蔵穴中層	100% PL28

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP14	球状土鉢	3.3	3.4	0.8	(30.6)	土(長石・石英)	ナデ, 片面穿孔	床面	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	砥石	(20.2)	14.4	9.8	(376.8)	砂岩	砥面3面 側面に凹痕	床面	

第28号住居跡(第79・80図)

位置 調査区西部のE28区, 標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸7.1m, 短軸5.9mの長方形で, 主軸方向はN-52°-Wである。壁高は22~36cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が軟弱である。

炉 ほぼ中央部に位置し, 長径96cm, 短径80cmの不整楕円形である。床面を11cm皿状に掘りくぼめた地床形で, 火床面は赤変硬化している。

伊土層解説

1	褐	褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
---	---	----	---------------------

ピット 4か所。深さ29~74cmで, 配置から支柱穴と考えられる。

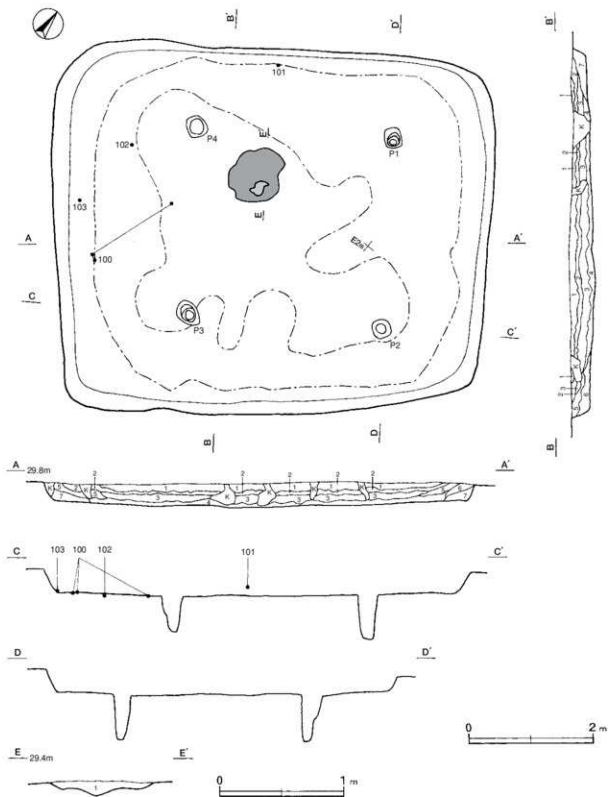
覆土 7層からなり, 全体的に締りが無い土層で, レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

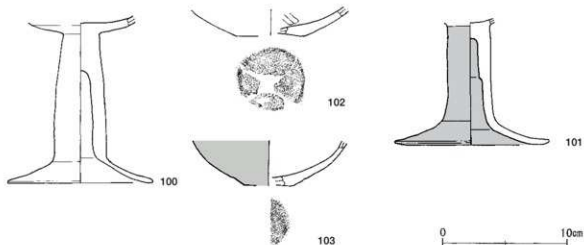
1	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗	褐色	ローム粒子微量
2	黒	褐色	焼土粒子微量	6	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子・微塵微量
3	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	7	褐	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
4	暗	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量				

遺物出土状況 土師器片259点（椀1，高坏17，甕類241）のほか，混入した弥生土器片5点（壺類），須恵器片26点（坏類），陶器片1点（甕類）も出土している。遺物の多くは，中央部の覆土上層から中層にかけて出土している。100は西壁寄りの床面に破片で点在し，101は北壁際，102は西壁際，103は西壁際の床面からそれぞれ出土し，本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は，床面から出土した土器から4世紀後半と考えられる。



第79図 第28号住居跡実測図



第80図 第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表 (第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
103	土師器	碗	-	(3.6)	(3.9)	長石・石英	橙	普通	体部内・外面丁寧ナデ	床面	10%
100	土師器	高坏	-	(13.4)	11.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部外面丁寧ナデ、脚部内面ナデ	床面	60%
101	土師器	高坏	-	(10.1)	12.3	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部外面丁寧ナデ、内面ナデ	床面	40%
102	土師器	葉	-	(2.1)	3.4	長石・石英	橙	普通	体部内面ヘラナデ、底部ヘラ削後、ナデ	床面	10%

第30号住居跡 (第81・82図)

位置 調査区南部のE 4e1区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第5号溝跡、第1号道路跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.7m、短軸7.0mの方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は40~52cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、主柱穴の間が踏み固められており、壁溝が全周している。

炉 中央部の北壁寄りに位置し、長径154cm、短径95cmの楕円形である。床面を10cm皿状に掘りくぼめた地床炉で、火床面は凹凸があり、赤変硬化している。

炉土層解説

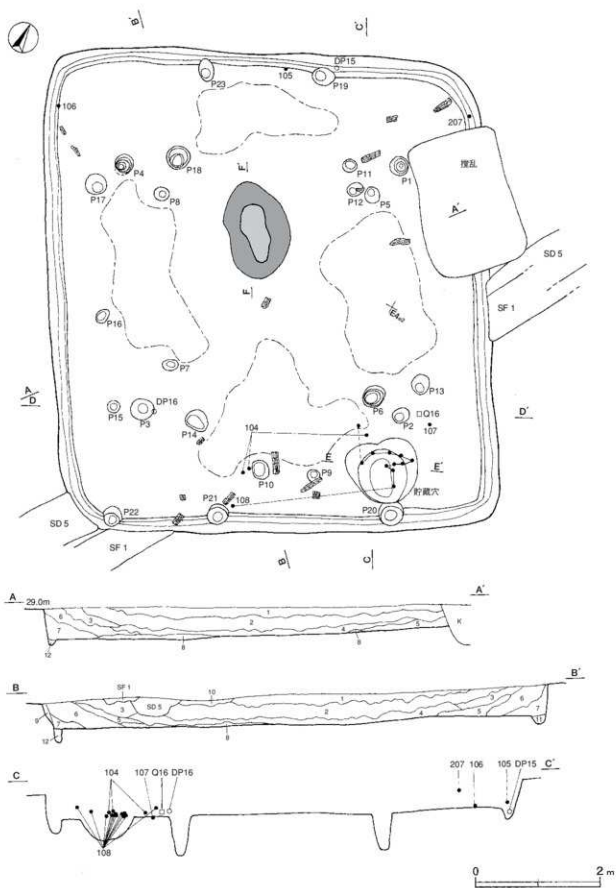
1 黒 褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック中量

貯蔵穴 南東コーナー部寄りに位置し、長径112cm、短径91cmの楕円形で、深さは33cmである。

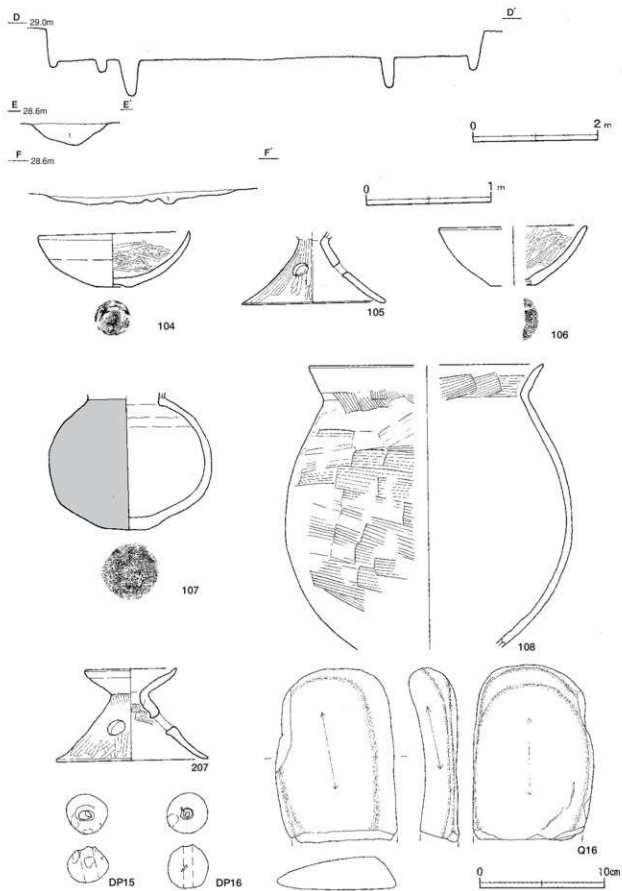
貯蔵穴土層解説

1 暗 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化物微量

ピット 23か所。P 1~P 4は深さは50~72cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。P 9は深さ52cm、P 10は深さ31cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられ、対で機能していたと想定されるが、明確ではない。P 19~P 23は壁際に配されていることから、壁柱穴の可能性も想定される。また、P 5~8、P 11~18は主柱穴の近くに配され、列を成していることなどから、補助柱穴の可能性も想定される。



第81图 第30号住居跡実測图



第82图 第30号住居跡・出土遺物実測図

覆土 12層からなる。全体的に締りのない土層で、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	7 褐 色	ロームブロック少量
2 黒 色	ローム粒子微量	8 黒 褐 色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3 黒 褐 色	ロームブロック、焼土ブロック微量	9 褐 色	ローム粒子多量
4 黒 褐 色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量	10 黒 褐 色	ロームブロック微量
5 黒 褐 色	ローム粒子少量	11 褐 色	ロームブロック中量
6 暗 褐 色	ローム粒子少量	12 暗 褐 色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片583点（坏類33、高坏17、器台4、鉢1、壺1、甕類527）、土製品2点（球状土鉢）、石製品1点（砥石）のほか、混入した弥生土器片22点（壺類）、須恵器片41点（坏類27、蓋1、高盤2、短頸壺2、甕類3、瓶6）、陶器片1点、土製品1点（羽口）、鉄滓1点も出土している。遺物の多くは破片で、ほぼ全面にわたって出土している。105は北壁際の覆土下層、106は北西コーナー際の床面、107は東壁寄りの床面、104は南壁寄りの床面に破片が散在し、廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。

第30号住居跡出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
104	土師器	坏	119	4.4	2.7	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、体部外面ナデ	床面	70% PL29
105	土師器	器台	-	(3.7)	11.4	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部内面ハケ目調整後、ナデ	下層	40%
207	土師器	器台	7.0	7.3	12.0	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	脚部内面ハケ目調整後、ナデ	中層	95%
106	土師器	鉢	[11.6]	4.7	[3.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き、外面ナデ	床面	10%
107	土師器	壺	-	(10.7)	4.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面輪積みを残すナデ	床面	90%
108	土師器	甕	[18.6]	(22.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ、体部内面ナデ	下層～床面	70% PL26

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP15	球状土鉢	3.3	3.0	1.0	25.6	土(長石・石英)	ナデ、一方向からの穿孔	壁溝	PL42
DP16	球状土鉢	3.3	3.5	0.7	33.7	土(長石・石英)	ナデ、一方向からの穿孔	床面	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	砥石	(13.7)	9.6	3.8	(683.3)	砂岩	砥面3面	床面	

第31号住居跡（第83図）

位置 調査区南部のE4d4区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.7m、短軸3.6mの方形で、主軸方向はN-35°-Wである。壁高は8～11cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であったと思われるが、中央部が攪乱を受けているため全体の様相は不明である。

炉 西壁寄りに位置し、長径113cm、短径79cmの楕円形である。床面を8cm皿状に掘りくぼめた地床炉で、火床面は赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック多量

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、長径55cm、短径42cmの楕円形で、深さは30cmである。

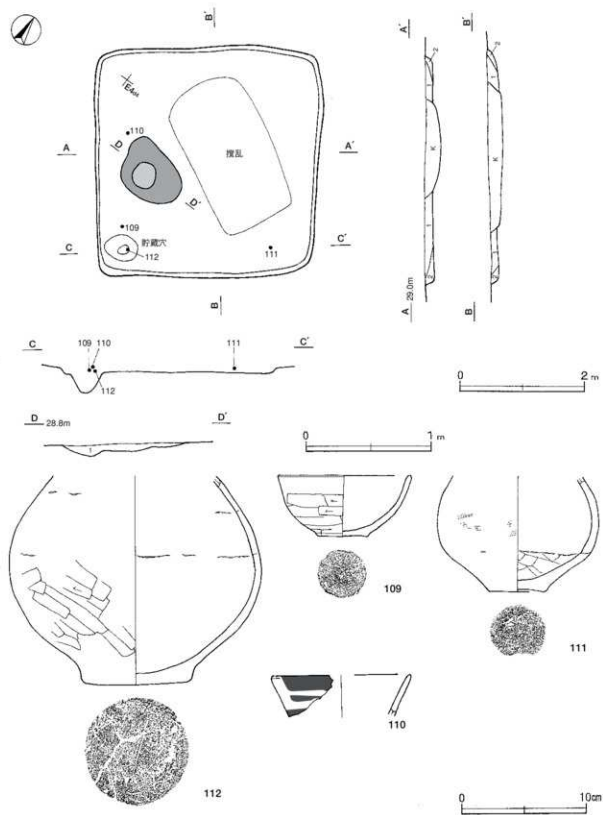
覆土 2層からなる。全体的に締りのない土層であるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片71点（碗1，器台1，壺4，甕類65）のほか，混入した弥生土器片2点（壺類），須恵器片3点（埴類）も出土している。109・110は西壁寄りの床面，111は南壁寄りの覆土下層，112はP貯蔵穴直上の覆土下層からそれぞれ出土し，廃絶時に廃棄されたものである。

所見 時期は，出土土器から5世紀後半と考えられる。



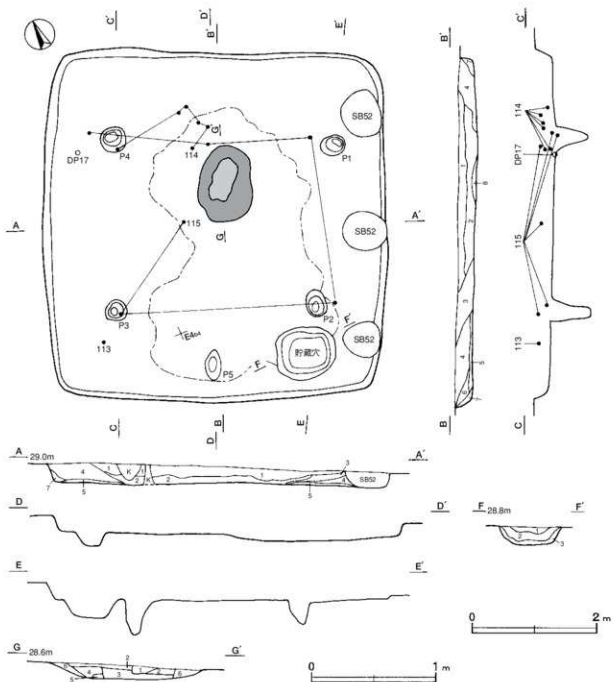
第83図 第31号住居跡・出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
109	土師器	甌	10.4	4.9	4.1	長石・石英 にふい橙	浅黄橙	普通	体部内面ナデ、底部多方向のヘラ削り	床面	95% PL29
110	土師器	壺	[110]	(3.4)	-	長石・石英・ 赤色粘土	浅黄橙	普通	口縁部内・外面丁寧なナデ	床面	10% 外面炭化物付着
111	土師器	壺	-	(9.3)	4.4	長石・石英	橙	普通	体部内面下半部ハケ目、底部ナデ	下層	50%
112	土師器	壺	-	(16.6)	8.2	長石・石英	浅黄橙	普通	体部内面輪轆みを残すナデ	下層	80%

第32号住居跡（第84・85図）

位置 調査区南部のE 4 a4区、標高29mほどの台地上に位置している。



第84図 第32号住居跡実測図

重複関係 第52号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.6m、短軸5.5mの方形で、主軸方向はN-22°-Eである。壁高は1~26cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部に位置する炉の周囲が軟弱である。

炉 中央部に位置し、長径123cm、短径85cmの楕円形である。床面を12cm掘りくぼめた地床炉で、火床面は凹凸があり、赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 | 5 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |

貯蔵穴 長軸94cm、短軸83cmの隅丸長方形で、深さは29cmである。

貯蔵穴土層解説

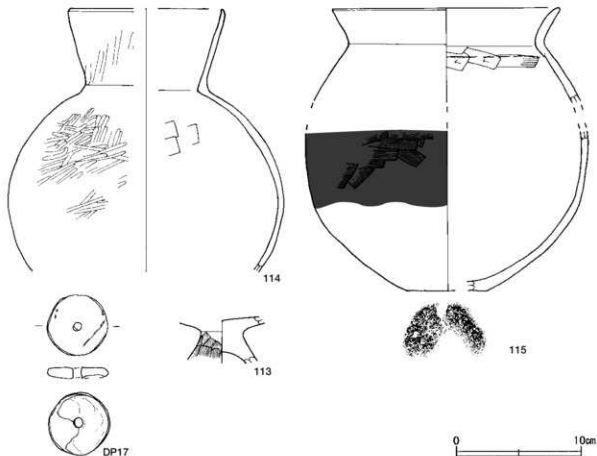
- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | |

ピット 5か所。P1~P4は深さ31~63cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ21cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

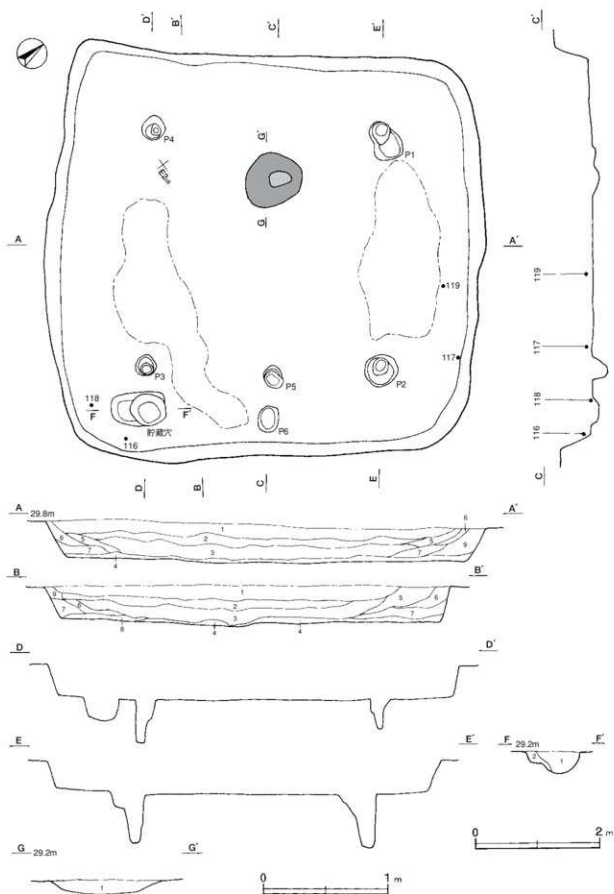
覆土 8層からなる。全体的に締りが無い土層で、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

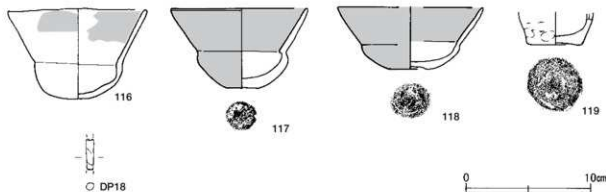
- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量 | 7 褐色 ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 |



第85図 第32号住居跡出土遺物実測図



第86图 第35号住居跡実測图



第87図 第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
116	土師器	埴	11.0	7.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ	下層	80% P1.29 器面摩滅
117	土師器	埴	10.5	6.4	2.4	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面丁寧なナデ	下層	60% P1.29
118	土師器	埴	11.5	4.9	3.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面丁寧なナデ	床面	40%
119	土師器	手捏土器	-	(2.6)	4.2	長石・石英	にぶい橙	普通	外面磨頭正肌	下層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP18	不明土製品	(2.5)	0.6	0.5	(1.1)	土(長石)	丁寧なナデ	覆土中	

第41号住居跡（第88図）

位置 調査区南部のE 3 b0区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第17号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.8m、短軸4.6mの方形で、主軸方向はN-57°-Wである。壁高は12~18cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、出入り口施設の周囲が踏み固められている。

炉 北西壁寄りに位置し、楕円形の地床炉であったと考えられ、攪乱のため熱を受けて硬化した底面の一部が確認されている。

ピット 10か所。P 1~P 3は深さ15~31cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 4は深さ26cm、P 5は深さ30cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6~P 10は、深さ9~26cmで性格は不明である。

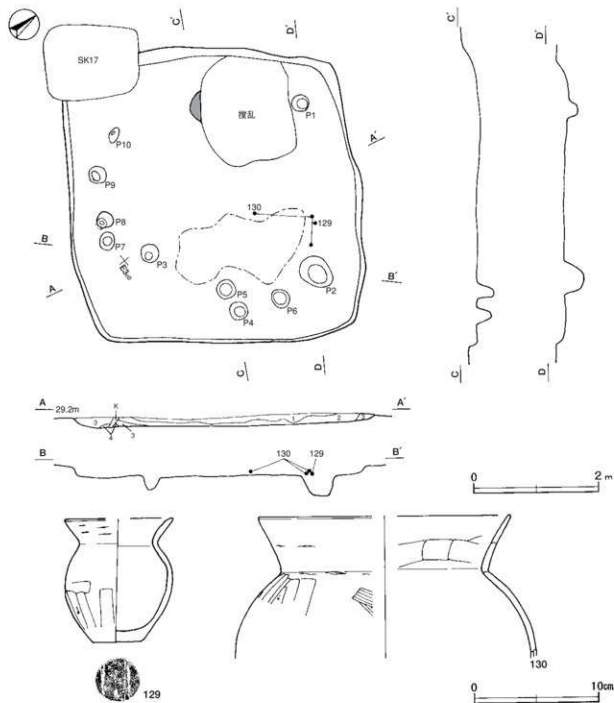
覆土 4層からなる。全体的に締りのある土層で、レンズ状の推移状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片154点（坏類3、甕類151）が出土している。遺物の多くが破片で、北東コーナー部を中心に出土している。129は東壁寄りの床面、130は中央部から東壁寄りの覆土下層にわたって出土しており、埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から4世紀代と考えられる。



第88図 第41号住居跡・出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表 (第88図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
129	土師器	シコウ71型	[8.7]	9.9	3.7	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面ナデ 底部木炭痕	床面	85% PT.28
130	土師器	甕	[19.9]	(11.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外部外面へう部	下層	20%

第43号住居跡 (第89・90図)

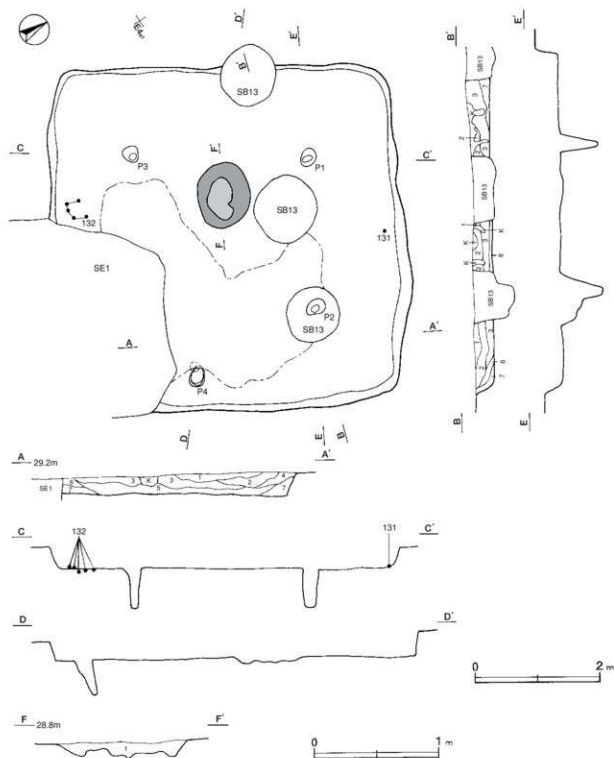
位置 調査区南部のE 4 a1区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第13号掘立柱建物跡と第1号井戸跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.7m、短軸5.5mの方形で、主軸方向はN-59°-Wである。壁高は25~38cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、出入口から中央部が踏み固められており、炉の周囲はそれほど硬化していない。

炉 中央部の西寄りに位置し、長径105cm、短径84cmの楕円形である。床面を13cm掘りくぼめた地床炉で、火床面は凹凸があり、赤変硬化している。



第89図 第43号住居跡実測図

伊土層解説

1 黒赤褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物少量

ピット 4か所。P1～P3は深さ58～64cmで、配置から主柱穴と考えられる。P4は深さ58cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなる。全体的に締りのない土層で、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

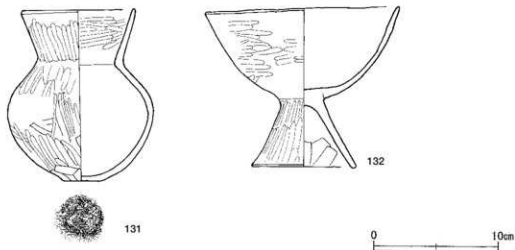
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・礫微量	5 暗褐色	ロームブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	6 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	7 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片129点（坏類22、高坏40、埴8、甕類59）、弥生土器片2点（壺類）が出土している。

131は東壁際の床面、132は西壁際の床面から破片で出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。



第90図 第43号住居跡出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表（第90図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
131	土師器	埴	8.8	13.8	3.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面下半部へラ削り、底部ナデ	床面	95% P1.28
132	土師器	高坏	15.3	12.7	8.2	長石・石英	橙	普通	坏部内面ナデ、脚部内面ナデ	床面	70% P1.30

第47号住居跡（第91・92図）

位置 調査区東部のD5g2区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第38号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.1m、短軸5.0mの方形で、主軸方向はN-64°-Wである。壁高は36～56cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、出入り口施設の周囲と北部の一部が踏み固められている。

炉 ほぼ中央部に位置し、長径100cm、短径77cmの楕円形である。床面を17cm掘りくぼめた地床炉で、火床面は凹凸があり、赤変硬化している。

貯蔵穴 長径74cm、短径68cmの円形で、深さは24cmである。

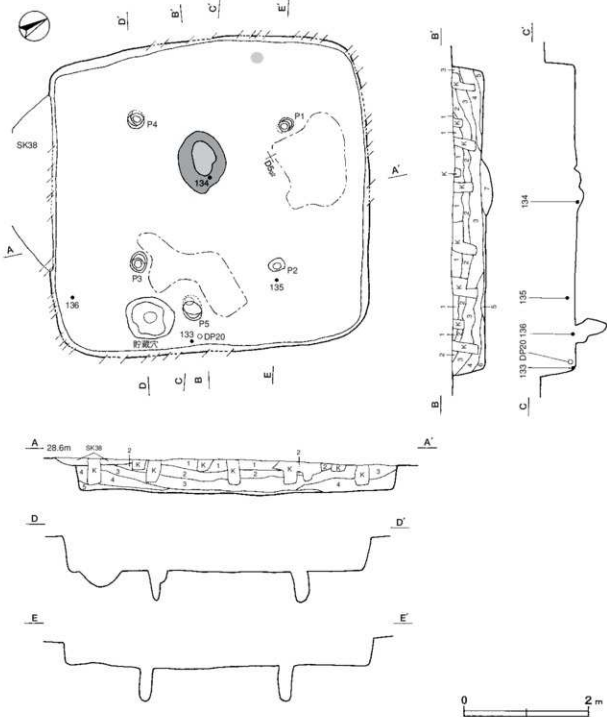
ピット 5か所。P1～P4は深さ48～51cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ50cmで、出入り

口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層からなる。全体的に締りのある土層で、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第7層は炉の覆土である。

土層解説

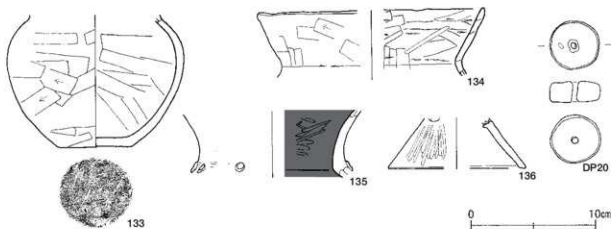
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒色 | ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | | |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第91図 第47号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片255点(坏類19, 器台1, 甕類235), 土製品1点(紡錘車)のほか, 混入した弥生土器片4点(壺類), 須恵器片2点(坏類)も出土している。遺物の多くは中央部から北西コーナー部を中心に出土している。133は東壁際, 136は西壁寄りの床面, 134は炉の覆土上層, 135はP2脇の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から4世紀前半と考えられる。



第92図 第47号住居跡出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表(第92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
133	土師器	小型壺	-	(10.5)	6.1	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面へラナデ, 外面へラ削り	床面	40%
134	土師器	甕	17.8	(5.4)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面へラナデ, 外面へラ削り後ナデ	炉上層	10%
135	土師器	壺	-	(5.4)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部下端磨り癖	下層	10%
136	土師器	器台	-	(3.8)	[10.8]	長石・石英	橙	普通	脚部内面ナデ, 外面へラ磨き	床面	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP20	紡錘車	4.0	1.8	0.5	32.7	土(長石・石英)	丁寧なナデ, 一方からの穿孔	下層	PL42

第48号住居跡(第93・94図)

位置 調査区東部のD5g6区, 標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第8号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.9m, 短軸6.7mの方形で, 主軸方向はN-46°-Wである。壁高は18~31cmで, 各壁ともほぼ直立し, 東部は調査区外に延びている。

床 ほぼ平坦で, 硬化面は攪乱のため明確ではない。

炉 ほぼ中央部に位置し, 長径100cm, 短径75cmの楕円形である。床面を8cm掘りくぼめた地床炉で, 火床面は凹凸があり, 赤変硬化している。

炉土層解説

1 層 赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量

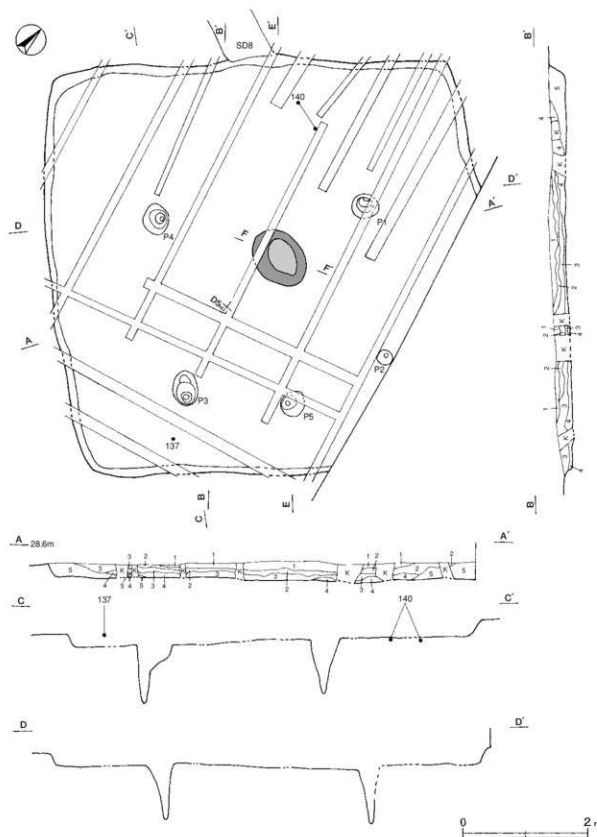
ピット 5か所。P1~P4は深さ27~93cmで, 配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ36cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなる。全体的に締りのある土層で, レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

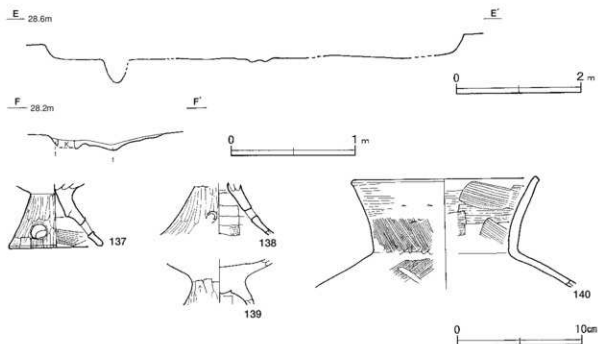
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量



第93図 第48号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片205点（器台6，高坏7，甕類192）のほか，混入した弥生土器片17点（甕類），須恵器片12点（坏類8，盤1，甕類3）も出土している。遺物の多くが破片で，北壁寄りを中心に出土している。137は南壁寄りの覆土中層，140は北壁寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から4世紀前半と考えられる。



第94図 第48号住居跡・出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
137	土師器	器台	-	(5.5)	7.4	長石・石美	にぶい橙	普通	臀部内面ハケ目，窓3か所	中層	45%
138	土師器	器台	-	(4.1)	-	長石	橙	普通	臀部内面ハケ目，窓3か所	覆土中	40%
139	土師器	器台	-	(3.6)	-	長石・石美	橙	普通	臀部内面ヘラナデ	覆土中	30%
140	土師器	甕	14.5	(8.8)	-	長石・石美・赤色粒子	黄橙	普通	口辺部外面ナデ，体部外面ハケ目	床面	30%

第50号住居跡（第95・96図）

位置 調査区東部のD4c8区，標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第8号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.2m，短軸5.1mの方形で，主軸方向はN-25°-Eである。壁高は44～62cmで，各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，硬化面は明確ではない。

炉 中央部の北壁寄りに位置し，長径104cm，短径76cmの楕円形である。床面を9cm掘りくぼめた地床炉で，火床面は凹凸があり，赤変硬化している。

炉土層解説

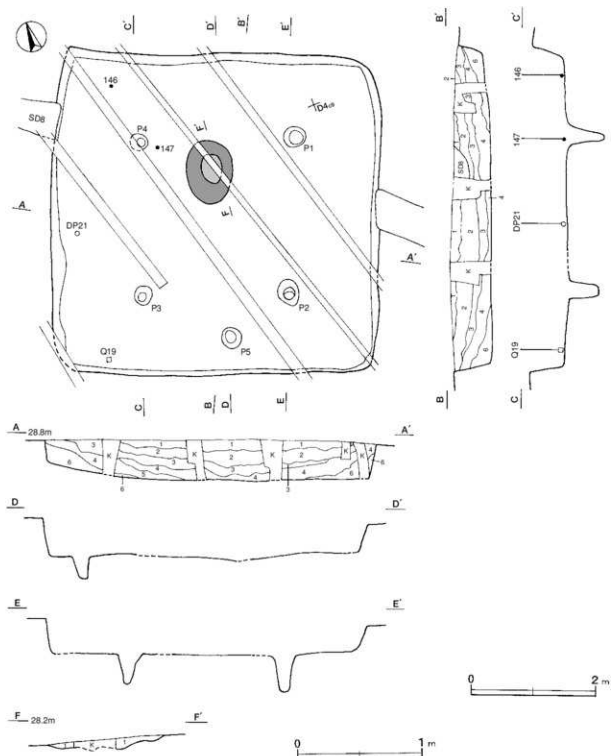
1 黒褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ45～60cmで，配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ37cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層からなる。全体的に締りのある土層で、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

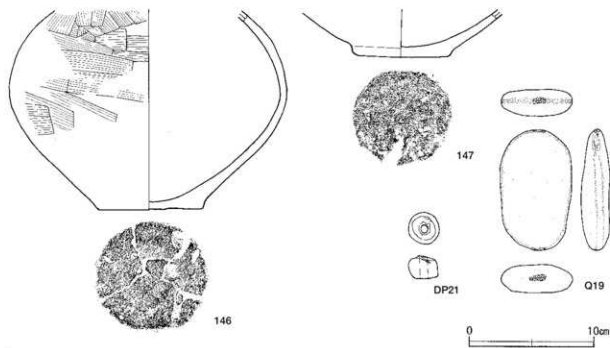
- | | | | |
|-------|------------------|-------|----------------------|
| 1 黒色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |



第95図 第50号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片229点(坏類2, 高坏6, 甕類221), 土製品1点(球状土鉢), 石製品1点(磨石)のほか, 混入した縄文土器片2点(鉢), 弥生土器片6点(壺類), 須恵器片17点(坏類10, 甕類7)も出土している。遺物の多くが破片で, 南西コーナー部を中心に出土している。146は北西コーナー部, 147はP4の東側, DP21は西壁際, Q19は南西コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 床面から出土した土器から4世紀代と考えられる。



第96図 第50号住居跡出土遺物実測図

第50号住居跡出土遺物観察表 (第96図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
146	土師器	甕	-	(16.0)	8.2	長石・石英・赤色粒子	にぶ・黄橙	普通	体部内面ナデ, 底部布目痕	床面	30% 外面煤付着
147	土師器	甕	-	(3.9)	7.7	長石・石英	浅黄橙	普通	体部内・外面ナデ	床面	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP21	球状土鉢	2.5	1.7	0.7	9.8	土(長石・石英)	ナデ, 一方向からの穿孔	床面	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q19	磨石	5.7	9.5	2.3	196.5	砂岩	一側縁を使用, 両端に敲打痕	床面	

第51号住居跡 (第97・98図)

位置 調査区東部のD45区, 標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第5号溝跡と第1号道路跡に掘り込まれている。

規模と形状 一辺5.5mの方形で, 主軸方向はN-3°-Wである。壁高は32~44cmで, 各壁ともほぼ直立している。

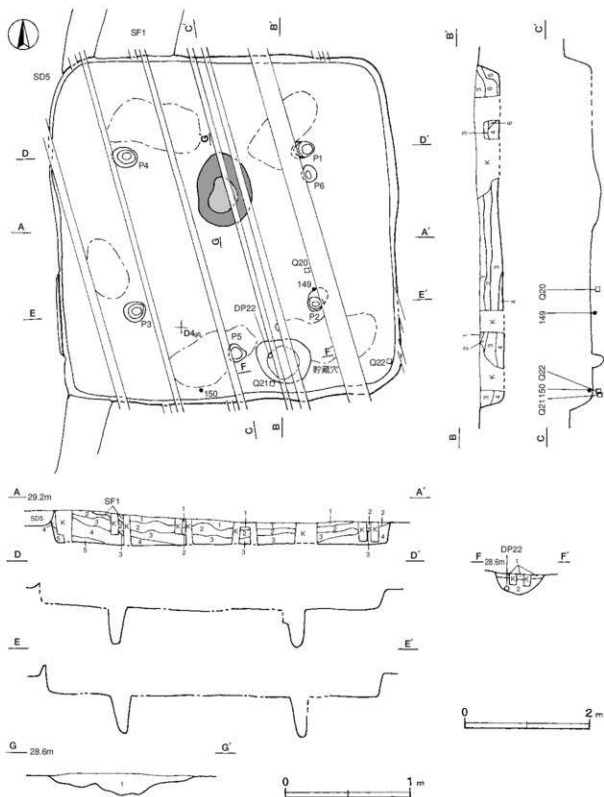
床 ほぼ平坦で, ピットの周囲の一部が踏み固められている。

炉 中央部の北壁寄りに位置し, 長径120cm, 短径88cmの楕円形である。床面を18cm皿状に掘りくぼめた地

床炉で、火床面は地山のローム土が赤変硬化している。

炉土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量



第97図 第51号住居跡実測図

貯蔵穴 長径86cm, 短径72cmの楕円形で, 深さは29cmである。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ58～61cmで, 配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ25cmで, 出入口口施設に伴うピットと考えられる。P 6は配置から補助柱穴の可能性も想定されるが, 明確ではない。

覆土 6層からなり, レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

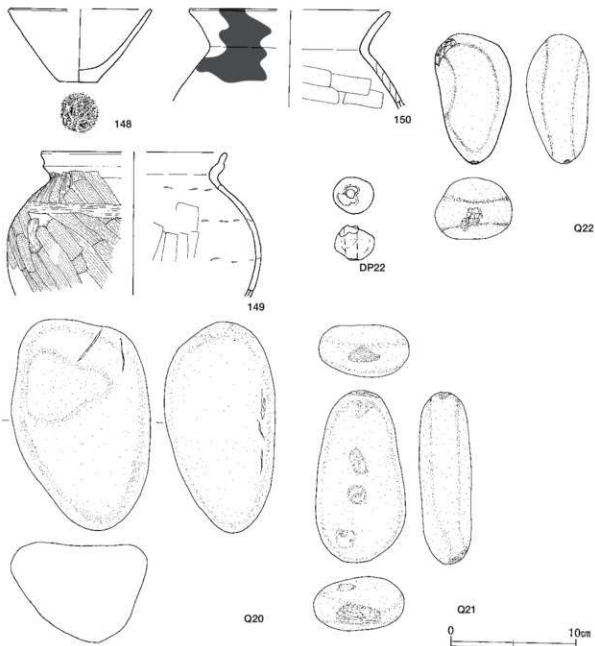
4 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

5 暗褐色 ロームブロック中量

3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量

6 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量



第98図 第51号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片150点(坏1, 高坏10, 甕類139), 土製品1点(球状土錘), 石製品3点(磨石)のほか, 混入した弥生土器片17点(壺類), 須恵器片19点(坏類14, 甕類5)も出土している。遺物の多くは覆土上層から中層にかけてほぼ全面に散在して出土している。149はP2脇, 150は南壁際, Q20は中央部, Q21は南壁際, Q22は南東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 床面から出土した土器から4世紀中頃と考えられる。

第51号住居跡出土遺物観察表(第98図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
148	土師器	坏	112	58	30	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ナデ, 底部木葉痕	覆土中	30%
149	土師器	台付甕	146	(11.5)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面上段ハケ, 内面ヘラナデ	床面	30% 外面僅付着
150	土師器	甕	160	(7.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶ黄褐色	普通	体部内面ヘラナデ	床面	10% 外面僅付着

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP22	球状土錘	3.2	2.8	0.8	20.5	土(長石・石英)	指頭圧痕を残すナデ, 片面穿孔	覆土中	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q20	磨石	16.8	11.0	7.9	941.5	砂岩	使用面1面	床面	
Q21	磨石	13.7	7.3	4.2	607.8	砂岩	両端部を使用, 表面に敲打痕	床面	
Q22	磨石	10.3	6.0	5.0	395.8	砂岩	下端に敲打痕	床面	PL42

第56号住居跡(第99・100図)

位置 調査区東部のC4区, 標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第126号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.7m, 短軸6.5mの方形で, 主軸方向はN-40°-Wである。壁高は25~42cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 出入り口の周囲と壁際の一部が踏み固められている。北壁寄りの床面に長径36cm, 短径30cmの楕円形状の焼土が確認されている。

炉 中央部の北壁寄りに位置し, 長径114cm, 短径81cmの楕円形である。床面を9cm掘りくぼめた地床炉で, 火床面は凹凸があり, 赤変硬化している。

ピット 5か所。P1~P4は深さ68~76cmで, 配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ42cmで, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

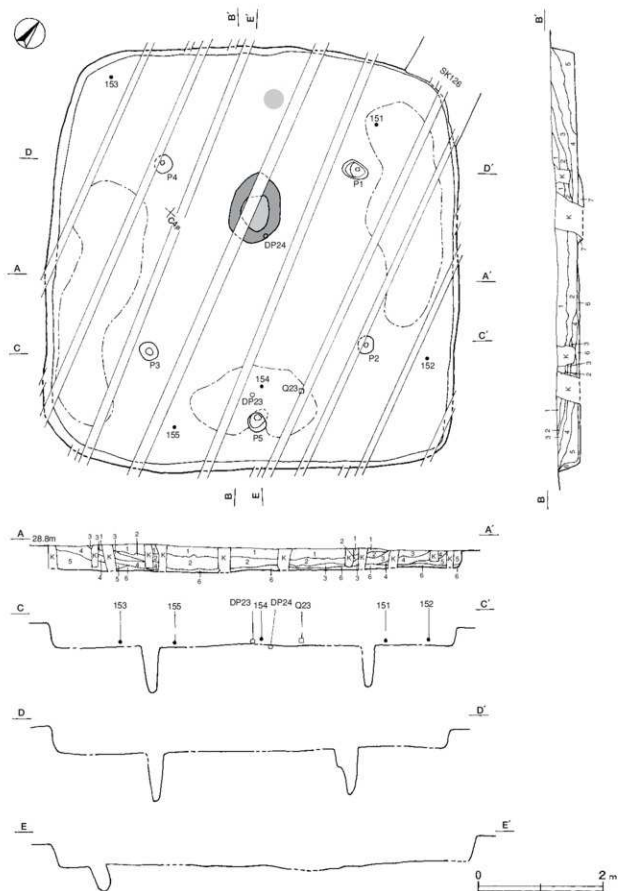
覆土 6層からなる。全体的に締りのない土層で, レンズ状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

第7層は炉の覆土である。

土層解説

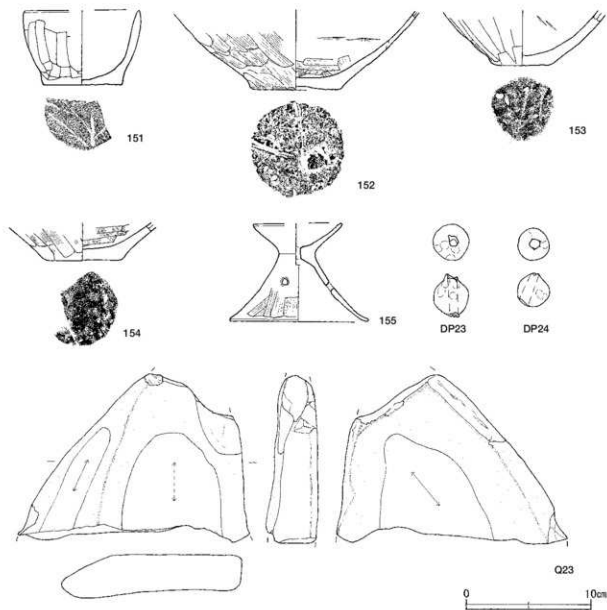
1 黒色	ローム粒子・焼土粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	6 褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子少量	7 暗赤褐色	焼土ブロック多量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片398点(坏類15, 碗3, 器台7, 壺6, 甕類367), 土製品2点(球状土錘), 石製品1点(砥石)のほか, 混入した縄文土器片1点, 弥生土器片7点(壺類), 須恵器片28点(坏類20, 蓋2, 甕類6)も出土している。遺物の多くは破片で, 覆土中層を中心にほぼ全面にわたって出土している。151は北東コーナー部, 152は東壁寄り, 153は北西コーナー部, 154は出入り口施設付近, 155は南壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土しており, いずれも廃棄されたものと考えられる。



第99图 第56号住居跡実測図

所見 時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。



第100図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表 (第100図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
151	土師器	輪	[9.0]	5.9	[6.4]	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り後、ナデ、底部木葉痕	下層	40%
152	土師器	壺	-	(6.1)	7.2	長石	にぶい黄橙	普通	体部内面下部部ハケ目、底部刷毛痕	下層	20% 外面僅付き
153	土師器	壺	-	(4.4)	4.8	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ、裏部木葉痕	下層	20%
154	土師器	壺	-	(3.0)	5.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ハケ目、底部ヘラ削り	下層	10%
155	土師器	器台	[7.0]	7.9	11.0	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部内面ナデ	下層	85% 器面欠れ

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP23	球状土師	2.8	3.4	0.6	22.8	土(長石・石英)	指頭圧痕を残すナデ	下層	PL.42
DP24	球状土師	2.5	2.6	0.8	15.2	土(長石・石英)	指頭圧痕を残すナデ、片面穿孔	床面	PL.42

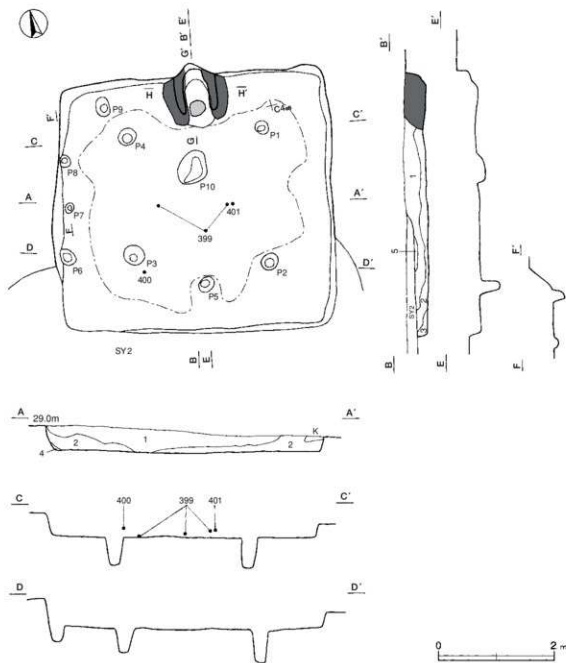
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q23	砥石	(13.4)	18.4	4.2	(1133)	砂岩	砥面3面	下層	

第60号住居跡 (第101・102図)

位置 調査区東部のC 4 e7区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号炭焼窯跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.8m、短軸4.5mの方形で、主軸方向はN-17°-Eである。壁高は24~48cmで、各壁ともほぼ直立している。



第101図 第60号住居跡実測図

床 はほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで113cm、袖部幅112cmで、壁外への掘り込みは25cmである。天井部は崩落しており、袖部は床面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さの面で、火床面は赤変硬化しており、煙道部は急傾斜に立ち上がっている。

土層解説

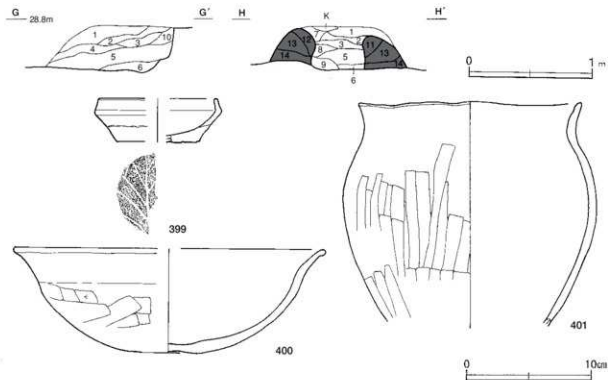
- | | | | |
|----------|---------------------------------|-----------|--------------------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 8 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗 赤 褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗 赤 褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 暗 赤 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗 赤 褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 12 赤 褐色 | 焼土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗 赤 褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 13 明 赤 褐色 | 砂質粘土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・繊維少量、炭化粒子微量 |
| 7 暗 褐色 | 砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 14 褐 色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 10か所。P1～P4は深さ42～59cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ35cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8は深さ8～28cmで、壁際に配されていることから壁柱穴と考えられる。P9は深さ30cm、P10は深さ16cmであるが、性格は不明である。

覆土 5層からなる。全体的に締りのある土層で、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|----------|---------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 4 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック微量 | 5 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量、繊維微量 |
| 3 暗 褐色 | ローム粒子中量 | | |



第102図 第60号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片87点（坏類12, 鉢14, 甕類61）, 須恵器片2点（坏類, 甕類）, 土製品1点（支脚）が南部の覆土中層から下層にかけて出土している。そのほか、混入した弥生土器片1点も出土している。399は中央部の床面から出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、床面から出土した土器から6世紀代後葉～7世紀初頭と考えられる。

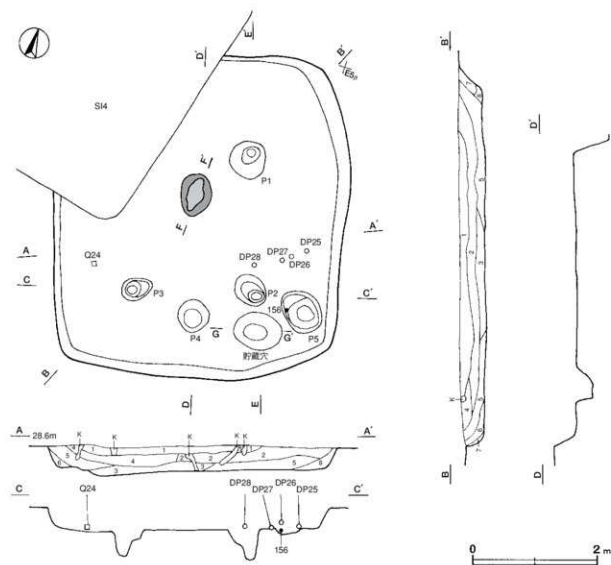
第60号住居跡出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
399	土師器	坏	[9.4]	3.4	[6.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面輪積みを残すナデ, 底部本葉痕	床面	30%
400	土師器	鉢	[24.5]	8.4	4.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ	下層	30%
401	土師器	甕	17.6	(17.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ナデ, 外面ヘラ削り	下層	外面炭化物付着 50%

第84号住居跡（第103・104図）

位置 調査区南部のE 4j0区, 標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第4号住居跡に掘り込まれている。



第103図 第84号住居跡実測図

規模と形状 長軸5.2m, 短軸4.6mの長方形で, 主軸方向はN-11°-Wである。壁高は25~34cmで, 各壁とも外傾している。

床 ほほ平坦で, 硬化面は明確ではない。

炉 ほほ中央部に位置し, 長径68cm, 短径50cmの楕円形である。床面を9cm皿状に掘りくぼめた地床炉で, 火床面は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 明赤褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量

貯蔵穴 南東コーナー部に位置し, 長径78cm, 短径52cmの楕円形で, 深さは30cmである。

貯蔵穴土層解説

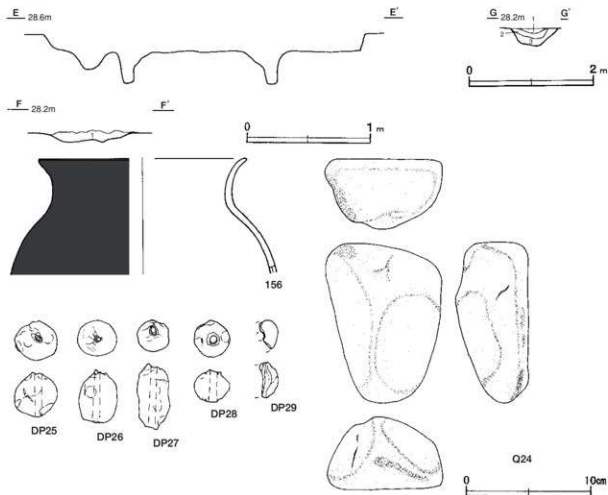
- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1~P3は, 深さ40~50cmで, 配置から主柱穴と考えられる。P4は深さ36cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ38cmであるが, 性格は不明である。

覆土 8層からなる。全体的に締りのある土層で, ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量 5 褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量 6 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 7 明褐色 ロームブロック少量
4 褐色 ロームブロック・炭化物微量 8 明褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量



第104図 第84号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器129点(甕類), 須恵器片2点(坏類), 土製品5点(球状土錘), 石製品1点(磨石)のほか, 混入した弥生土器片3点(壺類)も出土している。遺物の多くが破片で, 南東コーナー部の覆土上層に集中して出土している。156はP5の覆土上層, DP25・DP26・DP27・DP28は東壁寄りの覆土下層から床面に掛けてまとまって出土している。Q24は西壁寄りの床面から出土しており, いずれも本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から4世紀代と考えられる。

第84号住居跡出土遺物観察表(第104図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
156	土師器	壺	[16.4]	(9.2)	—	長石	橙	普通	体部内面ナデ, 外面ヘラ削り後, ナデ	P6上層 10%, 外面扉首

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP25	球状土錘	3.5	3.6	0.7	335	土(長石・石英)	指頭圧痕を残すナデ	床面	PL42
DP26	球状土錘	3.2	4.3	0.6	37.4	土(長石・石英)	指頭圧痕を残すナデ, 一方からの穿孔	下層	PL42
DP27	管状土錘	2.6	5.2	0.5	288	土(長石・石英)	指頭圧痕を残すナデ	床面	
DP28	球状土錘	2.8	2.6	0.9	17.2	土(長石・石英)	指頭圧痕を残すナデ, 一方からの穿孔	床面	PL42
DP29	球状土錘	(2.4)	2.9	(0.3)	(7.2)	土(長石・石英)	指頭圧痕を残すナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q24	磨石	12.8	9.3	5.9	851.0	砂岩	一側縁を使用, 下端に敲打痕	床面	

第92号住居跡(第105図)

位置 調査区中央部のD4d1区, 標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第100号住居跡, 第30号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.3m, 短軸3.2mの方形で, 主軸方向はN-6°-Wである。壁高は26~37cmで, 各壁とも外傾している。

床 ほぼ平坦で, 中央部から炉の周囲が軟弱である。

炉 中央部の北壁寄りに位置し, 長径68cm, 短径39cmの楕円形である。床面を5cm皿状に掘りくぼめた地床炉で, 火床面は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量 2 黒暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量

ピット 5か所。P1~P2は深さ19~48cmで, 配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ26cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4, P5は深さ52cmで, 性格は不明である。

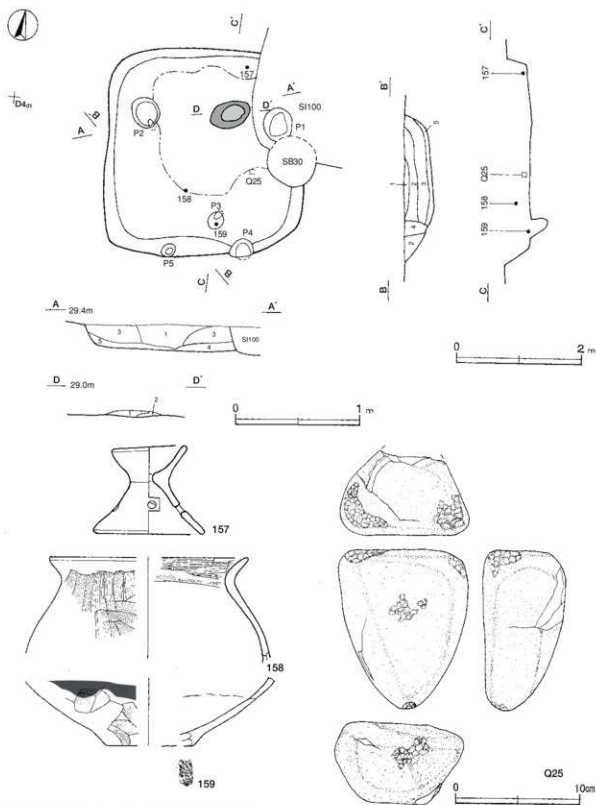
覆土 5層からなる。全体的に締りのない土層で, ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム粒子少量 4 黒 褐色 ローム粒子少量
2 暗 褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 5 褐 色 ローム粒子少量
3 黒 褐色 炭化物少量, ローム粒子少量, 砂微量

遺物出土状況 土師器片14点(器台1, 甕類13), 石器1点(敲石)のほか, 混入した弥生土器片8点(壺類)も出土している。157は北壁際の覆土下層, 159はP3の覆土上層から出土し, 廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から4世紀前半と考えられる。



第105図 第92号住居跡・出土遺物実測図

第92号住居跡出土遺物観察表 (第105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
157	土脚器	器台	3.8	7.0	8.6	長石・石英	橙	普通	脚部内面ヘラナデ、外面丁寧ナデ	下層	100% 丸窓4小所
158	土脚器	甕 [15.8]	(8.2)	-	-	長石・石英	にぶ黄橙	普通	口縁部内・外面ハケ目、体部内面ナデ	中層	10% 外顔塗付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
130	土師器	甕	-	(5.5)	[70]	長石・石英	橙	普通	体部内面ナメ	P 3 上層	10% 外面磨付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	磁石	12.7	10.5	(6.6)	(11156)	砂岩	敲打痕4か所	下層	

4 奈良時代の竪穴住居跡と遺物

今回の調査で確認された奈良時代の遺構は、竪穴住居跡26軒である。以下、検出された竪穴住居跡及び遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第4号住居跡 (第106・107図)

位置 調査区南部のE 4j9区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 北西コーナー部は南北方向に走る第3号溝跡、西部は第48号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれ、東壁が第84号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.6m、短軸5.5mの方形で、主軸方向はN-16°-Eである。壁高は84~95cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、竪前面から出入口施設にかけて踏み固められている。また、竪前面には構築材の粘土が流れ出している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで162cm、袖部幅138cmで、壁外への掘り込みは80cmほどである。天井部は崩落しており、5、6層が相当し、袖部は床面に小礫を混ぜ込んだ砂質粘土で構築されている。火床部は床面を8cmほど皿状に掘りくぼめ、熱を受けて硬化した火床面の上に使用による焼土が堆積している。煙道は火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	11 褐色	粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量
2 褐色	粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	12 にぶい赤褐色	粘土ブロック多量
3 暗赤褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	13 にぶい赤褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	14 暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
5 にぶい赤褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック・ローム粒子少量	15 黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土ブロック微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量、ローム粒子少量	16 暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量
7 にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量	17 暗赤褐色	粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物・小礫微量
8 暗赤褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック・ローム粒子少量		
9 赤褐色	焼土ブロック多量		
10 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量		

ピット 4か所。P 1~P 4は主柱穴に相当し、深さは55~94cmである。覆土はいずれも締りがなく、ブロックを含むことから、柱は抜き取られたものと思われる。

ピット土層解説

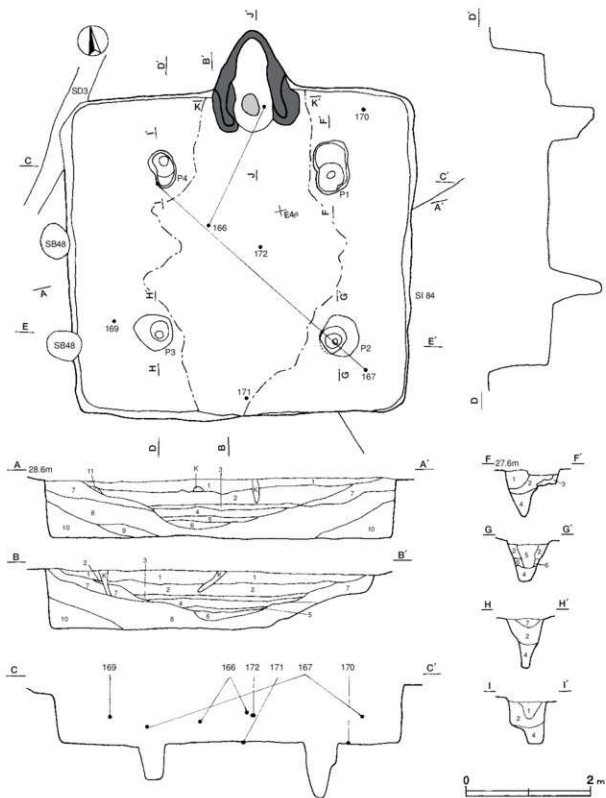
1 暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス粒子少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック少量、焼土ブロック微量	5 黒褐色	ローム粒子中量、鹿沼パミス粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック少量、焼土粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量、鹿沼パミス粒子少量
		7 暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス粒子少量

覆土 11層からなり、7~11層はロームブロックや鹿沼ブロックを含む人為堆積層で、1~6層は自然堆積と考えられる。

土層解説

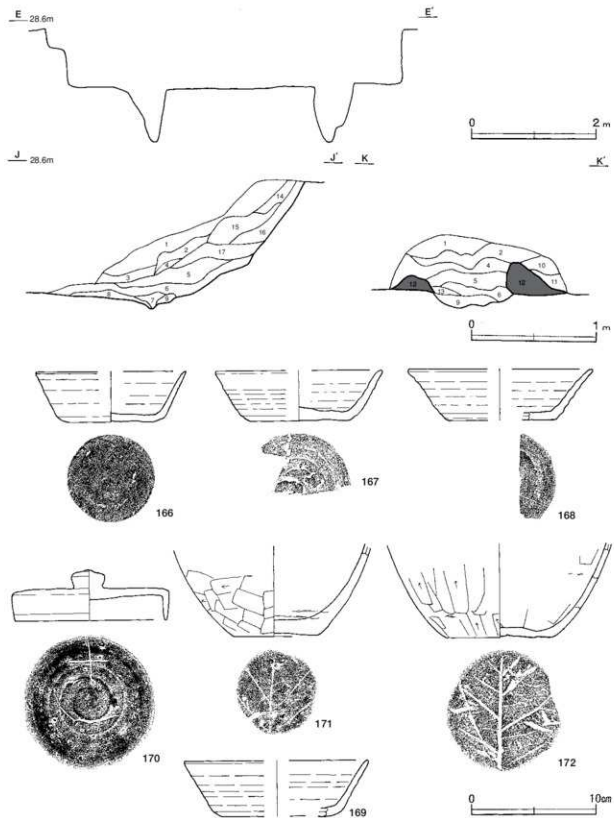
- 1 黒 褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 炭化物・ローム粒子少量,
- 6 暗 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量
- 7 黒 褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土ブロック微量

- 8 暗 褐色 ロームブロック中量, 焼沼パミスブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量
- 9 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼沼パミスブロック・赤色粒子微量
- 10 暗 褐色 ローム粒子中量, 焼沼パミス微量
- 11 暗 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量



第106図 第4号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片800点(坏類6, 甕類794), 須恵器片259点(坏類201, 蓋6, 甕類52), 鉄製品1点(不明)が覆土下層から床面にかけて出土している。そのほか, 流れ込みよる弥生土器片4点も出土している。166~169は覆土中層及び下層から出土し, 廃絶時に埋め戻した土と共に投棄されたものと考えられる。170, 171いずれも床面から出土したもので, 本跡に伴うものと考えられる。



第107図 第4号住居跡・出土遺物実測図

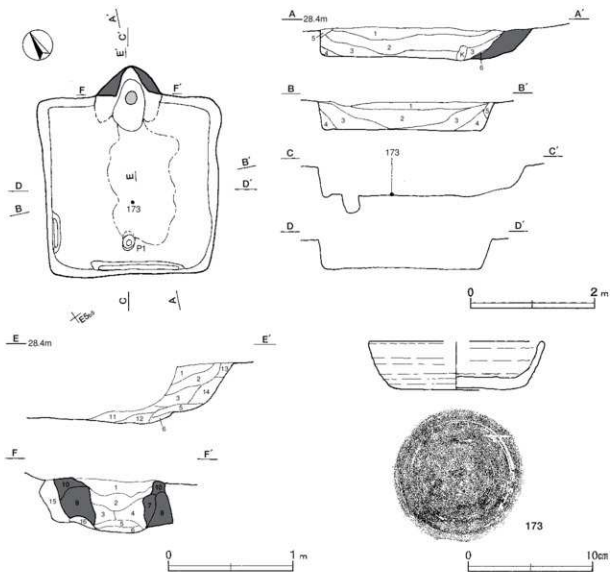
所見 時期は、床面から出土した土器から8世紀後半と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表 (第107図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
166	須恵器	坏	[12.0]	4	6.9	長石・石英・斜状鉱物	灰褐色	普通	底部多方向へのヘラ削り	中層	65% PL32
167	須恵器	坏	[13.2]	4	[8.0]	長石・石英	灰褐色	良好	体部回転への削り	中層	25%
168	須恵器	坏	[14.7]	4.1	[8.5]	長石	黄灰色	良好	底部回転への削り後、ヘラ削り	覆土中	25%
169	須恵器	坏	[14.6]	4.4	[8.6]	長石・石英	普通	普通	底部への削り	中層	20%
170	須恵器	蓋	12.0	4	-	長石・石英・黒色・赤色粒子	黄灰色	良好	天井部回転への削り	床面	100% PL38 顕著「十」
171	土師器	甕	-	(7.2)	6.9	長石・石英	にぶい橙	普通	外面への削り	床面	40%
172	土師器	甕	-	(7.4)	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面への削り、内面へのナデ	下層	40%

第10号住居跡 (第108図)

位置 調査区南東部のE5a5区、標高28mほどの台地上に位置している。



第108図 第10号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸2.9m、短軸2.8mの方形で、主軸方向はN-35°-Eである。壁高は40~45cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、竈前面から出入口施設にかけて地山のロームが硬化している。壁溝が南壁及び西壁の一部で確認された。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで104cm、袖部幅は100cmで、壁外への掘り込みは46cmほどである。天井部は崩落しており、袖部は床面に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめ、火床面は熱を受けて赤変硬化し、煙道は緩やかに傾斜して立ち上がる。

竈土層解説

1	褐色	ローム粒子・砂粒中量	10	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量、焼土粒子微量	11	灰褐色	砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック少量
3	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
4	褐色	焼土粒子中量、灰少量、炭化粒子微量	13	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
5	褐色	焼土ブロック多量、灰中量	14	暗赤褐色	焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック・炭化物・繊維微量
6	にぶ赤褐色	焼土ブロック多量	15	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量
7	褐色	砂質粘土粒子・繊維中量、ロームブロック少量	16	暗褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・繊維微量
8	褐色	砂質粘土粒子中量			
9	褐色	ロームブロック少量			

ピット P1は出入口施設に伴うピットで、深さは30cmほどである。

覆土 6層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	5	褐色	ローム粒子多量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗赤褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子・繊維微量
3	褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量			
4	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片70点（甕類）、須恵器片18点（坏類14、蓋1、甕類3）が中央部の覆土下層から床面にかけて出土している。173は中央部の床面から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から8世後半と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表（第108図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
173	須恵器	坏	138	48	10	長石・石英・斜状炭物	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	床面	75% P132

第19号住居跡（第109・110図）

位置 調査区南東部のE5 d3区、標高28mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.2m、短軸4.9mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は42~53cmで、各壁ともほぼ直立している。

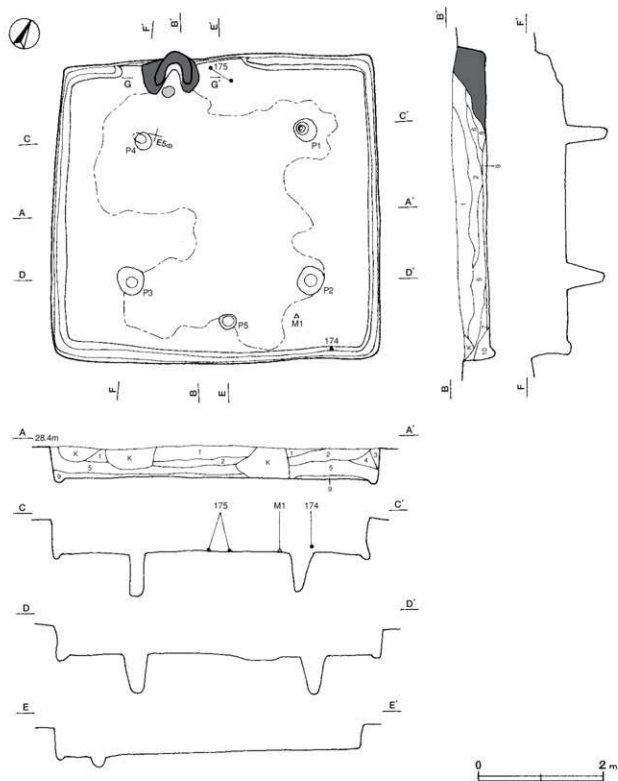
床 ほぼ平坦で、竈前面から出入口施設にかけて踏み固められており、壁溝は全周している。

竈 北壁中央部からやや西寄りに付設されており、焚口部から煙道部まで84cm、袖部幅92cmで、壁外への掘り込みは12cmほどである。天井部は崩落しており、袖部は床面に12~15cm掘りくぼめ、ロームを主体に床面と同じ高さまで埋め戻し、その上に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床とほぼ同じ高さで、火床面は熱を受けて赤変硬化しており、奥壁は外傾斜して立ち上がっている。

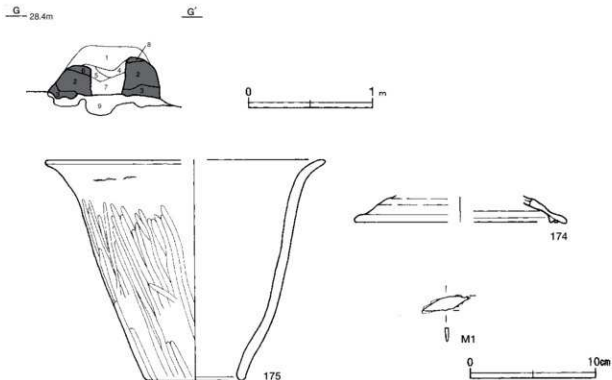
竈土層解説

1	褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量	4	暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
2	褐色	砂質粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	5	暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
3	褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子微量			

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|------------------------------|
| 6 暗赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量 | 8 暗赤褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 7 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量 | 9 褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック微量 |



第109図 第19号住居跡実測図



第110図 第19号住居跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは63～68cmで、いずれも底面は鹿沼軽石層を掘り抜いてハードローム層まで達している。P5は出入口施設に伴うピットであり、深さは20cmである。

覆土 10層からなり、全体的にやや締りのある土層で、土層断面中の5～10層はロームブロックを多く含むことから人為的に埋められたものと考えられ、3、4層は壁の崩落土で、1、2層はレンズ状を呈する自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒 褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 6 黒 褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子多量 | 8 褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、砂粒少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗 褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 暗 褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片289点(坏類26, 甕類263), 須恵器片14点(坏類9, 甕類5), 鉄製品1点(刀子)が覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる縄文土器片1点, 弥生土器片9点も出土している。174は南東コーナーの覆土下層, M1は南部の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に廃棄されたものと考えられる。175は竈東側の床面から出土した破片が接合されたものであり、竈で使用されていたものと考えられる。

所見 時期は、床面から出土した土器から8世紀前半と考えられる。

第19号住居跡出土遺物観察表(第110図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
174	須恵器	蓋	[16.7]	(2.1)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	ロクロナゲ	下層	5%
175	土師器	甕	[21.9]	17.6	7.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部外面へラ増き、内面丁寧なナゲ	覆土中	70% PL31

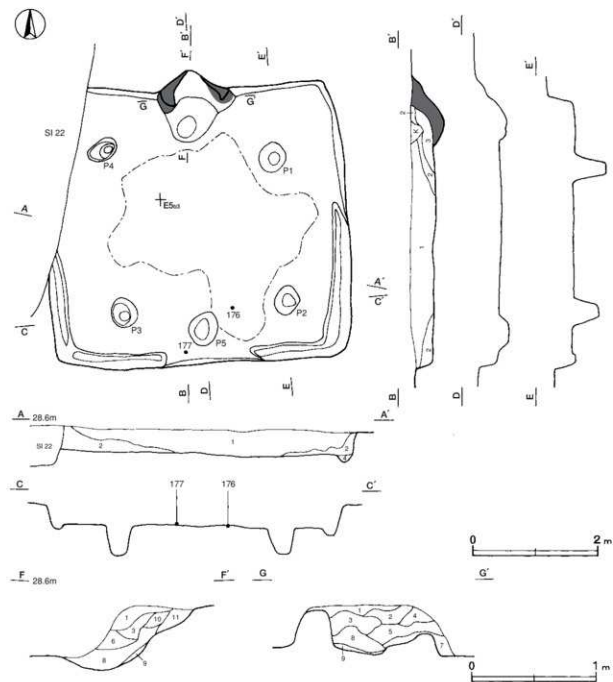
番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M1	刀子	3.6	1.4	0.3	2.2	鉄	切先部片	床面	PL43

第21号住居跡 (第111・112図)

位置 調査区南部のE 5 b3区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 西部を第22号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.8m、短軸4.4mの方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は26~44cmで、各壁ともほぼ直立している。



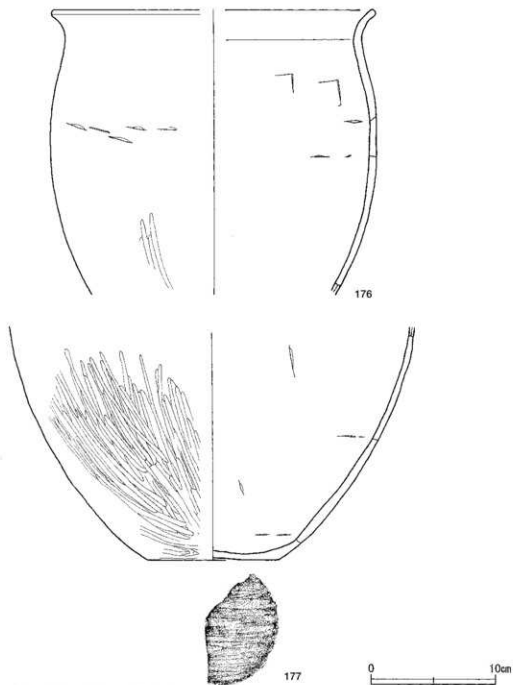
第111図 第21号住居跡実測図

床 平坦で、中央部に残る地山のロームは特に硬化している。竈前面には流れ出したと思われる焼土や粘土が散っている。壁溝が南東部及び南西部の一部で確認されている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで113cm、袖部幅124cmで、壁外への掘り込みは30cmほどである。天井部は崩落し、袖部は地山に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面を11cmほど掘りくぼめ、火床面は熱を受けて硬化しており、煙道は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、砂質粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 8 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土ブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 | 10 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 11 褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量 | | |



第112図 第21号住居跡出土遺物実測図

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴に相当し、深さは40～52cmである。P5は出入口施設に伴うピットと思われ、深さは14cmである。

覆土 4層からなり、全体的に締りのある土層であり、レンズ状の推積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・細礫微量	3 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、細礫微量
2 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	4 暗 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片202点（坏類1，堯類201），須恵器片26点（坏類20，蓋5，堯類1）が覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。ほとんどが細片のため図示できたものは少ないが、176・177は南部壁際の床面からそれぞれ出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、西部を掘り込んでいる第22号住居跡が9世紀中葉であることや、本跡の南4mに位置するほぼ同じ主軸方向の第9号住居跡が8世紀前葉であること、さらに出土土器から8世前半と考えられる。

第21号住居跡出土遺物観察表（第112図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
176	土師器	壺	[25.4]	[22.6]	-	長石・石英・雲母・微塵	橙	普通	体部内面ヘラナデ、外面ヘラ磨き	床面	15%
177	土師器	壺	-	[18.5]	[10.4]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内面ヘラナデ、底部外面ヘラ磨き	床面	20%

第24号住居跡（第113・114図）

位置 調査区南東部のE5a6区、標高28mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.0m、短軸3.9mの方形で、主軸方向はN-30°-Eである。南部は削平されて壁高が28cm前後であり、北部は62cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、特に硬化した部分は確認されなかった。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで104cm、袖幅133cmで、壁外への掘り込みは23cmほどである。天井部は崩落しており、3層が相当し、袖部は砂質粘土と細礫で構築されていたと思われる。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめ、火床面は熱を受けて赤変硬化している。煙道は奥壁部に砂質粘土が貼られ、外傾して立ち上がっている。

土層解説

1 暗 褐色	ローム粒子中量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量	7 暗 赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・細礫少量	8 灰 褐色	粘土粒子多量
3 暗 赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量	9 暗 赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4 暗 赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土ブロック・ローム粒子少量	10 暗 赤褐色	砂粒中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・礫少量
5 暗 赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	11 明 褐色	砂粒・礫中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
6 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・細礫少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 明 赤褐色	砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子少量
		13 赤 褐色	砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は掘り方が浅く、配置が不規則であり、性格は不明である。P5は出入口施設に伴うピットと思われ、深さは20cmである。

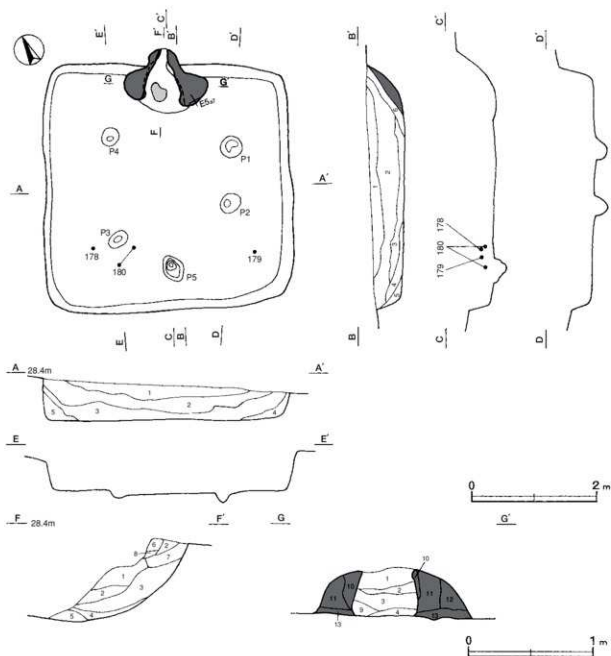
覆土 6層からなり、締りのない土層であり、ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

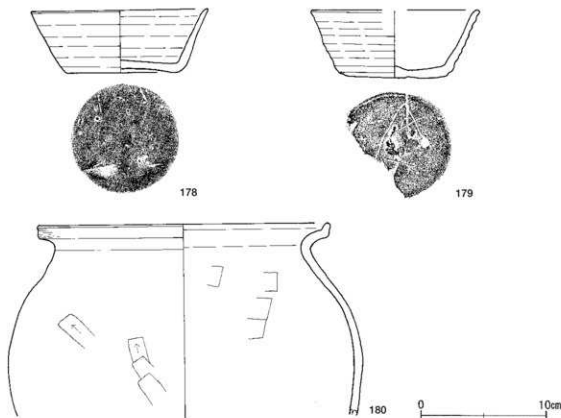
- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片316点(坯類7, 変類309), 須恵器片26点(坯類18, 変類8)が覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。178・180は西部, 179は南東部の覆土中層からそれぞれ出土しており, 廃絶時期に埋め戻した土と共に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後半と考えられる。



第113図 第24号住居跡実測図



第114図 第24号住居跡・出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表 (第114図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
178	灰土器	杯	14.2	5.0	8.7	長石・石英・燧礫	灰	普通	底部外面多方向のヘラ削り	下層	80% PL32
179	灰土器	杯	[13.3]	5.4	8.4	長石・針状鉱物	灰	良好	底部回転ヘラ削り	下層	40% 笠巻「十」
180	土陶器	甕	23.2	(15.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ、外面ヘラ削り	床面	25%

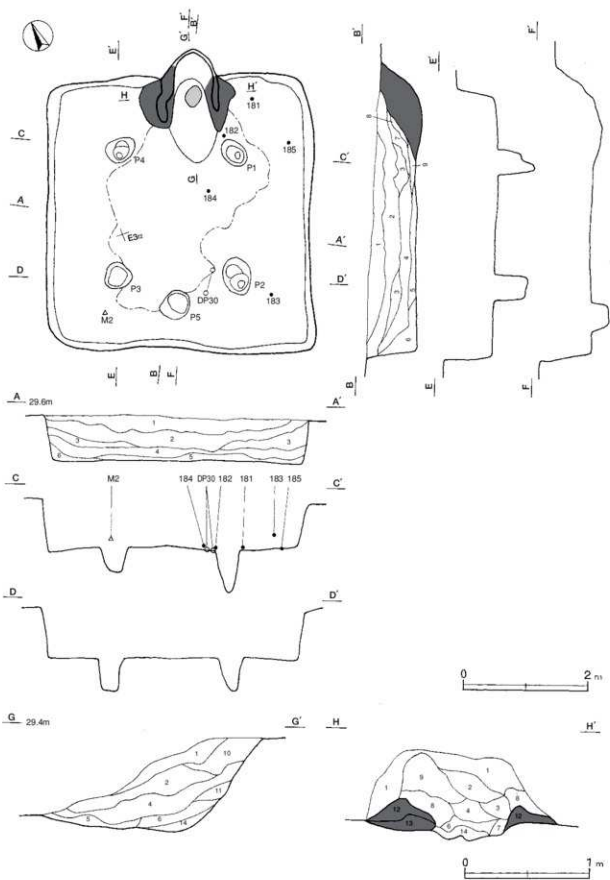
第25号住居跡 (第115・116図)

位置 調査区南西部のE3f2区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.4m、短軸4.2mの方形で、主軸方向はN-21°-Eである。壁高は60~80cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部は地山をそのまま利用し、竈前面から出入口施設にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで182cm、袖部幅154cmで、壁外への掘り込みは40cmほどである。天井部及び袖上部は崩落し、袖部は床面をやや掘りくぼめ、細礫を混ぜた砂質粘土で構築されている。火床部は床面を楕円形に12cmほど掘りくぼめ、火床面は熱を受けて赤変硬化している。奥壁は砂質粘土が貼られ、煙道部は外傾して立ち上がっている。

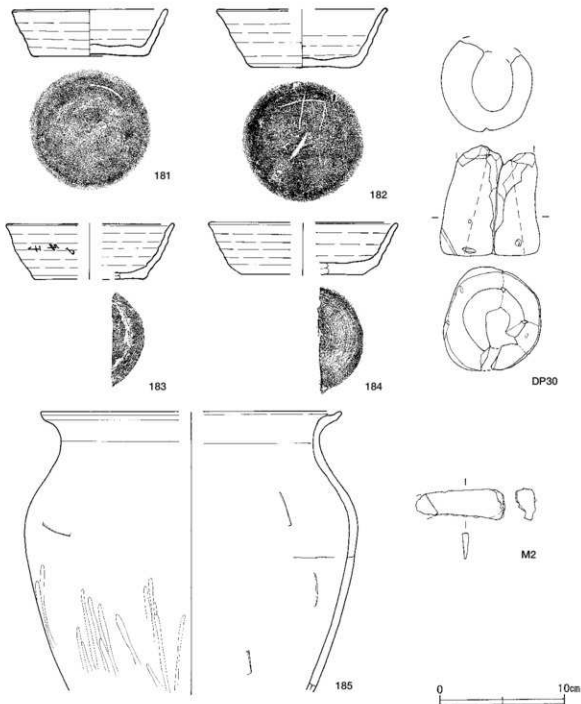


第115图 第25号住居跡実測図

甕土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・細礫少量, 炭化粒子微量	8 暗褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 灰褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化物・礫微量	9 暗赤褐色	焼土粒子中量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・細礫微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量, 細礫少量, ロームブロック・炭化物微量	10 暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・細礫微量
4 暗赤褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・細礫少量	11 黒褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・細礫少量
5 黒褐色	焼土粒子少量, ロームブロック・砂質粘土ブロック微量	12 暗赤褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量
6 暗赤褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・細礫微量	13 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化物微量
7 にお赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物少量, 砂質粘土ブロック微量	14 赤黒色	焼土ブロック多量, ロームブロック少量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さは50～68cmである。いずれの底面もソフトローム層中である。P2は補助的な柱を伴っていたと思われ、P5は出入口施設に伴うピットで、深さは30cmである。



第116図 第25号住居跡出土遺物実測図

覆土 9層からなり、全体的に締りはないが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量	7	黒褐色	ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化物少量
2	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子多量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量	9	暗赤褐色	ローム粒子多量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量			
5	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量			
6	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片363点（坏類6、寛類357）、須恵器片55点（坏類43、盤2、蓋2、寛類8）、土製品2点（支脚、羽口片）が覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。また、DP30の羽口は中央部の床面から出土しているが、本跡に鍛冶関連の痕跡が認められないことから投棄されたものと考えられる。181、182、185は東部、184は中央部の床面からそれぞれ出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第25号住居跡出土遺物観察表（第116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
181	須恵器	坏	12.5	3.7	9	長石・針状炭物	灰	良好	底部回転ヘラ削り	床面	90% PL32 照書「一」
182	須恵器	坏	[13.4]	4.6	8.4	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	床面	70% PL32 照書「カ」
183	須恵器	坏	[13.4]	4.4	[8.6]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り	下層	30% 照書「□□□□」
184	須恵器	坏	[15.0]	4.6	[9.6]	長石・石英・針状炭物	灰白	普通	底部回転ヘラ削り	下層	30%
185	土師器	蓋	[24.0]	(22.2)	-	長石・石英・赤色	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ、外面ヘラ磨き	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP30	羽口	(8.6)	7.9	(7.2)	(383.6)	土製	棒状工具圧痕、上部欠損	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	竈	(7.1)	2.5	0.4	(16.1)	鉄	基部は全体を折り返す、裏面下部に横線付着	下層	PL44

第29号住居跡（第117・118図）

位置 調査区南西部のE3d1区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.4m、短軸2.9mの長方形で、主軸方向はN-29°-Eである。壁高は47~58cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部は掘り残された地山のロームがよく硬化し、その周囲はロームブロックを含む黒褐色土の貼り床である。

竈 北壁のほぼ中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで114cm、袖部幅112cmで、壁外への掘り込みは28cmほどである。天井部及び袖上部は崩落し、袖部は床面に細礫を混ぜた砂質粘土で構築されていたものと思われる。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめ、火床面は熱を受けて硬化しており、奥壁は薄く砂質粘土が貼られ、外傾して立ち上がっている。

土層解説

1	暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量	5	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土ブロック・ローム粒子少量	6	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子少量
3	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物・砂質粘土ブロック微量	7	暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
4	暗赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土ブロック・ローム粒子少量	8	暗褐色	ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量

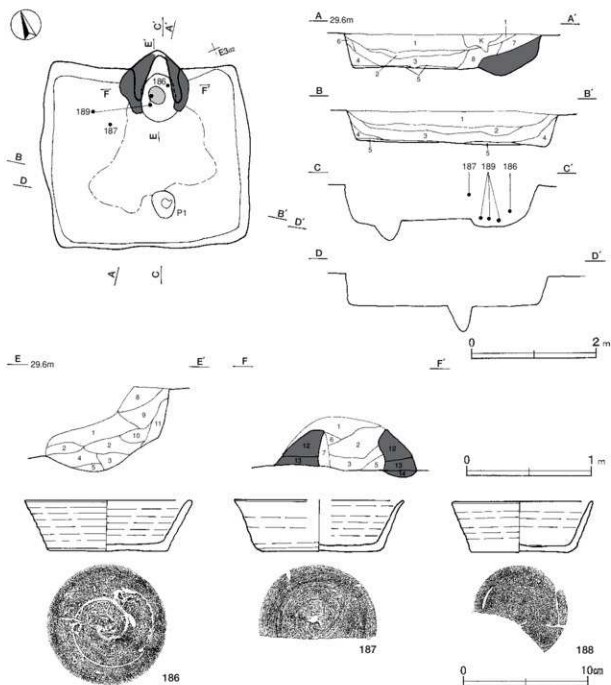
- | | | | |
|---------|-----------------------------|---------|------------------------------|
| 9 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量 | 13 暗赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化物微量 | 14 暗赤褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子微量 |
| 11 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | | |
| 12 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子・細礫少量 | | |

ピット P1は出入口施設に伴うピットと思われる、深さは40cmである。

覆土 8層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

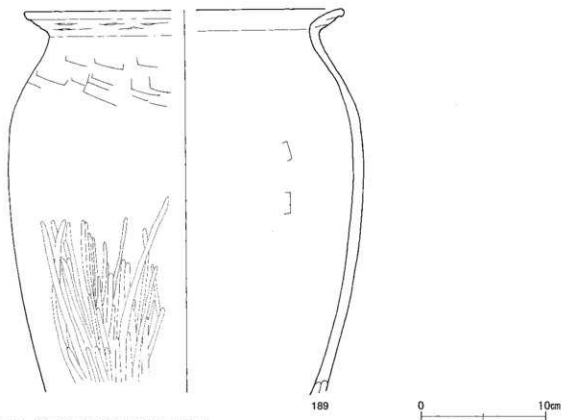
- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子・細礫少量, 炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量, 小礫微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量 | | |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子少量 | | |



第117図 第29号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片314点（坏類5，堯類309），須恵器片7点（坏類），土製品4点（支脚片）が中央部から北部の覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。186，189は竈の火床部から，187は北部の中層からそれぞれ出土しており，本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第118図 第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表（第117・118図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
186	須恵器	坏	13.4	4.2	9.4	長石・針状鉱物	灰白	普通	底部回転ヘラ削り	竈下層	100% PL32
187	須恵器	坏	[13.4]	4.1	9.4	長石・石英・針状鉱物	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	下層	40%
188	須恵器	坏	11.2	4.1	7.6	長石・針状鉱物	灰	良好	底部回転ヘラ削り	覆土中	40%
189	土師器	堯	[25.4]	(30.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ，外面ヘラ磨き	竈下層	30%

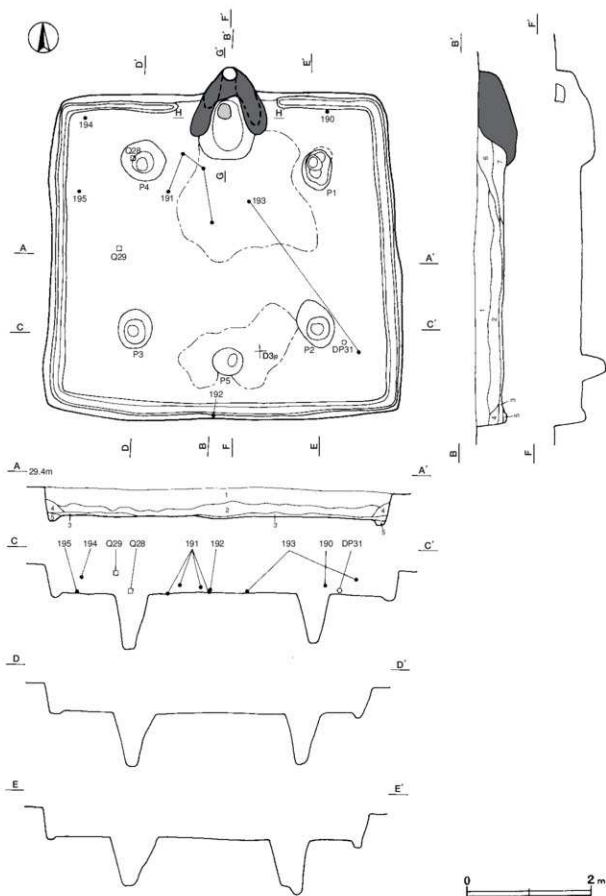
第38号住居跡（第119・120図）

位置 調査区中央部のD3i8区，標高29mほどの台地上に位置している。

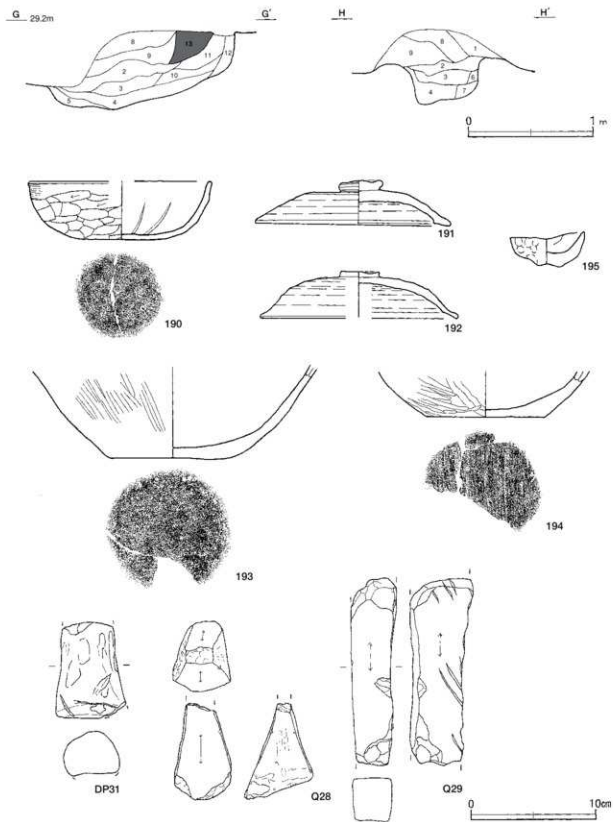
重複関係 第32号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.5m，短軸5.3mの方形で，主軸方向はN-11°-Eである。壁高は44cm前後で，各壁ともほぼ直立している。

床 平坦で，竈前面及び出入口施設の付近は踏み固められ，竈の周囲には構築材と思われる粘土が流れ出している。壁溝は全周している。



第119图 第38号住居跡实测图



第120図 第38号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで146cm、袖部幅118cmで、壁外への掘り込みは43cmほどである。天井部及び袖上部は崩落しており、土層断面中の3層が相当し、さらに床面にまで流れ出している。袖部は床面に細礫を混ぜた砂質粘土で構築されていたものと思われる。火床部は20cmほど皿状に掘りく

はめられ、火床面は熱を受けて硬化している。煙道天井部の一部は赤化した砂質粘土が残存しており、内壁の粘土も赤変し、外傾して立ち上がっている。

壁土層解説

1 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・小礫少量、炭化粒子微量	7 暗赤褐色	砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子中量
2 黒色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量、砂質粘土ブロック・砂粒微量	8 暗褐色	ローム粒子・砂粒中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土粒子・砂粒多量、砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量	9 黒褐色	ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・砂粒少量、炭化物微量
4 暗赤褐色	砂粒多量、砂質粘土ブロック・焼土粒子中量、ロームブロック少量	10 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量
5 暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・砂粒中量	11 暗赤褐色	焼土粒子・砂粒中量
6 暗赤褐色	砂粒多量、砂質粘土ブロック・焼土粒子中量	12 暗赤褐色	ロームブロック・砂粒中量、焼土粒子少量
		13 褐色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子・小礫少量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さはいずれも80cm前後である。P5は出入口施設に伴うピットと思われ、深さは38cmである。

覆土 7層からなる。全体的にやや締りのある土層であり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量
3 黒褐色	ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量		
4 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量		
5 暗褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 土師器片525点（坏類46、甕類479）、須恵器片40点（坏類19、蓋18、甕類3）、鉄製品5点（鎌）、土製品1点（支脚）が北部を中心に覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる縄文土器片1点、弥生土器片13点も出土している。191は竈の焚き口付近、192は南部壁際、195は西部の床面からそれぞれ出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第38号住居跡出土遺物観察表（第120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
190	土師器	坏	[14.5]	4.7	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部ナデ、体部内面ヘラナデ、底部外面ヘラ削り	床面	70% PL32
191	須恵器	蓋	15.7	3.5	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	75% PL38
192	須恵器	蓋	[15.6]	3.7	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部傾斜付け後ナデ	下層	30%
193	土師器	甕	-	(7.4)	9.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削き、底部外面ナデ	下層	10%
194	土師器	甕	-	(3.6)	9.6	長石・石英・雲母	橙	普通	底部外面ヘラ削き	下層	5%
195	土師器	手捏	5.8	2.7	1.8	長石・石英	糊灰	普通	内面ナデ、外面指頭圧痕	床面	90% PL32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q28	砥石	(7.6)	4.6	5.6	(139.6)	凝灰岩	砥面4面	床面	PL43
Q29	砥石	(14.8)	(5.1)	(3.7)	(357.3)	砂岩	砥面4面	中層	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP31	支脚	(7.7)	(5.5)	(3.5)	(189.4)	土製	指頭圧痕を残すナデ	下層	

第39号住居跡（第121・122図）

位置 調査区西部のE2a5区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.9m、短軸3.5mの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は45～60cmで、各壁ともほ

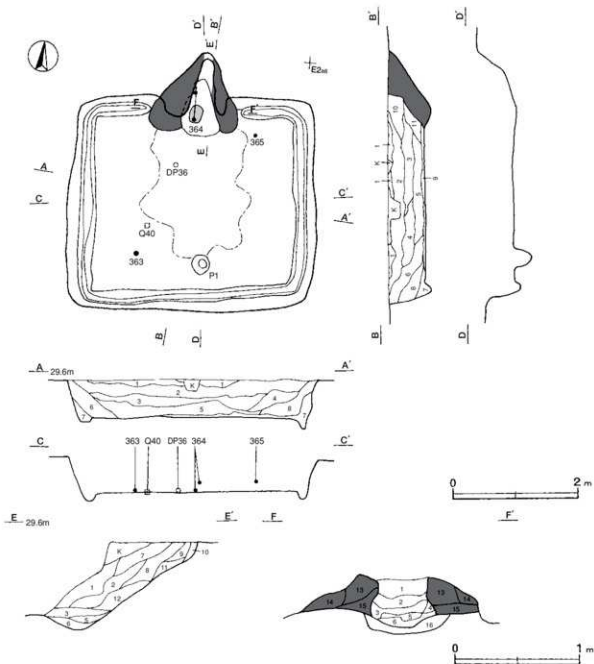
は直立している。

床 平坦で、竈前面から出入口施設にかけてよく踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで134cm、袖部幅142cmで、壁外への掘り込みは70cmほどである。天井部は崩落し、袖部は床面からロームブロックを混ぜた砂質粘土で構築されている。火床部は床面を12cmほど掘りくぼめ、ロームブロック、焼土を含む暗赤褐色土で埋め戻された面にあり、火床面は熱を受けて赤変硬化している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 | 7 褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量, 礫粒微量 | 8 暗赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子中量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 | | |
| 5 暗赤褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック少量 | | |



第121図 第39号住居跡実測図

- | | | | |
|----------|---------------------------------|---------|----------------------------------|
| 9 暗褐色 | ローム粒子多量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量 |
| 10 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 | 15 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・小礫少量 |
| 11 暗赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子中量 | 16 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量 |
| 12 暗赤灰色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 | | |
| 13 濃い赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子・細礫少量 | | |

ピット 1か所。P1は出入口施設に伴うピットと思われる。深さは30cmである。

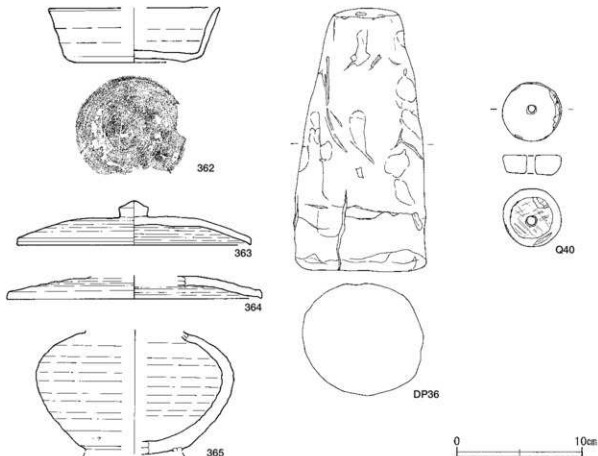
覆土 11層からなり、全体的にやや締りのある土層であり、レンズ状の推積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|--------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子・細礫微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片12点(甕類), 須恵器片20点(坏類4, 蓋8, 壺類2, 甕類6), 土製品2点(支脚), 石製品1点(紡錘車)が覆土下層から床面にかけて出土している。363は南部の床面から逆位で出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第122図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表 (第122図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
362	須恵器	坏	13.6	4.2	8.8	長石・針状炭物	黄灰	普通	底部回転へう切後、回転へう割り	覆土中	30%
363	須恵器	蓋	18.7	3.5	-	長石・針状炭物	黄灰	普通	天井部回転へう割り	床面直上	100% PL38
364	須恵器	蓋	20.2	(1.8)	-	長石	灰	普通	天井部回転へう割り	竈火床	60%
365	須恵器	短脚壺	-	(9.7)	-	長石	灰白	良好	体部下端へう割り	下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D736	支脚	21.0	10.7	8.9	197.2	土製	指頭圧痕を残すナデ	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q40	結核車	4.7	4.7	1.6	46.0	滑石	下面多方向の研磨痕	床面	PL42

第40号住居跡 (第123・124図)

位置 調査区南部のE 3 h3区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 北部の約70%を第23号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 確認された南壁及び東壁は約3.4mで、方形と想定され、主軸方向はN-17°-Eである。壁高は53~63cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、壁溝が確認された各壁下で検出されている。

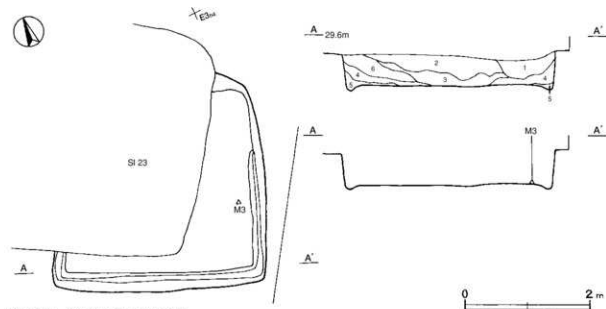
覆土 6層からなり、全体的にやや締りのある土層で、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

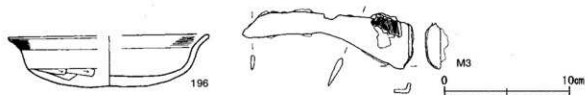
- | | | | |
|--------|----------------|---------|-----------|
| 1 褐 色 | ローム粒子中量 | 4 極層 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒 褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片39点(坏類1, 甕類38), 須恵器片10点(坏類6, 甕類4), 鉄製品1点(鎌), 土製品1点(支脚)が覆土中層から下層にかけて出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片1点も出土している。196は覆土中、M3は西部の床面からそれぞれ出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第123図 第40号住居跡実測図



第124図 第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表 (第124図)

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
196	土師器	杯	16.0	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい陶	普通	口辺部ナデ、底部外面ナデ	覆土中	50%

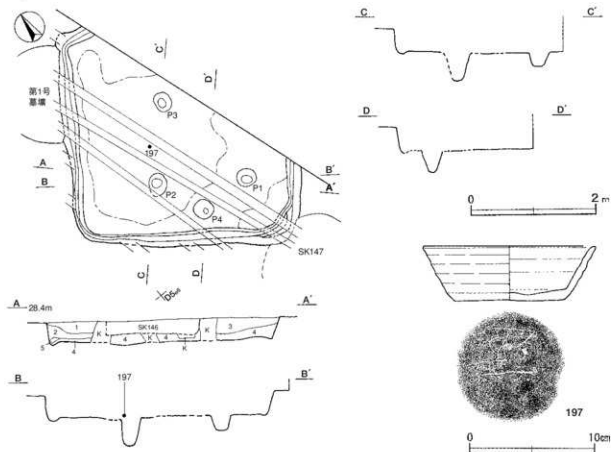
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	鏝	(13.7)	4.8	0.3	(34.9)	鉄	基部は全体を折り返す	床面	

第42号住居跡 (第125図)

位置 調査区南東部のD 5 d6区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 北部が第1号墓塚、中央部が第146号土坑、南部が第147号土坑にそれぞれ掘り込まれ、南東部は調査区外に延びている。

規模と形状 確認された長軸は約3.7m、短軸は約3.5mで、方形と想定され、主軸方向はN-29°-Eである。壁高は31~36cmで、各壁ともほぼ直立している。



第125図 第42号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、中央部から北部にかけて踏み固められており、壁溝が確認された壁下で検出されている。

ピット 4か所。P1～P3は主柱穴に相当し、深さは24～26cmである。P4は出入口施設に伴うピットと思われる、深さは32cmである。

覆土 5層からなり、全体的に締りがなく、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5	褐色	ロームブロック少量
3	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片58点（坏類9、甕類49）、須恵器片32点（坏類26、甕類6）が覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる縄文土器片1点、弥生土器片5点も出土している。ほとんどが細片のため図示することができないが、197は中央部床面からつぶれた状態で出土しており本跡に伴うものと考えられる。

所見 本跡は北東部が調査区外のため、竈を含む3分の1ほどが調査できなかったため、遺物量も少なく明確な時期は特定できないが、出土した土器から8世紀後半と考えられる。

第42号住居跡出土遺物観察表（第125図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
197	須恵器	埴	13.6	4.3	8.8	長石	灰白	普通	底部外面へ傾り	床面	40% P132 遺書 [17]

第52号住居跡（第126・127図）

位置 調査区南東部のD5j2区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 北西コーナー部を第7号溝跡、南壁を第22号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.8m、短軸3.3mの長方形で、主軸方向はN-22°-Eである。壁高は44～52cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、竈前面から出入口施設にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで132cm、袖部幅116cmで、壁外への掘り込みは60cmほどである。掛け口付近の天井部は崩落しており、土層断面中の4層が相当し、粘土ブロックや焼土を多く含んでいる。火床部は22cmほど皿状に掘りくぼめられ、火床面は熱を受けて赤変硬化している。また、火床部奥から煙道にかけての天井部は残存し、煙道内にはローム粒子、焼土粒子や砂質粘土を含んだ黒褐色土が堆積している。

土層解説

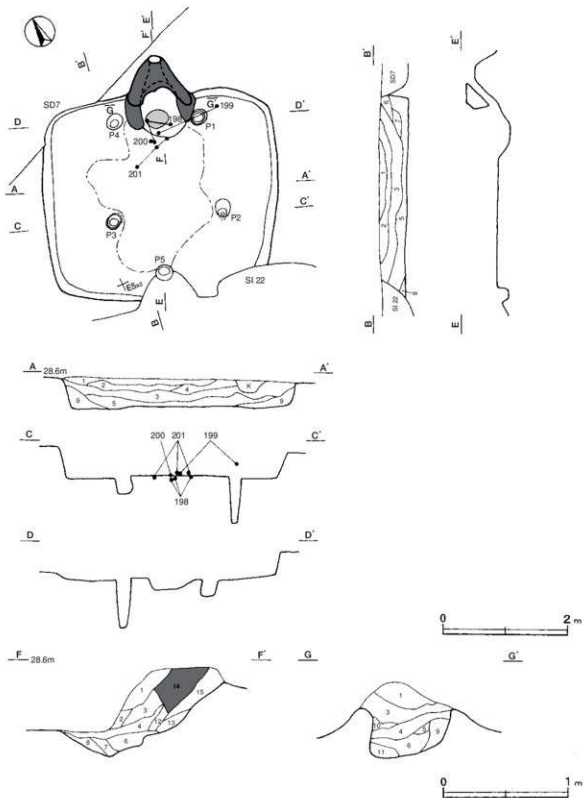
1	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量	8	暗赤褐色	砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子少量
2	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子少量	9	暗赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子微量
3	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土粒子微量	10	暗赤褐色	砂質粘土ブロック・砂粒中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
4	暗赤褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	11	暗赤褐色	焼土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量
5	暗赤褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量	12	暗赤褐色	砂粒多量、焼土粒子中量
6	暗赤褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量	13	暗赤褐色	砂粒多量、焼土粒子中量、砂質粘土ブロック・ローム粒子少量
7	暗赤褐色	焼土・砂粒中量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック微量	14	褐色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子・細粒微量
8	暗赤褐色	砂質粘土ブロック・砂粒多量、焼土ブロック中量、ローム粒子少量	15	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量、砂質粘土ブロック少量
9	暗赤褐色	砂粒多量、ローム粒子・焼土粒子少量			

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さはP1、P3が30cm前後、P2、P4は80cm前後である。P5は出入口施設に伴うピットと思われる、深さは23cmである。

覆土 9層からなり、全体的に締りはないが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

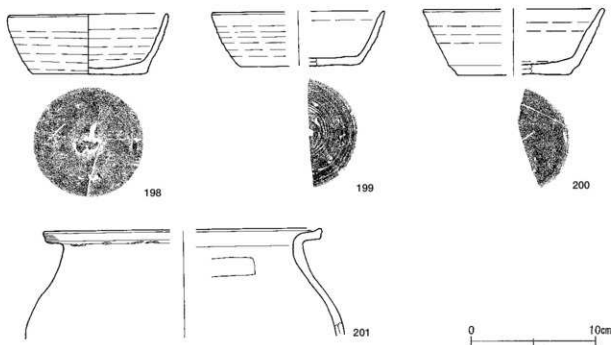
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |



第126図 第52号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片158点（坏類3，甕類155），須恵器片44点（坏類30，蓋1，甕類13）が北部の覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片4点も出土している。198、200、201は竈前の床面からそれぞれ出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土した土器の形状から8世紀中葉と考えられる。また、柱穴の配置から、P2・P3は椽持ち柱的で、上屋構造も特異なものと思定される。



第127図 第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
198	須恵器	坏	127	4.8	8.8	長石	灰	良好	底部回転ヘラ切り後、ナデ	床面	75% PL32
199	須恵器	坏	[13.6]	4.3	[9.4]	長石・石英・針状鉱物	灰白	普通	底部回転ヘラ切り	下層	40%
200	須恵器	坏	[14.4]	5.2	[8.8]	長石	灰	良好	底部多方向のヘラ削り	床面	20%
201	土師器	甕	[22.2]	(8.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ	床面	10%

第55号住居跡（第128・129図）

位置 調査区南東部のC5 d1区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 南東コーナーが第54号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.5m、短軸4.4mの方形で、主軸方向はN-21°-Eである。壁高は斜面上部で32cm、下部は14cmで、各壁ともほぼ直立している。

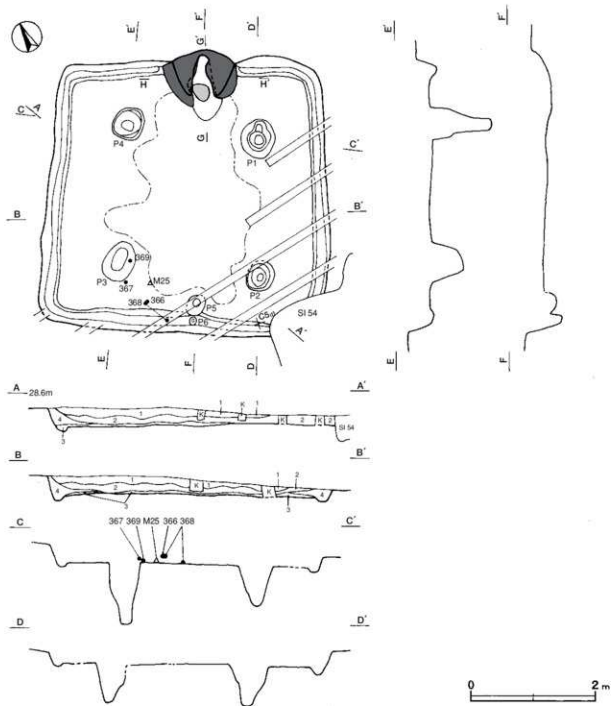
床 ほぼ平坦で、竈前面から出入口施設にかけて踏み固められており、壁溝が確認された壁下で検出されている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで113cm、袖部幅118cmで、壁外への掘り込みは20cmほどである。天井部は削平され、火床部及び袖部は床面を15cmほど掘りくぼめた部分にロームブロックを主体に床面とほぼ同じ高さに埋め戻された上に構築されている。袖部は砂粒を多量に含む砂質粘土で構築されて

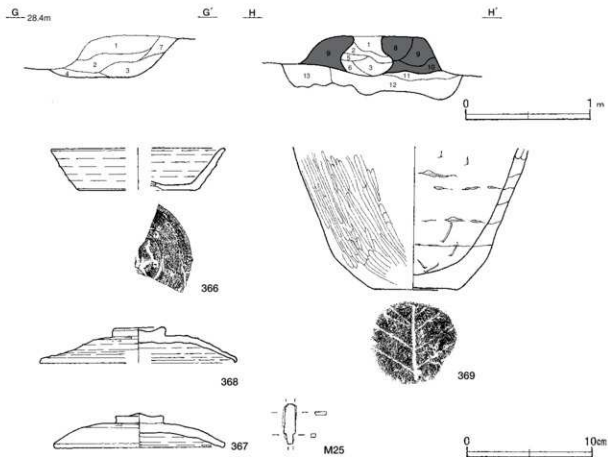
いる。火床面は他の同時期の住居跡に比べてやや内側に位置し、熱を受けて赤変硬化している。火床部奥壁は粘土が貼られ赤変している。

壁土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|-----------|---|
| 1 黒 褐色 | 砂質粘土ブロック多量、ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック・砂粒多量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 2 黒 褐色 | 砂質粘土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量 | 9 にぶい褐色 | 細礫微量(砂質粘土層) |
| 3 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 10 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・砂粒中量、焼土粒子少量 |
| 4 黒 褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 11 暗赤褐色 | ロームブロック・砂粒・焼土粒子中量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・砂粒中量 | 12 にぶい赤褐色 | ロームブロック多量、砂粒中量、焼土ブロック・炭化粒子少量、砂質粘土ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 砂粒多量、砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 13 褐 色 | ロームブロック多量、砂粒少量、焼土ブロック微量 |
| 7 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量 | | |



第128図 第55号住居跡実測図



第129図 第55号住居跡・出土遺物実測図

ピット 6か所。P 1～P 4は主柱穴に相当し、深さはP 1～P 3が50～65cmで、P 4は96cmである。P 5は出入口施設に伴うピットと思われ、深さは17cmで、壁溝中に小ピットを伴っている。

覆土 4層からなり、全体的に締りはなく、ロームブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量 3 暗 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 4 層 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片160点（坏類2，甕類158），須恵器片44点（坏類22，蓋21，甕類1）が東部から南部にかけての覆土下層から床面にかけて出土している。367，369は南部の床面から出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

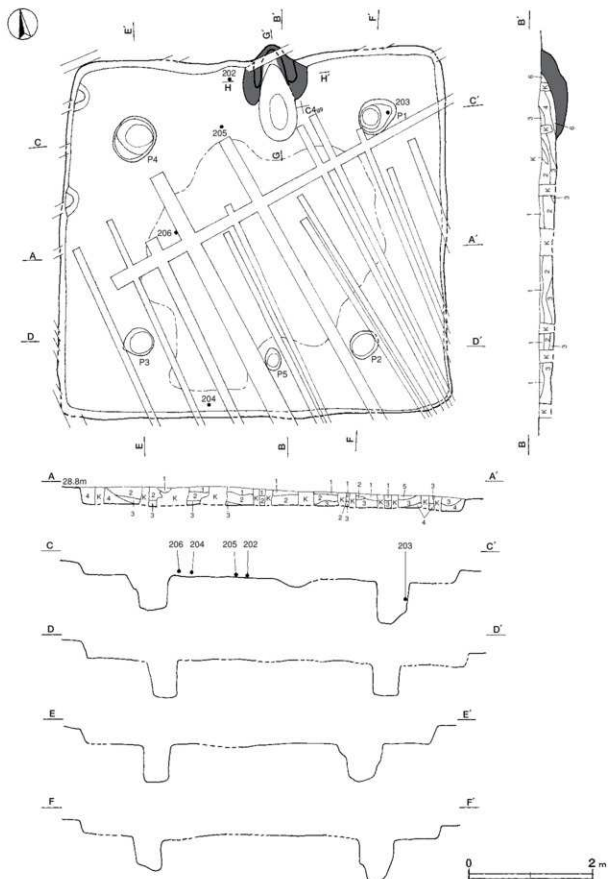
第55号住居跡出土遺物観察表（第129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
366	須恵器	坏	138	3.3	9.0	長石・石英・斜状鉱物	黄灰	普通	底部回転ヘラ切刃、回転ヘラ削り	下層	30%
367	須恵器	蓋	13.5	2.7	-	長石・石英・斜状鉱物	陶灰	普通	天井部回転ヘラ削り	下層	95% PL38
368	須恵器	蓋	15.6	2.8	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	下層	40%
369	土師器	甕	-	11.2	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	底部内面放射状の工具痕	床面	25%

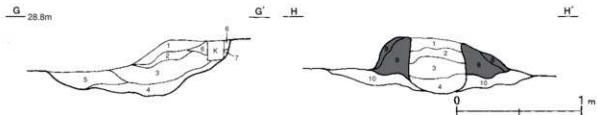
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M25	刀子	(3.2)	1.1	0.5	(2.7)	鉄	両部片、両側	床面	

第57号住居跡 (第130~132図)

位置 調査区東部のC 4 g8区、標高28mほどの台地上に位置している。



第130図 第57号住居跡実測図(1)



第131図 第57号住居跡実測図②

規模と形状 長軸6.2m, 短軸5.8mの方形で, 主軸方向はN-6°-Eである。壁高は15~25cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部から出入口施設にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部からやや東寄りにつ設されており, 焚口部から煙道部まで152cm, 袖部幅103cmで, 壁外への掘り込みは20cmほどである。天井部は廃棄の際に破壊されたものと推測され, 覆土には上層から下層にかけて構築材と思われる砂質粘土や焼土が多く含まれている。袖部は25cmほど掘りくぼめた部分にロームブロックを主体に床面と同じ高さまで埋め戻し, その上に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は20cmほど皿状に掘りくぼめられ, 火床面は熱を受けて硬化している。煙道は火床部から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

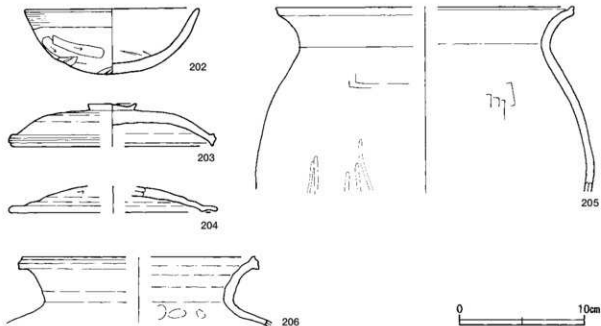
- | | | | |
|---------|-----------------------------|---------|---------------------------------------|
| 1 にいふ褐色 | 砂粒多量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量 | 7 褐色 | ローム粒子多量, 砂質粘土ブロック・砂粒少量 |
| 2 暗赤褐色 | 砂粒多量, 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・砂粒中量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化物少量 |
| 3 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量 | 9 にいふ褐色 | 砂質粘土ブロック・砂粒多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・砂粒中量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | | |
| 6 暗赤褐色 | 砂粒中量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 | | |

ピット 5か所。P1~P4は主柱穴に相当し, 深さは54~67cmである。P5は出入口施設に伴うピットと思われる, 深さは38cmである。

覆土 6層からなり, 全体的にやや締りがあり, レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量 | 6 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量 |



第132図 第57号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片491点(環頸30, 甕頸461), 須恵器片83点(環頸37, 蓋17, 甕頸29), 鉄製品5点(不明鉄製品), 土製品3点(支脚片)が北部を中心に覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。202, 205は北部の床面から, 206は中央部の床面からそれぞれ出土しており, 本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第57号住居跡出土遺物観察表(第132図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
202	土師器	環	13.8	5.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ, 体部内面ヘラナデ	床面	80% PL34 底部に積炭
203	須恵器	蓋	[15.8]	3.4	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	40%
204	須恵器	蓋	[16.5]	(2.1)	-	長石・石英・雲母	灰白	良好	天井部回転ヘラ削り	下層	30%
205	土師器	甕	[23.6]	(14.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラナデ, 外面ヘラ磨き	床面	10%
206	須恵器	甕	[18.4]	(5.6)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	頸部内面指掘り圧痕	下層	10%

第59号住居跡(第133・134図)

位置 調査区南部のE 3 b6区, 標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 北壁が第33号掘立柱建物跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸4.7m, 短軸4.6mの方形で, 主軸方向はN-7°-Eである。壁高は55~57cmで, 各壁ともやや外傾している。

床 ほぼ平坦な床で, 竈前面から出入口施設にかけて踏み固められており, 壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されており, 焚口部から煙道部まで106cm, 袖部幅128cmで, 壁外への掘り込みは32cmほどである。天井部は崩落しており, 床面に砂質粘土とロームブロックを主体に焼土ブロックを含む暗赤褐色土で袖部の基部を設け, その上に細礫を混ぜた砂質粘土で構築している。火床部は床面を12cmほど掘りくぼめ, ロームブロック, 焼土を含む赤褐色土で埋め戻された面にある。火床面は, 熱を受けて赤変硬化し, 煙道部奥壁は外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・砂粒中量, 焼土粒子少量, 細礫微量	7	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
2	暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・砂粒中量, 焼土粒子・細礫微量	8	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
3	暗赤褐色	焼土粒子中量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量, 細礫微量	9	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量
4	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量, 砂質粘土ブロック少量	10	暗赤褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・細礫少量
5	暗褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	11	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
6	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量			

ピット 5か所。P1~P4は主柱穴に相当し, 深さは35~78cmであり, P1, P4の掘り込みが深い。P5は出入口施設に伴うピットであり, 深さは35cmである。

覆土 9層からなり, 全体的に締りのある土層であるが, ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

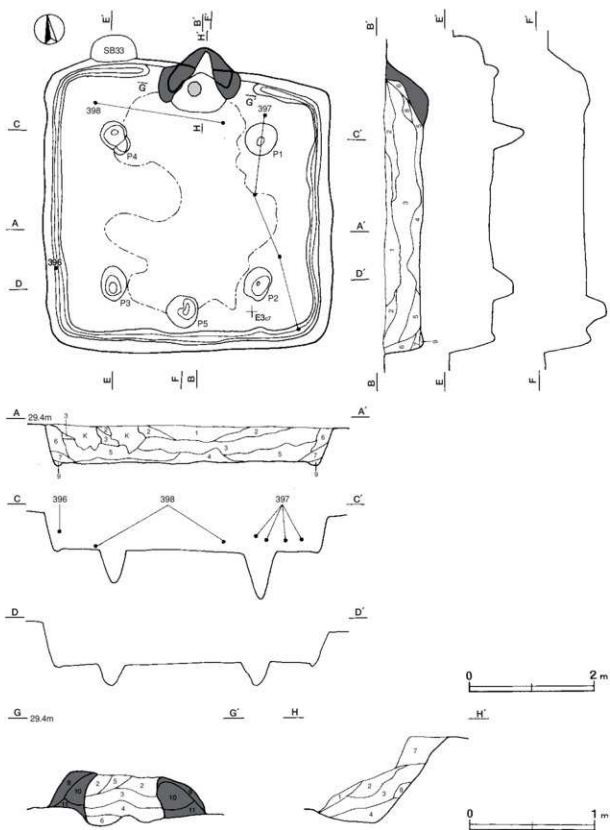
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物微量	6	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量	7	黒褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物微量	8	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子, 炭化粒子, 砂粒微量
4	黒褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化物微量	9	暗褐色	ローム粒子中量
5	黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量			

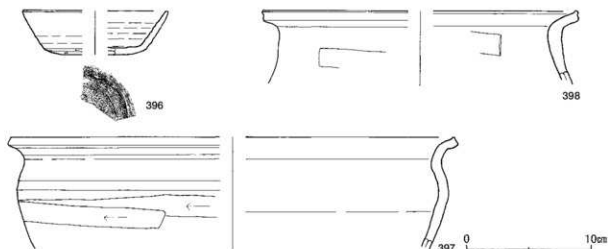
遺物出土状況 土師器片244点(環頸4, 甕頸240), 須恵器片65点(環頸31, 蓋1, 鉢5, 甕頸28)が覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。そのほか, 流れ込みによる弥生土器片2点も出土している。398は北部, 397は西部の覆土下層から出土した破片が接合されたもので, 廃絶時に埋め戻しの土と共に埋没し

たものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。



第133図 第59号住居跡実測図



第134図 第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
396	須恵器	坏	[11.5]	3.5	[6.2]	長石・黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ削り	中層	20%
397	須恵器	鉢	[35.2]	(8.9)	-	長石・黒色粒子・針状風物	黄灰	普通	体部外面ヘラ削り	下層	20%
398	土師器	羹	[25.0]	(5.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	下層	10%

第63号住居跡 (第135・136図)

位置 調査区北部のB 4 h1区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸約4.4m、短軸約4.1mの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は41~47cmで、各壁とも外傾している。

床 ほぼ平坦な貼り床で、竈前面から出入口施設にかけてよく踏み固められている。竈前面には構架材の粘土が流れ出している。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで108cm、袖部幅140cmで、壁外への掘り込みは34cmほどである。天井部は崩落し、構架材が床面まで流れ出している。袖部は床面を10cmほど掘くほめ、ロームブロックを主体とする褐色土で埋め戻した上に、砂質粘土で構築している。火床部は床面を10cmほど掘りくほめ、火床面は熱を受けて赤変硬化しており、煙道は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

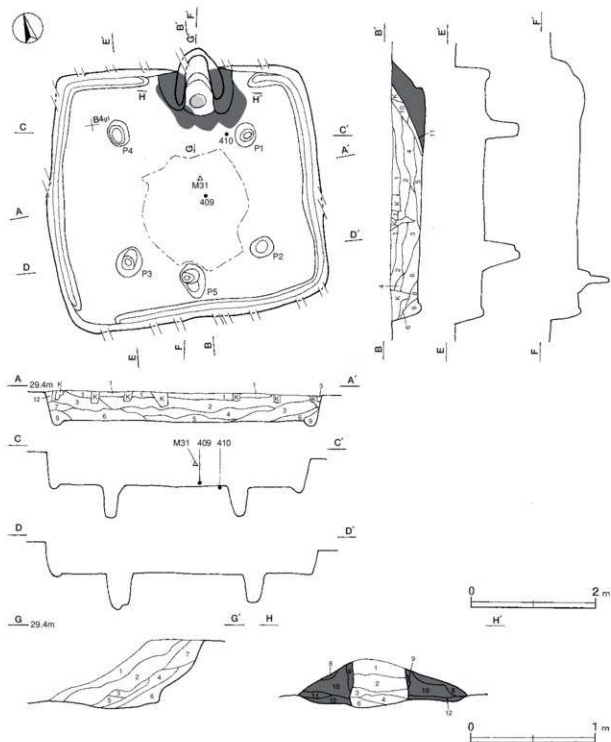
1	暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・砂粒中量、焼土粒子少量	7	にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック・砂粒中量、ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
2	灰褐色	砂粒多量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子少量	8	褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・砂粒中量、焼土粒子少量
3	暗赤褐色	焼土粒子・砂粒中量、砂質粘土ブロック・ローム粒子少量	9	にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子少量
4	暗赤褐色	焼土ブロック・砂粒中量、ロームブロック・砂質粘土ブロック少量	10	にぶい橙	焼土ブロック中量、ロームブロック少量(砂質粘土層)
5	褐色	砂粒多量、ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量	11	褐色	ロームブロック・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子・繊維少量
6	暗赤褐色	ロームブロック・砂粒中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量	12	褐色	ロームブロック多量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P 1~P 4は主柱穴に相当し、深さは45~58cmである。P 5は出入口施設に伴うピットであり、深さは49cmである。

覆土 12層からなり、全体的に締りのある土層であり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

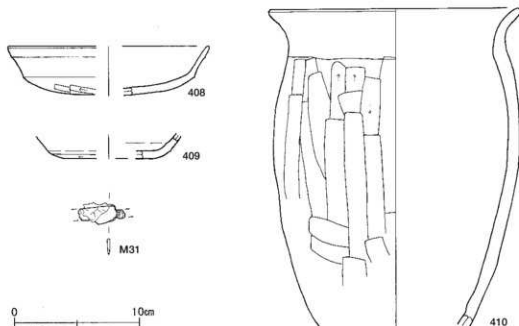
- | | | | |
|-------|----------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量 | 12 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | | |



第135図 第63号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片148点(環類13, 甕類135), 須恵器片27点(環類17, 蓋1, 甕類9), 鉄製品1点(刀子)が覆土中層から床面ににかけて散在した状態で出土している。そのほか, 流れ込みによる縄文土器片12点, 弥生土器片6点も出土している。410は竈の前面から出土しており, 煮炊きに使用されていたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第136図 第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表(第136図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
408	土師器	環	[16.0]	(3.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	底部外面多方向へのヘラ削り	覆土中	40%
409	須恵器	環	-	(2.0)	[7.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転への削り	床面	10%
410	土師器	甕	20.0	(25.0)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部外面への削り	床面	80% Pl.31

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M31	刀子	(3.7)	1.5	0.3	(3.7)	鉄	両面 木質残存	中層	

第64号住居跡(第137~139図)

位置 調査区北部のB 4区, 標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.2m, 短軸3.9mの方形で, 主軸方向はN-29°-Eである。壁高は32~42cmで, 各壁とも外傾している。

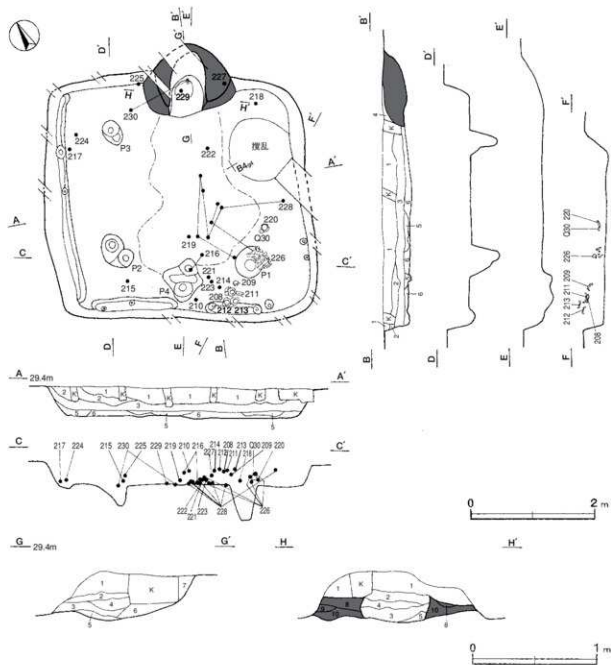
床 はほぼ平坦で, 掘り方は深さ10~15cmである。ロームブロックを主体とする暗褐色土の貼り床であり, 竈前面から出入口施設にかけて踏み固められており, 壁溝が西及び南壁下で確認されているが, 北東部は木の根によって深く攪乱されている。

竈 北壁中央部に付設されており, 焚口部から煙道部まで114cm, 袖部幅148cmで, 壁外への掘り込みは47cmほどである。天井部は崩落しており, 土層断面図中の4層が相当し, 砂質粘土ブロックや焼土を多く含んでいる。袖部は床面の高まりを基部として, ロームブロックと砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面を5cmほど皿状に掘りくぼめ, 火床面は熱を受けて硬化し, 煙道部は火床面から緩やかなに立ち上がっている。

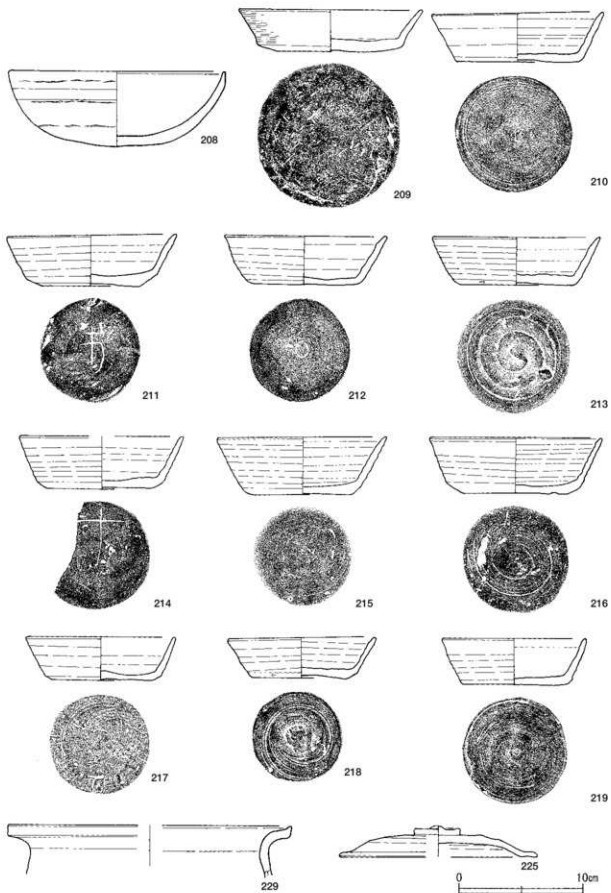
土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|--------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子・細礫少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒中量, ロームブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化物微量 | 8 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量, 細礫微量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, 細礫少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック少量 |

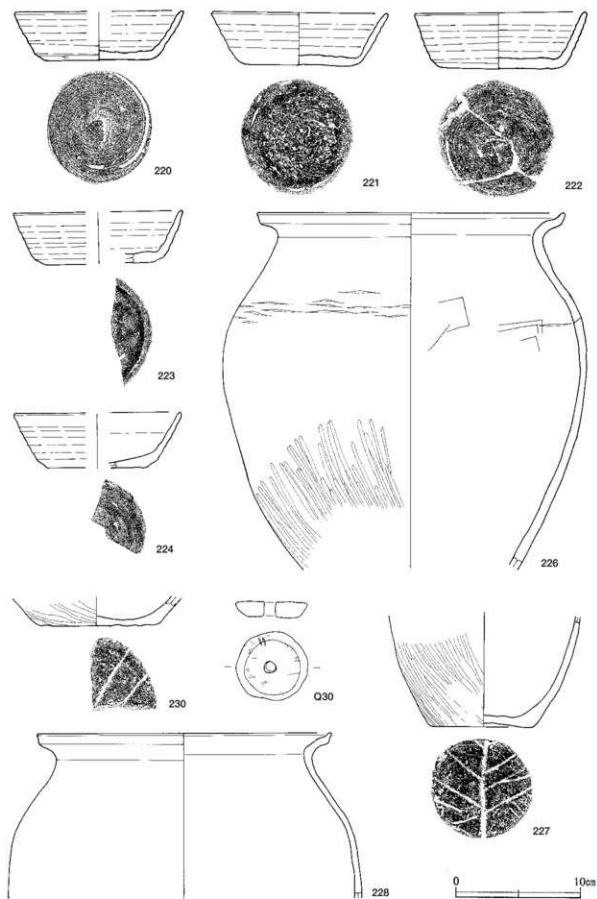
ピット 4か所。P1～P3は主柱穴に相当し、深さは33～53cmである。攪乱により北東部のピットは検出されなかったが、上屋は4本柱の構造と考えられる。P4は出入口施設に伴うピットで、2か所の底面をもち、深さは壁際が17cm、内側が15cmである。



第137図 第64号住居跡実測図



第138图 第64号住居跡出土遺物実測図(1)



第139图 第64号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 6層からなり、全体的にやや締りはあるが、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。また、土層断面図中の5、6層は貼り床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物・繊維微量 | | |

遺物出土状況 土師器片764点（坏類3、甕類761）、須恵器片43点（坏類41、蓋2）、石製品1点（紡錘車）が南部を中心に覆土上層から下層にかけて出土している。208～214は南部壁際の覆土上層から中層にかけて出土し、埋め戻しの過程で一括して廃棄されたと考えられる。217、225は北部、218は東部、215、219、223は南部の床面からそれぞれ出土し、226は南部の床面からつぶれた状態で出土している。いずれも本跡に伴うものと考えられる。

所見 覆土上層から出土している土器と、床面から出土している土器に時期差はなく、廃絶とほぼ同時に埋め戻しが行われ、その際に土砂と共に一括して坏類を廃棄したと考えられる。時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第64号住居跡出土遺物観察表（第138・139図）

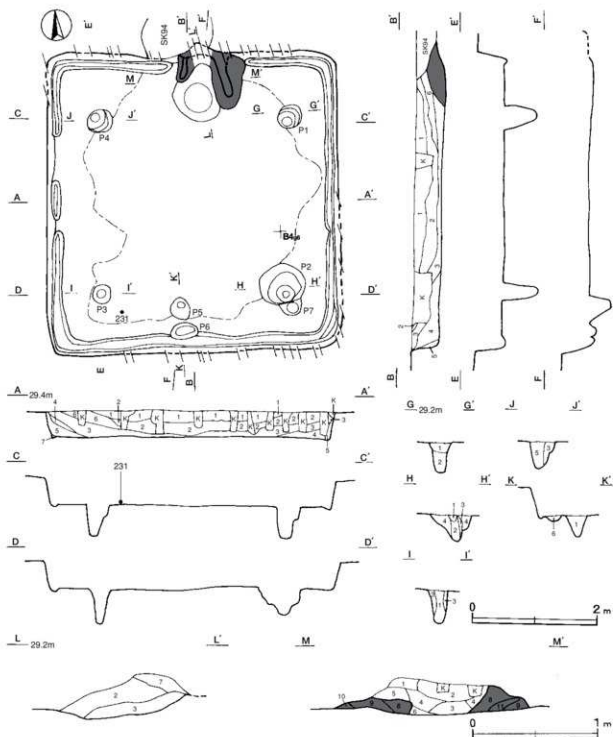
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
208	土師器	坏	17.2	5.9	-	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ、底部外面へウ割り	上層	85% PL34
209	土師器	坏	14.6	3.3	11.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ、底部外面へウ割り	上層	90% PL33
210	須恵器	坏	13.8	4.1	9.5	長石・石英・針状炭物	灰黄	良好	底部回転へウ切り後、回転へウ割り	上層	100% PL33
211	須恵器	坏	13.3	3.9	9.1	長石・針状炭物	灰	良好	底部回転へウ切り後、回転へウ割り	上層	90% PL33 底部黒書「+」
212	須恵器	坏	13.9	3.9	8.0	長石・石英・針状炭物	灰	普通	底部回転へウ割り	上層	95% PL33
213	須恵器	坏	13.3	3.9	9.1	長石・針状炭物	灰	良好	底部回転へウ切り後、回転へウ割り	上層	90% PL33
214	須恵器	坏	[13.0]	4.2	8.3	長石・微塵	黄灰	普通	底部多方向へウ割り	上層	50% 底部黒書「+」
215	須恵器	坏	13.6	4.5	8.0	長石・微塵	灰白	普通	底部回転へウ割り	床面	80% PL33
216	須恵器	坏	13.7	4.4	8.2	長石・石英・針状炭物	灰オリーブ	普通	底部回転へウ割り	床面	85% PL33
217	須恵器	坏	12.1	3.4	7.9	長石・石英・微塵	灰黄	普通	底部回転へウ切り後、多方向へウ割り	床面	100% PL33
218	須恵器	坏	11.8	3.3	7.3	長石・針状炭物	オリーブ灰	良好	底部回転へウ切り後、回転へウ割り	床面	100% PL33
219	須恵器	坏	11.4	3.7	8.2	長石	灰	良好	底部回転へウ切り後、回転へウ割り	床面	90% PL33
220	須恵器	坏	[13.4]	3.9	8.4	長石・石英・針状炭物	灰	良好	底部回転へウ切り後、回転へウ割り	下層	60%
221	須恵器	坏	[13.8]	4.2	[9.2]	長石・雲母	灰白	普通	底部多方向へウ割り	床面	80%
222	須恵器	坏	13.7	4.6	9.0	長石・石英・針状炭物	黄灰	普通	底部回転へウ切り後、回転へウ割り	床面	60%
223	須恵器	坏	[13.5]	4.1	[8.4]	長石・針状炭物	灰	良好	底部回転へウ切り後、多方向へウ割り	床面	20%
224	須恵器	坏	[13.2]	4.3	[7.8]	長石	灰	良好	底部回転へウ割り	下層	20%
225	須恵器	蓋	[15.6]	2.4	-	長石・雲母	黄灰	普通	天井部回転へウ割り	床面	75% PL28
226	土師器	甕	24.5	(28.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体上部外面へウナデ	床面	75%
227	土師器	甕	-	(8.7)	8.2	雲母・長石・石英	橙	普通	体外部面へウ磨き	甕台軸中	30%
228	土師器	甕	23.4	(13.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体外部面ナデ	下層	25%
229	土師器	甕	[22.8]	(4.1)	-	長石・石英	橙	普通	体外部面ナデ	甕穴床面	5%
230	土師器	甕	-	(2.2)	[9.3]	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体外部面へウ磨き	甕穴床面	5%

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q30	粘土板	5.5	3.8	1.4	53.0	滑石	下面に線刻	下層	

第66号住居跡 (第140・141図)

位置 調査区北部のB4区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 北壁中央部を第94号土坑に掘り込まれている。



第140図 第66号住居跡実測図

規模と形状 長軸4.8m, 短軸4.6mの方形で, 主軸方向はN-6°-Eである。壁高は42~45cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で, 壁下を除いて踏み固められている。壁溝が周回しているが, 西壁下で断続している。

竈 北壁中央部に付設されており, 第94号土坑に掘り込まれているため, 確認できた焚口部から火床部奥壁までは125cm, 袖部幅は104cmである。天井部は崩落しており, 4層が崩落部に相当し, 粘土ブロックや焼土を多く含み, 袖部は床面に細礫を混ぜた粘土を用いて構築されている。火床部は床面を15cmほど皿状に掘りくぼめ, 火床面は熱を受けて硬化している。

覆土層解説

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 灰黄褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・ローム粒子微量 | 7 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック少量, 炭化物・粘土ブロック・ローム粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 10 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 |
| | 11 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 7か所。P1~P4は主柱穴に相当し, 深さは42~56cmである。覆土にはロームブロック, 鹿沼バミスブロックが含まれ, いずれも柱が抜き取られているものと思われる。P5・P6は出入口施設に伴うピットと考えられ, 深さはP5が37cm, P6が11cmである。P7はP2に付随する補助柱穴と思われる。

ピット土層解説

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・鹿沼バミスブロック少量, 炭化物微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 にぶい黄褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 ローム粒子中量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

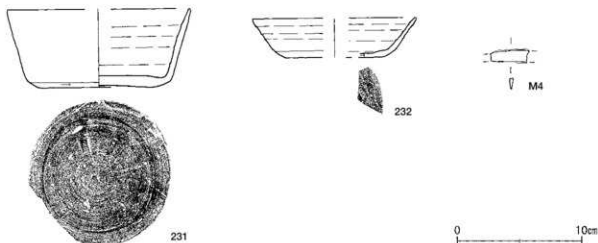
覆土 7層からなり, 全体的にやや締りがあり, レンズ状の推積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子少量 |
| 4 にぶい黄褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片90点(坏類2, 甕類88), 須恵器片7点(坏類2, 蓋3, 甕類2), 鉄製品1点(刀子)が覆土下層を中心に散在した状態で細片が出土している。そのほか, 流れ込みによる縄文土器片4点も出土している。231は南部の床面から出土しており, 本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後半と考えられる。



第141図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表 (第141図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
231	須恵器	杯	145	6.2	11.3	長石・石英・ 斜状炭物	灰黄	普通	底部回転へう閉り	床面	50%
232	須恵器	杯	130	3.2	7.8	長石・雲母	黄灰	普通	底部回転へう切り後、多方向のへう閉り	覆土中	10%

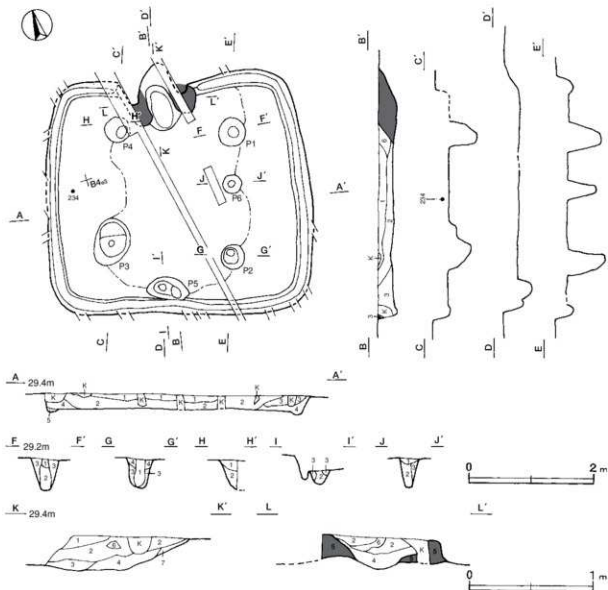
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	刀子	(3.1)	1.0	0.3	(1.8)	鉄	刃部片	覆土中	

第67号住居跡 (第142・143図)

位置 調査区北部のB4e3区、標高29mほどの台地上に立地している。

規模と形状 長軸4.2m、短軸3.8mの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は22~24cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、竈前面から出入口施設にかけて踏み固められており、壁溝が全周している。



第142図 第67号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されており、攪乱が激しく、確認できた規模は、焚口部から煙道部まで104cm、袖部幅106cmで、壁外への掘り込みは26cmほどである。天井部は削平され、袖部は地山の高まりを基部として、灰黄褐色の粘土を用いて構築されている。火床部は床面を10cmほど皿状に掘りくぼめ、火床面は熱を受けて硬化しており、煙道部は火床部から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 灰黄褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物少量、粘土粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 灰黄褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化物・粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| | | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さはP1～P4が51～62cmである。P6はP1とP2の中間に位置した補助柱穴と想定され、深さは46cmである。P5は出入口施設に伴うピットと考えられ、深さは24cmである。ピットの覆土はロームブロックが含まれ、いずれも柱が抜き取られているものと思われる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 濃い黄褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

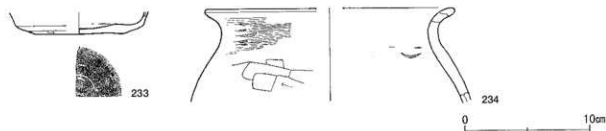
覆土 6層からなり、全体的にやや締りがあり、レンズ状の推積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|---------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 濃い黄褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰黄褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 濃い黄褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片122点(甕類)、須恵器片19点(坏類17、蓋2)が中央部の覆土下層から出土しているが、いずれも細片のため図示できるものは少ない。そのほか、流れ込みによる縄文土器片10点、弥生土器片1点も出土している。233は竈、234は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀代と考えられる。



第143図 第67号住居跡出土遺物実測図

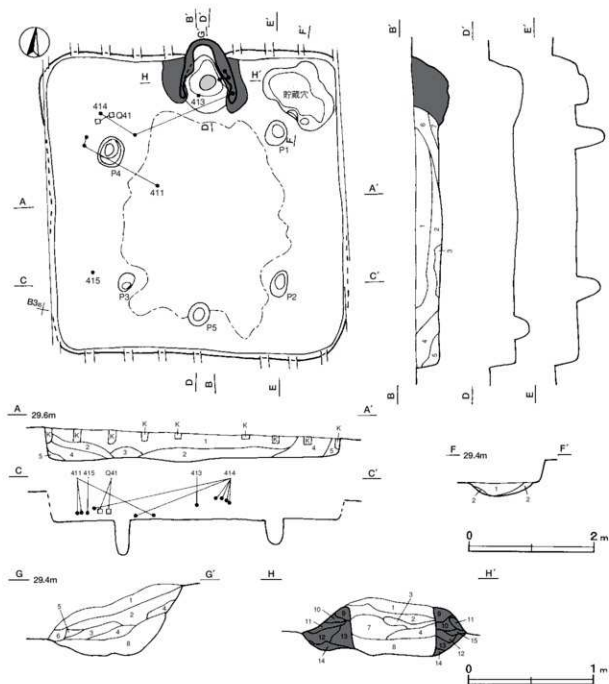
第67号住居跡出土遺物観察表 (第143図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
233	須恵器	坏	-	(1.8)	(7.0)	長石・石英	灰白	普通	底部回転へう閉り	覆土中	10%
234	土師器	甕	[19.6]	(7.6)	-	長石・石英・赤色粒子	濃い橙	普通	体部外面へう閉り	下層	10%

第75号住居跡 (第144・145図)

位置 調査区北部のB316区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸約4.9m、短軸約4.8mの方形で、主軸方向はN-13°-Wである。壁高は32～47cmで、各壁ともほぼ直立している。



第144図 第75号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められており、出入口施設の周囲は地山のロームが硬化している。

竈 北壁中央部に付設されており、美口部から煙道部まで118cm、袖部幅139cmで、壁外への掘り込みは20cmほどである。天井部は崩落し、8層が崩落土に相当する。袖部は床面を14cmほど掘りくぼめ、細礫を混ぜた砂質粘土で構築されており、左袖部は火床部へ崩落している。火床部は床面を11cmほど掘りくぼめ、火床面は熱を受けて赤変硬化しており、煙道部は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 に赤・赤褐色 | 焼土粒子少量、砂質粘土ブロック・砂粒微量 | 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 に赤・赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒・細礫少量 |
| 3 赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂粒・細礫少量 | 6 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・細礫少量 |

- | | | | |
|----------|---|-----------|--------------------------------|
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒・少量、細礫微量 | 11 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量、細礫少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 8 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 12 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・細礫微量 |
| 9 暗褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 灰黄褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物・細礫微量 |
| 10 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| | | 15 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さは23～54cmである。P5は出入口施設に伴うピットと考えられ、深さは23cmである。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置し、長径125cmほどの不整形円形で、深さは20cmである。底面は皿状で、壁は外傾している。

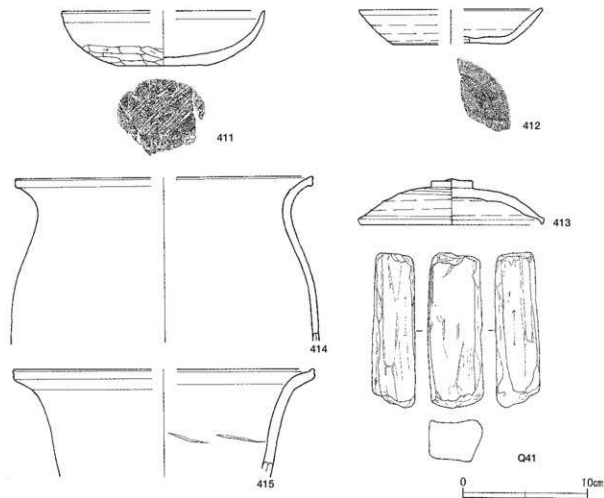
貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 | 2 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
|-------|------------------------|------|------------------|

覆土 7層からなり、全体的に締りのある土層であり、レンズ状の推積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量、砂質粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量、焼土ブロック微量 | 7 褐色 | 砂粒多量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | | |



第145図 第75号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片163点(坏類13, 甕類149, 甌1), 須恵器片22点(坏類8, 蓋10, 甕類4), 石製品1点(砥石)が西寄りの覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。そのほか, 流れ込みによる縄文土器片1点, 弥生土器片5点も出土している。413は甕の覆土中層, 414は甕及び北部の覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合されたもので, いずれも木跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第75号住居跡出土遺物観察表(第145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
411	土師器	坏	[16.1]	4.3	[7.1]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	底部多方向のヘラ削り	下層	40%
412	須恵器	坏	[14.6]	2.8	[9.0]	長石・石英・針状鉱物	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	10%
413	須恵器	蓋	14.6	3.7	-	長石・石英・針状鉱物	灰黄褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	中層	95% PL38
414	土師器	甕	[29.6]	(13.1)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	中層	30%
415	土師器	甕	[24.0]	(8.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ	下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q41	砥石	12.3	4.4	3.3	336.3	泥岩	砥面3面	下層	

第86号住居跡(第146・147図)

位置 調査区中央部のD3 g5区, 標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸約4.3m, 短軸約3.9mの方形で, 主軸方向はN-16°-Eである。壁高は22~27cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼り床で, 竈前面から出入口施設にかけて踏み固められている。壁溝は断続している。

竈 北壁中央部に付設されており, 美口部から煙道部まで100cm, 袖部幅119cmで, 壁外への掘り込みは28cmほどである。天井部は崩落し, 1層が崩落土に相当する。袖部は床面を17cmほど掘りくぼめ, ロームブロックを主体とする暗褐色土で埋め戻した上にロームブロックと細礫を混ぜた砂質粘土で構築される。火床部は床面を9cmほど掘りくぼめ, 灰を多量に含む暗赤褐色土が堆積し, 煙道部は外傾して立ち上がっている。

壁土層解説

1 灰褐色	粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量	11 にぶい赤褐色	焼土粒子・灰中量, 炭化粒子少量
2 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・灰少量	12 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量, 灰少量
3 にぶい赤褐色	灰中量, 焼土粒子少量	13 暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子・細礫少量, ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	灰多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	14 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	粘土ブロック中量, 焼土粒子微量	15 暗褐色	砂質粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 極暗赤褐色	炭化粒子多量, 焼土粒子・灰少量	16 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・細礫微量
7 極暗赤褐色	炭化粒子多量	17 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・細礫微量
8 暗赤褐色	焼土粒子多量, 灰少量		
9 極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量		
10 にぶい赤褐色	焼土粒子多量, 粘土粒子中量		

ピット 5か所。P1~P4は主柱穴に相当し, 深さは45~70cmである。P5は出入口施設に伴うピットと思われ, 深さは48cmである。

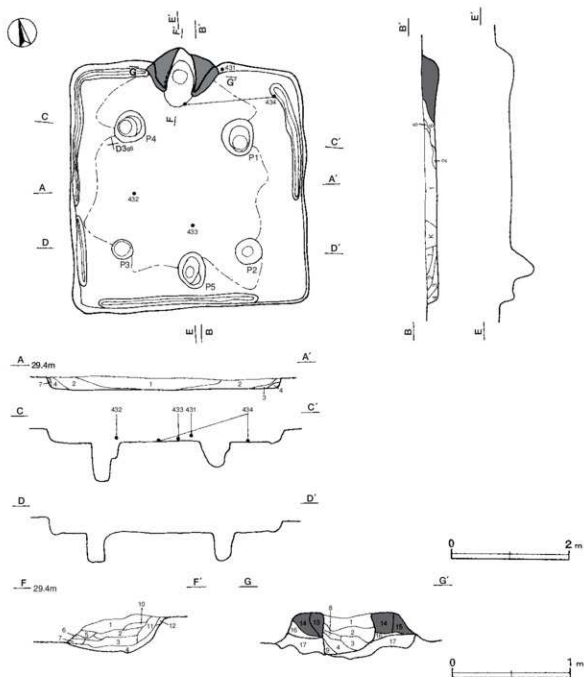
覆土 7層からなり, 全体的に締りのある土層であり, レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

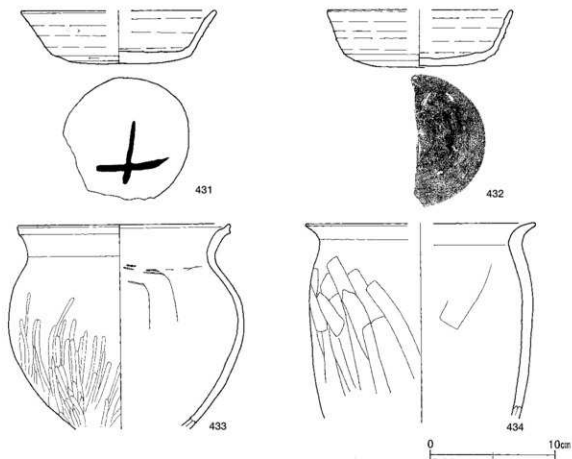
1 黒褐色	色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量	5 黒褐色	色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	色 ローム粒子中量, 炭化物微量	6 暗褐色	色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	色 ロームブロック微量	7 暗褐色	色 ローム粒子少量
4 暗褐色	色 ローム粒子中量		

遺物出土状況 土師器片78点（坏類2，堯類76），須恵器片18点（蓋8，坏類10）が北部及び中央部の覆土下層から床面にかけて出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片1点も出土している。431は竈の東部覆土下層，433は中央部の床面からつぶれたような状態で出土しており，本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第146図 第86号住居跡実測図



第147図 第86号住居跡出土遺物実測図

第86号住居跡出土遺物観察表 (第147図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
431	須恵器	平	[15.4]	4.3	7.9	長石・石英・針状鉱物	灰黄褐	普通	底部回転へう割り	床面	00% PL36 底部黒書「十」
432	須恵器	平	[14.8]	4.9	10.4	長石・針状鉱物	灰	普通	底部回転へう割り	下層	45%
433	土師器	壺	16.9	(16.2)	-	長石・石英	橙	普通	体部内面へうナデ、外面へう磨き	床面	50%
434	土師器	壺	[18.4]	(15.5)	-	長石・石英	明赤褐	普通	体部内面へうナデ、外面へう割り	床面	40%

第91号住居跡 (第148・149図)

位置 調査区中央部のD 3 c2区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.6m、短軸4.1mの長方形で、主軸方向はN-17°-Eである。壁高は28~33cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、竈の前面から出入口施設にかけて踏み固められており、特に中央部はロームが硬化している。壁溝が周回しているが、南壁以外の壁下では断続している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅148cmで、壁外への掘り込みは20cmほどである。天井部と左袖部は崩落しており、右袖部は細礫を混ぜた灰黄褐色の粘土で構築され、壁際から心材と思われる須恵器の蓋が出土している。火床部は平坦で、火床面は熱を受けて赤変硬化しており、煙道部は内燻して立ち上がっている。

覆土層解説

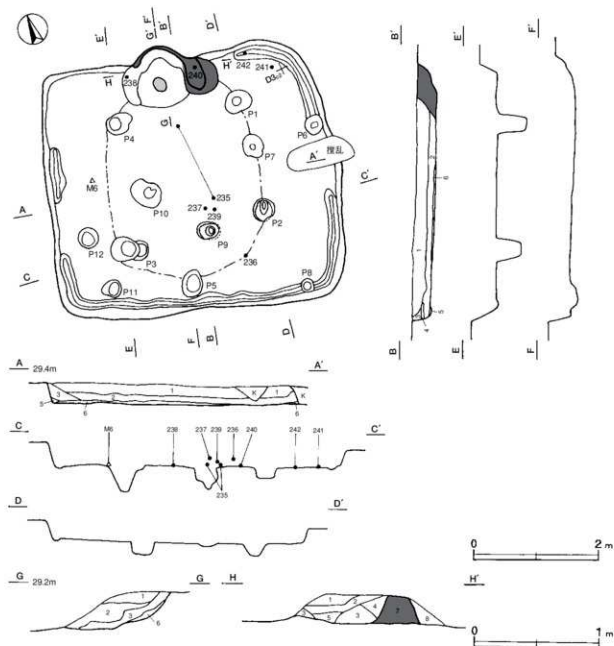
- | | |
|---------------------------|---------------------------------------|
| 1 灰 褐色 焼土粒子・細粒微量 | 6 灰 黄褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・細粒微量 |
| 2 暗 赤褐色 焼土粒子少量 | 7 灰 黄褐色 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・細粒微量 |
| 3 暗暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 灰 黄褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子・細粒微量 |
| 4 褐 灰色 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | |
| 5 暗暗赤褐色 炭化粒子中量、灰少量、焼土粒子微量 | |

ピット 12か所。P1～P4は支柱穴に相当し、深さはP1・P2が20cm前後、P3・P4が45cm前後である。また、P5は出入口施設に伴うピットと考えられ、深さは13cmである。P1とP2の中間に位置するP7は補助支柱穴と考えられるが、P6・P8～P12の性格は不明である。

覆土 6層からなる。全体的に締りがあり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

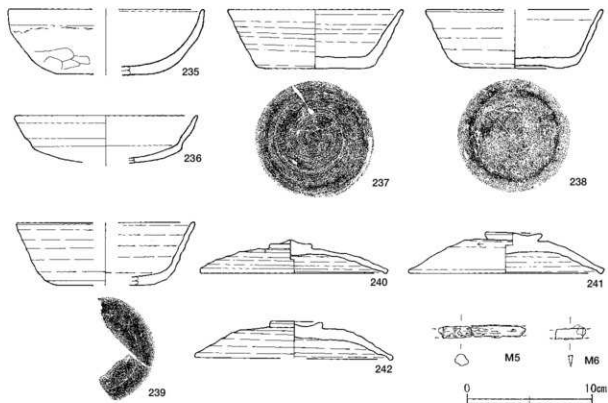
- | | |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1 暗 褐色 黒色土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量 | 4 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 2 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐 色 ローム粒子中量 |
| 3 暗 褐色 ローム粒子少量 | 6 黒 褐色 ロームブロック少量 |



第148図 第91号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片164点（坏類3，甕類161），須恵器片19点（坏類17，蓋2），鉄製品2点（刀子，不明鉄製品）が覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。240は竈右袖，238は北部，241は北東コーナー部の床面からそれぞれ出土しており，本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第149図 第91号住居跡出土遺物実測図

第91号住居跡出土遺物観察表（第149図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
235	土師器	坏	15.5	3.1	7.5	長石・石英	にぶい艶	普通	底部外面へう削り	床面	40%
236	土師器	坏	14.5	(3.7)	-	長石・石英	にぶい艶	普通	底部外面へう削り	中層	30%
237	須恵器	坏	16.0	4.8	9.5	長石	黄灰	普通	底部回転へう切り	中層	80% PL34
238	須恵器	坏	14.0	4.5	8.8	長石	灰白	普通	底部回転へう削り	床面	60% PL34 見書「十」
239	須恵器	坏	14.2	4.9	7.8	長石	灰白	普通	底部回転へう削り	中層	25%
240	須恵器	蓋	14.8	2.7	-	長石・微礫	灰白	普通	天井部回転へう削り	竈右袖	100% PL38
241	須恵器	蓋	15.3	3.3	-	雲母・長石・石英	灰白	普通	天井部回転へう削り	床面	80% PL38
242	須恵器	蓋	15.5	2.9	-	雲母・長石・石英	灰白	良好	天井部回転へう削り	壁溝中	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	刀子	(6.9)	0.9	1.1	(7.4)	鉄	柄部本質残存	覆土中	
M6	刀子	(2.1)	0.8	0.3	(1.3)	鉄	片側	床面	

第94号住居跡（第150・151図）

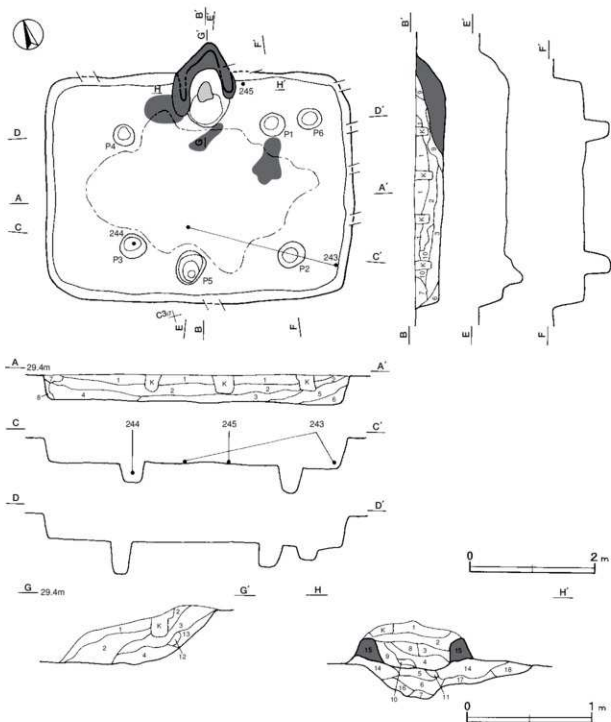
位置 調査区中央部のC3区，標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.9m，短軸3.7mの長方形で，主軸方向はN-14°-Eである。壁高は40~42cmで，各壁とも

ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。東部は地山が掘り残され、竈前面には粘土が流れ出している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで123cm、袖幅98cmで、壁外への掘り込みは45cmほどである。天井部は崩落しており、8層が崩落土に相当し、粘土ブロックの一部は床面まで流れ出している。袖部は床面を40cmほど掘りくぼめた部分にロームブロックを主体に床面と同じ高さまで埋め戻し、その上に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は50cmほど掘りくぼめた部分に、粘土ブロック・焼土を含む黒褐色土を40cmほど埋め戻している。火床面は熱を受けて赤変硬化しており、煙道部は緩やかな傾斜で立ち上がっている。



第150図 第94号住居跡実測図

覆土層解説

1 暗赤褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	10 濃い赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子微量
2 黒褐色	粘土粒子中量, 細礫少量, 焼土粒子微量	11 濃い赤褐色	ローム粒子少量
3 灰赤色	灰中量, 焼土粒子少量	12 赤灰色	灰中量, 粘土粒子少量
4 暗赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化物微量	13 暗赤褐色	砂粒多量, 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量
5 黒褐色	炭化物多量, 焼土粒子少量	14 暗赤褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量
6 濃い赤褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	15 灰白色	粘土粒子多量, 細礫少量
7 赤褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	16 暗赤褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子少量
8 暗赤灰色	粘土粒子多量	17 極暗赤褐色	ローム粒子多量
9 灰赤色	灰中量, 粘土粒子中量	18 濃い赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さは19～52cmである。また、P5は出入口施設に伴うピットと考えられ、深さは29cmである。P6はP1の外側に位置しているが、性格は不明である。

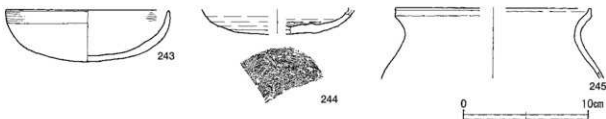
覆土 10層からなり、全体的にやや締りがあり、レンズ状の推積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量, 黒色土ブロック少量	6 褐色	ローム粒子多量
2 褐色	黒色土ブロック・ローム粒子中量	7 黒褐色	ローム粒子・黒色土粒子少量
3 極暗褐色	黒色土ブロック中量, ローム粒子少量	8 暗褐色	ローム粒子中量
4 黒褐色	ローム粒子中量, 黒色土ブロック少量	9 極暗褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子少量	10 暗褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片171点(坏類35, 甕類136), 須恵器片13点(坏類9, 蓋1, 甕類3)が南部の覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片1点も出土している。245は竈東側の床面から出土しており本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第151図 第94号住居跡出土遺物実測図

第94号住居跡出土遺物観察表(第151図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
243	土師器	坏	13.2	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	濃い褐色	普通	体部外面へう閉り後、ナデ	床面	80% PL34
244	須恵器	坏	-	(1.9)	-	長石・石英	灰	普通	底部外面多方向へのう閉り	P3中層	5%
245	土師器	甕	15.7	5.6	-	雲母・長石・石英	濃い褐色	普通	口縁部内・外面後ナデ	床面	5%

第96号住居跡(第152・153図)

位置 調査区中央部のC4h4区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.3m, 短軸3.2mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は33～37cmで、各壁とも直立している。

床 ほぼ平坦で、壁下を除いて踏み固められており、竈前面に焼土が散っている。壁溝は竈を除く各壁下で検出されている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで82cm, 袖部幅102cmで、壁外への掘り込みは34cmほどである。天井部は崩落し、袖部は10cmほど掘りくぼめた部分にロームブロック, 砂質粘土ブロック等を含む赤褐色土を床面と同じ高さまで埋め戻し、その上に砂質粘土を用いて構築されている。火床部はほぼ床の高さで、火床面は熱を受けて赤変硬化している。煙道部は内壁が赤変し、外傾して立ち上がっている。

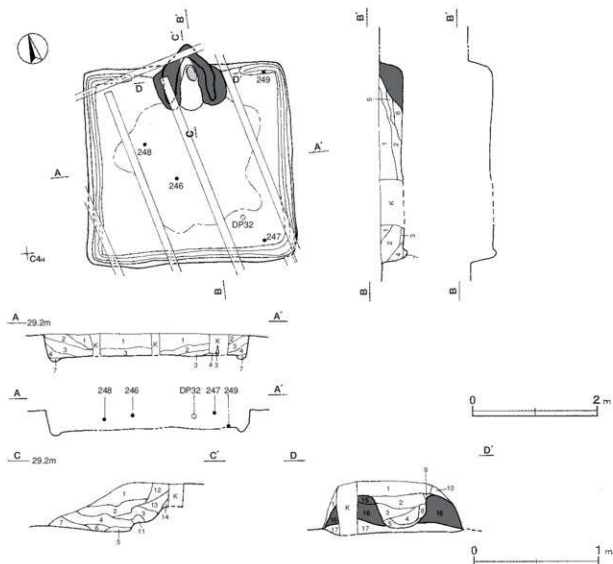
覆土層解説

- | | | | |
|-----------|-------------------------------------|------------|--------------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗 赤 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 12 灰 褐 色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化物・砂質粘土ブロック微量 | 14 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 5 暗 褐 色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 15 暗 赤 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 砂質粘土ブロック微量 |
| 6 にふい色褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 | 16 にふい色褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 7 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 17 赤 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土ブロック微量 |
| 8 にふい褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量 | | |
| 9 にふい褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 炭化粒子微量 | | |
| 10 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | | |

覆土 7層からなり, 全体的に締りがないが, レンズ状の推積状況から自然堆積と考えられる。土層断面図中の5, 6層の焼土は竈から流れ出した構築材の一部である。

土層解説

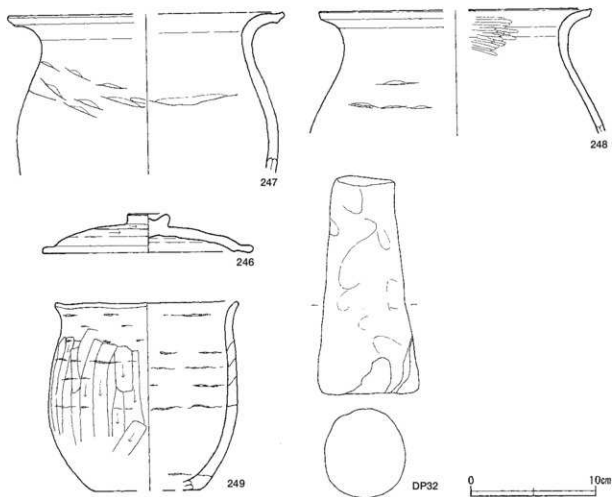
- | | | | |
|---------|-------------------|-----------|-------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 6 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子中量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック微量 | 7 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗 褐 色 | ローム粒子中量 | | |



第152図 第96号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片247点(坏類18, 甕類229), 須恵器片30点(坏類25, 蓋1, 甕類4), 土製品1点(支脚)が覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片1点, 石器1点(敲石)も出土している。249は北東コーナーの床面からつぶれた状態で出土しており, 本跡に伴うものと考えられる。

所見 床面からの出土土器が少なく, 明確な時期を特定することは難しいが, 埋没の早い段階の層位から出土した土器から8世紀前半と考えられる。



第153図 第96号住居跡出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表 (第153図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
246	須恵器	蓋	[16.8]	3.1	-	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	中層	50%
247	土師器	甕	[21.9]	(12.7)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	中層	10%
248	土師器	甕	[21.8]	(10.0)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内面ヘラ磨き, 体部外面ヘラナデ	中層	10%
249	土師器	甕	14.4	14.9	[8.3]	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい陶	普通	体部外面ヘラ削り	床面	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP32	支脚	17.2	8.1	7.1	917.4	土製	棒状工具圧痕	中層	

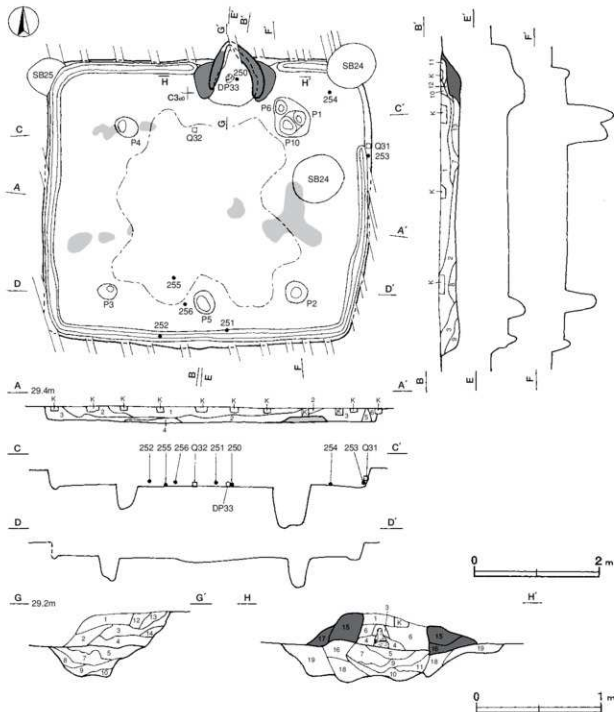
第97号住居跡 (第154～156図)

位置 調査区中央部のC4e1区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 北西コーナーを第25号掘立柱建物跡、北東部を第24号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.2m、短軸4.6mの長方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は23～32cmで、各壁とも直立している。

床 ほぼ平坦な貼り床で、竈の前面から出入口施設にかけて踏み固められている。掘り方は10～15cmほどで、ロームブロック主体の暗褐色土で埋め戻している。壁溝は竈及び北東部以外の壁下で確認されている。また、床下からは7か所のピットと共に硬化面が確認されており、建て替えの可能性も考えられる。

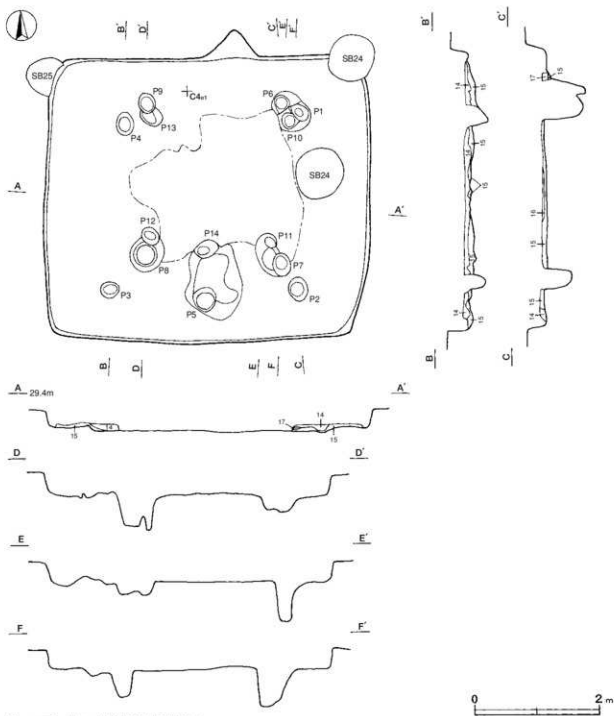


第154図 第97号住居跡実測図(1)

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで102cm、袖部幅128cmで、壁外への掘り込みは25cmほどである。天井部は削平されており、袖部は20~30cmほど掘りくぼめた部分にロームブロックと砂質粘土を含んだ赤褐色土を埋め戻し、その上にさらに砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面を26cmほど掘りくぼめ、ロームと砂質粘土を含む黒褐色土で埋め戻している。火床面は土層断面図中の5層上面で、奥壁寄りに須恵器坏の上に支脚が据えられている。袖の構築材は焼土や赤変した粘土が使用され、火床部の掘り方にも砂質粘土を含むことなどから、作り替えと考えられる。

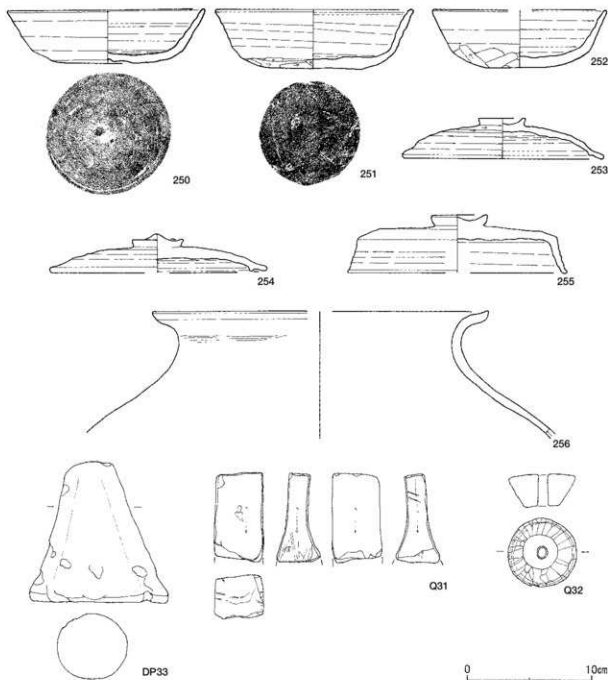
竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒 2 暗赤褐色 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第155図 第97号住居跡実測図(2)

- | | | | |
|---------|---------------------------------------|-----------|------------------------------------|
| 3 灰 褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂粒多量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 13 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・砂粒多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化物微量 | 14 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 灰 褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 15 明赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 7 黒 褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・小礫少量, 炭化粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 17 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 9 黒 褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 18 赤 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・細礫微量 |
| 10 暗赤褐色 | ロームブロック多量, 砂粒中量, 焼土粒子微量 | 19 明赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 11 暗赤褐色 | ロームブロック多量, 砂粒少量, 焼土粒子微量 | | |



第156図 第97号住居跡出土遺物実測図

ピット 14か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さは39～66cmである。P5は出入口施設に伴うピットと考えられ、深さは29cmである。P7～P9、P11～P14は床下から検出され、建て替えが行われたものと考えられる。

覆土 13層からなり、全体的に締りはないが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。また、14～17層は貼り床の構築土である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	11	暗褐色	砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	12	暗褐色	砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
3	黒褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	13	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量、砂質粘土ブロック微量
4	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量	14	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量	15	褐色	ロームブロック中量
6	褐色	ローム粒子中量	16	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	17	灰褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量			
9	暗褐色	ローム粒子中量			
10	灰褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量			

遺物出土状況 土師器片92点(埴類15, 甕類77), 須恵器片42点(埴類14, 蓋24, 甕類4), 石製品2点(砥石, 紡錘車)が覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。255は南部の床面, 250は竈の火床面の奥壁寄りからDP33の支脚と共に出土し、いずれも本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第97号住居跡出土遺物観察表(第156図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
250	須恵器	杯	15.8	4.3	9.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	底部回転ヘラ切り機、回転ヘラ削り	床面	85% PL34
251	須恵器	杯	15.8	5.7	7.9	雲母・長石・赤色粒子	黄灰	普通	底部多方向のヘラ削り	下層	75% PL34
252	須恵器	杯	[13.8]	4.6	4.6	長石・針状鉱物	灰白	普通	底部多方向のヘラ削り	下層	80%
253	須恵器	蓋	16.2	3.3	-	長石・石英・黒色粒子	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	85% PL38
254	須恵器	蓋	17.1	3.1	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	70%
255	須恵器	蓋	[17.4]	4.6	-	雲母・長石	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	下層	60% PL38
256	土師器	甕	[26.7]	(10.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部ナデ	下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q31	砥石	(7.1)	3.9	3.4	(109.0)	凝灰岩	砥面4面, 端部に縦筋の削痕	下層	PL43
Q32	紡錘車	5.4	5.4	2.4	76.4	滑石	研磨痕を残す	下層	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP33	支脚	11.2	11.1	5.2	345.9	土製	胎土に雲母混入	竈火床面	

第107号住居跡(第157・158図)

位置 調査区北部のB3e3区, 標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.1m, 短軸2.8mの方形で、主軸方向はN-22°-Eである。壁高は34～38cmで、各壁ともやや外傾している。

床 ほぼ平坦で、中央部は掘り残された地山が踏み固められ、周囲は褐色土の貼り床であるが、あまり硬化していない。壁溝が全周している。

竈 北壁の中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで112cm, 袖部幅109cmで、壁外への掘り込みは27cmほどである。天井部は崩落しており、崩落土は床面まで流れ出し、その一部の4層は、砂質粘土ブロッ

クを多く含んでいる。袖部は床面に灰黄褐色の砂質粘土を用いて構築されている。火床部は床面を5cmほど皿状に掘りくぼめ、火床面は熱を受けて硬化しており、煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|------------------------------|----|--------|-----------------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物・細礫微量 | 7 | 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・細礫少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・細礫微量 | 8 | にぶい赤褐色 | ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・ローム粒子・小礫微量 | 9 | 明赤褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子・細礫微量 | 10 | 灰黄褐色 | 粘土ブロック多量、細礫少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量、細礫微量 | 11 | にぶい黄褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 6 | にぶい黄褐色 | 細礫中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 | | | |

ピット 2か所。P1は出入口施設に伴うピットと考えられ、深さは21cmである。南壁溝中にあるP2の性格は不明である。

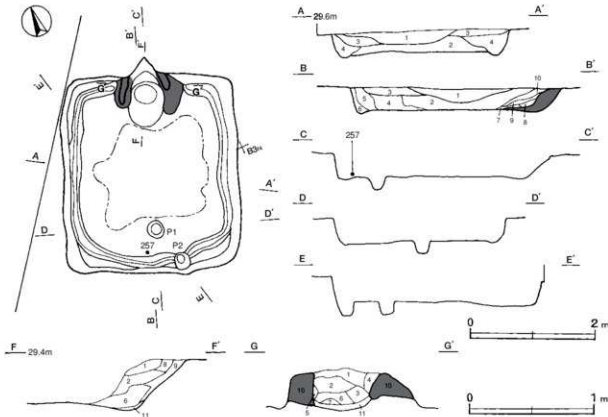
覆土 10層からなる。竈の構築材が流れ出しているが、全体的に締りがなく、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

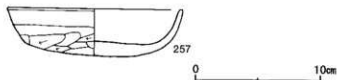
- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------|----|--------|--------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 | 褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 | にぶい褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック微量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 10 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 | | | |
| 6 | 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片7点(坏類2、甕類5)、土製品7点(支脚片)が覆土下層を中心に散在した状態で出土しているが、いずれも細片のため図示できるものは少ない。257は出入り口ピットと壁間の覆土下層から出土している。

所見 出土土器が少なく、明確な時期を特定することは難しいが、覆土下層から出土した土器から8世紀前半と考えられる。



第157図 第107号住居跡実測図



第158図 第107号住居跡出土遺物実測図

第107号住居跡出土遺物観察表 (第158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
257	土師器	平	14.0	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ、底部へう割り	下層	80% PL34

(2) 溝跡

平面図は、遺構全体図に掲載する。

第5号溝跡 (第159図)

位置 調査区中央部のB4i0～E3h0区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第30・51号住居跡を掘り込み、第1号道路跡に掘り込まれている。

規模と形状 調査区中央部を北北東方向(N-28°-E)にやや彎曲して途切れながらも延びており、長さ1021mが確認された。南端は調査区域外に延び、上幅0.33～0.84m、下幅0.11～0.35m、深さ25cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、断面形は台形状を呈している。

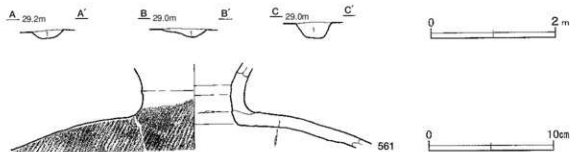
覆土 単一層で締りのない土層で、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片9点(甕類)、須臾器片30点(坏類2、甕類21、横板片7)が出土している。561は覆土中から出土している。

所見 時期は、4世紀中頃に比定される第51号住居跡を掘り込み、平安時代に比定される第1号道路跡に掘り込まれていることと、出土土器から奈良時代と考えられる。



第159図 第5号溝跡・出土遺物実測図

第5号溝出土遺物観察表 (第159図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
561	須臾器	横板	-	(6.8)	-	長石・針状鉱物・微量	灰色	真紅	口辺部内・外面口コナデ、体部外面平行印キ、体部中央に穿孔後、口辺部を接合	覆土中	30%

5 平安時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された平安時代の遺構は、竪穴住居跡35軒、掘立柱建物跡48棟、井戸跡1基、溝跡1条、道路跡1条、欄柵2列、土坑10基である。以下、検出された遺構及び遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

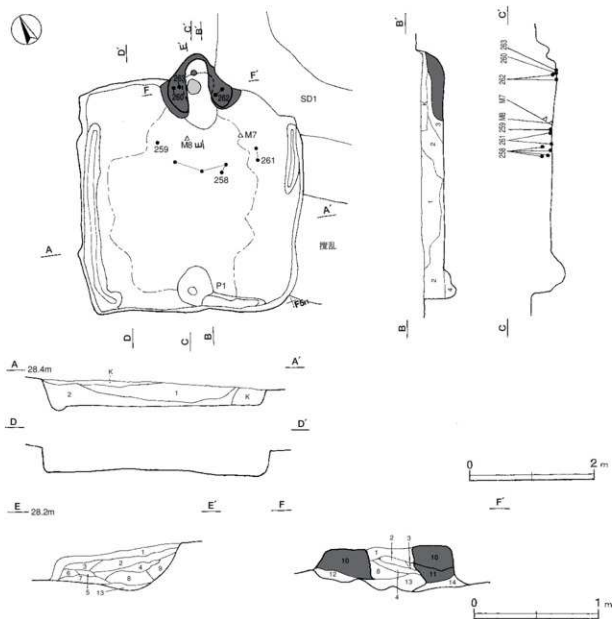
第1号住居跡 (第160・161図)

位置 調査区南部の台地縁辺寄りのF4e0区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 北東部を第1号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.7m、短軸3.5mの方形で、主軸方向はN-21°-Eである。壁高は25~43cmで、各壁ともほぼ直立する。

床 はほぼ平坦で、竈の前面から出入口施設にかけて踏み固められており、出入口施設の付近は若干の高まりが認められ、硬化している。壁溝は東壁、西壁の一部に認められる。

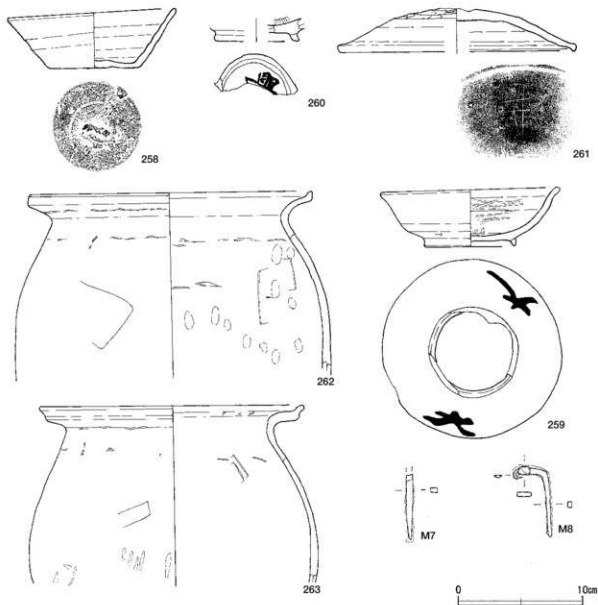


第160図 第1号住居跡実測図

竈 北壁の中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで124cm、袖部幅130cmで、壁外への掘り込みは40cmほどである。天井部は崩落しており、土層断面中の4層が天井部の崩落土に相当し、粘土粒子や焼土を多く含んでいる。袖部は12~15cmほど掘りくぼめた部分にロームブロックを主体に床面と同じ高さまで埋め戻し、その上に土師器甕を逆位に置いて芯として砂質粘土で構築されている。火床部は8cmほど掘りくぼめられ、熱を受けて亦変硬化しており、煙道は火床部から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・粘土ブロック少量 | 9 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック中量、炭化材・粘土ブロック・ローム粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化物・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック少量、炭化物微量 | 11 暗赤褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子・小礫少量 | 13 淡赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量 |



第161図 第1号住居跡出土遺物実測図

ピット P1は出入口施設に伴うピットに相当し、深さは23cmである。

覆土 4層からなる。全体的にやや締りのない土層であり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	3	暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土ブロック微量	4	暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片898点(坏類43、甕類855)、須恵器片171点(坏類127、蓋5、甕類39)、鉄製品2点が覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる縄文土器片2点も出土している。258は中央部の覆土下層、259は北部の床面からそれぞれ出土しており、本跡に伴うものと考えられる。262、263は竈袖内から出土したものであり、袖部の芯材として使用されていたものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表(第161図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
258	須恵器	坏	13.2	4.7	7.1	長石・燐・針状鉱物	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り	床面	100% PL26 底部外面磨き「青」
259	土師器	高台付坏	14.0	4.6	7.2	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り	床面	95% PL35 体部磨き「大」
260	土師器	高台付坏	-	(1.8)	(6.4)	長石・石英	橙	普通	内面ヘラ磨き	覆下層	10% 底部外面磨き「上」
261	須恵器	蓋	[18.8]	(3.3)	-	長石・石英・針状鉱物	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	60% PL38 天井部内磨き「青」
262	土師器	甕	22.4	(14.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ	竈右袖部	25%
263	土師器	甕	20.9	(14.0)	-	石英・雲母・赤色粒子・長石	にぶい陶	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ	竈左袖部	25%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	鐵	(5.4)	0.8	0.4	(4.0)	鐵	基部断面長方形	下層	PL43
M8	不明	(5.7)	3.1	0.5	(7.7)	鐵	端部は180°屈曲し、断面三角形	下層	

第2号住居跡(第162・163図)

位置 調査区南部のF5c1区、標高28mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.2m、短軸4.8mの長方形で、主軸方向はN-33°-Eある。壁高は45~60cmで、各壁ともほぼ直立する。

重複関係 北部を第6号溝跡、中央部を第1号溝跡、南部を第2号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

床 ほぼ平坦な床は、中央部に深さ約10cmの掘り方をもつ貼り床で、ロームブロックを主体とし、硬化面は認められない。北部には焼土や粘土が散乱している。壁溝は確認された壁下に認められる。

竈 北部床面から焼土・粘土が出土していることから、北壁中央部に付設されていたものと思われるが、第1号溝跡に掘り込まれているため、全体の様相は不明である。

ピット 4か所。P1~P4は主柱穴に相当し、深さは34~68cmである。

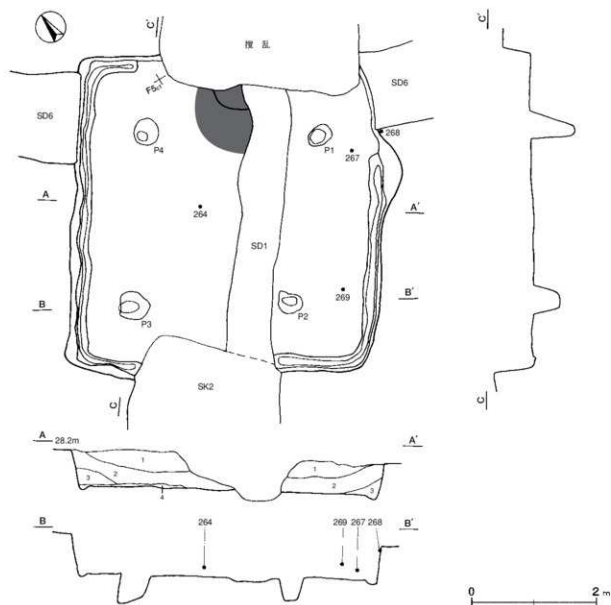
覆土 4層からなり、4層は貼り床の一部を含む。3層は壁の崩落層と考えられ、1、2層はブロック状の人為堆積と考えられる。

土層解説

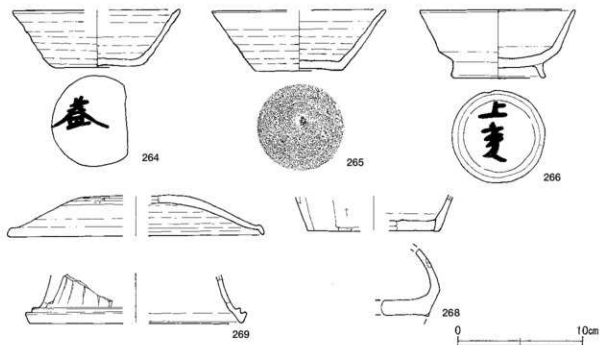
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 3 暗褐色 ロームブロック・焦沼ブロック微量
 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子・小礫微量 4 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片504点（坏類14、甕類490）、須恵器片187点（坏類148、蓋15、甕類23、円面硯1）が覆土上層から下層にかけて出土している。264は中央部の床面から、267は東部壁際覆土下層、269は南東部の覆土下層から出土し、いずれも住居廃絶時期に廃棄されたものと思われる。また、覆土中から265、266の坏類の他、図示していない刀子の細片が出土している。

所見 時期は、出土した土器の形状から9世紀中葉と考えられる。円面硯や刀子が覆土中から出土しているが、官衙的な施設からの廃棄物の一部と考えられる。



第162図 第2号住居跡実測図



第163図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表(第163図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
264	須恵器	坏	[13.3]	4.6	7.1	長石・石英	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	床面	65% 底部外面 黒書「益」
265	須恵器	坏	[13.6]	4.8	7.0	長石・針状鉱物	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	覆土中	65%
266	須恵器	高台付坏	12.2	5.5	7.4	長石・石英・ 針状鉱物	付ア灰	普通	底部回転ヘラ切り、高台貼り付け後、ナデ	覆土中	80% PL37 底部外面 黒書「上」
267	須恵器	蓋	[30.2]	(3.2)	-	長石・黒色砂子	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	下層	40%
268	須恵器	甗	-	(29)	[10.6]	長石・針状鉱物	灰	普通	体部下端ヘラ削り	中層	5%
269	須恵器	円面甗	-	(3.8)	[17.0]	長石・石英	暗灰黄	良好	胴部外面に4本の縦割、方形意	下層	5%

第3号住居跡(第164・165図)

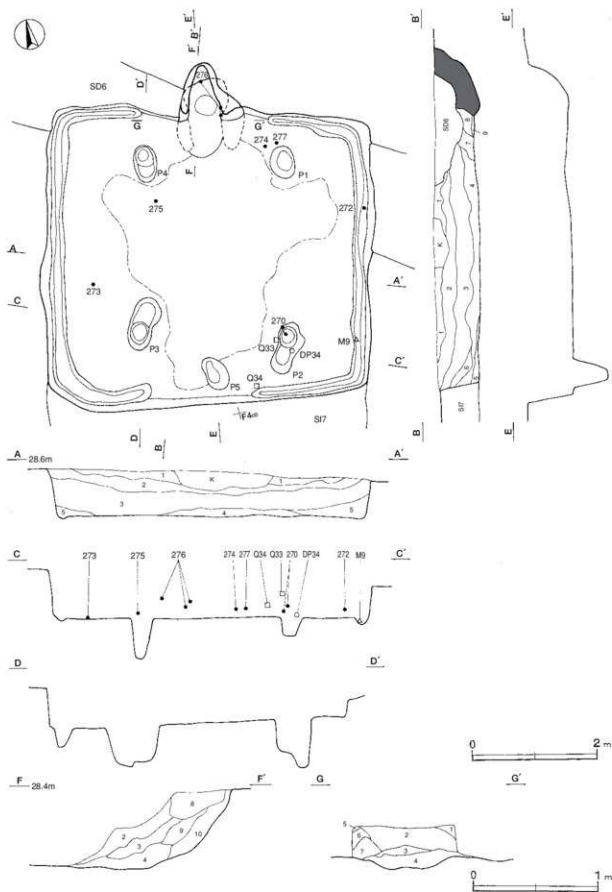
位置 調査区南部のF 4 b0区、標高28mほどの台地に位置している。

重複関係 北部は第6号溝跡に掘り込まれ、南壁が第7号住居跡を掘り込んでいる。

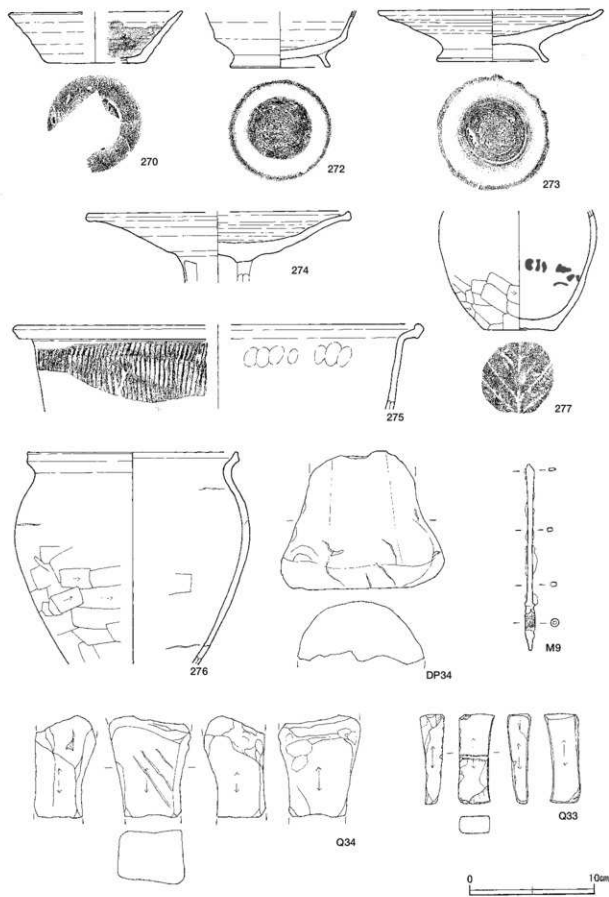
規模と形状 長軸5.2m、短軸4.9mの方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁高は80cm前後で、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼り床で、P1、P4の周囲から出入口施設にかけて踏み固められている。壁溝は全周する。

竈 北壁の中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで150cm、袖部幅108cmで、壁外への掘り込みは74cmほどである。第6号溝跡による削平のため天井部の構造は不明である。袖部は床面の土の高まりを基部として砂質粘土と小礫で構築されていたと思われるが、流出のため基部のみが確認された。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめられ、火床面は熱を受けて硬化している。また、煙道は上部で強く立ち上がっている。



第164图 第3号住居跡实测图



第165图 第3号住居跡出土遺物実測図

覆土層解説

1	褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2	褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子・小礫微量	8	褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・小礫微量
3	暗赤褐色	粘土ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・小礫微量	9	にぶ赤褐色	焼土粒子少量、粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
4	暗赤褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	10	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
5	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量			
6	褐色	ローム粒子多量、粘土ブロック・焼土粒子少量、小礫微量			

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さは54～75cmである。いずれの底部面も鹿沼層まで掘り込まれ、P3には柱を受けた硬化部が確認されている。また、P5は出入口施設に伴うピットと思われる。

覆土 9層からなり、全体的に締りのある土層であるが、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	6	暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、粘土ブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック・鹿沼パミス少量、炭化物・焼土粒子微量	8	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量
4	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・鹿沼パミス少量、炭化物微量	9	暗赤褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量			

遺物出土状況 土師器片714点（坏類18、甕類696）、須恵器片240点（坏類119、蓋13、高盤9、甕類99）、鉄製品1点（鎌）が覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片6点、土製品片3点（支脚）も出土している。272は東部壁際の覆土下層から、273は西部の床面からそれぞれ出土しており、いずれも住居廃絶時期に廃棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表（第165図）

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
270	須恵器	坏	[338]	4.1	7.8	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナア	下層	30%内面漆付着
272	須恵器	高台付坏	-	(4.0)	7.8	長石・石英・針状炭物	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り	下層	60%底部残漆着
273	須恵器	甕	17.8	4.1	8.9	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り	床面	95% PL.27
274	須恵器	高盤	[208]	(5.0)	-	長石・石英・黒色粒子	陶灰	普通	三方形通かし	下層	60%
275	須恵器	鉢	[320]	(6.7)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	内面指頭圧痕	床面	5%
276	土師器	甕	16.7	(16.8)	-	長石・石英	暗赤褐	普通	体部外面横方向のヘラ削り	壺下層	40% PL.31
277	土師器	甕	-	(3.5)	5.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面横方向のヘラ削り	下層	40%内面炭化物付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP34	支脚	(11.1)	13.0	(4.8)	(7.0)	土製	基部片底面に植物繊維圧痕	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q.33	砥石	7.1	3.0	1.9	(5.1)	凝灰岩	砥面4面	中層	PL.43
Q.34	砥石	(8.1)	6.5	5.0	(35.2)	砂岩	砥面4面、両端部欠損	中層	PL.43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M9	皿	14.9	0.9	0.7	8.4	鉄	輪状開有り、基部に木質付着	床面	PL.44

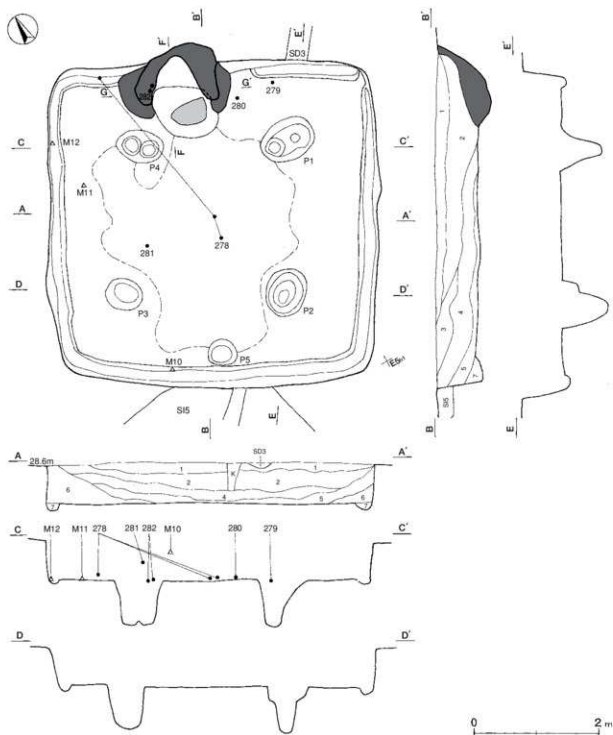
第6号住居跡 (第166・167図)

位置 調査区南部のE 4 g0区、標高28mほどの台地に位置している。

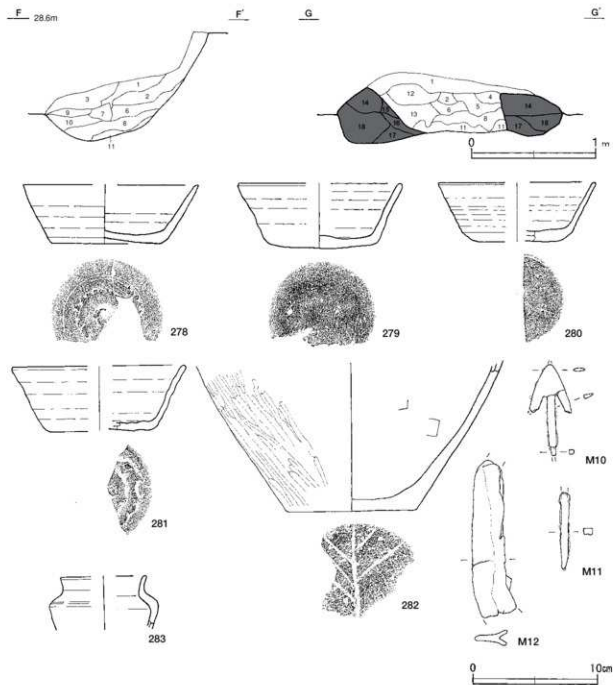
重複関係 南及び北壁の一部を第3号溝跡に掘り込まれ、南壁が第5号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.3m、短軸5.2mの方形で、主軸方向はN-23°-Eである。壁高は58~65cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。竈の前面には構築材の粘土が流れ出し、壁溝は全周している。



第166図 第6号住居跡実測図



第167図 第6号住居跡出土・遺物実測図

竈 北壁中央部の西寄りに付設されており、焚口部から煙道部まで155cm、袖部幅178cmで、壁外への掘り込みは30cmほどである。天井部は崩落しており、6層が煙道側の崩落土に相当し、掛け口より前方は床面に流れ出したものと思われる。袖部は床面を20～25cm掘り込み、ロームブロックと焼土、砂質粘土ブロックを含む暗褐色土で埋め戻した上に砂質粘土で構築され、天井部の崩落と前後して内側へ崩落したものと思われ、5、13層が崩落土に相当する。火床面は火熱のため赤変しており、煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1 褐色 炭化物・灰少量、焼土粒子微量 | 4 褐色 粘土ブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 にぶい褐色 粘土ブロック多量、小礫中量、焼土ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | 6 暗赤褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 |

7	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	13	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量、ロームブロック少量
8	暗赤褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック・炭化粒子微量	14	暗赤褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土粒子少量
9	黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	15	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
10	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	16	暗赤褐色	ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
11	褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量	17	暗褐色	ローム粒子多量、砂質粘土ブロック・焼土粒子微量
12	暗褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量	18	暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さは55～75cmである。P1・P4は2か所の底面を有し、補助柱穴の可能性がある。P5は出入口施設に伴うピットと思われ、深さは21cmである。

覆土 7層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量	5	黒褐色	ローム粒子中量、炭化物・粘土ブロック微量
2	黒褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量	6	黒褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	7	暗褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片455点（坏類5，甕類450），須恵器片152点（坏類105，蓋13，甕類34），鉄製品3点（鎌2，鋤先1）が中央部の覆土上層から下層にかけて出土している。そのほか、流れ込みによる縄文土器片2点、弥生土器片9点も出土している。279, 280は竈右の床面、また282は竈内から出土し、いずれも本跡に伴うものと考えられる。

所見 竈袖の基部に焼土や砂質粘土ブロックを使用していることや、位置から見て北壁中央から西寄りに作り替えた可能性があり、それに伴いP1・P4の柱を移動させたとも考えられるが明確ではない。時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第6号住居跡出土遺物観察表（第167図）

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
278	須恵器	坏	[140]	4.7	8.7	長石・針状鉱物・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	下層	45%
279	須恵器	坏	[129]	5.2	8.3	長石・針状鉱物・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り	床面	40%
280	須恵器	坏	[124]	4.7	[6.6]	長石・針状鉱物・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	床面	30%
281	須恵器	坏	[13.7]	5.2	[8.3]	長石・石英	灰白	普通	回転ヘラ削り	中層	25%
282	土師器	甕	-	(11.8)	[10.3]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ	竈下層	15%
283	須恵器	短頸壺	[6.6]	(4.3)	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	良好	内・外面ロウナデ	覆土中	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	甕	(7.4)	3.3	0.5	(11.0)	鉄	長三角形式、脇挟有り	上層	PL44
M11	甕	(6.2)	0.8	0.6	(5.6)	鉄	基部片、断面長方形	下層	
M12	鋤先	(12.5)	3.5	1.3	(65.8)	鉄	基部先端の破片	下層	PL44

第7号住居跡（第168図）

位置 調査区南部のF.4g0区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 北部を第3号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた南部の規模は東西5.1m、南北は1.1mのみで、方形を為していたものと思われ、主軸方向はN-12°-Eである。壁高は60cm前後で、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦である。

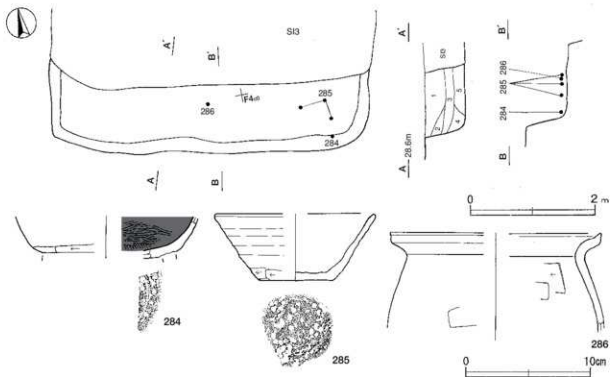
覆土 5層からなり、ブロック状を呈する人為堆積である。

土層解説

1 層	色	ロームブロック多量、甕沼パミス少量、焼土・炭化物微量	4 層	褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
2 層	色	ロームブロック・甕沼ブロック少量	5 層	黒褐色	ロームブロック多量、炭化物少量、焼土ブロック微量
3 層	色	ロームブロック多量、甕沼パミス少量			

遺物出土状況 土師器片、須恵器片が覆土中から少量出土している。284～286は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、第3号住居跡との重複関係や、出土土器から9世紀前半と考えられる。



第168図 第7号住居跡・出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表（第168図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
284	土師器	高台付杯	-	(3.3)	-	長石・石英	にぶい黒	普通	体部下縁回転ヘラ削り	南部下層	15%
285	須恵器	杯	[12.6]	5.3	5.8	長石・雲母	灰青黒	普通	体部下縁手持ヘラ削り	南部下層	45%
286	土師器	羹	[16.8]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	体部内・外面ヘラナデ	南部下層	5%

第12号住居跡（第169・170図）

位置 調査区南部のE 4 j3区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第45号掘立柱建物跡と重複しているが、掘り込みが重なっていないため新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸3.3m、短軸3.2mの方形で、主軸方向はN-24°-Eである。壁高は50～65cmで、各壁とも直立している。

床 ほぼ平坦な貼り床で、顕著な踏み固めは認められない。

竈 北壁の中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで98cm、袖部幅98cmで、壁外への掘り込みは18cmほどである。天井部は崩落し、4層が崩落土に相当する。袖部はロームブロックを含む暗褐色土の基部の上に

砂質粘土で構築されている。火床部は床面を4cmほど皿状に掘りくぼめられ、火床面は熱を受けて硬化している。煙道は緩やかに立ち上がり上部で直立する。

埋土層解説

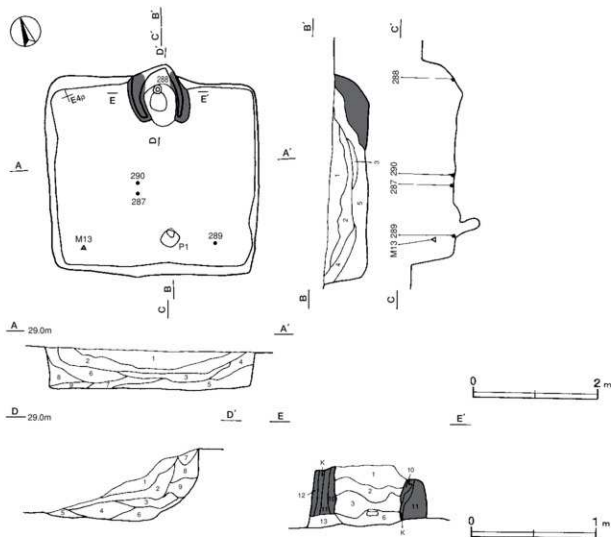
- | | | | |
|---------|--------------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、粘土ブロック微量 | 8 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、小礫微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 9 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量、炭化材微量 |
| 4 にぶい褐色 | 砂質粘土多量、礫微量 | 10 橙褐色 | 粘土層 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・砂粒少量、粘土ブロック微量 | 11 にぶい橙褐色 | 粘土層 |
| 6 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 | 12 灰褐色 | 粘土層 |
| | | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |

ピット P1 は出入口施設に伴うピットと思われる、深さは40cmである。

覆土 9層からなり、全体的に締りのないレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

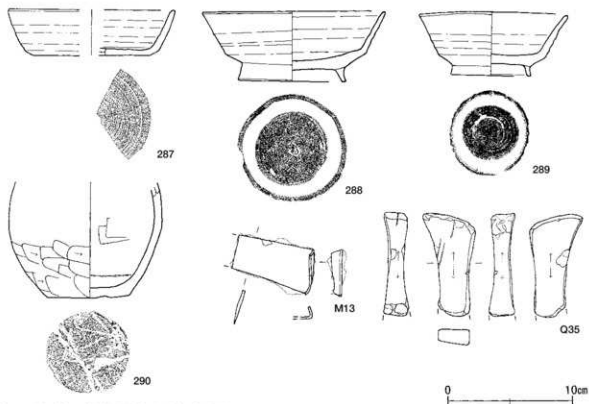
- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第169図 第12号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片243点(坏類1, 甕類242), 須恵器片78点(坏類70, 蓋1, 甕類7), 鉄製品1点(鎌)が覆土下層から出土している。そのほか, 流れ込みによる縄文土器片1点, 弥生土器片3点, 土製品片1点(支脚)も出土している。288の高台付坏は甕内から, 289, 290は南部及び中央部の床面からそれぞれ出土しており, 本跡に伴うものと考えられる。

所見 甕から出土した高台付坏は, 逆位に置かれたように出土し, 被熱の痕跡が認められないことから, 住居及び甕の廃棄に伴う何らかの行為が行われたものとも考えられるが明確ではない。時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第170図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表(第170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
287	須恵器	坏	[13.2]	3.7	[9.4]	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ割り	下層	20%
288	須恵器	高台付坏	14.3	5.6	8.4	長石・針状炭物	灰	良好	底部回転ヘラ割り後, 高台貼り付け	甕下層	95% PL37
289	須恵器	高台付坏	11.8	4.9	6.5	長石・石英・針状炭物	灰	良好	底部回転ヘラ割り後, 高台貼り付け	床面	95% PL37
290	土師器	甕	-	(9.1)	6.6	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ヘラ割り, 内面ヘラナデ	床面	55%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q35	砥石	(8.2)	4.2	2.1	(62.5)	凝灰岩	砥面4面	覆土中	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	鎌	(6.7)	4.2	0.2	(21.5)	鉄	刃先部欠損基部は全体を折り返す	下層	P44

第15号住居跡 (第171・172図)

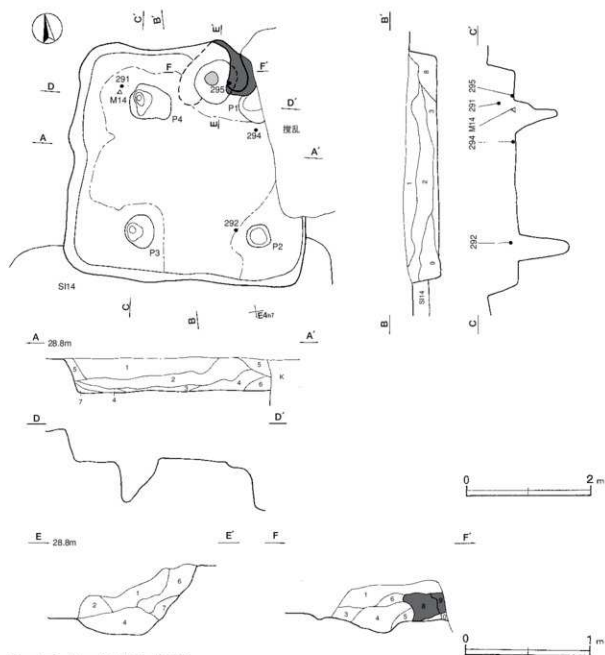
位置 調査区南部のE 4 g6区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 南壁が第14号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺3.8mの方形で、主軸方向はN-13°-Eである。壁高は43~53cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、ロームブロックを含む黒褐色土の貼り床である。壁下を除いてよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されているが、遺存状態が悪く、規模は推定で、焚き口から煙道部まで約103cm、袖部幅約115cmで、壁外への掘り込みは24cmほどと思われる。床面にロームブロックを含む暗褐色土の基部を設け、その上に砂質粘土で右袖部を構築していたものと思われる。火床部は床面を14cmほど皿状に掘りくぼめ、火床面は熱を受けて赤変硬化しており、煙道は外傾して立ち上がっている。



第171図 第15号住居跡実測図

覆土層解説

1 暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量	6 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	7 暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
3 暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	8 褐色	ロームブロック少量、砂質粘土層
4 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量、炭化物微量	9 暗褐色	砂粒多量、ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
5 暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量	10 暗褐色	ロームブロック・砂粒中量

ピット 4か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さは55～80cmである。

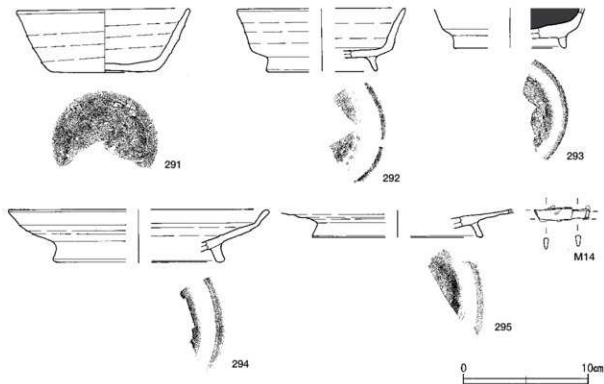
覆土 9層からなり、全体的に締りがなく、ロームブロックを多く含む人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化物微量	7 黒褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
3 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	8 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土ブロック・砂粒少量、炭化物微量
4 黒褐色	ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量	9 黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量		

遺物出土状況 土師器片134点（坏類3，甕類131），須恵器片108点（坏類91，盤3，蓋7，甕類7），鉄製品1点（刀子）が南部の覆土中層から下層を中心に出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片3点、土製品片1点（支脚）も出土している。292は南部の覆土下層，294は東部の床面からそれぞれ出土している。また、293はP3の覆土中，295は竈から出土しており本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第172図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表 (第172図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
291	須恵器	環	13.8	5.1	8.1	長石・石英・針状炭物	灰	良好	底部多方向のヘラ削り	下層	50% PL34
292	須恵器	高台付環	[132]	5.0	[86]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り	下層	30%
293	須恵器	高台付環	-	(3.1)	[90]	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り	P3覆土中	15% 内周縁付着
294	須恵器	盤	[205]	4.2	[136]	長石・針状炭物	灰	良好	底部回転ヘラ削り	床面	15%
295	須恵器	盤	-	(2.2)	[136]	長石・針状炭物・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り	地下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M14	刀子	(4.4)	0.9	0.5	(4.1)	鉄	切先から刃部欠損、内凹	床面	PL43

第16号住居跡 (第173図)

位置 調査区南部のE 47区。標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 西壁が第17号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.8m、短軸3.5mの方形で、主軸方向はN-22°-Eである。壁高は55~58cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 凹凸のある貼り床で、中央部は踏み固められている。壁溝は南北壁下の一部と西壁で確認された。

竈 北壁の中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで115cm、袖部幅114cmで、壁外への掘り込みは36cmほどである。天井部は崩落しており、土層断面中の9、10、11層が相当する。袖部は床を15~20cm掘り込み、ローム、粘土で埋め戻し、その上に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cmほど皿状に掘りくぼめられ、火床面は熱を受けて赤変硬化し、煙道は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック微量	9	にんべん色褐色	砂質粘土ブロック多量、ロームブロック中量、焼土粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・微量	10	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	11	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
4	暗赤褐色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子少量	12	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量
5	暗赤褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック微量	13	明るい褐色	炭化物・焼土粒子微量、砂質粘土層
6	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化物微量	14	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量	15	黒褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
8	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量	16	暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量
9	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量	17	暗褐色	ロームブロック・白色粒子少量、焼土粒子微量

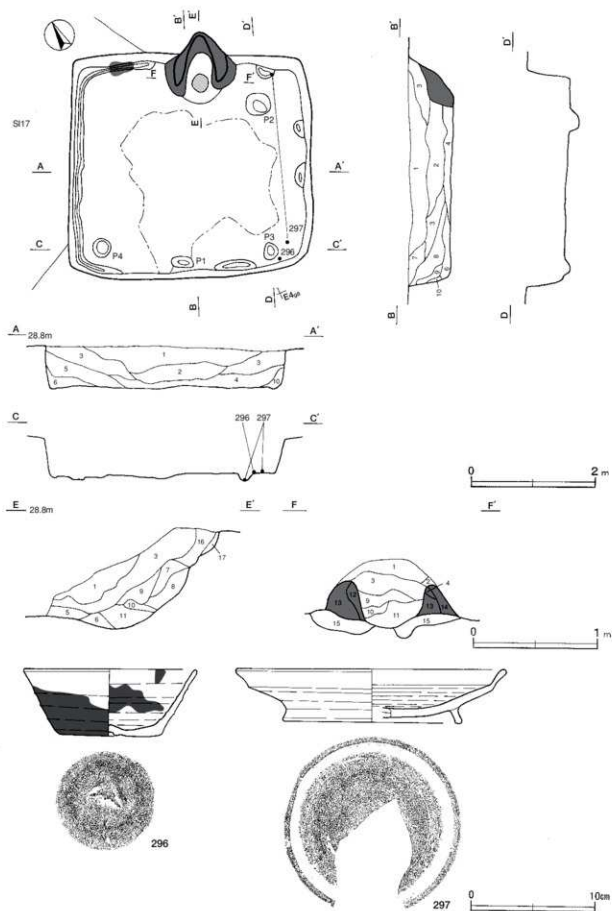
ピット 4か所。P 1は出入口施設に伴うピットと思われる、深さは20cmである。P 2~P 4深さはP 2が10cm、P 3は12cm、P 4が8cmで、掘り方の平面形が不定形であるため性格は不明である。

覆土 10層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量	5	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	6	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量	7	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量	8	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・白色粒子微量
			9	黒褐色	ローム粒子・白色粒子少量、焼土粒子微量
			10	暗褐色	ローム粒子中量、白色粒子少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片264点(環類6, 甕類258), 須恵器片66点(環類57, 蓋1, 甕類8)が覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。296は南東コーナー部の床面、297は東部の床面からそれぞれ出土しており、本跡に伴うものと考えられる。



第173图 第16号住居跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第16号住居跡出土遺物観察表(第173図)

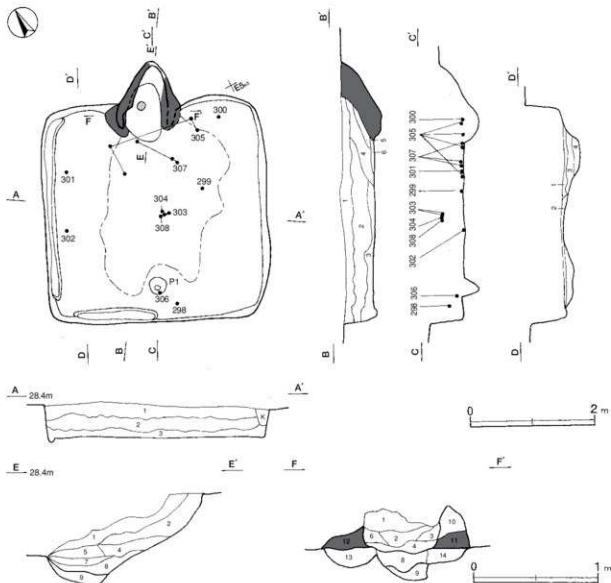
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
296	須恵器	坏	13.6	5.3	8.1	長石・石英・ 針状磁物	灰	良好	底部回転へう切り後、回転へう削り	下層	70% PL36 灰化物付着
297	須恵器	甕	21.2	4.3	14.2	長石・石英・ 針状磁物	黄灰	良好	底部回転へう削り	床面	75%

第18号住居跡(第174・175図)

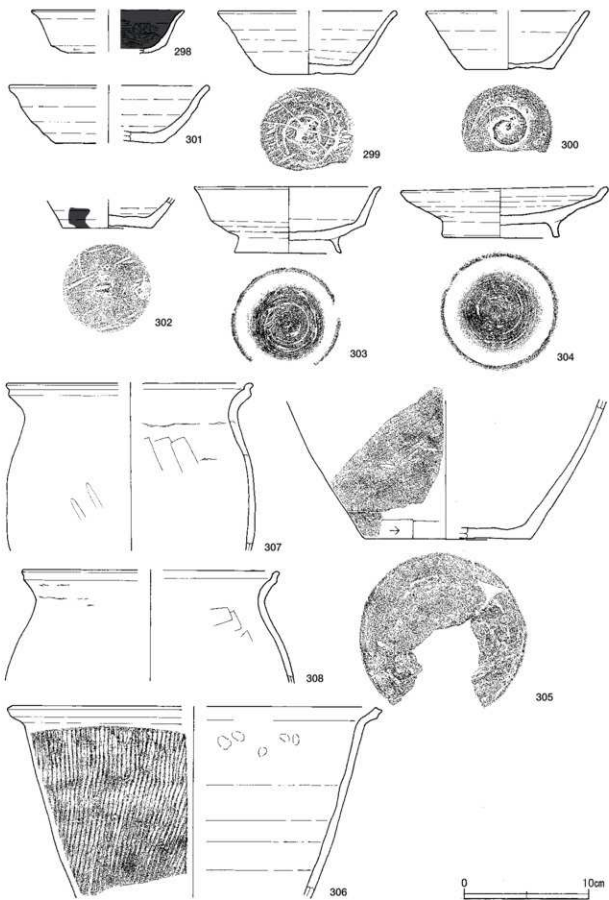
位置 調査区南部のE 5 e2区、標高28mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.6m、短軸3.5mの方形で、主軸方向はN-28°-Eである。壁高は45~55cmで、各壁とも直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部に地山を残す貼り床で、竈前面から出入口施設にかけて踏み固められている。壁溝は西壁と南壁の一部で確認された。



第174図 第18号住居跡実測図



第175图 第18号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで130cm、袖部幅122cmで、壁外への掘り込みは60cmほどである。天井部は崩落し、土層断面中の2、3層が崩落土に相当する。袖部は砂質粘土で構築され、火床部は床面を22cmほど掘り下げた部分にロームブロックと砂質粘土を10cmほど埋め戻した面を使用している。火床面と袖部の内壁は熱を受けて赤変硬化しており、煙道は緩やかに傾斜して立ち上がる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	8 暗赤褐色	ロームブロック多量、砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量
2 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量、炭化物微量	9 暗赤褐色	ロームブロック多量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
3 暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子微量	10 暗赤褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	11 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子多量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	12 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化物微量
6 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック少量、炭化物微量	13 褐色	ロームブロック多量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
7 暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	14 褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量

ピット P1は、深さは26cmで、出入口施設に伴うピットと思われる。

覆土 6層からなり、全体的に締りのある土層である。ロームブロックを多く含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	5 暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化材少量	6 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量		
4 暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量		

遺物出土状況 土師器片325点（坏類20、変類305）、須恵器片114点（坏類83、蓋14、甕類17）が覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。そのほか、細片のため図示することができない灰軸陶器片6点が出土している。299、300は東部、301は北部、302は西部の床面からそれぞれ出土している。305、307は竈前面の覆土下層から床面にかけて出土しており、竈で使用されていたものと思われる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表（第175図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
298	土師器	高台付杯	[121]	(3.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き	中層	15%
299	須恵器	杯	[139]	5.1	7.1	長石・石英・針状炭化物・礫	にぶい・黄褐色	普通	底部回転ヘラ切切り	床面	65% 底部外面磨き
300	須恵器	杯	[129]	4.7	7.0	長石・針状炭化物・石英・礫	灰黄	良好	底部回転ヘラ切切り	床面	50% 底部外面磨き
301	須恵器	杯	[160]	4.6	[90]	長石・石英・針状炭化物・礫	にぶい・黄褐色	普通	底部回転ヘラ切切り後、ナデ	床面	40% 底部外面磨き
302	須恵器	杯	-	(2.3)	7.2	長石・針状炭化物・礫	灰黄	普通	底部回転ヘラ切切り後、ナデ	床面	25% 炭化物付着
303	須恵器	高台付杯	14.9	5.4	8.4	長石・石英・針状炭化物・礫	灰赤	普通	底部回転ヘラ切切り後、高台陽付付け	中層	70%
304	須恵器	壺	16.3	4.1	9.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切切り後、高台陽付付け	中層	85% P1.27
305	須恵器	甕	-	(11.0)	13.3	長石・石英・礫	黄灰	普通	体部下端ヘラ削り	下層	15%
306	須恵器	瓶+	[290]	(15.2)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部内面指頭圧痕	下層	15%
307	土師器	甕	[191]	(13.3)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ	竈前下層	15%
308	土師器	甕	[203]	(8.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	体部内面ヘラナデ	中層	10%

第20号住居跡 (第176・177・178・179図)

位置 調査区南部のE5c1区、標高28mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸6.0m、短軸5.8mの方形で、主軸方向はN-15°-Eである。壁高は70~92cmで、各壁とも直立している。

床 はほぼ平坦な貼り床で、竈前面から出入口施設にかけてよく踏み固められている。壁溝は東壁の2か所で断続するが、全周していたものと思われる。

竈 北壁の中央に付設されており、焚口部から煙道部まで175cm、袖部幅212cmで、壁外への掘り込みは62cmほどである。天井部は崩落しており、土層断面中の2~4層が相当する。袖部は床面を20cmほど皿状に掘り下げ、ロームブロックと砂質粘土で埋め戻した上に小礫を加えた砂質粘土で構築されている。火床部は20cmほど掘りくぼめ、砂質粘土、焼土を含む赤褐色土で埋め戻された面にあり、火床面は熱を受けて赤変硬化している。煙道部にも砂質粘土が貼られ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・小礫微量	11 暗赤褐色	砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
2 褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子・小礫微量	12 褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
3 暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・小礫少量、炭化物微量	13 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック微量
4 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	14 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化物微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック少量、炭化物微量	15 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・砂質粘土ブロック微量
6 灰褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック微量	16 にぶい赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
7 暗赤褐色	焼土ブロック多量、砂質粘土ブロック中量、炭化物・小礫微量	17 暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量
8 暗赤褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量、炭化粒子・小礫微量	18 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土ブロック・小礫少量
9 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化物・小礫微量	19 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物・小礫微量
10 暗赤褐色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量	20 褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 5か所。P1~P4は支柱穴に相当し、深さは62~80cmである。いずれの底面も鹿沼層を掘り抜いてハードロームまで達している。P5は深さ52cmで、出入口施設に伴うピットと思われる。

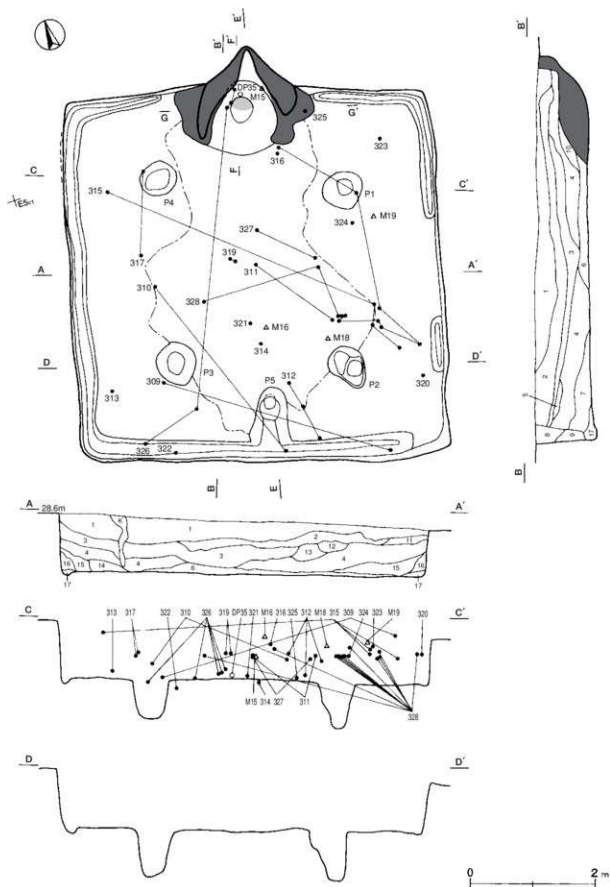
覆土 17層からなり、中層から下層にかけてはブロック状の堆積状況を示していることから、人為的に埋め戻された後に、1、2層が自然に堆積したものと考えられる。

土層解説

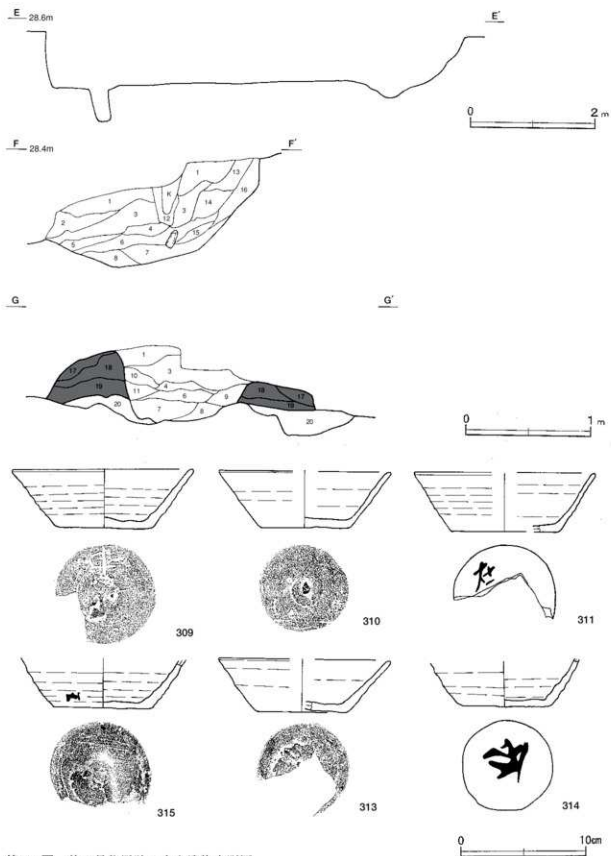
1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・鹿沼ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	10 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・小礫微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子・小礫微量	11 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・小礫少量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・小礫微量	12 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子・炭化物・小礫微量
6 黒色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・鹿沼パミス少量、ローム粒子・炭化物微量	14 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・鹿沼ブロック・焼土粒微量	15 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	16 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
		17 褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片2214点(環類167、高坏5、甕類2042)、須恵器片820点(環類665、盤6、蓋46、甕類103)、鉄製品5点(刀子1、釘1、不明2)銅製品1点(還方)が、東部から投棄されたように覆土上層から中層に出土し、下層から床面にかけては散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片15点、土製品片5点(支脚)も出土している。313は南西コーナーの覆土下層から、314、321は中央部の床面、322は南部の壁溝中、325は竈右袖の外側床面からそれぞれ出土しており本跡に伴うものと考えられる。

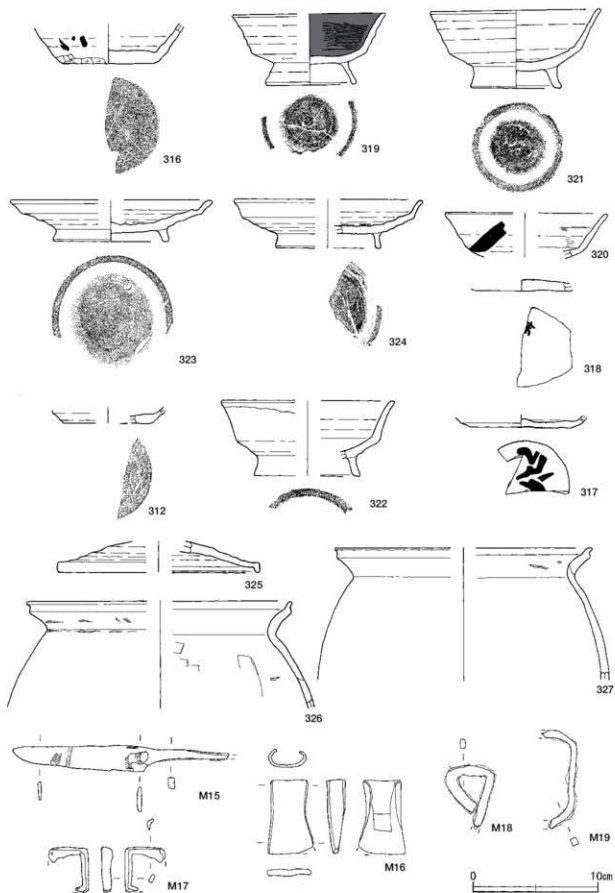
所見 覆土上層から中層にかけて出土した土器類は埋め戻しの段階に投棄されたものと思われる。廃絶時期は出土土器から9世紀前半と考えられる。



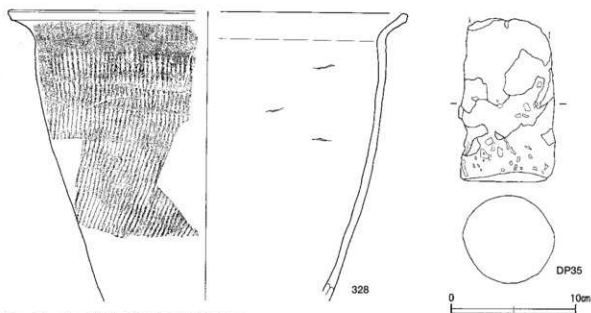
第176图 第20号住居跡実測图



第177図 第20号住居跡・出土遺物実測図



第178图 第20号住居跡出土遺物実測図(1)



第179図 第20号住居跡出土遺物実測図(2)

第20号住居跡出土遺物観察表 (第177~179図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
309	須恵器	坏	14.3	4.7	8.0	長石・石英・ 針状鉱物・礫	にぶい黒	普通	底部回転へつ切り後、ナデ	上層から下層	55% 肌書き「□」
310	須恵器	坏	[13.6]	4.6	7.2	長石・黒色粒子・ 礫・針状鉱物	灰	普通	底部回転へつ切り後、ナデ	中層	45%
311	須恵器	坏	[14.3]	4.7	8.3	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	底部回転へつ切り後、ナデ	中層	40% 底部肌書き「在」
312	須恵器	坏	-	(1.0)	[7.0]	長石・石英・ 針状鉱物	灰白	普通	底部回転へつ割り	中層	40%
313	須恵器	坏	[13.6]	4.2	7.1	長石・石英・礫・ 針状鉱物	灰	普通	底部回転へつ切り	下層	50%
314	須恵器	坏	-	(3.7)	7.2	長石・黒色粒子	黄灰	普通	底部回転へつ切り後、ナデ	床面	50%底部肌書き 「在」
315	須恵器	坏	-	(4.0)	7.8	長石・石英・ 針状鉱物	にぶい・黄橙	普通	底部回転へつ切り	上層から中層	50%体部肌書き 「□」
316	須恵器	坏	-	(3.1)	[7.2]	長石・石英・ 針状鉱物	灰黄	普通	体部下端手持ちへつ割り、底部多方向の へつ割り	中層	30%体部肌書き 「□」肌書き
317	須恵器	坏	-	(1.0)	[7.8]	長石・石英・ 黒色粒子	黄灰	良好	底部回転へつ切り後、ナデ	中層	10% 底部肌書き「□」
318	須恵器	坏	-	-	[7.8]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転へつ切り	覆土中	10% 底部肌書き「□」
319	土師器	高台付坏	[12.0]	5.7	6.9	長石・雲母・石英・ 針状鉱物	にぶい・黄橙	普通	体部下端へつ割り	中層	50%
320	土師器	高台付坏	[12.8]	(3.6)	-	長石・石英・ 針状鉱物	にぶい・橙	普通	体部内面へつ磨き	中層	10% 体部肌書き「□」
321	須恵器	高台付坏	13.5	6.3	7.0	長石・石英・礫・ 針状鉱物	黄灰	良好	底部回転へつ切り、高台取り付け後、ナデ	床面	85%
322	須恵器	高台付坏	[13.8]	6.0	[8.4]	長石・石英	灰黄	良好	底部回転へつ割り、高台取り付け後、ナデ	壁溝	15%
323	須恵器	甃	[15.9]	3.3	9.1	長石・黒色粒子	オリーブ灰	良好	底部回転へつ割り	中層	65% 内面肌、 片高未転用肌
324	須恵器	甃	[14.9]	3.9	[8.3]	長石・石英・礫・ 針状鉱物	灰	良好	底部回転へつ割り、高台取り付け後、ナデ	中層	25%
325	須恵器	蓋	[15.8]	(2.5)	-	長石・礫・ 黒色粒子	灰	良好	天井部回転へつ割り	甃右床面	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
326	土師器	甕	[21.0]	(8.5)	-	長石・石英	色調	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	下層	20%
327	土師器	甕	[20.4]	(10.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	中層	15%
328	須恵器	甕	[31.6]	(23.2)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内面ナデ	中層	25%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP35	支脚	(13.0)	7.8	7.1	(783.9)	土製	上部欠損。小礫、植物繊維を含む	遺火床	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	刀子	(17.3)	2.1	0.5	(25.6)	鉄	刃部に繊維付着、片割	遺下層	PL43
M16	銚	5.9	(3.7)	0.5	(44.9)	鉄	袋部、刃部一部欠損、刃部は幅広	中層	PL44
M17	蓋方	3.6	(3.2)	0.9	(9.5)	銅	止め金具欠損、無孔式*	覆土中	PL43
M18	不明	(5.2)	4.1	0.5	(15.9)	鉄	断面長方形	中層	
M19	不明	(7.9)	(2.8)	0.6	(10.5)	鉄	断面長方形、帯金具*	上層	

第22号住居跡（第180～182図）

位置 調査区南部のE 5a区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 北壁が第52号住居跡、東壁が第21号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.6m、短軸5.4mの方形で、主軸方向はN-13°-Eである。壁高は65～77cmで、各壁ともやや外傾している。

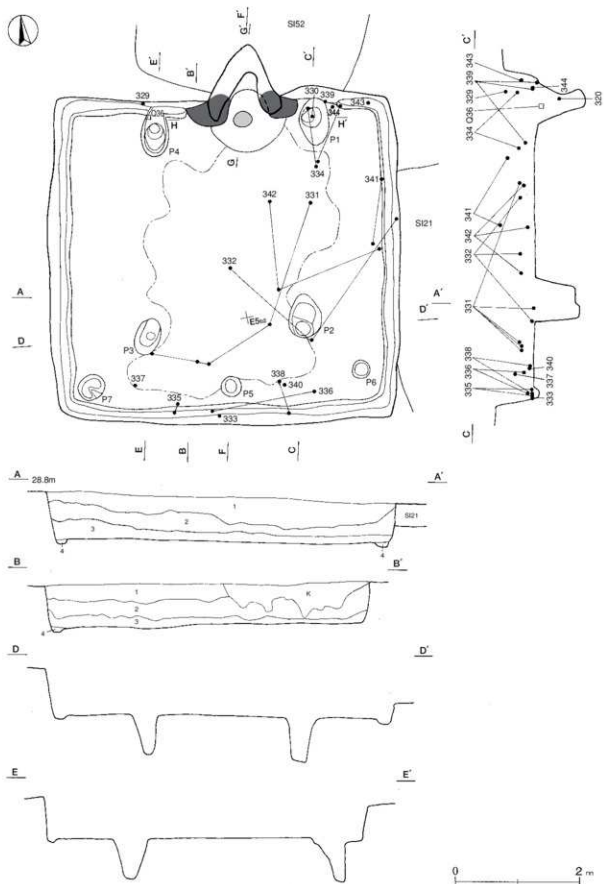
床 ほほ平坦で、竈前面から出入口施設にかけて踏み固められ、壁溝が全周している。

竈 北壁の中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで172cm、袖部幅174cmで、壁外への掘り込みは86cmである。天井部は崩落しており、土層断面図中の5層が崩落土に相当する。袖部は床面にロームブロックを含む砂質粘土で構築されている。火床部は床面を16cmほど掘りくぼめ、火床面は熱を受けて赤変硬化している。また、煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。

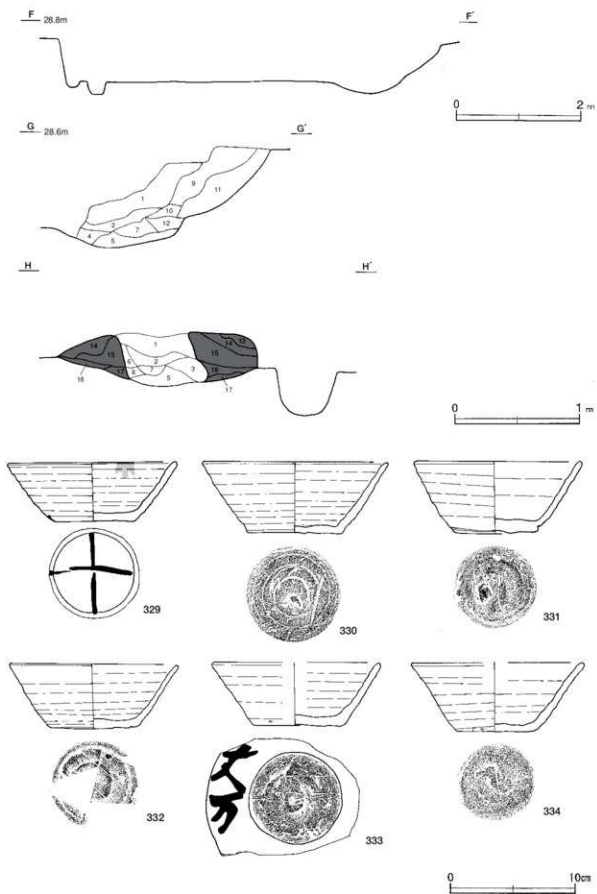
竈土層解説

1 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	11 黒褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化物少量
2 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物微量	12 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化物少量
3 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子少量	13 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・砂粒中量、焼土粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	14 暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・砂質粘土ブロック少量	15 褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量
6 暗赤褐色	ローム粒子・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	16 褐色	ローム粒子・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量
7 暗赤褐色	焼土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量	17 褐色	ロームブロック多量、砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量
8 暗赤褐色	焼土粒子・砂粒中量、砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量	18 暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
9 暗赤褐色	ローム粒子・砂粒中量、焼土粒子・炭化物少量		
10 暗赤褐色	砂粒中量、ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子少量		

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは63～82cmである。P1とP4は竈の両脇壁際であり、内傾していることから、第46号住居跡と同様に、上屋構造が他の住居跡と異なると想定される。また、P1の覆土中層から須恵器坏が逆位で出土しており、柱材は抜き取られていると思われる。P5は出入口施設に伴うピットであり、P6、P7の性格は不明である。



第180图 第22号住居跡实测图



第181图 第22号住居跡・出土遺物実測図

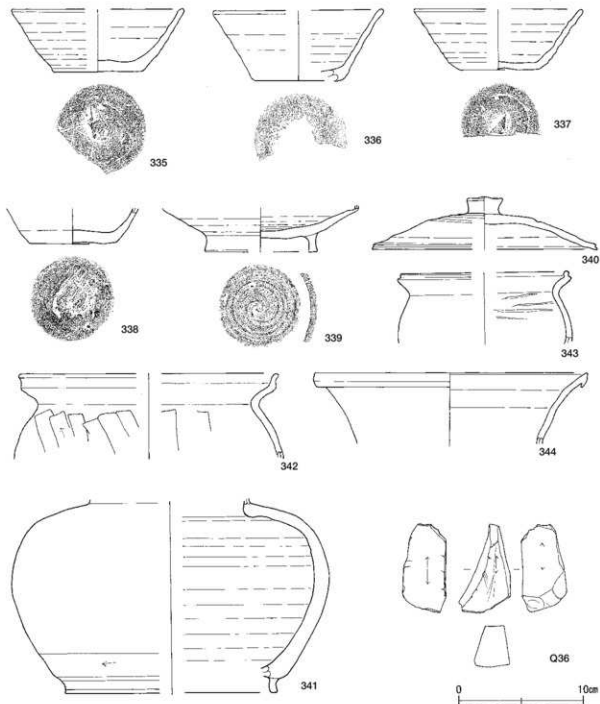
覆土 4層からなり、全体的に締りのない土層で、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 3 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 4 暗 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片766点（坏類41、甕類725）、須恵器片257点（坏類178、盤1、蓋31、甕類47）、石製品1点（砥石）が覆土中層から床面にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる縄文土器片74点、弥生土器片12点も出土している。330はP1の覆土中層、333は南部の壁際、339は北部の床面からそれぞれ出土している。本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第182図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表 (第181・182図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
329	須恵器	環	13.3	4.7	6.4	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部一方向へのヘラ削り	上層	5% PL36 [西直土直書]
330	須恵器	環	14.6	5.6	7.6	長石・石英・針状鉱物	灰白	普通	底部回転ヘラ切り	中層	90% PL36 底部直書き
331	須恵器	環	13.3	5.8	6.4	長石・石英・針状鉱物	灰オリーブ	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	下層～床面	70% 底部直書き「ル」
332	須恵器	環	13.3	5.3	6.9	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り	下層～床面	65% 底部直書き「二」
333	須恵器	環	13.3	5.1	7.1	長石・石英	灰白	普通	体部下端へのヘラ削り、底部回転ヘラ切り	床面	50% 底部直書き「大」
334	須恵器	環	13.6	5.5	5.7	長石・針状鉱物	灰オリーブ	普通	底部回転ヘラ切り	中層	50% 底部直書き「大」
335	須恵器	環	13.8	5.0	7.3	長石・針状鉱物	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	床面	45% 底部直書き「大」
336	須恵器	環	13.4	5.6	7.0	長石・針状鉱物	灰	普通	底部多方向へのヘラ削り	中層	40%
337	須恵器	環	13.4	4.8	6.2	長石・針状鉱物	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	中層	35% 底部直書き「二」
338	須恵器	環	-	(2.8)	6.8	長石・針状鉱物	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向へのヘラ削り	床面直上	20%
339	須恵器	盤	-	(3.6)	(9.6)	長石・針状鉱物	灰オリーブ	普通	底部回転ヘラ削り	下層～床面	70%
340	須恵器	蓋	17.8	4.1	-	長石・針状鉱物	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面直上	50%
341	須恵器	短距離	-	(15.2)	16.8	長石・黒色粒子	黄灰	普通	体部下端へのヘラ削り	中層	20%
342	土師器	壺	20.4	(6.8)	-	長石・雲母	橙	普通	体部内面へのナデ、外面へのヘラ削り	下層	10%
343	土師器	壺	13.2	(5.6)	-	雲母・長石	明赤褐	普通	体部内面へのナデ	中層	10%
344	須恵器	壺	21.7	(5.6)	-	長石・石英	灰	普通	体部内面へのナデ	床面直上	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q36	砥石	7.0	4.1	3.5	85.1	凝灰岩	砥面3面	P4覆土中	PL43

第23号住居跡 (第183～185図)

位置 調査区南部のE 3h3区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 東壁及び南壁が第40号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.5m、短軸3.9mの長方形で、主軸方向はN-33°-Eである。壁高は57～60cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼り床で、掘り方にロームブロックを多量に含む暗褐色土を10～15cm埋め戻している。竈前面から中央部にかけて踏み固められており、竈前面には構築材の粘土が流れ出している。また、壁溝が南西部を除く各壁下で検出されている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで164cm、袖部幅160cmで、壁外への掘り込みは90cmほどである。天井部は崩落し、床面に流れ出している。袖部は掘り残したロームを基部とし、その上に砂質粘土で構築されていたものと思われる。床面を26cmほど掘りくぼめ、ロームブロックを主体に砂質粘土、焼土を含む赤褐色土で埋め戻した面を火床部としている。火床面は熱を受けて赤変硬化しており、煙道は外傾して立ち上がっている。

電土層解説

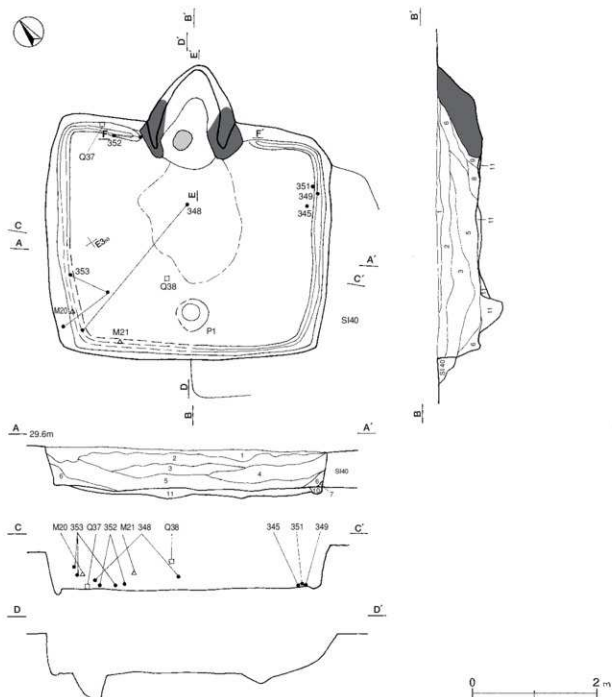
- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 | 6 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量 | 7 暗赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土ブロック少量 | 9 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子少量 | | |

ピット 1か所。P1は出入口施設に伴うピットで、深さは36cmである。

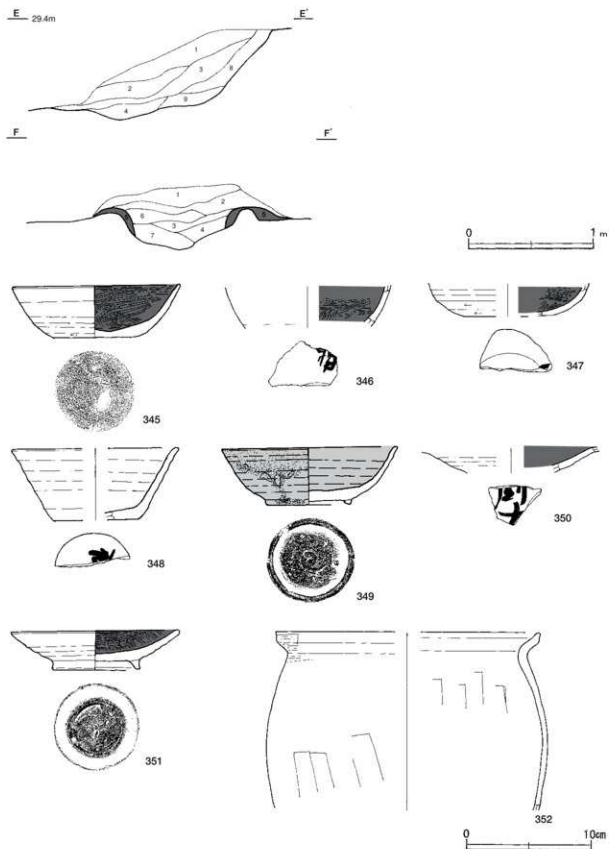
覆土 10層からなり、全体的に締りのない土層で、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量	7	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量	8	暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土ブロック少量
4	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック微量
5	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量			



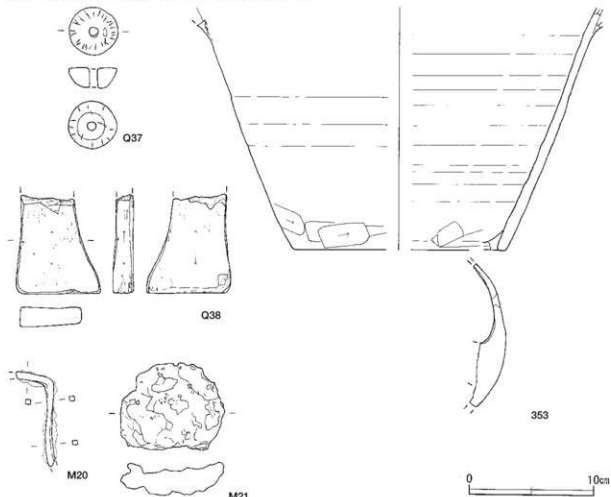
第183図 第23号住居跡実測図



第184图 第23号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片680点(坏類112, 甕類568), 須恵器片236点(坏類103, 蓋2, 甕類131), 灰釉陶器1点(椀), 鉄製品1点(釘), 鉄滓1点, 石製品2点(紡錘車, 砥石)が覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。345, 349, 351は東壁の床面直上から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第185図 第23号住居跡出土遺物実測図

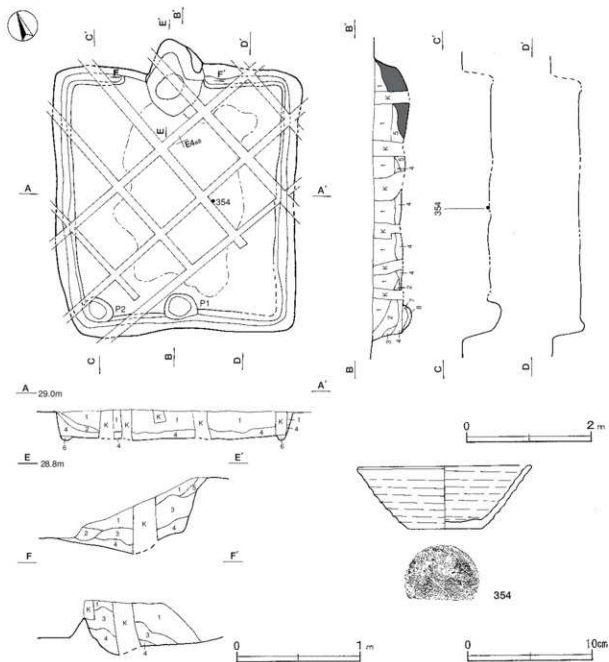
第23号住居跡出土遺物観察表 (第184・185図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
345	土師器	坏	13.3	4.2	6.4	長石・針状鉱物	にぶい橙	普通	体部内面へう磨き, 底部回転へう削り	床面	95% PL35
346	土師器	坏	-	(3.3)	-	長石・針状鉱物	にぶい橙	普通	体部内面へう磨き	覆土中	10% 体部墨書「船」e
347	土師器	坏	-	(2.6)	(7.1)	長石・針状鉱物	橙	普通	体部下端へう削り, 底部回転へう削り	覆土中	10% 体部墨書「口」
348	須恵器	坏	[13.4]	5.7	[6.9]	長石・針状鉱物	灰	普通	底部回転へう削り後, ナデ	下層	20% 底部墨書「口」
349	灰釉陶器	高台付杯	13.9	4.5	6.6	石英・黒色砂子	灰・灰オリーブ	良好	底部回転へう削り	床面	95% PL36
350	土師器	高台付皿	-	(2.1)	-	長石・石英・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	体部下端へう削り	覆土中	10% PL40 体部墨書「大尉」e
351	土師器	高台付皿	13.4	3.2	6.9	長石・石英・針状鉱物	にぶい橙	普通	体部内面へう磨き, 底部回転へう削り	床面直上	100% PL37
352	土師器	蓋	[21.0]	(14.1)	-	長石・石英・赤色砂子	明赤褐	普通	体部内面ナデ, 外面へう削り後, ナデ	床面直上	10%
353	須恵器	瓶	-	(19.4)	[17.0]	長石	灰白	普通	体部下端へう削り	床面直上	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q37	結縁車	3.8	4.0	1.7	35.9	滑石	両面に縁別	床面	PL42
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q38	灰石	(7.9)	6.8	1.6	(1512)	泥岩	両面3面	中層	PL43
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M20	釘	(7.6)	(3.3)	0.5	(12.9)	鉄	断面長方形	下層	
M21	鉄滓	7.0	8.2	2.6	206.3	鉄	塊状、緻性は弱い	下層	

第33号住居跡 (第186図)

位置 調査区南部のE 4 a7区、標高28mほどの台地上に位置している。



第186図 第33号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸4.3m、短軸3.8mの長方形で、主軸方向はN-22°-Eである。壁高は43~47cmで、各壁ともやや外傾している。

床 ほぼ平坦で、中央部は地山が掘り残され、竈前面から出入口施設にかけてよく踏み固められており、壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで122cm、幅86cmで、壁外への掘り込みは48cmほどである。天井部は廃絶時に破壊されたものと思われ、覆土には上層から下層にかけて、構築材と思われる砂質粘土や焼土が含まれている。袖部は床面に砂質粘土を用いて構築されており、内壁が赤変している。火床部は床面を18cmほど皿状に掘りくぼめ、火床面は熱を受けてやや硬化し、煙道は外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土ブロック少量、炭化物微量	4	暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量、炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量			

ピット 2か所。P1は出入口施設に伴うピットで、深さは16cmである。P2は南西コーナー部の壁溝中に位置し、性格は不明である。

覆土 8層からなり、廃絶後の段階で自然に埋没し、その後1層が埋め戻され、層厚が厚くロームブロックを含んでいる人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量	5	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・砂粒少量、炭化物微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量	6	褐色	ロームブロック多量
3	暗褐色	ローム粒子中量	7	暗褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片163点（坏類7、甕類156）、須恵器片117点（坏類87、蓋5、甕類25）が覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片11点も出土している。354は中央部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第33号住居跡出土遺物観察表（第186図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
354	須恵器	坏	13.6	5.0	6.1	長石針状雑物	明灰黄	普通	底部回転ヘラ切り機、ナデ	床面	60% 底部縦書き「十」

第34号住居跡（第187・188図）

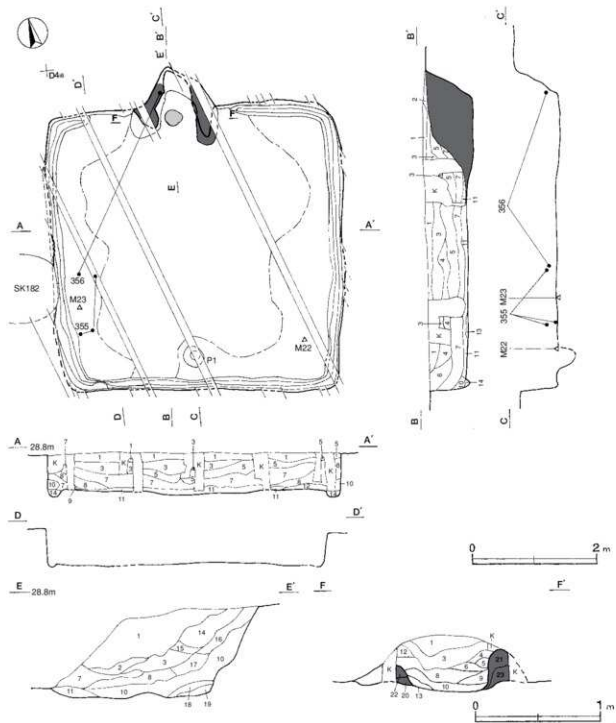
位置 調査区南部のD4i6区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 西壁が第182号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.6m、短軸4.5mの方形で、主軸方向はN-8°-Eである。壁高は53~56cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼り床で、中央部は地山が掘り残され、竈前面から出入口施設にかけてよく踏み固められている。また、壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで116cm、袖部幅140cmで、壁外への掘り込みは62cmほどである。天井部は崩落し、土層断面図中の8層および15層が崩落土に相当する。袖部は細礫を混ぜた砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめ、火床面は熱を受けて赤変硬化している。煙道部は奥壁が赤変しており、外傾して立ち上がっている。



第187図 第34号住居跡実測図

壘土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|---------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 8 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物少量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量 | 10 暗赤灰色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量、炭化物少量 |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化物微量 | 14 褐色 | 砂質粘土ブロック多量、ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量 |

15	にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量	19	暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂粒中量
16	褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量	20	にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
17	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量	21	暗赤褐色	砂質粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化物微量
18	暗赤褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化物微量	22	暗赤褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量
			23	にぶい赤褐色	砂粒多量, 焼土粒子微量

ピット 1か所。P1は出入口施設に伴うピットで、深さは27cmである。

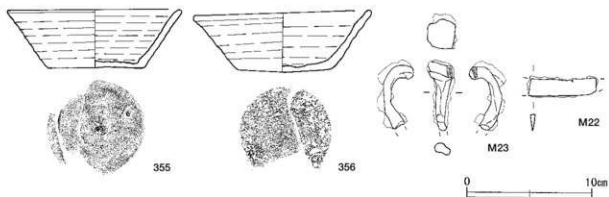
覆土 14層からなり、全体的に締まりのある土層であるが、6～14層は周囲の土砂が流入した自然堆積層で、1～5層は人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8	極暗褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量
2	褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量	9	黒褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子中量, 砂粒微量
4	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量	11	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量
5	暗褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化物微量	12	黒褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量
6	黒褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化物微量	13	褐色	砂質粘土ブロック・砂粒多量
7	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片173点(坏類1, 甕類172), 須恵器片57点(坏類39, 蓋5, 甕類13), 鉄製品2点(刀子, 不明)が覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。355は南西部の覆土下層から床面, M22は東部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前半と考えられる。



第188図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表(第188図)

番号	種類	器種	口径	器底	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
355	須恵器	坏	14.0	4.6	7.7	長石・針状鉱物・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後, ナデ	下層	65%
356	須恵器	坏	14.1	5.1	7.5	長石・雲母	灰黄褐色	普通	底部多方向のヘラ削り	下層	50% 二次焼成

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M22	刀子	(5.4)	(1.4)	0.4	(8.0)	鉄	刃部片	床面	
M23	不明	(5.5)	2.3	1.0	(19.5)	鉄	U字状に彎曲	床面	

第36号住居跡(第189・190図)

位置 調査区南部のD4区8区, 標高28mほどの台地上に位置している。

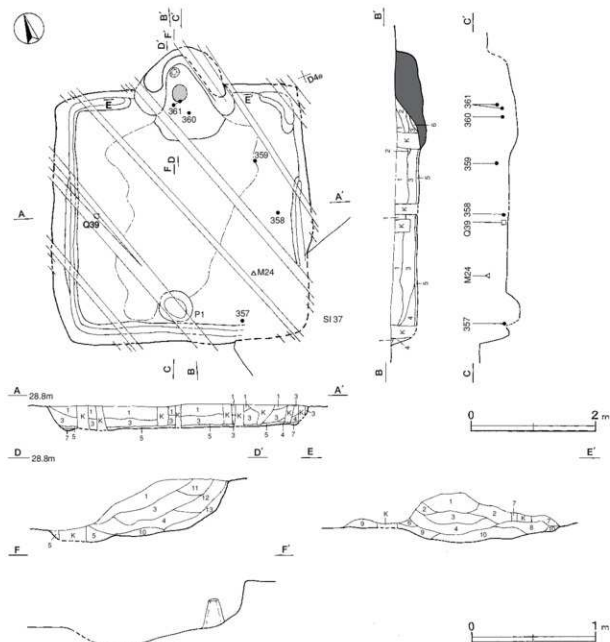
重複関係 南東コーナー部が第37号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.1m, 短軸3.9mの方形で, 主軸方向はN-20°-Eである。壁高は35~45cmで, ほぼ直立し

ているが、西壁及び南壁はやや外傾している。

床 ほぼ平坦で、竈前面から出入口施設にかけて踏み固められている。壁溝が周回しているが、東壁の一部で途切れている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで110cm、袖部幅156cmで、壁外への掘り込みは66cmほどである。天井部は廃絶時に破壊されたものと推測され、覆土の上層から下層にかけて、構築材と思われる砂質粘土ブロックや焼土ブロックが含まれている。袖部は床面に痕跡が認められ、砂質粘土で構築されていたものと思われる。床面を10cmほど皿状に掘りくぼめ、砂質粘土、焼土を含む暗赤褐色土で埋め戻された面を火床部としている。火床面は熱を受けて赤変硬化しており、奥壁は外傾して立ち上がっている。

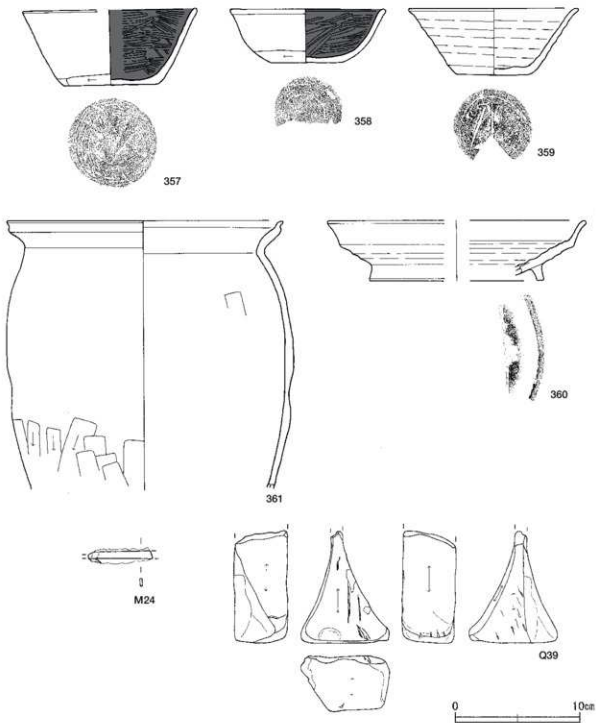


第189図 第36号住居跡実測図

甕土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化物微量 | 8 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, ロームブロック少量 | 11 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子中量, ロームブロック少量 |
| 6 暗赤褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | 12 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量 |
| | | 13 暗赤褐色 | ロームブロック・砂質中量, 焼土ブロック少量 |

ピット 1か所。P1は出入口施設に伴うピットで、深さは20cmである。



第190図 第36号住居跡出土遺物実測図

覆土 7層からなり、全体的に締りのある土層であるが、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	5	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量	6	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量
			7	褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片230点（坏類24、甕類206）、須恵器片66点（坏類48、盤1、蓋5、甕類12）、鉄製品1点（刀子）、石製品1点（砥石）が覆土中層から床面にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片11点も出土している。358は東部の床面、360は竈からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第36号住居跡出土遺物観察表（第190図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
357	土師器	坏	[138]	6.0	7.2	長石・石英・斜状鉱物	にぶい・黄褐色	普通	体部下端へラ削り、底部回転へラ削り後、多方向へのラ削り	床面	40%
358	土師器	坏	12.4	4.2	5.4	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	体部内面へラ磨き、底部回転へラ削り	床面	50%
359	須恵器	坏	13.4	5.2	6.2	長石・石英・斜状鉱物	灰	普通	底部多方向へのラ削り	下層	80% PL36 裏面磨き「二」+
360	須恵器	甕	[206]	4.7	[138]	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	底部回転へラ削り	竈下層	10%
361	土師器	甕	21.9	(21.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	体部内面へラナゲ、外面下半部へラ削り	竈下層	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q39	砥石	(8.9)	7.1	4.3	(2436)	凝灰岩	砥面5面	床面	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M24	刀子	(5.1)	(0.6)	[0.2]	(40)	鉄	刃部から茎部片	中層	

第44号住居跡（第191～193図）

位置 調査区東部のD4h9区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 北部が第45号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.2m、短軸3.5mの長方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は52～57cmで、各壁ともやや外傾している。

床 は平坦で、竈前面から中央部にかけて踏み固められている。北部壁際から中央部にかけて、炭化材が散在している。壁溝が周回しているが、北西コーナー部で途切れている。

竈 北壁東寄り付設されており、焚口部から煙道部まで132cm、袖部幅104cmで、壁外への掘り込みは47cmほどである。天井部は、廃絶時に破壊されたものと推測され、覆土の上層から下層にかけて、構架材と思われる砂質粘土や焼土が含まれている。袖部はロームブロックと砂粒を含む黒褐色土の基部の上に砂質粘土で構架されている。火床部は床面と同じ高さで、内壁が赤変硬化している。火床面は、熱を受けて硬化しており、奥壁は外傾して立ち上がっている。煙道部は、火床部から緩やかに外傾した後、急傾斜に上方へ伸びている。

覆土層解説

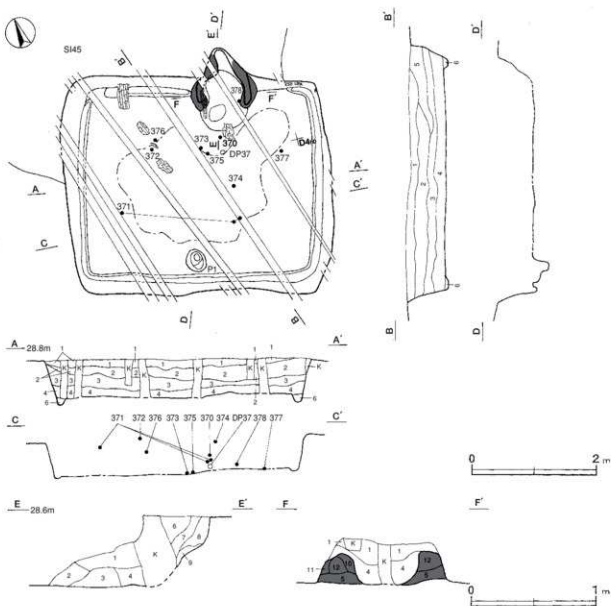
1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子中量, 砂質粘土ブロック・炭化物少量	7 黒褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子・炭化物中量, 焼土粒子少量	8 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量
3 暗赤褐色	焼土粒子多量, 砂粒中量, ロームブロック微量	9 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量, 砂質粘土ブロック少量, 炭化物微量
4 暗赤褐色	焼土粒子多量, 砂粒中量, 炭化粒子少量, ロームブロック微量	10 暗赤灰色	砂質粘土ブロック・焼土粒子・砂粒中量
5 黒褐色	ロームブロック中量, 砂粒少量, 焼土粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量
6 暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 繊維微量	12 にぶい褐色	焼土粒子中量, 繊維少量 (砂質粘土層)

ピット 1 か所。P1は、南壁際中央部に位置し、出入口施設に伴うピットで、深さは25cmほどである。

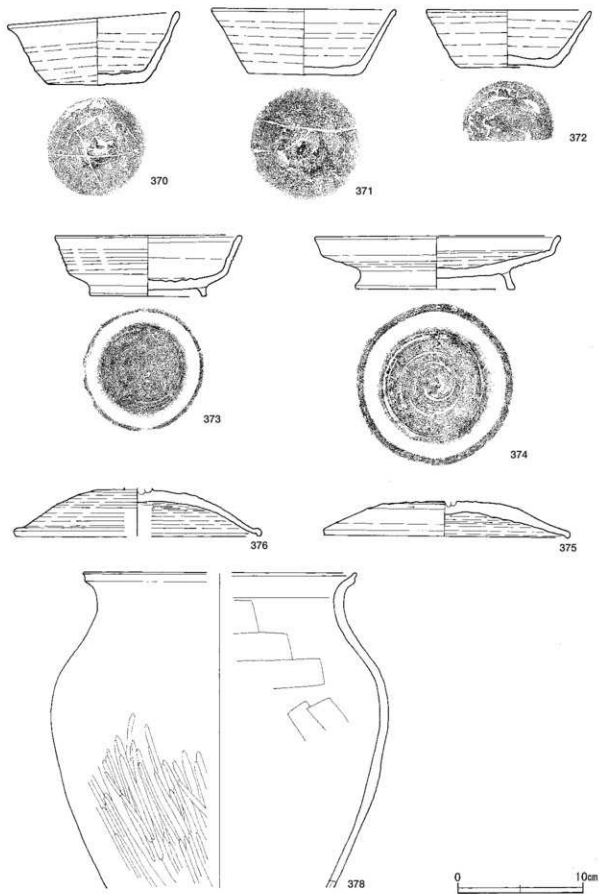
覆土 6層からなり、全体的に締まりがなく、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。また、炭化物や焼土を含んでいることから、焼失住居と推測される。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量, 粘土ブロック微量
2 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	5 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・白色粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物微量



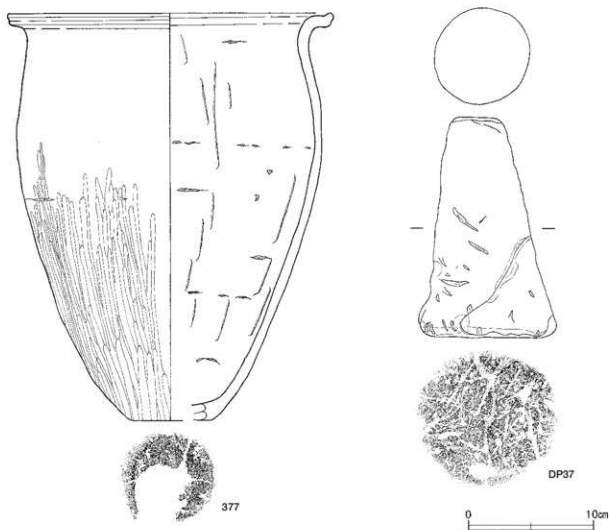
第191図 第44号住居跡実測図



第192图 第44号住居跡出土遺物実測図(1)

遺物出土状況 土師器片717点（坏類6、甕類711）、須恵器片118点（坏類75、盤11、蓋20、甕類12）、鉄製品2点（刀子）、土製品1点（支脚）が中央部を中心に覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片4点も出土している。370、371は中央部の覆土中層から下層、373、375は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 床面に炭化材があり、覆土中の炭化物や焼土の量が比較的多いことから、火災のために廃棄されて埋め戻されたものと思われる。時期は、出土土器から9世紀前半と考えられる。



第193図 第44号住居跡出土遺物実測図(2)

第44号住居跡出土遺物観察表 (第192・193図)

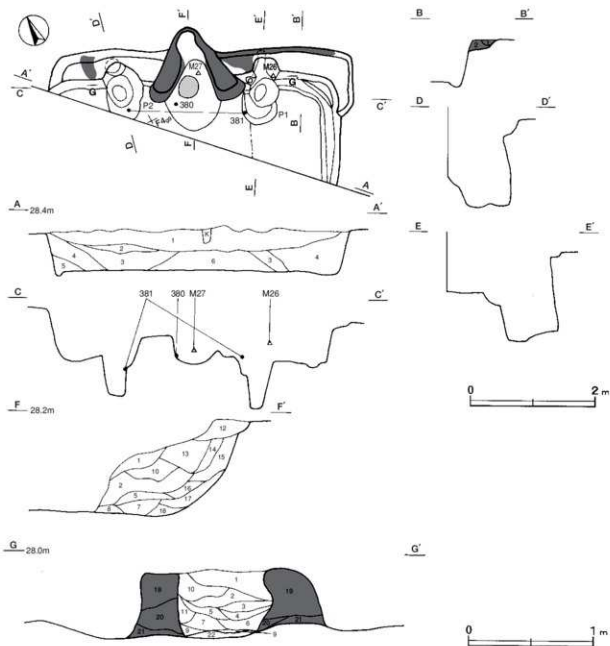
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
370	須恵器	坏	13.6	5.8	7.6	長石・石英	灰	普通	底部回転へう切り	中層	90% PL36 底部残存量 [x]
371	須恵器	坏	14.7	5.3	8.9	長石・石英・ 針状炭物	灰白	普通	底部回転へう切り後、ナデ	中層～下層	70%
372	須恵器	坏	13.1	4.5	7.4	長石・石英・ 針状炭物	灰	普通	底部回転へう切り後、一方向のへう割り	上層	50%
373	須恵器	高台付坏	14.8	4.9	8.9	長石・針状炭物・ 石英	にぶい橙	普通	底部回転へう割り	床面	95% PL37
374	須恵器	甕	19.5	4.3	12.7	長石・石英	灰	普通	底部回転へう割り	中層	75% PL37

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
375	須恵器	蓋	19.3	(23)	-	長石・石英・ 針状鉱物	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	95%
376	須恵器	蓋	19.4	(39)	-	長石・石英・ 針状鉱物	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	中層	45%
377	土師器	蓋	26.0	32.4	6.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ、外面ヘラ磨き、底部ナデ	床面	95% PL33
378	土師器	蓋	22.0	(25.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ、外面ヘラ磨き	甕右袖	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP37	支脚	17.6	11.0	7.7	1486.7	土製	指頭圧痕を残すナデ、底部棒状工具圧痕	床面	PL41

第46号住居跡 (第194・195図)

位置 調査区南部のF 4 g9区、標高28mほどの台地上に位置している。



第194図 第46号住居跡実測図

規模と形状 確認できた東西方向は4.8m、南北方向は2.1mで、南西方向は調査区域外に伸びると思われる。主軸方向はN-24°-Eである。壁高は65~85cmで、竈右側の壁には粘土が10cmほどの厚さで貼られている。各壁ともほぼ直立している。また、竈の両側に棚状施設を有している。

床 はほぼ平坦で、竈前面が踏み固められている。また、壁溝が北東部の壁下で検出されている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚き口から煙道部まで164cm、袖部幅152cmで、壁外への掘り込みは36cmほどである。天井部は崩落し、土層断面図中の4~7層が崩落土に相当する。袖部は床面にロームブロックを含む褐色土で基部を設け、その上に砂質粘土で構築されている。床面を5cmほど掘りくぼめた火床部とし、火床面は熱を受けて赤変硬化しており、煙道は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

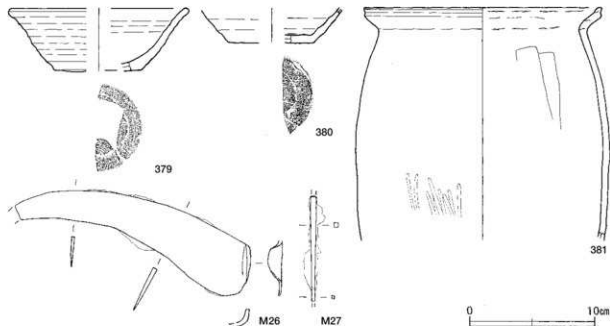
- | | | | |
|---------|------------------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量 | 12 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・砂粒少量、砂質粘土ブロック・炭化物微量 | 13 に近い赤褐色 | 砂質粘土ブロック・砂粒多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 15 極暗赤褐色 | 砂粒多量、砂質粘土ブロック・焼土粒子中量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 16 極暗赤褐色 | 焼土粒子・砂粒多量、砂質粘土ブロック少量 |
| 6 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 17 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子少量 |
| 7 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子中量 | 18 暗赤褐色 | 砂粒多量、砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土ブロック微量 | 19 褐色 | 砂質粘土層 |
| 9 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量 | 20 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・砂粒多量、ローム粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 10 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 21 褐色 | ロームブロック多量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 11 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量 | 22 暗赤褐色 | 焼土ブロック・焼沼バミス少量 |

棚状施設 竈の左右の床面から50cmの高さで確認され、奥行きは40~50cmで、東部が幅240cm、西部が幅170cmの長方形である。底面及び奥壁には貼られていた粘土の一部が残存している。

棚状施設土層解説

- | | | | |
|------|------------------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量、粘土ブロック少量 | 2 暗褐色 | ローム粒子多量、粘土ブロック少量 |
|------|------------------|-------|------------------|

ピット 2か所。P1・P2は主柱穴と考えられ、深さはP1が77cm、P2が70cmである。掘り方は長楕円形で、いずれの底面も鹿沼軽石層を掘り抜きハードローム層まで達している。第22号住居跡と同様に、竈の両脇壁際にあり、内傾していることから、他の住居跡と上屋構造が異なると想定される。



第195図 第46号住居跡出土遺物実測図

覆土 6層からなり、全体的に締りがなく、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	5	暗	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	暗	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	6	黒	褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
3	暗	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量				
4	暗	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量				

遺物出土状況 土師器片350点(坏類5、甕類345)、須恵器片47点(坏類35、盤2、蓋2、甕類8)、鉄製品2点(鎌、釘)が竈の右側を中心に、覆土下層から床面にかけて出土している。380は竈の火床面、381は竈前面の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

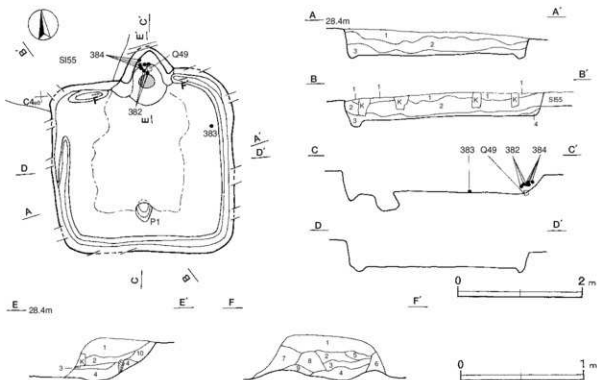
第46号住居跡出土遺物観察表(第195図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
379	須恵器	坏	[140]	5.0	[7.0]	長石・斜状鉱物・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後、ナゲ	覆土中	40%
380	須恵器	坏	-	[2.8]	[6.8]	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナゲ	竈火床	20% 底部黒書き □
381	土師器	甕	19.0	(18.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナゲ、外面ヘラ磨き	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M26	鎌	(18.9)	8.3	0.4	(83.4)	鉄	刃先部欠損。基部は全体を折り返す	中層	PL41
M27	釘	(8.4)	0.5	0.4	(8.4)	鉄	断面長方形	竈下層	

第54号住居跡(第196・197図)

位置 調査区東部のC5e1区、標高28mほどの台地上に位置している。



第196図 第54号住居跡実測図

重複関係 北西コーナー部が第55号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.0m、短軸2.9mの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は20~40cmで、各壁ともほぼ直立している。

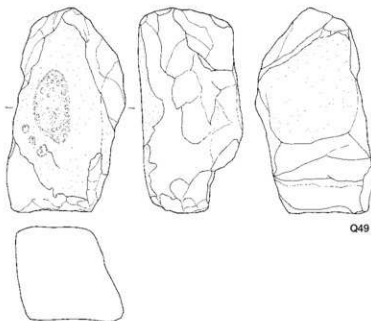
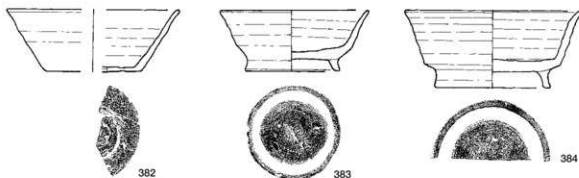
床 はほぼ平坦で、中央部は踏み固められ、出入口ピットの周囲は特に硬化している。竈前面には竈の構築材と思われる粘土が散っている。また、壁溝が各壁下から検出されているが、北西部で途切れている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで92cm、袖部幅100cmで、壁外への掘り込みは45cmほどである。天井部は崩落しており、袖部は掘り残した地山を基部とし、その上に砂質粘土で構築されていたものと思われる。火床部は床面と同じ高さの面にあり、火床面は熱を受けて赤変硬化しており、奥壁寄りに花崗岩の支脚が据えられている。煙道部は外傾して立ち上がっている。

土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化物微量 | 8 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・砂粒多量、焼土粒子中量、ロームブロック微量 |
| 4 に近い赤褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・砂粒中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 10 暗赤褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 |

ピット 1か所。P1は出入口施設に伴うピットで、深さは29cmである。



第197図 第54号住居跡出土遺物実測図

覆土 4層からなり、全体的に締りがなく、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 3 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片53点(変類)、須恵器片32点(坏類30、変類2)、石製品1点(支脚)が出土しているが、その多くは竈から出土している。384は花崗岩の支脚の上から出土しており、支脚として使用されていたものと思われる。383は東部の床面に置かれたように出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前半と考えられる。

第54号住居跡出土遺物観察表(第197図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
382	須恵器	坏	[139]	5.0	[7.6]	長石・微塵・針状鉱物	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	竈下層	40% 支脚転用
383	須恵器	高台付坏	11.7	4.9	7.5	長石・針状鉱物・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り	床面	95%
384	須恵器	高台付坏	14.0	6.1	9.2	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り	竈下層	50% 支脚転用

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q49	支脚	16.3	9.4	8.4	1644.9	花崗岩	敲打・研磨の痕跡	床面	

第61号住居跡(第198・199図)

位置 調査区中央部のC4a5区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.1m、短軸3.7mの長方形で、主軸方向はN-30°-Eである。壁高は26~28cmで、各壁ともやや外傾している。

床 ほぼ平坦で、竈前面から出入口施設にかけて踏み固められており、壁溝が北壁を除く各壁下で検出されている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで128cm、袖幅121cmで、壁外への掘り込みは36cmほどである。天井部は崩落し、袖部は床面を7~15cm掘りくぼめ、ロームブロックを多量に含む暗褐色土の基部に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめ、火床面は熱を受けて赤変硬化しており、煙道は上部で急傾斜に立ち上がっている。

土層解説

- 1 暗褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・砂粒中量、焼土粒子少量 8 暗赤褐色 焼土粒子多量、砂質粘土ブロック・砂粒中量、ローム粒子少量、細礫微量
2 暗褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・細礫少量 9 にいみ褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・砂粒少量、ロームブロック少量
3 暗赤褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量 10 暗褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・砂粒中量、焼土ブロック・細礫微量
4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物微量 11 黒褐色 砂質粘土ブロック・砂粒中量、ロームブロック・焼土粒子少量、細礫微量
5 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 12 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化物・細礫微量
6 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量、砂質粘土ブロック少量 13 暗褐色 ロームブロック多量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量
7 にいみ褐色 焼土粒子多量、砂質粘土ブロック・砂粒中量、ローム粒子少量

棚状施設 竈の左右の床面から15cmの高さで確認され、奥行きは40~50cmで、東部が幅118cm、西部が幅106cmの扇形である。土師器坏がそれぞれ出土しており、西部の底面には粘土の一部が残存している。

棚状施設土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量

ピット 1か所。P1は出入口施設に伴うピットで、深さは34cmである。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置し、長軸74cm、短軸50cmの長方形で、深さは14~20cmである。底面は壁際に皿状のくぼみがあり、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、細礫微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 |
|-------|-----------------------|-------|---------------------------|

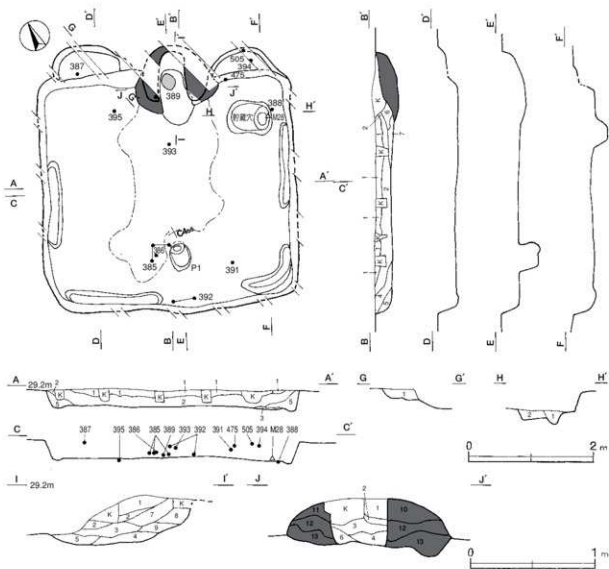
覆土 7層からなり、層が厚く締りのない土層で、人為堆積と考えられる。

土層解説

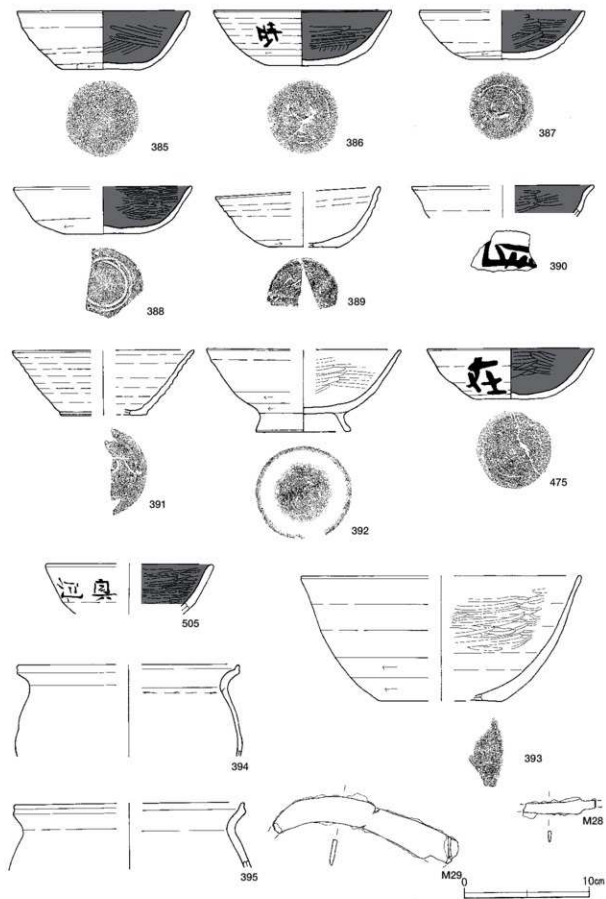
- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 にいり褐色 | 焼土粒子中量、炭化物少量、ローム粒子・粘土粒子・細礫微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量 | 7 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片759点(坏類315, 鉢6, 甕類438), 須恵器片105点(坏類22, 盤1, 短頸壺14, 甕類66, 瓶2), 鉄製品2点(鎌, 刀子)が覆土中層から床面にかけて散在した状態で出土している。387, 394は棚状施設, 395は北部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第198図 第61号住居跡実測図



第199图 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表 (第199図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
385	土師器	坏	13.8	4.6	6.2	長石・石美	橙	普通	体部下端へう割り、底部回転へう割り	下層	95% PL35
386	土師器	坏	14.0	4.4	5.6	長石・石美	にぶい橙	普通	体部下端へう割り、底部回転へう割り	下層	65% PL35 体部磨き「時々」
387	土師器	坏	13.2	3.9	5.3	長石・石美	にぶい橙	普通	体部下端へう割り、底部回転へう割り	中層	25%
388	土師器	坏	14.2	3.7	6.3	長石・石美・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端へう割り、底部回転へう割り	床面	20%
389	土師器	坏	13.2	4.8	5.5	長石・石美	にぶい橙	普通	体部下端へう割り、底部回転へう割り	覆下層	40%
390	土師器	坏	14.4	(2.6)	-	長石・雲母・石美	にぶい橙	普通	体部内面へう磨き	覆土中	10% 体部磨き「□」
391	須恵器	坏	14.4	5.1	7.0	長石・石美・針状鉱物	灰	普通	底部回転へう切り	中層	30% 底部磨き「□」
392	土師器	高台付坏	15.4	6.6	7.6	長石・石美	橙	普通	体部下端へう割り、底部回転へう割り	中層～下層	35%
393	土師器	鉢	22.2	9.9	9.8	長石・石美	にぶい橙	普通	体部下端へう割り、底部回転へう割り	中層	30%
394	土師器	甕	17.8	(7.3)	-	長石・石美	灰黄	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土面	10%
395	土師器	甕	18.4	10.2	-	長石・石美	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	10%
475	土師器	坏	13.1	4.0	5.4	長石・石美	橙	普通	体部下端へう割り、底部回転へう割り	中層	95% PL35 体部磨き「在」
505	土師器	坏	13.2	(4.0)	-	長石・石美	にぶい橙	普通	体部下端へう割り	覆土面	10% PL39 体部磨き「黒色」

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M28	刀子	(5.8)	1.2	0.3	(5.2)	鉄	両刃	床面	
M29	鎌	(14.9)	(5.4)	0.4	(48.8)	鉄	刃先端欠損、基部は全体を折り返す	覆土中	PL44

第62号住居跡 (第200図)

位置 調査区中央部のC4b1区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.1m、短軸2.8mの長方形で、主軸方向はN-26°-Eである。壁高は5~14cmで、各壁ともやや外傾している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで95cm、袖幅94cmで、壁外への掘り込みは43cmほどである。天井部、袖部ともに廃絶時に破壊されている。さらに後世の耕作で削平されており、覆土上層から下層にかけて砂質粘土ブロックが多く含まれている。火床部は床面を13cmほど皿状に掘りくぼめ、火床面は奥壁寄りにあり、熱を受けて硬化している。煙道は上部で急傾斜に立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|----------|----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土ブロック・ローム粒子・砂粒少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、砂質粘土ブロック少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・繊維少量、砂質粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 9 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック少量、繊維微量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | | |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量 | | |
| 6 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、砂質粘土ブロック・砂粒少量 | | |

ピット 1か所。P1は出入口施設に伴うピットで、深さは12cmである。

覆土 2層からなり、全体的に締りのある土層であるが、層が薄いため全体の様相は不明である。

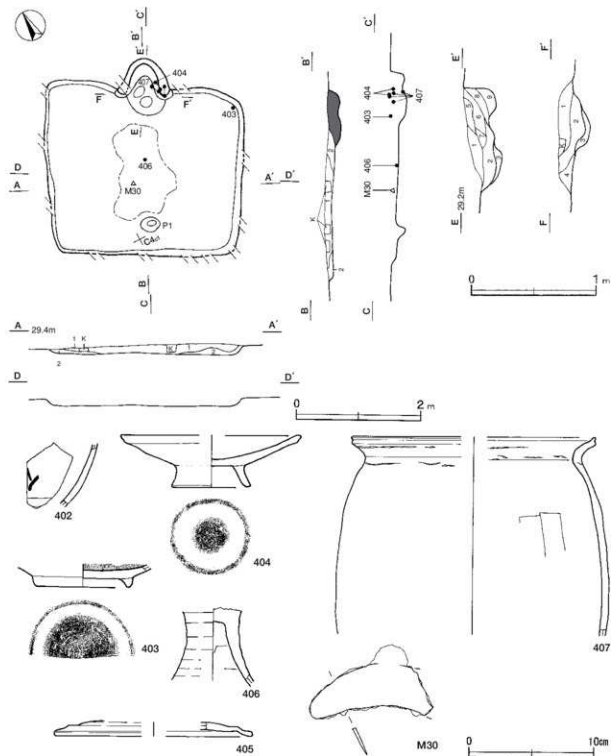
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
|-------|-------------------|-------|-----------------------|

遺物出土状況 土師器片107点(坏類32、甕類75)、須恵器片15点(坏類6、盤1、蓋2、甕類6)、灰釉陶器片2点(坏)、鉄製品1点(鎌)が覆土下層から床面にかけて出土している。403は東部の覆土下層、404は竈

の火床部からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第200図 第62号住居跡・出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表 (第200図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
402	土師器	坏	-	(5.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端へう割り	覆土中	10% 体部筆者 [1]
403	灰輪陶器	高台付坏	-	(1.9)	7.4	長石・黒色粒子	灰白・灰緑・灰	良好	底部回転へう割り	下層	10%
404	土師器	高台付甕	[14.4]	4.2	6.2	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転へう割り	竈火床	70% 内面筆減
405	須恵器	蓋	[15.8]	(1.1)	-	長石・黒色粒子	黄灰	良好	天井部回転へう割り	覆土中	10%
406	須恵器	高壁	-	(6.3)	-	長石	黄灰	普通	脚部回転へう割り	床面	15%
407	土師器	甕	[19.4]	(15.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面へう割り	竈火床	20%

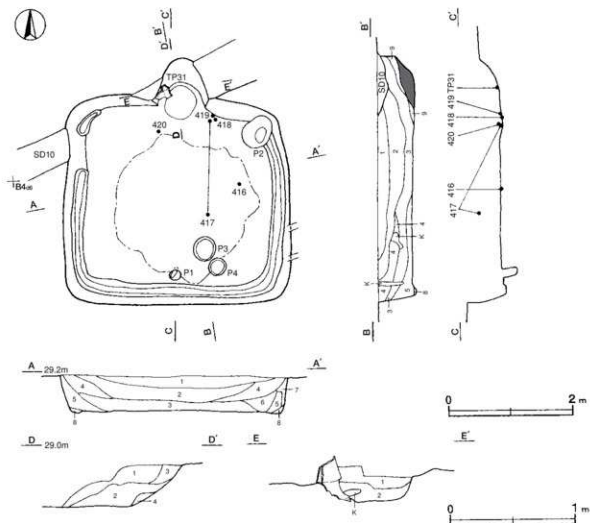
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M30	鎌	(9.8)	(3.5)	0.3	(42.6)	鉄	敲打・研磨の痕跡	床面	PL44

第68号住居跡 (第201・202図)

位置 調査区北部のB 4 d6区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 北部を第10号溝跡に掘り込まれている。

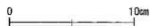
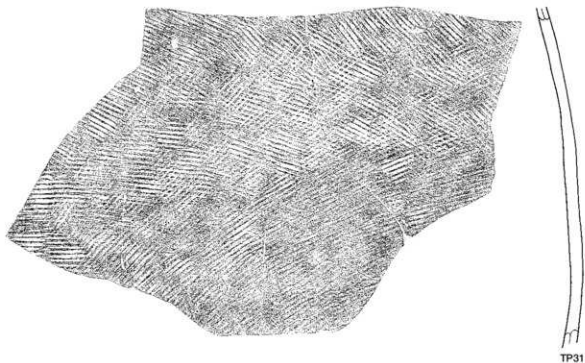
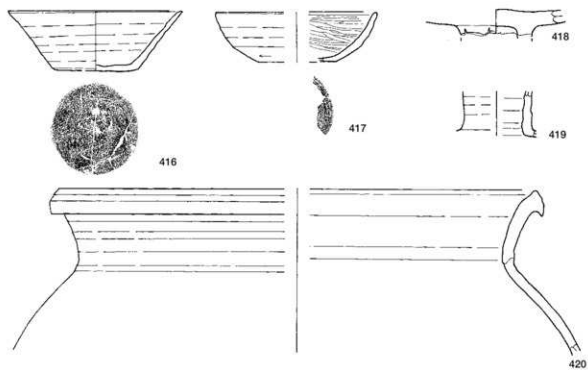
規模と形状 長軸3.9m、短軸3.6mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は54~56cmで、各壁ともほぼ直立している。



第201図 第68号住居跡実測図

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。また、壁溝が北壁を除く各壁下で確認された。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで111cm、袖部幅140cmで、壁外への掘り込みは56cmほどである。天井部及び袖部は崩落しているが、火床部の内壁に左袖部の心材と思われる土器が出土している。火床部はほぼ床面の高さで、明確な火床面は検出されていない。煙道は外傾して立ち上がっている。



第202図 第68号住居跡出土遺物実測図

覆土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	4	にぶい黄褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 4か所。P4は出入口施設に伴うピットで、深さは25cmである。P1～P3は深さ11～12cmであるが性格は不明である。

覆土 9層からなり、全体的に締まりのある土層であり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量	8	にぶい黄褐色	ローム粒子中量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5	にぶい黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片226点（坏類69、甕類157）、須恵器片118点（坏類59、高盤1、甕類58）、鉄製品2点（不明）が覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる縄文土器片1点も出土している。416は東部の床面、TP31は竈の左袖部からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第68号住居跡出土遺物観察表（第202図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
416	須恵器	坏	14.8	4.8	6.8	長石・針状鉱物・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	床面	80% 北38 東部遺跡3 西面自然輪
417	土師器	坏	[13.0]	4.0	[6.2]	長石・石英・針状鉱物	橙	普通	体部下落ヘラ削り、底部回転ヘラ削り	中層～床面	20%
418	須恵器	高盤	-	(2.1)	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	鞆部方形窓4か所	床面	10%
419	須恵器	長胴壺	-	(3.6)	-	長石	灰	良好	頸部内面ナデ	床面	10% 外面自然輪
420	須恵器	甕	[38.0]	(13.1)	-	長石・石英・針状鉱物	灰	普通	口縁部内・外面ナデ	床面	10% 外面自然輪

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP31	須恵器	甕	-	(27.2)	-	長石・針状鉱物	灰	普通	体部内面ナデ	竈左袖	10% 外面自然輪

第79号住居跡（第203・204図）

位置 調査区西部のC3d1区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 東壁が第80号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.9m、短軸2.8mの方形で、主軸方向はN-24°-Eである。壁高は24～28cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁東寄りに付設されており、焚き口から煙道部まで98cm、袖幅88cmで、壁外への掘り込みは40cmほどである。天井部は削平され、袖部は細礫を混ぜた砂質粘土で構築されている。火床部はほぼ床面の高さで、煙道寄りに土製の支脚が据えられている。火床面は熱を受けて赤変硬化しており、煙道部は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	3	暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・細礫微量	4	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
			5	暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量

ピット 2か所。深さは18cmと40cmであり、性格は不明である。

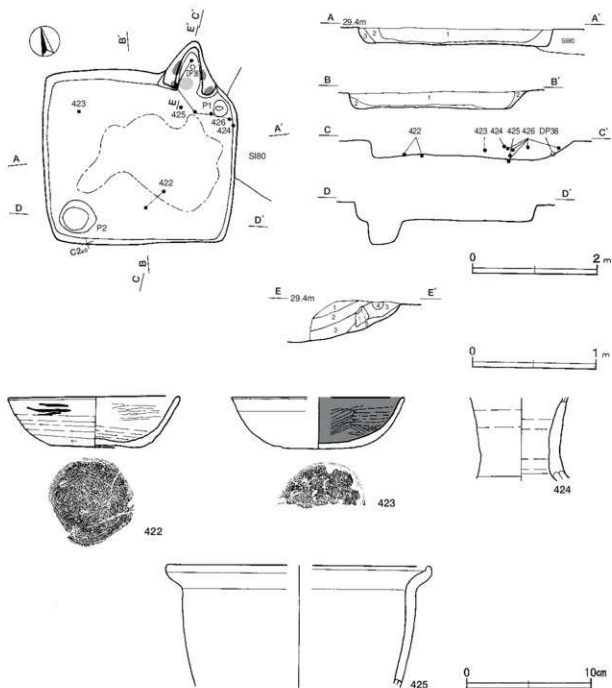
覆土 3層からなり、層厚が厚く、締りのない土層であり、人為堆積と考えられる。

土層解説

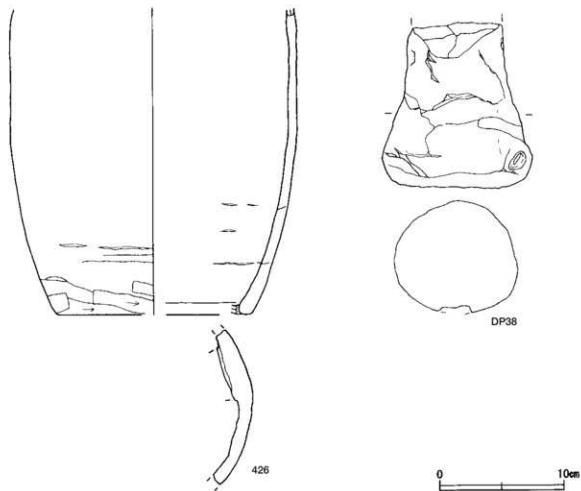
- 1 層 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 層 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片96点（坏類44，甕類52），須恵器片22点（長頸壺4，甌18），土製品1点（支脚），鉄製品8点（不明）が覆土上層から床面にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる縄文土器片1点，弥生土器片2点も出土している。422は南部の床面，425は竈前面の床面からそれぞれ出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉以前と考えられる。



第203図 第79号住居跡・出土遺物実測図



第204図 第79号住居跡出土遺物実測図

第79号住居跡出土遺物観察表 (第203・204図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
422	土師器	環	13.5	4.2	7.0	長石・石英・ 針状鉱物	にぶい橙	普通	体部下端へつ削り。底部回転へつ削り	床面	70% PL35 体部断面「三」※
423	土師器	環	[13.8]	4.0	[6.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転へつ削り後、一方のへつ削り	下層	40%
424	須恵器	長頸壺	-	(6.4)	-	長石	灰	普通	頸部内面ナデ	上層	15%
425	土師器	甕	[20.9]	(9.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ナデ	床面	10%
426	須恵器	瓶	-	(24.2)	[15.4]	長石・石英・ 針状鉱物	灰褐	普通	体部内面輪轆を残すナデ	中層～床面	10% 多孔式

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP38	支脚	(13.2)	12.0	8.8	1488g	土製	圧痕を残すナデ	甕腹土中	

第81号住居跡 (第205・206図)

位置 調査区中央部のC3区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第82号住居跡を掘り込み、南西コーナー部を第50号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.1m、短軸2.6mの長方形で、主軸方向はN-57°-Wである。壁高は19~23cmで、各壁とも

やや外傾している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。竈前面には構築材の一部と思われる粘土が流れ出している。また、壁溝が西壁の北部を除く各壁下から検出されている。

竈 西壁中央部のやや北寄りに付設されており、焚き口から煙道部まで92cm、袖部幅68cmで、壁外への掘り込みは52cmほどである。天井部は崩落し、袖部は床面に細礫を混ぜた砂質粘土で構築されていたが、崩落した天井部材が床面まで流れ出している。火床部は床面を10cmほど皿状に掘りくぼめ、火床面は熱を受けて赤変硬化している。奥壁寄りには、土師器甕が逆位に置かれ、その上に数点の坏類が重ねられ、支脚として使用されている。煙道部は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

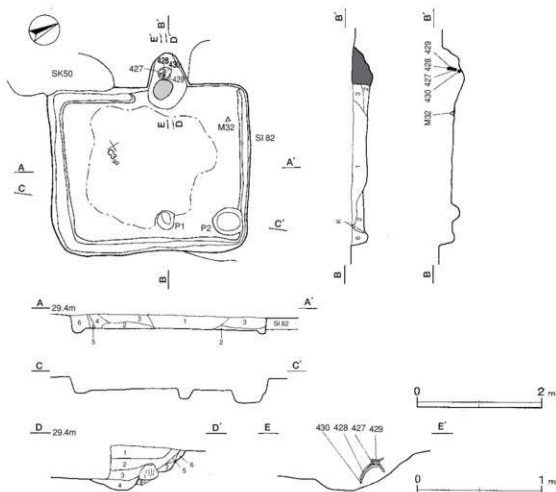
- | | | | |
|--------|----------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 | 4 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化物・細礫少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量 | 5 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・細礫微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 2か所。P1は出入口施設に伴うピットで、深さは15cmである。P2の性格は不明である。

覆土 6層からなり、全体的に締りのない土層であり、ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

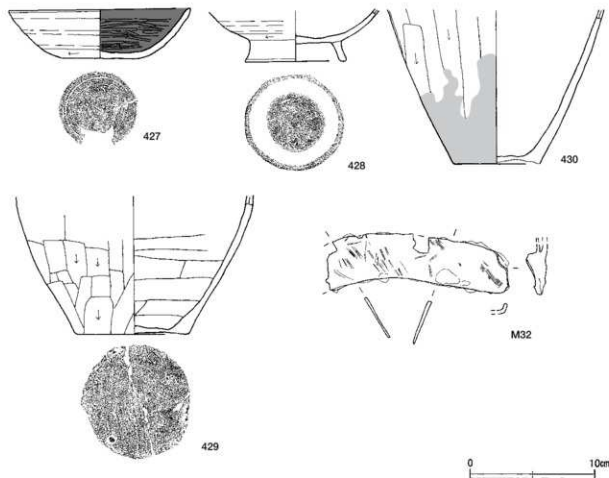
- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・細礫微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |



第205図 第81号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片64点（坏類40、甕類24）、須恵器片7点（坏類4、甕類3）、鉄製品1点（鎌）が竈付近を中心に覆土下層から床面にかけて出土している。そのほか、流れ込みによる縄文土器片1点、弥生土器片6点も出土している。427～430は竈で支脚として使用されていたものである。

所見 時期は、出土土器から10世紀前後と考えられる。



第206図 第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表（第206図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
427	土師器	環	14.4	4.0	6.2	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部下端へう閉り、内面へう磨き 底部回転へう閉り	竈下層	95% PL35 支脚転用
428	土師器	高台付環	-	(4.1)	8.0	長石・石英	橙	普通	体部下端へう閉り	竈下層	30% 支脚転用
429	土師器	甕	-	(11.0)	9.0	長石・石英	橙	普通	体部内面へうナナサ、底部へう閉り	竈下層	30% 支脚転用
430	土師器	甕	-	(12.3)	7.0	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面へうナナサ、外面へう閉り	竈下層	30% 支脚転用

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M32	鎌	(14.7)	4.5	0.3	(70.1)	鉄	基部は上部を折り曲げる。横縫付着	床面	

第83号住居跡（第207図）

位置 調査区西部のC 2j0区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.6m、短軸2.5mの方形で、主軸方向はN-19°-Eである。壁高は10cm前後で、各壁ともや

や外傾している。

床 はほぼ平坦で、竈前面から出入口施設にかけてよく踏み固められており、壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで93cm。袖部幅78cmで、壁外への掘り込みは30cmほどである。天井部は削平され、袖部は床面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を7cmほど皿状に掘りくぼめ、火床面は熱を受けて赤変硬化しており、煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 におい 橙 粘土粒子多量、焼土ブロック微量	6 におい赤褐色 焼土粒子多量
2 におい赤褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック微量	7 におい赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量	8 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
4 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量	9 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量
5 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	10 赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

ピット 1か所。P1は深さ30cmで、出入口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量	3 極暗褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック少量	

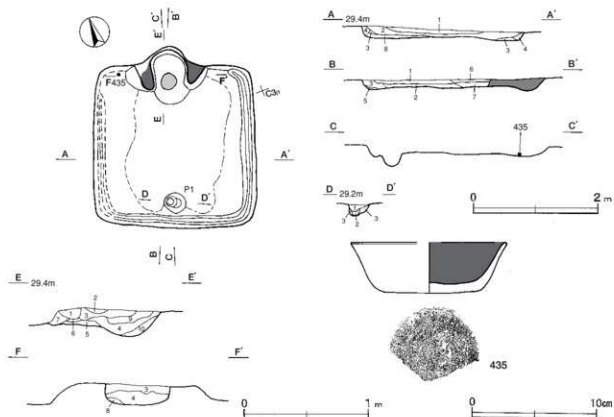
覆土 8層からなり、全体的に締まりのある土層であり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量	5 褐色 ローム粒子中量
2 黒褐色 ローム粒子中量	6 暗褐色 ローム粒子中量、粘土粒子・砂粒少量
3 暗褐色 ローム粒子少量	7 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック中量	8 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片7点(坏類4, 甕類3), 須恵器片14点(坏類1, 蓋1, 甕類12)が床面から出土している。435は北部壁際の床面から出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前半と考えられる。



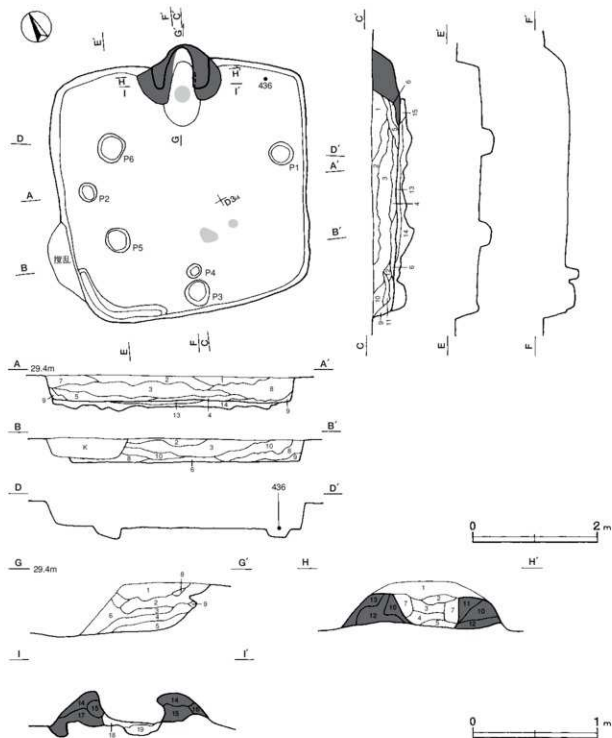
第207図 第83号住居跡・出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表 (第207図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
435	土師器	環	[12.2]	4.0	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	明褐色	普通	底部一方向のヘラ削り	床面	20% 断面厚減

第85号住居跡 (第208・209図)

位置 調査区中央部のD 3 h3区、標高29mほどの台地上に位置している。



第208図 第85号住居跡実測図

規模と形状 長軸4.2m、短軸4.1mの方形で、主軸方向はN-26°-Eである。壁高は35~44cmで、各壁ともやや外傾している。

床 はほぼ平坦で、全体的によく踏み固められ、ロームブロックを主体とする黒褐色土と褐色土の貼り床で、厚さは5~27cmである。また、壁溝が南西コーナー部で確認されている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで128cm、袖部幅134cmで、壁外への掘り込みは27cmほどである。天井部は崩落し、袖部は床面に粘土で構築されている。火床部はほぼ床面の高さで、火床面は熱を受けて赤変硬化しており、煙道部は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 赤褐色	ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量	11 暗褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量
2 にぶい赤褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック中量	12 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物中量	13 暗赤褐色	炭化物中量、粘土粒子少量、焼土粒子微量
4 にぶい赤褐色	焼土粒子多量	14 明赤褐色	粘土粒子多量、焼土粒子少量、細礫微量
5 暗赤褐色	焼土粒子多量、灰少量、炭化粒子微量	15 にぶい褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック・細礫少量
6 黒褐色	炭化粒子多量、ローム粒子少量	16 明褐色	粘土粒子多量、細礫中量
7 暗褐色	焼土粒子少量、炭化物微量	17 にぶい赤褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 にぶい赤褐色	焼土粒子多量、粘土粒子少量	18 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、細礫微量
9 暗赤褐色	焼土粒子多量、粘土ブロック少量	19 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
10 灰褐色	粘土粒子中量、細礫少量、ロームブロック・焼土粒子微量		

ピット 6か所。P1・P2は深さ12~22cmで主柱穴に相当するが対応する柱穴は検出されていない。P3・P4は出入口施設に伴うピットで、深さはP3が18cm、P4が20cmであり、P5・P6の性格は不明である。

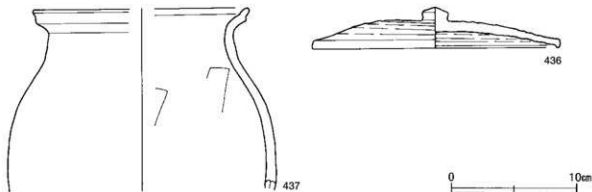
覆土 15層からなる。全体的に締まりのある土層であり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。13~15層は貼り床の構築土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子中量
4 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量	11 褐色	ローム粒子多量（締り弱）
5 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	12 褐色	ローム粒子多量
6 灰褐色	焼土粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量	13 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック少量	14 褐色	ローム粒子中量
		15 暗赤褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片131点（坏類1、甕類130）、須恵器片11点（坏類3、蓋8）、鉄製品1点（不明）が覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。436は北東コーナー部の床面から出土している。

所見 出土土器は細片が多く、図示できるものが少ないため明確な時期を特定することは難しいが、床面から出土した土器から9世紀前半以前と考えられる。



第209図 第85号住居跡出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表 (第209図)

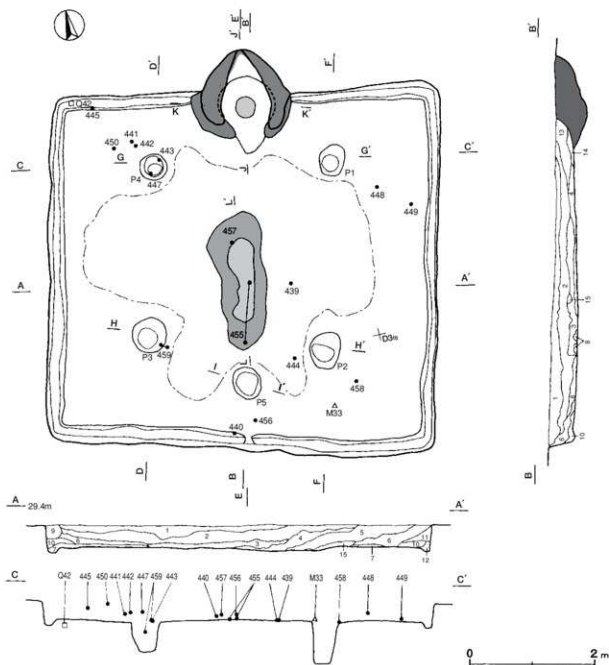
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
436	瓶・壺	蓋	19.6	3.2	-	長石・雲母・石英	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	70% PL38
437	土師器	甕	[17.2]	(14.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ	覆土中	10%

第88号住居跡 (第210～214図)

位置 調査区中央部のD3e7区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸6.2m、短軸5.6mの長方形で、主軸方向はN-13°-Eである。壁高は37～40cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、全体的によく踏み固められている。凹凸のある掘り方に、ロームブロックを主体とする5～



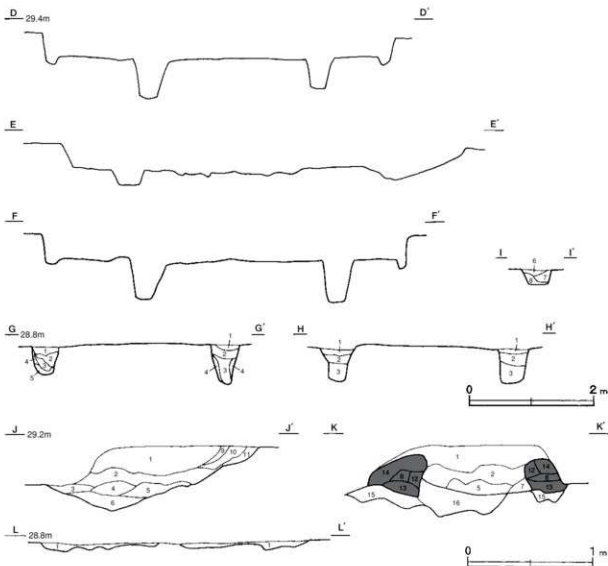
第210図 第88号住居跡実測図(1)

10cmの土で貼り床とし、壁溝が全周している。また、床下から5か所のピットが検出され、建て替えの痕跡を残している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで168cm、袖部幅160cmで、壁外への掘り込みは76cmほどである。天井部は崩落しており、土層断面図中の5層が崩落土に相当する。袖部は床面を15cmほど掘り下げ、ロームブロックを主体とする黒褐色土で埋め戻した上に焼土やロームブロックの混ざった砂質粘土で構築されており、作り替えが行われたものと推測される。火床部は床面を20cmほど掘りくぼめ、焼土を含む赤褐色土で埋め戻された面にあり、火床面は熱を受けて赤変硬化している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 に近い赤褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂粒少量 |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 11 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 12 に近い赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| | | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 |
| | | 14 に近い赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子微量 |
| | | 15 黒褐色 | ローム粒子少量、鹿沼バミス・焼土粒子微量 |
| | | 16 に近い赤褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒少量 |

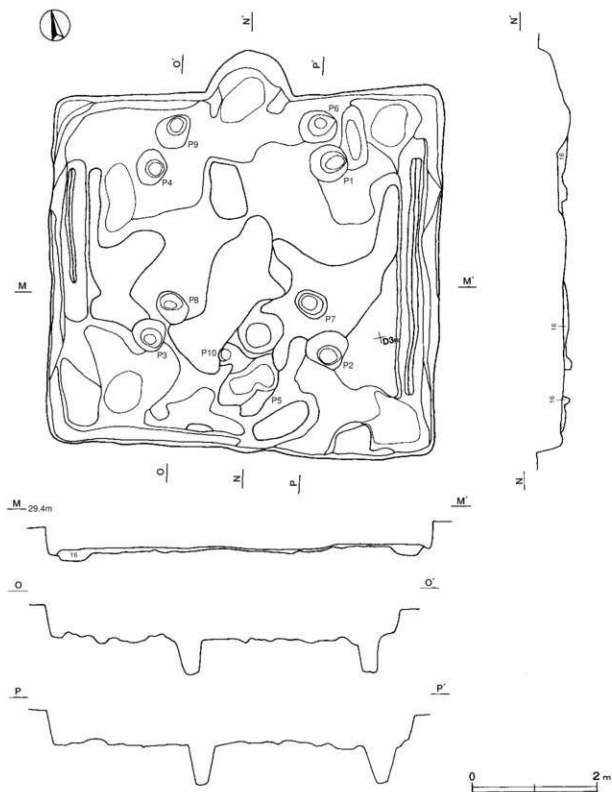


第211図 第88号住居跡実測図(2)

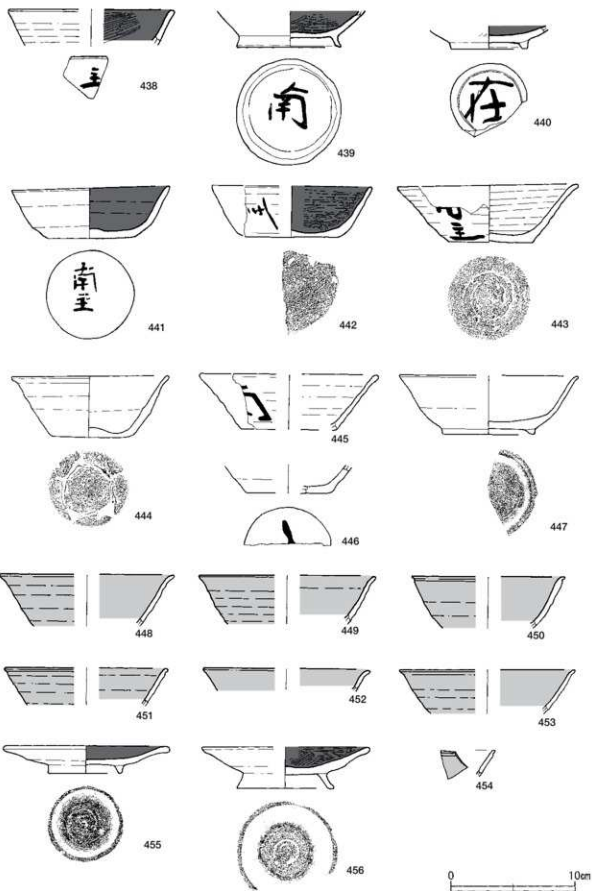
炉 中央部に位置し、長径218cm、短径94cmの不整楕円形である。床面を浅く皿状に掘りくほめた地床炉であり、炉床面は熱を受けて赤変硬化している。炉床面は踏み固められており、一定期間の使用の後は機能を停止したものと考えられる。

炉土層解説

1 に近い赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量



第212図 第88号住居跡実測図(3)



第213图 第88号住居跡出土遺物実測图(1)

ビット 10か所。P 1～P 4は主柱穴に相当し、深さは50～68cmである。P 5は出入口施設に伴うビットで、深さは26cmである。P 6～P 10は床下から検出され、P 6～P 9は建て替え前の上屋に伴う主柱穴、P 10は出入口施設に伴うビットと考えられる。

ビット土層解説

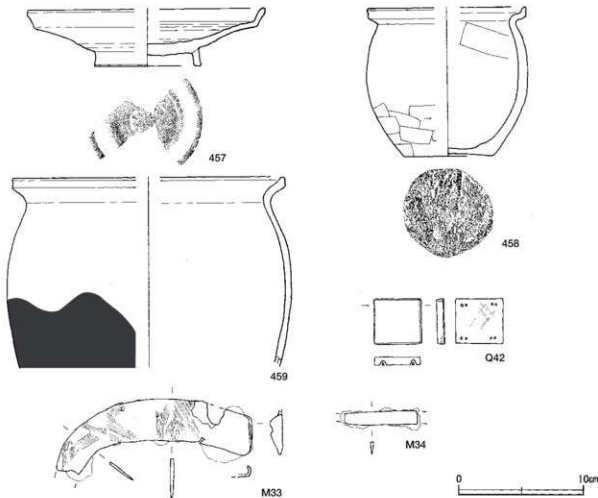
1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	5 褐色	ローム粒子中量、鹿沼バミスブロック少量
2 黒褐色	炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子中量
4 褐色	ローム粒子中量	8 褐色	ロームブロック中量

覆土 15層からなり、全体的に締りのある土層であり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。16層は貼り床の構築土である。

土層解説

1 にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 極暗褐色	黒色土粒子中量、ローム粒子少量
2 にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
3 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	11 極暗褐色	ローム粒子・黒色土粒子少量
4 灰褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・粘土粒子微量	12 褐色	ローム粒子中量
5 褐色	ローム粒子多量、粘土粒子少量、焼土粒子微量	13 にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
6 黒褐色	黒色土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	14 暗赤褐色	焼土粒子中量、粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
7 褐色	ローム粒子多量	15 褐色	ローム粒子・粘土粒子中量
8 灰褐色	灰多量、焼土粒子・炭化粒子微量	16 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片914点（坏類223、甕類691）、須恵器片211点（坏類144、盤3、蓋8、甕類56）、鉄製品2点（刀子、鎌）、石製品1点（巡方）が覆土上層から床面にかけて散在した状態で出土している。Q42の巡方は北部壁際の床面から出土している。444は南部の床面、447は北部の覆土中層、455は中央部の床面から



第214図 第88号住居跡出土遺物実測図(2)

それぞれ出土しており本跡に伴うものと考えられる。

所見 本跡はコの字状に配置された掘立柱建物跡群の中央部に位置しており、ほぼ同位置で規模を拡大して建て替えが行われ、竈と炉が併置されるなど、集落の中心的な役割を担っていたものと推測される。時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第88号住居跡出土遺物観察表(第213・214図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
438	土師器	坏	[130]	(29)	-	長石・石英	橙	普通	体部内面へラ磨き	覆土中	10% PL40 墨書「主」
439	土師器	坏	-	(29)	8.3	長石・石英	にぶい・黄橙	普通	体部内面へラ磨き、底部回転へラ削り	床面	30% PL40 墨書「南」
440	土師器	坏	-	(18)	6.2	長石・石英	橙	普通	底部回転へラ削り、高台貼り付け後、ナデ	下層	30% PL40 墨書「在」
441	土師器	坏	12.7	4.0	7.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転へラ切り後、回転へラ削り	下層	90% PL39 墨書「南上」
442	土師器	坏	[126]	4.1	7.3	長石・石英	橙	普通	体部下端へラ削り、底部一方向のへラ削り	中層	30% PL40 墨書「上」
443	須恵器	坏	14.4	4.7	6.7	長石・石英・針状鉱物	灰黄	普通	底部回転へラ切り	床面	90% PL36 体部墨書「東上」 底部墨書「十」
444	須恵器	坏	12.5	5.0	5.4	長石・石英・針状鉱物	黄灰	普通	底部多方向のへラ削り	床面	95%
445	須恵器	坏	[141]	4.4	[7.6]	長石・石英	灰白	普通	底部回転へラ削り	中層	10% 墨書「南」
446	須恵器	坏	-	(2.3)	[6.7]	長石・石英・針状鉱物	灰	普通	底部回転へラ切り	覆土中	20% 墨書「口」
447	灰釉陶器	高台付坏	[144]	4.7	[7.4]	長石・黒色粒子	灰白・ナグ灰	良好	底部回転へラ削り、高台貼り付け後、ナデ	中層	30%
448	灰釉陶器	高台付坏	[139]	(4.1)	-	長石・黒色粒子	灰白・ナグ灰	良好	体部口周ナデ、内・外面施釉	下層	10%
449	灰釉陶器	高台付坏	[140]	(3.9)	-	長石	灰白・ナグ灰	良好	体部口周ナデ、内・外面施釉	下層	10%
450	灰釉陶器	高台付坏	[122]	(4.1)	-	長石	灰黄・ナグ灰	良好	口野部外面施釉、内・外面施釉	上層	10%
451	灰釉陶器	高台付坏	[128]	(2.9)	-	長石・黒色粒子	灰白・ナグ灰	良好	口野部外面施釉、内・外面施釉	覆土中	10%
452	灰釉陶器	高台付坏	[132]	(2.2)	-	長石・黒色粒子	灰白・ナグ灰	良好	体部口周ナデ、内・外面施釉	覆土中	10%
453	灰釉陶器	高台付坏	[140]	(3.0)	-	長石	灰黄・ナグ灰	良好	体部口周ナデ、口野部外面施釉	覆土中	10%
454	灰釉陶器	高台付坏	-	(2.2)	-	長石	灰白・ナグ灰	良好	内・外面施釉	覆土中	10%
455	土師器	高台付皿	13.1	2.2	5.9	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	底部回転へラ削り、高台貼り付け後、ナデ	床面	100%
456	土師器	高台付皿	[134]	3.3	7.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐	普通	底部回転へラ削り、高台貼り付け後、ナデ	下層	60%
457	須恵器	甗	[188]	4.6	8.5	長石・黒色粒子・針状鉱物	黄灰	普通	底部回転へラ削り	下層	30%
458	土師器	甗	[126]	11.8	7.2	長石・石英	橙	普通	体部内面へラナデ、外面下半部へラ削り	床面	60%
459	土師器	甗	[216]	(15.1)	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	体部外面へラ削り後、ナデ	床面	20% 外面灰付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q42	蓋方	3.6	3.7	0.6	21.4	蛇紋岩	滑り孔式、穿孔4ヶ所	床面	PL43

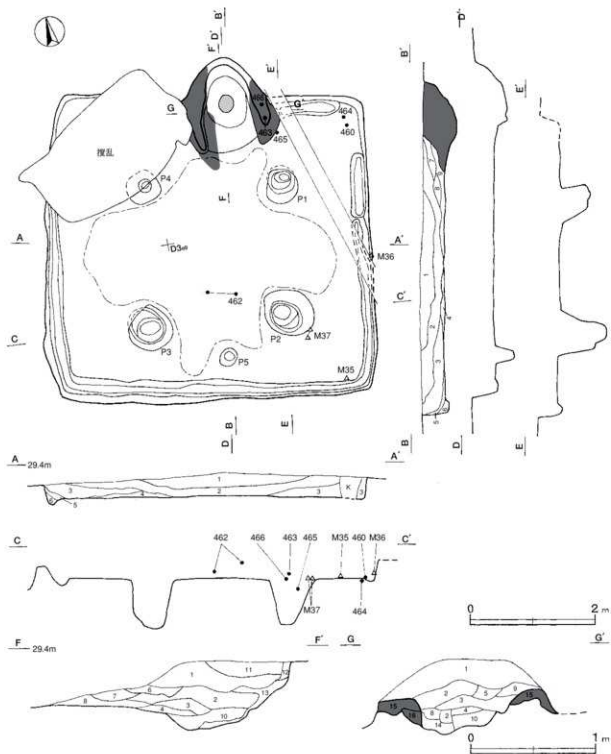
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M33	鎌	(15.5)	6.2	0.3	65.9	鉄	刃先端欠損、基部は全体を折り曲げる	床面	PL44
M34	刀子	(5.8)	(1.1)	0.3	(7.9)	鉄	刃部片	覆土中	

第90号住居跡 (第215・216図)

位置 調査区中央部のD3e9区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.1m、短軸4.9mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は30~40cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められ、四隅を掘り下げた掘り方は、5~10cmの暗褐色土で貼り床され、壁溝が全周している。また、竈前面には構築材の粘土が流れ出している。



第215図 第90号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで168cm、袖部幅147cmで、壁外への掘り込みは68cmほどである。天井部は削平され、左袖部の外側も擾乱を受けている。袖部は床面に砂質粘土で構築されていたものと思われるが、上部は崩落して床面まで流れ出している。火床部は床面を19cmほど皿状に掘りくぼめ、火床面は熱を受けて赤変硬化しており、煙道部は上部で急に立ち上がっている。

覆土層解説

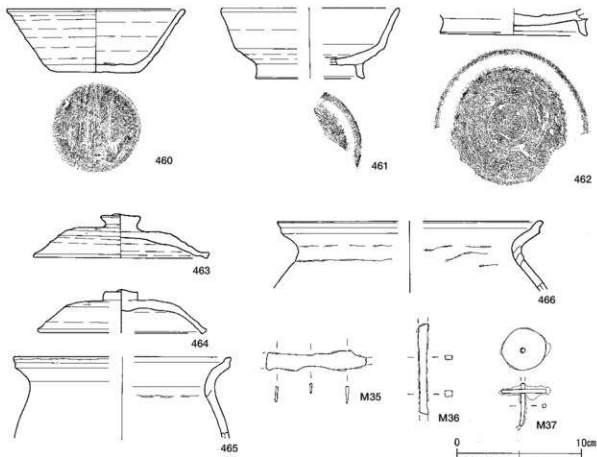
- | | | | |
|-----------|---------------------------|-----------|----------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量 | 11 赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 2 橙褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子微量 | 12 明赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・灰少量 |
| 3 灰褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子微量 | 13 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化物微量 |
| 4 暗赤褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子中量 | 14 にぶい赤褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 15 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量 | 16 にぶい赤褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 7 にぶい橙褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 | | |
| 8 にぶい赤褐色 | 粘土粒子多量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量 | | |
| 9 にぶい赤褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 | | |
| 10 にぶい赤褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さは43～78cmである。P5は出入口施設に伴うピットで、深さは34cmである。

覆土 9層からなる。全体的に締まりのある土層であり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|----------|-------------------|
| 1 にぶい褐色 | 炭化物・焼土粒子・粘土粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 灰褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 | 7 にぶい褐色 | ローム粒子・砂粒少量, 炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 8 明褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量 | 9 にぶい橙褐色 | 粘土粒子多量, 焼土ブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | | |



第216図 第90号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片552点(坯類10, 甕類542), 須恵器片171点(坯類100, 盤9, 蓋24, 甕類38), 鉄製品3点(刀子2, 紡錘車1)が覆土中層から床面にかけて散在した状態で出土している。そのほか, 流れ込みによる弥生土器片1点も出土している。460は北部, M37は南部の床面からそれぞれ出土しており, 本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第90号住居跡出土遺物観察表(第216図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
460	須恵器	環	14.0	5.1	7.2	長石・石英	黄灰	普通	底部一方のヘラ削り	床面	40%
461	須恵器	高台付環	14.0	5.6	8.6	長石・針状鉱物	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り, 高台削り付後, ナデ	覆土中	15%
462	須恵器	盤	-	(2.1)	11.7	長石・針状鉱物	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	上層	40%転用焼
463	須恵器	蓋	13.8	3.5	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	甕右袖	70%
464	須恵器	蓋	12.8	3.5	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	20%
465	土師器	甕	17.0	(6.5)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体内内・外面ナデ, 口縁部横ナデ	床面	10%
466	土師器	甕	21.0	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄褐色	普通	体内内・外面ナデ	甕右袖	10%器面充れ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M35	刀子	(7.9)	1.7	0.3	(5.6)	鉄	刃部片	床面	
M36	簾	(7.2)	0.9	0.5	(4.9)	鉄	基部片 断面長方形	下層	
M37	紡錘車	3.5	(3.5)	0.3	(14.6)	鉄	軸断面円形	床面	

第93号住居跡(第217・218図)

位置 調査区中央部のD3b8区, 標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 北西部を第10号掘立柱建物跡, 北東部を第1号欄跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.7m, 短軸3.6mの方形で, 主軸方向はN-13°-Eである。壁高は40~45cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 全体が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されており, 焚口部から煙道部まで114cm, 袖部幅142cmで, 壁外への掘り込みは22cmほどである。天井部は削平され, 袖部は床面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで, 火床面は熱を受けて硬化しており, 煙道部は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子少量	7	赤褐色	焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子微量
2	にぶい赤褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子・細礫少量	8	赤褐色	焼土粒子多量
3	極暗赤褐色	焼土粒子多量, 粘土粒子少量	9	褐色	粘土粒子多量, 細礫少量, ロームブロック微量
4	極暗赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子少量	10	褐色	粘土粒子多量, ロームブロック少量, 細礫微量
5	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子中量, 灰少量	11	褐色	ローム粒子多量, 黒色土粒子少量
6	暗赤灰色	焼土ブロック多量, 炭化粒子多量	12	褐色	ローム粒子多量

ピット 7か所。P1~P4は主柱穴に相当し, 深さは20~48cmである。P5は出入口施設に伴うピットで, 深さは28cmである。P6・P7の性格は不明である。

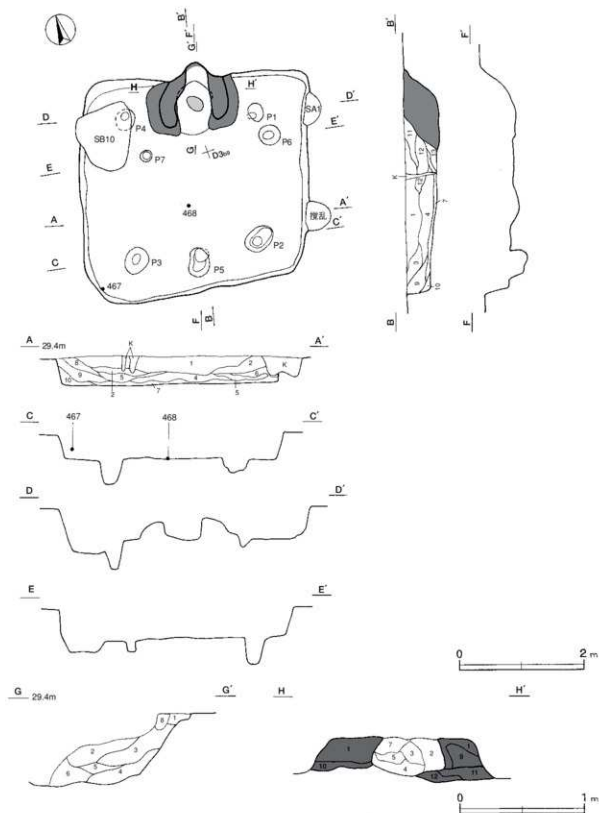
覆土 13層からなる。全体的に締まりのある土層であり, レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

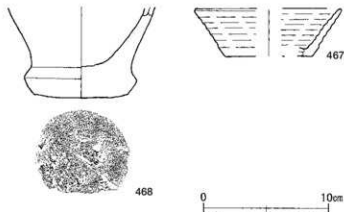
1	暗褐色	ローム粒子・黒色土粒子少量, 炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子・黒色土粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子多量
4	灰褐色	ローム粒子中量	11	暗褐色	粘土粒子少量, ローム粒子微量
5	黒褐色	黒色土粒子多量, ローム粒子少量	12	黒褐色	ローム粒子少量, 粘土粒子微量
6	褐色	ローム粒子多量	13	極暗褐色	粘土粒子中量, ローム粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片57点（坏類16、甕類41）、須恵器片7点（坏類4、蓋2、鉢1）が覆土中層から床面にかけて出土している。468は中央部の床面から出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、床面から出土した土器から9世紀前葉以前と考えられる。



第217図 第93号住居跡実測図



第218図 第93号住居跡出土遺物実測図

第93号住居跡出土遺物観察表 (第218図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
467	須恵器	鉢	[11.6]	3.8	[6.9]	長石・石英	黄灰	普通	底部多方向のヘラ削り	下層	10%
468	須恵器	控鉢	-	[7.3]	7.4	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、ナデ	床面	10%

第95号住居跡 (第219～221図)

位置 調査区中央部のC3h4区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 東部が第12号掘立柱建物跡と第69号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.1m、短軸3.8mの長方形で、主軸方向はN-120°-Eである。壁高は10～18cmで、各壁とも外傾している。

床 ほほ平坦で、竈前面から出入口施設にかけて踏み固められており、壁溝が北壁下から検出されている。

竈 東壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで84cm、袖部幅116cmで、壁外への掘り込みは54cmほどである。天井部は削平され、袖部は床面に細礫を混ぜた砂質粘土で構築されている。火床部は床面を7cmほど掘りくぼめ、火床面は熱を受けて硬化しており、煙道部は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 にふい赤褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	7 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2 にふい赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・小礫少量	8 明赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量
3 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量	9 にふい赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・小礫少量
4 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、粘土粒子・小礫微量	10 にふい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量
5 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・小礫少量	11 にふい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・小礫少量
6 赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子微量	12 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・小礫少量
		13 暗赤褐色	焼土粒子中量、粘土粒子少量

ピット 6か所。P1・P2は主柱穴に相当し、深さは25～41cmである。P3・P4は出入口施設に伴うピットで、深さは20cm前後であり、P5・P6の性格は不明である。

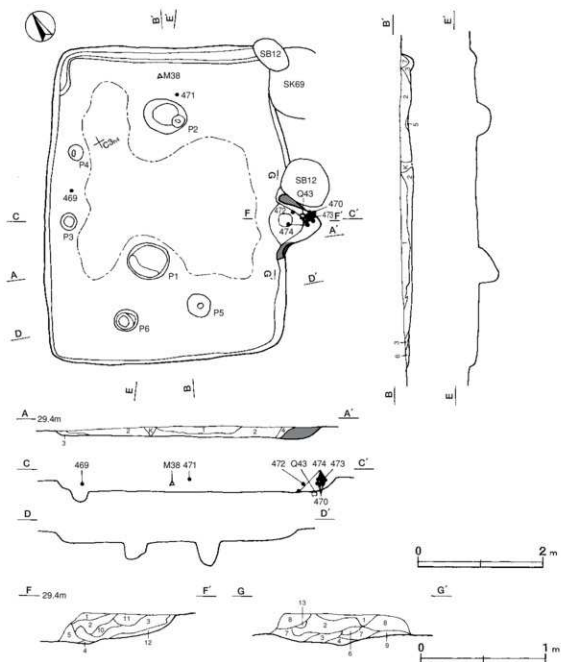
覆土 7層からなる。全体的に締まりのある土層であり、自然堆積と思われるが、層が薄いこと全体の様相は不明である。

土層解説

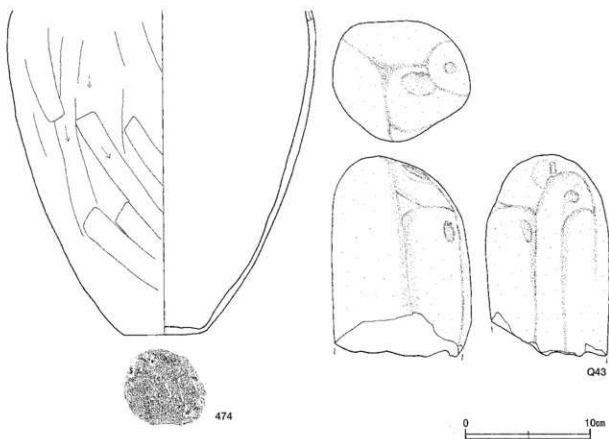
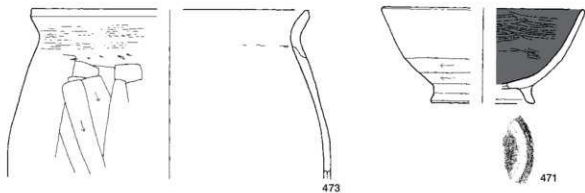
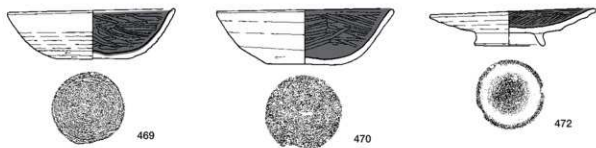
1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片114点（坏類61，甕類53），須恵器片5点（坏類3，甕類2），石製品1点（支脚）銅製品1点（足金具）が竈および覆土中層から下層にかけて出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片2点も出土している。470・472は竈の覆土中層から出土しており、埋め戻しの段階に廃棄されたものと考えられる。

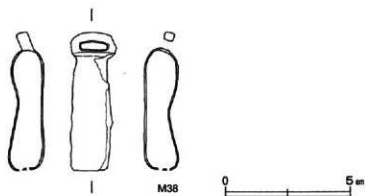
所見 当遺跡から確認された同時代の竈穴住居跡において東竈は本跡のみであり、主柱穴及び出入り口施設のピットが2本であることなど、他とは構造が異なっているが、その性格は不明である。また、時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第219図 第95号住居跡実測図



第220图 第95号住居跡出土遺物実測図(1)



第221図 第95号住居跡出土遺物実測図(2)

第95号住居跡出土遺物観察表 (第220・221図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
469	土師器	環	13.3	4.1	5.5	長石・石英・封状 炭物・赤色粒子	にふい橙	普通	体部外面下端へう割り, 底部回転へう割り	下層	100% PL35
470	土師器	環	14.0	4.5	5.9	長石・石英	にふい橙	普通	体部外面下端へう割り, 底部回転へう割り	竜中層	96%
471	土師器	高台付椀	[16.0]	7.6	[8.2]	長石・石英	橙	普通	体部外面下端へう割り, 底部回転へう割り	上層	40%
472	土師器	高台付皿	13.3	3.0	5.4	長石・石英・ 赤色粒子	にふい黄橙	普通	底部回転へう割り, 高台貼り付け後, ナデ	竜中層	95% PL37
473	土師器	壺	[22.0]	[13.4]	-	長石・石英	にふい橙	普通	体部内面ナデ, 外面縦方向のへう割り	竜中層	10%
474	土師器	壺	-	[25.9]	6.5	長石・石英・ 赤色粒子	にふい橙	普通	体部内面ナデ, 底部へう割り	竜中層	25%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	手法の特徴	出土位置	備考
Q43	支脚	(16.1)	11.0	0.7	(296.8)	花崗岩	卵石の転用か	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	手法の特徴	出土位置	備考
M38	足金具	5.5	1.8	1.5	8.2	銅	端部欠損	下層	PL43

第98号住居跡 (第222~224図)

位置 調査区中央部のC3f0区, 標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第34号掘立柱建物跡を掘り込み, 西壁が第89号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.3m, 短軸4.9mの方形で, 主軸方向はN-16°-Eである。壁高は36~38cmで, 各壁とも直立している。

床 ほほ平坦で, 中央部が踏み固められ, 壁溝が全周している。

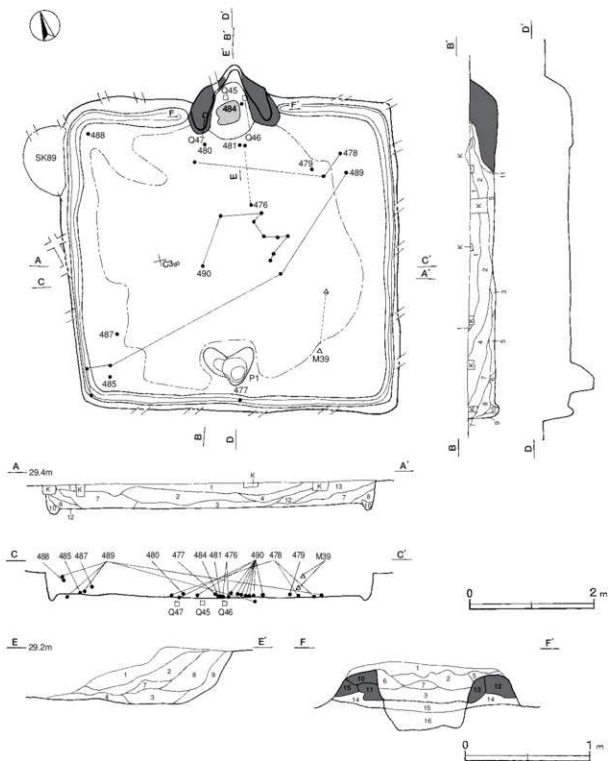
竈 北壁の中央部に付設されており, 焚口部から煙道部まで120cm, 袖部幅144cmで, 壁外への掘り込みは53cmほどである。天井部は崩落し, 土層断面図中の2層が崩落土に相当する。袖部は床面に砂質粘土で構築され, 芯材として泥岩が用いられている。火床部は床面を25cmほど掘りくぼめ, 焼土を多量に含む明赤褐色土で埋め戻した面にあり, 内壁が赤変している。火床面は熱を受けて赤変硬化しており, 煙道は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

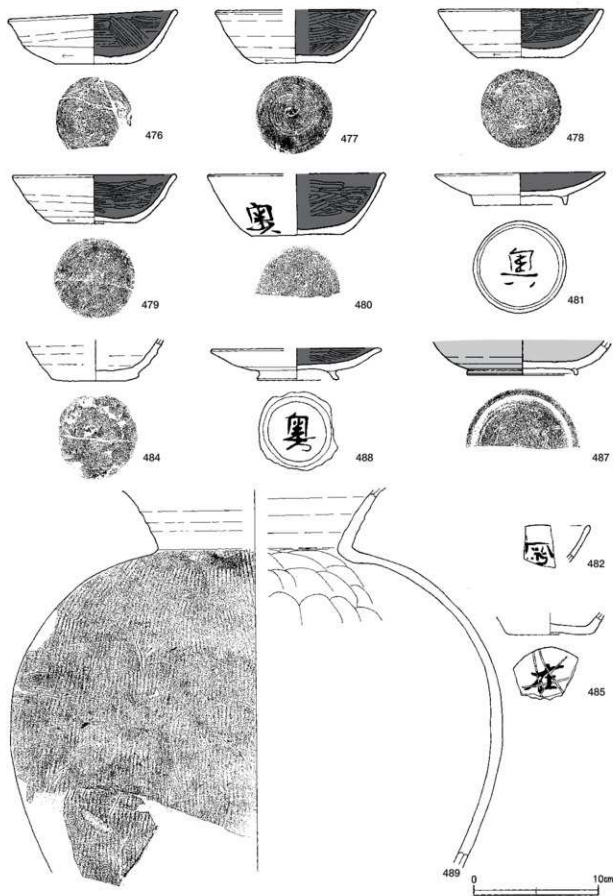
- | | |
|-----------------------------|--|
| 1 暗褐色 砂粒多量, ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子多量, 砂質粘土ブロック少量, 細粒微量 |
| 2 にふい褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量 | 7 にふい赤褐色 焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子多量, ロームブロック微量 | 8 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 9 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 砂粒多量, 焼土粒子少量 | |

- | | | | |
|---------|--------------------------------|----------|----------------------|
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子・礫少量 | 14 濃い赤褐色 | ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 11 灰褐色 | 粘土ブロック多量 | 15 明赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 12 明赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量 | 16 濃い赤褐色 | ロームブロック多量 |
| 13 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

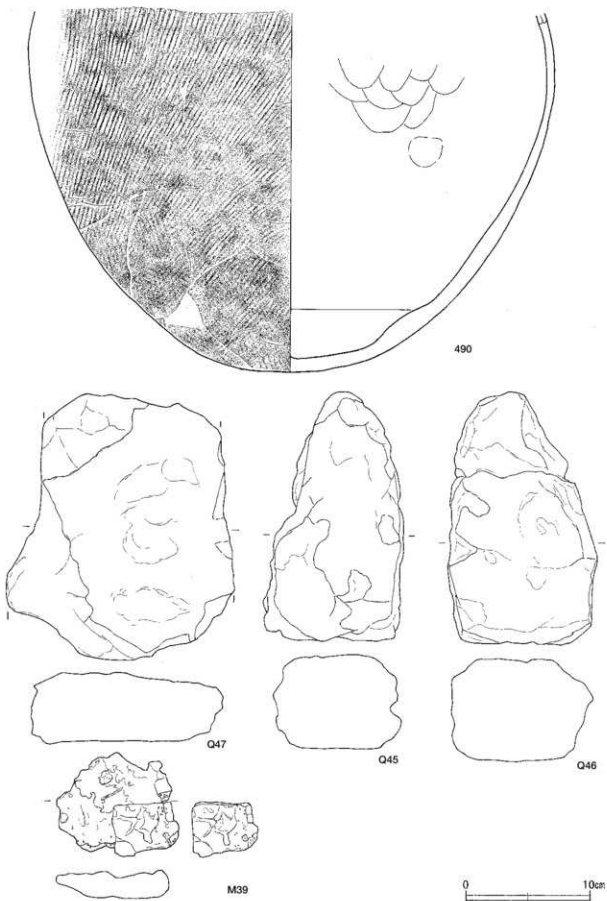
ピット 1か所。P1は出入口施設に伴うピットで、深さは38cmである。



第222図 第98号住居跡実測図



第223图 第98号住居跡出土遺物実測図(1)



第224图 第98号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 13層からなる。全体的に締まりのない土層で、レンズ状を呈するが人為堆積と考えられる。

覆土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子微量	9	黒褐色	ローム粒子多量
3	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	10	黒褐色	ローム粒子少量
4	黒褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	12	暗褐色	ローム粒子少量、鹿沼パミス微量
6	暗褐色	ローム粒子・鹿沼パミス微量	13	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
7	灰褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片311点（坏類100、莞類211）、須恵器片70点（坏類41、蓋10、莞類19）、灰桶陶器片2点（高台付椀）、椀状洋1点が覆土上層から床面にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる縄文土器片1点、弥生土器片1点も出土している。477は南部壁際の床面、484は竈の火床面、476は竈前面の床面からそれぞれ出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第98号住居跡出土遺物観察表（第223・224図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
476	土師器	坏	13.3	4.2	5.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端へう閉り、底部回転へう閉り	床面	70%
477	土師器	坏	[12.4]	4.2	6.2	長石・石英・針状炭物	にぶい赤褐	普通	体部外面下端へう閉り、底部回転へう閉り	床面	60%
478	土師器	坏	13.2	3.8	6.8	長石・石英	浅黄橙	普通	体部外面下端へう閉り、底部回転へう閉り	下層	50% P1.35
479	土師器	坏	13.1	3.9	6.5	長石・石英・針状炭物	にぶい橙	普通	体部外面下端へう閉り、底部回転へう閉り	下層	45%
480	土師器	坏	[14.0]	4.9	7.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面下端へう閉り、底部回転へう閉り	下層	40% P1.30 黒書「奥」
482	土師器	坏	-	(29)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面へう閉り	覆土中	10% P1.39 黒書「奥」
481	土師器	高台付皿	[13.6]	2.6	7.4	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転へう切り、高台取り付け後、ナデ	床面	80% P1.39 黒書「奥」
488	土師器	高台付皿	[13.6]	2.5	6.5	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転へう切り後、ナデ	中層	70% P1.39 黒書「奥」
484	須恵器	坏	-	(3.3)	7.0	長石・石英・針状炭物	灰	普通	底部回転へう切り後、ナデ	竈火床面	30% 黒書き「一」
485	須恵器	坏	-	(1.8)	[6.8]	長石・石英	橙	普通	底部回転へう切り後、ナデ	下層	10% P1.40 黒書「在」奥黒書き
487	灰桶陶器	高台付椀	-	(2.7)	8.8	長石・黒色粒子	白・オリーブ	良好	体部下端へう閉り、底部回転へう閉り	中層	30%
489	須恵器	蓋	-	(30.3)	-	長石・石英	灰	普通	体部内面ナデ	上層・床面	40%
490	須恵器	蓋	-	(28.8)	-	長石・石英	灰	普通	体部内面ナデ	下層	40% P1.31

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	手法の特徴	出土位置	備考
M39	鉄洋	8.3	9.8	2.3	2011	鉄	輪状L字に1/4切断	中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	手法の特徴	出土位置	備考
Q45	龍岡窯材	19.9	11.3	7.5	6646	凝灰質泥岩	軟質、熱による劣化	竈下層	
Q46	龍岡窯材	30.2	12.0	8.1	9635	凝灰質泥岩	軟質、熱による劣化	竈下層	
Q47	龍岡窯材	(21.0)	18.2	5.7	(9046)	凝灰質泥岩	軟質、熱による劣化	竈左縁	

第100号住居跡（第225・226図）

位置 調査区中央部のD4c2区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 西部が第92号住居跡、北部が第16号掘立柱建物跡をそれぞれ掘り込み、中央部を第30号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

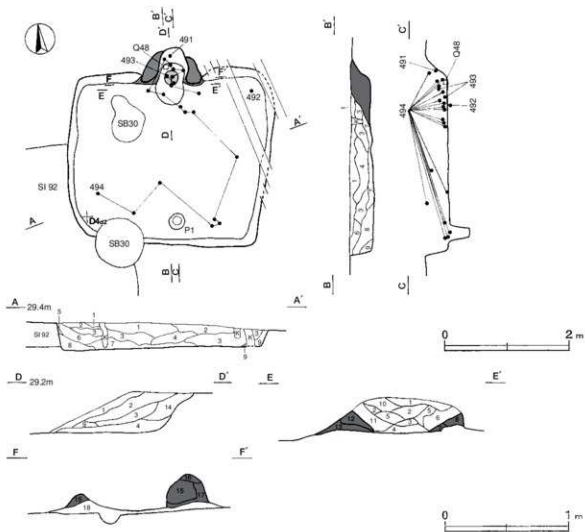
規模と形状 長軸3.2m、短軸2.8mの長方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は26~44cmで、各壁とも外傾している。

床 ほぼ平坦で、全体が踏み固められている。

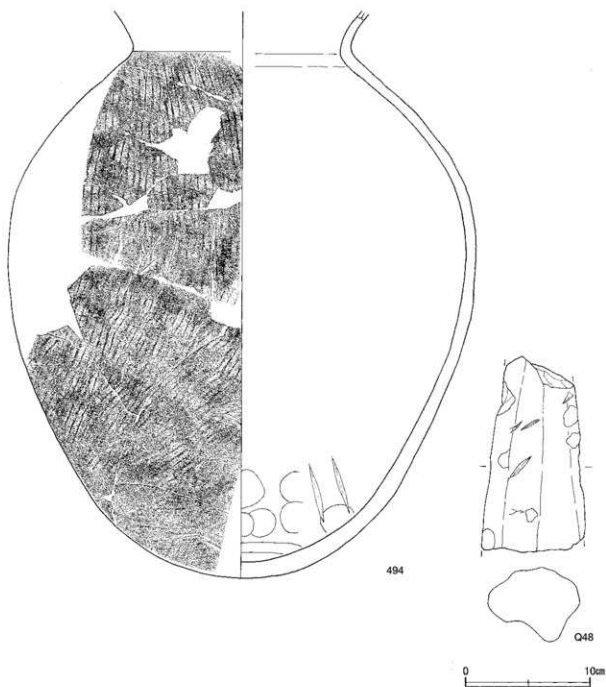
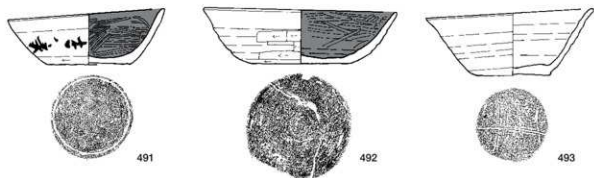
竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで95cm、袖部幅92cmで、壁外への掘り込みは49cmである。天井部は削平され、袖部は床面に砂質粘土で構築されており、基部が確認されている。火床部はほぼ床面の高さで、火床面は熱を受けて赤変硬化している。また、煙道部の奥壁は赤変しており、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-----------------------|----|--------|----------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 10 | 灰褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 明褐色 | 粘土粒子多量、炭化粒子微量 | 11 | 暗赤褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 | 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、灰少量 | 12 | 灰褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| 4 | 暗赤灰色 | 炭化粒子多量、焼土粒子微量 | 13 | 明褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子微量 |
| 5 | 暗赤褐色 | 灰中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 | 灰赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子少量 | 15 | 明赤灰色 | 砂質粘土層 |
| 7 | にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 16 | 明褐色 | 砂質粘土ブロック多量 |
| 8 | 赤灰色 | 粘土粒子中量、焼土粒子微量 | 17 | にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量 |
| 9 | 極暗赤褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 18 | 褐色 | ロームブロック多量 |



第225図 第10号住居跡実測図



第226图 第100号住居跡出土遺物実測図

ピット 1か所。P1は出入口施設に伴うピットで、深さは38cmである。

覆土 9層からなる。全体的に締まりのない土層であり、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	7	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・細砂微量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	8	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	9	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片143点(3坏類20, 甕類12), 須恵器片70点(坏類30, 甕類40), 土製品1点(支脚)が覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片1点も出土している。492は北部の床面, 493は竈の火床面からそれぞれ出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第100号住居跡出土遺物観察表(第226図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
491	土師器	環	12.4	4.5	6.6	長石・石英	灰黄褐色	普通	体部外面下端ヘウ割り, 底部回転ヘウ割り	下層	100% PLS3 照査「[三]」
492	土師器	環	15.3	4.4	8.0	長石・石英	灰白	普通	体部外面下端ヘウ割り, 底部回転ヘウ割り	床面	70%
493	須恵器	環	13.3	5.4	5.9	長石・石英	灰白	普通	底部一方向のヘウ割り	竈火床面	80% 底部照査「一」
494	須恵器	蓋	-	(45.1)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部内面ナデ, 内面過半部輪轡を残すヘウナデ	床面	40% 丸底

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	手法の特徴	出土位置	備考
Q48	支脚	(15.7)	(8.4)	(5.9)	(255.3)	凝灰質泥岩	軟質, 面取り痕あり	竈火床面	

第101号住居跡(第227・228図)

位置 調査区東部のE5b6区, 標高28mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.2m, 短軸4.1mの方形で, 主軸方向はN-19°-Eである。壁高は47~68cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 全体が踏み固められており, 壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されており, 焚口部から煙道部まで136cm, 袖部幅146cmで, 壁外への掘り込みは67cmほどである。天井部及び袖部は廃絶時に破壊されて, 袖部の基部のみが確認された。細礫を混ぜた砂質粘土で構築されていたものと思われる。火床部はほぼ床面の高さで, 火床面は熱を受けて硬化している。

また, 煙道部は外傾して立ち上がっている。

土層解説

1	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス微量	5	暗赤褐色	炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量
2	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量	6	暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 小礫微量
3	にぶ赤褐色	焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子・小礫微量	7	にぶ赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	にぶ赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量			

ピット 3か所。P1・P2は主柱穴に相当し, 深さはP1が21cm, P2が41cmである。P3は出入口施設に伴うピットで, 深さは25cmである。

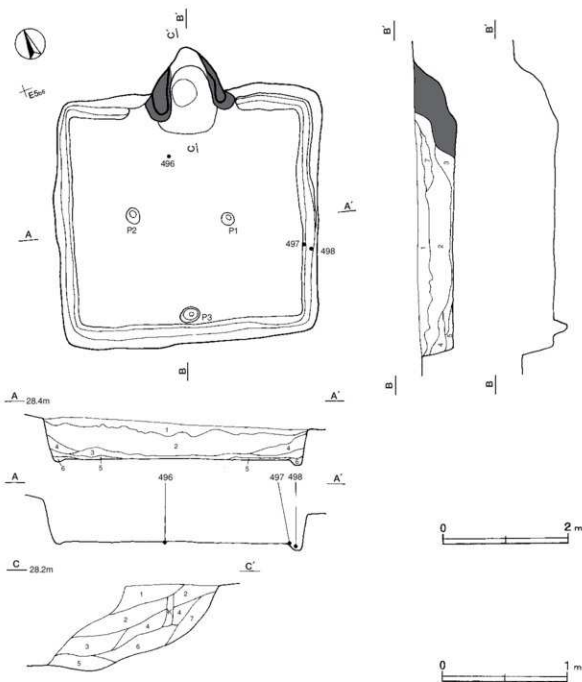
覆土 7層からなる。全体的に締まりのない土層であり, ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

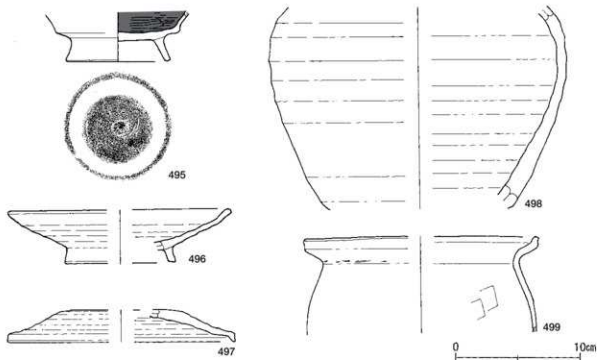
1	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物・鹿沼パミス微量	5	暗褐色	ローム粒子・鹿沼パミス微量
2	暗褐色	ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量, 炭化物微量	6	褐色	ローム粒子・鹿沼パミス少量
3	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・鹿沼パミス微量	7	灰褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量
4	褐色	ロームブロック少量, 炭化物・鹿沼パミス微量			

遺物出土状況 土器器片125点(坏類14, 甕類111), 須恵器片64点(坏類44, 盤7, 蓋3, 甕類10), 土製品1点(支脚)が床面に点在して出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片1点も出土している。496は北部の床面から出土しており、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、床面から出土した土器から9世紀後半と考えられる。



第227図 第101号住居跡実測図



第228図 第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表 (第228図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
495	土師器	高台付杯	-	(4.0)	8.2	長石・石英・針状鉱物	にぶい黒	普通	底部回転ヘラ切り、高台貼り付け後、ナデ	覆土中	30%
496	須恵器	壺	[17.5]	4.2	[8.8]	長石・石英・針状鉱物	灰	普通	底部高台貼り付け後、ナデ	床面	30%
497	須恵器	蓋	[18.0]	(2.6)	-	長石・針状鉱物	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	壁溝	20%
498	須恵器	甗	-	(16.1)	-	長石・石英・赤色粒子	灰	良好	体部内・外面口クロナデ	壁溝	30%
499	土師器	壺	[18.7]	(7.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部内面ヘラナデ	覆覆土中	10%

第104号住居跡 (第229図)

位置 調査区北部のC 5 c2区、標高28mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.2m、短軸3.1mの方形で、主軸方向はN-22°-Eである。壁高は37~45cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められ、竈前面には構架材の粘土が流れ出している。また、壁溝が各壁下から検出されている。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで87cmで、壁外への掘り込みは40cmほどである。天井部は削平され、袖部も攪乱を受けており、左袖基部にロームブロックを含んだ砂質粘土が残存し、構架材の一部は床面に流れ出している。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめ、火床面は熱を受けて赤変硬化しており、煙道部は外傾して立ち上がっている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 1か所。P1は出入口施設に伴うピットで、深さは18cmである。

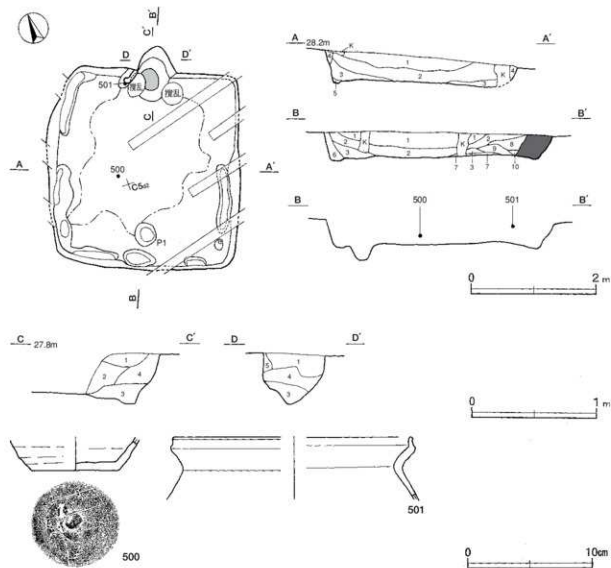
覆土 10層からなる。全体的に締りのある土層であるが、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

覆土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	7	黒色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	8	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	にがい黄褐色	ローム粒子中量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
5	暗褐色	ローム粒子少量、鹿沼パミスブロック微量			
6	暗褐色	ローム粒子中量			

遺物出土状況 土師器片103点(坏類8, 甕類95), 須恵器片34点(坏類25, 甕類9)が覆土下層から床面にかけて点在して出土している。500は中央部の覆土下層から出土しており、埋め戻しの土砂とともに埋没したものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。



第229図 第104号住居跡・出土遺物実測図

第104号住居跡出土遺物観察表 (第229図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
500	須恵器	坏	-	(27)	7.1	長石針状灰物	灰	普通	底部回転ヘラ切り痕, ナデ	下層	30% 量書[三]
501	土師器	釜	[190]	(5.0)	-	長石	にぶい橙	普通	1層部横ナデ	上層	10%

第105号住居跡 (第230・231図)

位置 調査区北部のB5j区, 標高28mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.8m, 短軸2.6mの方形で, 主軸方向はN-28°-Eである。壁高は8~10cmで, 各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 出入口施設の付近が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており, 焚口部から煙道部まで72cm, 袖部幅102cmで, 壁外への掘り込みは17cmほどで, 天井部は削平されている。袖部の基部は細礫を混ぜた砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで, 奥壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量

ピット 1か所。P1は出入口施設に伴うピットで, 深さは23cmである。

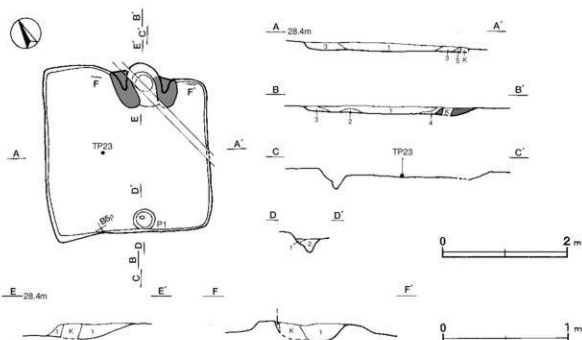
ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

覆土 5層からなる。ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられるが, 上部が削平されて層厚が薄いため全体の様相は不明である。

土層解説

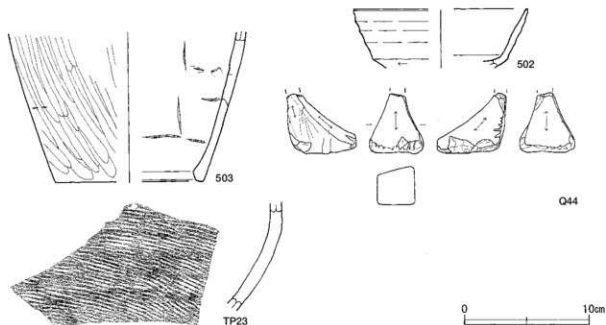
- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量
- 5 にぶい黄褐色 ローム粒子中量



第230図 第105号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片41点(甕類)、須恵器片13点(坏類4、甕類9)、石製品1点(砥石)が覆土中層から下層にかけて出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片1点も出土している。502・503はいずれも覆土中から出土している。

所見 上部を削平されているため埋没過程は不明であり、さらに出土土器が少なく、明確な時期を特定することは難しいが、出土土器から9世紀代と考えられる。



第231図 第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表(第231図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
502	須恵器	高台付杯	[14.0]	(4.6)	-	長石・石英・針状鉱物	灰白	普通	体部下端へツ削り	覆土中	30%
503	須恵器	瓶	-	(11.9)	[11.8]	長石・雲母・石英	にぶい橙	普通	体部内面へツナデ、外面へツ磨き	覆土中	10% 非孔式

番号	器種	器種	口径	器高	底径	材質	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
TP23	須恵器	甕	-	(9.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面平行明刻目、内面ナデ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q44	砥石	(4.8)	4.3	5.4	(87.8)	凝灰岩	砥面4面	覆土中	PL43

第106号住居跡(第232図)

位置 調査区北部のB3e9区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.6m、短軸2.0mの長方形で、主軸方向はN-20°-Eである。壁高は15~23cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、明確な踏み固めは認められない。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで72cmで、壁外への掘り込みは13cmほどで、天井部は削平されている。右袖の基部は床面に灰黄褐色の砂質粘土で構築されており、内壁が熱を受けて赤変している。火床部は床面と同じ高さで、明確な火床面は認められず、奥壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 灰黄褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化物・粘土粒子微量 | 6 褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| | 7 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |

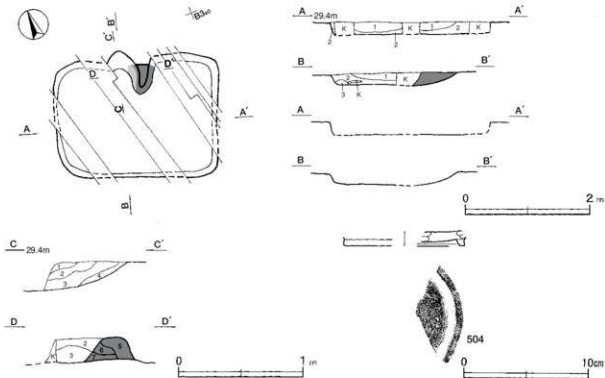
覆土 3層からなる。全体的に締りのある土層であるが、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片8点(坏類3, 甕類5), 須恵器片2点(盤, 甕類)が覆土中から出土している。そのほか、流れ込みによる弥生土器片1点も出土している。504は覆土中から出土し、廃棄されたものと考えられる。

所見 出土土器が少なく、明確な時期を特定することは難しいが、出土土器から9世紀代と考えられる。また、転用硯が覆土中から出土しているが、官衛的な施設からの廃棄物の一部と考えられる。



第232図 第106号住居跡・出土遺物実測図

第106号住居跡出土遺物観察表(第232図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
504	須恵器	盤	-	(12)	(9.6)	長石・石英	黄灰	普通	底部回転へつ削削	覆土中	10% 転用硯 遺片着

(2) 掘立柱建物跡

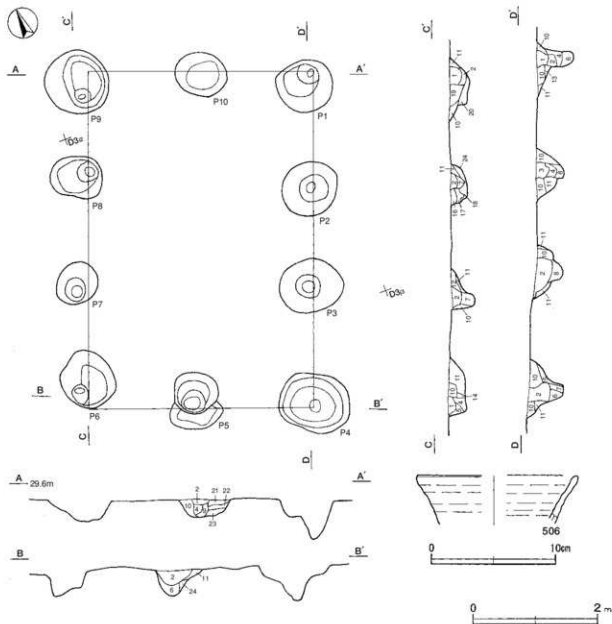
第1号掘立柱建物跡(第233図)

位置 調査区南西部のD312区, 標高29mほどの台地上に位置している。「口の字状」に配置されている掘立

柱建物跡群の南西端に位置する。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向が $N-20^{\circ}-E$ の南北棟である。桁行5.0m(16.5尺)、梁行3.6m(12尺)であり、柱間寸法は桁行が1.65m(5.5尺等間)、梁間は1.8m(6尺等間)であり、ほぼ柱筋は通っている。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは30~60cmほどである。柱抜き取り痕は土層断面図中の1~9層が相当し、焼土・炭化物を含んでいる。その他の層は埋土で締りが強く、特にP8・P10の埋土は互層をなしている。



第233図 第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化物少量	13	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量	14	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
3	黒褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化物少量	15	暗褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化物粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子少量	17	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
6	褐色	ロームブロック中量	18	褐色	ロームブロック少量
7	暗褐色	焼土粒子・炭化物粒子少量, ローム粒子微量	19	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック少量	20	褐色	ローム粒子中量
9	暗褐色	ローム粒子・炭化物少量	21	暗褐色	ローム粒子中量
10	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物粒子微量	22	暗褐色	ローム粒子少量
11	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	23	暗褐色	ロームブロック中量
12	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	24	褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量

遺物出土状況 土師器片11点(坏類3, 甕類8), 須恵器片4点(坏類1, 甕類3)が出土している。また, P2及びP8の掘り方底面から拳大の礫が出土している。506はP8の埋土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。北3mに位置する第2号掘立柱建物跡とともに「口の字状」に配置される建物群の西列を構成する建物であり, 柱抜き取り痕に焼土・炭化物が含まれていることから, 第2~4号及び第10号掘立柱建物跡とともに焼失したと考えられる。

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第233図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
506	須恵器	坏	132	(39)	-	長石・針状鉱物	灰	普通	内面・外面ロコナテ	P8埋土	10%

第2号掘立柱建物跡(第234図)

位置 調査区西部のD3g3区, 標高29mほどの台地上に位置している。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の身舎に, 西平側面に庇が付く建物跡で, 桁行方向がN-17°-Eの南北棟である。身舎の規模は桁行4.80m(16尺), 梁行3.30m(11尺)で, 庇の出は, 東の入側柱から1.2m(4尺)である。柱間寸法は, 桁行の北妻側1間が1.8m(6尺), 中央と南間がそれぞれ1.5m(5尺)で, 梁間は東間が1.8m(6尺), 西間1.5m(5尺)である。東桁行は第3号掘立柱建物跡と柱筋が通っている。

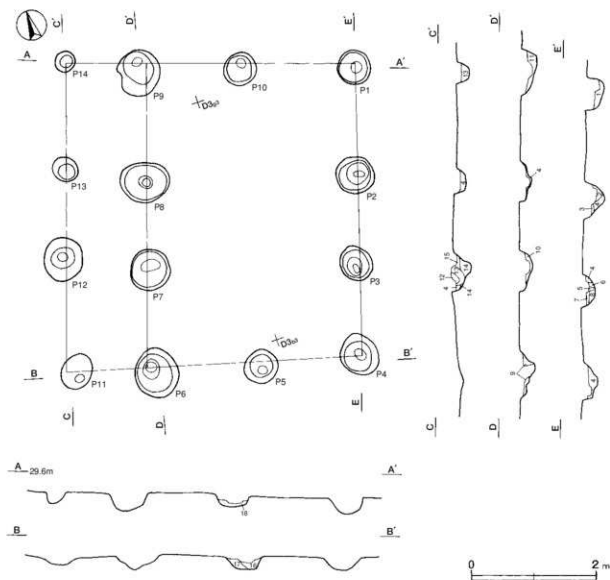
柱穴 平面形はいずれも楕円形で, 確認面からの深さは15~35cmほどである。柱抜き取り痕は土層断面図中の2・5・12・13層が相当し, 焼土・炭化物を含んでいる。その他の層は埋土で締りが強く, 特にP3の7・8層は突き固められている。

土層解説

1	褐色	ローム粒子多量, 炭化物粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量	11	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック少量	12	黒褐色	炭化物多量
4	褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化物粒子微量	13	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物粒子微量
5	黒褐色	炭化材少量, ロームブロック・焼土粒子量	14	黒褐色	ロームブロック中量, 炭化物粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物粒子・白色粒子微量
7	褐色	ローム粒子少量, 炭化物粒子微量	16	黒褐色	ローム粒子少量, 炭化物粒子微量
8	黒褐色	ローム粒子・炭化物粒子微量	17	暗褐色	ローム粒子中量
9	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物粒子微量	18	褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片2点(甕類), 須恵器片3点(坏類)が出土している。P8・P9の埋土内から9世紀代の須恵器坏片が出土しているが, いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡は, 北3mに位置する第3号掘立柱建物跡とともに「口の字状」に配置される建物群の西列を構成する建物であり, 出土土器から9世紀前半に機能していた「屋」と想定される。また, 柱抜き取り痕に焼土・炭化物が含まれていることから, 第1・3・4号及び第10号掘立柱建物跡とともに焼失したと考えられる。



第234図 第2号掘立柱建物跡実測図

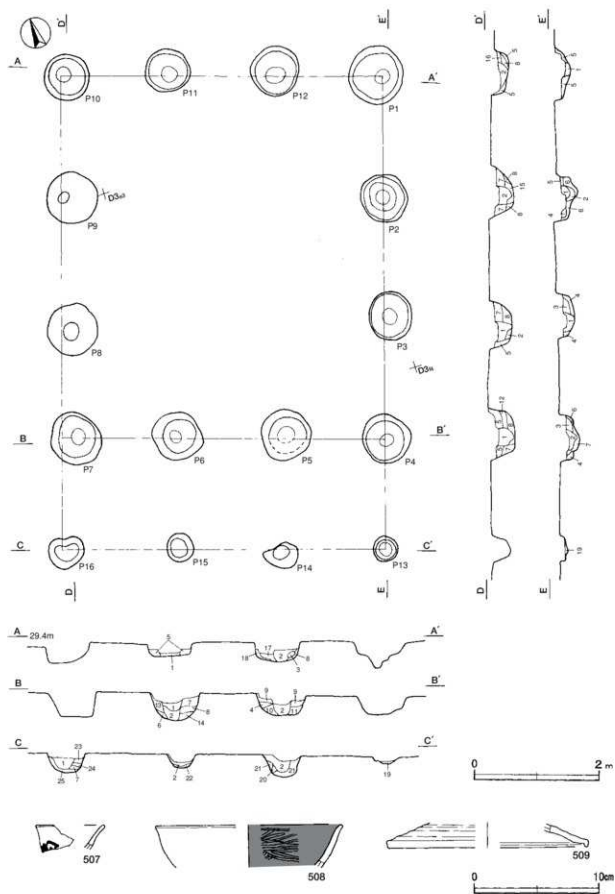
第3号掘立柱建物跡 (第235図)

位置 調査区西部のD3e3区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P5が第122号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行3間の身舎に南妻に庇が付く欄柱式建物跡で、桁行方向が $N-15^{\circ}-E$ の南北棟である。規模は桁行5.7m (19尺)、梁行5.1m (17尺)で、柱間寸法は桁行の両妻が1.8m (6尺)、中央間が2.1m (7尺)、梁間は東間が1.5m (5尺)、他は1.8m (6尺)である。柱筋は通っており、第2号掘立柱建物跡と柱筋を描えている。また、南妻の庇の出は1.8m (6尺)である。

柱穴 平面形は円形で、確認面からの深さは12~42cmほどである。柱抜き取り痕は土層断面図中の1、2層が相当し、焼土・炭化物を含んでいる。その他の層は埋土で締りが強く、互層をなしている。



第235图 第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	15	黒褐色	ロームブロック中量
3	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	17	暗褐色	ロームブロック中量
5	褐色	ロームブロック中量	18	暗褐色	ローム粒子多量
6	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	19	暗褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量	20	暗褐色	ローム粒子中量
8	暗褐色	ロームブロック多量, 炭化物微量	21	褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量
9	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量	22	褐色	ロームブロック中量
10	黒褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量	23	暗褐色	ローム粒子少量
11	黒褐色	ロームブロック少量	24	暗褐色	ロームブロック多量
12	暗褐色	ロームブロック少量	25	褐色	ロームブロック多量
13	黒褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 土師器片12点(環埴2, 甕類10), 須恵器片1点(蓋)が出土している。507~509はP3の埋土から出土している。

所見 本跡は, 第2・4号掘立柱建物跡と柱筋を揃え, ともに「口の字状」に配置される建物群の西列を構成する建物である。また, 柱抜き取り痕に焼土・炭化物が含まれていることから, 第1・2・4号掘立柱建物跡及び第10号掘立柱建物跡とともに焼失している。

第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第235図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
507	土師器	埴	-	(1.9)	-	長石・石英	橙	普通	体部内面へラ磨き	P3埋土	5% 体部外周部磨き「歯」
508	土師器	埴	[14.8]	(3.2)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端へラ削り	P3埋土	10%
509	須恵器	蓋	[15.7]	(2.0)	-	長石・石英・針状炭化物	灰	普通	体部内・外面クロコナテ	P3埋土	5%

第4号掘立柱建物跡(第236・237図)

位置 調査区西部のD3a4区, 標高29mほどの台地上に位置している。

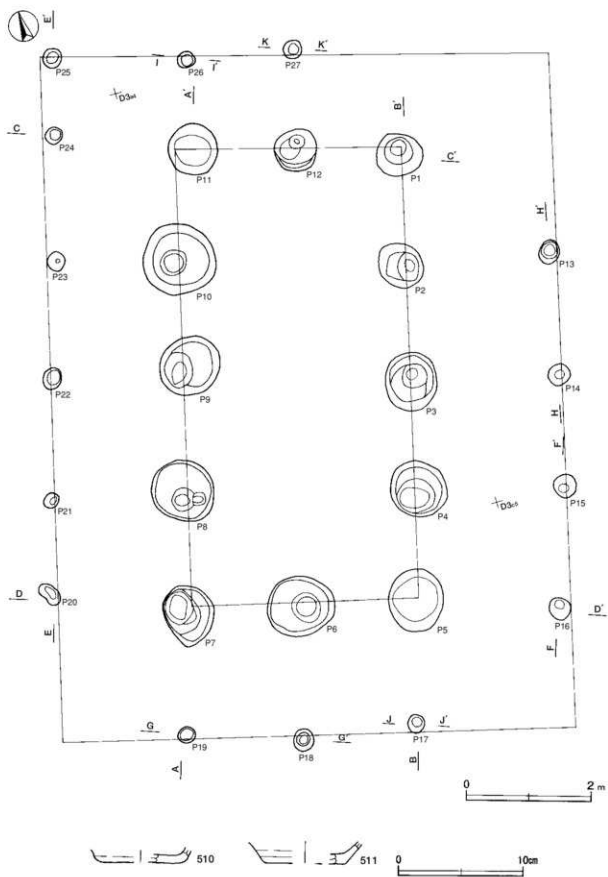
重複関係 第91・93号土坑, 第5・9号陥し穴と重複している。

規模と構造 桁行4間, 梁行2間の身舎に四面庇が付く建物跡で, 桁行方向がN-16°-Eの南北棟である。庇を含めた規模は桁行10.5m(35尺), 梁行7.2m(24尺)で, 身舎の規模は桁行7.5m(25尺), 梁行3.6m(12尺)であり, 庇の間は北が1.5m(5尺), 東庇の間は2.4m(8尺), 西・南庇の間は2.1m(7尺)である。柱間寸法は桁行・梁間とも1.8m(6尺等間)である。東の入側柱は第3・5号掘立柱建物跡と柱筋を揃え, 東庇は第12号掘立柱建物跡の東平に柱筋が揃って, 庇部の柱筋の通りが悪い。

柱穴 平面形は楕円形及び円形で, 確認面からの深さは身舎が10~43cmほどで, 庇が10cm前後である。柱抜き取り痕は土層断面図中の1~5層が相当し, 焼土・炭化粒子を含んでいる。その他の層は埋土で締りが強く, 突き固められている。また, 庇の柱穴は掘り方が小さく, 柱はすべて抜き取られている。

土層解説

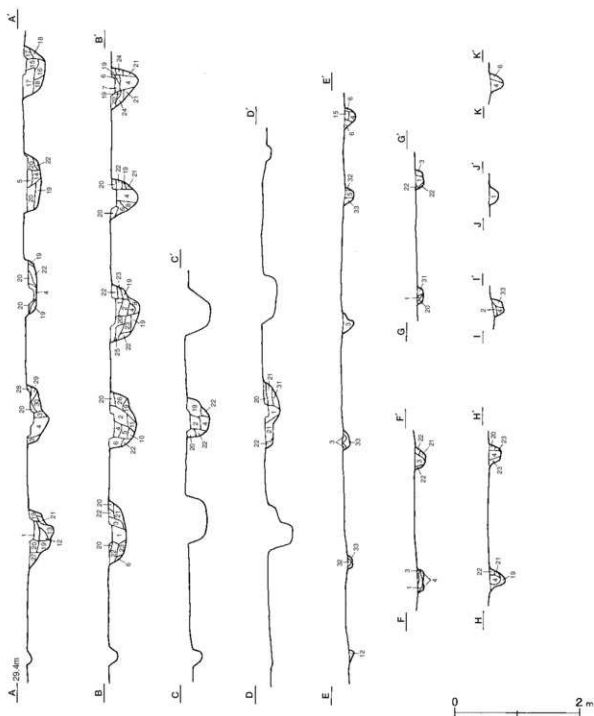
1	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	18	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量	19	褐色	ロームブロック多量
3	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	20	暗褐色	ローム中ブロック中量
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	21	褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子少量, 炭化物微量
5	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	22	褐色	ローム中ブロック多量
6	黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	23	黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
7	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	24	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子少量
8	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	25	暗褐色	ローム小ブロック中量
9	黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量	26	暗褐色	ローム小ブロック少量
10	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	27	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11	暗褐色	ローム粒子中量	28	黒褐色	ローム粒子少量
12	褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	29	暗褐色	ローム小ブロック多量
13	黒褐色	炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量	30	黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
14	暗褐色	ロームブロック微量	31	褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
15	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	32	暗褐色	ローム粒子中量
16	黒褐色	ローム粒子中量	33	褐色	ロームブロック少量
17	褐色	ロームブロック中量			



第236图 第4号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片10点（堯類）、須恵器片2点（坏類）が出土している。510はP3の埋土から出土している。

所見 本跡は、第2・3・5・12号掘立柱建物跡と桁行方向を同じくする「ロの字状」に配置される建物群の西列を構成する建物であり、出土した土器から9世紀中葉には機能を停止したものと考えられる。また、柱抜き取り痕に焼土・炭化物が含まれていることから、第1～3号掘立柱建物跡及び第10号掘立柱建物跡とともに焼失したと考えられる。



第237図 第4号掘立柱建物跡実測図

第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第236図)

番号	種別	器名	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
510	須恵器	坏	-	(13)	[68]	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り	P3埋土	5%
511	須恵器	坏	-	(18)	[66]	長石・石英・赤色粒子	灰オリーブ	普通	底部回転ヘラ削り	P9抜き取り	5%

第5号掘立柱建物跡 (第238図)

位置 調査区西部のC3i4区、標高29mほどの台地上に位置している。

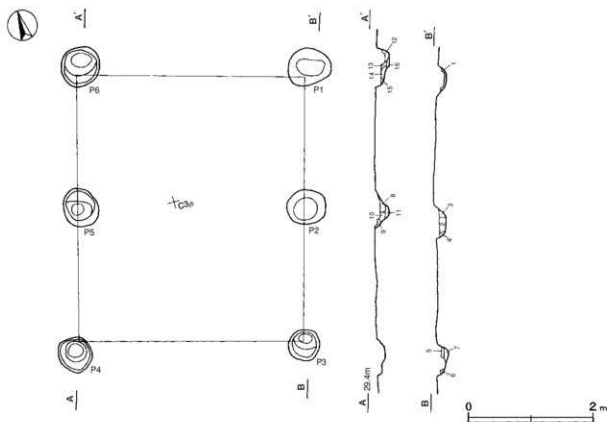
規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱式建物跡で、桁行方向がN-16°-Eの南北棟である。規模は桁行4.5m (15尺)、梁行3.6m (12尺)で、柱間寸法は桁行が2.1m (7尺)、梁間は3.6m (12尺)である。東平を第4号掘立柱建物跡の入側柱列に揃っている。

柱穴 平面形は楕円形及び円形で、確認面からの深さは11~23cmである。掘り方が浅く全体の様相は明確ではないが、柱抜き取り痕であると考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック中量	11	暗褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	ローム中ブロック多量	12	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子少量
6	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量	14	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
7	黒褐色	ローム粒子中量	15	暗褐色	ロームブロック中量
8	黒褐色	ローム粒子多量	16	暗褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片2点(甕類)、須恵器片1点(坏類)が出土している。いずれも細片のため図示できない。



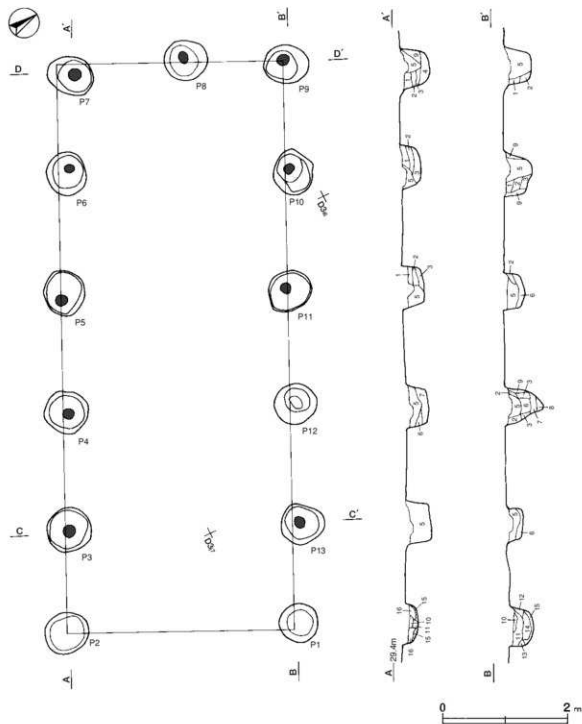
第238図 第5号掘立柱建物跡実測図

所見 本跡は、第2～4・12号掘立柱建物跡と桁行方向を同じくする「口の字状」に配置される建物群の西列を構成する建物であり、南1.8mに桁行方向を描えて位置する第4号掘立柱建物跡に付随する補助的な建物であると考えられる。

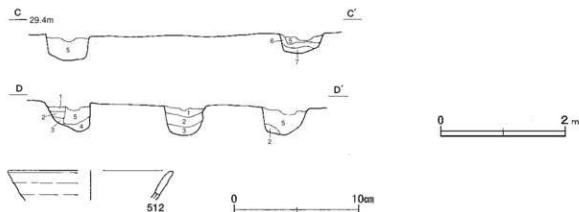
第6号掘立柱建物跡 (第239・240図)

位置 調査区西部のD316区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P3が第32号掘立柱建物跡のP8を掘り込んでいる。



第239図 第6号掘立柱建物跡実測図



第240図 第6号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

規模と構造 桁行5間、梁行2間の欄柱式建物跡で、桁行方向がN-65°-Wの東西棟である。規模は桁行9.0m(30尺)、梁行3.3m(11尺)で、柱間寸法は桁行が1.8m(6尺)を基調とし、梁間は西妻が北間1.5m(5尺)、南間2.1m(7尺)であるが、東妻は1間である。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは27~60cmである。柱抜き取り痕は土層断面図中の5層が相当し、その他の層は埋土で締りが強く、1~3層は互層に突き固めて版築状を呈している。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | 11 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック多量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子中量 | 15 褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック少量 | 16 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片25点(坏類1, 甕類24), 須恵器片5点(坏類4, 蓋1)が出土している。512はP12の抜き取り痕から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられ、主軸方向を同じくする建物跡は周囲にはなく、竪穴住居跡では第2・23号住居跡がある。いずれも9世紀中葉に比定されている。東西に長い欄柱式建物であるが、「屋」的な建物と考えられる。

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第240図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
512	須恵器	坪	130	(23)	-	長石・石英	灰	普通	体部内・外面クロコナテ	P12抜き取り	5%

第7号掘立柱建物跡(第241図)

位置 調査区中央部のE4d8区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P7が第36号掘立柱建物跡のP7を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の欄柱式建物跡で、桁行方向がN-56°-Wの東西棟である。規模は桁行5.4m(18尺)、梁行4.2m(14尺)で、柱間寸法は桁行が1.8m(6尺)を基調とし、梁間は両妻ともに北間が1.8m(6尺)、南間が2.4m(8尺)である。

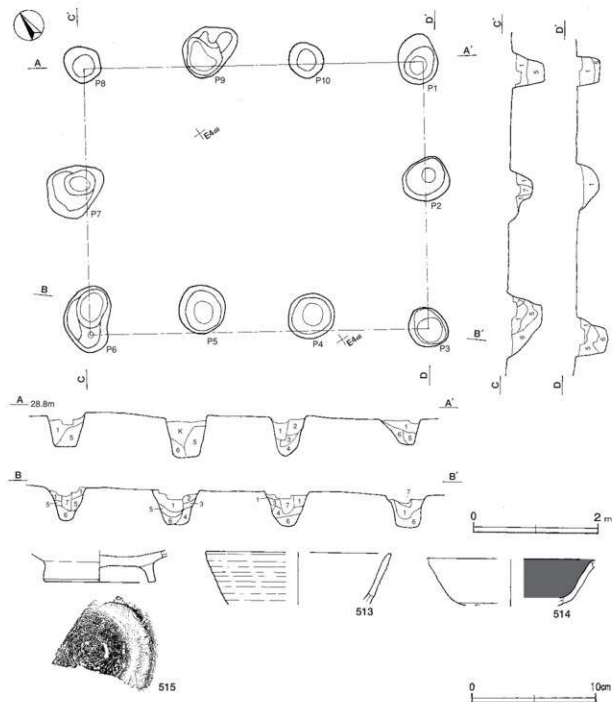
柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは36~65cmである。突き固めた痕跡は認められず、いずれも柱抜き取り痕である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|-------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 暗 褐色 | ロームブロック微量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗 褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒 褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 8 点 (坏類 1, 甕類 7), 須恵器片 6 点 (坏類 3, 甕類 3) が出土している。513・515は P4 の柱抜き取り痕から出土している。

所見 本跡は, 出土土器から 9 世紀前葉から中葉には機能を停止していたと思われる。主軸方向を同じくする建物跡は周囲にはなく, 竪穴住居跡では, 南東 4.5m に第 16 号住居跡, 東 9m に第 20 号住居跡が位置している。いずれも 9 世紀前半に比定されており, 同時期の集落に伴う「屋」と想定される。



第241図 第7号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第7号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第241図)

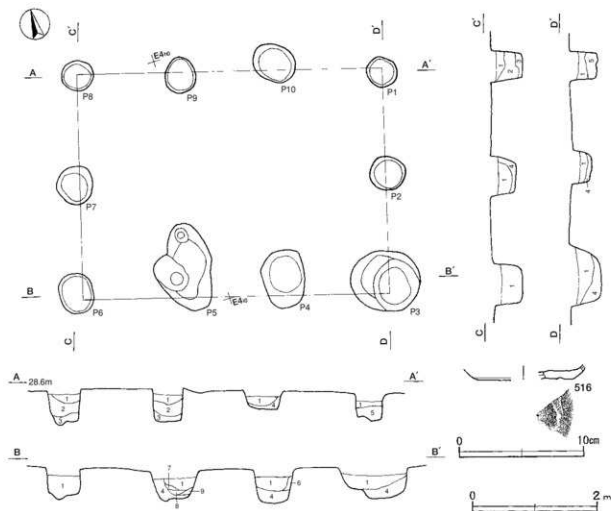
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
513	須恵器	環	〔14.4〕	(4.0)	-	長石・針状底物	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	P4抜き取り	10%
514	須恵器	高台付杯	〔13.2〕	(3.6)	-	長石・石美	にぶい橙	普通	体部下端へう削り	P9抜き取り	10% 器面摩滅
515	須恵器	高台付杯	-	(2.6)	〔8.6〕	長石・針状底物	灰褐色	普通	底部回転へう削り	P4抜き取り	30%

第8号掘立柱建物跡 (第242図)

位置 調査区南東部のE4h0区、標高28mほどの台地上に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の柵柱式建物跡で、桁行方向がN-75°-Wの東西棟である。規模は桁行4.9m (16.5尺)、梁行3.3m (11尺)で、柱間寸法は桁行は両妻側間1.5m (5尺)、中央間1.8m (6尺)、梁間は1.8m (6尺)、を基調としている。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で形状、規模ともに一定していない。確認面からの深さは29~57cmほどで、いずれも柱抜き取り痕である。



第242図 第8号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐	色	ローム粒子中量, ローム中ブロック微量
2	暗	褐色	ロームブロック微量, 焼土粒子微量	7	暗	褐色	ロームブロック微量
3	暗	褐色	ロームブロック少量	8	暗	褐色	ローム粒子微量
4	褐	色	ローム粒子中量	9	褐	色	ロームブロック少量
5	褐	色	ローム粒子多量				

遺物出土状況 土師器片16点(坏類2, 甕類14), 須恵器片3点(坏類2, 甕類1)が出土している。516はP8の抜き取り痕から出土している。

所見 本跡と主軸方向を同じくする建物跡は周囲にはなく、竪穴住居跡では、北15mに第20号住居跡があり、9世紀前葉に比定されている。出土土器からも9世紀前葉に機能を停止していることから、同時期の集落に付随する「屋」と想定される。

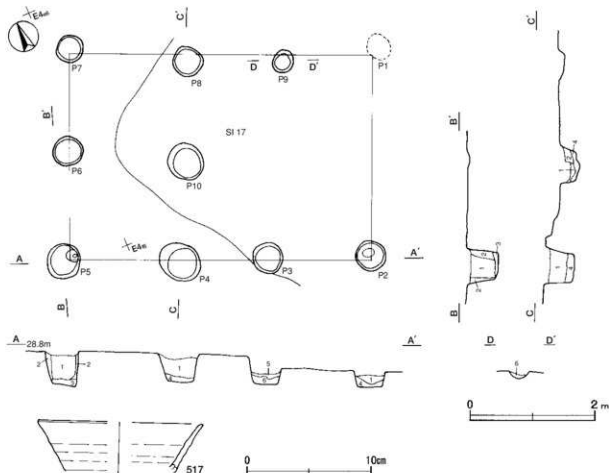
第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第242図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
516	須恵器	坏	-	(L1)	(R0)	長石・石英	灰白	普通	底部回転へう削り	P8抜き取り	10%

第9号掘立柱建物跡(第243図)

位置 調査区南部のE4e6区, 標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 中央から東部が第17号住居跡, P6が第51号掘立柱建物跡のP6をそれぞれ掘り込んでいる。



第243図 第9号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

規模と構造 桁行3間、梁行2間の榑柱式建物跡で、桁行方向がN-67°-Wの東西棟である。規模は桁行4.8m(16尺)、梁行3.3m(11尺)で、柱間寸法は桁行が南妻側が1.8m(6尺)で、他の2間は1.5m(5尺)、梁間は南妻の西間が1.5m(5尺)、東間が1.8m(6尺)で、北妻は3.3m(11尺)である。また、梁行の西から2列目にも柱穴がある。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは45cm前後である。いずれも柱抜き取り痕である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック微量、焼土粒子・炭化粒子微量	4	褐色	ローム粒子多量
2	暗褐色	ローム粒子中量	5	暗褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子多量	6	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片6点(甕類)、須恵器片2点(坏類)が出土している。517はP3の抜き取り痕から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。主軸方向を同じくする建物跡は周囲にはなく、堅穴住居跡では、北東16mに第36号住居跡が位置し、9世紀中葉に比定されており、同時期の集落に付随する「屋」と想定される。

第9号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第243図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
517	土師器	坏	130	330	-	長石	灰	普通	体部内・外面ロコナデ	P3抜き取り	10%

第10号掘立柱建物跡(第244図)

位置 調査区中央部のC3j7区、標高29mほどの台地上に位置している。

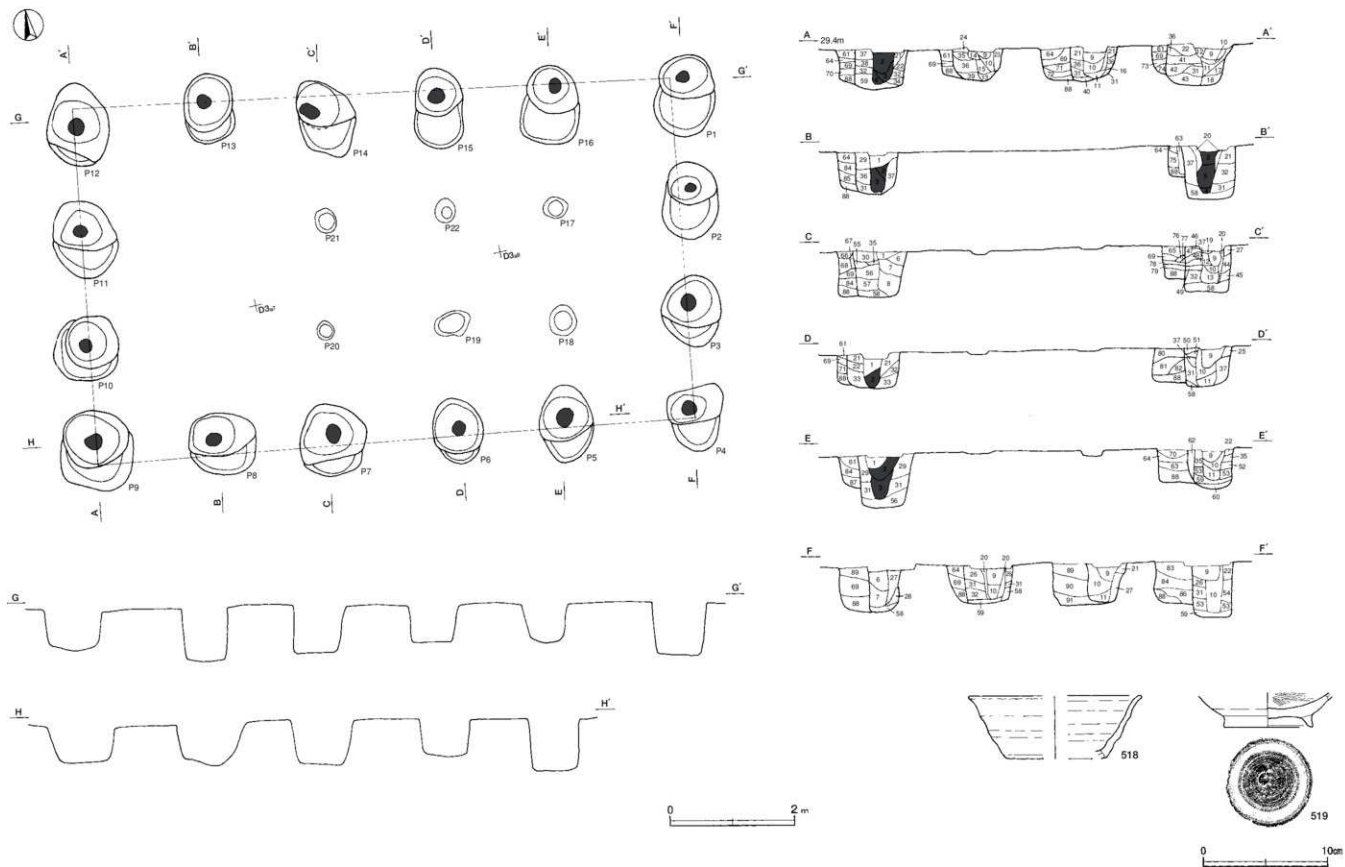
重複関係 P4が第93号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行5間、梁行3間の榑柱式建物跡で、桁行方向がN-80°-Wの東西棟である。規模は桁行9.6m(32尺)、梁行5.4m(18尺)で、柱間寸法は、桁行は両妻側が2.1m(7尺)、他は1.8m(6尺)、梁間は1.8m(6尺等間)を基調としている。柱筋はおおむね通っている。床東は西妻側を除く、両妻柱間・両側柱間を結ぶ柱筋の交点上に配置されている。また、本跡は同位置のやや北寄りに同規模で建て替えが行われている。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは50~85cmである。柱痕跡は土層断面中の2~5層が相当し、焼土・炭化物が含まれ焼失したものと思われ、柱掘方底面の柱のあたりから推定される柱径は20~25cmである。柱抜き取り痕は6~13層が相当し、その他の層は埋土で締りが強く互層に突き固めて版築状を呈している。また、61~91層は前身建物の埋土及び柱抜き取り痕であり、互層を呈しており、P2・P4・P5の最下層は締りが強い埋土である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	16	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
2	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量(締り弱)	17	褐色	ロームブロック少量(締り弱)
3	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量(締り弱)	18	褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子少量(締り弱)	19	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量(締り弱)	20	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量(締り弱)	21	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック微量(締り弱)	22	暗褐色	ロームブロック少量
8	黒褐色	ローム粒子少量(締り弱)	23	暗褐色	ロームブロック中量
9	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量(締り弱)	24	暗褐色	ロームブロック微量
10	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量(締り弱)	25	褐色	ロームブロック中量
11	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	26	暗褐色	ローム粒子多量
12	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	27	黒褐色	ロームブロック少量
13	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	28	暗褐色	ローム粒子中量、細礫微量
14	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	29	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
15	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	30	黒褐色	ロームブロック中量
			31	暗褐色	ローム中ブロック少量
			32	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
			33	暗褐色	ローム粒子中量(締り強)



第244图 第10号掘立柱建物跡·出土遺物実測図

34	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量	63	暗褐色	ローム粒子中量, ローム大ブロック微量
35	暗褐色	ローム粒子少量	64	暗褐色	ローム粒子中量
36	黒褐色	ローム粒子少量	65	褐色	ローム粒子多量 (締り強)
37	褐色	ローム中ブロック中量 (締り強)	66	褐色	ローム粒子多量 (締り弱)
38	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	67	暗褐色	ローム粒子中量 (締り弱)
39	黒褐色	ローム中ブロック微量	68	黒褐色	ローム中ブロック少量
40	黒褐色	ローム小ブロック中量 (締り強)	69	暗褐色	ローム小ブロック多量, ローム粒子中量
41	暗褐色	ローム粒子中量	70	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量 (締り弱)
42	暗褐色	ローム小ブロック微量	71	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
43	暗褐色	ローム小ブロック中量 (締り強)	72	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
44	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量	73	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
45	褐色	ローム小ブロック多量	74	褐色	ローム粒子中量
46	褐色	ローム粒子多量	75	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量 (締り弱)
47	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量	76	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
48	暗褐色	ローム小ブロック中量	77	暗褐色	ローム粒子少量
49	暗褐色	ローム小ブロック中量	78	暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
50	暗褐色	ローム小ブロック少量	79	黒褐色	ローム小ブロック少量
51	黒褐色	ローム小ブロック少量	80	暗褐色	ローム小ブロック中量
52	暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量	81	黒褐色	ローム粒子少量 (締り弱)
53	黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量	82	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
54	褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量	83	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
55	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	84	暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
56	暗褐色	ローム小ブロック・粘土小ブロック中量	85	褐色	ローム小ブロック多量
57	褐色	ローム小ブロック・粘土小ブロック少量	86	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
58	褐色	ローム小ブロック多量 (締り強)	87	黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
59	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量 (締り強)	88	黒褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量 (締り強)
60	褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量	89	褐色	ローム小ブロック多量, ローム粒子中量 (締り弱)
61	暗褐色	ローム粒子少量 (締り弱)	90	黒褐色	ローム粒子少量
62	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	91	黒褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

遺物出土状況 土師器片75点 (坏類12, 甕類63), 須恵器片22点 (坏類12, 甕1, 蓋2, 甕類7), 鉄製品2点 (不明) が出土している。518はP6の埋土, 519はP12の柱抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見 本跡は少なくとも1回の建て替への後に焼失しており, 「口の字状」に配置される建物群の中心的な建物である。主軸方向を同じくする建物は, 第29号掘立柱建物跡, 第30・34号掘立柱建物跡が北及び東部に配置され, 竪穴住居跡は第90号住居跡が中央部に, 第34・44号住居跡が建物群の東部に位置しており, いずれも9世紀前葉に比定されている。時期は, 主軸方向や出土土器から, 9世紀前葉に始まり9世紀中葉まで機能していたものと考えられる。

第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第244図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
518	須恵器	杯	13.6	3.0	8.0	長石・針状炭屑	にぶい褐	普通	底部一方向のヘラ削り	P6埋土	20%
519	土師器	高台付杯	-	(27)	7.0	長石	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り, 体内内面へつ磨き	P12抜き取り	20%

第11号掘立柱建物跡 (第245図)

位置 調査区南東部のE4b5区, 標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P5が第171号土坑及び第52号掘立柱建物跡, P8が第52号掘立柱建物跡をそれぞれ掘り込み, P1・P9・P10が第4号溝跡に掘り込まれている。

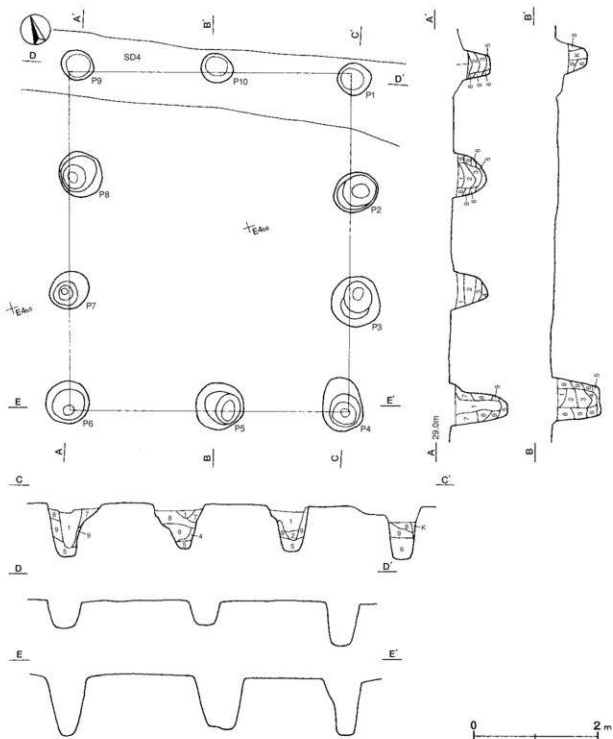
規模と構造 桁行3間, 梁行2間の細柱式建物跡で, 桁行方向がN-20°-Eの南北棟である。規模は桁行5.4m (18尺), 梁行4.5m (15尺) で, 柱間寸法は桁行が1.8m (6尺) を基調とし, 梁間が西間が2.4m (8尺), 東間が2.1m (7尺) である。

柱穴 平面形は楕円形及び円形で, 確認面からの深さは53~94cmほどである。第52号掘立柱建物跡と重複するP5・P8は掘り直しているためか掘方が大きく, 四隅の掘り方が深い。柱抜き取り痕は土層断面図中の1~5層が相当し, その他の層は埋土で締りが強く互層をなしている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量 | 7 黒褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片7点(甕類), 須恵器片5点(坏類2, 蓋2, 甕類1)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

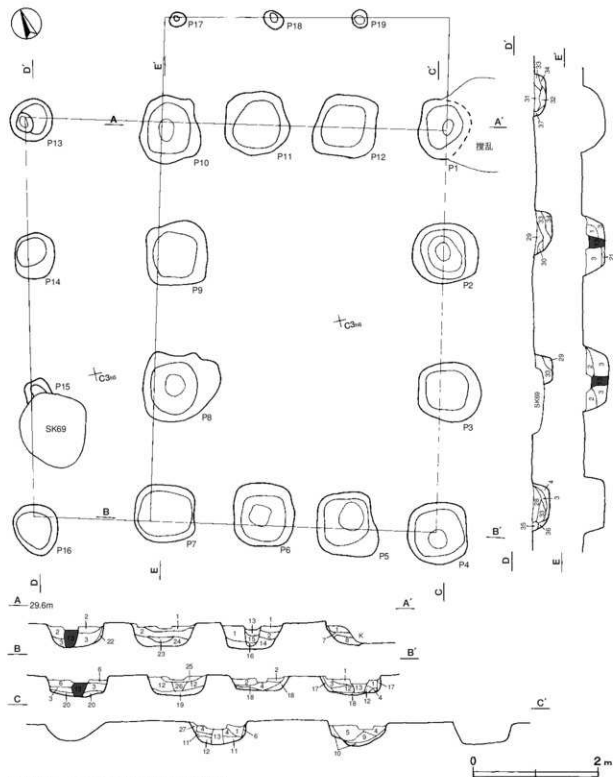


第245図 第11号掘立柱建物跡実測図

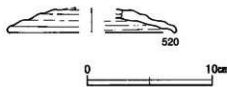
所見 本跡と主軸方向を同じくする竪穴住居跡は第36号住居跡があり、9世紀中葉に比定されており、第9・36号掘立柱建物跡とともに南東地区に展開する建物群を構成する建物で、同時期の集落に付随する「屋」と想定される。

第12号掘立柱建物跡 (第246・247図)

位置 調査区中央部のC3g5区、標高29mほどの台地上に位置している。



第246図 第12号掘立柱建物跡実測図



第247図 第12号掘立柱建物跡出土遺物実測図

重複関係 P15・P16が第95号住居跡をそれぞれ掘り込み、P15が第69号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行3間の身舎に北妻と西平に庇が付属する建物跡で、桁行方向がN-15°-Eの南北棟である。規模は桁行6.4m(21尺)、梁行4.5m(15尺)で、柱間寸法は桁行が2.1m(7尺)、梁間が1.5m(5尺)を基調とし、庇の出は北妻が1.8m(6尺)、西平が2.1m(7尺)で、東平の柱筋が第4号掘立柱建物跡の東庇に揃っている。

柱穴 平面形は楕円形及び隅丸方形で、確認面からの深さは24~44cmである。P7~P10は柱痕跡が認められ、土層断面図中の13層が相当し、2・3・6層は埋土で締りが強く版築状を呈している。他の柱材は抜き取られている。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	20	暗褐色	ローム大ブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック多量(締り強)	21	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量(締り強)	22	暗褐色	ローム中ブロック中量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	23	褐色	ローム粒子多量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量	24	暗褐色	ローム粒子多量(締り強)
6	暗褐色	ロームブロック中量(締り強)	25	暗褐色	ローム小ブロック多量
7	暗褐色	ローム粒子多量	26	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	27	褐色	ローム小ブロック多量
9	暗褐色	ロームブロック中量(締り強)	28	褐色	ロームブロック少量
10	暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量	29	褐色	ローム小ブロック中量(締り弱)
11	黒褐色	ローム粒子中量	30	褐色	ローム粒子多量、ロームブロック中量
12	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量(締り強)	31	暗褐色	ローム粒子少量、黒色粒子微量
13	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	32	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量
14	暗褐色	ロームブロック・粒子中量	33	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子・黒色粒子微量
15	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	34	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
16	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	35	褐色	ローム粒子中量(締り強)
17	褐色	ロームブロック多量	36	褐色	ローム粒子多量(締り強)
18	暗褐色	ローム小ブロック中量	37	褐色	ロームブロック中量
19	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量(締り弱)			

遺物出土状況 土師器片6点(甕類)、須恵器片2点(坏類)が出土している。520はP2の抜き取り痕から出土している。

所見 本跡は東桁行の柱筋を第4号掘立柱建物跡の東庇に揃えていることから、同時期に機能していた「屋」と推定される。

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第247図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
520	須恵器	甕	132	139	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転へ倒傾り	P2抜き取り	10%

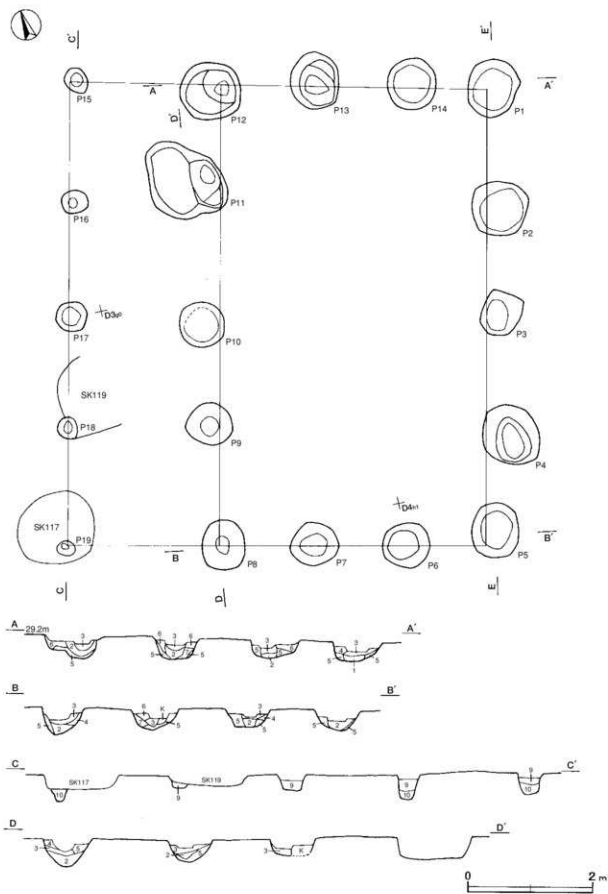
第15号掘立柱建物跡(第248・249図)

位置 調査区中央部のD3 f0区、標高29mほどの台地上に位置している。

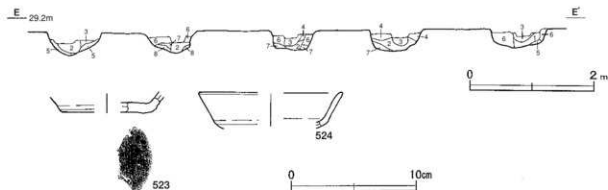
重複関係 P3・P11が第35号掘立柱建物跡のP3・P7を、P7~P10が第99号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。また、P19が第117号土坑に、P18が第119号土坑にそれぞれ掘り込まれている。第118号土坑とも重複しているが、掘り込みが重なっていないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行3間の身舎に西庇が付く建物跡で、桁行方向がN-12°-Eの南北棟である。規模は桁行7.3m(24尺)、梁行4.3m(14尺)で、柱間寸法は桁行が1.8m(6尺)、梁間が1.5m(5尺)を基調とし、庇の出は2.4m(8尺)である。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは26~43cmである。柱痕跡は認められず、いずれも柱抜き取り痕である。



第248图 第15号掘立柱建物跡実測图



第249図 第15号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量，炭化物・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量，焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量，白色粒子少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片3点(甕類)，須恵器片1点(坏類)が出土している。523はP8，524はP9の抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見 本跡は，第88号住居跡を挟んで西に対峙する第3号掘立柱建物跡と南妻の柱筋を通しており，「口の字状」に配置された建物群を構成する建物であるが，性格は明確ではない。

第15号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第249図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
523	須恵器	坏	-	(1.6)	(7.0)	長石・針状鉱物	灰白	普通	底部一方向のヘラ削り	P8抜き取り	5%
524	須恵器	高台付坏	11.4	(28)	-	長石・石英	褐色	普通	体部下端ヘラ削り	P9抜き取り	10%

第13号掘立柱建物跡(第250図)

位置 調査区中央部のD4j2区，標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P1・P12の間が第2号陥し穴と重複し，P4～P6が第43号住居跡をそれぞれ掘り込み，P10が第4号溝跡に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間，梁行3間の欄柱式建物跡で，桁行方向がN-17°-Eの南北棟である。規模は桁行6.3m(21尺)，梁行5.5m(18尺)で，柱間寸法は，桁行が2.1m(7尺)で，梁間が1.8m(6尺)を基調としている。

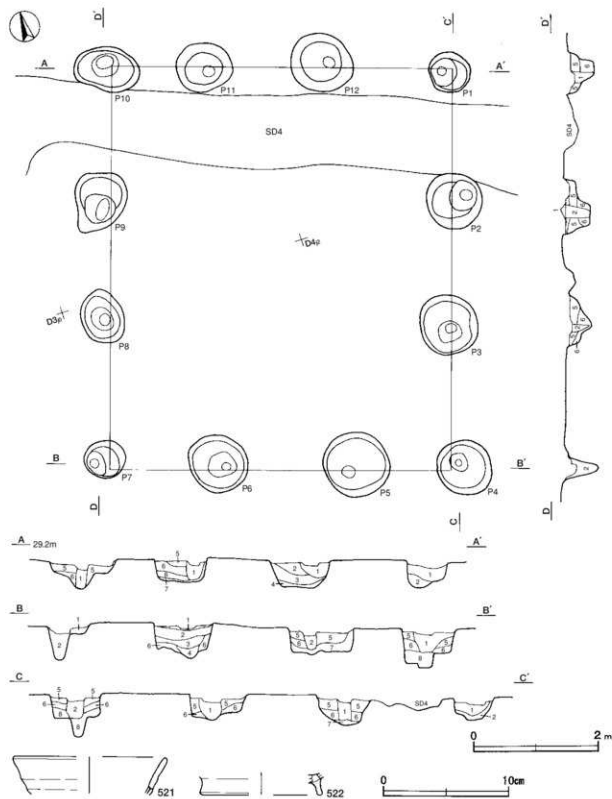
柱穴 平面形は楕円形及び円形で，確認面からの深さは35～68cmである。柱抜き取り痕は土層断面図中の1～4層が相当し，その他の層は埋土で強く突き固められ互層をなしている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量，焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック多量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片17点(甕類)，須恵器片8点(坏類)が出土している。521はP12，522はP6の抜き取り痕から出土している。

所見 本跡は、南2mに位置している第1号井戸跡と関連の深い建物と思われる、桁行方向が「ロの字状」に配置される建物群の第2・3号掘立柱建物跡等と同じである。出土土器から9世紀中葉に機能を停止したものと考えられる。



第250図 第13号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第13号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
S21	須恵器	環	[122]	(3.0)	-	長石・針状磁物	灰黄褐	普通	体部内・外面クロナゲ	P12抜き取り	3%
S22	須恵器	高台付杯	-	(1.7)	[97]	長石	灰	普通	底部高台彫り付け後、ナゲ	P 6抜き取り	3%

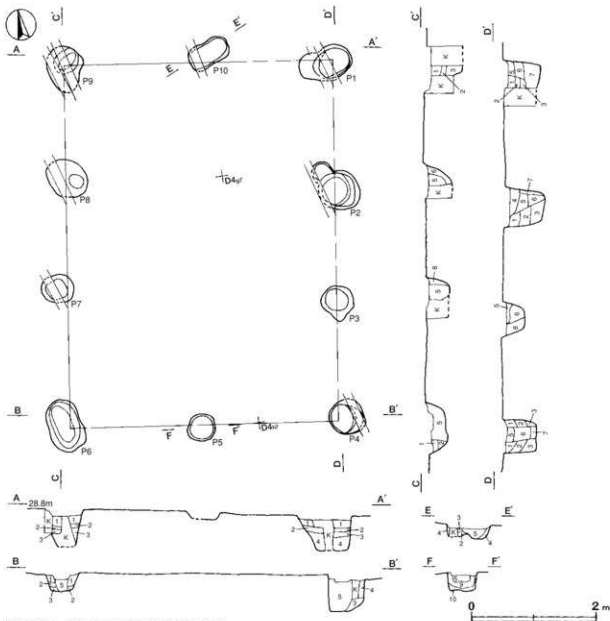
第14号掘立柱建物跡 (第251図)

位置 調査区中央部のD 4 g6区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第95号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の細柱式建物跡で、桁行方向が $N-10^{\circ}-E$ の南北棟である。規模は桁行5.8m (18尺)、梁行4.2m (14尺)で、柱間寸法は桁行が1.8m (6尺)、梁間が2.1m (7尺)を基調としており、柱筋は通っている。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは30~59cmほどである。柱抜き取り痕は土層断面図中の5~8層が相当し、その他の層は埋土で締りが強く互層をなしている。



第251図 第14号掘立柱建物跡実測図

土層解説

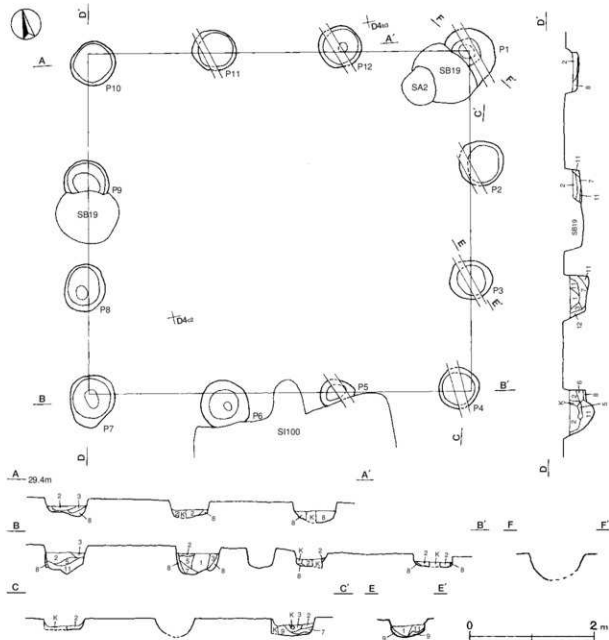
1 黒 褐 色	ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量	6 暗 褐 色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
2 黒 褐 色	ロームブロック中量	7 暗 褐 色	ローム粒子中量
3 暗 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	8 暗 褐 色	ロームブロック中量
4 暗 褐 色	ロームブロック多量	9 黒 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
5 黒 褐 色	ローム粒子中量	10 黒 褐 色	ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片3点(莞類), 須恵器片1点(坏類)が出土しているが, いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡は, 「口の字状」に配置された建物群の東部に位置しているが, 桁行方向が第10号掘立柱建物跡と直交している。また, 主軸方向を同じくする第34・44号住居跡が付近に位置し, いずれも9世紀前葉に比定されており, 同時期の集落に付随する「屋」と想定される。

第16号掘立柱建物跡 (第252・253図)

位置 調査区中央部のD4b2区, 標高29mほどの台地上に位置している。



第252図 第16号掘立柱建物跡実測図

重複関係 P1・P9が第19号掘立柱建物跡のP2・P6に、P5・P6が第100号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。また、第30号掘立柱建物跡が南平と重複し、第100号住居跡との関係から本跡が古く、第2号欄跡、第183号土坑は掘り込みが重なっていないため新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行3間の欄柱式建物跡で、桁行方向がN-78°-Wの東西棟である。規模は桁行6.0m(20尺)、梁行5.4m(18尺)で、柱間寸法は桁行、梁間ともに1.8m(6尺)を基調としている。

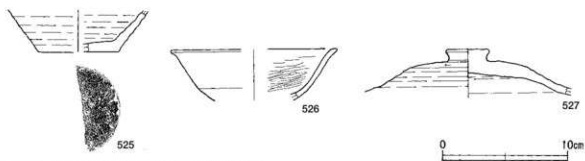
柱穴 平面形は楕円形及び円形で、確認面からの深さは18~48cmである。いずれも埋土は認められず、柱抜き取り痕である。また、P6~8の柱掘り方底面の柱のあたりから推定される柱径は20cm前後である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	7	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	8	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	9	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
4	暗褐色	ローム粒子少量	10	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	11	暗褐色	ローム粒子多量
6	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	12	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片14点(坏類2、甕類12)、須恵器片13点(坏類9、蓋2、甕類2)が出土している。525・526はP5、527はP6の抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見 本跡と主軸方向を同じくする竪穴住居跡は第15・22号住居跡があり、いずれのもの9世紀前葉に比定されている。また、北4mに位置する第23号掘立柱建物跡と桁行方向が同じことから同時期に存在した可能性があり、時期は9世紀中葉の第100号住居跡に掘り込まれていることから、機能していた期間は短いと考えられる。



第253図 第16号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第16号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第253図)

番号	種別	器種	11径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
525	須恵器	坏	-	(3.4)	(6.6)	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	P5抜き取り	20%
526	土師器	高台付坏	(13.2)	(4.0)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面下端ヘラ削り	P5抜き取り	10%
527	須恵器	蓋	-	(3.7)	-	長石・石英	黒灰	普通	天井部回転ヘラ削り	P6抜き取り	30%

第17号掘立柱建物跡(第254図)

位置 調査区中央部のD4e1区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P2が第18号掘立柱建物跡のP12を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行1間、梁行1間の欄柱式建物跡で、桁行方向がN-85°-Eの南北棟である。規模は桁行2.1m(7尺)、梁行1.8m(6尺)である。

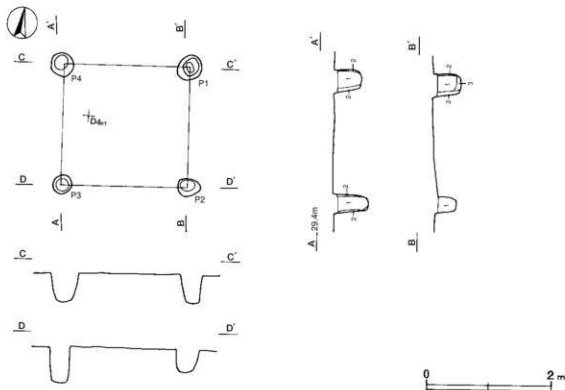
柱穴 平面形はいずれも円形で、確認面からの深さは30~60cmである。いずれも柱抜き取り痕である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量	3	褐色	ロームブロック多量
2	褐色	ローム粒子多量			

遺物出土状況 出土物はない。

所見 「ロの字状」に配置された掘立柱建物跡群を構成する建物であるが、性格は不明である。



第254図 第17号掘立柱建物跡実測図

第20号掘立柱建物跡 (第255図)

位置 調査区中央部のC4h3区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P6が第181号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の榦柱式建物跡で、桁行方向がN-72°-Wの東西棟である。規模は桁行6.3m (21尺)、梁行4.2m (14尺)で、柱間寸法は桁行、梁間ともに2.1m (7尺)であり、梁行の柱筋は通っている。

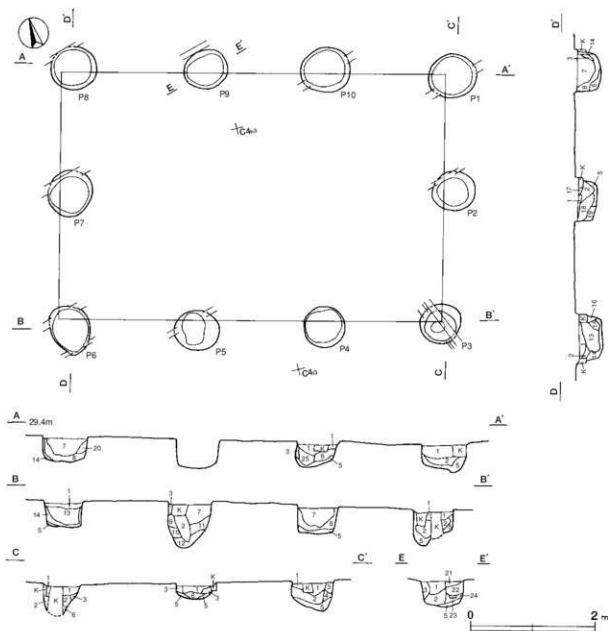
柱穴 平面形は楕円形及び円形で、確認面からの深さは24~80cmである。柱痕跡は認められず、柱は抜き取られている。桁行榦柱の掘り方底面は、P5を除いてほぼ同じレベルであるが、梁間中央は、東西ともに両隣の底面より8~20cm浅い。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	14	暗褐色	ローム粒子多量
2	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	15	黒褐色	ローム粒子多量
3	褐色	ロームブロック中量 (締り弱)	16	暗褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	ローム粒子中量	17	黒褐色	ローム粒子中量
5	褐色	ロームブロック中量	18	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
6	褐色	ロームブロック多量	19	褐色	ローム粒子多量
7	黒褐色	ローム粒子微量	20	暗褐色	ローム粒子多量、炭化物微量
8	黒褐色	ロームブロック少量 (締り弱)	21	黒褐色	ロームブロック微量
9	黒褐色	ロームブロック微量 (締り弱)	22	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
10	黒褐色	ローム粒子少量	23	褐色	ロームブロック多量 (締り弱)
11	黒褐色	ロームブロック少量	24	黒褐色	ローム粒子中量 (締り弱)
12	暗褐色	ロームブロック中量	25	暗褐色	ローム粒子少量
13	暗褐色	ロームブロック微量			

遺物出土状況 土師器片9点 (坏類3, 甕類6), 須恵器片3点 (坏類2, 甕類1)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡は、建物群北辺の「倉」列と桁行方向を同じくする、「口の字状」に配置された建物群を構成する建物であり、第18・19号掘立柱建物跡と共に9世紀前葉から中葉にかけて機能していたものと考えられる。



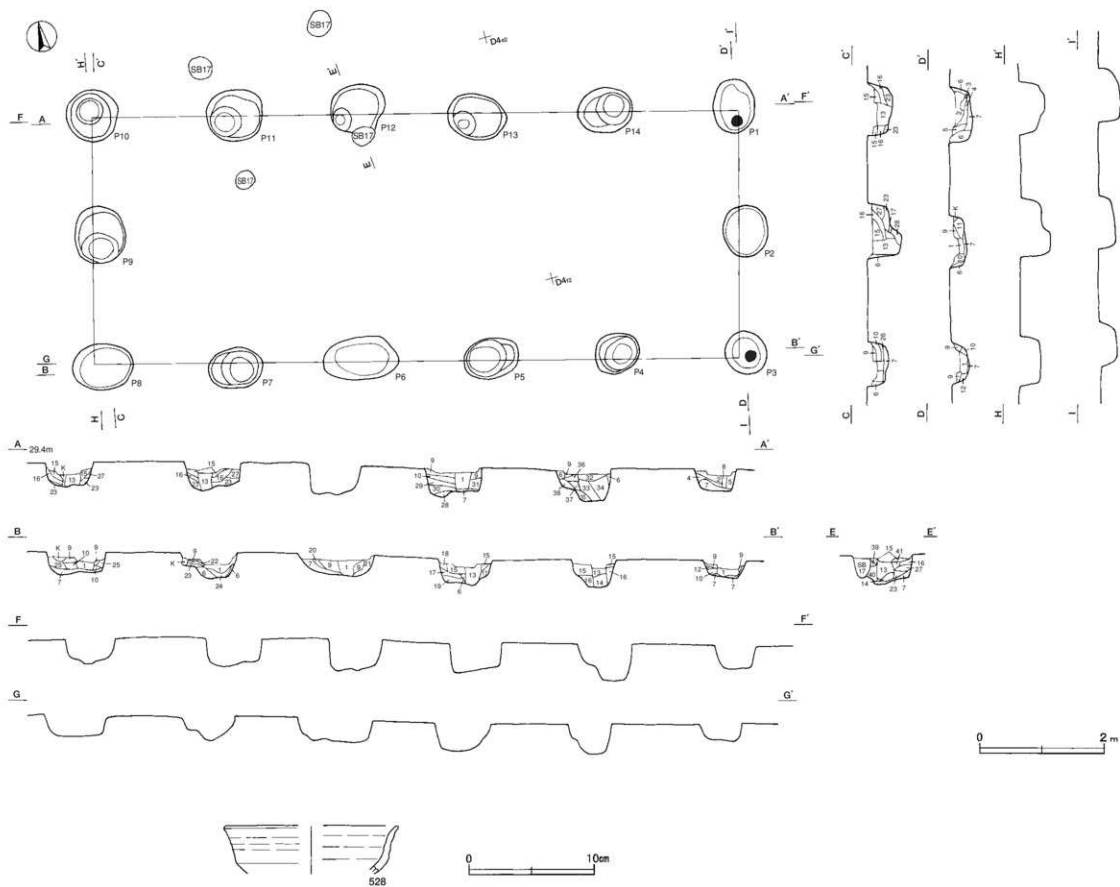
第255図 第20号掘立柱建物跡実測図

第18号掘立柱建物跡 (第256図)

位置 調査区中央部のD4e1区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P6が第35号掘立柱建物跡のP10を掘り込み、P12が第17号掘立柱建物跡のP2に掘り込まれている。また、第149・150号土坑と重複しているが、掘り込みが重なっていないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行5間、梁行2間の個性式建物跡で、桁行方向がN-75°-Wの東西棟である。規模は桁行10.5m (35尺)、梁行3.9m (13尺)で、柱間寸法は桁行が2.1m (7尺)、梁間が2.1m (7尺)であり、柱筋は通っている。



第256图 第18号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは28～55cmである。柱抜き取り痕は土層断面図中の1層及び13層が相当し、その他の層は埋土であるが締りは弱く、顕著な突き固め等はみられない。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	22	黒褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量	23	暗褐色	ローム粒子中量(締り弱)
3	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量	24	暗褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子多量(締り弱)	25	暗褐色	ロームブロック多量(締り弱)
5	暗褐色	ローム粒子微量	26	暗褐色	ロームブロック少量
6	暗褐色	ロームブロック多量(締り弱)	27	暗褐色	ロームブロック中量
7	暗褐色	ロームブロック多量	28	暗褐色	ローム粒子中量
8	黒褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	29	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
9	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	30	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
10	褐色	ローム粒子中量	31	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量
11	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	32	褐色	ロームブロック中量
12	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	33	褐色	ロームブロック少量
13	黒褐色	ローム粒子中量	34	暗褐色	ロームブロック少量(締り弱)
14	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	35	暗褐色	ロームブロック中量(締り弱)
15	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	36	褐色	ロームブロック中量(締り弱)
16	褐色	ローム粒子多量	37	暗褐色	ローム粒子多量
17	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック微量	38	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量(締り弱)
18	暗褐色	ローム粒子少量	39	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
19	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	40	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物粒子微量
20	褐色	ロームブロック少量	41	褐色	ロームブロック中量、炭化物粒子微量
21	黒褐色	ローム粒子少量、炭化物粒子微量			

遺物出土状況 土師器片21点(坏類2, 堯類19), 須恵器片14点(坏類11, 蓋1, 堯類2)が出土している。528はP11の抜き取り痕から出土している。

所見 本跡は、「口の字状」に配置された建物群の西辺の建物に桁行方向を直交させ、第88号竪穴住居跡と主軸方向を同じくしている。時期は、出土土器から9世紀中葉に機能を停止したものと考えられる。

第18号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第256図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
528	須恵器	高台付杯	13.6	(3.8)	—	長石-針状炭物	灰	普通	体部内・外面クロコナテ	P11抜き取り	10%

第21号掘立柱建物跡(第257図)

位置 調査区中央部のC4e4区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P1が第22号掘立柱建物跡のP12を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱式建物跡で、桁行方向がN-72°-Wの東西棟である。規模は桁行4.5m(15尺)、梁行3.6m(12尺)で、柱間寸法は桁行が2.2m(7.5尺)、梁間が1.8m(6尺)を基調としている。柱筋は通っており、西妻を第21号掘立柱建物跡の東妻に揃えている。

柱穴 平面形は楕円形で、確認面からの深さは28～56cmである。柱材は抜き取られ、掘り方底面に明瞭なあたりが確認され、推定される柱の太さは20cm前後である。

土層解説

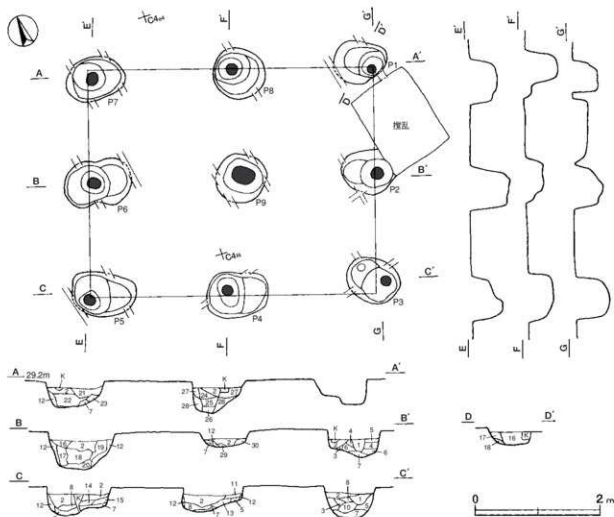
1	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	14	褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ローム粒子少量	15	褐色	ローム粒子中量(締り強)
3	褐色	ローム粒子中量	16	暗褐色	ローム粒子多量
4	黒褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量	17	暗褐色	ロームブロック微量
5	褐色	ローム粒子多量	18	黒褐色	ロームブロック少量
6	暗褐色	ローム粒子少量	19	褐色	ロームブロック中量(締り弱)
7	暗褐色	ローム粒子中量	20	黒褐色	ロームブロック中量
8	黒褐色	ローム粒子中量(締り強)	21	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
9	黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量	22	暗褐色	ローム粒子中量(締り弱)
10	暗褐色	ロームブロック少量	23	暗褐色	ロームブロック多量(締り強)
11	暗褐色	ロームブロック中量(締り強)	24	暗褐色	ローム粒子微量
12	褐色	ロームブロック中量	25	暗褐色	ローム粒子少量(締り弱)
13	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	26	暗褐色	ローム粒子多量(締り弱)

27 暗褐色 ロームブロック中量
28 褐色 ロームブロック多量 (締り弱)

29 暗褐色 ロームブロック微量 (締り強)
30 褐色 ローム粒子多量 (締り強)

遺物出土状況 土師器片4点(堯類), 須恵器片7点(坏類)が出土しているが, いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡は, 「口の字状」に配置された建物群の北辺の倉庫列を構成する建物で, 規模は小型ながら柱痕跡は加重を受けており, 「倉」と考えられる。



第257図 第21号掘立柱建物跡実測図

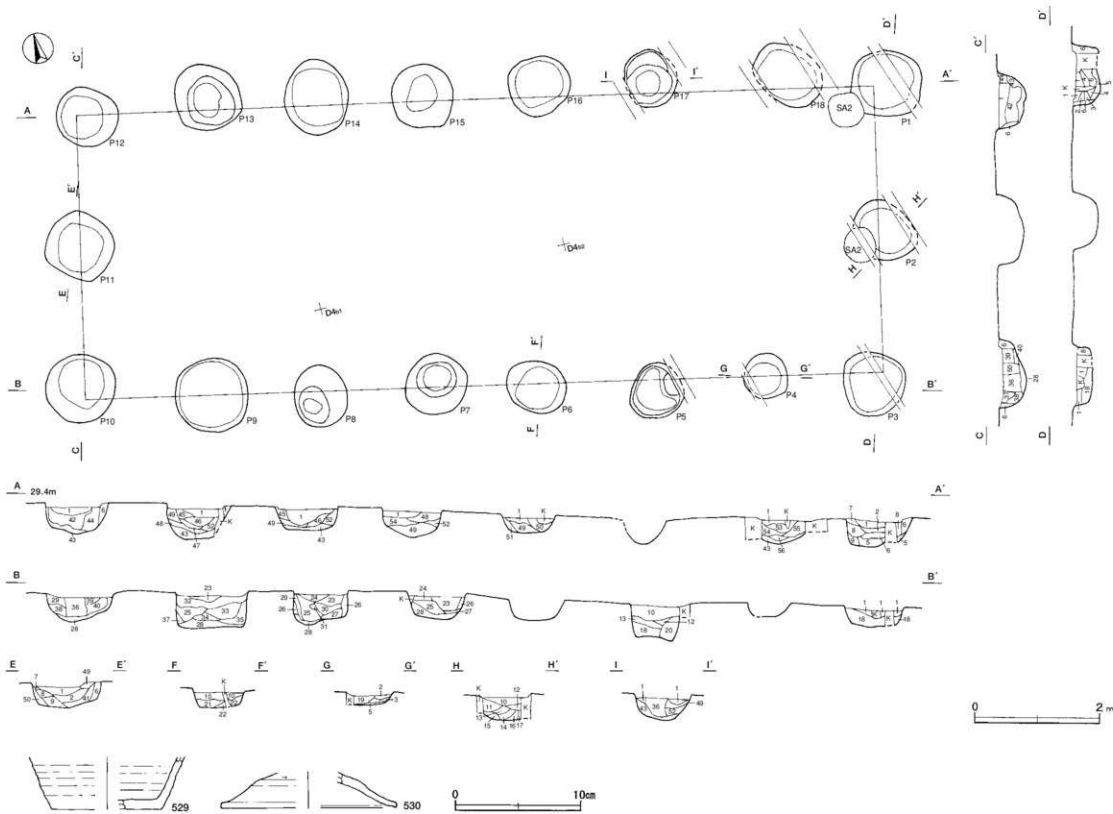
第19号掘立柱建物跡 (第258図)

位置 調査区中央部のD 3 a0区, 標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P 2が第16号掘立柱建物跡のP 1を, P 5が第183号土坑, P 14が第141号土坑をそれぞれ掘り込み, P 1・P 2が第2号櫓にそれぞれ掘り込まれている。

規模と構造 桁行7間, 梁行2間の側柱式建物跡で, 桁行方向がN-78°-Wの東西棟である。規模は桁行12.6m (42尺), 梁行4.8m (16尺)で, 柱間寸法は桁行が1.8m (6尺), 梁間が2.4m (8尺)である。

柱穴 平面形は楕円形及び円形で, 確認面からの深さは28~58cmほどである。柱痕跡や締りのある埋土は確認されておらず, 柱材はすべて抜き取られている。



第258图 第19号掘立柱建物跡·出土遺物実測図

土層解説					
1	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量	29	黒褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量	30	褐色	ロームブロック多量
3	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	31	黒褐色	ロームブロック微量(締り強)
4	暗褐色	ローム粒子中量(締り弱)	32	黒褐色	ロームブロック中量
5	褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子微量	33	暗褐色	ロームブロック多量(締り弱)
6	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量	34	黒褐色	ローム粒子少量
7	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量	35	黒褐色	ローム粒子中量
8	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	36	暗褐色	ロームブロック中量
9	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量	37	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
10	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	38	黒褐色	ロームブロック微量
11	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量	39	暗褐色	ロームブロック多量(締り強)
12	黒褐色	ロームブロック多量, 炭化物・焼土粒子微量	40	褐色	ローム粒子多量(締り弱)
14	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	41	黒褐色	ロームブロック多量
15	褐色	ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化物微量	42	褐色	ロームブロック中量(締り弱)
16	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	43	褐色	ロームブロック中量(締り強)
17	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量	44	暗褐色	ローム粒子多量
18	褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量	45	暗褐色	ロームブロック中量(締り弱)
19	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量	46	暗褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子微量
20	褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子微量	47	褐色	ロームブロック多量(締り強)
21	褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	48	黒褐色	ローム粒子中量, ロームブロック少量
22	褐色	ローム粒子多量	49	褐色	ロームブロック少量
23	暗褐色	ローム粒子中量	50	褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
24	黒褐色	ローム粒子微量	51	暗褐色	ロームブロック少量(締り弱)
25	暗褐色	ロームブロック少量	52	暗褐色	ローム粒子多量, 焼土ブロック微量
26	褐色	ロームブロック中量	53	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量
27	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	54	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
28	暗褐色	ロームブロック多量	55	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
			56	黒褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片23点(坏類5, 甕類18), 須恵器片16点(坏類7, 蓋1, 甕類8)が出土している。

530はP1の抜き取り痕, 529はP11の埋土からそれぞれ出土している。

所見 本跡と桁行方向を同じくする建物は, 北11mに第20号掘立柱建物跡, 南11mに第18号掘立柱建物跡が位置しており, いずれも東西棟で9世紀中葉に機能を停止している。時期は, 第16号掘立柱建物跡との重複関係や出土土器から9世紀前葉から中葉にかけての一時に機能していたと考えられ, 「口の字状」に配置された建物群を構成する建物である。

第19号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第258図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
529	須恵器	坏	-	(42)	(88)	長石・石英	灰	普通	底部回転へつ切り機, ナデ	P1埋土	10%
530	須恵器	蓋	(140)	(28)	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転へつ削り	P1抜き取り	10%

第22号掘立柱建物跡(第259図)

位置 調査区中央部のC4e4区, 標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P12が第21号掘立柱建物跡のP1に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間, 梁行3間の細柱式建物跡で, 桁行方向がN-15°-Eの南北棟である。規模は桁行5.4m(18尺), 梁行4.8m(16尺)で, 柱間寸法は桁行が1.8m(6尺), 梁間が西間が1.8m(6尺)で, 他は1.5m(5尺)である。

柱穴 平面形は楕円形及び円形で, 確認面からの深さは12~62cmである。柱材は抜き取られ, 柱痕跡は認められない。

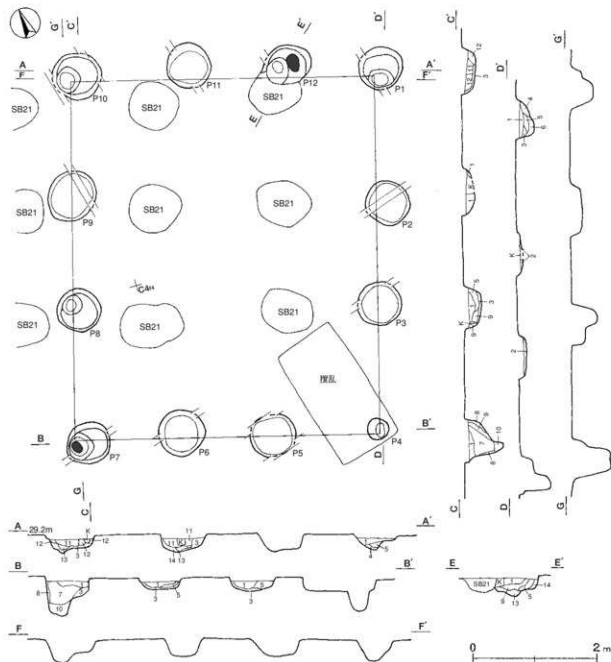
土層解説					
1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量	8	褐色	ロームブロック少量
3	褐色	ローム粒子多量	9	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
4	褐色	ロームブロック中量	10	褐色	ロームブロック少量(締り弱)
5	暗褐色	ローム粒子中量	11	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量			

12 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
 13 暗褐色 ロームブロック中量

14 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

遺物出土状況 土師器片2点(甕類)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡は, 重複する第21号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ同じであり, 柱筋を描える倉庫列の前段階の建物であると考えられる。



第259図 第22号掘立柱建物跡実測図

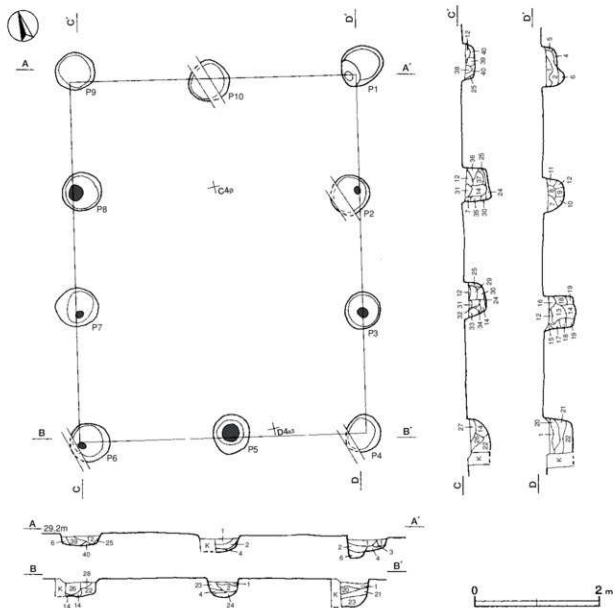
第23号掘立柱建物跡 (第260図)

位置 調査区中央部のC4j3区, 標高29mほどの台地上に位置している。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱式建物跡で, 桁行方向が $N-12^{\circ}-E$ の南北棟である。規模は桁行5.7m (19尺), 梁行4.5m (15尺)で, 柱間寸法は桁行の南間が2.1m (7尺)で, 他は1.8m (6尺), 北妻は東間

が2.1m（7尺）西間が2.4m（8尺）である。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは19～50cmである。柱抜き取り痕は土層断面図中の12・13層が相当し、P3では15～19層が締りが強く互層に突き固めて版築状を呈している。P2・P3及びP5～8の掘り方底面からはあたりが確認され、推定される柱の太さは15～25cmである。



第260図 第23号掘立柱建物跡実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、重沼/バミスブロック微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 17 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | 18 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量（締り強） | 19 黒褐色 | ロームブロック多量（締り強） |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量 | 20 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 21 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック少量（締り弱） | 22 褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック微量 |
| 10 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 23 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 11 暗褐色 | ロームブロック微量 | 24 暗褐色 | ロームブロック少量（締り強） |
| 12 暗褐色 | ロームブロック中量（締り弱） | 25 褐色 | ローム粒子多量 |
| 13 黒褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子微量 | 26 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| | | 27 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |

28	黒褐色	ロームブロック微量	35	暗褐色	ロームブロック中量
29	黒褐色	ロームブロック少量	36	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
30	暗褐色	ローム粒子多量	37	暗褐色	ローム粒子多量(細り強)
31	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量	38	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
32	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	39	暗褐色	ロームブロック少量
33	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	40	暗褐色	ローム粒子中量
34	黒褐色	ローム粒子微量			

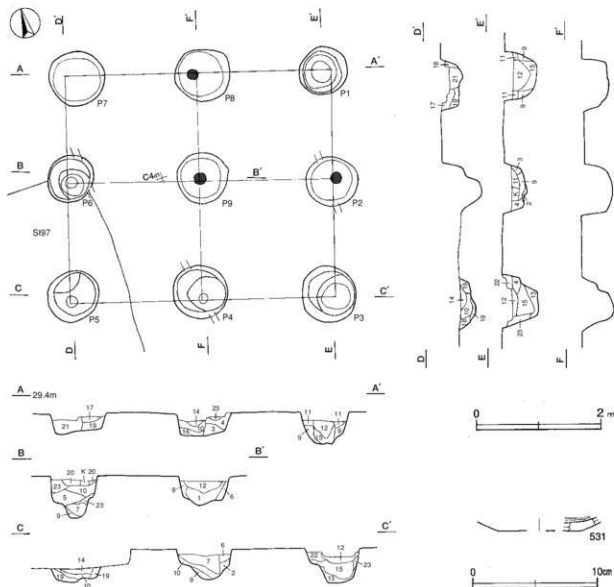
遺物出土状況 土師器片4点(甕類), 須恵器片1点(坏類)が出土しているが, いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡と主軸方向が同じ竪穴住居跡は, 第3・15・22号住居跡があり, いずれも9世紀前葉に比定されている。また, 桁行方向が同じ建物跡は第16号掘立柱建物跡が南4mにあり, 同時期に「屋」として機能していたものと思われる。

第24号掘立柱建物跡 (第261図)

位置 調査区中央部のC4e2区, 標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P5・P6が第97号住居跡を掘り込んでいる。



第261図 第24号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱式建物跡で、桁行方向がN-73°-Wの東西棟である。規模は桁行4.2m（14尺）、梁行3.6m（12尺）で、柱間寸法は桁行が2.1m（7尺）、梁間が1.8m（6尺）を基調としている。南の桁行を第21・25号掘立柱建物跡に揃えて柱筋は通っている。

柱穴 平面形はいずれも円形で、確認面からの深さは29～68cmである。柱抜き取り痕は土層断面図中の12・14・15・21層が相当し、その他の層も締りが弱く、柱材は抜き取られている。また、P2・P8・P9の掘方底面には明瞭なあたりが確認され、推定される柱の太さは20cm前後である。

土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	黒	褐	色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
2	黒	褐	色	ロームブロック少量	14	黒	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒	褐	色	ロームブロック多量	15	黒	褐	色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
4	黒	褐	色	ローム粒子多量	16	暗	褐	色	ロームブロック少量
5	黒	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	17	暗	褐	色	ロームブロック多量、焼土粒子微量
6	黒	褐	色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	18	暗	褐	色	ロームブロック中量、炭化物微量
7	黒	褐	色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量	19	暗	褐	色	ロームブロック多量
8	黒	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	20	暗	褐	色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量
9	黒	褐	色	ロームブロック中量	21	暗	褐	色	ローム粒子多量、炭化物少量
10	黒	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	22	暗	褐	色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
11	暗	褐	色	ローム粒子多量	23	暗	褐	色	ロームブロック中量
12	黒	褐	色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量					

遺物出土状況 須恵器片3点（環類、蓋、甕類）が出土している。531はP3の抜き取り痕から出土している。

所見 本跡は、「口の字状」に配置された建物群の北辺の倉庫列を構成する建物で、規模は小型ながら柱痕跡は加重を受けており、「倉」と考えられる。

第24号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第261図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
531	土師器	杯	-	(1.1)	(6.6)	長石石英	浅黄橙	普通	体部内面へつ磨き、底部跡輪へつ磨削	P3抜き取り	10%

第25号掘立柱建物跡（第262図）

位置 調査区中央部のC3d3区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P3が第97号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱式建物跡で、桁行方向がN-73°-Wの東西棟である。規模は桁行3.9m（13尺）、梁行3.3m（11尺）で、柱間寸法は桁行が1.95m（6.5尺）、梁間が1.65m（5.5尺）を基調としている。南の桁行を第24・25号掘立柱建物跡に揃えて柱筋は通っている。

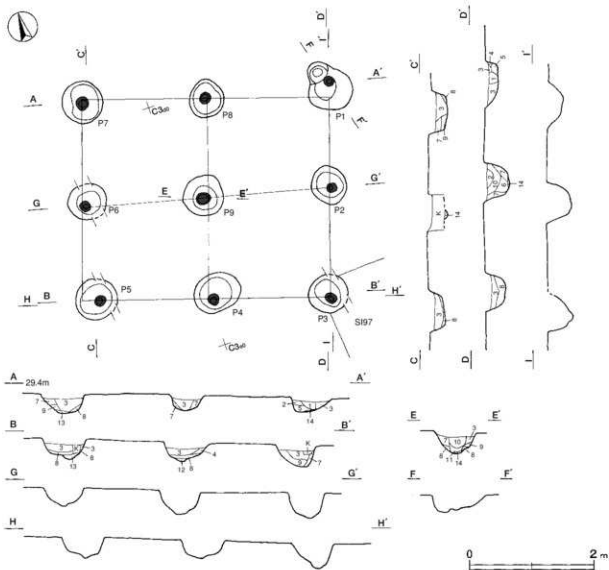
柱穴 平面形は楕円形及び円形で、確認面からの深さは21～42cmである。柱はすべて抜き取られているが、掘り方底面からあたりが確認され、推定される柱の太さは20cm前後である。

土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック少量、炭化物微量	8	暗	褐	色	ローム小ブロック中量
2	黒	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	9	黒	褐	色	ローム粒子中量
3	暗	褐	色	ロームブロック中量（締り強）	10	黒	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐	色		ロームブロック多量	11	暗	褐	色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量
5	褐	色		ローム粒子多量	12	暗	褐	色	ロームブロック少量
6	暗	褐	色	ロームブロック中量	13	暗	褐	色	ロームブロック中量（締り強）
7	褐	色		ロームブロック中量	14	褐	色		ローム粒子多量、粘土ブロック中量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は、「口の字状」に配置された建物群の北辺の倉庫列を構成する建物で、規模は小型ながら柱痕跡は加重を受けており、「倉」と考えられる。



第262図 第25号掘立柱建物跡実測図

第26号掘立柱建物跡 (第263図)

位置 調査区中央部のC 3 c7区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第28号掘立柱建物跡と重複しているが、掘り込みが重なっていないため新旧関係は明確ではない。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱式建物跡で、桁行方向がN-75°-Wの南北棟である。規模は桁行4.5m (15尺)、梁行4.2m (14尺)で、柱間寸法は桁行が2.25m (7.5尺)、梁間が2.1m (7尺)を基調としている。南の桁行を第27号掘立柱建物跡に揃えて柱筋は通っている。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは20~40cmである。柱はすべて抜き取られており、P 5・P 6は掘り方底面まで達する抜き取り痕である。また、P 5・P 6を除いた掘り方底面からあたりが確認され、推定される柱の太さは20~30cmである。

土層解説

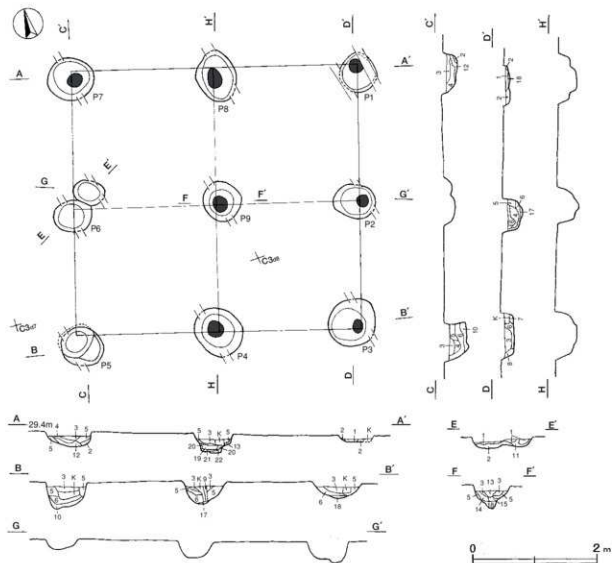
- | | | | |
|-------|------------------|--------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 (締り強) | 8 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 (締り強) |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 (締り弱) | 12 暗褐色 | ロームブロック微量 (締り強) |
| 6 褐色 | ロームブロック中量 | 13 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 褐色 | ロームブロック多量 (締り強) | 14 黒褐色 | ローム粒子少量 (締り弱) |

- 15 褐色 ローム粒子多量(締り弱)
 16 暗褐色 ロームブロック中量(締り弱)
 17 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量
 18 褐色 ローム粒子多量(締り強)

- 19 黒褐色 ローム粒子中量
 20 黒褐色 ロームブロック微量(締り強)
 21 黒褐色 ローム粒子少量(締り強)
 22 褐色 ローム粒子多量, ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片3点(甕類), 須恵器片4点(坏類1, 蓋1, 甕類2)が出土しているが, いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡と西に並ぶ第27号掘立柱建物跡は, 東側に並ぶ第21・24・25号掘立柱建物跡より柱間寸法が約1尺長く, 桁行の柱筋がずれることから, 創建に時期差があるものと思われるが, 「ロの字状」に配置された建物群を構成する建物として同時期に, 規模は小型ながら柱痕跡は加重を受けており, 「倉」として機能していたものと考えられる。



第263図 第26号掘立柱建物跡実測図

第27号掘立柱建物跡 (第264図)

位置 調査区中央部のC 3 c6区, 標高29mほどの台地上に位置している。

規模と構造 桁行2間, 梁行2間の総柱式建物跡で, 桁行方向がN-73°-Wの東西棟である。規模は桁行4.5m (15尺), 梁行3.9m (13尺)で, 柱間寸法は桁行が2.25m (7.5尺), 梁間が1.95m (6.5尺)を基調としている。

南の桁行を第26号掘立柱建物跡に揃えて柱筋は通っている。

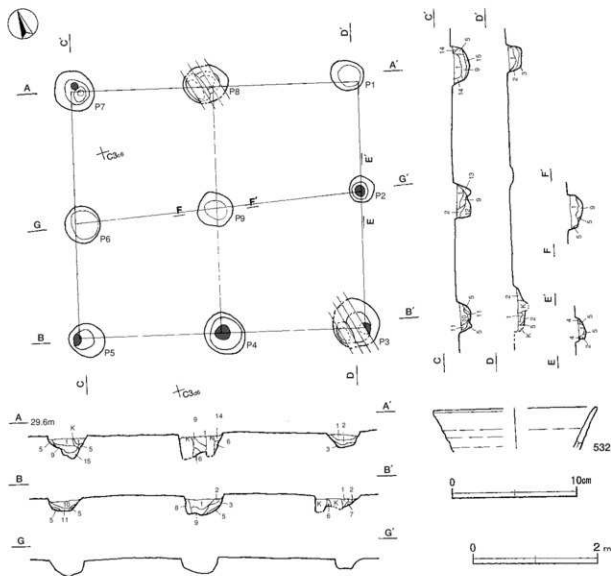
柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは20~40cmである。柱はすべて抜き取られている。また、P2~P5及びP7の掘り方底面からあたりが確認され、推定される柱の直径は20~25cmである。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	10 黒褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック多量	11 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック中量	12 褐色	ロームブロック多量(締り前)
5 褐色	ローム粒子多量	13 褐色	ロームブロック中量(締り強)
6 褐色	ローム粒子中量	14 暗褐色	ローム粒子多量
7 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	15 暗褐色	ローム小ブロック中量
8 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	16 褐色	ロームブロック中量(締り前)

遺物出土状況 土師器片6点(甕類)、須恵器片4点(坏類2、甕類2)が出土している。532はP4の抜き取り痕から出土している。

所見 本跡と東に並ぶ第26号掘立柱建物跡は、東側に並ぶ第21・24・25号掘立柱建物跡より柱間寸法が約1尺長く、桁行の柱筋がずれることから、創建に時期差があるものと思われるが、「口の字状」に配置された建物群を構成する建物として同時期に存在したと考えられ、規模は小型ながら柱痕跡は加重を受けているため、「倉」として機能していたものと考えられる。



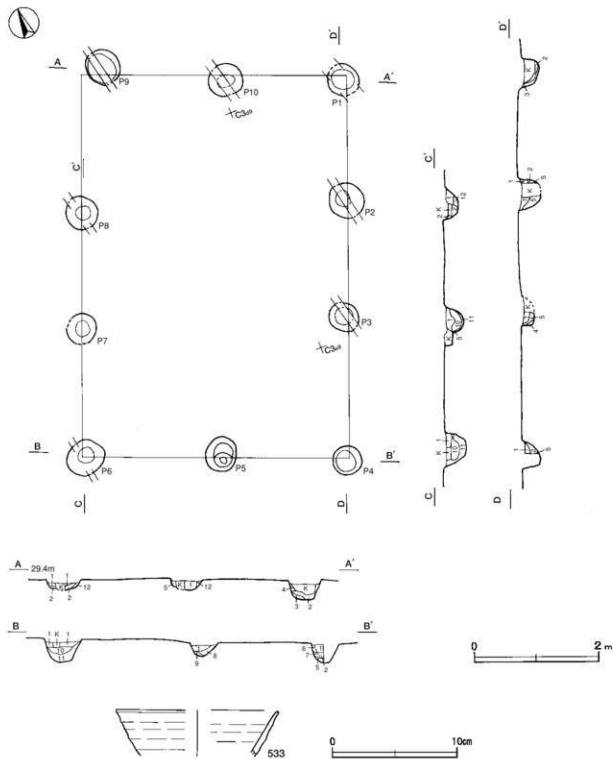
第264図 第27号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第27号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第264図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
S32	須恵器	坏	〔13.0〕	(3.4)	-	長石・石英・針状鉱物	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	P4抜き取り	10%

第28号掘立柱建物跡 (第265図)

位置 調査区中央部のC3d8区、標高29mほどの台地上に位置している。



第265図 第28号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第26号掘立柱建物跡及び、第124号土坑と重複しているが、掘り込みが重なっていないため、新旧関係は明確ではない。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の欄柱式建物跡で、桁行方向がN-21°-Eの南北棟である。規模は桁行6.0m(20尺)、梁行4.2m(14尺)で、柱間寸法は桁行の中央間が1.8m(6尺)、両妻間が2.1m(7尺)で、梁間は2.1m(7尺)を基調としている。また、柱筋は通っている。

柱穴 平面形は円形及び楕円形で、確認面からの深さは20~33cmである。柱はすべて抜き取られ、土層断面図中の5・9層は埋土で強く突き固められている。

土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	7 暗 褐色	ローム粒子中量
2 暗 褐色	ロームブロック少量	8 褐色	ローム粒子多量
3 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量	9 褐色	ローム粒子多量(締り強)
4 暗 褐色	ロームブロック中量	10 黒 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量
5 褐色	ロームブロック少量	11 褐色	ロームブロック中量、ローム粒子少量
6 暗 褐色	ロームブロック微量	12 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片9点(環類2、甕類7)、須恵器片2点(環類)が出土している。533はP9の抜き取り痕から出土している。

所見 本跡と主軸方向を同じくする建物は、西建物列の南端にある第1号掘立柱建物跡、東18mに位置する第22号掘立柱建物跡及び調査区南東部に展開する第11・36・51・52号掘立柱建物跡であり、「口の字状」に配置された建物群の初期段階を構成する建物で、9世紀中葉以前に「屋」として機能していたものと考えられる。

第28号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第265図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
533	須恵器	環	130	37	-	長石・石英・斜状灰物	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	P9抜き取り	10%

第29号掘立柱建物跡(第266図)

位置 調査区中央部のC3f8区、標高29mほどの台地上に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の欄柱式建物跡で、桁行方向がN-82°-Wの東西棟である。規模は桁行5.4m(18尺)、梁行3.6m(12尺)で、柱間寸法は桁行の西間が2.1m(7尺)、他は1.8m(6尺)で、梁間は西妻が1.8m(6尺)で、東妻は北間が1.5m(5尺)、南間が2.1m(7尺)である。

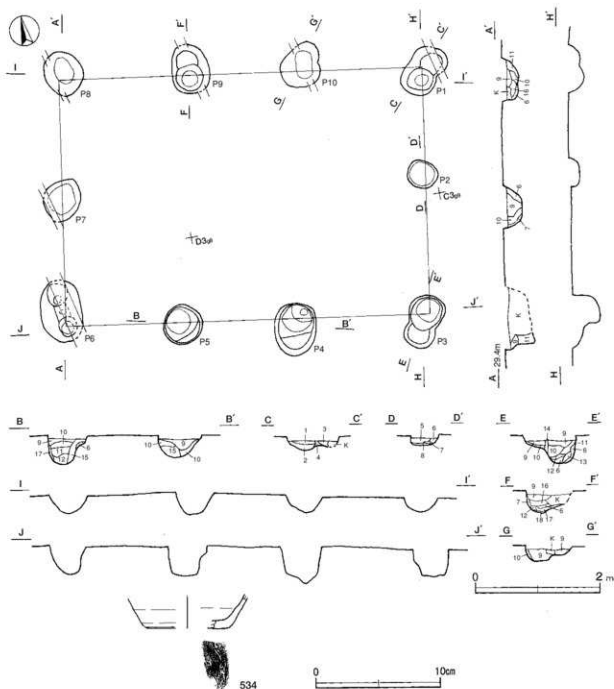
柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは15~57cmである。柱はすべて抜き取りられ、埋土は土層断面図中の1~4・6・8・17・18層が相当し、強く突き固められている。

土層解説

1 暗 褐色	ローム粒子多量、黒色土ブロック中量(締り強)	10 暗 褐色	ローム粒子多量
2 黒 褐色	黒色土ブロック中量、ロームブロック少量(締り強)	11 黒 褐色	ローム粒子中量
3 暗 褐色	ローム粒子少量(締り強)	12 黒 褐色	ローム粒子微量
4 暗 褐色	ローム小ブロック中量(締り強)	13 黒 褐色	ロームブロック少量
5 暗 褐色	ローム粒子少量	14 暗 褐色	ローム粒子中量
6 褐色	ロームブロック多量(締り強)	15 褐色	ロームブロック多量(締り弱)
7 黒 褐色	ローム粒子少量	16 褐色	ローム粒子多量
8 褐色	ローム中ブロック中量(締り強)	17 黒 褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量(締り強)
9 暗 褐色	ロームブロック少量	18 黒 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・白色粒子微量(締り強)

遺物出土状況 土師器片12点(環類1、甕類11)、須恵器片7点(環類5、蓋1、甕類1)が出土している。534はP9の抜き取り痕から出土している。

所見 本跡は、「口の字状」に配置された建物群の中心的な建物である第10号掘立柱建物跡と第30・34号掘立柱建物跡と桁行方向を同じくし、隣接する第34号掘立柱建物跡の補助的な建物と考えられ、9世紀前葉から中葉にかけて機能していたものと考えられる。



第266図 第29号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

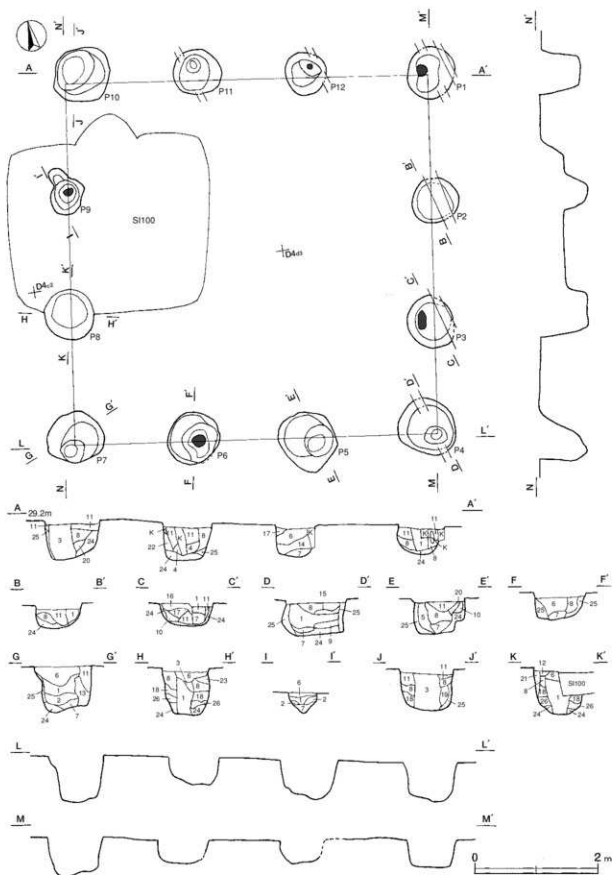
第29号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第266図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
534	環意器	環	-	(26)	[66]	長石・石英	暗灰黄	普通	底部多方向のヘラ削り	P9抜き取り	10%

第30号掘立柱建物跡（第267図）

位置 調査区中央部のD 4 c2区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第92・100号住居跡を掘り込んでいる。また、第16号掘立柱建物跡が重複しているが、第100号住居跡に掘り込まれているため、本跡が新しい。



第267图 第30号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行3間、梁行3間の欄柱式建物跡で、桁行方向がN-8°-Eの東西棟である。規模は桁行5.4m(18尺)、梁行5.7m(19尺)で、柱間寸法は桁行が1.8m(6尺)を基調とし、梁間の北間が2.1m(7尺)、他は1.8m(6尺)であり、柱筋は通っている。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは36~75cmである。柱はすべて抜き取られ、埋土は土層断面図中の18・23~26層が相当し、互層に突き固められて版築状を呈している。また、P1・P3・P6・P9・P12の掘方底面からあたりが確認されている。

土層解説

1	黒	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量(縞り弱)	14	褐	色	ロームブロック多量、焼土ブロック微量	
2	黒	褐	色	ロームブロック少量、炭化物・鹿沼バミス微量	15	褐	色	ロームブロック少量	
3	黒	褐	色	ロームブロック少量	16	褐	色	ローム粒子多量	
4	暗	褐	色	焼土ブロック少量	17	褐	色	ロームブロック中量	
5	暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	18	暗	褐	色	ロームブロック微量
6	暗	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	19	暗	褐	色	ローム粒子多量
7	暗	褐	色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量	20	暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
8	暗	褐	色	ロームブロック少量	21	暗	褐	色	ローム粒子微量
9	暗	褐	色	ロームブロック多量	22	暗	褐	色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量
10	暗	褐	色	ロームブロック中量(縞り弱)	23	暗	褐	色	ロームブロック中量
11	暗	褐	色	ローム粒子多量、焼土粒子微量	24	褐	色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量	
12	暗	褐	色	ローム粒子中量	25	褐	色	ローム粒子多量、ロームブロック中量	
13	褐	色		ロームブロック多量、鹿沼バミス少量、焼土ブロック微量	26	褐	色	ロームブロック多量	

遺物出土状況 土師器片49点(坏類3、甕類46)、須恵器片13点(坏類9、蓋2、甕類2)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡は、「口の字状」に配置された建物群の東辺を構成する第16号掘立柱建物跡から第19号掘立柱建物跡に続いて建てられた建物で、9世紀中葉と考えられる第100号住居跡を掘り込んでいることから建物群の終末期に機能していたものと考えられる。

第33号掘立柱建物跡(第268図)

位置 調査区中央部のE3a7区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P4及び南妻が第59号住居跡、第32号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は明確ではない。

規模と構造 桁行3間以上、梁行2間の欄柱式建物跡で、桁行方向がN-20°-Eの南北棟である。規模は桁行4.5m(15尺)、梁行3.0m(10尺)で、柱間寸法は桁行・梁間ともに1.52m(5尺)を基調とし、南妻は第59号住居跡の覆土中に存在していたと思われる。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは30~56cmである。柱はすべて抜き取られ、土層断面図中の3・6~8層は埋土で、縞りが強く互層をなしている。また、P1・P3の掘方底面からあたりが確認され、推定される柱の直径は10cm前後である。

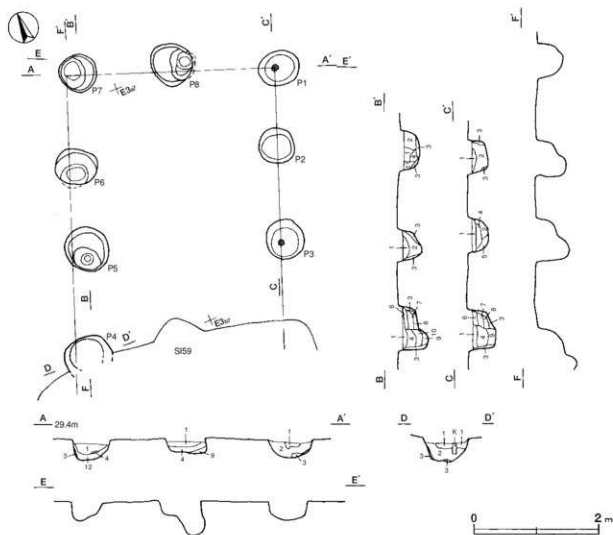
土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子少量	7	褐	色	ロームブロック中量	
2	暗	褐	色	ロームブロック中量	8	褐	色	ロームブロック中量	
3	褐	色		ローム粒子多量	9	暗	褐	色	ロームブロック少量(縞り弱)
4	暗	褐	色	ローム粒子中量	10	暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
5	褐	色		ローム粒子中量	11	黒	褐	色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量
6	暗	褐	色	ロームブロック少量	12	褐	色	ロームブロック多量	

遺物出土状況 土師器片9点(甕類)、須恵器片1点(甕類)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡は桁行方向を同じくする第1号掘立柱建物跡とともに9世紀中葉に機能していたと考えられ、南妻は8世紀後葉に比定される第59号住居跡を掘り込んでいたと考えられ、「口の字状」に配置された建物群を構

成する「屋」と想定される。



第268図 第33号掘立柱建物跡実測図

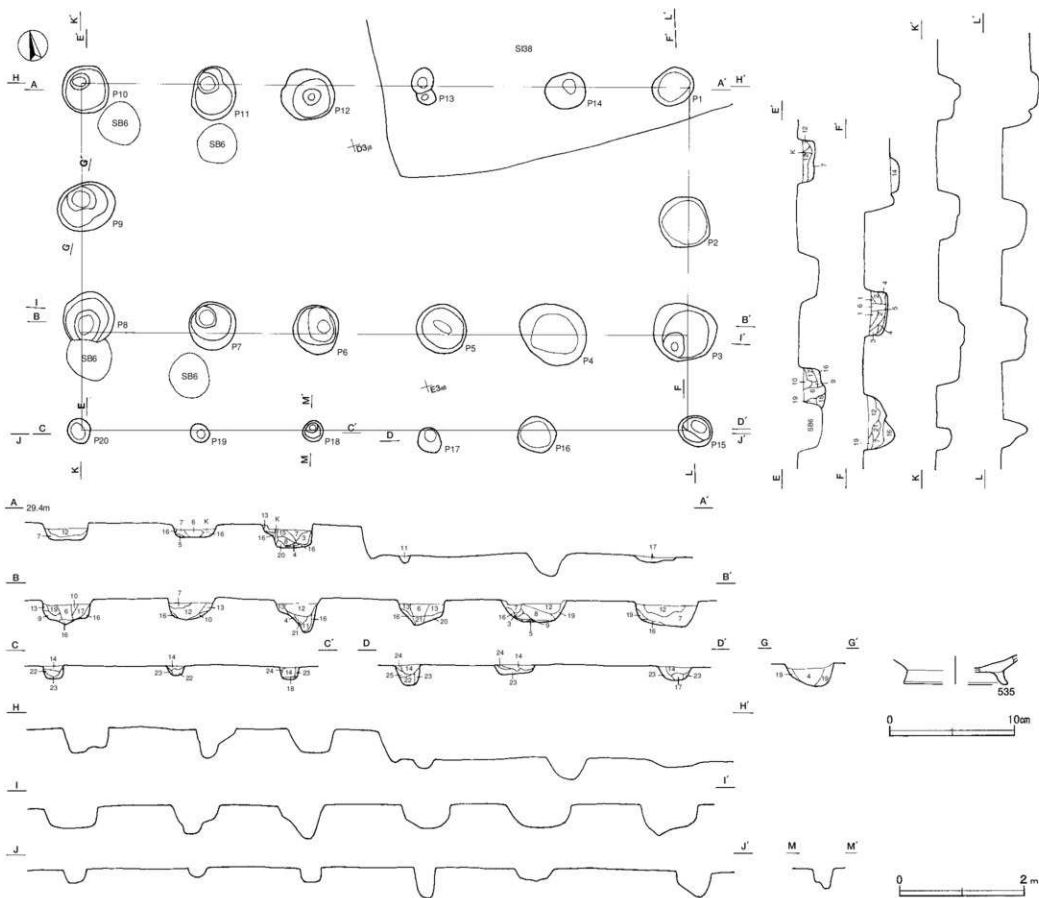
第32号掘立柱建物跡 (第269図)

位置 調査区中央部のD3j7区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P1・P13・P14が第38号住居跡を掘り込み、P8が第6号掘立柱建物跡のP6に掘り込まれている。また、第33号掘立柱建物跡と重複しているが、掘り込みが重なっていないため新旧関係は明確ではない。

規模と構造 桁行5間、梁行2間の身舎に南庇が付く建物跡で、桁行方向が $N-74^{\circ}-W$ の東西棟である。規模は桁行9.6m(32尺)、梁行3.9m(13尺)で、庇の出は、南の入側柱から1.5m(5尺)である。柱間寸法は南平の両妻側が2.1m(7尺)で、他は1.8m(6尺)、南平は西妻から2.1m、1.5m、1.8m、2.1m、2.1mと一定していない。梁間は西妻の北間が1.8m(6尺)、南間が2.1m(7尺)で、東妻は北間が2.1m(7尺)、南間が1.8m(6尺)であり、柱間に違いが見られ、柱筋の通りも悪い。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは24~52cmである。柱はすべて抜き取られ、土層断面図中の3~5層は埋土で突き固められている。



第269图 第32号掘立柱建筑物·出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	14	暗褐色	色	ロームブロック少量 (底)
2	黒褐色	色	ロームブロック微量 (縋り強)	15	暗褐色	色	ロームブロック微量
3	黒褐色	色	ローム粒子中量, 焼土ブロック少量	16	暗褐色	色	ロームブロック多量
4	黒褐色	色	ロームブロック少量	17	褐色	色	ロームブロック中量
5	褐色	色	ロームブロック中量 (縋り強)	18	褐色	色	ロームブロック中量 (底)
6	黒褐色	色	ロームブロック微量	19	褐色	色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
7	暗褐色	色	ローム粒子中量, 焼土ブロック微量	20	褐色	色	ローム粒子多量
8	暗褐色	色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量	21	褐色	色	ローム小ブロック中量
9	暗褐色	色	ローム粒子少量	22	褐色	色	ローム小ブロック中量 (底)
10	暗褐色	色	ローム粒子中量	23	褐色	色	ローム粒子多量, ローム中ブロック少量 (底)
11	暗褐色	色	ロームブロック少量	24	褐色	色	ローム粒子多量, ローム少ブロック少量 (底)
12	暗褐色	色	ロームブロック少量, 炭化物微量	25	褐色	色	ローム粒子多量, 炭化物微量
13	暗褐色	色	ロームブロック中量				

遺物出土状況 土師器片1点(甕類), 須恵器片2点(坏類, 甕類)が出土している。535はP7の抜き取り痕から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前半と考えられる。北平が, 東7mに位置する第13号掘立柱建物跡の南平に柱筋を通してあり, 「口の字状」に配置された建物群の南に位置する建物で, 性格は明確ではない。

第32号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第269図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
535	須恵器	高台付坏	-	(24)	[81]	長石	灰	普通	底部回転へう削削	P7抜き取り	10%

第35号掘立柱建物跡(第270図)

位置 調査区中央部のD4街区, 標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P5が第99号住居跡を掘り込み, P1・P10が第18号掘立柱建物跡のP5・P6に, P3が第15号掘立柱建物跡のP3にそれぞれ掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の細柱式建物跡で, 桁行方向がN-80°-Wの東西棟である。規模は桁行6.0m(20尺), 梁行3.9m(13尺)で, 柱間寸法は, 桁行の中央間が1.8m(6尺), 両妻側が2.1m(7尺), 梁間は北間が2.1m(7尺), 南間が1.8m(6尺)であり, 柱筋は通っている。

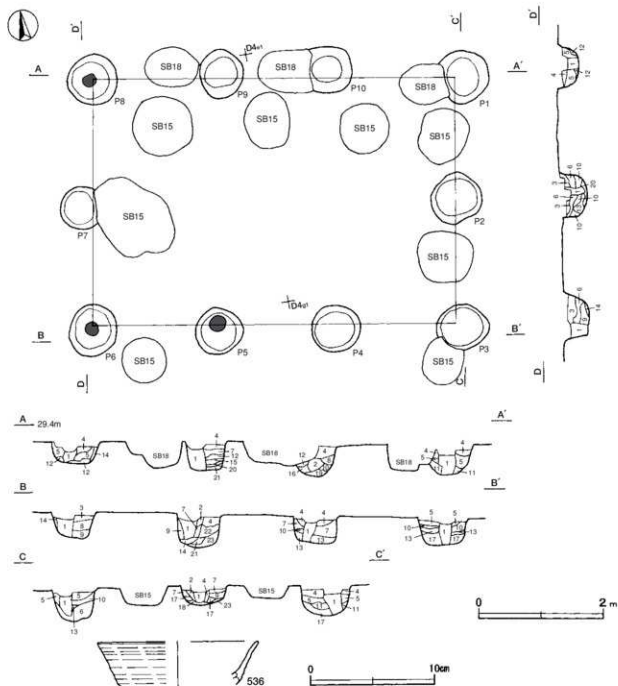
柱穴 平面形は楕円形及び円形で, 確認面からの深さは30~48cmである。柱抜き取り痕は土層断面図中の1・2層が相当し, その他の層は埋土で縋りが強く互層に突き固められて版築状を呈している。また, P5・P6・P8の掘り方底面からあたりが確認され, 推定される柱の直径は20cm前後である。

土層解説

1	暗褐色	色	ローム粒子・ローム中ブロック中量, 炭化粒子微量	12	暗褐色	色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 (縋り強)
2	暗褐色	色	ロームブロック中量, ローム粒子少量	13	暗褐色	色	ロームブロック中量
3	暗褐色	色	ローム粒子少量	14	黒褐色	色	ロームブロック中量
4	暗褐色	色	ローム粒子少量, 黒色土粒子微量	15	黒褐色	色	ロームブロック中量 (縋り強)
5	暗褐色	色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 黒色土ブロック微量	16	褐色	色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 (縋り強)
6	暗褐色	色	ロームブロック中量 (縋り強)	17	褐色	色	ロームブロック中量
7	暗褐色	色	ローム中ブロック中量 (縋り強)	18	黒褐色	色	ロームブロック少量
8	暗褐色	色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	19	暗褐色	色	ローム粒子少量 (縋り強)
9	暗褐色	色	ローム粒子多量	20	黒褐色	色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
10	暗褐色	色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	21	暗褐色	色	ローム小ブロック中量
11	褐色	色	ローム小ブロック少量	22	暗褐色	色	ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
				23	褐色	色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片14点(坏類6, 甕類8), 須恵器片5点(坏類)が出土している。536はP6の柱抜き取り痕から出土している。

所見 本跡は第10号掘立柱建物跡と桁行方向を同じくする建物群を構成する建物である。主軸方向を同じくする竪穴住居跡は第90・93号住居跡があり, いずれも9世紀前葉に比定されている。特に, 北西3mに位置する第90号住居跡の南壁に柱筋を揃えるように建てられていることから, 9世紀前葉から中葉にかけて機能していたと考えられる。



第270図 第35号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第35号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第270図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
536	須恵器	杯	128	(3.5)	-	長石・石英・ 黒色粒子	灰白	良好	体部内・外面ロクロナデ	P 6抜き取り	10%

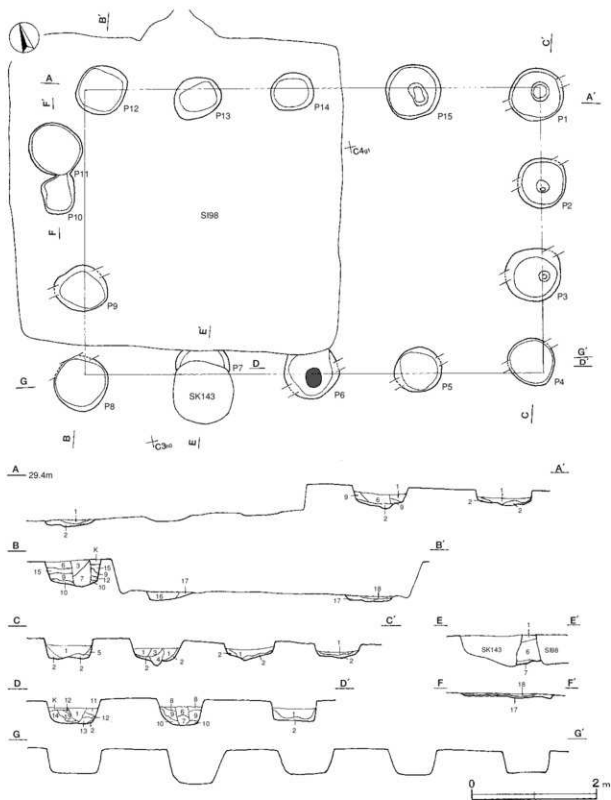
第34号掘立柱建物跡(第271図)

位置 調査区中央部のC 4 g1区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P 6・P 7・P 9～P 14が第98号住居跡、P 7が第143号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と構造 桁行4間、梁行3間の欄柱式建物跡で、桁行方向がN-80°-Wの東西棟である。規模は桁行7.3

m (24尺), 梁行4.5m (15尺) で、柱間寸法は桁行が1.8m (6尺), 梁間は1.5m (5尺) を基調としている。
 柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは25~43cmである。柱はすべて抜き取られ、土層断面
 図中の6・9・10・11・17層は埋土で、締りが強く、互層に突き固められて版築状を呈している。



第271図 第34号掘立柱建物跡実測図

土層解説

1 暗褐色	黒色土ブロック・ローム粒子少量	10 褐色	ロームブロック中量
2 褐色	ローム粒子中量	11 褐色	ローム粒子多量
3 暗褐色	ローム粒子中量(締り弱)	12 褐色	ローム粒子中量, 黒色土ブロック微量
4 極暗褐色	ローム粒子少量	13 暗褐色	ローム粒子少量, 黒色土ブロック微量
5 暗褐色	ローム粒子少量	14 暗褐色	ロームブロック微量
6 暗褐色	ローム粒子中量, 黒色土ブロック少量	15 暗褐色	ロームブロック少量(締り強)
7 暗褐色	ローム粒子中量	16 褐色	ロームブロック多量
8 暗褐色	ローム粒子少量(締り強)	17 褐色	ロームブロック少量
9 暗褐色	ロームブロック少量	18 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

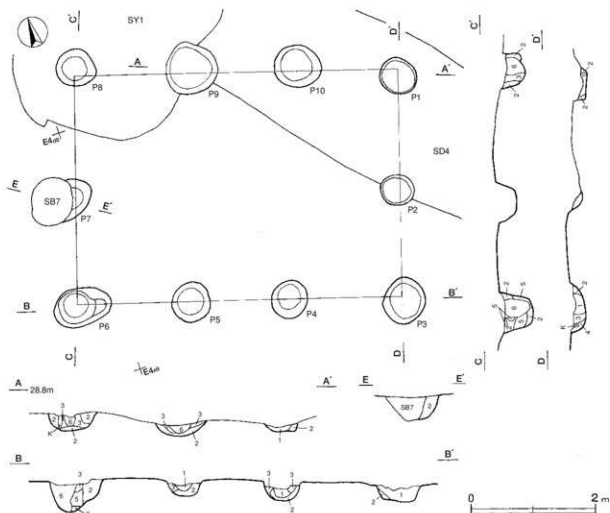
遺物出土状況 土師器片7点(甕類), 須恵器片5点(坏類)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 西3.5mに位置する第29号掘立柱建物跡と柱筋を揃え, 第10号掘立柱建物跡と桁行方向を同じくしており, 同時期に存在したと推測され, 9世紀末とされる第98号住居跡に掘り込まれていることから, 9世紀前半から中葉にかけて機能していたものと考えられ, 北6mに並ぶ北辺の「倉」列の前段階の建物で, 「屋」と推定される。

第36号掘立柱建物跡 (第272図)

位置 調査区中央部のE4d9区, 標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P7が第7号掘立柱建物跡のP1に, P1・P2・P9・P10が第4号溝跡, P8・P9が第1号炭焼窯跡にそれぞれ掘り込まれている。



第272図 第36号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行3間、梁行2間の棚柱式建物跡で、桁行方向がN-70°-Wの東西棟である。規模は桁行5.4m(18尺)、梁行3.6m(12尺)で、柱間寸法は桁行・梁間ともに1.8m(6尺)を基調とし、柱筋が通っている。
柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは25~52cmである。柱抜き取り痕は土層断面図中の6層が相当し、その他の層は埋土であるが、突き固められていない。

土層解説

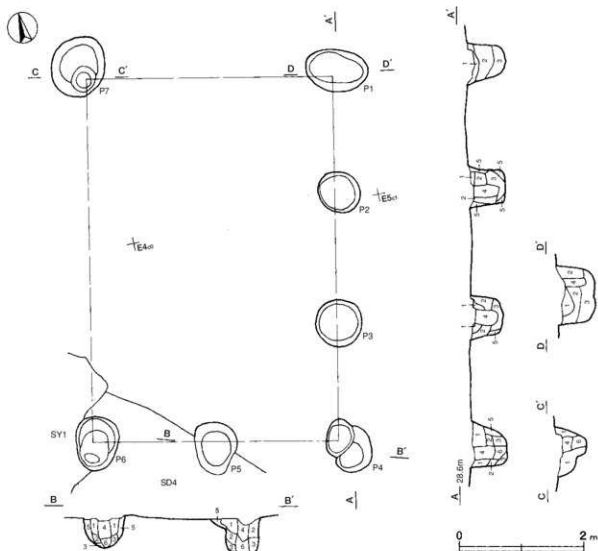
- | | | | |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黄褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡と主軸方向を同じくする竪穴住居跡は、第36号住居跡があり、これらの住居跡と同時期に配置され、後に第7号掘立柱建物跡へ機能が移行したものと考えられる。住居跡が9世紀中葉に比定されていることから、9世紀中葉に第9・11号掘立柱建物跡とともに南東地区に展開する建物群を構成する建物であり、集落に付随する「屋」と想定される。

第37号掘立柱建物跡 (第273図)

位置 調査区南東部のE4c0区、標高28mほどの台地上に位置している。



第273図 第37号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第12号隔し穴を掘り込み、P5・P6が第4号溝跡、P6が第1号炭焼窓跡にそれぞれ掘り込まれている。また、第163号土坑と重複しているが、掘り込みが重なっていないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の欄柱式建物跡で、西平と北妻側には掘方検出されていないが、桁行方向がN-11°-Eの南北棟である。規模は桁行6.05m(20尺)、梁行4.2m(14尺)で、柱間寸法は東平の中央間が1.8m(6尺)、両妻側が2.1m(7尺)で、南妻は2.1m(7尺)である。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは31~58cmである。柱抜き取り痕は土層断面図中の1、4・6層が相当し、2・3層は埋土で締りが強く、突き固められ互層をなしている。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック少量	6 黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は桁行方向が「口の字状」に配置された建物群を構成する第10・30号掘立柱建物跡と直交している。また、9世紀前葉に比定される第3・44・90号住居跡の主軸方向と同じであり、南21mに位置する第43・48号掘立柱建物跡とともに調査区南東部に配置された建物群を構成している。

第38号掘立柱建物跡 (第274図)

位置 調査区南東部のF4b8区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 P1~P7が第43号掘立柱建物跡のP1~P7を掘り込んでいる。また、第39号掘立柱建物跡と重複しているが、掘り込みが重なっていないため新旧関係は明確ではない。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の欄柱式建物跡で、桁行方向がN-15°-Eの南北棟である。規模は桁行5.7m(19尺)、梁行4.2m(14尺)で、柱間寸法は桁行の北妻側が2.1m(7尺)、中央間と南妻側が1.8m(6尺)、梁間が2.1m(7尺)である。

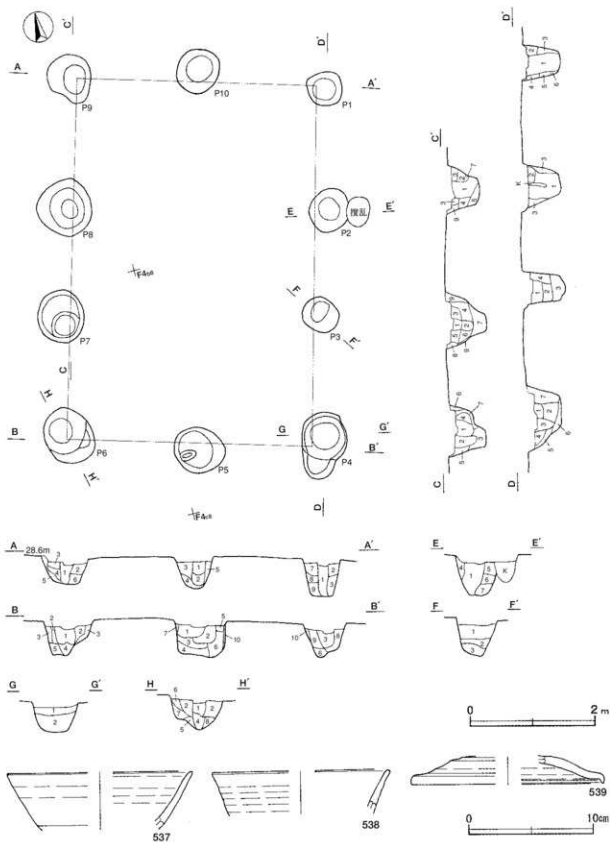
柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは46~67cmで、掘り方底面の標高はほぼ一定である。柱はすべて抜き取られている。土層断面図中の4・8・9層は埋土と思われるが、締りが強くない。また、P2及びP5は第43号掘立柱建物跡のP2・P5の掘り方を崩していない。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子多量、炭化物・焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量	8 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	9 黒褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
5 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量		
6 黒褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量		

遺物出土状況 土師器片126点(甕類), 須恵器片31点(坏類19, 蓋5, 甕類7)が出土している。537はP1, 538はP8, 539はP2の柱抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見 本跡は「口の字状」に配置された建物群の西列及び北列などの建物と主軸方向を同じくするほか、主軸方向が同じである第15・20・22号住居跡が周囲に位置し、いずれも9世紀前葉に比定されている。出土土器からも9世紀前半と考えられることから、同時期の集落に付随する建物と考えられる。重複する第43号掘立柱建物跡の柱穴を一部共用しており、軸線をややずらして建て替えられた可能性がある。



第274图 第38号掘立柱建筑物迹·出土遗物实测图

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは39～57cmで、掘り方底面の標高はほぼ一定である。柱痕跡は土層断面図中の1～3層が相当し、その他の層は柱抜き取り痕である。柱痕跡から推定される柱の直径は20～25cmである。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	13	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量	14	暗褐色	ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	15	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子中量	16	明褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量	17	麻暗褐色	ロームブロック少量
6	黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	18	黒褐色	ロームブロック少量
7	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量	19	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
8	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	20	褐色	ローム粒子中量
9	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	21	明褐色	ローム粒子多量
10	褐色	ローム粒子多量	22	褐色	ロームブロック少量
11	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	23	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
12	黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量			

遺物出土状況 土師器片89点（坏類2，甕類87），須恵器片26点（坏類25，甕類1）が出土している。540はP5の柱抜き取り痕から出土している。

所見 本跡は「ロの字状」に配置された建物群の西列及び北列などの建物と主軸方向を同じくするほか、主軸方向が同じである第15・20・22号住居跡が周囲に位置し、いずれも9世紀前葉に比定されている。出土土器からも9世紀前半と考えられることから、同時期の集落に付随する建物と考えられ、重複する第38号掘立柱建物跡と前後して機能していたと推測される。

第39号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第275図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
540	須恵器	坏	130	40	-	長石・石英	灰	普通	体部内・外面クロナア	P5抜き取り	10%

第40号掘立柱建物跡（第276図）

位置 調査区南部のF5a1区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第154号土坑と重複しているが、掘り込みが重なっていないため新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の細柱式建物跡で、桁行方向がN-34°-Eの南北棟である。規模は桁行5.4m（18尺）、梁行4.5m（15尺）で、柱間寸法は桁行が1.8m（6尺）、北妻の東間が2.4m（8尺）、西間は2.1m（7尺）で、南妻は東間が2.1m（7尺）、西間が2.4m（8尺）である。

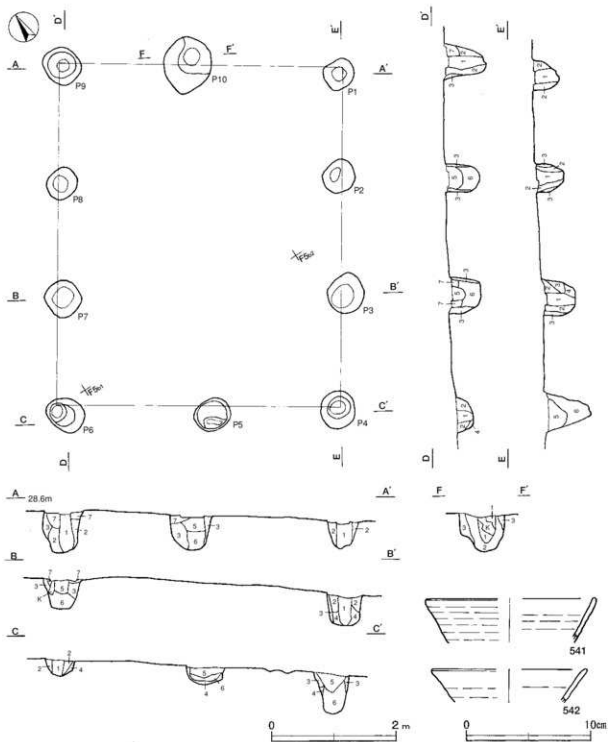
柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは28～69cmである。柱はすべて抜き取られている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量	6	暗褐色	ローム粒子中量
3	淡黄褐色	ロームブロック中量	7	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片25点（甕類），須恵器片5点（坏類4，甕類1）が出土している。541はP5，542はP3の柱抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見 本跡は第7号掘立柱建物跡と桁行方向を直交させており、同時期に機能していたと考えられ、集落に付随する倉庫と推定される。



第276図 第40号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第40号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第276図)

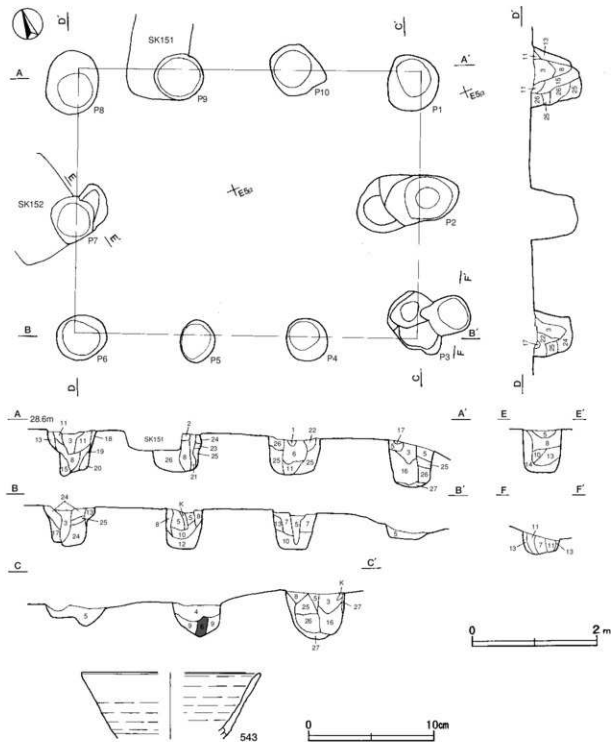
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
541	須恵器	環	〔13.4〕	(3.5)	-	長石	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	P 5 抜き取り	10%
542	須恵器	環	〔12.4〕	(2.6)	-	長石・石英・ 針状副産物	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	P 3 抜き取り	10%

第41号掘立柱建物跡 (第277図)

位置 調査区南部のE 5 II区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 P 7が第152号土坑、P 9が第151号土坑にそれぞれ掘り込まれている。第153号土坑と重複しているが、掘り込みが重なっていないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の欄柱式建物跡で、桁行方向がN-65°-Wの東西棟である。規模は桁行5.4m (18尺)、梁行4.2m (14尺)で、柱間寸法は桁行が1.8m (6尺)、梁間が2.1m (7尺)を基調としている。



第277図 第41号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは50～82cmであり、掘り方底面の標高はほぼ一定している。柱はすべて抜き取られ、P2の土層断面図中の6層は柱痕跡に相当し、9層はロームブロックが主体の褐色土の埋土である。柱痕跡から推定される柱の直径は15cm前後である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量	15	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	16	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	17	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	18	褐色	ロームブロック微量
5	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	19	暗褐色	ロームブロック少量
6	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	20	褐色	ローム粒子中量、炭化物微量
7	褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	21	暗褐色	ローム粒子中量
8	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	22	暗褐色	ローム粒子多量
9	褐色	ロームブロック中量	23	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
10	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	24	褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
11	褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	25	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
12	褐色	ローム粒子中量	26	褐色	ロームブロック中量、炭化物少量
13	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	27	明褐色	ロームブロック中量
14	明褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片9点（甕類）、須恵器片9点（坏類8、蓋1）が出土している。543はP5の柱抜き取り痕から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第41号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第277図）

番号	種別	器名	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
543	須恵器	坏	[344]	(53)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	休部下層へ削削		P5抜き取り	20%

第43号掘立柱建物跡（第278図）

位置 調査区南部のF4b8区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P1～P7が第38号掘立柱建物跡のP1～P7にそれぞれ掘り込まれている。また、第39号掘立柱建物跡と重複しているが、掘り込みが重なっていないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の綱柱式建物跡で、桁行方向がN-8°-Eの南北棟である。規模は桁行5.3m（18尺）、梁行4.2m（14尺）で、柱間寸法は桁行が1.8m（6尺）、梁間が2.1m（7尺）を基調としている。

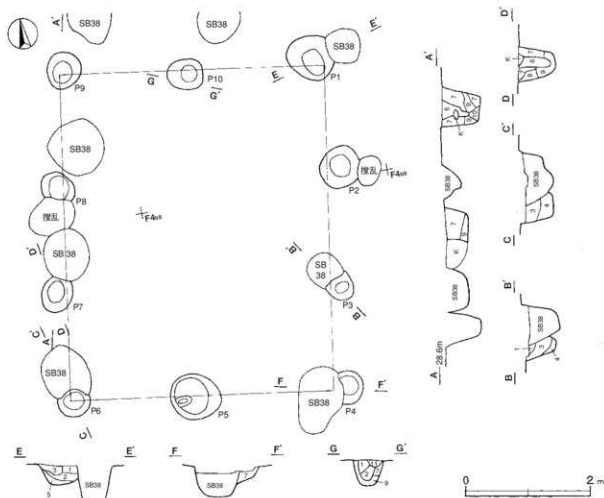
柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは30～58cmである。柱はすべて抜き取られ、柱痕跡は認められない。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ローム粒子少量	8	にぶい黄褐色	ロームブロック中量（締り強）
3	黒褐色	ロームブロック微量	9	暗褐色	ロームブロック中量（締り強）
4	黒褐色	ローム粒子少量	10	暗褐色	ロームブロック少量
5	にぶい黄褐色	ロームブロック少量（締り強）	11	暗褐色	ロームブロック微量
6	黒褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 土師器片5点（甕類）、須恵器片1点（坏類）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡は第38号掘立柱建物跡に先行する建物で、周囲に展開する9世紀前葉の集落に付随する倉庫として機能していたと考えられる。



第278図 第43号掘立柱建物跡実測図

第44号掘立柱建物跡 (第279図)

位置 調査区南部のF 4a4区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P 1が第9号住居跡を掘り込んでいる。また、第45・54号掘立柱建物跡と重複しているが、掘り込みが重なっていないため新旧関係は明確ではない。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の竪柱式建物跡で、桁行方向がN-61°-Wの東西棟である。規模は桁行5.7m (19尺)、梁行3.9m (13尺)で、柱間寸法は桁行の中央間が1.5m (5尺)で、両妻側が2.1m (7尺)、梁間は北間が1.8m (6尺)、南間が2.1m (7尺)である。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは19~47cmである。柱抜き取り痕は土層断面図中の1・7・8層が相当し、その他の層は埋土と思われる、互層をなしているが、強い突き固めは認められない。

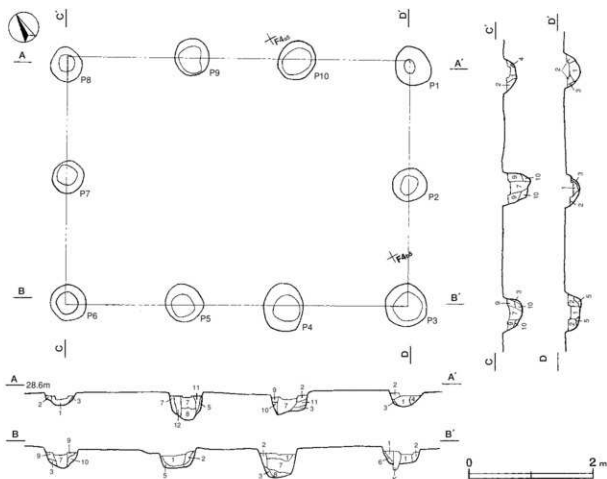
土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	7 黒 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック少量	8 黒 褐色	ロームブロック微量
3 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	9 黒 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
4 褐色	ローム粒子多量	10 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
5 褐色	ロームブロック中量	11 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
6 褐色	ロームブロック多量		

遺物出土状況 土師器片14点(甕類)、須恵器片2点(坏類)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、掘り込みの重なりがなく明確ではないが、柱筋の通りもよく、桁行の中央柱間が狭く、当遺跡

における平安時代の「屋」の構造に共通することから、南東部の建物群を構成する建物のひとつと考えられる。



第279図 第44号掘立柱建物跡実測図

第45号掘立柱建物跡 (第280図)

位置 調査区南部のE 4 j3区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第12号住居跡及び第44号掘立柱建物跡と重複しているが、掘り込みが重なっていないため新旧関係は明確ではない。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の欄柱式建物跡で、桁行方向が $N-20^{\circ}-E$ の南北棟である。規模は桁行5.4m (18尺)、梁行5.1m (17尺)である。柱間寸法は桁行が2.7m (9尺)、北妻の西間は2.4m (8尺)、東間は2.7m (9尺)、南妻は西間が1.8m (6尺)、東間が3.3m (11尺)と一定していない。

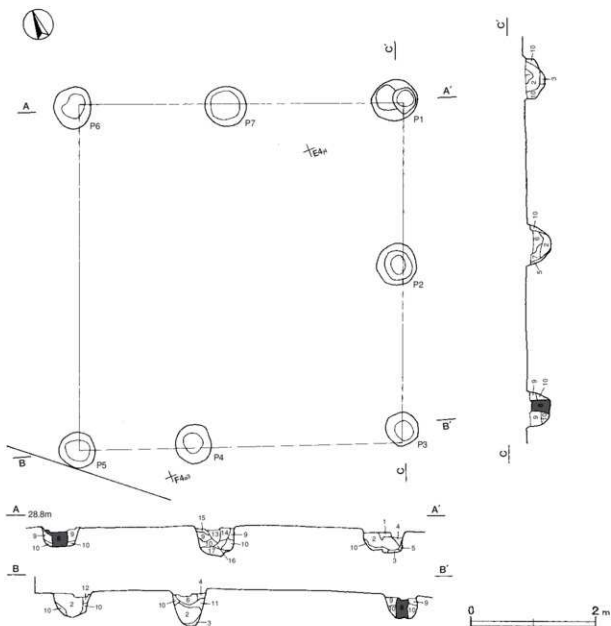
柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは30~56cmほどである。柱痕跡は土層断面図中の8層が相当し、その他の層は柱抜き取り痕である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量	11 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量	12 暗褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	13 黒褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	14 黒褐色	焼土粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	15 黒褐色	ローム粒子微量
7 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック少量
8 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	17 暗褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量
9 黒褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 土師器片14点（堯類）、須恵器片2点（坏類）が出土している。P1の柱抜き取り痕から出土した須恵器坏は9世紀中葉の所産と思われるが、細片のため図示できない。

所見 本跡と重複する第12号住居跡が9世紀前葉に比定されていることから、住居跡が廃絶された直後、もしくは間もない時期から9世紀中葉にかけて機能していたと考えられ、居住施設と推測される。



第280図 第45号掘立柱建物跡実測図

第48号掘立柱建物跡（第281図）

位置 調査区南部のE 418区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P3・P4が第4号住居跡を掘り込み、P2・P5が第3号溝跡に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の細柱式建物跡で、桁行方向が $N-10^{\circ}-E$ の南北棟である。規模は桁行5.4m（18尺）、梁行3.3m（11尺）で、柱間寸法は、桁行が1.8m（6尺）、梁間は北妻の西間が1.5m（5尺）、東間

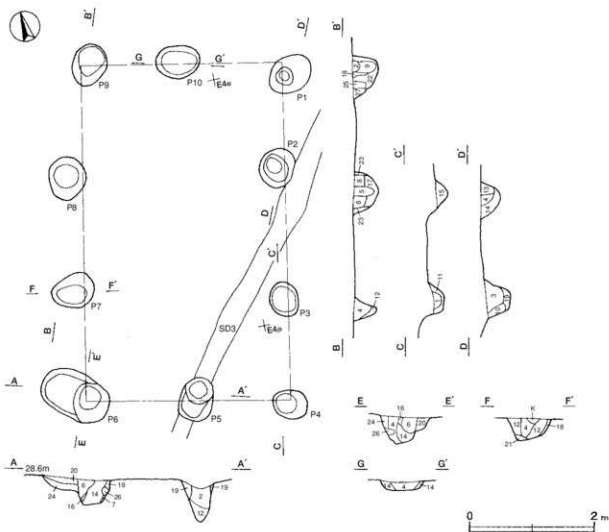
は1.8m（6尺）で、南妻は西間が1.8m（6尺）で、東間が1.5m（5尺）である。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは14～65cmである。柱はすべて抜き取られ、柱痕跡は認められない。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量	15	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	16	暗褐色	ローム粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	17	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
4	暗褐色	ロームブロック微量	18	暗褐色	ローム粒子中量
5	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	19	褐色	ローム粒子多量
6	褐色	ローム粒子少量	20	暗褐色	ローム粒子少量
7	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	21	暗褐色	ロームブロック中量
8	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	22	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	23	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	24	褐色	ローム粒子中量
11	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	25	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量
12	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	26	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
13	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	27	褐色	ロームブロック少量
14	暗褐色	ローム粒子多量			

遺物出土状況 土師器片5点（堯類）、須恵器片1点（坏類）が出土している。いずれも細片のため図示できない。



第281図 第48号掘立柱建物跡実測図

所見 本跡は桁行方向が「口の字状」に配置された建物群を構成する第10・30号掘立柱建物跡に直交し、9世紀前葉に比定される第44・90号住居跡の主軸方向と同じである。北21mに位置する第37号掘立柱建物跡や、南6mに隣接する第43号掘立柱建物跡とともに調査区南東部に配置された建物群を構成している。

第51号掘立柱建物跡 (第282図)

位置 調査区南部のE 4 e6区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P 3・P 4 が第9号掘立柱建物跡の P 3・P 4 に掘り込まれており、第17号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の廻柱式建物跡で、桁行方向がN-70°-Wの東西棟である。規模は桁行5.4m (18尺)、梁行4.2m (14尺)で、柱間寸法は桁行が西妻から1.8m (6尺)、1.5m (5尺)、2.1m (7尺)で、梁間は2.1m (7尺)である。

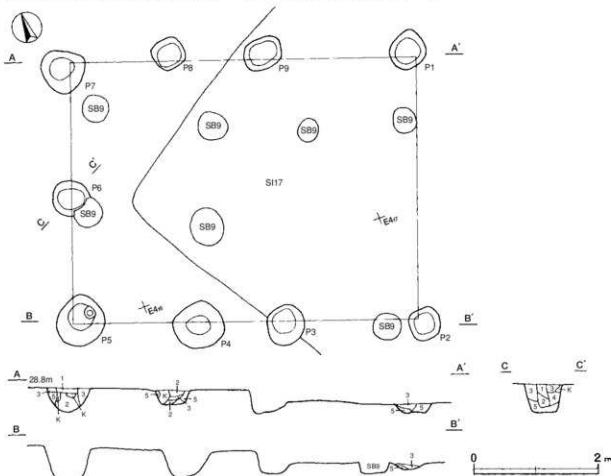
柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは24~48cmである。柱はすべて抜き取られ、柱痕跡は認められない。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片1点(甕類)が出土している。細片のため図示できない。

所見 本跡は集落に付随する「屋」と想定され、主軸方向を同じくする竪穴住居跡は、北東9mに第33号住居跡、北東16mに第36号住居跡が位置し、いずれも9世紀中葉に比定されている。



第282図 第51号掘立柱建物跡実測図

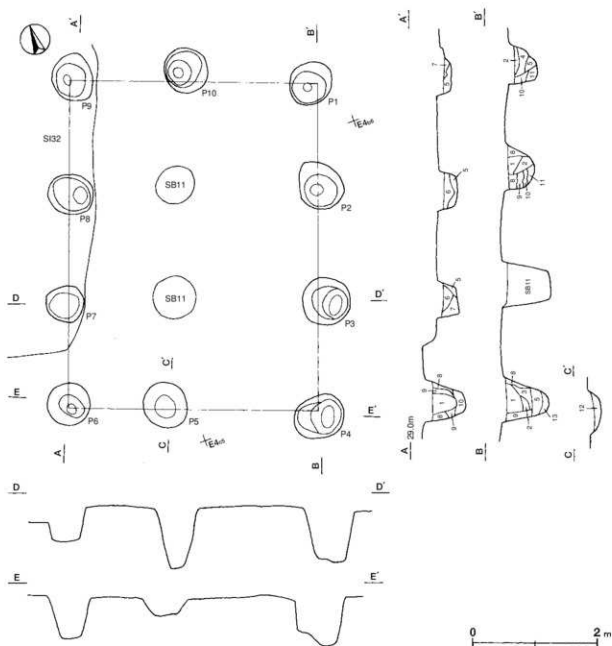
第52号掘立柱建物跡 (第283図)

位置 調査区南部のE 4 b5区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P 7～P 9が第32号住居跡を掘り込み、P 3・P 10が第11号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の細柱式建物跡で、桁行方向がN-20°-Eの南北棟である。規模は桁行5.4m (18尺)、梁行3.9m (13尺)で、柱間寸法は桁行が1.8m (6尺)、北妻の西間が1.8m (6尺)、東間が2.1m (7尺)、南妻の西間は1.5m (5尺)、東間が2.4m (8尺)である。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは50～76cmである。柱はすべて抜き取られ、土層断面図中の8～11層は埋土で締りが強く、互層に突き固められて版築状を呈している。



第283図 第52号掘立柱建物跡実測図

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
2	黒褐色	ローム粒子中量	9	暗褐色	ロームブロック多量
3	黒褐色	ロームブロック中量	10	暗褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化物微量
4	黒褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	12	暗褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	13	黒褐色	ロームブロック多量
7	暗褐色	ローム粒子多量			

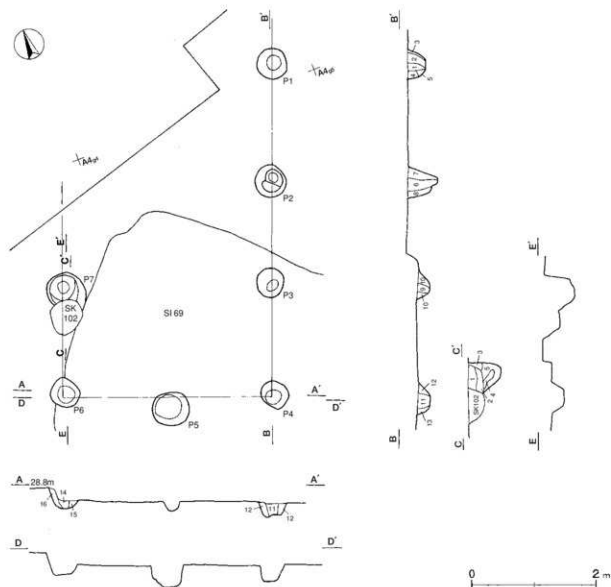
遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡と軸方向を同じくする竪穴住居跡は、第33・36号住居跡がある。いずれも9世紀中葉に比定されており、第9・36号掘立柱建物跡とともに南東地区に展開する建物群を構成する建物で、同時期の集落に付随する「屋」と想定され、第11号掘立柱建物跡からの建て替えと考えられる。

第53号掘立柱建物跡 (第284図)

位置 調査区北部のA4g4区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 P3～P6が第69号住居跡を掘り込み、P7が第102号土坑に掘り込まれている。



第284図 第53号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行3間以上、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向がN-20°-Eの南北棟である。規模は桁行5.4m（18尺）以上、梁行3.6m（12尺）で、北部は調査区外に延びる。柱間寸法は桁行、梁間とも1.8m（6尺）を基調としている。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは29~47cmある。柱はすべて抜き取られている。

土層解説

1 黒 褐 色	ロームブロック少量	9 極 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	10 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量
3 褐 色	ロームブロック中量	11 黒 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
4 褐 色	ローム中ブロック中量	12 黒 褐 色	ロームブロック微量
5 黒 褐 色	ローム小ブロック少量	13 褐 色	ローム粒子中量
6 黒 褐 色	ローム粒子多量	14 黒 褐 色	ローム粒子微量
7 黒 褐 色	ローム粒子中量	15 黒 褐 色	ローム粒子少量
8 暗 褐 色	ローム中ブロック少量	16 黒 褐 色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

遺物出土状況 土師器片5点（坏類3，甕類2）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は平安時代と考えられるが、性格は明確ではない。

第54号掘立柱建物跡（第285図）

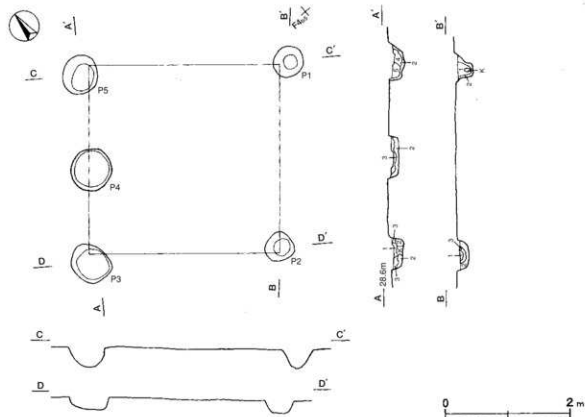
位置 調査区南部のF 4 b5区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第44号掘立柱建物跡と重複しているが、掘り込みが重なっていないため新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行1間、梁行1間（西妻2間）の側柱式建物跡で、桁行方向がN-51°-Wの東西棟である。

規模は桁行3.3m（11尺）、梁行3.0m（10尺）で、柱間寸法は桁行が3.3m（11尺）、梁間は、西妻は2間で各1.5m（5尺）で、東妻は1間で3.0m（10尺）である。

柱穴 平面形はいずれも楕円形で、確認面からの深さは20~30cmである。柱はすべて抜き取られ、柱痕跡は認められない。



第285図 第54号掘立柱建物跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量,炭化物微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量,炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量,炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は平安時代と考えられるが、性格は明確ではない。

(3) 井戸跡

第1号井戸跡 (第286・287図)

位置 調査区南部のE 4a1区, 標高29mほどの台地上に位置している。

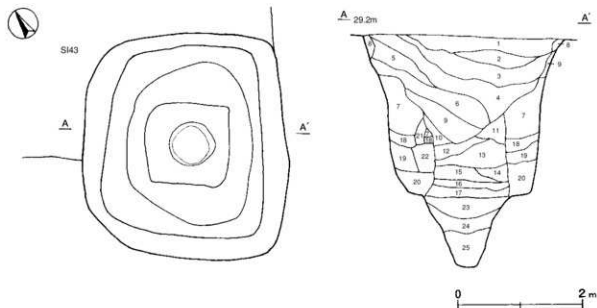
重複関係 北壁が第43号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.6m, 短軸3.2mの隅丸長方形で, 確認面からの深さは2.5mで, 底面は長軸2.6m, 短軸2.0mの隅丸長方形を呈し, 断面形は円筒状である。底面中央部には一辺が1.3mの方形の掘り込みがあり, 深さ1.1mで, 断面形はU字状である。

覆土 25層からなり, 土層断面図中の19~21層は埋土でロームブロック, 粘土ブロックを多く含んでいる。また, 10~18層は締りがなく, 平面の広がりか方形であることから, 井戸枠が存在している時点で埋め戻されたと考えられる。

土層解説

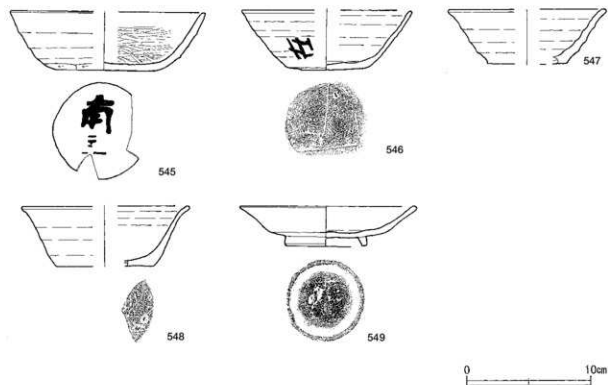
- | | | | |
|--------|-------------------------------------|--------|---|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス少量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土粒子少量, 鹿沼パミス微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子少量, 鹿沼パミスブロック・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミス微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 鹿沼パミスブロック少量 | 17 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子多量, 鹿沼パミスブロック・炭化粒子少量 | 18 黒褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック少量, 粘土ブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・鹿沼パミス微量 | 19 黒褐色 | ロームブロック多量, 粘土ブロック・鹿沼パミス少量, スブロック・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量, 炭化物・鹿沼パミス少量 | 21 黒褐色 | ローム粒子多量, 鹿沼パミス少量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック・粘土粒子少量, 炭化物微量 | 22 黒褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミスブロック・粘土ブロック少量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子多量, 炭化物・鹿沼パミス少量, 粘土粒子微量 | 23 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 11 黒褐色 | ローム粒子多量, 鹿沼パミスブロック微量 | 24 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 12 黒褐色 | ローム粒子多量, 炭化物少量, 鹿沼パミス微量 | 25 黒褐色 | ロームブロック中量 |



第286図 第1号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師器片68点（坏類24、甕類44）、須恵器片65点（坏類54、蓋1、甕類10）が覆土上層から底面にかけて出土している。そのほか、流れ込みよる土師器高坏片27点、土師器器台片1点も出土している。545～549はいずれも覆土中から出土しており、埋没時に土砂とともに埋まったものと考えられる。

所見 本跡は「ロの字状」に配置された建物群の南東コーナーにあり、北2mに位置する第13号掘立柱建物跡との密接な関連が想定され、掘立柱建物跡群の配置がもっとも整った9世紀中葉における厨域の一部を構成したと考えられる。



第287図 第1号井戸跡出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表（第287図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
545	土師器	坏	[15.5]	4.7	7.8	長石・石英	橙	普通	体部下端へつ削り、底部回転へつ削り	覆土中	70% PL39 底部磨面「南上」
546	須恵器	坏	[13.3]	4.8	6.5	長石・石英	灰	普通	底部多方向へつ削り	覆土中	50% 非磨面磨面 「在」
547	須恵器	坏	[12.6]	4.4	[6.3]	長石・石英・ 針状鉱物	黄灰	普通	体部内・外面クロコナテ	覆土中	25%
548	須恵器	坏	[13.2]	4.8	[7.8]	長石・石英・ 針状鉱物	灰黄	普通	底部回転へつ切り	覆土中	30%
549	土師器	高台付皿	14.0	3.1	6.3	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端へつ削り、底部回転へつ削り	覆土中	70% 器面磨滅

(4) 溝跡

平面図は、遺構全体図に記載する。

第9号溝跡（第288図）

位置 調査区北部のA4j7～B3b3区、標高29mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第70号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 調査区北部を東西方向(N-88°-E)に直線的に長さ54.9mが確認された。東西両端とも調査区域外に延び、上幅0.28~0.85m、下幅0.10~0.45m、深さ33cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、断面形はU字状を呈している。底面の標高は東部が28.7m、西部が29mで、東部が若干低くなっている。

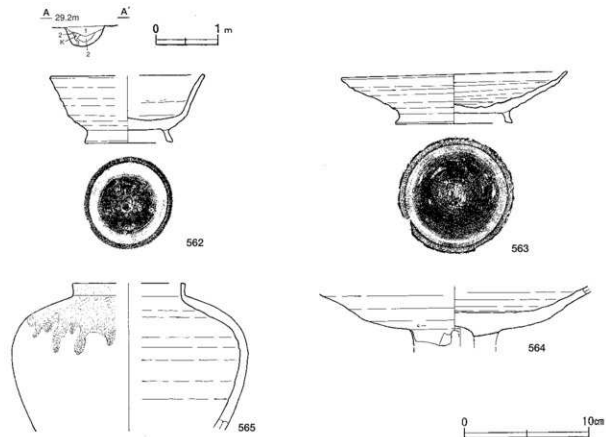
覆土 3層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片40点(坏類1, 甕類39), 須恵器片48点(坏類30, 高台付坏1, 皿1, 盤6, 蓋1, 高盤1, 短頸壺6, 甕類2)のほか、混入した弥生土器片21点(壺類), 鉄滓1点も出土している。562・563・564は、いずれも覆土上層から出土し、565は覆土中から出土している。

所見 時期は、覆土上層から出土した土器が9世紀前葉の特徴を示していることから、本跡が機能していたのは9世紀前葉以前と考えられる。



第288図 第9号溝跡・出土遺物実測図

第9号溝跡出土遺物観察表(第288図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
562	須恵器	高台付坏 [122]	5.3	6.9	—	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	底部回転へつ切り後、高台貼り付け	覆土上層	50%
563	須恵器	盤 179	4.1	9.3	—	長石・微塵・針状炭化物	黄灰	普通	底部回転へつ切り後、高台貼り付け	覆土上層	70% PL37
564	須恵器	高盤 —	(4.6)	—	—	長石・微塵	灰オリーブ	普通	頸部外面左回りの回転へつ切り後、脚部貼り付け。窓は4窓式	覆土上層	40%
565	須恵器	短頸壺 (90)	(11.7)	—	—	長石・石英・黒色粒子	灰オリーブ	良好	口辺部及び体部内・外面口クラナ、口辺部内・外面及び体部外面自然釉薬	覆土中	30%

(5) 道路跡

第1号道路跡 (第289図)

位置 調査区南部のD 4 d4～E 3 h0区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第30・51号住居跡、第5号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長さは調査区南端部から北東に25m、北へ17mの間隔をおいてさらに21mを確認し、全長は63mである。路面は幅0.5～1mの中に幅10cm前後の轍状の硬化面が重なり合って形成されている。轍状の硬化面の深さは20～40cmである。

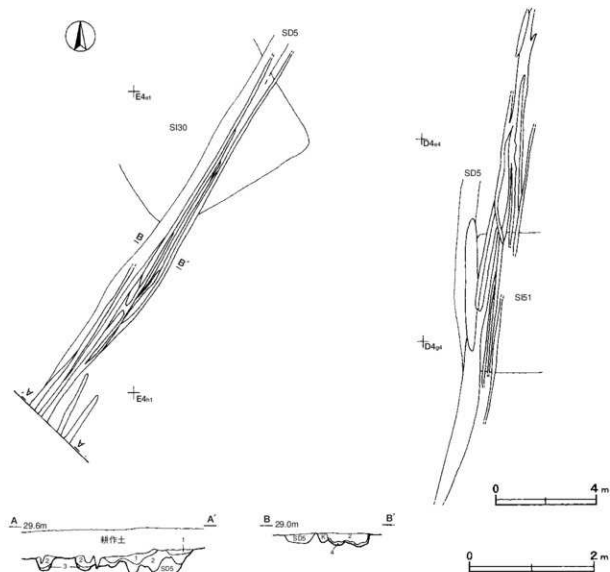
覆土 4層からなり、黒褐色の轍状の硬化層が並列しており、1cm前後の鉄分を含んだ薄い層で分層された。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、白色粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・白色粒子少量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は「口の字状」に配置された建物群の東を沿うようにあり、9世紀代に建物群の倉庫への搬入路として機能していたと推測される。



第289図 第1号道路跡実測図

(6) 柵跡

第1号柵跡 (第290図)

位置 調査区中央部のC3j9~D3b9区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第93号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 4か所の柱穴が直線状に確認された。軸方向はN-6°-Eで、柱間寸法は北から約2.1m(7尺)・約1.8m(6尺)・約2.1m(7尺)であり、ばらつきが見られる。南北方向への延長は認められない。

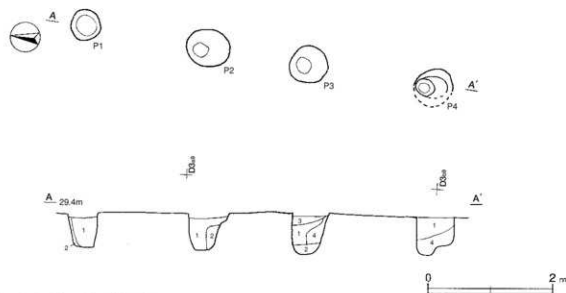
柱穴 P1~4は長径49~68cm、短径48~58cmで、楕円形を呈し、深さは58~65cmである。柱はすべて抜き取られており、ロームブロック・粘土ブロックを含み、締りのない土層である。

土層解説

- | | | | |
|------|-------------------------------|-------|---------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は、配置や軸方向から、近接する第10号掘立柱建物跡と関連した塼として機能していたと想定され、時期は9世紀中葉と考えられる。



第290図 第1号柵跡実測図

第2号柵跡 (第291図)

位置 調査区中央部のC4j3~D4b3区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第19号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。また、第23号掘立柱建物跡と重複しているが、土層の切り合いは認められず、新旧関係は不明である。

規模と形状 4か所の柱穴が直線状に確認された。軸方向はN-9°-Eで、柱間寸法は約1.8m(6尺)を基調としている。また、南北方向への延長は認められない。

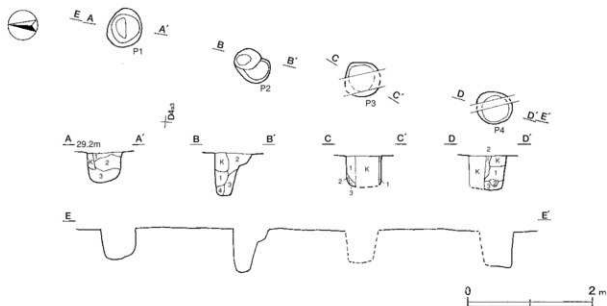
柱穴 P1~P4は長径60~64cm、短径43~55cmで、楕円形を呈し、深さは48~75cmである。柱はすべて抜き取られており、ロームブロック・炭化物を含む土層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化物・焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は、第1号橋跡と規模や軸方向がほぼ一致し、隣接する掘立柱建物跡群と関連した塼として機能していたと想定される。時期は、第19号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから、9世紀中葉以降と考えられる。



第291図 第2号橋跡実測図

(7) 土坑

第85号土坑 (第292図)

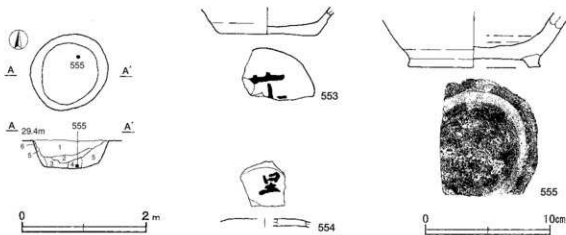
位置 調査区中央部のD3b7区、標高29mほどの台地の平坦部に位置する。

規模と形状 長径1.25m、短径1.16mの円形で、深さは44cm、底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層からなり、ロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 黒色土粒子中量、ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |



第292図 第85号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片5点(坏類4、甕類1)、須恵器片5点(坏類2、蓋1、長頸壺1、甕類1)が出土している。553・554は覆土中、555は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第85号土坑出土遺物観察表 (第292図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
553	須恵器	坏	-	(2.3)	(7.8)	長石・斜状副物	灰色	普通	底部回転ヘラ切	覆土中	10% 筆書 [□]
554	須恵器	蓋	-	(0.7)	-	長石	灰色	普通	大井部左側の回転ヘラ切	覆土中	5% 筆書 [■] +
555	須恵器	壺	-	(4.5)	(10.5)	長石・黒色粒子	黄灰	良好	底部回転ヘラ切後、高台貼り付け	覆土下層	10% 自然釉付着

第112号土坑 (第293図)

位置 調査区中央部のC4j1区、標高29mほどの台地の平坦部に位置する。

規模と形状 長軸1.49m、短軸1.24mの隅丸方形で、長軸方向はN-71°-Wである。深さは14cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。ロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	3 極暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量、黒色土ブロック微量	4 黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片6点(坏類1、甕類5)が出土している。

所見 時期は、8世紀後葉に比定される第114号土坑と並んで位置することから、ほぼ同時期かそれ以降と考えられる。

第113号土坑 (第293図)

位置 調査区中央部のC3j0区、標高29mほどの台地の平坦部に位置する。

規模と形状 長軸1.47m、短軸1.43mの隅丸方形で、長軸方向はN-73°-Wである。深さは36cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層される。ロームブロックを多く含んだ人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック少量	6 極暗褐色	ロームブロック少量

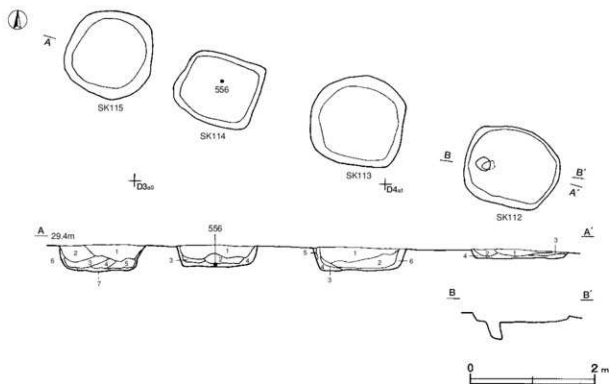
遺物出土状況 土師器片6点(坏類4、甕類2)、須恵器片4点(坏類3、蓋1)が出土している。

所見 時期は、8世紀後葉に比定される第114号土坑と並んで位置することから、ほぼ同時期かそれ以降と考えられる。

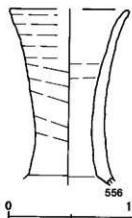
第114号土坑 (第293・294図)

位置 調査区中央部のC3j0区、標高29mほどの台地の平坦部に位置する。

規模と形状 長軸1.28m、短軸1.13mの長方形で、長軸方向はN-69°-Wである。深さは34cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。



第293図 第112～115号土坑実測図



第294図 第114号土坑
出土遺物実測図

第114号土坑出土遺物観察表 (第294図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
556	須恵器	長頸壺	(97)	(14.0)	-	長石	灰黄	良好	口辺部・胴部内外面ロクロナテ	底面	20%自然磨付

覆土 4層に分層される。ロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片5点(坏類1, 変類4), 須恵器1点(長頸壺)が出土している。556は中央部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第115号土坑 (第293図)

位置 調査区中央部のC 3 j9区, 標高29mほどの台地の平坦部に位置する。

規模と形状 長径1.39m, 短径1.36mの円形で, 深さ42cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層に分層される。ロームブロックを多く含み, ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・黒色土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| | | 7 黒褐色 | 黒色土粒子多量、ローム粒子少量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、8世紀後葉に比定される第114号土坑と並んで位置することから、ほぼ同時期かそれ以降と考えられる。

第128号土坑 (第295図)

位置 調査区北部のB3j4区、標高29mほどの台地の平坦部に位置する。

規模と形状 長径1.05m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-87°-Wである。深さは15cm、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

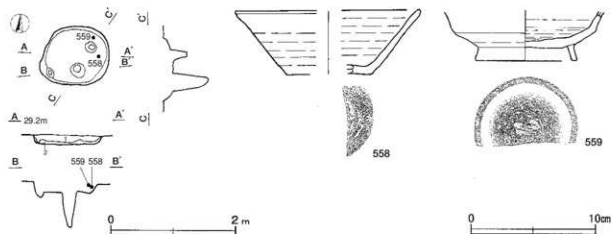
覆土 2層に分層される。ロームブロックを多く含む人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 2 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
|-------|------------------------|------|----------------|

遺物出土状況 土師器片15点(坏類1、甕類14)、須恵器片15点(坏類11、高台付坏2、甕類2)が出土している。558・559は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第295図 第128号土坑・出土遺物実測図

第128号土坑出土遺物観察表 (第295図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
558	須恵器	坏	[14.8]	5.1	[7.0]	長石・微塵	灰白色	普通	底部回転ヘラ切り	覆土下層	15%
559	須恵器	高台付坏	-	(3.9)	8.1	長石・微塵	褐色	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土下層	30%

第141号土坑 (第296図)

位置 調査区中央部のD4a1区、標高29mほどの台地の平坦部に位置する。

重複関係 第19号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

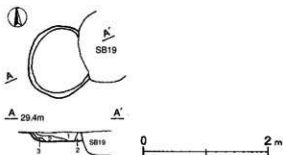
規模と形状 長径1.12m、短径は1.02mが確認され円形と想定される。深さは14cm、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層からなり、ロームブロックを含んだ人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック微量

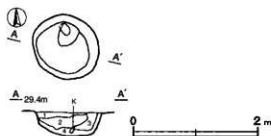
- 3 暗褐色 ロームブロック微量



遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、出土遺物がないため明確には断定できないが、平安時代に比定される第19号掘立柱建物跡に掘り込まれていることから、平安時代またはそれ以前と考えられる。

第296図 第141号土坑実測図



第179号土坑 (第297図)

位置 調査区中央部のC 3 i0区、標高29mほどの台地の平坦部に位置する。

規模と形状 長径1.10m、短径1.00mの円形で、深さは38cm、底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層からなり、ロームブロックを多く含む人為堆積と考えられる。

第297図 第179号土坑実測図

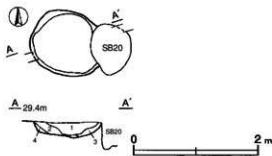
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子中量

- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
4 暗褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片1点(甕類1)、須恵器片4点(坏類2、高台付坏1、蓋1)が出土している。

所見 時期は、出土土器から平安時代と考えられる。



第181号土坑 (第298図)

位置 調査区中央部のC 4 h1区、標高29mほどの台地の平坦部に位置する。

重複関係 第20号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.96m、短径0.95mの楕円形と想定され、長径方向はN-65°-Wである。深さは22cm、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層からなり、ロームブロック・粒子を多く含んだ人為堆積と考えられる。

第298図 第181号土坑実測図

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子少量

- 3 暗褐色 ローム粒子少量
4 明褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、出土遺物がないたため明確ではないが、平安時代に比定される第20号掘立柱建物跡に掘り込まれていることから、平安時代またはそれ以前と考えられる。

第183号土坑 (第299図)

位置 調査区中央部のD 4 b2区、標高29mほどの台地の平坦部に位置する。

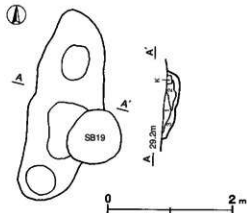
重複関係 第19号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径3.04m、短径1.12mの長楕円形で、長径方向はN-12°-Eである。深さは24cmで、底面は皿状で、凹凸が見られる。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層からなり、ローム粒子を多く含んだ人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・黒色土粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子中量
3 暗褐色 ロームブロック少量



第299図 第183号土坑実測図

遺物出土状況 混入と考えられる縄文土器片2点(鉢2)が出土している。

所見 時期は平安時代に比定される第19号掘立柱建物に掘り込まれていることから、平安時代またはそれ以前と考えられる。

7 近世の遺構と遺物

炭焼窯跡5基、墓塚1基が確認された。

(1) 炭焼窯跡**第1号炭焼窯跡 (第300図)**

位置 調査区南東部のE 4 c9区、標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第36・37号掘立柱建物跡、第4号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長軸6.28m、短軸1.27mの羽子板形で、主軸方向はN-42°-Eである。

前庭部 長軸2.83m、短軸2.50mの不整長方形を呈し、底面は平坦で、焚口部に向かって緩やかに傾斜している。

炭化室 平面形は長軸2.65m、短軸1.27mの楕円形を呈し、遺存する壁高は60cmである。覆土中に粘土ブロックが多く含まれることから、窯壁は粘土を貼って構築されていたと考えられ、外傾して立ち上がっている。窯底は煙道部に向かって緩やかに傾斜している。

焚口部 平面形は長軸1.20m、短軸0.94mの長方形である。閉塞部は幅16~28cmである。

煙道部 奥壁中央に位置し、ほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土 7層に分層される。焼土ブロックや粘土ブロックを多く含む人為堆積と考えられる。第2層は焼土プロ

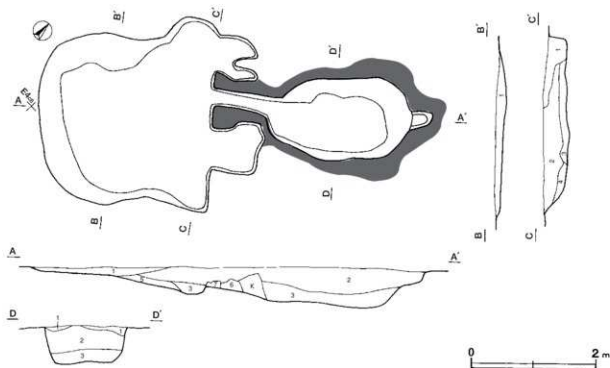
ックや粘土ブロックを多く含み、窯壁の崩落土と考えられる。

土層解説

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量 | 5 黒褐色 炭化物多量、ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック多量 | |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・砂多量 | 6 にくい赤褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 4 暗赤褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量 | 7 にくい赤褐色 粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 規模や形状から第5号炭窯跡とはほぼ同時期に構築されたものと考えられる。



第300図 第1号炭焼窯跡実測図

第2号炭焼窯跡 (第301図)

位置 調査区中央部のC 4 e6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第60号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長軸6.48m、短軸1.50mの弧形で、主軸方向はN-74°-Wである。

前庭部 長軸3.75m、短軸3.54mの不整形を呈し、底面は平坦で、焚口部に向かって緩やかに傾斜している。

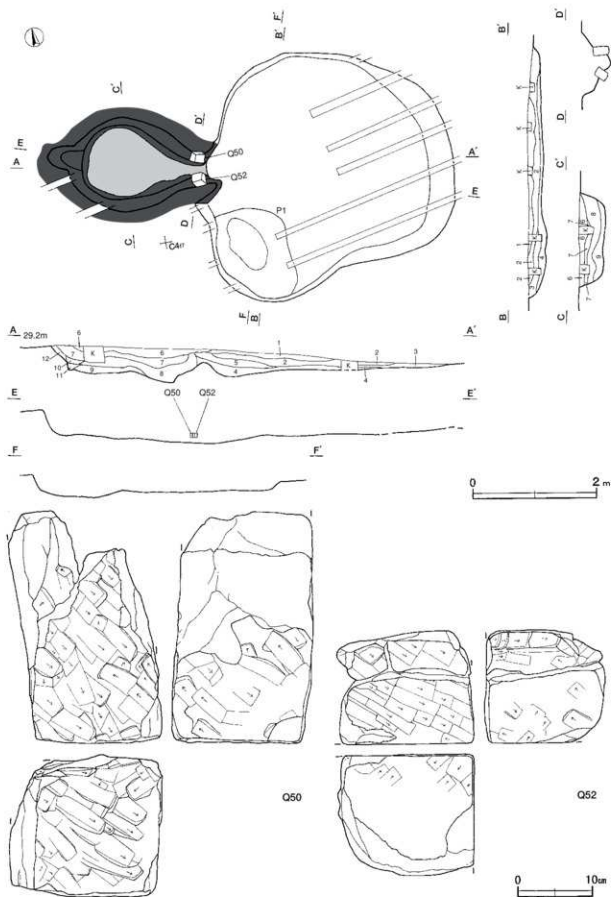
南西部には焚口の閉塞に伴う深さ10cmの浅い窪みが1か所確認されている。

炭化室 平面形は長軸2.52m、短軸1.50mの馬蹄形で、遺存する壁高は42cmである。窯壁は厚さ16~54cmの粘土を貼って構築され、外傾して立ち上がり、窯底は火熱で赤変している。また、径10cm前後の礫が散在して出土しており、操業時は全面に敷き詰められていたと想定される。

焚口部 平面形は長軸0.54m、短軸0.24mの長方形である。閉塞部は幅22~26cmで、凝灰質泥岩の構築材で閉塞されていたと考えられる。

煙道部 奥壁中央に位置し、外傾して立ち上がっている。

ピット P 1は規模や配置から焚口の閉塞用の粘土を掘るために付設されたものと考えられる。



第301图 第2号炭烧窑跡・出土遺物実測図

覆土 12層からなる。焼土ブロック・炭化物・粘土ブロックを多く含んだ人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック・粘土ブロック微量	7 に近い赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量、粘土ブロック微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量	8 赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物・粘土ブロック・礫微量
3 黒褐色	炭化物中量、焼土ブロック少量	9 に近い赤褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量
4 灰赤色	焼土ブロック中量、炭化物・粘土ブロック少量	10 に近い赤褐色	炭化物中量、焼土ブロック微量
5 に近い赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・粘土ブロック微量	11 に近い赤褐色	焼土ブロック少量、炭化物・粘土ブロック微量
6 暗赤褐色	炭化物少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量	12 赤褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 切石33点（構築材）のほか、混入した土師器片5点（甕類）、須恵器片6点（坏類3、高盤1、甕類2）が出土している。Q50・52は焚口部の底面から出土し、いずれも焚口の構築材である。

所見 規模や形状から第5号炭窯跡とほぼ同時期に構築されたものと考えられる。

第2号炭焼窯跡出土遺物観察表（第301図）

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q50	構築材	(30.7)	20.4	18.8	(6735.9)	凝灰質泥岩	3面に槌状工具による整形痕	焚口部底面	被熱面 焚口部 焼柱 PL41
Q52	構築材	(14.8)	(18.3)	(16.0)	(2975.1)	凝灰質泥岩	3面に槌状工具による整形痕	焚口部底面	焚口部焼柱

第3号炭焼窯跡（第302・303図）

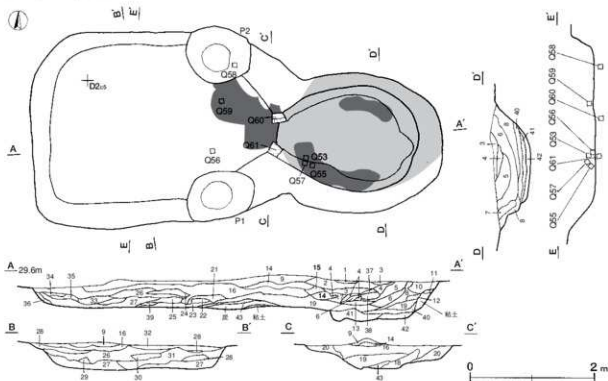
位置 調査区西部のD 2 c5区、標高29mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.51m、短軸2.24mの羽子板形で、主軸方向はN-89°-Eである。

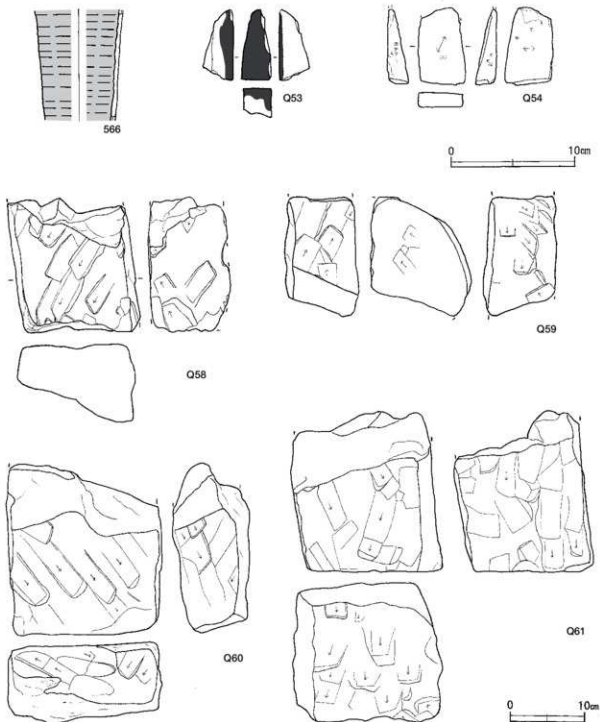
前庭部 長軸3.78m、短軸3.15mの不整長方形を呈し、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。北東部と南東部には、焚口の閉塞に伴うピットがそれぞれ確認されている。

炭化室 平面形は長軸2.46m、短軸2.24mの楕円形を呈し、遺存する壁高は58cmで、外傾して立ち上がっている。窯底は火熱で赤変している。

焚口部 平面形は長軸0.66m、短軸0.24mの方形である。閉塞部は幅28~42cmで、凝灰質泥岩の構築材で閉塞したものと考えられる。



第302図 第3号炭焼窯跡実測図



第303図 第3号炭焼窯跡出土遺物実測図

ピット 2か所。いずれも、規模や配置から焚口の閉塞用の粘土を捏ねるために付設されたものと考えられる。

覆土 43層からなる。焼土ブロック・炭化物・粘土ブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|------------------------|----|--------|-----------------------|
| 1 | にふい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 | 7 | にふい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量 | 8 | 赤色 | 焼土粒子多量、灰少量 |
| 3 | にふい赤褐色 | 焼土ブロック中量、灰少量 | 9 | 灰赤色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 | 赤黒色 | 炭化物多量、焼土粒子・灰少量 | 10 | 灰赤色 | 焼土ブロック・炭化物少量、灰微量 |
| 5 | 暗赤褐色 | 微塵中量、焼土ブロック・炭化物・灰少量 | 11 | 明赤褐色 | 焼土粒子多量、灰中量 |
| 6 | 暗赤褐色 | 炭化物中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 12 | 赤褐色 | 焼土ブロック少量 |

13	麻暗赤褐色	炭化物・焼土粒子・細礫少量	29	暗赤褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
14	赤黒色	炭化物多量、焼土ブロック・細礫少量	30	麻暗赤褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
15	暗赤褐色	焼土ブロック・細礫少量	31	にぶ赤褐色	炭化物中量、焼土ブロック少量
16	赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量	32	麻暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
17	暗赤灰色	焼土粒子中量、炭化粒子少量	33	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
18	暗赤灰色	粘土粒子多量、焼土粒子・灰少量	34	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
19	暗赤褐色	焼土ブロック多量、灰中量、炭化物微量	35	にぶ赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
20	褐色	ローム粒子多量	36	褐色	ローム粒子多量
21	赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量	37	明赤褐色	焼土ブロック中量
22	黒褐色	炭化物・焼土粒子微量	38	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
23	暗赤褐色	焼土ブロック中量、灰少量、炭化物微量	39	暗赤褐色	炭化粒子中量、焼土ブロック少量
24	赤黒色	炭化物中量、焼土ブロック少量	40	暗赤褐色	細礫多量、焼土粒子中量
25	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	41	灰赤色	焼土粒子多量、細礫少量
26	にぶ赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	42	灰赤色	焼土粒子多量
27	黒褐色	炭化物多量、焼土粒子・細礫少量	43	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量
28	赤褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量			

遺物出土状況 切石201点（構築材）のほか、混入した縄文土器片1点（不明）、弥生土器片1点（壺）、土師器片2点（甕類）、須恵器片1点（蓋）、陶器片6点（徳利）が出土している。566・Q54は覆土中から出土し混入したものと考えられる。Q59は前庭部の底面、Q58はP2の覆土、Q53は炭化室の覆土下層、Q60・Q61は焚口部の底面から出土し、いずれも焚口の構築材と考えられる。

所見 規模や形状から第5号炭焼窯跡とほぼ同時期に構築されたものと考えられる。

第3号炭窯跡出土遺物観察表（第303図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
566	陶器	徳利	—	(8.9)	—	灰色 堅緻	褐灰	良好	ロクロ成形、外部外面区画、内面鉄軸	覆土中	瀬戸・美濃系

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q53	構築材	9.5	4.0	4.9	187.2	砂質	4面に張付着	炭化室下層	
Q54	砥石	(10.2)	6.4	2.9	(249.0)	頁岩	砥面4面	覆土中	
Q58	構築材	17.8	17.6	10.8	(1686.0)	凝灰質泥岩	3面に鑿状工具による整形痕	P2覆土中	
Q59	構築材	(15.8)	(13.6)	5.6	(1017.7)	凝灰質泥岩	1面は砥状、3面に鑿状工具による整形痕	前庭部底面	焚口の閉塞用
Q60	構築材	(22.5)	20.5	10.5	(2736.5)	凝灰質泥岩	4面に鑿状工具による整形痕	焚口部底面	焚口部軸材
Q61	構築材	(21.3)	20.1	18.6	(4526.5)	凝灰質泥岩	5面に鑿状工具による整形痕	焚口部底面	焚口部軸材 孔口

第4号炭焼窯跡（第304図）

位置 調査区東部のC216区、標高29mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と形状 平面形は長軸5.64m、短軸1.55mの羽子板形で、主軸方向はN-106°-Eである。

前庭部 長軸5.64m、短軸1.55mの不整長方形を呈し、底面は平坦で、焚き口部に向かって緩やかに傾斜している。北東部には窓口の閉塞に伴うピット1か所が確認されている。底面の西側は炭化材で覆われている。

炭化室 平面形は長軸2.30m、短軸1.55mの馬蹄形で、遺存する壁高は10cmである。粘土を貼って構築された北壁の一部が遺存している。窯底及び窯壁は火熱で赤変している。

焚口部 平面形は長軸0.60m、短軸0.27mの長方形を呈し、幅82×86cmで、前庭部と炭化室から礫が出土していることから凝灰質泥岩の構築材で閉塞したと考えられる。

煙道部 奥壁中央に位置し、外傾して立ち上がっている。

ピット P1は深さ24cmで、規模や配置から見て、焚口の閉塞用の粘土を掘るために付設されたものと考えられる。

覆土 29層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

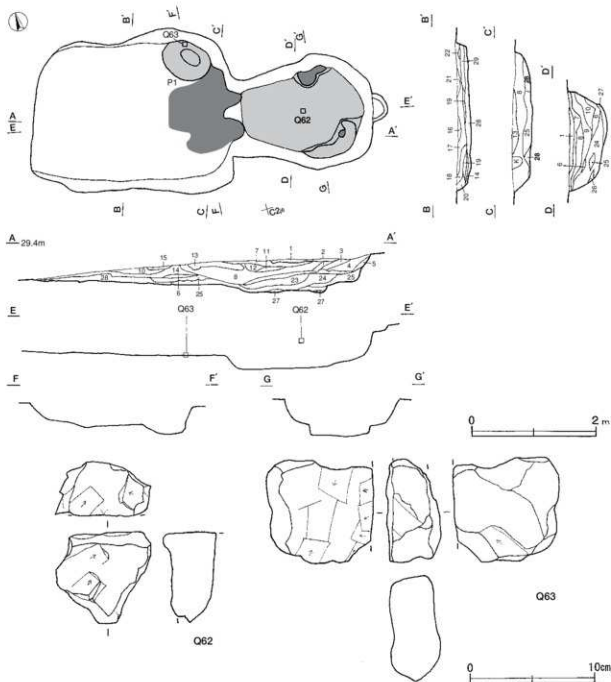
土層解説

1	にぶ赤褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	3	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂少量
2	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	4	にぶ赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量

- 5 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子中量
- 6 暗赤褐色 焼土ブロック多量
- 7 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 8 灰 褐色 焼土ブロック・炭化物少量
- 9 暗赤褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量
- 10 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物中量
- 11 黒 褐色 炭化物中量、焼土粒子微量
- 12 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・灰少量
- 13 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 14 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 15 暗赤褐色 焼土ブロック中量
- 16 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 17 暗赤褐色 炭化物中量、粘土ブロック・焼土粒子少量

- 18 暗赤褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 19 明 褐色 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 20 褐 褐色 ローム粒子多量
- 21 灰 褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 22 黒 炭化物多量
- 23 暗赤褐色 炭化粒子中量、灰少量
- 24 赤 褐色 焼土粒子多量
- 25 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量
- 26 明赤褐色 灰多量、焼土粒子微量
- 27 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・灰中量
- 28 赤 褐色 炭化物多量、焼土粒子微量
- 29 赤 黒色 炭化粒子多量

遺物出土状況 切石52点(構架材)のほか、混入した土師器片3点(甕類2、瓶1)が出土している。Q62は炭化室の覆土上層、Q63はP1の覆土上層からそれぞれ出土し、いずれも笑口の構架材と考えられる。



第304図 第4号炭焼窯跡・出土遺物実測図

所見 規模や形状から第5号炭焼窯跡とはほぼ同時期に構築されたものと考えられる。

第4号炭窯跡出土遺物観察表 (第304図)

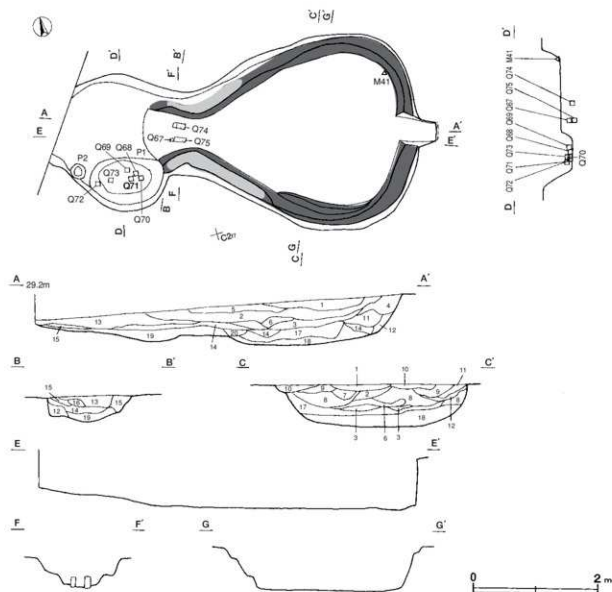
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q62	構築材	(7.2)	(7.6)	(4.2)	(139.1)	凝灰質泥灰	2面に鑿状工具による整形痕	炭化室上層	被焼痕
Q63	構築材	(8.3)	3.3	(8.5)	(151.7)	凝灰質泥灰	3面に鑿状工具による整形痕	P1 覆土下層	

第5号炭焼窯跡 (第305～307図)

位置 調査区東部のC 27区、標高29mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と形状 平面形は長軸6.03m、短軸1.33mの橢円で、主軸方向はN-106°-Eである。

前庭部 長軸2.16m、短軸1.71mだけが確認され、北西部が調査区域外に伸びているため、正確な平面形は不明である。底面は平坦で、焚き口部に向かって緩やかに傾斜している。南側には大小2か所のピットが確認されている。

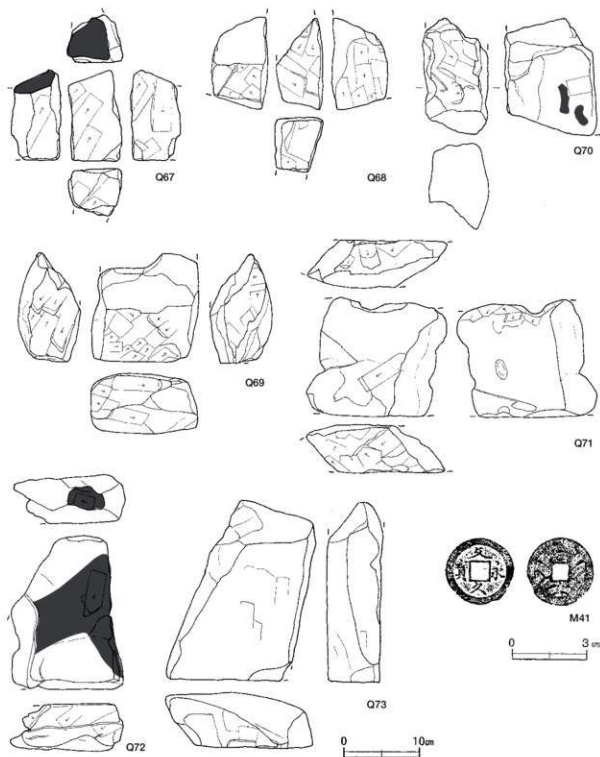


第305図 第5号炭焼窯跡実測図

炭化室 平面形は長軸3.79m、短軸2.61mの馬蹄形を呈し、遺存する壁高は70cmである。室壁は厚さ10～24cmの粘土を貼って構築され、外傾して立ち上がっている。焚き口部付近の室壁は火熱で赤変している。底面には炭化材が多量に残存している。

焚き口部 平面形は長軸1.31m、短軸0.49mの楕円形である。底面は溝状を呈しており、凝灰質泥岩の構築材で閉塞したと考えられる。

煙道部 奥壁中央に位置し、直に立ち上がっている。



第306図 第5号炭焼窯跡出土遺物実測図(1)

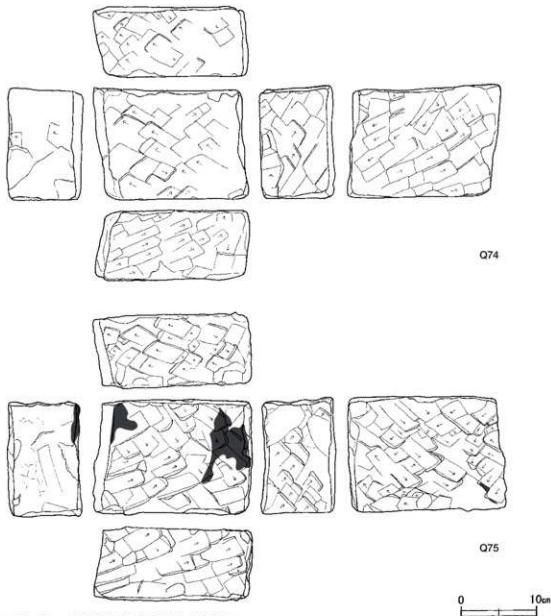
ピット 2か所。P 1は深さ17cmで、規模や配置から見て、焚口の閉塞に用いる粘土を掘ねるために付設されたものと考えられる。P 2は深さ20cmで、上屋の柱穴の可能性も考えられるが、明確ではない。

覆土 20層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	にぶい赤褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量	11	黒褐色	炭化物・灰少量
2	暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量	12	黒褐色	炭化物中量、ロームブロック微量
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物・灰中量	13	明赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物・粘土ブロック・灰少量
4	灰赤色	炭化物多量、焼土粒子・灰中量	14	暗赤褐色	炭化物中量、焼土粒子少量
5	暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量	15	灰赤色	粘土ブロック多量、焼土粒子中量
6	灰褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量	16	にぶい赤褐色	灰中量、焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量
7	灰赤色	粘土ブロック多量、炭化物・灰中量、焼土ブロック少量	17	橙赤色	焼土ブロック・粘土粒子多量
8	赤灰色	灰多量、炭化物中量、焼土粒子少量	18	赤黒色	焼土粒子少量、炭化物微量
9	暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・灰少量	19	極暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量、炭化物少量
10	暗赤褐色	ローム粒子多量、灰少量、焼土粒子・炭化粒子微量	20	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物・粘土粒子少量

遺物出土状況 切石25点(構築材)、銅製品1点(古銭)のほか、混入した土師器片1点(堯類)が出土している。Q68・Q73は、前庭部南側のP 1の覆土中層から下層にかけて出土し、廃棄されたものと考えられる。



第307図 第5号炭焼窯跡出土遺物実測図(2)

Q67・Q74・Q75は焚口部の底面から出土しており、いずれも焚口の構築材と考えられる。M41は炭化室の北東部の覆土下層から出土し、本跡の時期判断の資料である。

所見 時期は、出土した古銭の初鋳年である江戸時代文久3年(1863年)以降に構築されたものと考えられる。

第5号炭窯跡出土遺物観察表(第306・307図)

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M41	文久永寶	2.7	0.7	(4.3)	文久3年(1863)	銅	四文銭 背面に十一浪	炭化室下層	一部欠損 PL44

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q67	構築材	12.1	7.3	(6.6)	(272.3)	凝灰質泥岩	1面に保付着。4面に鑿状工具による整形痕	焚口部底面	
Q68	構築材	(12.2)	6.3	(7.5)	(257.0)	凝灰質泥岩	4面に鑿状工具による整形痕。1面に鑿状痕	P1覆土下層	
Q69	構築材	(14.5)	14.0	(8.2)	(683.5)	凝灰質泥岩	4面に鑿状工具による整形痕	P1覆土中層	
Q70	構築材	(15.5)	8.7	(12.4)	(772.1)	凝灰質泥岩	4面に鑿状工具による整形痕	P1覆土中層	
Q71	構築材	15.9	18.5	6.3	(875.9)	凝灰質泥岩	1面に鑿状工具による整形痕	P1覆土中層	2孔を有する
Q72	構築材	20.4	14.9	6.2	(920.3)	凝灰質泥岩	5面に保付着。3面に鑿状工具による整形痕	P1覆土中層	
Q73	構築材	(19.6)	(24.0)	7.4	(1491.7)	凝灰質泥岩	3面に鑿状工具による整形痕。7面に保付着	焚口部底面	
Q74	構築材	14.9	20.5	10.0	(2234.2)	凝灰質泥岩	4面に鑿状工具による整形痕。1面に保付着	焚口部底面	
Q75	構築材	15.4	21.0	9.9	(2285.0)	凝灰質泥岩	6面に鑿状工具による整形痕。3面に保付着	焚口部底面	

(2) 墓壇

第1号墓壇(第308図)

位置 調査区東部のD5d6区、標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第42号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.60m、短径1.52mの円形で、深さ24cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直に立ち上がっている。

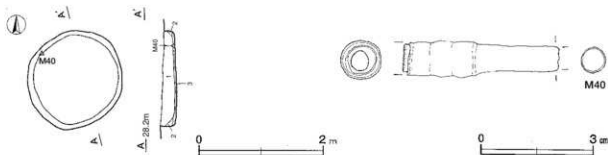
覆土 3層に分層される。ロームブロック・砂子を多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 3 黒褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 金属製品1点(煙管)が出土している。M40は、北壁際の床面から出土している。

所見 時期は、煙管の吸口の形態から17世紀後葉から18世紀中葉と考えられる。



第308図 第1号墓壇実測図

第1号墓壇出土遺物観察表(第308図)

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M40	煙管(吸口)	(4.1)	0.9	0.6	(3.6)	銅	継ぎ目有り。内部に罫字と和紙が遺存	底面	PL44

8 その他の遺構と遺物

ピット群4群，溝跡8条，土坑122基が確認された。

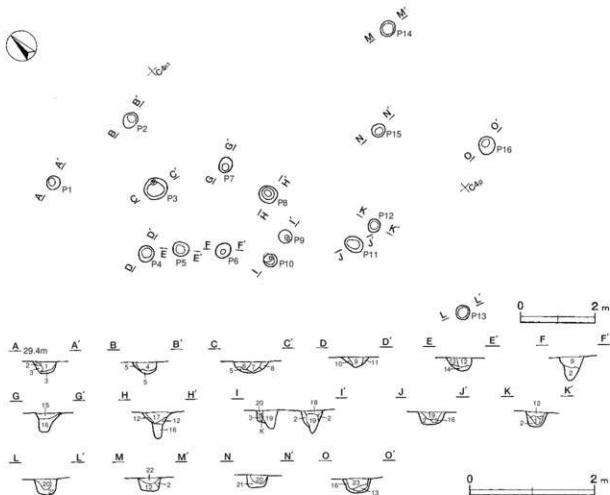
(1) ピット群

第1ピット群（第309図）

調査区中央部のC 3h0～C 4j1区，標高29mほどの台地上に位置している。東西9.7m，南北10.2mの範囲16基のピットが確認された。平面形は円形または楕円形で，ピットの配列に規則性は見られず，竪穴住居跡や掘立柱建物跡を想定することも困難である。人為的な埋め戻しの痕跡が見られ，柱はすべて抜き取られたものと考えられるが，底面に柱の当りは見られなかった。出土遺物もなく，時期・性格ともに不明である。以下各柱穴の覆土の土層解説を示し，規模を表にまとめる。

土層解説

1	黒褐色	黒色ブロック・ローム粒子少量	13	暗褐色	ローム粒子中量
2	褐色	ロームブロック中量	14	暗褐色	ローム粒子多量
3	褐色	ロームブロック少量	15	暗褐色	黒色粒子少量，ロームブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子中量，黒色粒子少量	16	暗褐色	ロームブロック中量
5	褐色	ローム粒子多量	17	黒褐色	ロームブロック微量
6	褐色	ローム粒子多量，黒色粒子少量，炭化物微量	18	暗褐色	ローム粒子中量
7	黒褐色	黒色粒子中量，ローム粒子少量	19	暗褐色	ロームブロック・黒色ブロック少量
8	暗褐色	ローム粒子・黒色粒子少量	20	暗褐色	ローム粒子少量
9	暗褐色	黒色ブロック・ローム粒子少量	21	褐色	ローム粒子多量
10	褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	22	黒褐色	ロームブロック・黒色ブロック少量
11	褐色	ロームブロック少量	23	黒褐色	ローム粒子少量
12	暗褐色	ロームブロック少量			



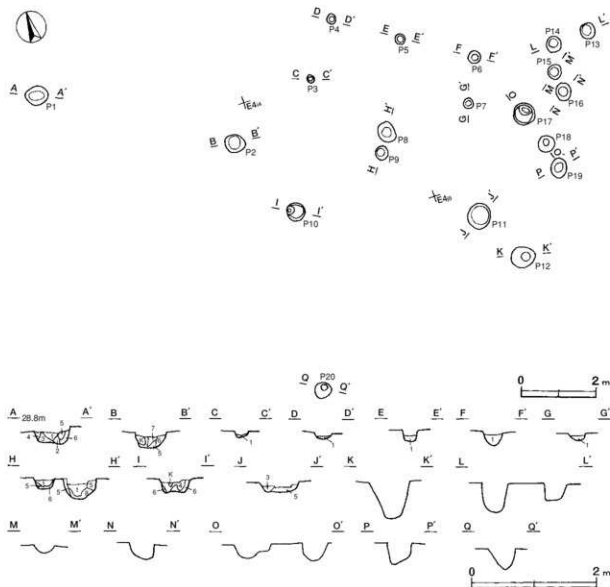
第309図 第1ピット群実測図

第1ピット群計測表

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	36	34	19	P 7	42	36	30	P13	37	34	25
P 2	42	34	19	P 8	48	46	41	P14	40	36	22
P 3	60	56	18	P 9	33	32	36	P15	36	34	21
P 4	44	42	18	P10	34	33	30	P16	48	42	22
P 5	40	38	22	P11	51	41	20				
P 6	44	37	38	P12	36	32	24				

第2ピット群 (第310図)

調査区南部のE 4 h2～E 4 j5区、標高28mほどの台地上に位置している。東西14.8m、南北10.4mの範囲内20基のピットが確認された。平面形は円形または楕円形で、P 4～P 6・P 15は直線状に並ぶことから横跡の可能性も想定されるが、明確でない。その他のピットの配列には規則性は見られず、竪穴住居跡や掘立柱建物跡を想定することも困難である。人為的な埋め戻しの痕跡が見られ、柱はすべて抜き取られたものと考えられ



第310図 第2ピット群実測図

るが、底面に柱の当りは見られなかった。出土遺物もなく、時期・性格ともに不明である。以下各柱穴の覆土の土層解説を示し、規模を表にまとめる。

P1～11土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |

第2ピット群計測表

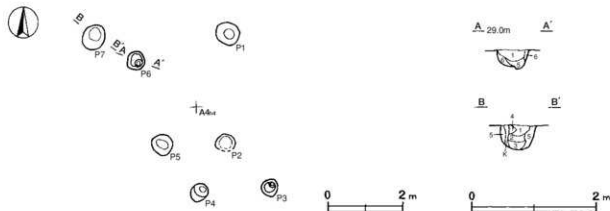
番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	60	54	28	P 8	54	46	34	P 15	37	34	12
P 2	32	30	25	P 9	36	34	17	P 16	44	40	26
P 3	22	21	9	P 10	50	48	22	P 17	28	26	23
P 4	26	24	8	P 11	64	58	16	P 18	46	38	28
P 5	26	25	18	P 12	62	56	58	P 19	48	39	35
P 6	32	30	21	P 13	42	40	28	P 20	46	39	33
P 7	28	26	10	P 14	42	40	46				

第3ピット群 (第311図)

調査区北部のA 4g3～A 4h4区、標高29mほどの台地上に位置している。東西4.7m、南北5.1mの範囲内から7基のピットが確認された。P1～P5が第69号住居跡を掘り込んでいる。また、第53号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形は円形または楕円形で、ピットの配列には規則性は見られず、竪穴住居跡や掘立柱建物跡を想定することも困難である。P6・P7からは人為的な埋戻しの痕跡が見られ、柱はともに抜き取られたものと考えられるが、底面に柱の当りは見られなかった。弥生時代後期後半に比定される第69号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降と考えられるが、出土遺物もなく、詳細は不明である。以下各柱穴の土層解説を示し、規模を表にまとめる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|----------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、細り弱い |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 に近い黄褐色 | ロームブロック少量 |



第311図 第3ピット群実測図

第3ピット群計測表

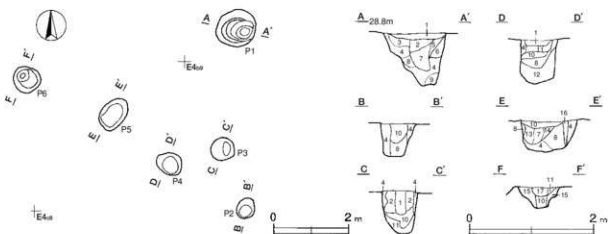
番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	64	56	24	P 4	56	44	22	P 7	67	60	39
P 2	56	48	18	P 5	59	56	35				
P 3	46	40	29	P 6	52	47	33				

第4ピット群 (第312図)

調査区東部のE 4 a9～E 4 c9区、標高28mほどの台地上に位置している。東西6.5m、南北5.6mの範囲内から6基のピットが確認された。平面形は円形または楕円形で、P 2・P 4～P 6は直線状に並ぶことから溝跡の可能性も想定されるが、明確でない。人為的な埋め戻しの痕跡が見られ、柱はすべて抜き取られたものと考えられるが、底面に柱の当りは見られなかった。出土遺物もなく、時期・性格ともに不明である。以下各柱穴の覆土の土層解説を示し、規模を表にまとめる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック少量・焼土粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 16 褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量 | 17 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 9 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |



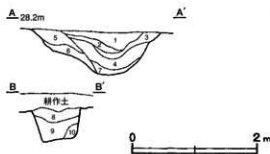
第312図 第4ピット群実測図

第4ピット群計測表

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	98	96	83	P 3	64	62	65	P 5	92	62	50
P 2	56	48	56	P 4	68	57	73	P 6	70	68	38

(2) 溝跡

今回の調査では、奈良・平安時代の第5・9号溝跡のほか8条の溝跡が確認されているが、いずれも時期や性格が不明である。以下、これらの溝跡について、平面図は遺構全体図に示し、遺構の概要について記述し、土層断面図を掲載する。



第313図 第1号溝跡実測図

た。上幅0.77~2.08m, 下幅0.33~0.60m, 深さ67cmである。壁は、外傾して立ち上がり、断面形は北部はU字状、南部は台形状を呈している。底面の標高は北部が27.3m, 南部が27.4mで、北部がわずかに低くなっている。

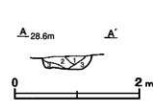
覆土 北部では、二度の掘削痕が認められる。ロームブロックを含み締りがなく、レンズ状の堆積状況を示しているが人為堆積と考えられる。南部はロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼ブロック中量、砂質粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | | |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・鹿沼ブロック微量 | | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 北部の幅が広く、二度の掘削痕が認められ、掘り直されたと考えられる。9世紀中葉に比定される第1・2号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降と考えられるが、出土遺物がなく、時期や性格については不明である。



第314図 第2号溝跡実測図

第1号溝跡 (第313・全体図)

位置 調査区南部のF5c2~F5e1区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第1・2号住居跡を掘り込み、第2号土坑に掘り込まれている。また、第6号溝跡と重複しているが新旧関係については不明である。

規模と形状 北西方向(N-35°-W)に4.0m延び、第1号住居跡付近で、ほぼ直角に北東方向(N-40°-E)に屈曲している。東端は調査区域外に延び、長さは12.9m確認された。

第2号溝跡 (第314・全体図)

位置 調査区南部のF4e8~F5f1区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第1号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 東南東方向(N-125°-E)に直線的に延び、11.8mが確認された。東端は調査区域外に延びている。上幅0.45~0.83m, 下幅0.27~0.64m, 深さ22cmである。壁は外傾して立ち上がり、断面形は台形状である。検出された部分の底面の標高は27.1mで、ほぼ水平である。

覆土 3層に分層される。ロームブロックを多く含んだ締りのない土層で、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 出土遺物がなく、時期・性格ともに不明である。

第3号溝跡 (第315・全体図)

位置 調査区南部のE 4 j8～E 5 f1区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第4～6号住居跡、第8・48号掘立柱建物跡、第6号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北東方向(N-41°-E)に直線状に19.3m伸びている。上幅0.18～0.40m、下幅0.05～0.25m、深さ7～15cmである。

壁は緩やかに立ち上がり、断面形はU字状を呈している。

底面の標高は北部が28.4m、南部が28.5mで、北部がわずかに低くなっている。

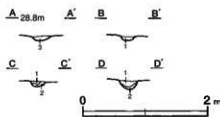
覆土 ロームブロックを多く含んで締りがなく、レンズ状の堆積状況を示しているが人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------|---|-----|------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 | 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | | | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 9世紀前葉に比定される第6号住居跡、第8・48号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから、それ以降と考えられるが、出土遺物がないため、時期や性格ともに不明である。



第315図 第3号溝跡実測図

第4号溝跡 (第316・全体図)

位置 調査区南部のE 3 e6～E 5 g6区、標高29mほどの台地上に位置している。

重複関係 第11・13・36・37号掘立柱建物跡、第2号陥し穴を掘り込み、第1号炭焼窯跡に掘り込まれている。

規模と形状 北東方向(N-45°-E)に直線状に29m伸びた後、第13号掘立柱建物跡付近で東南東方向(N-117°-E)に屈曲する。東端は調査区域外に伸び、長さ101.9mが確認された。上幅0.60～2.38m、下幅0.30～2.10m、深さ9～30cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、断面形は台形状を呈している。底面の標高は南部が29.1m、中央部が28.9m、東部が28.1mで、東部が低くなっている。

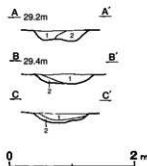
覆土 レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 並行して貯蔵用の芋穴群が確認されていることから、土地区画の性格を持つ溝跡と考えられる。9世紀前葉に比定される第37号掘立柱建物跡を掘り込み、江戸時代の文久3年(1863年)以降に比定される第1号炭焼窯跡に掘り込まれているが、出土遺物がないため、明確な時期は不明である。

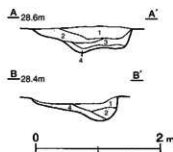


第316図 第4号溝跡実測図

第6号溝跡 (第317・全体図)

位置 調査区南部のE 4 j8～F 5 c3区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2・3号住居跡を掘り込み、第3号溝跡に掘り込まれている。また、第1号溝跡と重複している。



第317図 第6号溝跡実測図

が新旧関係は不明である。

規模と形状 北西方向(N-123°-E)に直線状に22.4m延び、東端は調査区域外に延びている。上幅1.32~1.72m、下幅0.15~0.45m、深さ36~47cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はU字状を呈している。底面の標高は北部が28.1m、東部が27.8mで、東部が若干低くなっている。

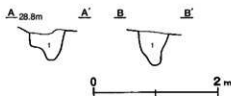
覆土 締りがなく、レンズ状の堆積状況を示しているが人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・黄土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 9世紀中葉に比定される第2・3号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降と考えられるが、出土遺物がないため、時期や性格ともに不明である。



第318図 第7号溝跡実測図

第7号溝跡(第318・全体図)

位置 調査区東部のD4j0~D5h7区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第52号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東北東方向(N-74°-E)に直線状に30m延び、東端は調査区域外に延びている。上幅0.52~0.70m、下幅0.13~0.19m、深さ44~53cmである。壁は外傾して立ち上がり、断面形はU字状を呈している。底面の標高は西部で28.1m、東部で28.0mで、東部がわずかに低くなっている。

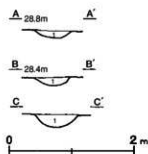
覆土 単一層で締りのない土層であるが、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 8世紀中葉に比定される第52号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降と考えられるが、出土遺物がないため、時期や性格ともに不明である。



第319図 第8号溝跡実測図

第8号溝跡(第319・全体図)

位置 調査区東部のD4a6~D5g7区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第48・50号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東南東方向(N-122°-E)に直線状に50.3m延び、東端は調査区域外に延びている。上幅0.40~1.10m、下幅0.12~0.43m、深さ49~55cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、断面形は台形状を呈している。底面の標高は西部で28.5m、東部で28.2mで、東部が若干低くなっている。

覆土 単一層で締りのない土層であるが、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 4世紀前半に比定される第48号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降と考えられるが、出土遺物がないため、時期や性格ともに不明である。

第10号溝跡 (第320・全体図)

位置 調査区北部のB 4 d5～B 4 b8区、標高29mほどの台地上に位置している。

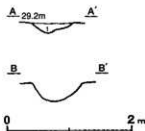
重複関係 第68号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東北東方向(N-67°-E)に直線状に14.8m伸び、東端は調査区域外に延びている。上幅0.28～0.79m、下幅0.05～0.32m、深さ15～30cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、断面形はU字状を呈している。底面の標高は西部が29.1m、東部が28.7mで、東部が若干低くなっている。

覆土 単一層であるが、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



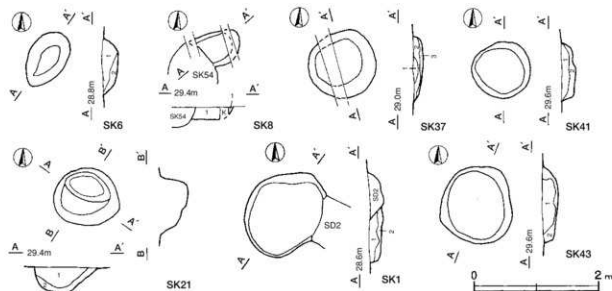
第320図 第10号溝跡実測図

遺物出土状況 遺物は出土していない。

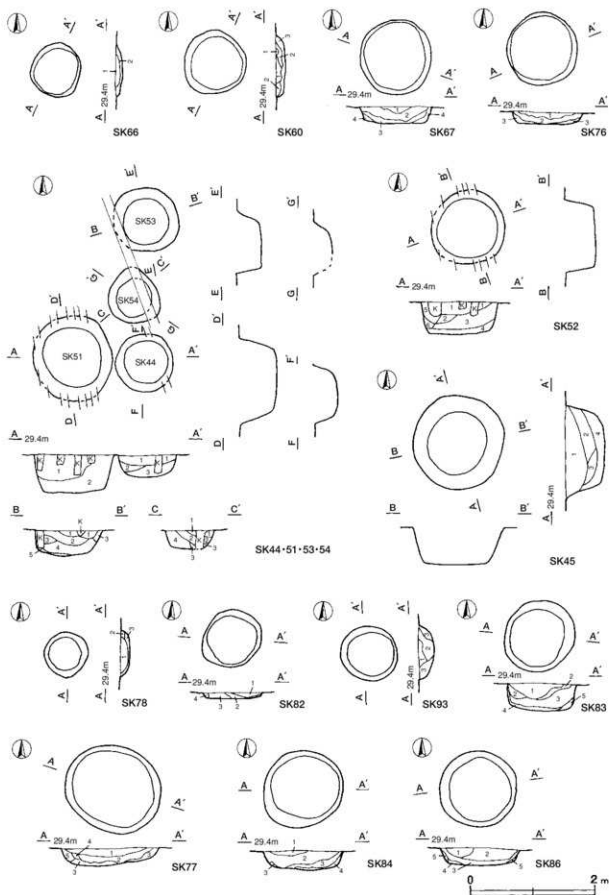
所見 9世紀後葉に比定される第68号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降と考えられるが、出土遺物がないため、時期や性格ともに不明である。

(3) 土坑 (第321～330図)

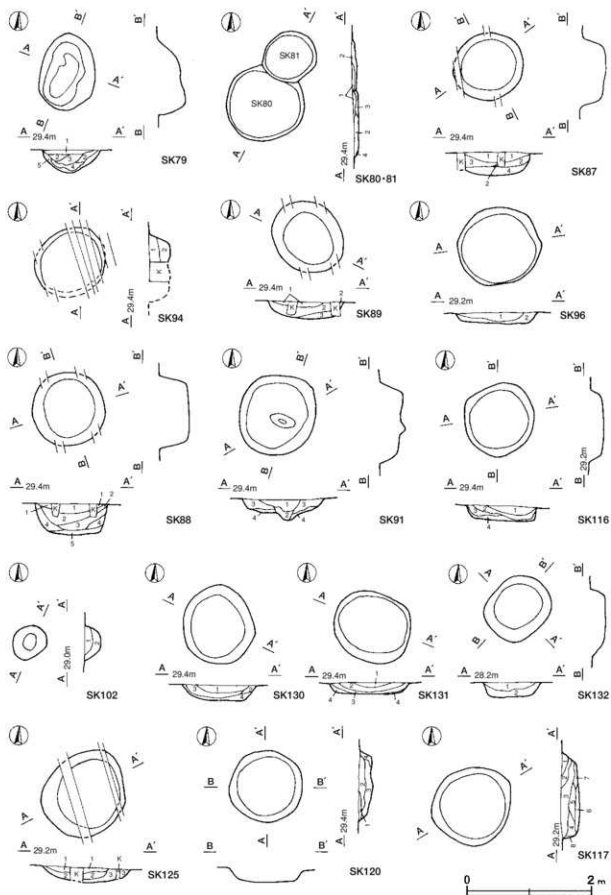
ここでは、時期及び性格が不明な122基の土坑について一覧表で紹介し、あわせて実測図と土層解説を記載する。



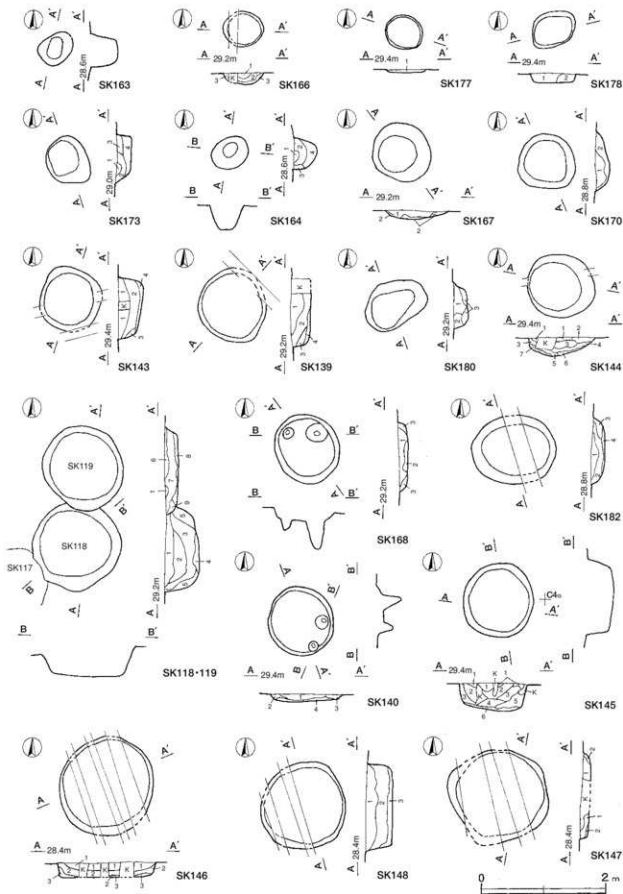
第321図 土坑実測図(1)



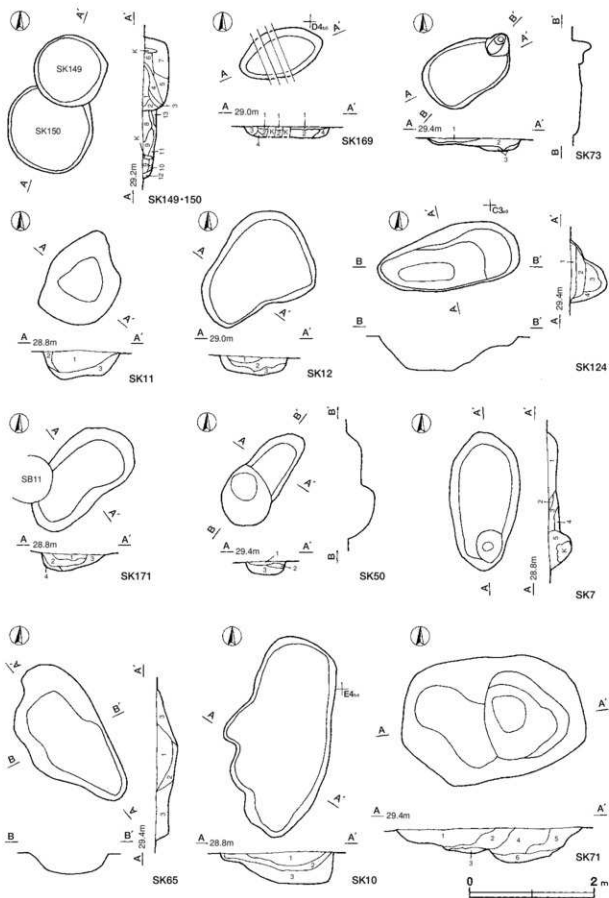
第322圖 土坑実測圖(2)



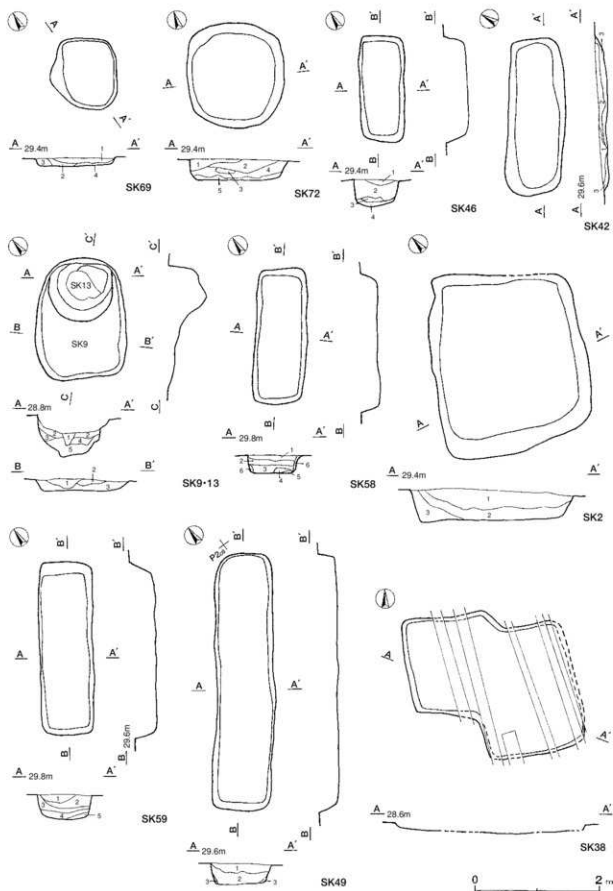
第323图 土坑实测图(3)



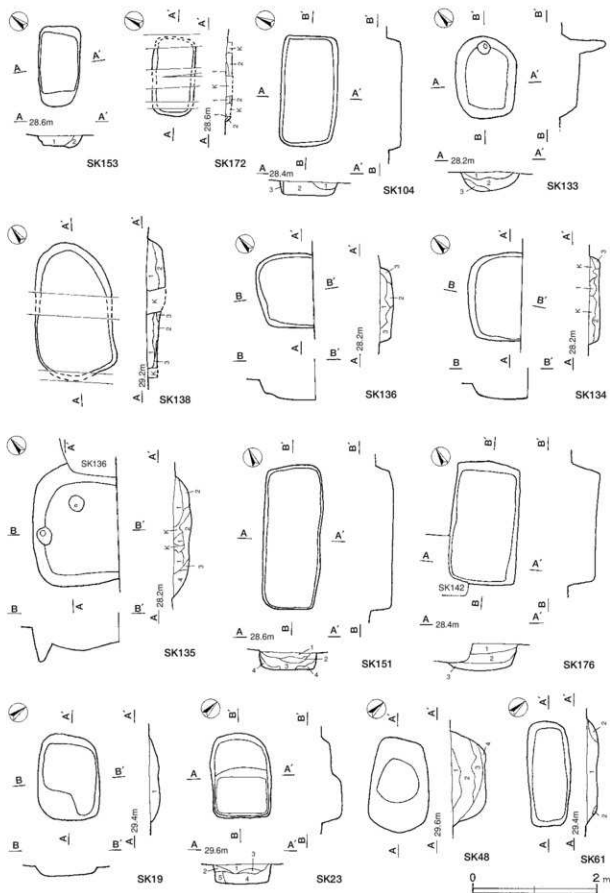
第324圖 土坑実測圖(4)



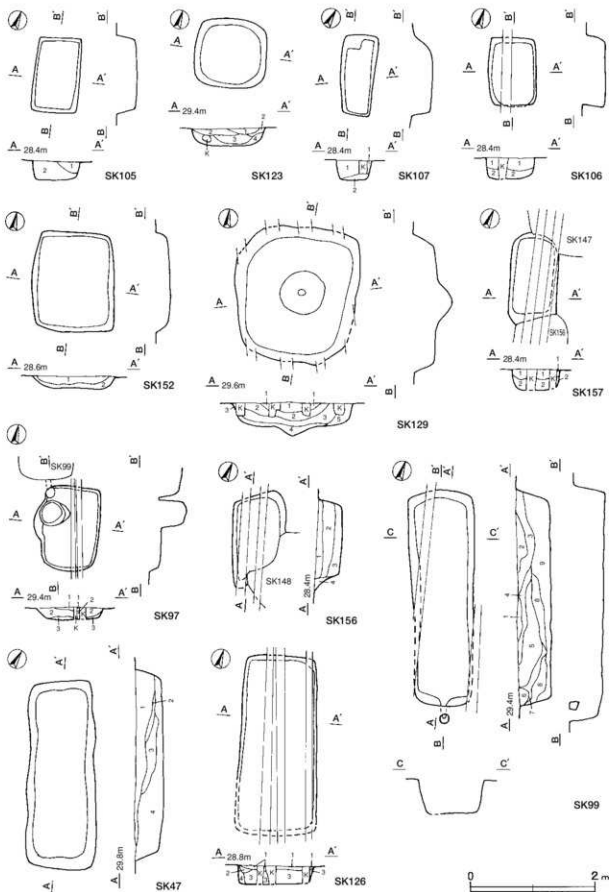
第325图 土坑实测图(5)



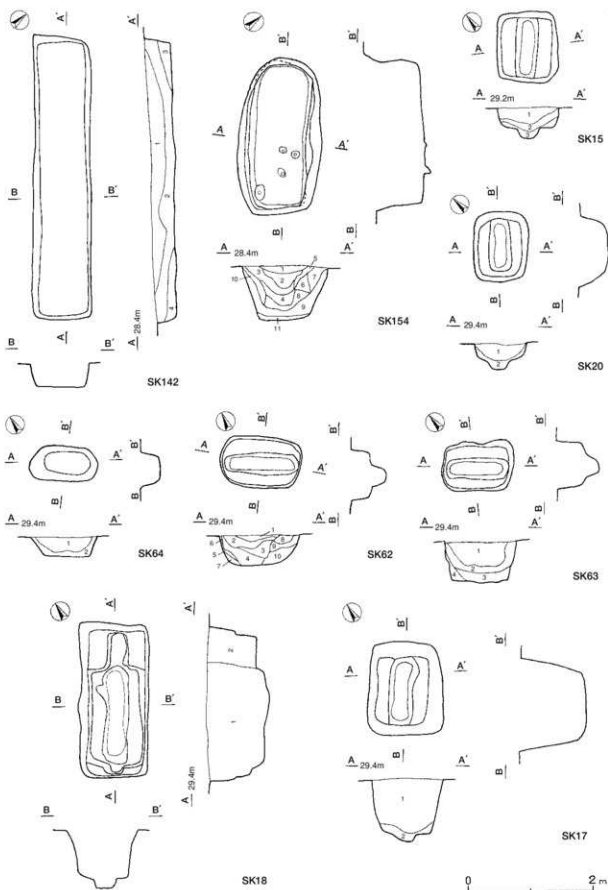
第326图 土坑实测图(6)



第327图 土坑实测图(7)



第328图 土坑实测图(8)



第329图 土坑实测图(9)

その他土坑土層解説

第1号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第2号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼・ミス少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼ブロック微量

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第7号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量

第8号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第9号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第10号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第11号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第12号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第13号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム中量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 焼土ブロック微量、ローム粒子多量

第15号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第17号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第18号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第19号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第20号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第21号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第23号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

第37号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

第41号土坑土層解説

- 1 黒褐色 黒色土ブロック多量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第42号土坑土層解説

- 1 褐色 黒色土ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 黒色土ブロック中量、ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第43号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、炭化物少量

第44号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第45号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第46号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、黒色ブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、黒色粒子少量

第47号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、黒色ブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子中量

第48号土坑土層解説

- 1 黒褐色 黒色粒子多量、ロームブロック微量
- 2 麻暗褐色 ロームブロック・黒色ブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第49号土坑土層解説

- 1 暗褐色 黒色ブロック多量、ロームブロック少量
- 2 麻暗褐色 黒色粒子多量、ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第50号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第51号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

第52号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・鹿沼ブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第53号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第54号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第58号土坑土層解説

- 1 黒褐色 黒色粒子中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック、黒色土ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 黒色粒子多量
- 6 褐色 ローム粒子多量

第59号土坑土層解説

- 1 黒褐色 黒色粒子中量、ロームブロック微量
- 2 棕褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック微量

第60号土坑土層解説

- 1 棕褐色 黒色ブロック中量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、黒色粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第61号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、黒色ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第62号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量、灰少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化物微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量
- 7 暗褐色 ロームブロック微量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量
- 9 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 10 黒褐色 ロームブロック微量

第63号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第64号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・黒色粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第65号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第66号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第67号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量

第69号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第71号土坑土層解説

- 1 黒褐色 黒色粒子中量、ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量

第72号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 棕褐色 黒色土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 黒色土粒子中量、ロームブロック少量

第73号土坑土層解説

- 1 黒褐色 黒色土粒子多量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量
- 3 棕褐色 ロームブロック少量

第76号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・黒色土粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第77号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 棕褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

第78号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第79号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 棕褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・黒色土粒子少量
- 4 棕褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ロームブロック多量

第80号土坑土層解説

- 1 黒褐色 黒色土粒子中量、ロームブロック微量
- 2 棕褐色 黒色土粒子少量、ローム粒子微量
- 3 黒褐色 黒色土ブロック・ローム粒子中量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第81号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第82号土坑土層解説

- 1 暗褐色 黒色土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 黒色土粒子多量、ローム粒子微量
- 3 黒褐色 黒色土粒子多量、ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第83号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 棕褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第84号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 黒色土粒子多量、ローム粒子少量
- 3 暗褐色 黒色土粒子中量、ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第86号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、黒色土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・黒色土ブロック少量
- 4 黒褐色 黒色土粒子多量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第87号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック微量

第88号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子少量

第89号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

第91号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、黒色土ブロック少量
- 2 灰褐色 黒色土ブロック少量、ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、黒色土ブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第93号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第94号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第96号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第97号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第99号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 黒褐色 炭化物多量、ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量
- 6 暗褐色 炭化物中量、ロームブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子多量、炭化物少量
- 8 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 9 黒褐色 炭化物多量、ローム粒子中量、焼土粒子微量

第102号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第104号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第105号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第106号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第107号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第116号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 黒色土粒子中量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 黒色土粒子中量、ローム粒子微量
- 4 黒褐色 黒色土粒子多量

第117号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物微量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 極暗褐色 黒色土粒子多量、ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量

第118・119号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子中量、黒色土粒子少量
- 7 褐色 ロームブロック微量
- 8 暗褐色 ロームブロック微量
- 9 褐色 ロームブロック少量

第120号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第123号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第124号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量

第125号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第126号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第129号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量

第130号土坑土層解説

- 1 暗褐色 黒色土粒子中量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子・黒色土粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第131号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・黒色土ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・黒色土粒子少量
- 3 暗褐色 黒色土ブロック少量、ロームブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第132号土坑土層解説

- 1 褐色 白色微粒子少量
- 2 明褐色 焼土粒子・白色微粒子微量

第133号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、白色微粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、白色微粒子少量
- 3 褐色 白色微粒子微量

第134号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、白色微粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック、白色微粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・白色微粒子微量

第135号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、白色微粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック、白色微粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第136号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、白色微粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、白色微粒子微量

第138号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

第139号土坑土層解説

- 1 灰褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第140号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第142号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第143号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミス微量
- 4 褐色 ロームブロック少量、鹿沼ブロック少量

第144号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 7 明褐色 ローム粒子微量

第145号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第146号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第147号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第148号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 3 棕褐色 ロームブロック少量

第149・150号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームアブロック少量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームアブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームアブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームアブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 6 黒褐色 ロームアブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ロームアブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 8 黒褐色 ロームアブロック・焼土粒子微量
- 9 暗褐色 ロームアブロック少量、焼土ブロック微量
- 10 黒褐色 焼土ブロック微量
- 11 暗褐色 ロームアブロック少量
- 12 褐色 ロームアブロック中量
- 13 褐色 ロームアブロック少量

第151号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームアブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームアブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第152号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームアブロック少量
- 2 暗褐色 ロームアブロック中量

第153号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームアブロック少量
- 2 暗褐色 ロームアブロック微量

第154号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームアブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームアブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームアブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 深い青褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームアブロック微量
- 6 深い青褐色 ロームアブロック少量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ロームアブロック少量、焼土粒子微量
- 8 黒褐色 ロームアブロック・炭化粒子微量
- 9 褐色 ロームアブロック中量
- 10 暗褐色 ロームアブロック・炭化粒子微量
- 11 黒褐色 鹿沼パミス少量、ローム粒子・炭化粒子微量

第156号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームアブロック少量
- 2 暗褐色 ロームアブロック中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームアブロック微量

第157号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームアブロック少量
- 2 暗褐色 ロームアブロック中量

第164号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームアブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームアブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 黒色 ロームアブロック微量

第166号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームアブロック微量
- 2 黒褐色 ロームアブロック中量
- 3 暗褐色 ロームアブロック中量

第167号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームアブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームアブロック少量

第168号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームアブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームアブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームアブロック中量

第169号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームアブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームアブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームアブロック少量

第170号土坑土層解説

- 1 黒褐色 黒色土粒子中量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第171号土坑土層解説

- 1 黒褐色 黒色土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第172号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒暗褐色 ロームブロック少量

第173号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第176号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第177号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第178号土坑土層解説

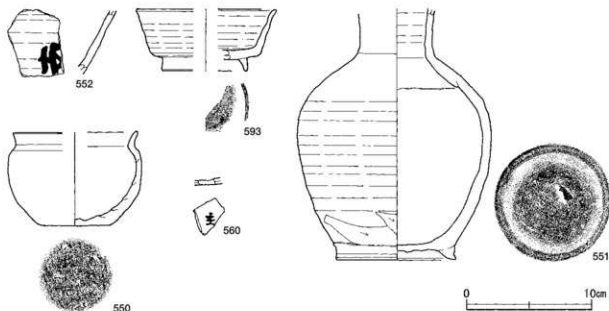
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第180号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第182号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量



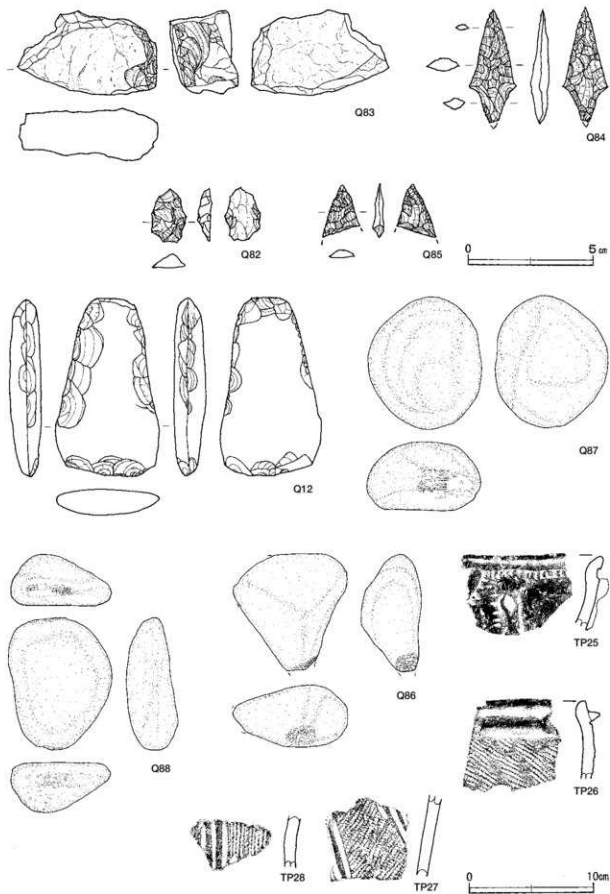
第330図 第8・50・73・149号土坑出土遺物実測図

第8・50・73・149号土坑出土遺物観察表 (第330図)

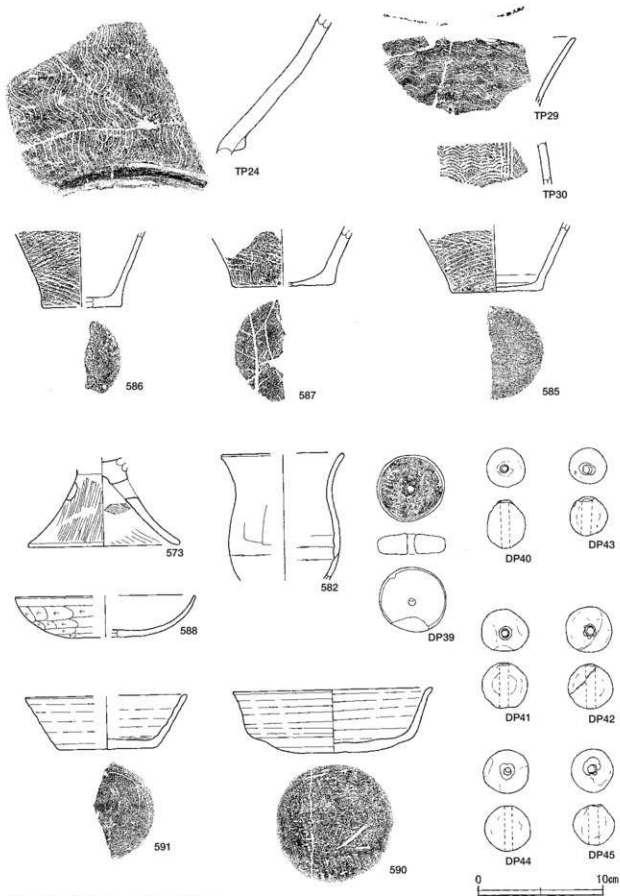
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
552	土師器	坏	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	体部内面へラ磨き	SK73覆土中	5% 墨書「雨」
560	須恵器	坏	-	(0.6)	-	長石・微塵	灰	普通	底部回転へラ切り	SK149覆土中	5% 墨書「上」
593	須恵器	高台付坏	(11.2)	4.9	(7.0)	長石・石英	灰	普通	底部回転へラ切り後, 高台貼り付け	SK8覆土中	30%
550	土師器	小型壺	(9.8)	7.4	5.6	長石・石英	にぶい褐色	普通	口辺部内外面ナデ	SK50覆土中層	80% PL30
551	須恵器	長頸壺	-	(20.2)	9.4	長石・微塵	褐色	普通	底部回転へラ切り後, 高台貼り付け, 体部外面下端へラ磨き	SK50覆土中層	85% PL31 底端へラ磨き[中]

(4) 遺構外出土遺物 (第331~334図)

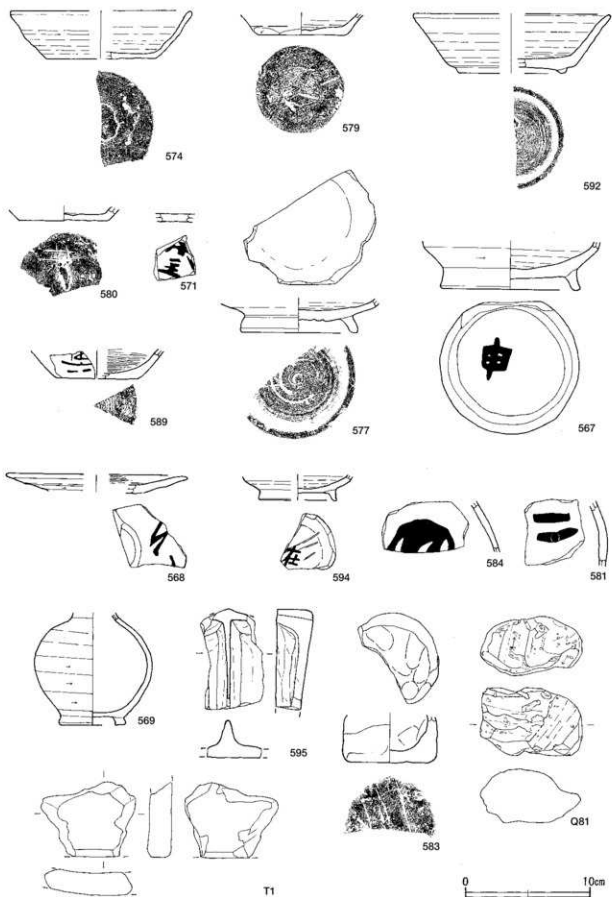
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について, 実測図 (第331~334図) 及び出土遺物観察表で掲載する。



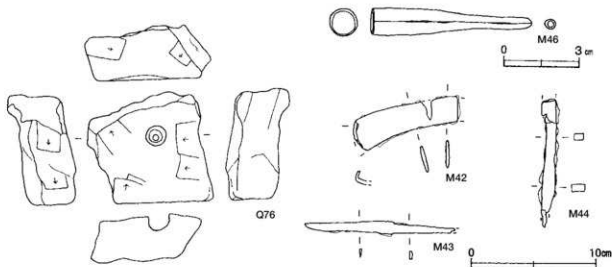
第331图 遗物出土实物实测图(1)



第332图 遺構外出土遺物実測図(2)



第333图 道槽外出土遺物実測図(3)



第334図 遺構外出土遺物実測図(4)
遺構外出土遺物観察表(第331~334図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び特徴	出土位置	備考
TP24	縄文土器	壺型土器	-	(11.2)	-	長石・石英・雲母	靑灰	普通	口辺部と胴部を隆帯で区画 口辺部は縦位の連続瓣面状文を施文とし、胴部は縦位の体状工具による十字を施す	SI22覆土中	中期 5% PL41
TP25	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部に隆帯による区画文を施し、隆帯に沿って結節沈線文を巡らす 垂下する隆帯には指面による押圧を施文	SI22覆土中	中期 5% PL41
TP26	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	靑灰	普通	口唇部直下に隆帯部を 施文はLRの草節縄文を施文	SI22覆土中	中期 5% PL41
TP27	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線による懸垂文区画、区画内RI、施文	SI22覆土中	中期 5% PL41
TP28	縄文土器	深鉢	-	(4.1)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線による懸垂文区画 区画内Rの捺赤文施文	SI37覆土中	中期 5% PL41
TP29	弥生土器	広口壺	-	(5.6)	-	長石・針状炭素物	淡黄	普通	口唇部にへう状工具による刻み 口辺部は瓣面状工具(8本)による波状文	SI14覆土中	後期後半 5%
TP30	弥生土器	広口壺	-	(3.4)	-	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	頸部、瓣面状工具(4本)による縦位区画内に波状文 胴上部は捺弧文による横位区画	SI 9覆土中	後期後半 5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び特徴	出土位置	備考
385	弥生土器	広口壺	-	(5.4)	[7.2]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	胴下部、附加条二種(附加条)の羽状縄文 底部布目肌	E2a6	後期 10% 外面塗付着
386	弥生土器	広口壺	-	(5.9)	[6.2]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴下部、附加条二種(附加条)の羽状縄文 底部布目肌	SI48覆土中	後期 5%
387	弥生土器	広口壺	-	(4.6)	[8.2]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	胴部下端のへう目調整後、附加条二種(附加条)の羽状縄文、底部本葉肌	SI56覆土中	後期 5%
571	土師器	埴	-	(7)	-	長石	明褐	普通	底部内面へう磨き、底部外面へう切り	D463	5% 墨書「南土」
588	土師器	埴	[14.2]	3.3	[5.0]	長石・石英・赤色粒子	黄橙	普通	口辺部内外面横ナテ、体部外面へう割り、体部内面ナテ	SI19覆土中	30%
589	土師器	埴	-	(2.4)	[6.6]	長石	にぶい橙	普通	体部内面へう磨き、底部回転へう切り	SI57覆土中	5% PL29 墨書「□」
568	土師器	高台付壺	[14.6]	(1.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面へう磨き、体部外面下磨へう割り	B30	10% 墨書「□」
573	土師器	高埴	-	(7.0)	[2.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	脚部外面へう磨き、内面へう目調整後ナテ、窓3か所	D4b1	40%
582	土師器	壺	[9.6]	(10.0)	-	雲母・微礫	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナテ、体部外面へう割り後ナテ	表採	20%
584	土師器	壺	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	黄橙	普通	体部内外面ナテ	D3b3	5% 人面墨書
583	土師器	手捏土器	-	(3.8)	[6.6]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部内面ナテ、内面指頭痕を残すナテ 底部本葉肌	表採	50%
574	須恵器	埴	[14.4]	3.8	[8.8]	長石・雲母	靑灰	普通	底部回転へう切り後、多方向のへう割り	D55	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び特徴	出土位置	備考
579	須恵器	坏	-	(18)	68	長石・微礫・針状配物	灰オリーブ	普通	底部回転へう切り後、多方向へのへう削り	E5g4	30% 刷書「在」
580	須恵器	坏	-	(12)	[7.2]	長石・微礫・針状配物	灰オリーブ	普通	底部回転へう切り後、多方向へのへう削り	E5c1	10% 刷書「井」
590	須恵器	坏	15.9	5.0	9.6	長石・雲母・微礫	灰白	普通	底部回転へう切り後、一方向へのへう削り	F5a1	80% PL34
591	須恵器	坏	[12.8]	4.2	7.8	長石・石英	灰白	普通	底部回転へう切り	SI48覆土中	30%
567	須恵器	高台付坏	-	(39)	11.2	長石・微礫	灰	普通	底部回転脱切り後、高台貼り付け	B3a6	60% 墨書「申」 転用履
577	須恵器	高台付坏	-	(28)	9.2	長石・微礫・針状配物	灰濁	普通	底部回転へう切り後、高台貼り付け	E4b0	30% へう書き 「一」の転用履
592	須恵器	高台付坏	[15.8]	4.8	[8.6]	長石・微礫	灰	普通	底部回転へう切り後、高台貼り付け	SI21覆土中	40%
594	須恵器	高台付坏	-	(20)	[6.2]	長石・石英	灰オリーブ	普通	底部回転へう切り後、高台貼り付け	C3g6	10% 墨書「在」 底部へう書き「三」
599	須恵器	小形壺	-	(9.0)	5.2	長石	灰オリーブ	良好	底部回転脱切り後、高台貼り付け	C3e6	80% 自然焼
581	須恵器	壺	-	(5.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面平行叩き	E5c1	5% 人頭蓋蓋

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
595	須恵器	風字鏡	8.00	(5.2)	2.9	長石	刷灰	普通	縦面に縦位の突起を設け二分する	SD4覆土中	20% PL43

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
T1	瓦	平瓦*	96.0	(7.5)	2.0	長石・雲母	にび・黄橙	普通	狭横面に両取り有り	D56	5% 二次焼成

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP29	轉鉢串	5.2	1.8	0.7	(50.0)	土(長石・石英)	上面ナデ後、へう状工具による刺突文、側面・底面ナデ	SI88覆土中	一部欠損 PL42
DP40	球状土鉢	3.0	3.9	0.7	37	土(長石・石英)	外面ナデ	SI12覆土中	PL42
DP41	球状土鉢	3.6	3.6	0.6	43.7	土(長石・石英)	外面ナデ	SI21覆土中	PL42
DP42	球状土鉢	3.7	3.5	0.8	(43.2)	土(石英)	外面ナデ	SI24覆土中	一部欠損 PL42
DP43	球状土鉢	3.0	3.1	0.8	25.8	土(長石・石英)	外面ナデ	SI42覆土中	PL42
DP44	球状土鉢	3.6	3.7	0.6	49.5	土(長石・雲母)	外面ナデ	SI35覆土中	PL42
DP45	球状土鉢	3.3	3.2	0.8	33.8	土(長石・雲母)	外面ナデ	SI97覆土中	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q83	2次加工を有する鏡片	3.4	5.5	2.7	51.6	珪藻	縁部に細かい調整、両面に稜面を大きく残す	SI95覆土中	
Q82	2次加工を有する鏡片	2.1	1.4	0.6	1.1	チャート	背面に複数の副稜調整	SI82覆土中	
Q84	有葉尖頭器	(4.5)	1.9	0.7	(3.4)	安山岩	丁寧な両面押圧副稜調整	SI73覆土中	基部一部欠損 PL41
Q85	石鏡	(2.1)	(1.5)	0.4	(8)	黒曜石	丁寧な両面押圧副稜調整	SI04覆土中	基部欠損 PL41
Q12	打製石斧	14.1	8.3	2.6	403.7	凝灰岩	刃部・肩部・頸縁部に調整痕、両面に稜面を大きく残す	SI82覆土中	PL41
Q86	敲石	9.2	(9.1)	5.1	(430.0)	砂岩	敲打面1面	SI42覆土中	一部欠損 PL42
Q87	敲石	10.5	9.1	5.5	689.9	安山岩	敲打面1面	SI79覆土中	PL42
Q88	敲石	10.5	8.2	4.0	415.4	砂岩	敲打面3面、被熱痕	SI81覆土中	PL42
Q81	砥石	5.4	8.2	4.4	(36.8)	軽石	2面に溝状痕	F4	
Q76	切石	8.8	10.0	5.2	187.7	凝灰岩	4面に鑿状工具による整形痕、1面に円形の孔1孔	C1j	一部欠損 重の構築材*

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M42	鎌	(8.8)	(3.0)	0.3	(14.3)	鉄	左利き用、切先・刃部、基部一部欠損	SE30覆土中	PL44
M43	刀子	(11.8)	1.0	0.2	(7.0)	鉄	刃部・基部一部欠損 両区	SE37覆土中	PL43
M44	不明鉄製品	(10.3)	1.1	0.6	(27.5)	鉄	断面長方形	SE37覆土中	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M46	煙管(吸口)	6.4	1.1	0.4	4.3	陶	縦溝目有り	SE 2覆土中	一部欠損 PL44

表2 住居跡一覽表

番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	重複関係 (旧→新)
							竈	土台	土間	土間	土間	土間				
1	F4c0	N21°E	方形	3.7×3.5	25-40	平間	竈	1	1	-	-	人	土師器 須恵器 鉄製品	9世紀中葉	本跡→SD1	
2	F5c1	N33°E	方形	5.2×4.8	45-60	平間	竈	1	-	-	-	人	須恵器	9世紀中葉	本跡→SD1・SD6 →SK2	
3	F4b0	N12°E	方形	5.2×4.9	80	平間	全間	4	1	-	-	人	土師器 須恵器 鉄製品 土製品	9世紀中葉	SE7→本跡→SD6	
4	E40	N16°E	方形	3.6×5.5	84-95	平間	-	4	-	-	-	人	土師器 須恵器	8世紀後半	SE4→本跡→ SD3	
5	E4b0	N21°W	方形	3.0×4.8	12-23	平間	-	4	1	-	-	人	土師器 土製品	4世紀代	本跡→SD6・SD8 →S13	
6	E4g0	N23°E	方形	5.3×5.2	58-65	平間	全間	4	1	-	-	人	土師器 須恵器 鉄製品	9世紀前半	SE5→本跡→SD3	
7	F4c9	N12°E	(方形)	5.1×(1.1)	60	平間	-	-	-	-	-	人	土師器 須恵器	9世紀前半	本跡→SE3	
8	E3d5	N12°E	方形	5.7×5.2	34-42	平間	-	4	1	-	-	人	須生土器 土師器 土製品	弥生-古墳		
9	F4a6	N76°W	方形	5.2×5.1	35-46	平間	-	4	1	1	1	人	土師器 土製品	4世紀後半	本跡→SB44	
10	E3a5	N35°E	方形	2.9×2.8	49-45	平間	竈	1	-	-	-	人	須恵器	8世紀後半		
11	E4e5	N50°W	方形	4.8×4.7	28-32	平間	-	4	-	-	1	人	須生土器 土師器	弥生-古墳		
12	E4j3	N24°E	方形	3.3×3.2	50-65	平間	-	-	1	-	-	人	土師器 須恵器 鉄製品 石製品	9世紀前半	SB45	
13	D4d3	N10°W	方形	3.7×3.6	3-6	平間	-	4	1	-	-	人	須生土器	弥生-古墳		
14	E4b6	N3°W	方形	5.5×5.4	12-20	平間	-	4	1	5	-	人	土師器	9世紀前半	本跡→SE15	
15	E4g6	N13°E	方形	3.8	43-53	平間	-	4	-	-	-	人	須恵器 鉄製品	9世紀前半	SE14→本跡	
16	E4f7	N22°E	方形	3.8×3.5	55-58	四角	竈	1	3	-	-	人	須恵器	9世紀前半	SE17→本跡	
17	E4e6	N60°E	方形	3.8×5.7	18-20	平間	-	4	-	-	-	人	土師器 土製品 石製品	4世紀代	SE8→SE9・SE30→SE9	
18	E5e2	N28°E	方形	3.6×3.5	45-55	平間	竈	1	-	-	-	人	須恵器	9世紀前半		
19	E5d3	N15°W	方形	5.2×4.9	42-53	平間	全間	4	1	-	-	人	土師器 須恵器 鉄製品	8世紀前半		
20	E5c1	N15°E	方形	5.9×5.88	70-92	平間	全間	4	1	-	-	人	土師器 須恵器 鉄製品 銅製品	9世紀前半		
21	E5b3	N4°W	方形	4.8×4.4	26-44	平間	竈	4	1	-	-	人	土師器	8世紀前半	本跡→SE22	
22	E5a1	N13°E	方形	5.6×5.4	65-77	平間	全間	4	1	2	-	人	土師器 須恵器 石製品	9世紀前半	SE21・SE2→本跡	
23	E2b3	N33°E	長方形	4.5×3.9	57-60	平間	竈	1	-	-	-	人	土師器 須恵器 鉄製品 灰輪陶器 赤土 石製品	9世紀中葉	SD40→本跡	
24	E5a6	N30°E	方形	4.0×3.9	28-62	平間	-	-	1	4	-	人	土師器 須恵器	8世紀後半		
25	E3f2	N21°E	方形	4.4×4.2	60-80	平間	-	4	1	-	-	人	土師器 須恵器 土製品 鉄製品	8世紀後半		
26	E2c3	N41°W	方形	4.3×4.2	17-28	平間	-	4	1	-	-	人	土製品	4世紀代		
27	E4h1	N47°W	方形	4.6×4.4	35-56	平間	-	4	1	-	1	人	土師器 土製品 石製品	4世紀前半		
28	E2f8	N52°W	長方形	7.1×5.9	22-38	平間	-	4	-	-	-	人	土師器	4世紀後半		
29	E3d1	N29°E	長方形	3.4×2.9	47-58	平間	-	-	1	-	-	人	土師器 須恵器	8世紀中葉		
30	E4c1	N33°W	方形	7.7×7.0	49-52	平間	全間	4	2	17	1	人	土師器 土製品 石製品	4世紀前半	本跡→SD5→SF1	
31	E4d4	N35°W	方形	3.7×3.6	8-11	平間	-	-	-	-	1	人	土師器	5世紀後半		
32	E4a4	N22°E	方形	5.6×5.5	1-26	平間	-	4	1	-	1	人	土師器 土製品	4世紀代	本跡→SB32	
33	E4a7	N22°E	長方形	4.3×3.8	43-67	平間	全間	-	1	1	-	人	須恵器	9世紀前半		
34	D4e	N8°E	方形	4.6×4.5	53-56	平間	全間	-	1	-	-	人	須恵器 鉄製品	9世紀前半	本跡→SK182	
35	E2b8	N50°W	方形	6.9×6.4	43-52	平間	全間	-	4	2	-	人	土師器 土製品	4世紀後半		
36	D48	N20°E	方形	4.1×3.9	35-45	平間	全間	-	1	-	-	人	土師器 須恵器 鉄製品 石製品	9世紀中葉	SE37→本跡	
37	D49	N17°W	方形	8.1×7.4	50-61	平間	全間	4	1	2	1	人	須生土器 土師器 土製品 石製品	弥生-古墳	本跡→SD36	
38	D38	N11°E	方形	5.5×5.3	41	平間	全間	4	1	2	-	人	土師器 須恵器 土製品 石製品	9世紀前半	本跡→SD32	
39	E2a5	N2°W	方形	3.9×3.5	45-60	平間	全間	-	1	-	-	人	土師器 須恵器 土製品 石製品	8世紀後半		
40	E2b3	(N47°E)	(方形)	(3.4)	53-65	平間	竈	-	-	-	-	人	土師器 鉄製品	8世紀前半	本跡→SE23	
41	E3b0	N57°W	方形	4.8×4.6	12-18	平間	-	3	2	5	-	人	土師器	4世紀代	本跡→SK17	
42	D5a6	(N29°E)	(方形)	(3.7)×(3.5)	31-38	平間	竈	3	1	-	-	人	須恵器	8世紀後半	本跡→SK146 147・第1号墓	

番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	主要出土遺物	時期	重視関係 (旧→新)
							壁溝	柱石	土間	土間	土間	土間				
43	E4a1	N59°W	方形	5.7×5.5	25~28	平	-	3	1	-	-	0	人瓦	土師器	4世紀前半	本跡→SB13-SE1
44	D4b0	N9°E	長方形	4.2×3.5	32~37	平	全	1	-	-	-	0	人瓦	土師器 須恵器 土製品	9世紀前半	SE45→本跡
45	D4g9	N37°E	長方形	4.2×3.7	18~22	平	-	-	-	-	-	0	人瓦	弥生土器	創時代後半	本跡→SE44
46	F4g9	N24°E	[長方形]	4.8×(2.1)	65~85	平	葺	2	-	-	-	0	人瓦	土師器 須恵器 鉄製品	9世紀中葉	
47	D5g2	N64°W	方形	5.1×5.0	36~56	平	-	4	1	-	1	0	自然	土師器 土製品	4世紀	本跡→SK38
48	D5g6	N46°W	方形	6.9×6.7	18~31	平	-	4	1	-	-	0	自然	土師器	4世紀前半	本跡→SD8
49	D5k2	N17°W	[方形]	(3.9)×3.7	9~25	平	-	4	1	-	-	0	人瓦	弥生土器 土師器	弥生~古墳	
50	D4c8	N25°E	方形	5.2×5.1	44~62	平	-	4	1	-	-	0	自然	土師器 土製品 石製品	4世紀	本跡→SD8
51	D4b5	N3°W	方形	5.5	32~44	平	-	4	1	1	1	0	自然	土師器 土製品 石製品	4世紀中頃	本跡→SD5, SF1
52	D5g2	N22°E	長方形	3.8×3.3	44~52	平	-	4	1	-	-	0	自然	土師器 須恵器	8世紀中葉	本跡→SE22-SD2
53	D4c8	N35°E	長方形	3.1×2.8	13	平	-	-	1	-	-	0	自然	弥生土器 石器	弥生~古墳	
54	C5e1	N7°E	方形	3.0×2.9	20~40	平	葺	-	1	-	-	0	人瓦	須恵器 石製品	9世紀前半	SE55→本跡
55	C5a1	N21°E	方形	4.5×4.4	14~22	平	全	4	1	1	-	0	人瓦	土師器 須恵器 鉄製品	8世紀中葉	本跡→SE54
56	C4b8	N40°W	方形	6.7×6.5	25~42	平	-	4	1	-	-	0	人瓦	土師器 土製品 石製品	4世紀前半	本跡→SK126
57	C4g8	N6°E	方形	6.2×5.8	15~25	平	-	4	1	-	-	0	自然	土師器 須恵器	8世紀前半	
58	C4a8	N16°E	楕円形	3.36×2.90	30~35	平	-	-	-	-	-	-	自然	縄文土器	縄文時代中期	本跡→SD5
59	E3b6	N7°E	方形	4.7×4.6	55~57	平	全	4	1	-	-	0	人瓦	土師器 須恵器	8世紀後葉	本跡→SE33
60	C4c7	N17°E	方形	4.8×4.5	24~48	平	-	4	1	5	-	0	人瓦	土師器	6世紀前半~7世紀初期	本跡→SV2
61	C4a5	N30°E	長方形	4.1×3.7	36~28	平	葺	-	1	-	1	0	人瓦	土師器 須恵器 鉄製品	9世紀後葉	
62	C4b1	N26°E	長方形	3.1×2.8	5~14	平	-	-	1	-	-	0	不明	土師器 須恵器 灰輪陶器 鉄製品	9世紀後葉	
63	B4h1	N7°E	方形	4.4×4.1	41~47	平	全	4	1	-	-	0	自然	土師器 須恵器 土製品	8世紀前半	
64	B4D3	N29°E	方形	4.2×3.9	32~42	平	葺	3	1	-	-	0	人瓦	土師器 須恵器 石製品	8世紀中葉	
65	D4g6	N7°W	楕円形	3.5×3.0	24	平	-	-	-	5	-	0	自然	土師器	創時代後半	本跡→SB14
66	B4E5	N4°E	方形	4.8×4.6	42~45	平	葺	4	2	1	-	0	自然	須恵器 鉄製品	8世紀後半	本跡→SK94
67	B4c3	N9°E	方形	4.2×3.8	22~24	平	全	4	1	1	-	0	自然	土師器 須恵器	8世紀後半	
68	B4b6	N3°E	方形	3.9×3.6	54~56	平	葺	-	1	3	-	0	自然	土師器 須恵器	9世紀前半	本跡→SD10
69	A4b1	N43°W	隅丸長方形	4.9×4.4	15	平	-	4	-	1	-	0	自然	弥生土器 卵石	創時代後半	本跡→SB23→SK100, PG3
70	B4b2	N7°E	隅丸長方形	5.6×4.8	15~28	平	-	4	1	2	-	0	自然	弥生土器 卵石	創時代後半	本跡→SD9
71	B4d2	N6°E	隅丸長方形	5.0×4.5	10	平	-	4	-	2	-	0	自然	弥生土器	創時代後半	
72	B4f1	N30°E	長方形	4.6×3.7	15~20	平	-	4	-	2	-	0	人瓦	弥生土器 石器 卵石	創時代後半	
73	B3c7	N2°W	隅丸長方形	4.9×4.3	25~30	平	-	4	1	-	-	0	自然	弥生土器	創時代後半	
74	A3f4	N30°W	[長方形]	(4.3)×4.3	22~25	平	-	4	1	1	-	0	人瓦	弥生土器	創時代後半	
75	B3b6	N13°W	方形	4.9×4.8	32~47	平	-	4	1	-	1	0	自然	土師器 須恵器 石製品	8世紀中葉	
76	B3g7	N35°E	長方形	5.0×4.2	12~30	平	-	4	1	-	-	0	自然	弥生土器 卵石	創時代後半	
77	B3b8	N32°W	隅丸長方形	3.4×3.1	14~20	平	-	4	1	-	-	0	自然	弥生土器 卵石	創時代後半	
78	C3a1	N30°W	隅丸長方形	4.2×3.9	34~46	平	-	4	1	1	-	0	自然	弥生土器	創時代後半	
79	C3d1	N24°E	方形	2.9×2.8	24~28	平	-	-	-	2	-	0	人瓦	土師器 須恵器 土製品	9世紀後半	SE80→本跡
80	C3d2	N36°W	隅丸長方形	3.6×3.5	28~30	平	-	4	1	1	-	0	自然	弥生土器 土製品 卵石	創時代後半	本跡→SE79
81	C3b3	N67°W	長方形	3.1×2.6	19~23	平	葺	-	1	1	-	0	人瓦	土師器 鉄製品	10世紀前半	SE2→本跡→SK30
82	C3f3	N56°W	長方形	4.4×3.6	14~20	平	-	4	1	2	-	0	人瓦	弥生土器 土製品	創時代後半	本跡→SE81
83	C2g0	N19°E	方形	2.6×2.5	10	平	全	-	1	-	-	0	自然	土師器	9世紀前半	
84	E4j9	N11°W	長方形	5.2×4.6	25~34	平	-	3	1	1	1	0	人瓦	土師器 土製品 石製品	4世紀	本跡→SE4
85	D3b3	N26°E	方形	4.2×4.1	35~44	平	葺	2	2	2	-	0	自然	土師器 須恵器	9世紀前半以前	
86	D3g5	N16°E	方形	4.3×3.9	22~27	平	葺	4	1	-	-	0	自然	土師器 須恵器	8世紀中葉	
87	D3b6	N30°E	隅丸長方形	3.2×2.9	5	平	-	-	-	5	-	0	人瓦	弥生土器	創時代後半	
88	D3c7	N13°E	長方形	6.2×5.6	37~40	平	全	8	2	-	-	0	葺・0	自然 土師器 須恵器 灰輪陶器 鉄製品 石製品	9世紀中葉	
89	B3e4	N18°W	[隅丸長方形]	3.6×(3.5)	12~18	平	-	4	-	-	-	0	人瓦	弥生土器 石器	創時代後半	
90	D3c9	N10°E	方形	5.1×4.9	30~40	平	全	4	1	-	-	0	自然	土師器 須恵器 鉄製品	9世紀前半	
91	D3c2	N17°E	長方形	4.6×4.1	28~33	平	葺	4	1	7	-	0	自然	土師器 須恵器 鉄製品	8世紀中葉	
92	D4d1	N6°W	方形	3.3×3.2	26~27	平	-	2	1	2	-	0	人瓦	土師器 石器	4世紀前半	本跡→SE100→SE80
93	D3b8	N13°E	方形	3.7×3.6	40~45	平	-	4	1	2	-	0	自然	須恵器	9世紀後半	本跡→SE10, SA1
94	C3b8	N14°E	長方形	4.9×3.7	40~42	平	-	4	1	1	-	0	自然	土師器 須恵器	8世紀前半	
95	C3h4	N120°E	長方形	5.1×3.8	10~18	平	葺	2	2	2	-	0	自然	土師器 石製品 鉄製品	9世紀末~10世紀前半	本跡→SB12→SE69

番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	埋高 (cm)	床面	内部施設				質土	主な出土遺物	時期	重要関係 (旧→新)		
							壁溝	柱穴	土間	礎石						
96	C4b4	N-4°E	方形	3.3×3.2	33~37	平間	全間	-	-	-	礎	自然土	土師器 須恵器 土製品	8世紀前半		
97	C4c1	N-0°	長方形	5.2×4.6	23~32	平間	一部	4	1	9	-	礎	自然土	土師器 須恵器 石製品 土製品	8世紀前半	本跡→SB24-25
98	C3b0	N16°E	方形	5.3×4.9	36~38	平間	全間	-	1	-	-	礎	人為土	土師器 須恵器 灰釉陶器	9世紀中葉	SB34→本跡→SK36
99	D3g0	N30°W	[長方形]	(4.4)×(3.8)	-	平間	-	4	-	1	-	礎	弥生土	土師器 須恵器 石製品	弥生~古墳	本跡→SB15→SB35
100	D4c2	N-4°E	長方形	3.2×2.8	26~44	平間	-	-	1	-	-	礎	人為土	土師器 須恵器 土製品	9世紀中葉	SB22/SB16→本跡→SK30
101	E5b6	N10°E	方形	4.2×4.1	47~68	平間	全間	2	1	-	-	礎	人為土	土師器 須恵器	9世紀後半	
104	C5c2	N22°E	方形	3.2×3.1	37~45	平間	一部	-	1	-	-	礎	人為土	土師器 須恵器	9世紀代	
105	B5j1	N28°E	方形	2.8×2.6	8~10	平間	-	-	1	-	-	礎	人為土	須恵器 石製品	9世紀代	
106	B3e9	N20°E	長方形	2.6×2.0	15~25	平間	-	-	-	-	-	礎	人為土	須恵器	9世紀代	
107	B3c3	N22°E	方形	3.1×2.8	34~38	平間	全間	-	1	1	-	礎	人為土	土師器	8世紀前半	

表3 掘立柱建物跡一覧表

遺構番号	位置	掘行方向	柱間数 桁×梁(間)	規模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱 穴 (cm)			主な出土遺物	備考 (新旧関係等含む)	
								構造	柱穴数	平面形			
1	D 3 32	N20°E	3×2	5.0×3.6	18.0	1.65	1.8	礎柱	10	楕円形	30~60	土師器 須恵器	
2	D 3 g2	N17°E	3×2	4.8×3.3	15.8	1.5~1.8	1.5~1.8	礎柱(一重)	14	楕円形	15~35	土師器 須恵器	
3	D 3 e3	N15°E	3×3	5.7×5.1	29.1	1.8~2.1	1.5~1.8	礎柱(一重)	16	円形	12~42	土師器 須恵器	SK122→本跡
4	D 3 a4	N16°E	4×2	10.5×7.2	75.6	1.8	1.8	礎柱(一重)	27	楕円形 円形	10~43	土師器 須恵器	SK91→本跡 SK107→掘立柱
5	C 3 i4	N16°E	2×1	4.5×3.6	16.2	2.1	3.6	礎柱	6	楕円形 円形	11~23	土師器 須恵器	
6	D 3 i6	N65°W	5×2	9.0×3.3	29.7	1.8	1.5~2.1	礎柱	13	楕円形	27~60	土師器 須恵器	SB32→本跡
7	E 4 d8	N56°W	3×2	5.4×4.2	22.7	1.8	1.8~2.4	礎柱	10	楕円形	36~65	土師器 須恵器	SB36→本跡
8	E 4 b0	N75°W	3×2	4.9×3.3	16.2	1.5~1.8	1.8	礎柱	10	楕円形	29~57	土師器 須恵器	S15→本跡
9	E 4 e6	N20°E	3×2	4.8×3.3	15.8	1.5~1.8	1.5~3.3	礎柱	10	楕円形	45	土師器 須恵器	S17→ SB51→本跡
10	C 3 j7	N80°W	5×3	9.6×5.4	51.8	1.8~2.1	1.8	礎柱	22	楕円形	60~85	土師器 須恵器 鉄製品	SB93→本跡
11	E 4 b5	N20°E	3×2	5.5×4.5	24.8	1.8	2.1~2.4	礎柱	10	楕円形 円形	53~94	土師器 須恵器	SB52/SK171→ 本跡→SD4
12	C 3 e5	N15°E	3×3	6.4×4.5	28.8	2.1	1.5	礎柱(一重)	19	楕円形 異径柱	24~44	土師器 須恵器	SK91→本跡 SK60
13	D 4 j2	N17°E	3×3	6.3×5.5	34.7	2.1	1.8	礎柱	12	楕円形 円形	35~68	土師器 須恵器	S10→掘立柱→ SK107→本跡
14	D 4 g6	N10°E	3×2	5.8×4.3	24.9	1.8	2.1	礎柱	10	楕円形	30~50	土師器 須恵器	S165→本跡
15	D 3 r0	N12°E	4×3	7.3×4.3	31.4	1.8	1.5	礎柱(一重)	19	楕円形	26~43	土師器 須恵器	SB95/SB93→本跡 SK18→SK17-119 本跡→SK18/SB95
16	D 4 b2	N78°W	3×3	6.0×5.4	32.4	1.8	1.8	礎柱	12	楕円形 円形	18~48	土師器 須恵器	SK18→本跡 SK149-150/SB17
17	D 4 e1	N85°E	1×1	2.1×1.8	3.8	2.1	1.8	礎柱	4	円形	30~60		SB18→本跡
18	D 4 e1	N75°W	5×2	10.5×3.9	41.0	2.1	2.1	礎柱	14	楕円形	28~55	土師器 須恵器	SK149-150/SB17
19	D 3 a0	N78°W	7×2	12.6×4.8	60.5	1.8	2.4	礎柱	18	楕円形 円形	28~58	土師器 須恵器	SB16/SK11-180→ 本跡→S42
20	C 4 h3	N72°W	3×2	6.3×4.2	26.5	2.1	2.1	礎柱	10	楕円形 円形	24~80	土師器 須恵器	SK181→本跡
21	E 4 c1	N72°W	2×2	4.5×3.6	16.2	2.2	1.8	礎柱	9	楕円形	28~56	土師器 須恵器	SB22→本跡
22	C 4 e4	N15°E	3×3	5.7×4.8	27.3	1.8	1.5~1.8	礎柱	12	楕円形 円形	12~62	土師器	本跡→SB21
23	C 4 j3	N12°E	3×2	5.7×4.5	25.7	1.8~2.1	2.1~2.4	礎柱	10	楕円形	19~50	土師器 須恵器	SK128-130-140/ SB92/S42
24	C 4 e2	N73°W	2×2	4.2×3.6	15.1	2.1	1.8	礎柱	9	円形	29~68	須恵器	SB97→本跡
25	C 3 d0	N73°W	3×2	3.9×3.3	12.9	1.95	1.65	礎柱	9	楕円形 円形	21~42		SB97→本跡
26	C 3 e7	N75°W	2×2	4.5×4.2	18.9	2.25	2.1	礎柱	9	楕円形	20~40	土師器 須恵器	SB28
27	C 3 c6	N73°W	2×2	4.5×3.9	17.6	2.25	1.95	礎柱	9	楕円形	20~40	土師器 須恵器	
28	C 3 d8	N21°E	3×2	6.0×4.2	25.2	1.8~2.1	2.1	礎柱	10	楕円形 円形	20~33	土師器 須恵器	SK36-SK124
29	C 3 e8	N82°W	3×2	3.4×3.6	19.4	1.8~2.1	1.5~2.1	礎柱	10	楕円形	15~57	土師器 須恵器	
30	D 4 c2	N-8°E	3×3	5.4×5.7	32.5	1.8	1.8~2.1	礎柱	12	楕円形	36~75	土師器 須恵器	
32	D 3 j7	N74°W	5×2	9.6×3.9	37.4	1.5~2.1	1.8~2.1	礎柱(一重)	20	楕円形	24~52	土師器 須恵器	SB92/SB16→ 本跡→SK13 SK18→本跡 SK33→SB16
33	E 3 a7	N20°E	(3)×(2)	4.5×3.3	14.9	1.52	1.52	礎柱	8	楕円形	30~56	土師器 須恵器	SB59-SB22→本跡 本跡→SK98
34	C 4 g1	N80°W	4×3	7.3×4.5	32.9	1.8	1.5	礎柱	15	楕円形	25~43	土師器 須恵器	SK143
35	D 4 f1	N80°W	3×2	6.0×3.9	23.4	1.8~2.1	1.8~2.1	礎柱	10	楕円形 円形	30~48	土師器 須恵器	SB90→本跡→ SB15-18
36	E 4 d9	N70°W	3×2	5.4×3.6	19.4	1.8	1.8	礎柱	10	楕円形	25~52		SK11→本跡 SB11→SB11-1 12号→本跡
37	E 4 c0	N11°E	3×2	6.0×4.2	25.2	1.8~2.1	2.1	礎柱	7	楕円形	31~58		SB43→本跡→ SK30
38	F 4 b8	N15°E	3×2	5.7×4.2	24.0	1.8~2.1	2.1	礎柱	10	楕円形	46~67	土師器 須恵器	
39	F 4 b7	N17°E	3×2	5.4×3.9	21.1	1.8	1.8~2.1	礎柱	10	楕円形	39~57	土師器 須恵器	本跡→SB43/SK38
40	F 5 a1	N34°E	3×2	5.4×4.5	24.3	1.8	2.1~2.4	礎柱	10	楕円形	28~69	土師器 須恵器	SK154

遺構番号	位置	衝行方向	柱間数 幅×長さ(m)	規模 幅×長さ(m)	面積 (㎡)	衝行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱 穴 (cm)				主な出土遺物	備 考 (新旧関係等52)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
41	E 511	N-65°-W	3×2	5.4×4.2	22.7	1.8	2.1	欄柱	10	楕円形	50~82	土師器 須恵器	本跡-SK153 →SK151,152
43	F 4 b8	N-8°-E	3×2	5.2×4.2	22.3	1.8	2.1	欄柱	10	楕円形	30~58	土師器 須恵器	SK39-本跡→SK38
44	F 4 a4	N-61°-W	3×2	5.7×3.9	22.2	1.5~2.1	1.8~2.1	欄柱	10	楕円形	19~47	土師器 須恵器	SK9-本跡・SK35:54
45	E 4 b3	N-20°-E	2×2	5.4×5.1	27.5	2.7	1.8~3.3	欄柱	7	楕円形	30~56	土師器 須恵器	SK12, SB44
48	E 4 b8	N-10°-E	3×2	5.4×3.3	17.8	1.8	1.5~1.8	欄柱	10	楕円形	14~65	土師器 須恵器	SK1-→本跡→SK10
51	E 4 e6	N-70°-W	3×2	5.4×4.2	22.7	1.5~2.1	2.1	欄柱	9	楕円形	24~48	土師器	SK11-→本跡→SK12
52	E 4 b5	N-20°-E	3×2	5.4×3.9	21.1	1.8	1.5~2.4	欄柱	10	楕円形	50~76		SK12-→本跡→SK10
53	A 4 g4	N-20°-E (3×2)		5.4×3.6	9.4	1.8	1.8	欄柱	7	楕円形	29~47	土師器	SK10-→本跡→SK102:内記
54	F 4 b5	N-51°-W	1×2	3.3×3.0	9.9	3.3	1.5~3.0	欄柱	5	楕円形	20~30		SB44

表4 欄跡一覧表

番号	位置	軸方向	長さ(m)	柱間寸法(m)	柱 穴				備考	
					柱穴数	平面形	長径(cm)	短径(cm)		深さ(cm)
1	C 3 b9~D 3 b9	N-6°-E	6	1.8-2.1	4	楕円形	49~68	48~58	58~65	SK109→本跡
2	C 4 b3~D 4 b3	N-9°-E	5.4	1.8	4	楕円形	60~64	43~55	48~75	SK109→本跡・SK121

表5 ビット群一覧表

番号	位置	範囲(m)		柱穴数	柱穴平面形	規 模		深さ(cm)	時 期	重複関係 (旧→新)
		東西	南北			長径(cm)	短径(cm)			
1	C 3 b0~C 4 j1	9.7	10.2	16	円形・楕円形	33~60	32~56	18~41	平安時代	
2	E 4 h2~E 4 j5	14.8	10.4	20	円形・楕円形	26~64	21~58	8~58	平安時代	
3	A 4 g3~A 4 h4	4.7	5.1	7	円形・楕円形	46~67	40~60	18~39	平安時代	SK109→本跡,SK103
4	E 4 b8~E 4 e9	6.5	5.6	6	円形・楕円形	56~98	48~96	38~83	平安時代	

表6 炭焼窯跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	前 庭 部			炭 化 室		覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)
					長軸×短軸(m)	ピット	平面形	長軸×短軸(m)	壁高(cm)			
1	E 4 e9	N-42°-E	羽子板形	6.28×1.27	不整長方形	2.83×2.50	—	楕円形	2.65×1.27	60	人瓦	SK36・37→SK4-→本跡
2	C 4 e6	N-74°-W	瓢形	6.48×1.50	不整円形	3.75×3.54	1	馬蹄形	2.52×1.50	42	人瓦	SK160→本跡
3	D 2 e5	N-80°-E	羽子板形	6.51×2.24	不整長方形	3.78×3.15	2	楕円形	2.46×2.24	58	人瓦	切石
4	C 2 i6	N-106°-E	羽子板形	5.64×1.55	不整長方形	5.64×1.55	1	馬蹄形	2.30×1.55	10	人瓦	切石
5	C 2 f7	N-106°-E	瓢形	(6.03)×1.33	不明	(2.16)×(1.71)	2	馬蹄形	3.79×2.61	70	人瓦	切石 銅製品(古銭)

表7 陥し穴一覧表

番号	位置	長軸方向 長径方向	平面形	規 模		覆土	ビット	短径(軸)断面	主な出土遺物	時 期	重複関係 (旧→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
1	F 4 b 7	N-15°-E	長楕円形	2.92×1.58	134	自然・人瓦	3	台形		縄文時代	
2	D 4 1 2	N-13°-W	不整楕円形	1.97×1.23	189	自然・人瓦	—	V字形	漆跡	縄文時代	本跡→SD4-SB13
3	D 4 1 7	N-37°-W	楕円形	2.26×1.41	196	自然・人瓦	—	V字形		縄文時代	
4	C 2 b 9	N-85°-W	隅丸長方形	2.00×0.70	109	人瓦	3	台形		縄文時代	
5	D 3 b 4	N-50°-E	楕円形	1.74×1.30	154	人瓦	—	台形		縄文時代	本跡→SB4
6	D 4 1 7	N-8°-W	不整楕円形	2.60×2.20	110	自然	3	台形		縄文時代	
7	B 4 g 2	N-70°-W	長楕円形	2.02×1.00	164	人瓦	1	V字形		縄文時代	
8	B 3 f 4	N-70°-W	長楕円形	2.13×1.18	125	自然	3	台形		縄文時代	
9	D 3 c 4	N-69°-W	隅丸長方形	1.69×1.13	84	自然	—	台形		縄文時代	本跡→SB4
10	D 3 f 3	N-25°-E	楕円形	2.20×1.27	160	自然	—	V字形		縄文時代	本跡→SB3
11	C 5 g 2	N-59°-W	長楕円形	2.60×1.52	96	自然	—	U字形		縄文時代	
12	E 4 b 0	N-15°-E	不整楕円形	2.64×1.56	162	自然	—	V字形		縄文時代	本跡→SK37
13	F 4 b 6	N-44°-E	不整楕円形	1.94×1.52	164	自然	—	V字形		縄文時代	

表8 溝跡一覽表

番号	位置	主軸方向 長軸方向	形状	規 模 (m)				断面形	底面	覆土	主な出土遺物	時 期	重複関係 (旧→新)
				長さ	長さ	幅	深さ						
1	F5c2~F5d1	N35°W N40°E	L字状	(129)	0.77~2.08	0.33~0.60	0.67	U字・台形	平土	葦土	-	-	SI12→本跡 SK6→本跡
2	F4e8~F5d	N125°E	直線	(118)	0.45~0.83	0.27~0.64	0.22	台形	平土	葦土	-	-	SK1→本跡
3	E4b6~E5d	N41°E	直線	(190)	0.18~0.40	0.05~0.25	0.07~0.15	U字状	葦土	葦土	-	-	SI15~6, SI8b~8d, SI9c→本跡
4	E3a6~E5g6	N45°E N117°E	L字状	(101.9)	0.60~2.30	0.30~2.10	0.09~0.30	台形	平土	葦土	-	-	SI81~10, SI9a~9f, SI9g→本跡
5	B4d~E3d0	N28°E	直線	(102.1)	0.33~0.84	0.11~0.35	0.25	台形状	平土	葦土	土師器, 須恵器	奈良時代	SI3a~3d, 4~4b, 5a
6	E4b8~F5c3	N123°E	直線	(22.4)	1.32~1.72	0.15~0.45	0.36~0.47	U字状	葦土	葦土	-	-	SI23~4, SI51~51c
7	D4d~D5d7	N74°E	直線	(300)	0.52~0.70	0.13~0.19	0.44~0.53	U字状	葦土	葦土	-	-	SI32→本跡
8	D4a6~E5g7	N122°E	直線	(50.3)	0.40~1.10	0.12~0.43	0.49~0.55	台形	平土	葦土	-	-	SI48, 50→本跡
9	A4j7~B3d3	N88°E	直線	(54.9)	0.28~0.85	0.10~0.45	0.33	U字状	葦土	葦土	土師器, 須恵器	平安時代	SI70→本跡
10	B4d5~B4d8	N67°E	直線	(148)	0.28~0.79	0.05~0.32	0.15~0.30	U字状	葦土	葦土	-	-	SI68→本跡

表9 土坑一覽表

番号	位置	長軸方向 長軸方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	時 期	重複関係 (旧→新)
				長さ・短径(m)	深さ(cm)						
1	F4e8	N26°E	楕円形	1.45×1.18	22	人土	平土	外傾	土師器 須恵器	-	本跡→SD2
2	F5d1	N25°E	隅丸長方形	2.87×2.47	50	人土	平土	外傾	土師器 須恵器 陶器 鉄片	-	SI2, SD1→本跡
6	F4e6	N32°E	楕円形	0.95×0.60	26	自然	平土	縦斜	-	-	-
7	F4d6	N1°E	長楕円形	2.22×0.96	18	人土	平土	縦斜	-	-	-
8	B4d5	N75°E	[楕円形]	(0.60)×0.56	20	人土	平土	外傾	-	-	本跡→SK54
9	E4b4	N38°E	長方形	1.91×1.43	20	自然	平土	縦斜	-	-	SK13→本跡
10	E4b3	N11°E	長楕円形	3.17×1.45	53	自然	平土	外傾	-	-	-
11	E4g3	N23°E	不定形	1.56×1.16	43	人土	平土	縦斜	-	-	-
12	E4g3	N36°E	不定形	2.04×1.43	28	自然	平土	外傾	-	-	-
13	E4b4	-	円形	1.02×0.98	55	人土	円凸	外傾	-	-	本跡→SK9
15	E3a0	N36°E	長方形	1.11×0.98	47	人土	溝状	外傾	-	-	-
17	E3b9	N33°E	長方形	1.49×1.19	107	人土	溝状	外傾	土師器 須恵器	-	SI41→本跡
18	E3e8	N38°E	長方形	2.48×1.05	100	人土	溝状	外傾	土師器 須恵器	-	-
19	E3e8	N50°W	長方形	1.35×0.97	12	人土	平土	縦斜	土師器	-	-
20	E3d8	N40°E	長方形	1.12×0.84	40	人土	溝状	外傾	不明鉄製品	-	-
21	E3e7	N67°W	楕円形	1.06×0.92	43	人土	葦土	外傾	土師器	-	-
23	E3e3	N48°W	長方形	1.34×0.93	30	人土	平土	外傾	土師器 須恵器	-	-
20	E3e2	N54°E	長方形	3.55×0.88	-	-	-	外傾	-	-	-
37	D4h5	-	円形	1.06×1.05	17	人土	平土	縦斜	貝	-	-
38	D5g1	N59°W	不定形	3.39×1.65	17	-	平土	外傾	-	-	SI47→本跡
41	D2g3	-	円形	0.93×0.92	27	自然	平土	外傾	-	-	-
42	D2g2	N62°E	長方形	2.49×0.92	15	人土	平土	縦斜	-	-	-
43	D214	N13°E	楕円形	1.24×1.09	26	人土	平土	外傾	-	-	-
44	B4e4	-	円形	0.93	40	人土	平土	外傾	土師器	-	-
45	B4d4	-	円形	1.50×1.45	65	人土	平土	外傾	土師器 須恵器	-	-
46	D2e3	N30°E	長方形	1.70×0.71	40	人土	平土	外傾	-	-	-
47	D2j8	N38°W	長方形	3.02×1.06	43	人土	平土	外傾	-	-	-
48	D2e8	N48°W	長方形	1.50×0.88	55	人土	平土	縦斜	土師器 須恵器	-	-
49	D2e6	N36°E	長方形	4.10×0.94	30	人土	平土	外傾	土師器	-	-
50	C3g2	N37°E	長楕円形	1.74×0.78	42	人土	円凸	外傾	土師器 須恵器	-	SD1→本跡
51	B4e4	-	円形	1.36×1.24	63	人土	平土	外傾	土師器 須恵器	-	-
52	B4e4	-	円形	1.17	48	人土	平土	外傾	土師器 須恵器	-	-
53	B4d4	-	円形	1.05×1.03	40	人土	平土	外傾	土師器 須恵器	-	-
54	B4d4	-	円形	0.87×0.80	30	人土	平土	外傾	-	-	SK8→本跡
58	D2e7	N30°E	長方形	2.16×0.83	30	人土	平土	外傾	土師器	-	-
59	D2d7	N30°E	長方形	2.77×0.85	37	人土	平土	外傾	-	-	-
60	C2j0	-	円形	1.02×1.00	18	人土	平土	外傾	-	-	-
61	C3g2	N48°W	長方形	1.68×0.67	18	人土	平土	縦斜	須恵器	-	-
62	C3g1	N55°W	隅丸長方形	1.29×0.84	60	人土	溝状	外傾	須恵器	-	-
63	C3g1	N49°W	隅丸長方形	1.15×0.73	68	人土	溝状	外傾	須恵土師 土師器 須恵器	-	-
64	C3f2	N50°W	楕円形	1.06×0.56	32	人土	平土	外傾	須恵器	-	-

番号	位置	長軸方向 長短方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	時 期	重複関係 (旧→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
65	C 3 f1	N 39° -W	不定形	2.49×1.25	31	自然	平坦	磁葺	—	—	
66	C 3 h2	—	円形	0.84×0.77	11	自然	起伏	外堀	—	—	
67	D 3 g1	—	円形	1.22×1.13	26	人為	平坦	外堀	—	—	
69	C 3 h4	N 21° -E	隅丸長方形	1.11×0.87	13	人為	平坦	外堀	—	—	SB5→SB12→本跡
71	D 3 f5	N 98° -W	楕円形	2.86×1.93	55	人為	凹凸	磁葺	—	—	
72	D 3 d5	N 14° -E	隅丸長方形	1.70×1.53	35	人為	平坦	外堀	—	—	
73	D 3 e4	N 58° -E	楕円形	1.51×0.90	12	人為	平坦	外堀	土師器 須恵器	—	
76	D 3 i3	—	円形	1.15×1.11	20	自然	平坦	外堀	—	—	
77	D 3 i4	N 21° -E	楕円形	1.54×1.35	28	自然	平坦	外堀	—	—	
78	D 3 h5	—	円形	0.74×0.70	16	人為	平坦	外堀	—	—	
79	D 3 e6	N 16° -E	楕円形	1.23×0.86	40	人為	起伏	磁葺	—	—	
80	D 3 e6	—	[円形]	1.23×1.22	7	人為	平坦	磁葺	須恵器	—	本跡→SK81
81	D 3 b6	—	円形	0.84×0.77	8	人為	平坦	磁葺	—	—	SK80→本跡
82	D 3 c6	—	円形	0.90×0.88	10	人為	平坦	外堀	須恵器	—	
83	D 3 b6	—	円形	1.14×1.09	44	人為	平坦	外堀	土師器 須恵器	—	
84	D 3 b6	—	円形	1.27×1.21	29	人為	平坦	外堀	土師器 須恵器	—	
85	D 3 b7	—	円形	1.25×1.16	44	人為	平坦	外堀	土師器 須恵器	—	平安時代
86	D 3 b7	—	円形	1.22	26	人為	平坦	外堀	土師器 須恵器	—	
87	B 4 f5	—	円形	1.10×1.08	39	人為	平坦	外堀	—	—	
88	B 4 f4	—	円形	1.17	50	自然	平坦	外堀	土師器 須恵器	—	
89	C 3 f9	N 42° -W	楕円形	1.24×1.04	27	自然	起伏	磁葺	土師器	—	SB8→本跡
91	D 3 a3	—	円形	1.30×1.21	40	人為	凹凸	外堀	—	—	SB4
93	D 3 a5	—	円形	0.90×0.86	25	人為	平坦	外堀	—	—	SB4
94	B 4 f5	N 61° -E	楕円形	1.17×(1.04)	30	人為	平坦	外堀	—	—	SB6→本跡
96	A 4 j3	—	円形	1.33×1.25	20	自然	平坦	磁葺	土師器 須恵器	—	
97	B 3 d0	N 13° -W	長方形	1.36×1.03	18	人為	平坦	外堀	—	—	本跡→SK99
99	B 3 d0	N 18° -W	長方形	3.43×0.96	55	人為	平坦	外堀	—	—	SK97→本跡
102	A 4 g3	N 43° -E	楕円形	0.57×0.48	29	人為	起伏	外堀	土師器	—	SB9→SB3→本跡
104	D 5 f4	N 71° -W	長方形	1.76×0.91	22	人為	平坦	外堀	—	—	
105	D 5 f4	N 14° -W	長方形	1.23×0.74	33	人為	平坦	外堀	土師器	—	
106	D 5 e6	N 22° -W	長方形	1.03×0.76	32	人為	平坦	垂直	—	—	
107	D 5 e5	N 19° -W	長方形	1.28×0.35	33	人為	平坦	外堀	—	—	
112	C 4 j1	N 71° -W	隅丸方形	1.49×1.24	14	人為	平坦	外堀	土師器	—	平安時代
113	C 3 j0	N 73° -W	隅丸方形	1.47×1.43	36	人為	平坦	外堀	土師器 須恵器	—	平安時代
114	C 3 j0	N 69° -W	長方形	1.28×1.13	34	人為	平坦	外堀	土師器 須恵器	—	平安時代
115	C 3 j9	—	円形	1.39×1.36	42	人為	平坦	外堀	—	—	平安時代
116	D 3 h8	—	円形	1.17×1.15	25	自然	平坦	外堀	—	—	
117	D 3 g9	—	円形	1.25×1.20	28	人為	平坦	外堀	土師器 須恵器	—	SB15-SK118→本跡
118	D 3 g9	—	円形	1.42×1.40	56	人為	平坦	外堀	土師器 須恵器 瓦葺土器	—	SB15-SK117-119
119	D 3 g9	—	円形	1.30×1.36	23	人為	平坦	外堀	—	—	SB15-SK118→本跡
120	D 3 f9	—	円形	1.16	24	自然	凹凸	磁葺	—	—	
123	D 3 h8	N 89° -E	隅丸方形	1.14×1.10	28	人為	平坦	外堀	須恵器	—	
124	C 3 e8	N 75° -E	長楕円形	2.25×0.97	54	人為	起伏	磁葺	—	—	SB28
125	C 4 i5	N 68° -E	楕円形	1.40×1.25	24	人為	起伏	磁葺	—	—	
126	C 4 h8	N 19° -W	[長方形]	(2.85)×1.21	29	人為	平坦	垂直	土師器 須恵器	—	SB56→本跡
128	B 3 j4	N 87° -W	楕円形	1.05×0.90	15	人為	平坦	磁葺	土師器 須恵器	—	平安時代
129	B 3 i9	N 5° -W	隅丸長方形	2.18×1.98	60	人為	凹凸	外堀	弥生土器 土師器 須恵器	—	
130	D 3 h4	—	円形	1.22×1.35	24	自然	平坦	磁葺	—	—	
131	D 3 i3	N 60° -W	楕円形	1.26×1.08	20	自然	平坦	外堀	—	—	
132	F 4 f9	N 42° -E	楕円形	1.07×0.90	23	自然	平坦	外堀	—	—	
133	F 4 f0	N 45° -E	隅丸長方形	1.30×0.98	32	自然	起伏	磁葺	—	—	
134	F 4 g0	N 45° -E	[隅丸長方形]	1.37×(0.85)	40	人為	平坦	磁葺	—	—	
135	F 4 g0	N 40° -E	[隅丸長方形]	1.96×(1.37)	29	人為	平坦	磁葺	—	—	本跡→SK136
136	F 4 g0	N 36° -E	[隅丸長方形]	1.19×(0.91)	40	人為	平坦	垂直	—	—	SK135→本跡
138	C 4 j3	N 40° -E	長楕円形	(2.22)×1.22	32	自然	平坦	磁葺	—	—	SB23
139	C 4 j3	N 21° -W	楕円形	1.18×1.06	31	人為	平坦	外堀	—	—	SB23
140	C 4 j2	—	円形	1.10×1.04	13	自然	平坦	磁葺	土師器 須恵器	—	SB23
141	D 4 a1	—	[円形]	1.12×1.02	14	人為	平坦	磁葺	—	—	平安時代 本跡→SB19

番号	位置	長軸方向 長径方向	平面形	規 格		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	時 期	重複関係 (旧→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
142	F 4 e0	N-49°-W	長方形	4.52×0.94	38	人為	平坦	外傾	土師器 須恵器 磁器	—	SK176→本跡
143	C 3 g0	—	円形	0.96×0.94	37	人為	平坦	外傾	土師器 須恵器 鉄釘	—	SB34→本跡
144	C 4 f2	—	円形	1.10×1.05	30	人為	亂状	縦斜	須恵器	—	—
145	C 4 g2	—	円形	1.18×1.11	44	人為	平坦	外傾	—	—	—
146	D 5 o6	—	円形	1.56×1.54	25	自然	平坦	垂直	弥生土器 土師器 須恵器	—	SI42→本跡
147	D 5 e6	—	円形	1.52×1.46	14	人為	平坦	外傾	土師器 須恵器	—	SK157→本跡
148	D 5 e6	—	円形	1.37×1.35	43	人為	平坦	垂直	須恵器	—	SK156→本跡
149	D 4 f2	—	円形	1.14×1.12	40	人為	平坦	垂直	弥生土器 土師器 須恵器 粘土	—	SK150→本跡-SB18
150	D 4 f2	—	[円形]	1.42×1.40	24	人為	平坦	垂直	土師器 須恵器	—	本跡→SK149-SB18
151	E 5 i1	N-30°-E	長方形	2.32×0.94	28	人為	平坦	垂直	土師器 須恵器	—	SB41→本跡
152	E 5 i1	N-12°-W	長方形	1.60×1.30	20	自然	平坦	縦斜	土師器 須恵器	—	—
153	E 5 j1	N-50°-E	長方形	1.30×0.68	20	人為	凹凸	縦斜	須恵器	—	SB41
154	F 5 b1	N-47°-W	長方形	2.50×1.32	86	人為	平坦	外傾	—	—	SB40
156	D 5 e6	N-20°-W	長方形	1.45×0.84	41	不明	平坦	外傾	—	—	SK157→本跡→SK148
157	D 5 e6	N-19°-W	[長方形]	(1.45)×0.75	33	人為	平坦	外傾	—	—	本跡→SK156-SK147
163	E 4 e0	N-53°-E	楕円形	0.60×0.46	42	—	平坦	外傾	—	—	SB37
164	E 5 b1	N-56°-E	楕円形	0.62×0.49	38	自然	亂状	外傾	—	—	—
166	C 4 f5	—	円形	0.64×0.58	18	人為	亂状	縦斜	—	—	—
167	C 4 j5	—	円形	0.97×0.91	15	自然	亂状	縦斜	—	—	—
168	C 4 j4	—	円形	1.12×1.02	16	自然	平坦	外傾	須恵器	—	—
169	D 4 b4	N-67°-E	楕円形	1.38×0.79	17	人為	平坦	縦斜	—	—	—
170	D 4 j6	—	円形	0.94×0.92	24	人為	亂状	縦斜	—	—	—
171	E 4 h5	N-45°-E	楕円形	1.96×0.95	26	自然	平坦	縦斜	—	—	本跡→SB11
172	D 5 f2	N-65°-E	[長方形]	(1.25)×0.71	10	人為	平坦	外傾	土師器 須恵器	—	—
173	D 4 b4	N-30°-W	楕円形	0.80×0.64	25	人為	平坦	外傾	—	—	—
176	F 4 e0	N-40°-E	長方形	1.94×1.13	44	人為	平坦	外傾	—	—	本跡→SK142
177	C 3 g0	N-50°-W	楕円形	0.62×0.54	6	人為	平坦	外傾	—	—	—
178	C 3 h0	N-51°-E	楕円形	0.80×0.58	16	人為	平坦	外傾	土師器	—	—
179	C 3 d0	—	円形	1.10×1.00	38	人為	平坦	外傾	土師器 須恵器	平安時代	—
180	C 4 j2	N-50°-E	楕円形	1.02×0.72	24	人為	平坦	縦斜	—	—	SH23
181	C 4 h1	N-65°-W	[楕円形]	(0.96)×0.95	22	人為	平坦	縦斜	—	平安時代	本跡→SB20
182	D 4 f5	N-84°-E	楕円形	1.34×1.10	22	自然	平坦	縦斜	—	—	SB34→本跡
183	D 4 h2	N-12°-E	長楕円形	3.04×1.12	24	人為	亂状	縦斜	縄文土器	平安時代	本跡-SB16→SB19

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査は、平成11年4月から同年10月及び平成12年4、5月の9か月間行われ、縄文時代、弥生時代後期後半から平安時代にかけての竪穴住居跡105軒、掘立柱建物跡48棟、井戸跡1基、道路跡1条などが確認された。

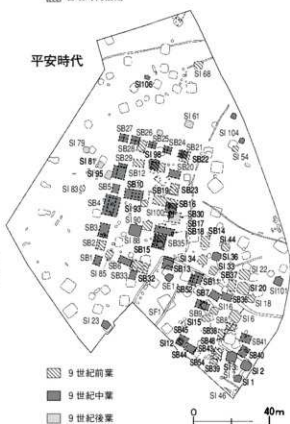
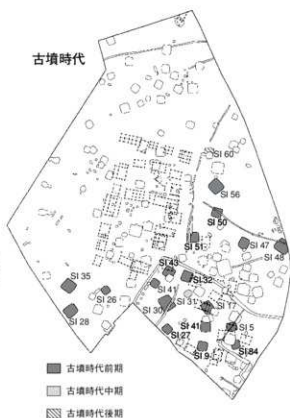
ここでは確認された遺構・遺物をもとにして大塚遺跡の概要を述べ、まとめとしたい。

2 集落の変遷(第335図)

時代順に集落の変遷をたどる。

(1) 縄文時代

調査区内から竪穴住居跡1軒、陥し穴13基を確認した。竪穴住居跡からは、中期の土器が出土しており、隣接する宮後遺跡の集落の一部が当調査区まで及んでいたものと考えられる。陥し穴については、出土遺物もなく時期を特定することは避けたいが、形状が一定していないことから、数時期にわたって狩り場として利用されていたと推測される。



第335図 大塚遺跡集落変遷図

(2) 弥生時代

後期後半に集落が営まれた。十王台式土器の広口壺と比較すると、綱山遺跡¹⁾より古く、十王台1c～2a式(武田西墳段階)段階と考えられる。調査区北部に展開する第69～74号住居跡等で構成される集落が、居住区域を南部へ移動し、土師器を共存する次期の集落へ続くものと推測される。

(3) 弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭

弥生土器と土師器が出土する住居跡が7軒確認されている。土師器とともに出土する弥生土器は十王台式土器のほか、頸部に簾状文や円形刺突文をもつものもある。また、土師器は前期前葉の様相を呈する高坏、甕類の他、第37号住居跡からは、形状が弥生土器に類似した壺も出土している。

(4) 古墳時代

前期が19軒、中期が1軒、後期が1軒確認されている。中期、後期はそれぞれ1軒のため集落の広がりには不明であるが、前期は調査区の南部に集中しており、さらに南地域に延びる可能性が想定される。また、前期の竪穴住居跡の規模は、比較的大型である。

(5) 奈良時代

26軒の竪穴住居跡が確認されている。主軸方向は8世紀前葉はほぼ真北を指しているが、中葉以降は不統一なものとなる。また、8世紀後葉の住居跡の分布は、後続する時期の掘立柱建物跡群を避けるように展開していることから、後述する掘立柱建物跡群の出現期と推測される。

(6) 平安時代

35軒の竪穴住居跡、48棟の掘立柱建物跡、井戸跡1基、欄柵2列、溝跡1条、道路跡1条、土坑10基が確認されている。特に掘立柱建物跡群は、「口」の字状に整然と配置され、さらに道路跡が建物群の東辺に沿うように延びている。9世紀前葉の住居跡群は調査区の南東部に集中し、中葉になると建物群の周囲に点在するようになり、建物群の中には「竈屋」的な第88号住居跡が配置されている。出土遺物も多彩であり、墨書土器は「南主」「南」「奥」「在」など宮後遺跡²⁾と共通する文字も見られる。また、第23号住居跡からはほぼ完形の灰軸陶器の甕が出土し、第88号住居跡からも多数の破片が出土しており、いずれも黒笹14号窯式期と考えられる。集落は、中葉以降縮小される傾向を示して、後葉には6軒となり、さらに10世紀以降に集落は消滅する。

(7) 近世以降

中世の遺構は検出されておらず、近世の炭焼窯跡と墓塚が確認されている。炭焼窯跡の形状は、いずれも楕円形の炭化室に前庭部が取り付き、窯壁は粘土で構築されている。第3～5号炭焼窯跡は15m間隔で配置され、順番に火を入れる作業サイクルも想定できるが、明確ではない。

3 掘立柱建物跡群について

(1) 建物群の構成

確認された48棟の掘立柱建物跡は、中央部の「口」の字状に配置された建物群と、南東部の建物群とに二分される。南東部の建物群は、中央部の規則的な配置に対し、「群」としては小規模で、宮後遺跡1区や綱山遺跡と同様の配置を示し、竪穴住居跡1に対して数棟の掘立柱建物跡(屋)の組み合わせが認められる。

中央部の建物群については、「竈屋」である第88号住居跡と「主屋」に相当する第10号掘立柱建物跡を中心として西及び北辺に倉庫列が配置され、「竈屋」の南東には井戸を伴っている。宮後遺跡5区の配置

も類似点が多いが、井戸は検出されていない。

柱間数では、2間×3間が25棟で半数を占め、次いで3間×3間と2間×2間がそれぞれ6棟が認められる。「倉」と考えられる2間×2間の総柱建物は、北辺にはほぼ柱筋を描いて配置されており、それ以外はいずれも側柱建物であり、頼桶の格納を目的とした「屋」と想定される。

第10号掘立柱建物跡は、「主屋」に相当し、床をもつて建て替えが確認されている。第4号掘立柱建物跡は、第10号掘立柱建物跡に次ぐ中心的な建物であったと考えられる。唯一の四面庇付建物跡であり、入側柱は第1～3号掘立柱建物跡の側柱に揃うことや、庇の隅柱が北西隅からしか検出されていないことから身舎非一体型³⁾の庇の可能性はある。

(2) 建物群の変遷について

ア I 期（8世紀後葉～9世紀前葉）（第336図）

上限は明確ではないが、8世紀後葉の竪穴住居跡が建物群の外に展開していることから、この時期を成立期と推測でき、第90号住居跡のほか14軒の竪穴住居跡と11棟の掘立柱建物跡で構成され、「口」の字状の配置はまた見られず、1軒の竪穴住居跡と2～4棟の掘立柱建物跡が構成単位となっている。南庇をもつ第32号掘立柱建物跡が主屋と想定されるが、集中域が明確ではない。

イ II 期（9世紀前葉～9世紀中葉）（第337図）

竪穴住居跡は、中央部の第88号住居跡のほかは建物群の周囲に点在し、掘立柱建物跡を主体とする「口」の字状の配置が完成する。「主屋」である第10号掘立柱建物跡は、ほぼ同位置で建て替えられ、最終的には第1～4号掘立柱建物跡とともに焼失している。第88号住居跡は第90号住居跡からの移転が想定され、建て替えにより大型化したことで「竈屋」としての機能を充実させたものと考えられ、石製巡方や刀子、鎌の他に、灰軸陶器も出土している。宮後遺跡ではこの時期から建物が増加し、5区の掘立柱建物群が形成される。

ウ III 期（9世紀中葉～9世紀後葉）（第338図）

「口」の字状に配置された主な建物は機能を停止し、第30号掘立柱建物跡と6軒の住居跡の構成となる。一方、宮後遺跡では9世紀中葉以降にその規模が拡大する傾向があり、機能が移譲したものと考えられる。

(3) 建物群の性格について

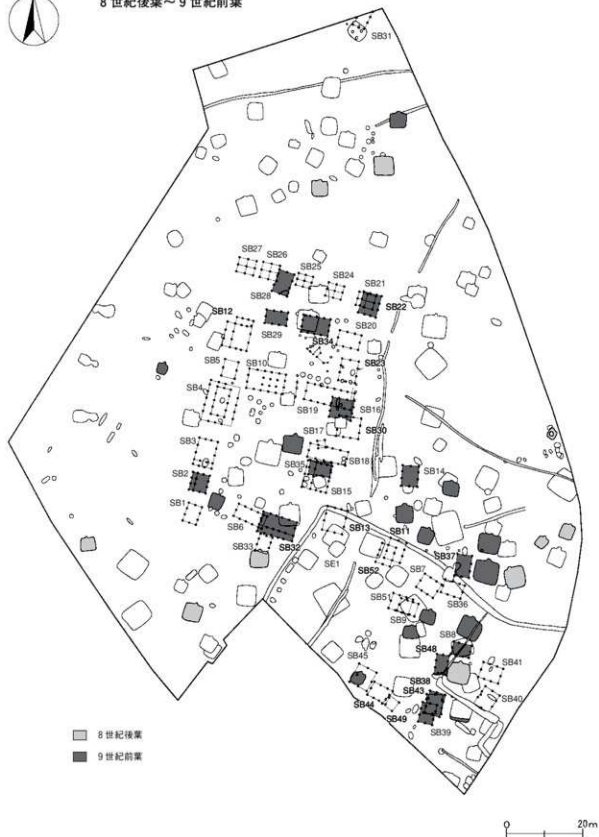
建物群は、次のように集約できる。

- ・建物群の構成単位は、竪穴住居跡1軒(竈屋)+掘立柱建物跡(主屋)+倉庫(屋・倉)+井戸である。
- ・建物の配置は規則性が高い。
- ・時期は8世紀末から9世紀中葉の短期間である。
- ・主な遺物は、灰軸陶器、須恵器甕、腰帯具、刀子、鎌、その他、遺構に伴わないが風土硯が出土
- ・墨書土器は「南」「南主」「在」が宮後遺跡と共通するほか「奥」が出土している。

以上を総合すると、建物の配置が規格的であることから、郡衙や郡衙別院の館に系譜が求められる。館が厨を伴い、饗宴の場という機能も備えていたとすれば³⁾、第88号住居跡が第1号井戸や第13・15号掘立柱建物跡とともに厨屋を構成し、第10号掘立柱建物跡が饗宴の場として機能していたと考えられる。西及び北に整然と配置された倉庫群は郡衙正倉と同様に、周辺集落から収奪された稲が収納されていたと推測される。そこには、在地の家族もしくは富豪層の存在が想定され、居宅を整備・拡大して地方末端の地域支配を担う行政機能をも加わった施設が展開されていたと考えられる。



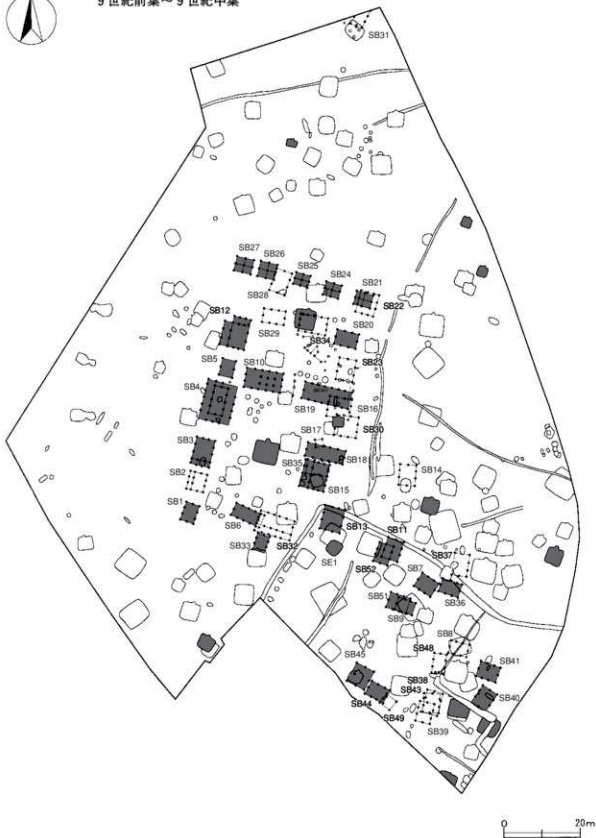
8世紀後葉～9世紀前葉



第336図 掘立柱建物跡・変遷図(1)



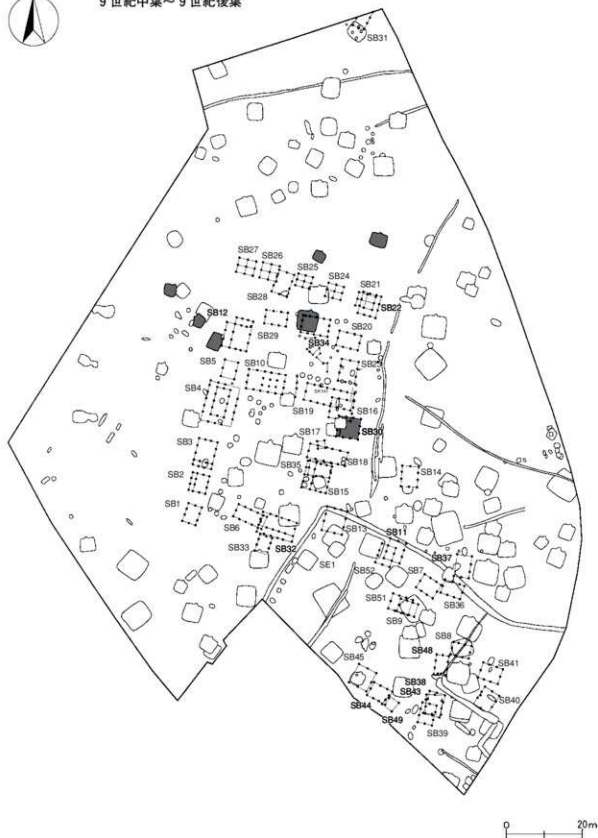
9世紀前葉～9世紀中葉



第337図 掘立柱建物跡・変遷図(2)



9世紀中葉～9世紀後葉



第338図 掘立柱建物跡・変遷図(3)

4 おわりに

大塚遺跡における建物群の性格を中心に若干の考察を行ってきたところ、問題はあるものの当地域の富豪層の存在が想定された。また、古代における地方末端における地域支配施設の一例を見いだすことができた。しかし、当遺跡周辺に広がる同時期の遺跡解明や建物群の詳細な分析など大きな課題も残された。今後も、周辺遺跡の様相を加味しながら遺跡の性格解明を目指す予定である。

註

- 1) 田中幸夫 荒崎克一郎「綱山遺跡 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第243集 2005年3月刊行予定
 - 2) ア. 川又清明・野田良直・吹野富美夫・浅野和久「宮後遺跡Ⅰ やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第188集 2002年3月
イ. 和田清典・吹野富美夫・浅野和久・荒崎克一郎・駒澤悦郎「宮後遺跡Ⅱ やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第240集 2005年3月刊行予定
ウ. 川又清明・浅野和久「宮後遺跡Ⅲ やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第241集 2005年3月刊行予定
 - 3) 「古代の官街遺跡Ⅰ遺構編」独立行政法人 奈良文化財研究所 2003年3月
 - 4) 津野仁「郷長とその性格」〔律令国家の地方末端支配機構をめぐって-研究集会の記録-〕奈良国立文化財研究所 1998年3月参考文献
- ・朝比奈竹男・宮沢久史「千葉県八千代市上谷遺跡(仮称)八千代ニュータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」八千代市遺跡調査会 2003年7月
 - ・福田義弘「熊の山遺跡 鳥名・福田坪一休型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第190集 2002年3月
 - ・駒澤悦郎「東岡中原遺跡Ⅳ 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」〔茨城県教育財団文化財調査報告〕第251集 2005年3月
 - ・菅原村夫「除奥国南部における富豪層住宅の倉庫群-福島県耶麻山正直C遺跡・東山遺跡の分析事例を中心として」〔古代の稲倉と村落・郷里の支配〕奈良国立文化財研究所 1998年12月
 - ・鈴木素行「武田石高遺跡における十王台式土器の編年について-「十王台式」分析のための基礎的な作業-」〔武田石高遺跡における十王台式土器の系統について-胎土重鉱物組成分析による制作地域の推定-〕〔武田石高遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編〕(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第15集 1998年3月
 - ・鈴木素行「武田西端遺跡における十王台式土器の分析-「小祝式土器」と「武田式土器」の誕生-」〔武田西端遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編〕(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告 第21集 2001年3月
 - ・鈴木素行「半分山遺跡における十王台式土器の分析-「小祝式祝中段階」と「武田式西端・石高段階」の土器群-」〔半分山遺跡 第1分冊〕(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告 第30集 2004年3月
 - ・田中広明「古代東国と豪族の家」〔研究紀要〕第17号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2002年3月
 - ・田中広明「地方の豪族と古代の官人 -考古学が解く古代社会の権力構造-」〔KASHIWA学術ライブラリー01〕柏書房株式会社 2003年4月
 - ・津野仁「郷長とその性格」〔律令国家の地方末端支配機構をめぐって-研究集会の記録-〕奈良国立文化財研究所1998年3月
 - ・宮本長二郎「日本原始古代の住居建築」1996年7月 中央公論美術出版
 - ・安永真一「上神主・茂原 茂原向原 北原東 北岡東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅴ」〔栃木県埋蔵文化財調査報告〕第256集 栃木県教育委員会 財団法人とちぎ生楽習文化財団 2001年3月
 - ・山口耕一 及川真紀 藤原睦美「多功南原遺跡 住宅・都市整備公団宇都宮都市計画事業多功南原地区埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ～Ⅲ」〔栃木県埋蔵文化財調査報告〕第222集 1999年3月
 - ・山中敏史「律令国家の地方末端支配機構-研究の現状と課題-」〔律令国家の地方末端支配機構をめぐって -研究集会の記録-〕奈良国立文化財研究所 1998年3月
 - ・山中敏史 石下彩子「地方豪族の居宅と稲倉」〔古代の稲倉と村落・郷里の支配〕奈良国立文化財研究所 1998年12月
 - ・正直C遺跡Ⅴ地点「正直C遺跡」母畑地区遺跡発掘調査報告36 福島県教育委員会 1995年
 - ・「古代の官街遺跡Ⅱ遺物・遺跡編」独立行政法人 奈良文化財研究所 2004年3月
 - ・「古代の稲倉と村落・郷里の支配」奈良国立文化財研究所 1998年12月
 - ・「第26回古代城柵官街遺跡検討会資料」古代城柵官街遺跡検討会 2000年2月

付 章

大塚遺跡から出土した炭化材の樹種について

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

茨城町に所在する大塚遺跡では、古墳時代前期の遺構が検出されている。このうち、堅穴住居跡の中には、火災住居跡も認められ、住居構築剤などの一部と考えられる炭化材も検出されている。

本報告では、これらの炭化材の樹種同定を行い、用材選択に関する資料を得る。

1 試料

試料は、堅穴住居跡から出土した炭化材4点（試料番号1～4）である。各資料の詳細は、種同定結果とともに表1に記した。

2 方法

木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の断面を作製し、実体顕微鏡及び走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3 結果

樹種同定結果を表1に示す。

炭化材は、針葉樹1種類（ヒノキ属）と広葉樹3種類（クリ・ケヤキ・サクラ属）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

表1 大塚遺跡の樹種同定結果

番号	遺構名	採取位置	用途など	樹種
1	第14号住居跡 (SI14)		住居構築材	サクラ属
2	第2号掘立柱建物跡 (SB2)	P12埋土	構築材	クリ
3	第4号掘立柱建物跡 (SB4)	P11柱痕	構築材	ケヤキ
4	第10号掘立柱建物跡 (SB10)	A-P12柱痕	構築材	ヒノキ属

・ヒノキ属 (*Chamaecyparis*) ヒノキ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1～15細胞高。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

試料は保存が悪く、電子顕微鏡による観察は行えなかった。環孔材で、孔部は1～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔部はほぼ1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～10細胞幅、1～60細胞高で、しばしば結晶を含む。

・サクラ属 (*Prunus*) バラ科

散孔材で、管壁厚は中庸、横断面では角張った楕円形、単独または2～8個が複合、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。異性Ⅲ型、1～3細胞幅、1～30細胞高。

4 考察 —大塚遺跡における用材選択—

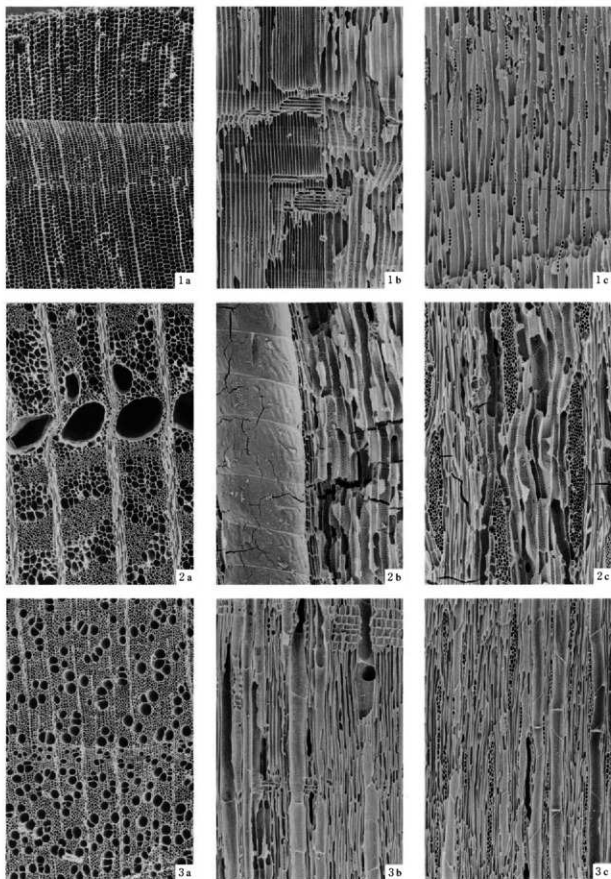
竪穴住居跡から出土した炭化材は、住居構築材などの可能性がある。樹種はサクラ属であった。一方、掘立柱建物跡から出土した炭化材は、柱材の一部が炭化・残存した可能性がある。樹種は、ケヤキ・クリ・ヒノキ属であった。

掘立柱建物跡から出土した3種類は、大径木が得られたり、強度や耐久性に優れている等の特徴があり、柱材に多数確認されている。特にヒノキ属は、古代の宮殿や寺院の柱材にも多数利用されていたことが明らかとなっている（西岡・小原、1978；伊藤・島地、1979；島地ほか、1980）。これらのことから、掘立柱建物跡から出土した3種類は、柱材だと考えても矛盾しない。この結果から、柱材には大径木や強度・耐久性などの材質を考慮した用材選択が行われていたことが推定される。また、古代の柱に多用されていたヒノキ属が、古墳時代前期にも柱材として利用されていたことがうかがえる。一方、竪穴住居跡では、サクラ属が利用され、掘立柱建物跡に認められた種類は認められなかった。このことから、掘立柱建物と竪穴住居とで、構築材の用材選択が異なっていた可能性がある。しかし、現時点では試料数が少ないため、詳細は不明である。

引用文献

- ・橋本真紀夫・高橋敦・大塚昌彦（1996）群馬県榛名山東麓地域における縄文時代から平安時代の住居構築材の用材、『日本文化財科学会第13回大会発表要旨集』p.92-93
- ・橋本真紀夫・高橋敦・馬場健司・田中義文（1995）自然科学分析 渋川市発掘調査報告書第45集「中筋遺跡 第8次・第9次」, p.73-100. 群馬県渋川市教育委員会
- ・バリノ・サーヴェイ株式会社（1994）深作A遺跡・深作B遺跡から出土した炭化材の樹種三春町文化財調査報告書第21集「田村西部工業団地関連遺跡調査報告書Ⅱ」, p.257-260, 福島県企業局・三春町教育委員会
- ・高橋敦・植木真吾（1994）樹種同定からみた住居構築材の用材選択. PALYNO, 2, p.5-18, バリノ・サーヴェイ株式会社

図版1 大塚遺跡の炭化材



1. ヒノキ属 (試料番号4)

2. ケヤキ (試料番号3)

3. サクラ属 (試料番号1)

a : 木口, b : 柎目, c : 板目

200 μ m : a
200 μ m : b, c

写 真 图 版



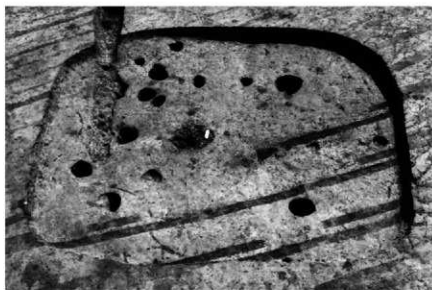
掘立柱建物跡群完掘状況



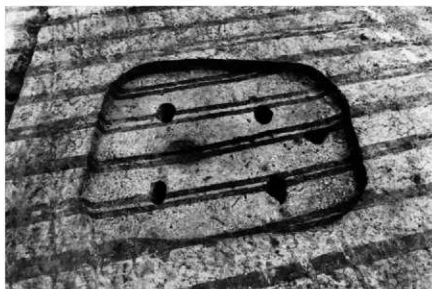
南部掘立柱建物跡群完掘状況



第 65 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 70 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 73 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第 73 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況

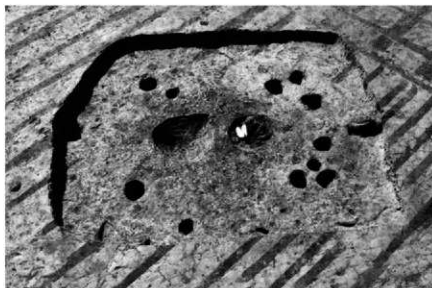


第 74 号 住 居 跡
完 掘 状 況

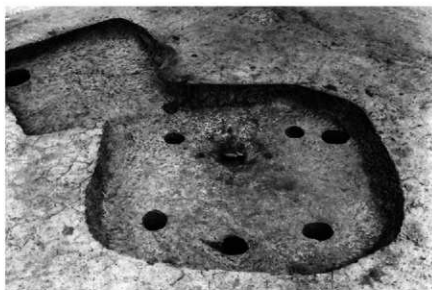


第 74 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況





第72号住居跡
完掘状況



第80号住居跡
完掘状況



第80号住居跡
遺物出土状況

第 8 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 8 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 况



第 37 号 住 居 跡
完 掘 状 况





第 37 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 49 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 49 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況

第 9 号 住 居 跡
完 掘 状 況

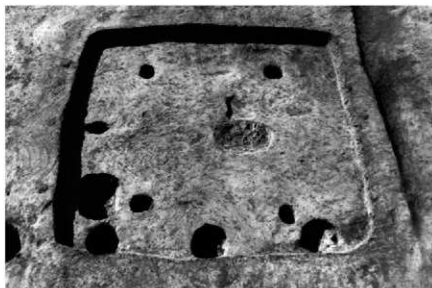


第 30 号 住 居 跡
完 掘 状 況

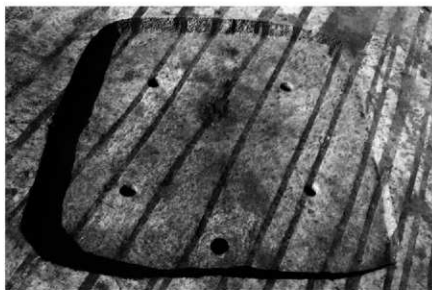


第 30 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況





第 32 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 56 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 60 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第 19 号 住居 跡
完 掘 状 況



第 38 号 住居 跡
完 掘 状 況



第 39 号 住居 跡
完 掘 状 況





第 59 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 66 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 86 号 住 居 跡
完 掘 状 況

第 64 号 住 居 跡
完 掘 状 况

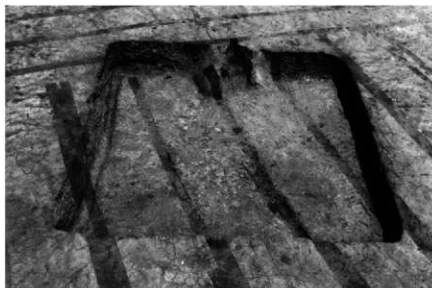


第 64 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 况



第 64 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 况





第96号住居跡
完掘状況



第97号住居跡
完掘状況



第97号住居跡竈
完掘状況



第 6 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 12 号 住 居 跡
完 掘 状 況



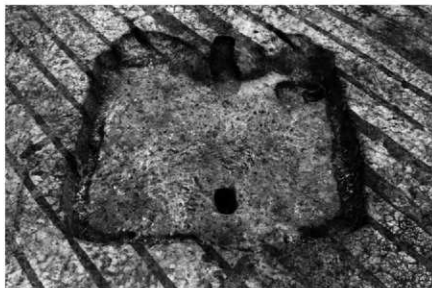
第 12 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第44号住居跡
完掘状況



第44号住居跡
遺物出土状況



第61号住居跡
完掘状況



第88号住居跡
完掘状況



第88号住居跡
遺物出土状況



第88号住居跡掘り方
完掘状況



第10号掘立柱建物跡新旧確認状況



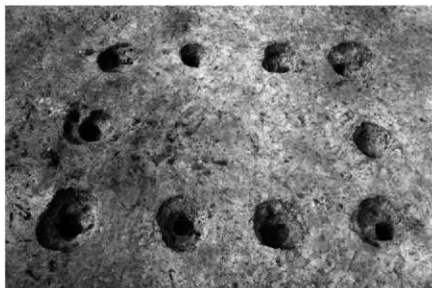
第18号掘立柱建物跡完掘状況



第32号掘立柱建物跡完掘状況



第34号掘立柱建物跡完掘状況



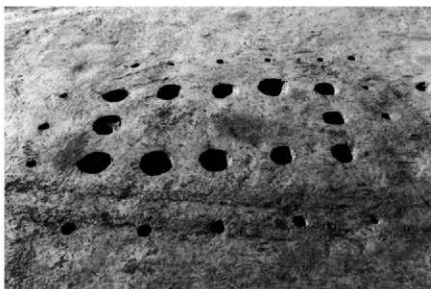
第1号掘立柱建物跡
完掘状況



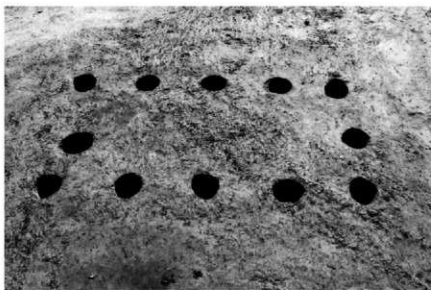
第2号掘立柱建物跡
完掘状況



第3号掘立柱建物跡
完掘状況



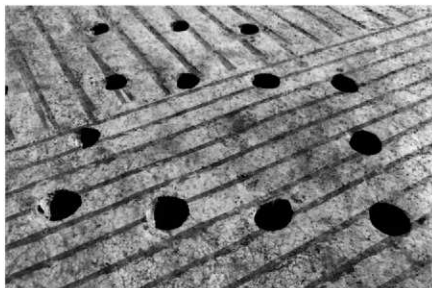
第4号掘立柱建物跡
完掘状況



第6号掘立柱建物跡
完掘状況



第12号掘立柱建物跡
完掘状況



第20号掘立柱建物跡
完掘状況

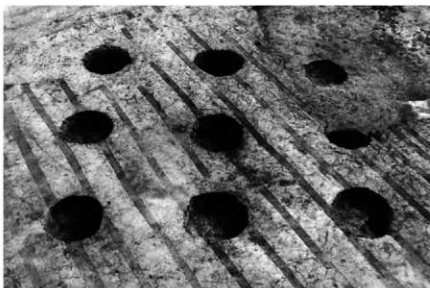


第21号掘立柱建物跡
完掘状況

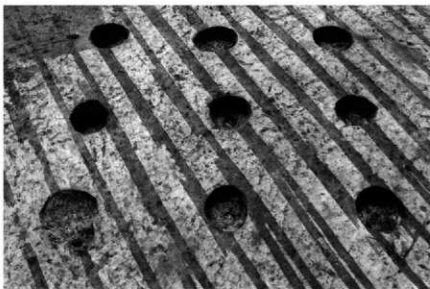


第23号掘立柱建物跡
完掘状況

第24号掘立柱建物跡
完掘状況

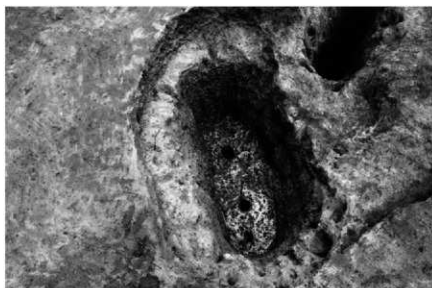


第25号掘立柱建物跡
完掘状況



第30号掘立柱建物跡
完掘状況





第 1 号 陥し 穴 況
完 掘 状



第 4 号 陥し 穴 況
完 掘 状



第 5 号 陥し 穴 況
完 掘 状



第 1 号 井 戸 跡
完 掘 状 况



第 112~115 号 土 坑
完 掘 状 况



第 113 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况





SI76 - 34



SI49 - 142



SI70 - 8



SI71 - 15



SI87 - 56



SI80 - 45





第8号住居跡出土土器









第3·19·44·63·98号住居跡，第50号土坑出土土器









SI1 - 259



SI23 - 345



SI61 - 385



SI79 - 422



SI81 - 427



SI95 - 469



SI61 - 475



SI98 - 478



SI61 - 386



SI100 - 491





SI44 - 373



SI12 - 289



SI12 - 288



SI2 - 266



SI23 - 351



SI95 - 472



SI44 - 374



SI18 - 304

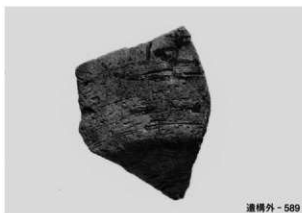


SI3 - 273



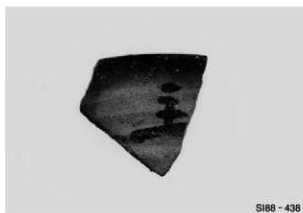
SD9 - 563



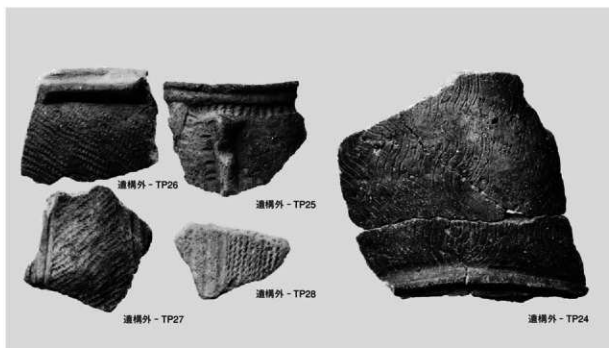


第61・88・98号住居跡，第1号井戸跡，遺構外出土土器

PL40



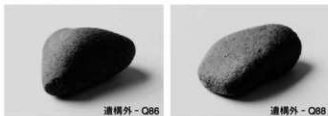
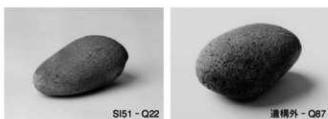
第23·61·88·98号住居跡出土土器



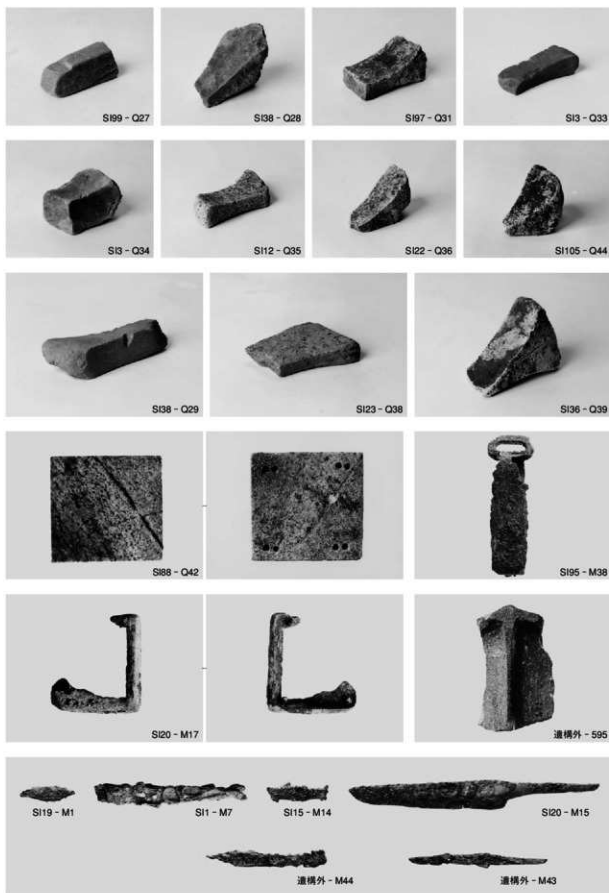
第44号住居跡，第2・3号炭焼窯跡，遺構外出土土器，石製品，土製品



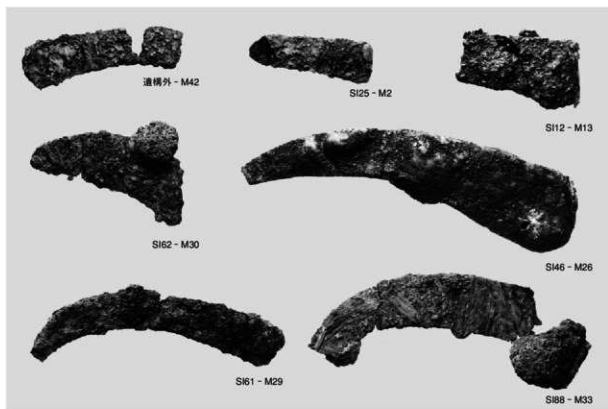
大塚遺跡出土球状土錘



出土土製品（紡錘車，球状土錘），石器（敲石），石製品（紡錘車）



出土土器（硯），石製品（砥石，巡方），金屬製品（巡方，刀子）



出土金属製品（鋏，釘，錐先，鏃，煙管，古銭）

茨城県教育財団文化財調査報告第242集

大塚遺跡 1

やさしさのまち「桜の郷」整備事業
に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

平成17(2005)年3月22日 印刷

平成17(2005)年3月25日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 富士オフセット印刷株式会社
〒310-0067 水戸市根本3丁目1534-2
TEL 029-231-4241代

